

産業遺産の転用に関する研究

Adaptive Reuse of the Industrial Heritage

大藪（中井） 陽子
Yoko OYABU (NAKAI)

2021 年 9 月

筑波大学大学院人間総合科学研究科
世界文化遺産学専攻

目次

概要

i

第1章 序論	1
1-1. 研究の背景と目的	3
1-2. 遺産としての認知の広がり	5
1-2-1. Industrial Heritage の変遷	5
1-2-2. 産業遺産の変遷	8
1-3. 世界や日本における産業遺産の転用事例	11
1-3-1. 世界の代表的な転用事例	11
1-3-2. 日本の代表的な転用事例	28
1-3-3. 代表的な転用事例にみられる共通点	42
1-4. 産業遺産の特徴や分類と消失の原因	42
1-4-1. 特徴	42
1-4-2. 分類	43
1-4-3. 消失の理由	45
1-5. 研究の対象	46
1-5-1. 研究の視点と仮説	46
1-5-2. 本研究における産業遺産の定義	48
1-6. 既往研究のまとめと本研究の位置付け	48
1-7. 論文の構成	50
補注及び参考文献	53
第2章 産業遺産の保存・活用の現状把握	69
2-1. 本章の目的	71
2-2. 方法	71
2-3. 登録文化財の産業遺産の保存・活用状況	73
2-3-1. 産業種別	73
2-3-2. 建築物の物理的要素	76
2-3-3. 活用状況	79
2-4. 同一地域にある同一タイプ工場の保存・活用状況	82
2-5. 結論	85
補注及び参考文献	87

第3章 産業遺産の新たな用途と建築物の関係	89
-----------------------	----

3-1. 本章の目的.....	91
3-2. 方法	91
3-3. 産業遺産の転用時の新用途と建築物の項目設定.....	92
3-3-1. 群馬県桐生市のノコギリ屋根工場を対象にした項目の検討.....	92
3-3-2. 登録文化財の産業遺産の建築物を対象にした項目設定.....	100
3-4. 所有者別の新たな用途と建築物の条件の関係	110
3-4-1. 営利法人所有.....	110
3-4-2. 公共団体所有.....	122
3-4-3. 個人・グループ所有	126
3-5. 新たな用途と建築物の関係に関する所有者別のまとめ	130
3-6. 結論	140
補注及び参考文献.....	142

第4章 産業遺産の転用事例	147
---------------	-----

4-1. 本章の目的.....	149
4-2. 方法	149
4-3. 登録文化財の転用事例	150
4-3-1. 営利法人所有.....	150
4-3-2. 公共団体所有.....	173
4-3-3. 個人・グループ所有	190
4-4. 事例を踏まえた数量化Ⅱ類による分析の考察	202
4-4-1. 営利法人所有時	202
4-4-2. 公共団体所有時	206
4-4-3. 個人・グループ所有時.....	208
4-5. 転用事例の考察.....	210
4-5-1. 同一地域にある同一タイプ建築物の転用群	210
4-5-2. 地域特性と地場産業の継承からみた転用の現状評価	212
4-6. 結論	226
補注及び参考文献.....	228

第5章 結論	241
--------	-----

概要

産業は今日に至り、人々の生活や営みに欠かせない要素であり、遺産としての認知が広まりつつある。しかし、価値を認識されながらも解体される物件が後を絶たない。解体へ至るきっかけとして、用途を失うことが挙げられる。用途を失った結果、維持などで所有者へ負担となってしまうのである。一方で、空き家ではもったいないと新たな用途を得て、つまり転用されて解体を免れることもある。現在、このように消失と継承の狭間にある産業遺産が数多くあることが予想される。本研究は、産業という本来の用途を失った遺産に対し、生産工程を有するというダイナミックさとシステムティックな特徴を見出している。このような魅力ある産業遺産の建築物が、一棟でも多く新たな用途を得て解体を逃れることで、地域の発展の歴史を後世に継承する可能性が高まるのではないか。今後、所有者や事業者が転用を考えた際の一助となるよう、転用に繋がる要因を把握することを主題とした。

本論文は 5 章から構成される。第 1 章では、産業施設から産業遺産への変遷などを概観し、本研究の位置付けを行った。産業遺産の代表的な転用事例では、所有者が大企業や地方自治体で、多額の補助金のもと各分野の専門家の協働がみられた。そして新たな用途は、産業に関する展示や見学が多く見られた。ドイツの IBA エムシャーパークでは、用途の決定が活用時の最大のテーマとされ、さらに経済面を踏まえることの重要性が指摘されている。また日本でも、活用を目指す所有者の悩みとして用途選択や、経済性の確保といった点が指摘されている。産業遺産の所有者の約 6 割が企業または個人という調査結果も報告されており、これらの所有者にとって、代表的な例でみられた綿密な検討や専門家との協働は多くの困難が予想される。これらの状況を踏まえ、産業遺産の転用を論ずる際の視点として、新たな用途をいかに得るか多様な所有者に対して幅を示すこと、そして、用途として公開以外にも、営利活動のような経済面を踏まえることが重要だと考えた。転用は所有者の意向から始まるが、新たな用途を選択する際、元の建物が有する要素と全くの無関係ではないと考えられる。

そこで仮説として、新たな用途には、建築物の物理的要素が影響を及ぼしていると考えた。そして転用事例が蓄積された今、定量的に扱うことで関係を把握することが出来ると考えた。また、所有者の意向といった定量的に扱えない要因も影響するため、これらも踏まえる必要がある。

以上より、研究の目的として次の二点を設けた。第一に、一覧の無い産業遺産の保存・活用状況について網羅的に把握すること。第二に、営利活動や公開といった新たな用途に繋がる要因を明らかにすることである。まず要因のうち、建築物の物理的要素について、産業遺産建築物を不動産としての評価項目から表し、数量化Ⅱ類による定量分析から把握した。その際、所有者の意向が異なることから所有者属性ごとに分けた。また、実際の転用事例をみ

ることで、所有者の意向といった定量的に扱えない転用の要因について把握した。さらに、転用が単なる既存建築物の再利用に留まらず、遺産としての保存・活用に資するために必要な考え方について、産業の特徴と転用事例の比較から考察を行った。

第2章では、産業遺産の保存・活用状況を把握するにあたり、登録文化財の枠組みを用いた。所有者による活用を重視した文化財制度で、所有者として自治体以外も多様に含み、さらに用途として展示以外にも多様な営利活動を含むため、適切だと考えた。すると、全国的に現役稼働率の高い醸造業の登録数が多い中、群馬県では転用率の高い繊維業の登録数が多かった。これは、群馬県桐生市の織物工場群の登録により、群として活用事例が集中している特徴的な地域であることがわかった。また、建築物の物理的要素では、醸造業において土蔵造が数多かったことの他には、産業種別による明らかな偏りが見出せなかった。これにより、多種多様な産業遺産の建築物の転用を扱うにあたり、慣例的な産業種別ではなく物理的要素を用いて分析を行うこととした。

第3章では、転用に繋がる物理的な要因を明らかにするため定量分析を行った。分析方法の設定に際して、まず同一タイプの工場建築物に限定して検討を行った。すると用途と関連が示唆された物理的要素として、面積や構造、駅からの距離や伝統的建造物群保存地区からの距離が抽出された。これらを踏まえ、所有者や産業遺産の特徴、そして来訪者の目線を踏まえて分析項目を設定した。所有者属性と用途の組み合わせとして、営利法人（株式会社など）は利益を要する性格から、営利活動の有無を設定した。公共団体（譲渡・寄付された自治体など）、個人・グループ（継承した個人や NPO 団体など有志の集まり）は、公開状況を設けた。また、建築物の不動産としての評価項目は、建築物自体、敷地、立地の観点から整理した。まず、産業遺産建築物の特徴である規模について階数と面積を、そして特有性として、機械や物を内包する一層空間の有無、そして来訪者が建物に抱く印象として主構造を設けた。そして敷地では、生産工程を有する特徴から施設残存状況、来訪のしやすさから接道状況を設けた。立地は、来訪者の期待としてアクセス性と周辺環境の項目を設けた。これらを用いて、所有者属性別に用途を目的変数とした数量化Ⅱ類による定量分析を行った。その結果、用途について所有者属性別に異なる物理的要素との関係がみられた。中でも、営利法人の所有者・事業者に変更を伴う、つまり新たなオーナーによる営利活動状況において、最も精度高く説明することができた。これは、新たなオーナーが営利目的をもって建物を取得しており、その際に不動産としての評価項目が反映されたと言える。一方で、公共団体や、営利法人の所有者・事業者に変更がない、つまり現オーナーによる転用では、分析精度が十分とは言えなかった。そのため、建築物の物理的要素以外の、定量化されなかった要因が大きいことが示唆された。

第4章では実際の転用事例をみることで、定量化されなかった転用に繋がる要因を把握した。所有者の意向や用途の内容、そして転用時の工夫について、所有者属性別に共通点や相違点がみられた。さらに、産業遺産の転用が単なる既存建築物の再利用ではなく、遺産としての保存・活用に繋がるために必要な考え方について考察した。産業の特徴と転用事例を

比較すべく、背景を共有する同一地域にある同一タイプ建築物の転用群を対象として把握した。

第3章と第4章の転用事例の現状から得られた結果として、第5章にて産業遺産の転用に関する基礎的情報がまとめられた。

例えば、住宅地の駅から離れた場所にある産業遺産は、営利法人の新たなオーナーによる営利活動を伴う転用が考えられる。周辺のニーズに合わせた、日常生活に係る飲食などの販売品や、テイクアウトなどの販売方法が考えられる。歴史的な佇まいを来訪者が感じやすい煉瓦造や石造の建物や、接道していると尚選択されやすいと言える。また、敷地内に複数の転用を展開する際は、用途や販売品をそれぞれ特化して競合しないようにすることで、その一帯を来訪者の目的地と発展させる戦略も考えられる。

また、稼働工場内で用途を終えた、歴史的な佇まいや区切られた空間を持つ建物は、駅に近くなく接道する場合、生産物の販売など営利活動を伴う転用が考えられる。その際、機械や音などの建物以外の産業要素も転用すると、その場所にしかない魅力により繋がると言える。現オーナーは今後、廃業した場合には他の所有者属性による転用に移行する可能性がある。その場合、機械等は産業の要素を残す鍵とも言えるため、廃棄せずに残置することも選択肢と言える。

生産物の販売や使用は、現オーナーによる転用に限らず、新たなオーナーの転用においても可能性がある。飲食店で生産物の食器を使用したり、手ぬぐいやハンカチの企画、スタッフを割かない場合は自動販売機との組み合わせなど、来訪者の目や手に触れることで、産業への興味のきっかけや販売機会の創出となる。これは、工場にとって粗利益の高い販売にもなり、地場産業の継承に繋がり、現オーナーが経済基盤を強化することとも関連する。現オーナーの規模に応じて、営利を目的とせず産業への貢献として公開用途を選択することも考えられる。

個人や有志の集まりによる産業遺産の公開は、面積の大きい建物や敷地内に稼働を終えた複数施設があると、地域産業の遺産として認知されきっかけが生まれやすいと言える。空間を区切ることで、可能な範囲から徐々に公開を進める方法が考えられる。そして継続のためには、協力者の増加や更新ができるよう、地域の商店街や趣味等のコミュニティへのアプローチも一つの手段と言える。

自治体による転用は、価値が認められて譲渡・寄付された産業遺産において、目的や予算、人員面に即した事業規模の転用が考えられる。

産業遺産の最大の特徴として、生産工程を有することが挙げられる。しかし、転用事例の内容について考察したところ、外観への注目が集まっている現状が明らかになった。群馬県桐生市のノコギリ屋根工場では、織物という産業から現れた特徴よりも、屋根の形へ注目が集まっていた。登録文化財の転用事例においても、元来の用途が異なるにもかかわらず、煉瓦造を有すると転用後の名称が「〇〇レンガ」となる事例が複数みられた。これらより、特徴の把握が外観に留まっていることが指摘される。

転用に繋がる要因のうち、建築物そのものや立地といった、建築物の不動産としての評価項目は、移築や増改築を除いて基本的に変わることがないと言える。一方で、所有者属性や用途、そして施設残存状況は、今後変更の可能性がある。そして転用の要因のうち、定量化されなかった所有者の意向や用途の内容、そして工夫についても可変要素と言える。生産工程を有することが特徴である産業遺産は、保存・活用のために、複数の建築物を繋ぎ合わせて、その意味を伝えることが必要となる。今後、これら可変要素を組み合わせにより戦略的に用途を付随させることで、産業遺産の建築物が一棟でも多く継承されること、そして転用を通じた保存・活用の可能性が広がることを指摘したい。

第1章 序論

1-1. 研究の背景と目的.....	3
1-2. 遺産としての認知の広がり.....	5
1-2-1. Industrial Heritage の変遷.....	5
1-2-2. 産業遺産の変遷.....	8
1-3. 世界や日本における産業遺産の転用事例.....	11
1-3-1. 世界の代表的な転用事例.....	11
(1) イギリス.....	11
(2) ドイツ.....	15
(3) アメリカ.....	24
1-3-2. 日本の代表的な転用事例.....	28
(1) 旧集成館機械工場.....	29
(2) 旧小坂鉱山事務所.....	32
(3) 旧富岡製糸場東置繭所.....	35
(4) シャトーカミヤ旧醸造場.....	39
1-3-3. 代表的な転用事例にみられる共通点.....	42
1-4. 産業遺産の特徴や分類と消失の理由.....	42
1-4-1. 特徴.....	42
1-4-2. 分類.....	43
1-4-3. 消失の理由.....	45
1-5. 研究の対象.....	46
1-5-1. 研究の視点と仮説.....	46
1-5-2. 本研究における産業遺産の定義.....	48
1-6. 既往研究のまとめと本研究の位置付け.....	48
1-7. 論文の構成.....	50
補注及び参考文献.....	53

1-1. 研究の背景と目的

産業は今日に至り、人々の生活や営みに欠かせない要素である。「産業遺産」¹や「近代化遺産」²、そして「近代化産業遺産」³といった言葉で、長い間、産業に使用されてきた産業施設を呼ぶことが浸透してきた。また、世界遺産として、2007年（平成19年）に「石見銀山遺跡とその文化的景観」、2014年（平成26年）には「富岡製糸場と絹産業遺産群」が、続く2015年（平成27年）には「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」が登録され、これら産業施設は一層の注目を集めている。産業施設の遺産としての認知が広まりつつあり、遺産として見なされると同時に、どのようにして将来に残していくかという課題に面している。

産業遺産は既に稼働を終えている物件も多くみられる。「活用なくして保存なし」⁴とも言われるように、活用は重要なキーワードとされている。稼働を続けて活用されている現役稼働の産業遺産に加えて、他の用途による活用、つまり転用される産業遺産も増加している。例えば博物館や観光案内所、カフェやショップなど、多様な用途への転用がみられる。これらは、所有者の苦労のもと独自に積み重ねられてきている。しかし一方で、解体される産業遺産も少なくなく、地域の発展の歴史が人々の気づかぬうちに失われるおそれもある。

例えば、登録文化財になったにもかかわらず解体された産業遺産では、操業を終えた後の解体の理由として「固定資産税や維持費が重荷」⁵と報道された。このように、用途を失った遺産が経済的に重荷になる現状が表れている。一方で、「空き家ではもったいない」⁶と、新たに転用が始まる産業遺産もみられる。このように、新たな用途を得る遺産と、転用されることなく消失してしまう遺産がある。稼働を終えた後にも新しい用途を持つことで、解体を免れ、地域の発展の歴史を後世に伝えていく可能性が高まるのではないか。

産業遺産の転用は、世界各地で取り組まれている。欧米では、大規模な再開発を伴った地域的な転用や、大規模建築物の転用が行われている。転用の実現に際し、大規模な公的資金の投入や、設計競技、地域住民との対話を経ている。また、日本では重要文化財に指定された産業遺産が、博物館へ転用されている事例がみられる。所有する大企業や譲り受けた自治体が、国・県・市からの補助金を得ながら専門家たちの協議を経て転用を実現している。一方で、近代化産業遺産の約6割が企業または個人の所有という調査結果⁷もある。今後、一件でも解体・消失する産業遺産を転用により減らすことを考えた際、多様な所有者たちに対し、新たな用途について検討する際に参考となる情報が提供されることが望ましい。

産業遺産の転用事例は増えてきているが、全国的な実態はつかみにくく、現在不明である。所有者が主体となって様々な転用に取り組んできた事例が蓄積された今、それらを体系的に扱うことが可能となっている。産業遺産の中でも特に主要な構成物である建築物と、新たな用途との関係を整理することで、今後の産業遺産の転用による保存・活用のさらなる発展に対して一助になるよう展望を持つ。

今まで産業遺産を網羅的に扱う一覧はなく、主体ごとに異なる特徴を持つ一覧が作成されてきた。まずは、文化庁主導の近代化遺産（建造物等）総合調査が、1990年（平成2年）

から群馬県と秋田県を皮切りに開始された。各都道府県の教育委員会により、地域に現存する近代化遺産に関する総合的な調査が行われ、各都道府県別に報告書が発行されている。それまでは、急速に失われつつある近代化遺産について、全体の所在調査も行われていなかった。そのため近代化遺産総合調査は、実態を把握して重要なものは保存措置の検討へと進むための、言わば資源の洗い出しに該当する。また、経済産業省は近代化産業遺産として、2007年（平成19年）の「近代化産業遺産群 33」と2008年（平成20年）の「近代化産業遺産群 続 33」を認定している。全国分布を比較すると、近代化産業遺産は近代化遺産に比べて特定地域、特定産業への偏りが大きく、地域産業の歴史的特徴がより強調されていることが指摘されている⁸。

所有者による活用に着目した文化財保護制度として、1996年（平成8年）に始まった登録文化財が挙げられる。これは重要文化財や重要伝統的建造物群保存地区制度と異なり、活用を促す緩やかな文化財の保護制度とも言われる⁹。所有者などによる自発的な保護を促進するという考え方で成り立ち、登録件数は既に1万件を超えている。2019年（令和元年）には、登録文化財の所有者同士の情報交換を進めるべく「国登録有形文化財全国所有者の会（全国登文会）」が設立された¹⁰。この動きに表れているように、登録文化財の所有者を主体とした保存・活用は今後より一層の発展が望まれている。また、保存・活用を行うか否かやその内容、その実現において所有者の意向の割合が高くなっており、同時に消失の前線に在るともいえる。転用時の用途についても、登録文化財は内部の改造が可能であることから、ギャラリーや展示に加えて飲食や販売、珍しいものでは葬儀場など多岐にわたる。

これらの状況を受けて、今後、所有者や設計者の参考となる知見を得るための研究対象として、所有者による多様な転用が実現されている登録文化財が適切だと考えた。

転用が行われる際、例えば株式会社や市町村、個人など、多様な新旧の所有者が、各々の意向を持って用途を検討する。現在の所有者が稼働を終えた産業建築物に対して新たな用途を考える場合や、あるいは新たな所有者がこのような使い方をしたいという意向を元に建物を選ぶ場合がある。新たな用途のためには、建築物の改修が必要となることも少なくない。設計事務所に依頼する場合や馴染みの大工に依頼したという話も聞かれ¹¹、所有者の予算に合わせて改修が行われている。また、転用時に既に文化財である場合は、文化財保護課と協働する場合もある。こうした転用過程の初期段階に用途の選択があるため、新たな用途の決定は重要だといえる。

本研究では、この用途選択は産業遺産の主要構成物である建築物と無関係に決定されるものではないという考えを持つ。そして仮説として、新たな用途の選択には、産業遺産の建築物が持つ不動産として評価される物理的要素、そして各所有者の意向が反映されていると考えた。

そこで本研究の目的として、以下の二点を挙げる。

第一に、産業遺産の保存・活用を網羅的に把握することにより、体系的な把握がされていない現状を明らかにすること。

第二に、営利活動や公開といった転用用途に繋がる要素を明らかにすることである。まず、用途選択に影響を及ぼす物理的要素について、産業遺産建築物を不動産としての評価項目から整理し、数量化Ⅱ類による定量分析を行うことで把握する。その際、転用時の意向が異なると考えられることから、所有者属性ごとに分けることとした。また、具体の転用事例をみることにより、物理的要素以外に転用に繋がる要素や転用時の工夫について把握する。さらに、背景を共有する同一地域にある同一タイプの産業遺産建築物群において、整理された産業の特徴と転用事例の比較を行うことで、転用が保存・活用に資するために必要な考え方について考察を行う。

1-2. 遺産としての認知の広がり

「産業遺産」という言葉が浸透していく変遷について整理する。ヨーロッパ、そして日本にて、産業革命後に栄枯盛衰を経て、産業施設が遺産として見られるに至った歴史を概観する。

1-2-1. Industrial Heritage の変遷

1750年代、イギリスにてワット式蒸気機関の開発をきっかけとして、産業革命が始まった。その後、西ヨーロッパに産業技術が伝播し、産業革命は広がりを見せた。ドイツでは1795年に産業化がすすみ、そして大西洋を渡ったアメリカでは1800年に、続く1850年には近代化のピークを向かえた¹²。これらの産業革命により、社会構造や都市景観に大きな変化が訪れた（図1-1）。



図1-1 William Wyld : Manchester from Kersal Moor,
水彩, 31.9cm×49.1cm, 1852年¹³

その後、産業需要の変化により、製造業を中心に操業停止となる工場も現れ始めた。1934年にはイギリスの Ironbridge（1781年開通）が、国の指定文化財に該当する Ancient Monument¹⁴となり、遺産としての認知が始まったと言える。そして1950年代に、

“Industrial Archaeology”という単語が初めて用いられた¹⁵。イギリスにて、“Industrial Archaeology”という単語が活字として最初に表れたと言われ¹⁶、学術分野として始まった¹⁷。Industrial Archaeology の対象は、“Industrial Monument”とされた。この言葉が 1950 年代後半から使われ始めた際、「産業の過去の物的（史的）証左としての建造物（工場、事務所、機械設備）・交通関連・土木建築関連（橋梁、発電所、上下・農業用用水）・鉱山治金などの、規模の大きい、新時代を画した技術が用いられデザインとして卓越した構築物」¹⁸を指す場合が通例であった。また、Industrial Archaeology の対象は、「1650 年から 1950 年」の「農業・鉱業・交通サービスを含む産業（工業）とそれらに係わった地域市民・労働者（職人）を含む一般の人びと」¹⁹とされた。つまり、当時は産業革命を振り返るための遺産であったといえる。1959 年には、イギリスにて産業遺産のリスト作りが開始され、本格的に遺産としての認知を広めて保存する流れが生じている。1967 年には Ironbridge に非営利の博物館母体である The Ironbridge George Museum Trust が設立され、この地域が博物館として活用される発端となっている。

1969 年ドイツでは、エッセンにある炭鉱 ZECHE ZOLLVEREIN（2001 年に世界遺産に登録）の II/IV 堅坑施設が、産業遺産として初めて文化財に指定される²⁰。1970 年代には、ヨーロッパにて産業技術に関する博物館や教育機関が設立され、社会変換の転機としての技術的発展を周知させる動きが盛んとなった。

1973 年には、産業遺産を対象とする国際的な学術組織として、略称 TICCIH（The International Committee for the Conservation of the Industrial Heritage、国際産業遺産保存員会）が設立された。1977 年には、世界遺産のクライテリア (iv) に“Industrial Development”の文言が追記され²¹、世界遺産の枠組みにおいても産業遺産が注目されるようになった。続く 1978 年には、ポーランドの Wieliczka 岩塩坑（図 1－2）が世界遺産に登録されている。



↑ Tourist Route は、大人数のガイドツアー。整備された坑道を歩き、岩塩で出来たシャンデリアなどを見学する。



↑ Miners' Route は、少人数のグループツアー。作業着を着て、ヘルメットやヘッドライト、酸素器を装備し、灯りのない坑道を探索する。エレベーターに乗って坑道へ降りる体験や岩塩の採掘、当時危険とされたことや暗闇の体験、ツアーの最後は一人前を記念する儀式を行うなど、鉱夫の追体験をする。



図 1－2 Wieliczka（ヴィエリツィカ）岩塩坑²²

1978年のTICCIH会議にて、より幅広い意味を含む“Industrial Heritage”という単語を用いることが承認された。当時の“Industrial Heritage”の定義として、「物的な記念物（風景、場所、構造物、工場、装置、製品その他の器具類等）及びそれらに関する文書・画図像記録、および関係者の回想、意見の記録を含むもの」²³とされた。

1980年にはドイツにて、産業革命を牽引したルール地方を有するNord-Rhein-Westphalen州の定める記念物の定義の中に、「労働と生産の形態において意義を持つもの」として産業遺産が位置づけられた²⁴。ドイツでは、“Technisches Denkmal（技術的文化記念物）”と呼ばれ、動産・不動産、近代・従来全ての産業に関連する遺産を含めている。1980年代にはIBA²⁵エムシャールパーク（図1-3）が開始された。IBAは「国際建築博覧会」の意味で、「アイデアの公募」、「コンペティションによる計画選定」、「プロセスの公開」を組み合わせて行う都市計画の手法である²⁶。産業遊休地や人口流出、土壌や河川汚染といった環境問題への対応として開始された。現在、IBAエムシャールパークは産業地域の再整備を可能とした計画として世界的に知られている²⁷。1980年代は産業空洞化が生じており、その結果多くの工場が生産を終了して廃工場が増加し、転用か解体かの分岐に面していた。

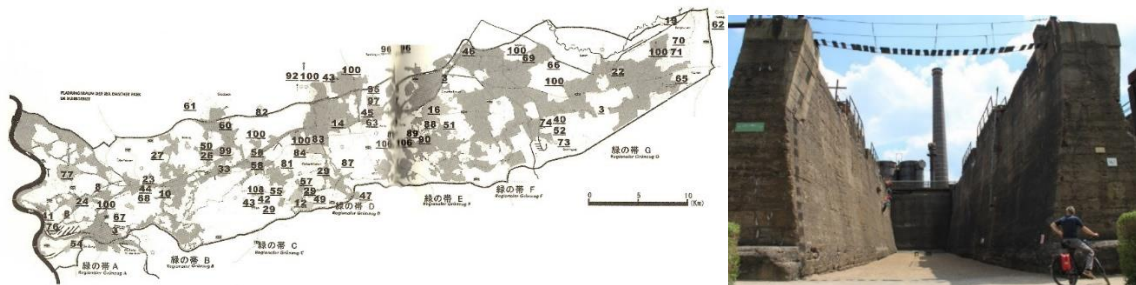


図1-3 IBAエムシャールパーク計画図²⁸と

Landschaftspark Duisburg-Nordの鉱石バンカー跡からクライミング施設への転用²⁹

1982年には、フランスの製塩に関する産業遺産「アル＝ケ＝スナンの王立製塩所」が世界遺産リストに登録される。これは2009年に拡大登録され、名称が「サラン＝レ＝バンの大製塩所からアル＝ケ＝スナンの王立製塩所までの煎熬塩の生産」に変更されている。1980年代後期には、イギリスのSalt's Mill and workers' colony に対して、解体の危機を契機とした市民による保存活動が始まった。その後、2001年には世界遺産リストに登録されている。そして1986年には前述のIronbridgeが世界遺産となり、産業施設への遺産としての認識が高まっていることが表れている。

2003年にTICCIHはニジータギル憲章を採択し、Industrial Heritageを「歴史的、技術的、社会的、建築学的、あるいは科学的価値のある産業文化の遺物からなる」³⁰と定義した。また、「主に関心を寄せる歴史的時代は、18世紀後半の産業革命の発祥時期から現在にまで及び、又産業化以前及び産業化初期の起源も研究する」³¹と述べ、対象とする時代が産業革

命以前も含むように拡大している。以降、現在に至るまで、国際的に Industrial Heritage の定義はニジニータギル憲章が用いられている。

2010 年には、「産業遺産であるサイト、建造物、地域および、景観の保存のための ICOMOS-TICCIH 共同原理」＜ダブリン原理＞が採択された。示された定義には、「産業遺産は、古代であろうと現代であろうと」³²とあるように、時代の限定はされていない。

世界遺産の文脈においても、Industrial Heritage は建造物のみに限らず、更に時代区分としても近代化以降に限定していない。そのため、新たな技術に限らず、ローマの水道橋、企業町や運河、先史や中世における遺産も指している³³。

以上の流れを、Industrial Heritage の定義の観点からまとめる。1750 年代にイギリスから始まった産業革命による近代化や工業化の変化に対する学術的関心は、当初は革命以降の変化に限られていた。しかしその後、産業革命以前も含むように拡大した。また、産業革命時の建造物や革命以前の遺跡や史跡に着目が集まっていたが、不動産に限らず、動産や無形も含めて対象とするよう拡張し、現在に至っている。

1-2-2. 産業遺産の変遷

日本における産業施設への遺産意識の芽生えと変遷について、産業革命後に着目して概観する。日本において工業化は、ヨーロッパから少し遅れた 1860 年代（安政 7 年～文久元年の頃）に始まった。薩摩藩により建てられた近代的西洋式工場群「集成館」にて、1865 年（慶応元年）には金属加工工場が建設され、日本の近代化に多大に貢献した。この工場の建物はその後、1923 年（大正 12 年）という早い段階に、企業博物館の尚古集成館（図 1-4）となっている³⁴。



図 1-4 尚古集成館の外観³⁵と内観³⁶

工業化・機械化の歴史を鑑みる学術的な動きの始まりとして、1973 年（昭和 48 年）の土木学会の「日本土木史研究委員会」の設立が挙げられる³⁷。これにより、技術の発展史という視点が与えられた。同じく 1973 年（昭和 48 年）には、産業遺産保全の先駆とも言われる「小樽運河を守る会」が設立されている³⁸。橋梁といった土木施設に対しても、遺産として継承していくための活動が開始されていた。

1976 年（昭和 51 年）には、土木学会の日本土木史研究委員会が近代土木技術に関するシ

ンポジウムを開催し、近代土木を技術史から見る動きが始まった³⁹。更に、1977年（昭和52年）には「産業考古学会」が設立された。当時、社会的に未だ認知されていなかった産業遺産を対象に、各地で起きる保存運動を支援する学会として役割を担っていた⁴⁰。設立当初、研究対象を指す言葉としては、「産業技術記念物・遺跡」や「産業遺物」が使われていた。そして研究対象について、「時代をどこまで拡大しても構わない」、「産業革命期に限定するものではない」⁴¹と述べられていた。1978年（昭和53年）に発行された産業考古学入門では、「産業考古学とは産業記念物の保存と研究に関する学問」⁴²、「産業記念物は動かすことのできない生産設備（鉱山精錬設備、工場、鉄道、運河等）である産業遺跡と機械や道具（場合によっては製品）などのように動かすことのできる産業遺物とに分かれる」⁴³と述べられている。1981年（昭和56年）には、産業考古学会の会員有志が、産業遺産の調査を新潟県と大阪府にて実施した。このように、土木施設を含めた産業施設に対して、歴史を評価し保存する動きが全国的に展開を始めた。産業考古学会では、特に産業施設に対する遺産としての認知が広まり、保存に向けた最初の一手である遺産の把握が始まっていた。1982年（昭和57年）には、雑誌「建設業界」の表紙に土木遺産が登場し、更に遺産としての認知が一般に広まっていく⁴⁴。「産業遺産」という言葉が産業考古学会内で定着したのは、1980年代半ば以降とされている⁴⁵。日本が世界遺産条約を批准した1992年（平成4年）以降、「世界遺産」が一般に浸透していくと共に「遺産」の良いイメージが浸透した。しかし、産業考古学会が設立した頃は、「遺産」が「古くさいもの」、「残されたもの」というイメージが強かった⁴⁶。そのため、「土木遺産」という言葉を雑誌の連載タイトルでは使えなかった経験に関する記述も見られる⁴⁷。

1988年（昭和63年）には、文化庁が「近代の産業・交通・土木文化財の調査」を開始し、文化財保護行政からの本格的な調査の前兆となった。続く1990年（平成2年）には、各都道府県に所在する近代化遺産の所在調査⁴⁸として「近代化遺産（建造物）総合調査」が開始された。「近代化遺産」は、「近代の産業・交通・土木文化財」からの造語である⁴⁹。文化庁は近代化遺産を、「幕末から第二次世界大戦期までの間に、近代的手法によって建設され、我が国の近代化に貢献した産業、交通、土木に関する遺産」⁵⁰と定義している。その一方で、近代化遺産の基準について、文化庁の担当者が「その地域によって違っていい」と回答している⁵¹。

一般への産業遺産の周知のきっかけの一つとして、NHK ミニ番組「近代化遺産 ～明治・大正・昭和～」が挙げられる⁵²。

1993年（平成5年）には、近代化遺産（建造物等）総合調査の結果を踏まえて、群馬県の碓氷峠鉄道施設（図1-5）、そして秋田県の藤倉水源地水道施設（図1-6）が国の重要文化財に指定された。



図 1 - 5 群馬県碓氷峠鉄道施設⁵³の第 3 橋梁と丸山変電所

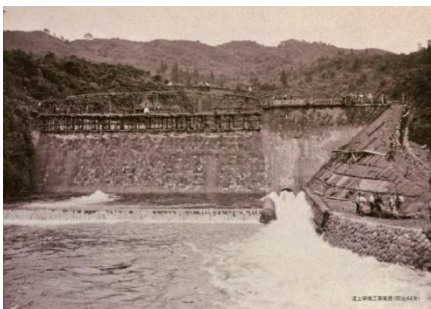


図 1 - 6 秋田県藤倉水源地水道施設⁵⁴の明治 44 年の工事中（左）と現在の様子（右）

1996 年（平成 8 年）には、活用に重点を置く文化財保護制度、登録文化財の制度が導入された。産業遺産や近代化遺産という言葉が一般にも現れるようになったのは 1990 年代後半以降のことである⁵⁵。

産業遺産の対象に近代化以前を含めるか否かについて、明確には定まっていない。2006 年（平成 18 年）には、「産業考古学研究＝産業遺産研究の中に無限定的に伝統的工芸品や在来産業を含めるような乱暴さ・曖昧さはおのずと排除されることになろう」⁵⁶との論述もなされ、時代の限定が必要かという議論⁵⁷のきっかけとなった。近代化遺産（建造物等）総合調査報告書においても、近代化遺産の扱い方は各都道府県による。近代化以前を一切除いた報告書もあれば、含む報告書も見られる。近代化以前も含む報告書では、「近代化は、なにも明治維新を機にして急に始まったわけではありません。江戸時代を通じて育まれた手工業等の産業や土地開発など連続するものも多くあることは見過ごせない事柄です」⁵⁸という記述もみられる。

2007 年（平成 19 年）から 2008 年（平成 20 年）には、経済産業省による「近代化産業遺産群 33」、「近代化産業遺産群続 33」が発表された。近代化産業遺産を「幕末～戦前の産業遺産」と時代の限定を行い、「産業近代化の過程を物語る、建築物、機械、文書」と定義してストーリー認定している^{59,60}。江戸期以前からの伝統的な手法を踏襲する産業の遺産は、原則として対象に含めていない⁶¹。2015 年（平成 27 年）に世界遺産リストへ登録された構成資産には、「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の名がつき、明治時代に限定されたストーリーが練られている。

産業遺産に関する書籍では、産業遺産を「人の生産の営みを示す建造物」⁶²や、「歴史をつくってきた産業文明の仕事、それにかかわる人々の全人生」⁶³と定義している。

2017年（平成29年）には、産業考古学会が考古学というイメージを脱却するべく、産業遺産学会へ名称を変更しようという提案が起きた⁶⁴。そして2020年（令和2年）4月10日に、産業遺産学会へ改称した。

以上をまとめると、現在使われる「産業遺産」という言葉は、時代の限定なく、また有形無形の限定なく産業に関連するあらゆる遺産を指すことができる。文化庁では、建造物に対して近代化遺産という言葉を用いる。一方、経済産業省では、ストーリーを構成する要素を呼ぶ際に近代化産業遺産という言葉を用いている。近代化遺産と近代化産業遺産は、原則として近代化以降を指している。これらの用語が、限定する範囲に合わせて用いられている。

1-3. 世界や日本における産業遺産の転用事例

産業遺産の転用事例の中で、世界ならびに日本にて代表的なものを概観する。いち早く産業革命を向かえたイギリスのアイアンブリッジ溪谷博物館、世界的な注目を受けるドイツのIBA エムシャーパーク、そしてアメリカの産業革命の起点とも言われるローウェルの再開発を紹介する。続いて日本では、保存を踏まえた転用事例として重要文化財をみる。そして、代表事例において共通してみられた要素を整理する。

1-3-1. 世界の代表的な転用事例

(1) イギリス

欧米では1970年代から、産業遺産を保存する際、単体の建造物だけを対象とするのではなく、より広い視点に立つ考え方が主流となっている⁶⁵。例えば、何か物を製造する古い工場を考えたとする。すると、工場建築物の他にも、原料の搬入、機械による加工、機械を動かすための動力、動力へのエネルギーの供給、製品の梱包、搬出、経営、労働者の雇用、といった要素が組み合わさっていることが捉えられる。そしてその中から、残すべきものは残していき、活用のために変更が必要な部分は変更するという方法がとられる⁶⁶。これはより広域を捉えた鉱山町や工業都市といった場所でも同様であり、「人の営みや生業の遺産を地域全体で伝える」⁶⁷という考え方が主流とされている。

イギリスで早い段階から遺産として認知され、エリア全体に渡り博物館化されてきた事例として、Ironbridge Gorge Museum が挙げられる。9 km程離れた Telford Central railway station までは鉄道で移動でき、そこからバスに乗り換えて 40 分程度で Ironbridge 溪谷に着く⁶⁸（図1-7）。

総合入場券により、9つの見学場所（アイアンブリッジと料金徴収事務所、ダービー・ハウス、コールブルックデール鉄の博物館、溪谷の博物館、ブリスト・ヒル・ヴィクトリアン・タウン、コールポート陶磁器博物館、タール・トンネル、ジャックフィールド・タイル博物

館、ブローズリー・パイプ工場－陶製タバコ・パイプ博物館－)⁶⁹へ訪れることが出来る（図1－8）。



図1－7 IRONBRIDGE GORGE の場所⁷⁰とアクセス状況⁷¹ならびに外観⁷²

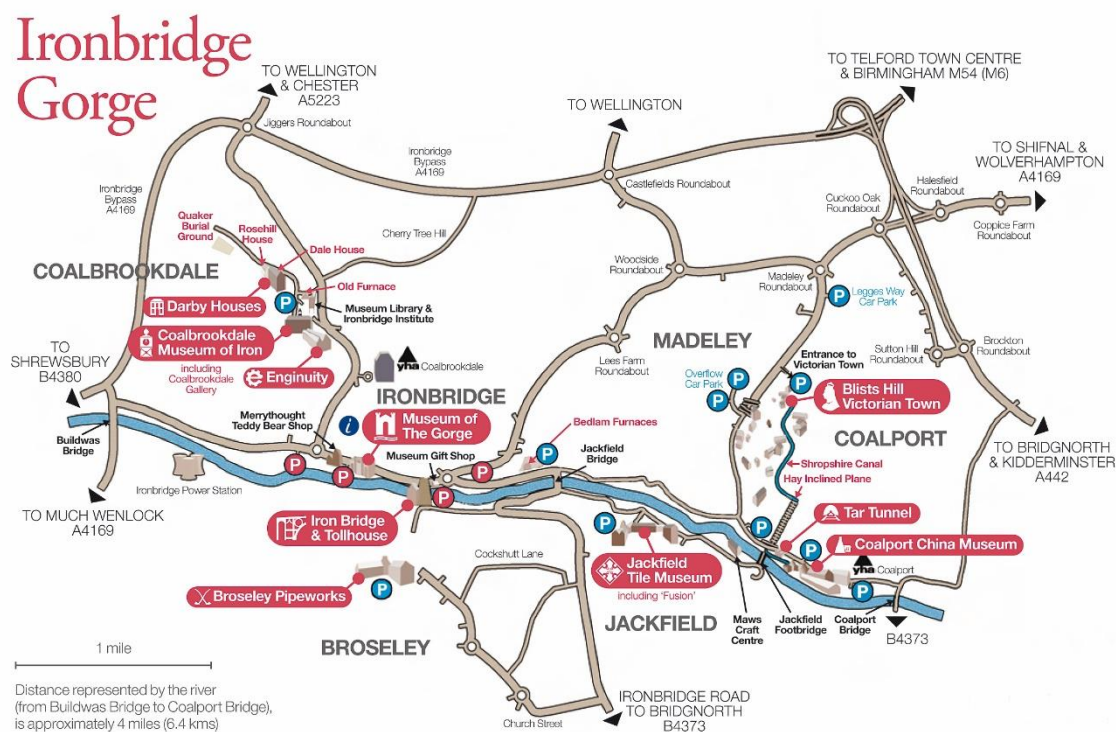


図1－8 渓谷博物館内の地図⁷³

17 世紀、イギリスでは森林資源不足が深刻になっていた。そこで、コークス製鉄法がダービー I 世により発明された。この発明で燃料として、木炭ではなく石炭を用いて鉄を安価に大量生産できるようになり、鉄の利用の拡大に繋がった。そして、1779 年に Ironbridge が建設された。

1960 年頃には、産業構造の変化に伴い町は衰退し、鉄橋や廃工場も放置されたままで来

訪者もほとんどいなかったと言われている⁷⁴。1959 年、直系の子孫であるコールブルックデール社のオーナーは、最初の Coalbrookdale Museum とダービー溶鋳炉を整備し、コークス製鉄法発明の 250 周年を祝うため一般公開を行った⁷⁵。1967 年には、The Ironbridge Gorge Museum Trust が、鋳業の発祥地としての歴史を伝え産業遺産の保護に努めること、また自立した博物館として経営することを目的に発足している。

現在の Coalbrookdale Museum of Iron（コールブルックデール鉄の博物館）の建物は、1838 年に倉庫として建てられており、1843 年には時計塔が追加されている。1979 年に開館し、1995 年には展示のリニューアルが行われている⁷⁶（図 1－9）。現在のコールブルックデール鉄の博物館内にあるレストランを筆頭に、渓谷博物館内は結婚式の会場としても貸出を行っている⁷⁷。



図 1－9 Coalbrookdale Museum of Iron⁷⁸の外観、展示室、飲食エリア

1970 年後半になると、資料の整理や調査研究の必要性が明らかとなったため、1979 年にバーミンガム大学大学院保存学科と協同してアイアンブリッジ研究所が設立された。1862 年から 1883 年に建てられた 3 階建の煉瓦造の倉庫に、いくつかの間仕切壁が挿入され、アイアンブリッジ研究所ならびに図書館へと転用されている⁷⁹（図 1－10）。



図 1－10 アイアンブリッジ研究所⁸⁰

アイアンブリッジ渓谷博物館では、アイアンブリッジやダービーの溶鋳炉跡、鋳鉄製品といった、産業遺産としてイメージされやすいものの以外にも展示要素がある。例えば、ブリスト・ヒル・ヴィクトリアン・タウンでは 1900 年の街を再現している。そこでは、当時の日用品や服装、居酒屋の様子やビールの作り方、フィッシュアンドチップス等の食べ物のレシピなど、人々の営みや生業の跡をも含めて産業遺産と捉えられている⁸¹。これらはボランティアの手を借りつつ、博物館の展示内容となっている。例えば、図 1－11 の左は Costumed

Interpreter である。来訪者に介入して展示について説明することもあれば、店舗で買い物の様子をみせるなどの役割を担う⁸²。他にも、Gardener や考古学の補助など多岐にわたって募集枠がある。



図 1-11 ブリスト・ヒル・ヴィクトリアン・タウンのボランティア⁸³とパブ⁸⁴

運営団体に着目すると、The Ironbridge Gorge Museum Trust が中心的である。他に、現地住民による団体もある。そして 1971 年には、建物の修復や維持にかかる多額の費用を賄うために The Ironbridge Gorge Museum Development Trust が発足し、個人や企業からの寄付や補助金を集め始めた⁸⁵。1978 年には、The Ironbridge Gorge Museum Trust の子会社とし有限会社が独立した。この会社は各サイトミュージアムのショップの商品を製造し、「IRONBRIDGE」の商標を扱うことと引き換えに、収益の一部を寄付する仕組みがとられている⁸⁶。

1988 年には 40 万人以上が来訪したが、1990 年以降は減少した⁸⁷。そこで、地域の学校のカリキュラムと連携することで、一定の来訪者数を確保できるようになった⁸⁸。1993 年の調査時には、来訪者の 40% は地域内からであった⁸⁹。収入と支出を見ると(図 1-12)、2000 年時点で収入の 50% はチケット入場料からなり、約 30% は補助金や寄付金により賄われている⁹⁰。寄付金は、例えばジャックフィールド・タイル博物館は The National Lottery (国営宝くじ) の収益金からの支援を受けている⁹¹。

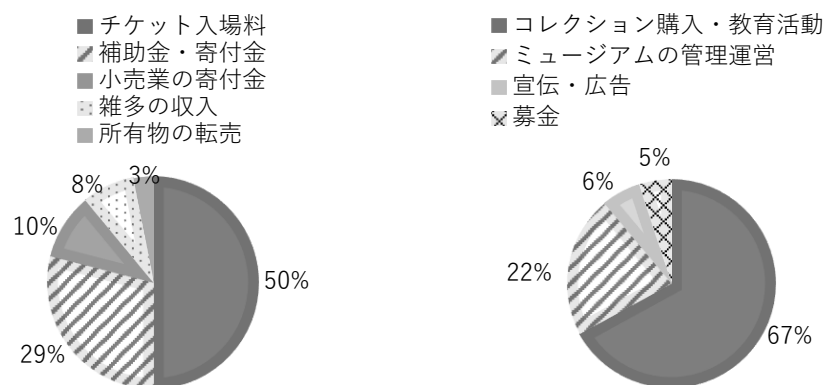


図 1-12 2000 年の The Ironbridge Gorge Museum Trust の収入と支出⁹²

また、COVID-19 の影響に対して The Ironbridge Gorge Museum Trust は、Culture Recovery Fund として、2020 年の Grants first round で£1,860,000 (約 2 億 7900 万円) を、2021 年の Grants second round にて£1,140,000 (約 1 億 7100 万円) を受けている⁹³。⁹⁴ Culture Recovery Fund とは、イギリスの政府外公共機関である Arts Council England が The National Lottery funding (国営宝くじ基金) から拠出された資金を基に行う助成である⁹⁵。

このように、地域全体の転用や活用が進んでおり、さらに民間会社やボランティアへの展開、行政からの厚いサポートがみられる。

(2) ドイツ

世界的に名高い産業遺産の転用事例として、ドイツの IBA エムシャーパークが挙げられる。かつての世界有数の規模を誇る石炭・鉄鋼地域であるルール工業地帯の、エムシャー沿川エリアの地域再生事業である。1988 年に州政府が実施を決定し、9 年の準備期間を経て 1999 年 5 月～10 月に開催された。約 120 のプロジェクトが、30 億マルク (約 2,000 億円) の公的資金をもとに、約 800 k m²に渡って展開している⁹⁶。



図 1-13 ルール地方 (赤枠)⁹⁷と IBA エムシャーパークの個別プロジェクト位置図⁹⁸

IBA エムシャーパークのプロジェクトは 5 つのプロジェクト・グループ、「エムシャー・ランドスケープパーク」、「エムシャー水系の自然再生」、「産業建造物の保存利用」、「公園の中で働く」、「住まいとまちづくり」に分けられる⁹⁹。

プロジェクト・テーマ「エムシャー・ランドスケープパーク」は、残存する緑地に産業遊休地を加えて広域緑地システムをつくる試みである。大規模緑地の公園整備の代表例として Landschaftspark Duisburg-Nord (図 1-13 中 24) が挙げられる。Duisburg 中央駅から tram で約 15 分、そして徒歩約 10 分の場所にある (図 1-14)。

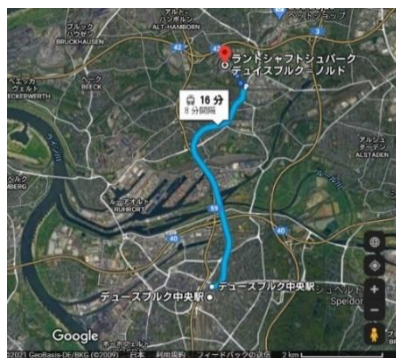


図 1 - 1 4 Landschaftspark Duisburg-Nord のアクセス¹⁰⁰とマップ¹⁰¹

1985 年まで稼働していた¹⁰²マイダリッヒ製鉄所 (図 1 - 1 5)、ティッセン第 4、第 8 立坑を含めた、約 180ha の跡地が公園へと転用された。9,600 万マルク (約 64 億円)¹⁰³の公的資金が投入されている。



図 1 - 1 5 1965 年ごろの鳥瞰図¹⁰⁴と 1954 年時の鉍石バンカー¹⁰⁵

デュイスブルク市が事業主体となり、精錬施設の価値の検討や、動植物静態カルテの作成、情報発信などを行った。その上で利用計画を検討し、国際競技設計を開いて住民グループとの共同作業を義務付けることで、遊休地の活用について住民の議論を喚起した¹⁰⁶。製鉄所部分は、「産業博物館」、「イベントホールや屋外劇場」、「ロッククライミングや綱渡りなどの冒険公園」、「通常の市民公園」として整備されている (図 1 - 1 6)。

プロジェクト・テーマ「産業建造物の保存利用」では、保存の困難さから意図的に大規模建造物が選択された。保存にコストがかかるため、何らかの新たな用途を見つけ出すことが、建造物の解体の延期・回避の唯一の手段として重要視されたためである¹⁰⁷。新たな用途について、直接的または間接的に経済行為に関連付けて考えることが求められた¹⁰⁸。これらを受けて、用途の検討が最大のテーマであった。「産業建造物の保存利用」には 7 つのプロジェクトが含まれ、IBA の期間中に 2 億マルク (約 133 億円)¹⁰⁹の公共投資がなされている。



図1-16 公園の様子と鉱石バンカーの現在（中段左と下段）¹¹⁰

「産業建造物の保存利用」の代表的なプロジェクトとして、Zollverein Schacht XII（関税同盟第12立坑、図1-17）が挙げられる（図1-13中42）。



図1-17 関税同盟第12立坑¹¹¹

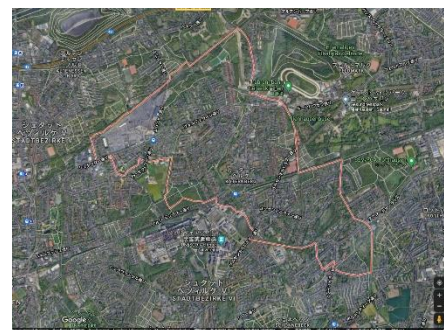
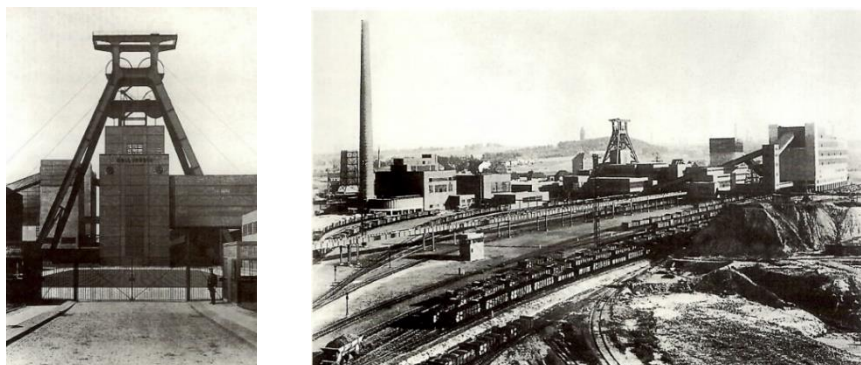


図1-18 カターンベルク¹¹²

ツォルフライン炭鉱は、Essen 郊外のカターンベルク（図1-18）で石炭層が発見されたことから、1847年に操業を開始した。本格的な採掘は1851年頃から始まり、20世紀に入ってから5000人～8000人が働いていた¹¹³。1930年に、バウハウス建築様式を用い

て第 12 立坑が建設された。採掘した石炭を、第 12 立坑によって坑内から揚げることで生産量が増加し、世界最大の炭鉱となった。



労働者は地下で働くため、中庭は
迎賓のための場所であった

図 1 - 1 9 入り口ゲートからの眺め (1932 年)¹¹⁴と鳥瞰写真 (年代不明)¹¹⁵

1961 年には、新たにコークス工場が操業開始している。1970 年に更に拡大し、ヨーロッパ最大のコークス工場となったが、需要の減少から 1993 年に操業停止に至った¹¹⁶。その後、IBA を契機に州が炭鉱跡地を購入した。IBA では、1 億 27 万マルク (約 84 億円)¹¹⁷の公的資金が投入されている。2001 年の世界遺産登録の後、2010 年にはルール地方が European Capital of Culture に選定され、1999 年に終了した IBA の事業を継続的に発展させるきっかけとなっている¹¹⁸。

世界遺産ツォルフェライン炭坑業遺産群のサイトは、大きく 3 つに分けられる。石炭層から採掘して原炭を選び出す第 12 坑エリア (図 1 - 2 0 赤)、第 1 / 2 / 8 坑エリア (図 1 - 2 0 緑)、そして、石炭を高温で蒸し焼きにしてコークスを生成するコークス炉エリア (図 1 - 2 0 青) である。Essen 中央駅からトラムに乗り 20 分ほどで、炭鉱エリアの入り口、あるいはコークス炉エリアの北側に着く。

サイト内では、博物館が中心に位置づけられる。元々は選炭場で (図 1 - 2 1 中⑬)、採掘して運び込まれた原炭から、廃石を取り除く作業や貯炭などが行われていた。レム・コールハウス率いる組織 OMA がマスタープランを策定して改修を行い、現在はビジターセンター、ルール・ミュージアムとなっている。

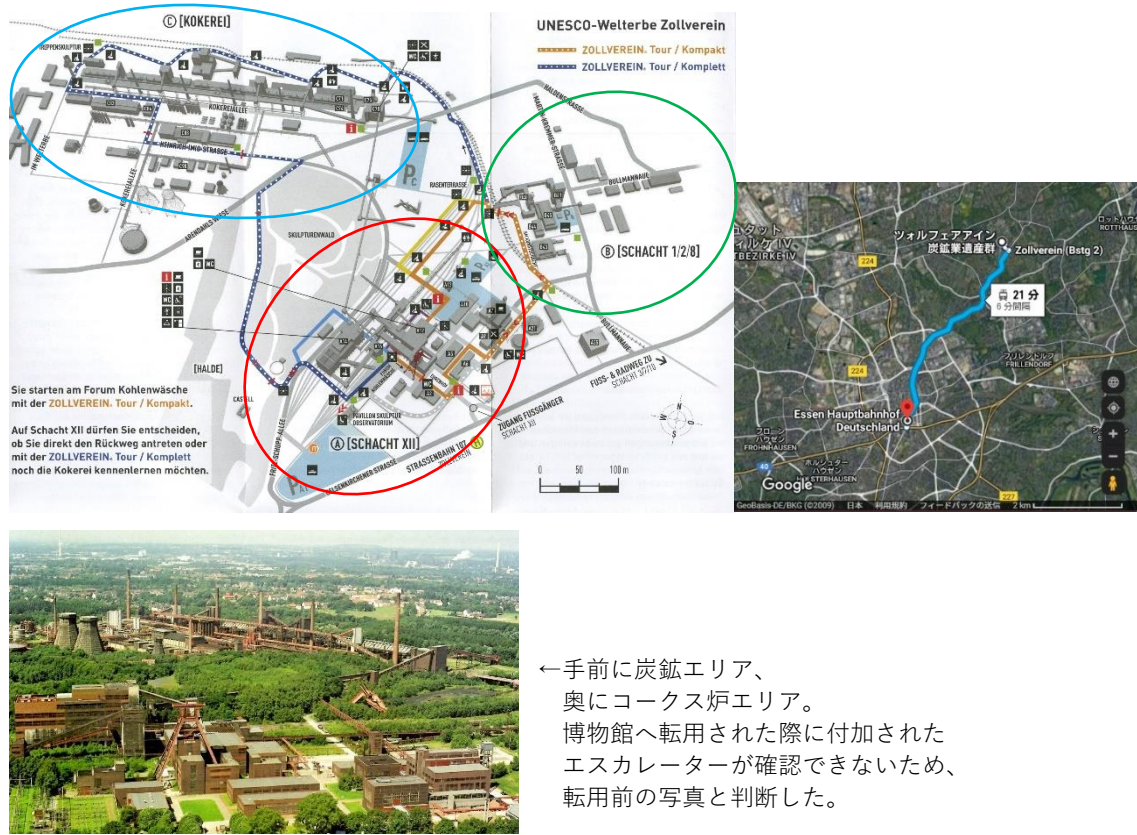


図1-20 サイトマップ¹¹⁹、中央駅からのアクセス¹²⁰と転用前の鳥瞰写真¹²¹

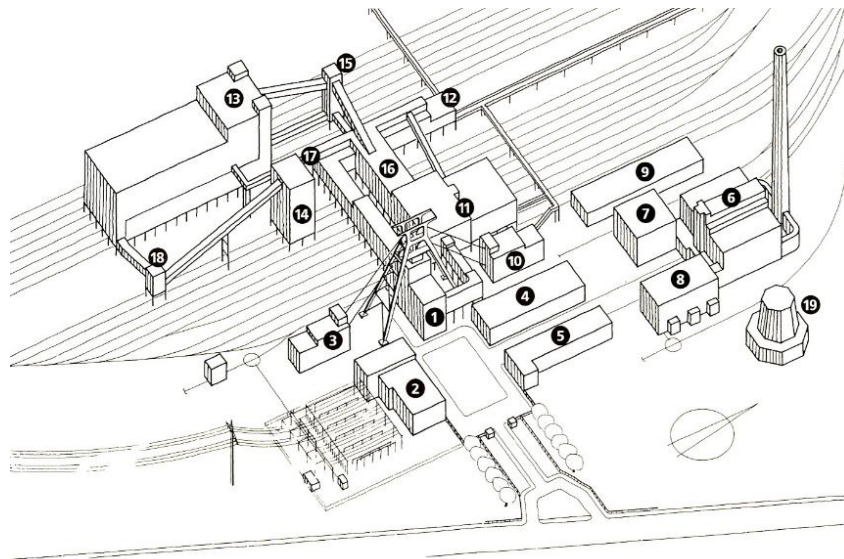


図1-21 炭鉱建設時の配置プラン図¹²²

ルール・ミュージアムでの展示は、炭鉱に限らず、ルール地方の自然史や文化史といった全般も扱っている。フロアごとにゾーニングされ、建物の特徴を用いた展示配置も行っている。展示には、解説版やパネルに加えて映像の投影もみられた。

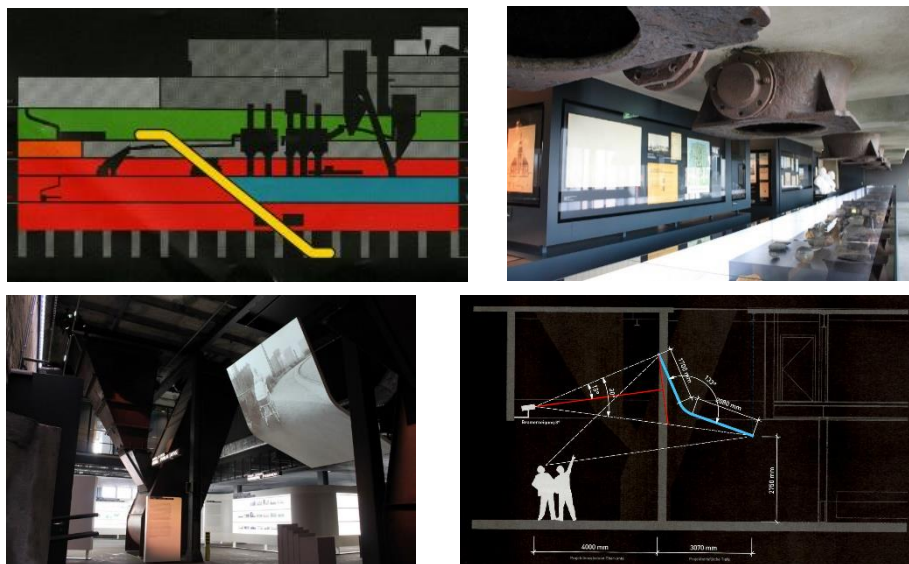


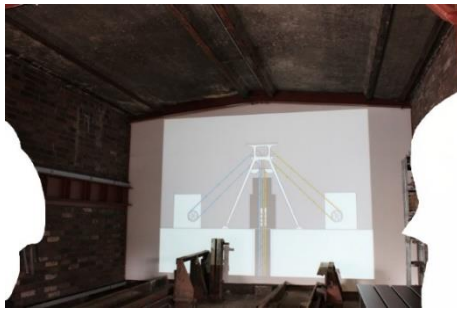
図 1 - 2 2 博物館の展示の様子^{123、124}

また、視覚以外、産業従事者の生活ののにおいに関する展示もある。そして活用時の用途として経済面への言及があったように、常設のカフェもある（図 1 - 2 3）。サイト内には複数の飲食店が入る。



図 1 - 2 3 生活ののにおいの展示ボックス、博物館内のカフェ¹²⁵

多言語によるガイドツアーも行われている。博物館を中心に屋外も含めつつ、一般には公開されていないフロアを巡る（図 1 - 2 4）。映像を投影しながらガイドが説明を行い、立坑の仕組みを説明していた。また、稼働中の大きな音を体験する場所もあった。



映像投影による立坑の説明



ガイドツアー時のみ立ち入り可能なエリア

図1-24 ガイドツアーの様子¹²⁶

レッド・ドット・デザイン・ミュージアムは、ボイラー棟（図1-21中⑥）が転用された、現代デザインの展示場である。煙突は転用前に既に消失していた。1996年に、ノーマン・フォスターが手掛けて転用された。

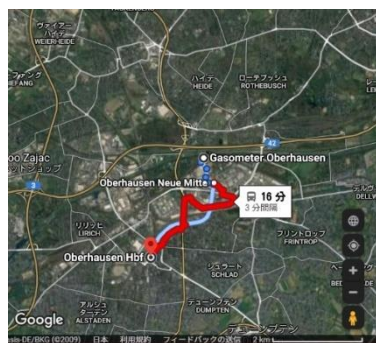


図1-25 1932年のボイラー棟¹²⁷と転用前の様子¹²⁸



図1-26 レッド・ドット・デザイン・ミュージアム¹²⁹

「産業建造物の保存利用」の単体の建造物プロジェクトとして、ガスタンクが美術館へと転用された事例が挙げられる（図1－13中44）。これは Oberhausen 中央駅からバスで約5分の後、徒歩約10分の距離にある。1915年に建設されたガスタンクで、高さ117.5m、直系67.6m、収容容積347,000 m³を有する。1988年に閉鎖された後、1900万マルク（約12億円）¹³⁰の公共投資のもと、1993-4年に展示ホールとして開館した¹³¹。冷暖房設備が設けられていないため、展示は夏季に限定され、冬季は巨大な広告塔として外壁を使用するのみである¹³²。緩やかな階段を大空間展示の鑑賞スペースとし、高さのある大空間を活かした展示が行われている（図1－27右下）。



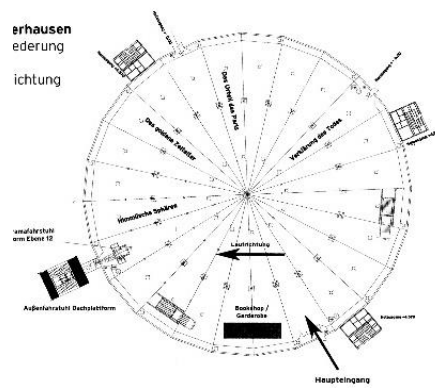
中央駅からのアクセス¹³³



外観¹³⁴



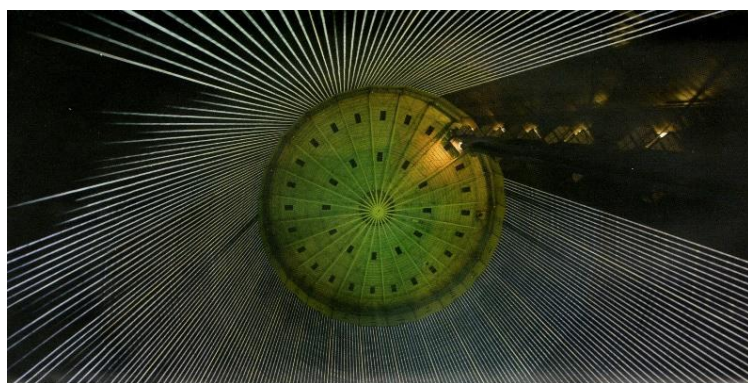
断面図¹³⁵



フロアプラン¹³⁶



1階から見た内部¹³⁷



↑ 高さを活かした映像展示¹³⁸



鑑賞スペースの階段と新たな展示の準備の様子¹³⁹ ↑

図1－27 ガスタンクから転用された美術館

1997年にはROUTE INDUSTRIEKULTUR（産業文化の道）の計画がまとめられた。これにより、それぞれのプロジェクトに関連性が付与され、巡るルートが示された（図1－28）。また、この観光ルートはIBA99フィナーレに際し、観光ツアーや広報イベントが集中的に扱った。そのため、インフラ整備と観光企画に結び付き、地域住民へ浸透することとなった¹⁴⁰。案内パンフレットやサインが整備され（図1－28右）、案内センターが設けられた。そしてサイクリングやドライブで複数サイトを巡りやすいよう、地図の販売や自転車センターの設置など観光のサポートが行われている¹⁴¹。

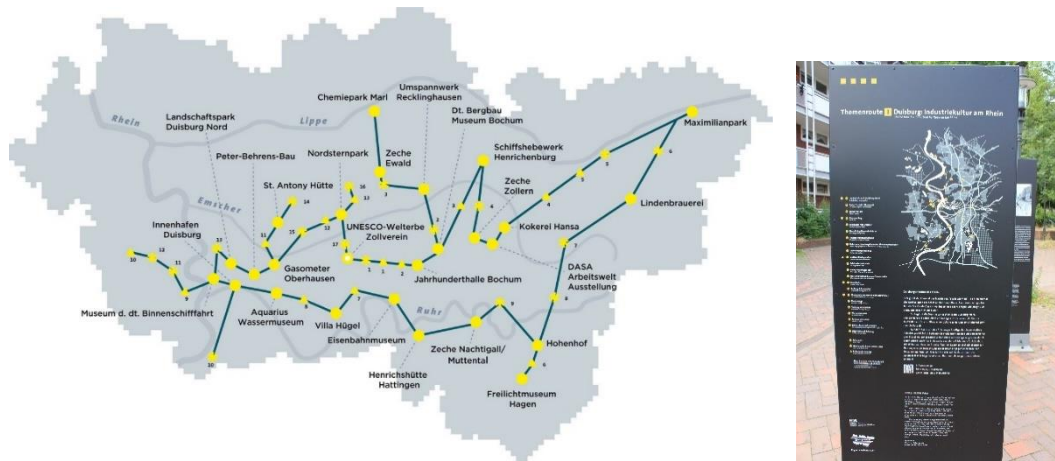


図1－28 産業文化の道のルート¹⁴²と案内板¹⁴³

また毎年、Extra Schicht, Die Nacht der Industriekultur（直訳で、特別な光、産業文化の道の夜）という祭りが開かれている。これにより、普段立ち入りできない夜間に多くの人々が産業遺産サイトへ訪れ、ライトアップやライブ、出店や大道芸を楽しむ機会となり、盛り上がりを見せている（図1－29）。



図1－29 Zollverein における Extra Schicht の様子¹⁴⁴と広告¹⁴⁵

産業遺産の観光について、この産業文化の道を更に発展させてヨーロッパを面的に捉える取り組みとして、ERIH（European Route of Industrial Heritage の略、以降「ERIH」と記述）が精力的に活動を行っている。産業遺産の観光ブランドとしての経済的ポテンシャルを見出し、ヨーロッパをネットワーク化して繋ぐべく地域ルートやテーマルートを含めた計画が2001年に採択されている。また ERIH は、2019 年には Council of Europe（欧州評議会）により、“Cultural Route of the Council of Europe”として挙げられている¹⁴⁶。これは、1987 年から毎年発表される、EU 全体を国境や文化の違いを越えて繋ぎ発展させるプロジェクトである。

ERIH は主に情報提供を行っている。ヨーロッパの産業遺産について、重点的な施設として Anchor Points を、そして Member ERIH association、Site の3段階を設けている。更に、Regional route（地域をめぐりるルート）や、European Theme route（産業ごとのテーマ別ルート）を設けている。これにより、来訪者が自身に併せた産業遺産観光を行えるような情報提供を行っている¹⁴⁷。

先述の世界遺産アイアンブリッジ溪谷、Landschaftspark Duisburg-Nord、世界遺産ツォルフェライン炭坑業遺産群、Oberhausen の Gasometer はそれぞれ Anchor Point となっている。

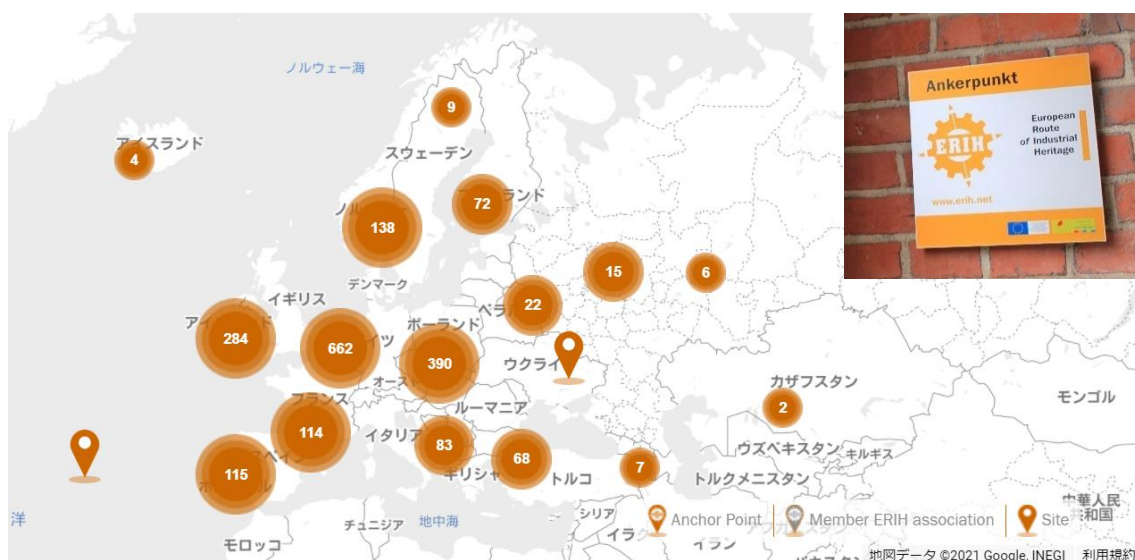


図1-30 ERIH の国別の施設数¹⁴⁸と Anchor Point（Ankerpunkt）の看板¹⁴⁹

(3) アメリカ

全米各地で、産業遺産を活用した町づくりが行われている。中でも代表的な例として、アメリカの産業革命の始点ともされるマサチューセッツ州 Lowell の再開発が挙げられる^{150、151}。紡績工業の町で、当時、川沿いに立ち並ぶ大規模工場群（図1-31の黒部分）は、アメリカを旅するヨーロッパ人にとってナイアガラの滝に並ぶ訪問先であった¹⁵²。



図1-31 ローウエルの場所¹⁵³と1845年の都市計画図¹⁵⁴

ローウエルにおける産業は、イギリスの産業革命の影響や、そしてナポレオン戦争によってアメリカ・ヨーロッパ間の貿易に混乱が生じたことにより、独自に変化を遂げることとなった¹⁵⁵。世界的に見て、繊維工場の動力による稼働は、まずイギリス郊外の川の流れが速い場所にて水力から始まった¹⁵⁶。そして1780年代には、動力を蒸気に変えたことで、都市部でも工場が展開されるようになった¹⁵⁷。1780年から1840年にかけて、50倍にも生産力を伸ばした。人力が重宝されていた所に訪れた大きな変化に、労働者は恐れをなし、エンジンの破壊行為や工場への放火といった抵抗もあったほどである¹⁵⁸。また、需要が高まったことで、アメリカ南部での綿の栽培もより求められた。しかし、1760～70年代にはイギリスとの関係が悪化し、アメリカでは母国イギリスに依存しない製造業を求める声が高まった¹⁵⁹。1776年のアメリカ独立後、イギリスは機械の輸出や人の移住を禁止する法律を定めた。そのため、アメリカにおける繊維工場の工業化の試みは困難を極めたが、農民と申請してやってきた英国からの移民により機械が導入されることとなった¹⁶⁰。

ローウエルでは、綿布が常に主要生産物であった。19世紀には紡績機は水力で稼働していた。そのため街中に、輸送ではなく水力のための運河（power canal）が張り巡らされており、また20世紀に入ると路面電車も走るようになった¹⁶¹。しかし、1914年に第一次大戦が始まった頃から、企業が倒産を始めた。生産がアメリカ南部の近代的な新設工場に移されたことも相まり、1926年にはローウエルに工場閉鎖の波が来ていた。1930年代半ば

には、大規模な稼働工場は Merrimack（現在は解体）、Lawrence（現在は Lawrence Mills Park）、Boott（現在は Boott Cotton Mills Museum）のみとなっていた¹⁶²。1960 年代には一帯は放置され、運河の水は淀んでいたという¹⁶³。

1960 年代に入り、市民グループが都市計画家や歴史家と協働し、ローウェルの建築的・文化的遺産をベースとした再開発計画を計画した。すると、政治家やビジネスリーダーがサポートを申し出た後、1972 年には市議会によって承認されるに至った¹⁶⁴。そして、1974 年には Lowell Heritage State Park が、1978 年には Lowell National Historical Park が、そして Lowell Historic Preservation Commission が設立された。また、同じく 1970 年代には、マサチューセッツ大学ローウェル校が誕生し、これには地域の経済開発の支援が含まれていた。70 年代後半から 80 年代前半にかけて、マサチューセッツ州は経済成長を遂げ、事業も拡大され、工場の転用事例が増えるにつれて雇用も増大した。



図 1 - 3 2 現在の Lowell National Historical Park の地図¹⁶⁵
(緑の線は運河の歩行者道路)

1970 年から開始された再開発事業では、これらの産業遺産が地域整備と活性化の資源と捉えられ、ナショナルパークサービスが膨大な補助金を投入して大規模に行われた¹⁶⁶。地域の特徴や独自性である「アイデンティティー」の確率のために、地域の人々の営みの跡を示す産業遺産サイトを用いるという考え方がなされた。また、生産システムや生産設備、労働者の暮らしや地域とのかかわりが調査範囲とされた¹⁶⁷。そして建造物については、残すべき部分を決定すれば、機能の変更や内部の改造を行って構わないという方針がとられた¹⁶⁸。その結果ローウェルでは、博物館やオフィス、アパート、ショッピングモー

ルなどに転用されている（図1－33）。転用されたオフィスで働くことや、アパートに住むことは、ステイタスとして捉えられた¹⁶⁹。そのため、郊外に移った人や事務所が戻る契機となった。



図1－33 Wannalancit Mills から転用されたオフィスの様子^{170、171}

博物館への転用である Boott Cotton Mills Museum では、1フロアに渡って紡績機が動く状態で整備されており、当時の騒音が体感できる（図1－34）。また重要な要素である運河には歩行者専用道路が設けられ、市内の運河と歴史的建造物を繋いでいる。産業遺産の価値を伝えられなければならないという考えの元、保存活用計画と同時に教育プログラム（図1－35）が検討され、ソフトシステム面も構築された。

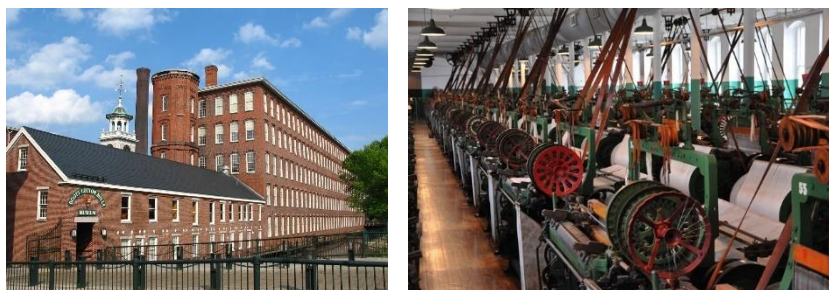
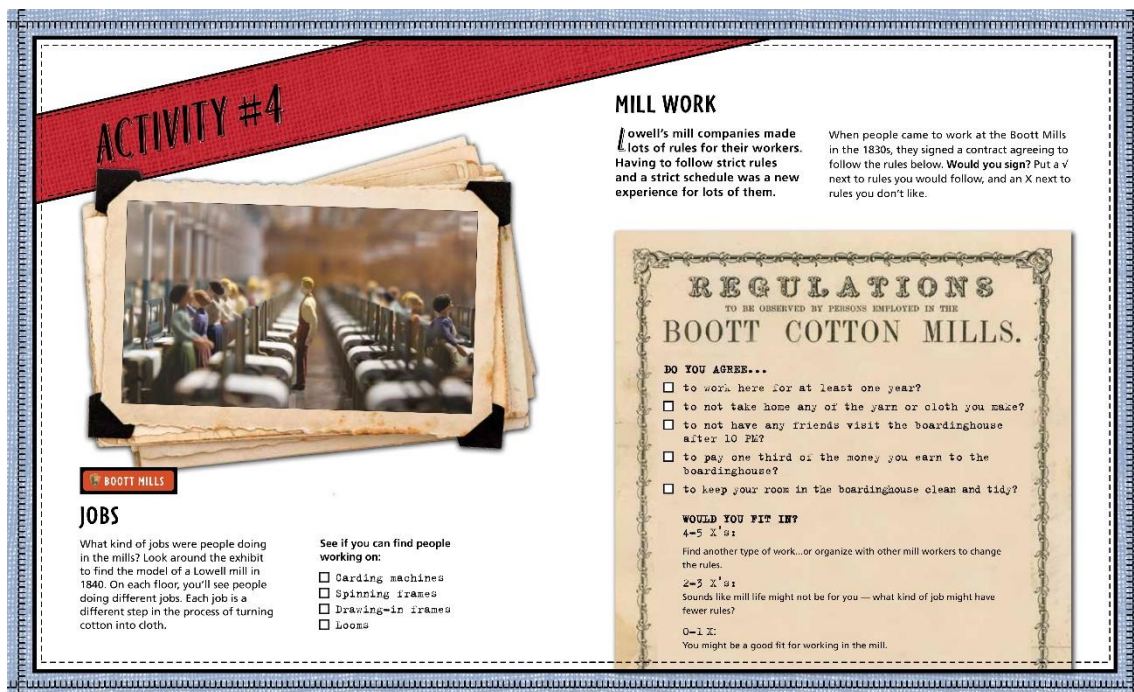


図1－34 Boott Cotton Mills Museum¹⁷²（旧 Massachusetts Mills）



Junior Ranger の冊子は博物館にて配布。終了時には、National Park Ranger を助ける Junior Ranger としての、バッジや認定証がもらえる。

例えば、仕事に関するページでは、

「DO YOU AGREE...to work here for at least one year?」など、子供の意見を聞く欄や、「See if you can find people working on: spinning frames」など、博物館の展示に関する欄がある。

図 1-3-5 子供向けの Junior Ranger activity book¹⁷³

1-3-2. 日本の代表的な転用事例

日本における産業遺産の転用事例では、保存と活用を併せ持つことから重要文化財が代表的と言えよう。2020 年（令和 2 年）9 月 1 日時点では、重要文化財の中で「近代／産業・交通・土木」に該当する 286 件の内、内部空間を有する建築物は 83 件あった。その中で、産業に関する建築物として 57 件¹⁷⁴が該当した。これらの現在の用途を見ると（表 1-1）、公開施設となった敷地内にて建物を外から見学する外観見学（14 件）や、内部の見学も可能な場合（7 件）、更に展示設備を備えた博物館化による建物内部の公開（9 件、表 1-2）と、見学用途への転用が目立つ。また、IBA エムシャープパークの用途の検討時に重要視された経済活動に着目すると、飲食販売を行う旧小坂鉦山事務所、土産販売やシルク販売を行う旧富岡製糸場東置繭所、飲食店となったシャトーカミヤ旧醸造場施設貯蔵庫の 3 件があった。

また旧集成館機械工場は、「近代／産業・交通・土木」には組み込まれず「近世以前／その他」に該当していた。日本の初期の工場建築であり、かついち早く博物館への転用が行われていたことを踏まえると、これも代表的な事例だと考える。

表1-1 重要文化財の近代／産業・交通・土木に該当する
産業遺産建築物の現用途

現用途	件数
現役稼働	10
現役稼働（見学可能）	2
外観見学可能	14
内部見学可能	7
転用（博物館）	6
転用（博物館、販売）	1
転用（博物館、飲食販売）	1
転用（飲食）	1
転用（内部非公開）	6
非公開	9
合計	57

※ 「外観見学可能」は、見学施設内にある内部非公開の場合を指す。
「非公開」は、見学ツアールートに含まれないなど外観見学もない場合を指す。
また「非公開」には、期間限定で予約ツアーを行う通常非公開1件を含む。

表1-2 博物館への9件の転用事例

No.	名称	棟名	現用途	面積（㎡）	構造
1	旧阿仁鉱山外国人官舎		博物館	267.20	煉瓦造
2	旧小坂鉱山事務所		博物館、飲食販売	753.57	木造
3	旧富岡製糸場	東置繭所	博物館、販売	1486.60	木骨煉瓦造
4	旧富岡製糸場	西置繭所	博物館	1486.60	木骨煉瓦造
5	日本煉瓦製造株式会社旧煉瓦製造施設	旧事務所（日本煉瓦史料館）	博物館	433.60	木造平屋建
6	シャトーカミヤ旧醸造場施設	醗酵室	博物館	436.75	煉瓦造
7	シャトーカミヤ旧醸造場施設	貯蔵庫	飲食	404.58	煉瓦造
8	旧佐渡鉱山採鉱施設	電車車庫（機械工場）	博物館	330.63	木造
9	旧常田館製糸場施設	事務所兼住宅	博物館	163.78	木造二階建

（1）旧集成館機械工場

旧集成館機械工場は、現在は博物館である。「集成館」の名は、1857年（安政4年）、島津家当主が海防強化のために工場群を結集して名付けたことに由来する。その後、薩英戦争で消失するが集成館事業は再興され、1865年（慶応元年）に機械工場として竣工したのが旧集成館機械工場である。石造平屋建で、建築面積979.8㎡を有する。

鹿児島駅からバスで約30分の場所にある（図1-36）。周辺には、国指定名勝である仙巖園や、重要文化財の旧鹿児島紡績所技師館、登録文化財の旧島津家吉野殖林所（現在は薩摩切子の展示販売を行う）や旧島津家芋ヶ野金山鉱業事業所（現在はカフェ）などがある。薩摩藩が、当時最新の技術を得ていく歴史が凝縮されたエリアといえる。

集成館は、1871年（明治4年）に廃藩置県により官有（陸軍省所管）となり、1872年（明治5年）には大砲製造所となった¹⁷⁵。その後、鹿児島製造所や鹿児島造船所、1889年（明治22年）に島津家所有となり、島津鉄工所を経て、1915年（大正4年）に旧集成館機械工場は操業停止、閉鎖へ至った¹⁷⁶。

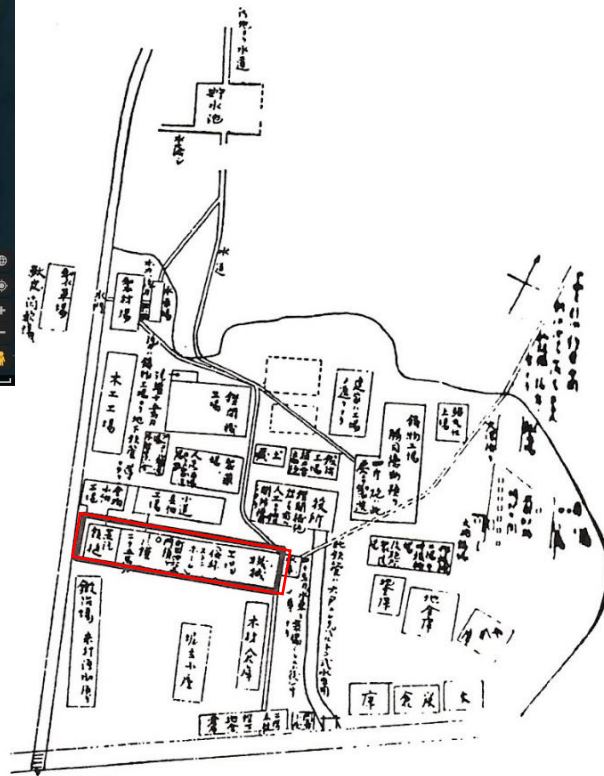
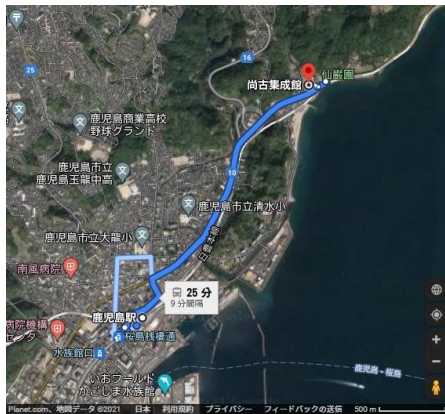


図1-36 現在のアクセス¹⁷⁷と1658年（万治元年）以降の集成館の配置図¹⁷⁸

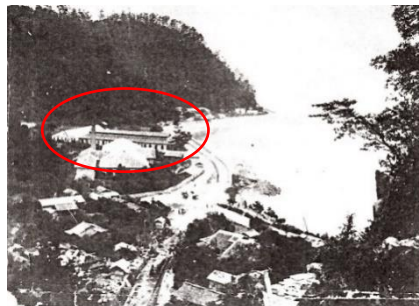
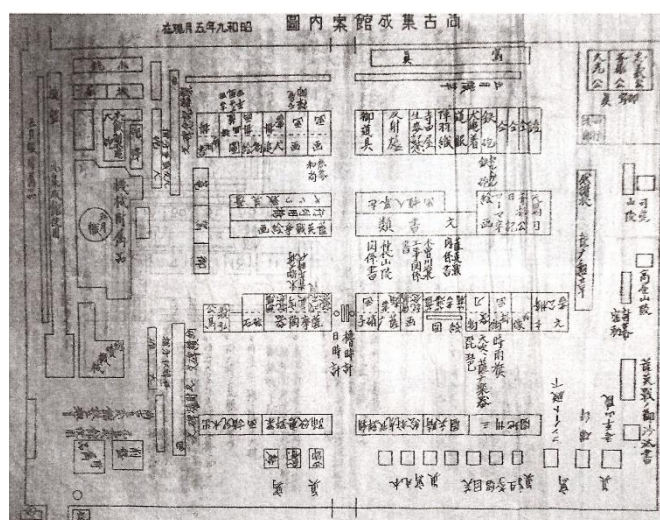


図1-37 1897年（明治30年）頃の磯地区の様子と当時の尚古集成館¹⁷⁹

工場閉鎖後、資料等を陳列して一般に公開するため、1919年（大正8年）に屋根明り取り窓の取り付けや玄関新設等の改修が行われた。そして1923年（大正12年）に、「尚古集成館」として公開された¹⁸⁰（図1-38）。

1962年（昭和37年）6月には、国の重要文化財に指定された。1965年（昭和40年）、総工費約470万円をかけて屋根葺き替えや雨樋や天窓などの部分修理を行っている。続いて1984-85年（昭和59-60年）には、屋根葺き替えや1919年（大正8年）に増設された天窓の撤去などの復旧工事が実施された¹⁸¹（図1-39）。



薩摩陶器や硝子、
ローマ字や絵画、
機械附属品の
展示が行われていた
ことが伺える

図1-38 1934年（昭和9年）5月の展示の様子¹⁸²

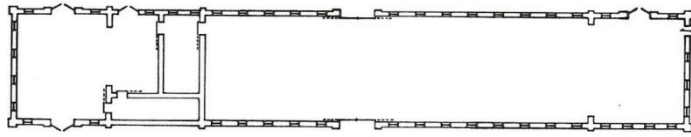


図1-39 1984-85年（昭和59-60年）の修理前と修理後の外観¹⁸³

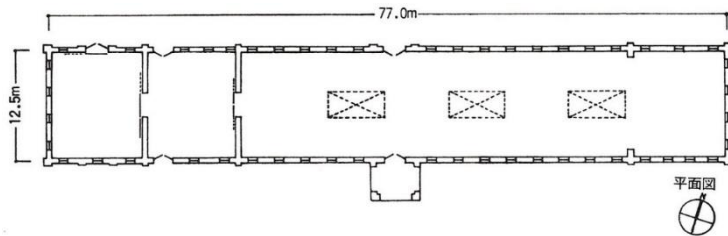
1984年（昭和59年）の工事は総工費2730万円で、国庫補助50%、鹿児島県からの補助約7.3%、市から約7.3%、所有者負担約35.3%、雑収入0.1%により賄っている¹⁸⁴。

2005年（平成17年）、展示内容を大幅に一新した。続く2007年（平成19年）には、経済産業省の近代化産業遺産『近代技術導入事始め』海防を目的とした近代黎明期の技術導入の歩みを物語る近代化産業遺産群に認定された。そして、2015年（平成27年）には、世界遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成資産となっている。

博物館内は、最も広い部屋を島津家の歴史・文化と近代化への道に関する展示室へ、その隣を講座室（講座の行われていない間はシアタールームとして使用）として、そして収蔵庫として使われている（図1-40）。収蔵室は、将来的には空調等の設置を行い展示室として使う計画である¹⁸⁵。床部保存のため、オリジナルの床の上に木製の床を設置し、建築物本体へ直接影響が及ばぬようしている。また、防犯対策のセンサーやカメラの設置をしている¹⁸⁶。



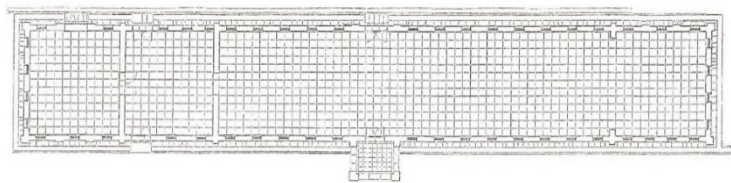
1919 年（大正 8 年）以前の平面図¹⁸⁷



1985 年（昭和 60 年）の平面図¹⁸⁸



展示の様子¹⁸⁹



2013 年（平成 25 年）の平面図¹⁹⁰



展示の様子¹⁹¹

図 1 - 4 0 平面構成と展示の変遷

（2）旧小坂鉱山事務所

旧小坂鉱山事務所（図 1 - 4 1）は、秋田県内陸部最北端に位置する小坂町にある。小坂町は、かつて日本三大銅山とも呼ばれた小坂銅山によって発展した。1905 年（明治 38 年）に鉱業を営む企業の事務所として建設された後、92 年の間使用されていた。現在は移築され、十和田南駅からバスに乗り約 25 分の場所にある。移築先の北東には、旧小坂鉱山が広がっている（図 1 - 4 1 右白丸部）。



図 1 - 4 1 現在の外観¹⁹²とアクセス¹⁹³

1990 年（平成 2 年）の近代化遺産総合調査が、最初に行われた本格的な調査だったとされる。1995 年（平成 7 年）に、所有者である小坂精練株式会社から小坂町に、事務所に隣接する建物の増築の支障となったという相談があった¹⁹⁴。そこで町が文化財として保存に取り組むこととなり、観光振興と文化財保護の両面から、移築・復原の方針が決定された。公共施設としての活用は、工場という私設構内に存在することとは両立できず、移築が選択されることとなった¹⁹⁵。

移築先は、かつて鉱山病院があった跡地である。鉱山病院跡地に隣接した場所には、重要文化財の芝居小屋「康樂園」がある（図 1－4 2）。康樂園は、鉱山従業員のための厚生施設として 1910 年（明治 43 年）に建てられ、1985 年（昭和 60 年）に町に譲渡された。

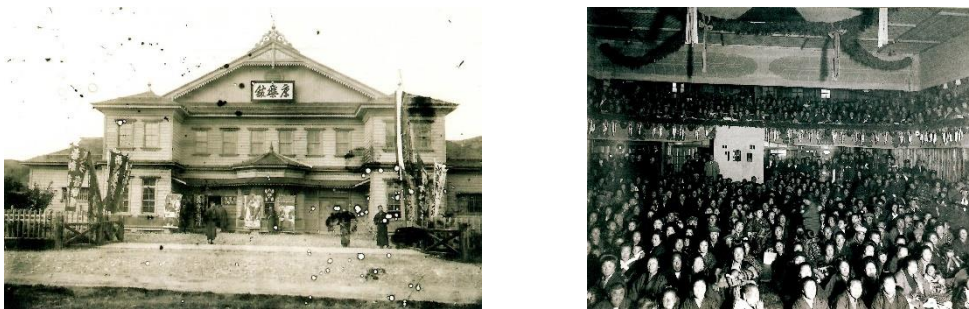


図 1－4 2 康樂園の大正初期の外観と満員の客席¹⁹⁶

康樂園は映画ブームが終わる昭和 40 年代頃から次第に荒廃し、鉱山の不況も相まって解体の話が出ていた。しかし、親しんでいた町民有志や歌舞伎俳優らの助言協力の元、町も保存を決定した。そして所有者から町に譲渡され、県指定文化財に指定された後に再オープンした歴史を持つ¹⁹⁷。康樂園を中心に、1990 年（平成 2 年）から明治時代の小坂町をイメージして「明治百年通り」として整備が行われていた。

旧小坂鉱山事務所は、建設省の「街並み・まちづくり総合支援事業」を用い、また建築基準法除外を申請された。その上で 1997 年（平成 9 年）に解体及び移築・復原工事を開始し、2000 年（平成 12 年）11 月に竣工した¹⁹⁸。その後、2001 年（平成 13 年）4 月に博物館として開館している¹⁹⁹。総額で約 20 億円が投資された移築・復原事業は、人口 7,400 人ほどの町にとって非常に重く、維持・管理費のためにも活用により収益を上げる必要性について指摘されている²⁰⁰。

明治百年通りには康樂園の他に、鉱山病院が解体された際に唯一解体を免れた霊安室を有する旧小坂鉱山病院記念棟（2003 年登録文化財）や、2014 年（平成 26 年）に移築されてカフェへ転用されている旧小坂鉱山工作課原動室（2017 年登録文化財）といった、鉱山に関連した建物がある。それらに加え、物資輸送のための鉄道路線を用いた小坂鉄道レールパークがあり、広がりを見せている。



図 1 - 4 3 明治百年通り²⁰¹



図 1 - 4 4 創建当時（左）²⁰²と移築前（右）²⁰³の外観

事務所として使われていた間に、間取り等の平面構成は大きく変更されており、痕跡の発見も困難であった。そのため、柱跡等の痕跡が判明した部分においては再現を試みた上で、活用計画や防災計画に即した間取りがとられた(図 1 - 4 5)²⁰⁴。そして 2002 年(平成 14 年)には、小坂鉦山事務所と康楽園は国の重要文化財に指定された。また、2007 年(平成 19 年)には、経済産業省による近代化産業遺産「有数の金属供給源として近代化に貢献し

た東北地方の鉱業の歩みを物語る近代化産業遺産群」に認定されている。現在、小坂鉱山事務所の管理運営は2011年（平成23年）設立の小坂まちづくり株式会社が担っている。建物内部では、小坂鉱山に関する展示に加え、予約制の衣装の貸し出し、貸会議室、飲食（図1-46）、休憩、土産販売を提供している。

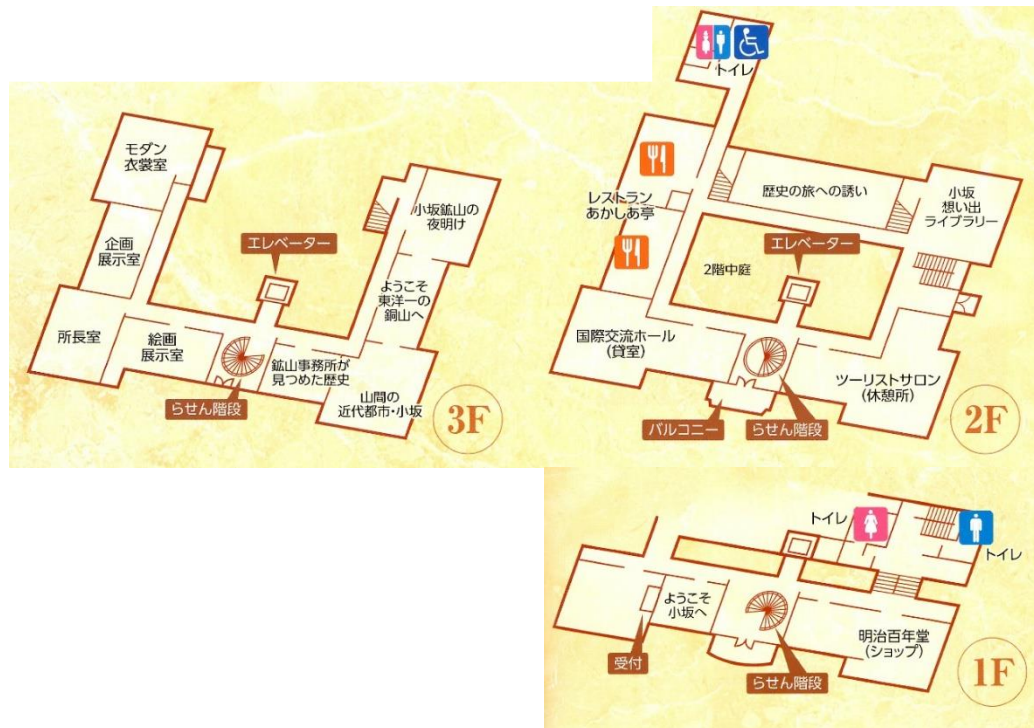


図1-45 現在の内部の使われ方²⁰⁵



図1-46 飲食店の様子²⁰⁶

（3）旧富岡製糸場東置繭所

旧富岡製糸場東置繭所は、器械製糸工場としてかつて世界最大級の規模を誇った群馬県の富岡製糸場内にある。2階にて繭を乾燥して貯蔵し、1階は事務所・作業所としての役割を担っていた。1872年（明治5年）に建てられ、2階建の木骨煉瓦造で建築面積1486.6㎡を有する。上州富岡駅から徒歩約10分で富岡製糸場に着き（図1-47）、約5.3haの敷地内には建造物や工作物が大小100を超えて残存している。敷地南側には鐺川が流れ、豊富

な水資源は製糸場建設の重要な条件の一つであり、大正時代からは揚水として利用されていた²⁰⁷。東側の大きな倉庫が旧富岡製糸場東置繭所（図1-48赤）、また西側には旧富岡製糸場西置繭所がある。



図1-47 現在のアクセス²⁰⁸

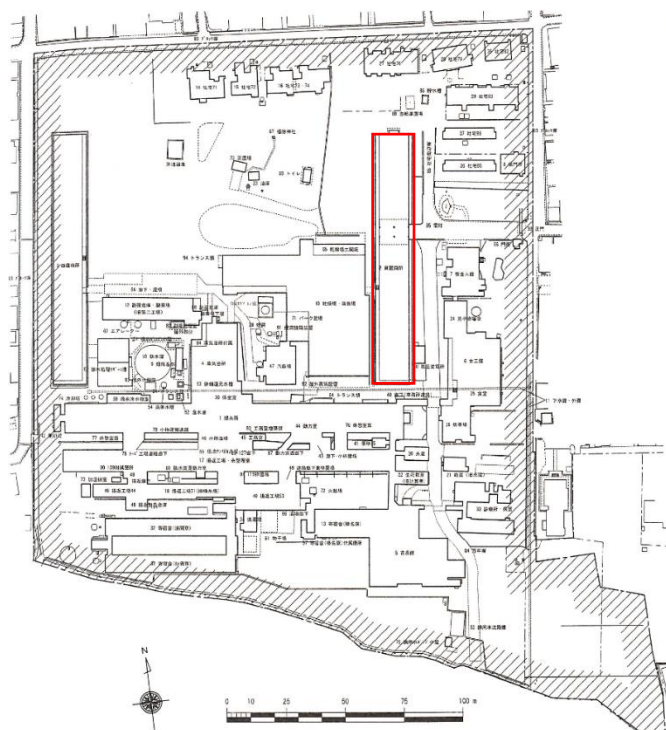


図1-48 富岡製糸場の配置図と東置繭所の位置²⁰⁹

明治国家が近代化を進める中で、生糸の輸出は重要な外貨を得る手段であった。1893年（明治26年）、富岡製糸場は三井家に払い下げられ、1939年（昭和14年）には片倉製絲紡績株式会社に合併された²¹⁰。片倉製絲紡績株式会社は1924年（大正13年）にニューヨーク出張所を開設しており、アメリカへの輸出を拡大していた所であった²¹¹。1974年（昭和49年）に生産量のピークアウトを迎えた後、化学繊維の台頭により製糸業は衰退し、1987

年（昭和53年）に富岡工場は休止している。その後は管理事務所を設置して3名の社員を配置し、工場見学を受け入れていた。維持費が年間1億円を超えることもあったが、他事業の利益でカバーすることが出来、維持に繋がった²¹²。その後、2005年（平成17年）に富岡製糸場は富岡市に譲渡された。2006年（平成18年）に国の重要文化財に指定され、2014年（平成26年）には国宝に、そして世界遺産に登録されている。

輸出先であったアメリカ、東部メリーランド州アリゲイニー郡には、1907-57年の間稼働していた製糸工場がある（図1-49）。工場の事務所では、日本産生糸の輸出品につけられていた商標を見ることが出来る^{213、214、215}。中には富岡工場の生糸商標も確認でき、遠く離れたアメリカで日本産生糸が重宝されていたことが伺える（図1-50）。



図1-49 メリーランドの製糸場の位置²¹⁶



←近隣高校生がまとめた報告書裏表紙²¹⁷



事務所デスクに貼られた富岡工場の商標の写真²¹⁸と確認²¹⁹



←工場の外観²²⁰

図1-50 メリーランドの廃製糸工場に見られる富岡工場の生糸商標

旧富岡製糸場東置繭所は現在、1階に総合案内所、展示室・売店、シルクギャラリーを有し、2階部分では展示を行っている（図1-51）。シルクギャラリーでは、富岡シルクブランド協議会による富岡シルク製品や国産の絹製品が展示販売されている。

また、ほぼ同じ形を有する西置繭所は、6年にわたる保存修理及び整備活用工事が完了し、2020年（令和2年）10月に公開が始まった。構造補強と展示室やホールといった活用を同

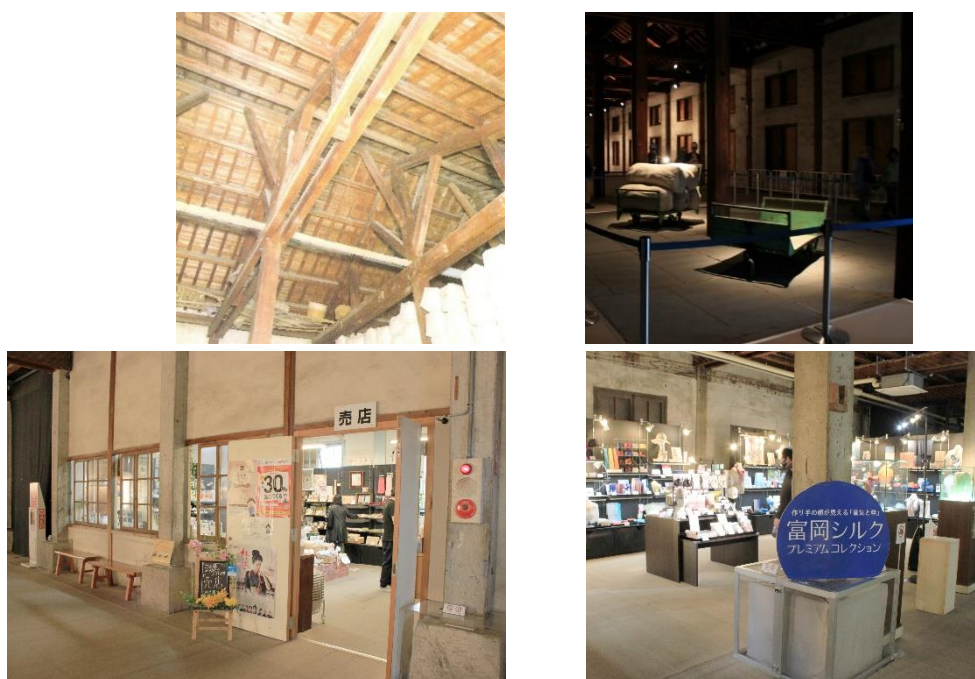


図1-51 元来の貯繭状況²²¹と2階の展示²²²
ならびに1階の販売²²³（売店とシルクギャラリー）

時に考えて、可逆性が配慮されたガラスボックスがハウス・イン・ハウスの形で1階に挿入された²²⁴。

また対照的に、2階では建造物そのものの空間を味わうようになっている²²⁵。個別になりがちな保存修理、構造補強、活用について、一貫した理念で実現された高い完成度が評価され、「旧富岡製糸場 国宝『西置繭所』—近代産業遺産の先駆的保存活用プロジェクト」として日本イコモス賞を受賞している²²⁶。

平成26年度から令和2年度にかけての全体事業額は26億6568万円で、50%は国庫補助、県と市が25%ずつ担っている²²⁷。改修の設計・監理は文化財建造物保存技術協会、施工は竹中工務店・タルヤ事業共同体、さらに文化財建造物保存技術協会から再委託を受ける形で構造化の江尻建築構造設計事務所主宰が参画している²²⁸。

活用の基本方針として、「富岡製糸場が持つ多様な価値と魅力を最大限に引き出す」という目的、「かつての“ものづくり”の場から、これからの“ものづくり”の場へ」という活用のコンセプトが定められた²²⁹。そして「展示・公開」「研究・教育」「楽しむ空間の提供」の3つの機能が定められ、ギャラリーやユニークベニューとしての利用を想定したホールなどが計画されている²³⁰。



図9 2階俯瞰パース



図10 1階俯瞰パース

図1-52 1階と2階の俯瞰パース²³¹



図1-53 2階の竣工後²³²と展示スペース²³³

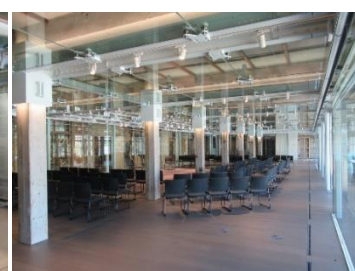


図1-54 1階の竣工後²³⁴と展示ギャラリー²³⁵ならびにホール²³⁶

(4) シャトーカミヤ旧醸造場

シャトーカミヤ旧醸造場は、茨城県牛久市にて1903年（明治36年）に建設された。旧事務所、旧醱酵室、旧貯蔵庫は当時の建物が現在まで用途を変えて継承されており、2008年（平成20年）には重要文化財に指定されている。葡萄畑のための広大な土地が確保でき、また1896年（明治29年）に開業した鉄道の牛久駅に近いことから牛久の地を選択したと推察されている²³⁷。1901年（明治34年）には、購入した土地を開墾して葡萄酒の醸造を開始している。戦時中、葡萄園は荒廃していた。戦後は、農地改革により小作地として開放さ

れたために、大規模葡萄園としての稼働は終えることとなった。1960 年（昭和 35 年）に合同酒精株式会社と合併したが、その際、牛久醸造場での葡萄酒の生産はなく、貯蔵所としての機能のみを有していた。1969 年（昭和 44 年）には、会社の事業目的は飲食業に変更されている²³⁸。

牛久駅から徒歩 13 分程度の距離にあり、現在は旧貯蔵庫がレストランに、旧醱酵室はワイン造りの資料館として公開されている。旧事務所は一般公開されていない。



図 1 - 5 5 アクセス²³⁹と配置図²⁴⁰

旧貯蔵庫は、1976 年（昭和 51 年）9 月にレストランに転用するために、窓を大きくする、厨房の一部を増築するなどの増改築が行われている²⁴¹。

2011 年（平成 23 年）3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震により、旧貯蔵庫は煉瓦造の躯体に亀裂が入るなどの被害が生じた。そのため同年 12 月から、国、茨城県、牛久市の補助を受けて、総額約 15 億円の災害復旧工事に着手している²⁴²。そして 2016 年（平

成 28 年)に工事を完了した²⁴³。天井のない空間であることから、土間下に地中梁を設置し、また、鉄骨柱を壁際に設置して煉瓦壁を支えた。この鉄骨に照明を併設することにより、構造補強が内部意匠となるようしている^{244、245}。

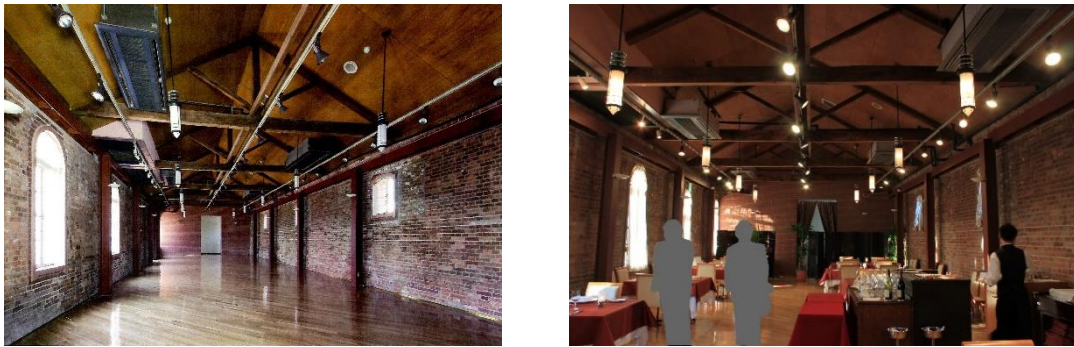


図 1 - 5 6 災害復旧工事竣工後²⁴⁶とレストラン利用時の内観²⁴⁷

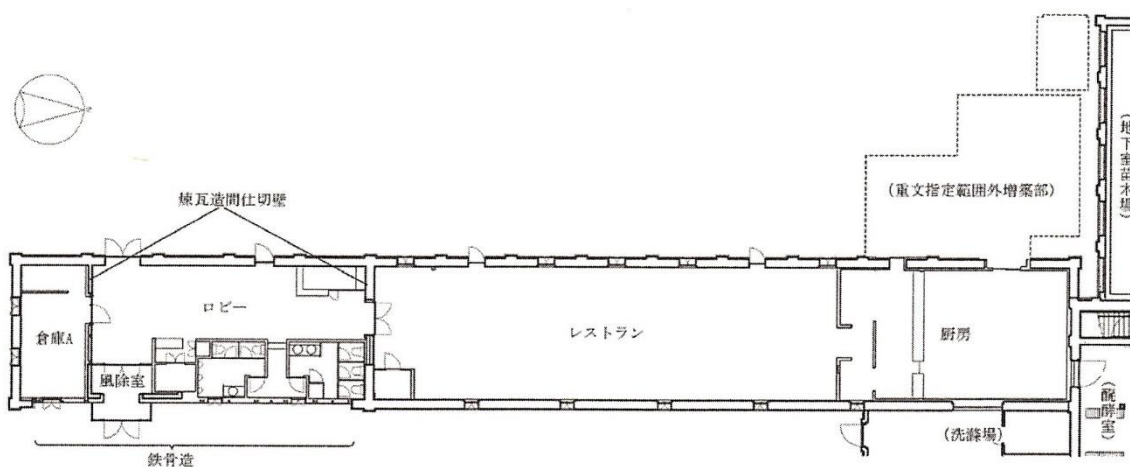


図 1 - 5 7 旧貯蔵庫の現在の平面図²⁴⁸

2018 年（平成 30 年）12 月、所有者のオエノンホールディングス株式会社は、連結子会社である合同酒精株式会社の牛久シャトーにおける飲食・物販事業から撤退している。理由として、外食産業の収益改善が困難であったことを挙げている²⁴⁹。牛久シャトーは年間約 40 万人が訪れる観光地であり、重要文化財に指定されている旧貯蔵庫を含めた 3 棟について、「今後、施設の活用法を検討していきたい」と言及していた²⁵⁰。その後、2019 年（令和元年）7 月にオエノンホールディングス株式会社は、牛久市と施設賃借の基本合意を形成した。

年間運営費は施設賃料 5544 万円を含めて 4 億 7692 万円という市の試算があり、市は 9500 万円を出資する方針を発表していた²⁵¹。牛久市は第三セクターを設立して事業を再開することとし、旧貯蔵庫の飲食店は直営とすることを決定した²⁵²。そして、資本金の 99.8% が牛久市による出資からなる株式会社、牛久シャトー株式会社²⁵³が 2020 年（令和 2 年）1 月に設立されている。

その後、2020 年（令和 2 年）6 月に、旧貯蔵庫は約 1 年半の閉鎖を乗り越えてレストラン営業が再開された。また同年、日本遺産「日本ワイン 140 年史～国産ブドウで醸造する和文化の結晶～」に認定されている。赤字が出ても市は補填しない考えとされ、また COVID-19 対応のために客席数を減らして運営するなど、収支の見通しが厳しいことに言及されていた²⁵⁴。その状況下で牛久シャトー株式会社は、ワイナリーとブルワリーの再開を目指し、園内の活用のためのクラウドファンディングを 2020 年（令和 2 年）12 月 24 日に開始した。2021 年（令和 3 年）3 月 12 日の終了日までに、1,431 人の支援者から約 2,200 万円を集めている²⁵⁵。支援者の多い返礼品として、385 人が募った 10,000 円リターン品の平日限定「牛久シャトーレストランでのお食事券 11,000 円分!!」、また限定 300 名の支援者の集まった 10,000 円リターン品の「牛久シャトー限定 プレミアム共通商品券 12,000 円分!!」が挙げられる²⁵⁶。さらに高額支援としては、70 万円支援の企業団体向けのリターン品である、「国指定重要文化財（旧貯蔵庫）のレストランにて、シェフ特別メニューでのレストラン貸切 50 名『パーティープラン（正餐）』1 回の実施券」（支援者 1 名）が挙げられる²⁵⁷。これらから、旧貯蔵庫レストランのリターン品としての人気とともに、運営の資金調達に苦労が伺える。

1-3-3. 代表的な転用事例にみられる共通点

欧米の代表的な転用事例からは、多額の公共投資による事業費の捻出や、また計画にあたって地元住民との協働を組み込んだ競技設計、市や州、国に収まらない欧州としての事業としての認定がみられた。用途の選択において、経済性を持つ用途も重要視されるなど、複数建築物にて多様な用途による活用が行われていた。さらに産業に関する博物館では、産業の展示と同時に人々の暮らしにも重点が置かれていた。

日本の事例では、博物館といった産業に関する展示や見学施設としての活用が主となっていた。所有者は大企業や譲渡された自治体で、市や県、国からの補助の元、文化財の専門家らによって、慎重に価値や改修内容が検討されていることがわかった。

1-4. 産業遺産の特徴や分類と消失の理由

1-4-1. 特徴

産業遺産の特徴として、「多種多様な施設が存在して、それらが織りなすシステムとして存在するところに最大の魅力がある」²⁵⁸と言われる。これに象徴されるように、まず施設の種類の豊富で、それらが組み合わさったシステムを有する点に言及されることが多い。他にも、「各建造物がそれぞれ専門分化された機能を果たしながら、それらが組み合わさった複雑なシステムとして巨大な産業施設を構成し、地域の歴史や人々の生活と密接に結び付いてきたこと」²⁵⁹と、周囲との関係性も言及される。また建造物の特徴として、「大規模構造物」²⁶⁰、「多種多様な素材や工法を使い、それらが渾然一体となって一つの建造物を構成し、しかも大規模構造物が多い」²⁶¹と述べられている。さらに、「広大な敷地内に工場や事務所

などの中枢施設と合わせて、発電施設、上下水施設、運輸施設など多種多様な施設として存在し、各建造物が広大な構内に散在することが多い」²⁶²と、建造物を有する敷地の規模にも言及されることがある。

産業遺産の価値に関する言及として、「産業に係る近代化遺産の価値は、よく言われるようにその姿形の意匠性に、必ずしもあるのではなく、モノの生産や加工を達成するためのシステムにあるのであろう」²⁶³、「エネルギー源の調達、動力機構、生産機械技術、製品移動、貯蔵など、さらには生産者の処遇対応など、残された建造物はそういった生産システムの受け皿（覆屋）となったもので、その存在の意義やその場所に立地する必然性、その形になった理由、造られ方などに意味がある」²⁶⁴、「産業建造物は、それぞれ専用の目的をもって建設され、内部に備えられた機械設備や周囲の環境と一体となっはじめてその役割を果たすものであり、これらの総合的な保護をはかることが遺産を理解するうえで欠かせない」²⁶⁵と、生産という目的を果たすためのシステム自体に価値を見出す記述がある。また、技術の更新に伴って施設が更新されるという点について、「遺産の最大の価値を、現役なら稼働中の現状に、すでに引退後なら稼働停止時に置く場合が少なくない」²⁶⁶とも言われている。

他の寺社仏閣のような文化財に比べると、「新たな用途に再生される例が増大」²⁶⁷するという言及もみられ、新たな用途を見つけ出すことで消失を免れる可能性が考えられる。しかし、新たな用途を持つ際に「大きな問題として抱えているのが耐震対策」²⁶⁸であり、「いずれの用途に供するにしても、もとの状態のままで用いることは困難な場合が多くある」²⁶⁹。そのため、「場合によっては、『何を遺すか・何を捨てざるをえないか』の判断」²⁷⁰が必要となることについて指摘されている。

保存・活用に関して、「広大な敷地内に散在する産業建造物については、当面可能なところから個別に対処することで、保存の道を探っているのが現実である」²⁷¹と、複数の物件を同時に対処することが困難だと指摘されている。さらに、「対象が広く建築・土木の分野に広がり、また、その施設の設備の装置が伴う場合が多く、それら全体が各時代の新技術によって構成されているところから、多岐にわたる専門分野の関与がそれぞれに必要とされることである」²⁷²と、多種多様であるが故の課題についても指摘されている。そして、建築・土木を含めた場合には「大企業や公共団体」といった所有について、さらに「巨大で広範囲に及ぶ物件も少なくなく」²⁷³と規模や範囲についても言及されている。これは、「1－2－3.（2）日本における代表的な転用事例」にて挙げた旧小坂鉦山事務所において、鉦山という広大な稼働中の企業敷地内では、公共施設として公開することができないために移築が選択されたことに表れている。

1－4－2. 分類

多種多様さが特徴である産業遺産の分類方法は未だ定まっておらず、主体ごとに異なる分類を用いている。産業考古学創設期には、イギリスにおける産業記念物の分類は、「動力、農業と農機具、繊維、採鉦冶金、化学（とくにセラミックとガラス）、運輸（道路と運河）、

同（鉄道と船舶）、公衆サービスと施設、社会考古学」²⁷⁴であった。世界遺産の産業遺産を分析する研究²⁷⁵では、分類法にアメリカの現代の産業分類を用いている。また、ERIH のヨーロッパテーマルートでは、Application of Power、Communication、Housing and Architecture、Industry and War、Iron and Steel、Industrial Landscapes、Mining、Paper、Production & Manufacturing、Salt、Service and Leisure Industry、Textiles、Transport、Water の 14 テーマが設定されている。

産業考古学会が監修した産業遺産に関する書籍²⁷⁶では、「農林水産、鉱山、石炭・石油、鉄鋼・金属、伝統技術」、「風・水車、原動機、工作機械、電力、電気・通信、応用化学・醸造、精密・産業機械」、「繊維、鉄道、自動車、船舶、航空機、橋・灯台、用水・ダム・土木」と産業・用途別に分けている。また、産業考古学会の分科会は、「理論・情報」、「航空」、「鉱山金属」、「産業建築物」、「映像記録」、「鉄道」、「電気と機械」、「繊維」、「自動車」、「農業」、「治水・用水」、「木工」、「水車と臼」、「船」と産業種別や対象別となっている。

近代化遺産（建造物等）総合調査の報告書は、都道府県によって細かい区分は異なるものの、基本的に産業種別に基づいた分類が用いられている。

重要文化財では、近代化遺産は「近代／産業・交通・土木」に便宜上該当し分類されているが、これ以上の細分した区分はない。そのため、例えば鉱山の外国人技術者の宿舎と開門が並列されるように、不動産の構造物に限られているものの建築物と土木構造物が混在している。

登録文化財は、種別 1 と種別 2 の項目により分類されている。種別 1 では「産業 1 次、産業 2 次、産業 3 次、交通、官公庁舎、学校、生活関連、文化福祉、住宅、宗教、治山治水、その他」の用途別の 12 区分に、種別 2 では構造体の種類が「建築物、その他工作物、土木構造物」の 3 区分に分けられる。そのため、産業遺産が含まれる区分としては、種別 1 の産業 1 次、産業 2 次、産業 3 次、治山治水が主に挙げられ、これらの他にも生活や文化施設などに含まれている場合もある。また、種別 2 ではどの区分にも産業遺産は分類されうる。どの種別に分類されるかは、各自治体の担当者に因るところである。

近代化産業遺産の分類は、まず「産業」と「その他」に大別し、産業の中を産業区分により分ける方法をとっている。産業はさらに 7 つ、「鉱業、エネルギー業（鉱業を除く）、重工業、軽工業、交通運輸・通信・土木、商業・金融業、農林水産業」に分けられている。

近代化遺産と近代化産業遺産を網羅的に扱う研究²⁷⁷では、産業区分として産業大分類、中分類、小分類の 3 段階で整理している。大分類として 6 区分、「産業、交通、土木、建築、軍事施設、その他」、産業中分類として 6 区分、「第一次産業、鉱業、醸造業、繊維業、その他二次産業、第三次産業」、産業小分類として 29 区分、「農業、林業、水産業、一次その他、鉱業、醸造業、繊維業、窯業、重化学工業、二次その他、三次、鉄道、道路、水運、通信、交通その他、エネルギー、水道、防災、土木その他、教育、宗教、文化、行政、医療、住宅、建築その他、軍事施設、その他」を設けている。

また書籍では、平井ら²⁷⁸は、産業遺産の分類として、「①有形/無形、②不動産/動産、③

産業業種、④機能、⑤遺跡・遺構・遺物、⑥戦跡、⑦景観」を挙げている。

日本において産業遺産を分類する際は、産業種別や形態など各々が設けている一方で、産業種別を用いる場合が比較的多いと言える。

以上より、まず産業遺産の特徴としては多種多様であること、それらが複合的に合わさってシステムを有することが挙げられ、その中の建造物の特徴として、機能を果たすための形であること、規模が大きいこと、構造が多様であることが挙げられる。また、その保存・活用には他の用途で用いられる場合が多いことや、その際の課題としての耐震性能について指摘されている。そして分類は、産業種別を用いる場合が多くみられるものの、評価主体それぞれ独自の分類を用いている現状が整理された。

1-4-3. 消失の理由

産業遺産が消失する原因として、「建造物としての寿命ではなく、時代が求める機能に合わなくなった、安全基準を満たさなくなった、あるいは使用目的を失った」²⁷⁹という言及があり、元来の用途を失うことが大きいと言える。

近代化産業遺産の認定を受けた石炭産業に関する施設（88 件）の現状を把握した研究²⁸⁰では、認定を受けた後も放置されている遺産が 27%、1%が認定後に解体されたことが明らかにされている。更に、不使用率の高い地域では、障害要因として市に保存・活用の為の資金がなかったことや、閉山の影響を受けた世代の否定的な態度が挙げられている²⁸¹。兵庫県にある尼崎紡績の事務所として建てられた煉瓦造 2 階建のユニチカ記念館は、近代化産業遺産の認定を受けている。しかし、老朽化に伴う耐震化工事など、多額の修繕費を理由に現在解体が検討されている²⁸²。民間施設であるため、市は保存に対して難色を示しており、そこで県が動きユニチカ側は解体方針を検討し直すなど、解体と保存の狭間を揺れ動いている²⁸³。

九州地方における近代の産業遺産の解体理由を把握した研究²⁸⁴は、広い敷地を有するために土地の高度利用が求められ解体撤去されてマンションや複合型商業施設となる場合や、空き家となって老朽化の進む建物に対して防犯やイメージ向上のために解体して未利用地となる場合があると報告している。

大牟田・荒尾地域における鉱業の近代化遺産は、企業グループが不動産を所有していたが、事業撤退により不動産が遊休化され処分されることとなった。すると、地域商工業団体やインターネット上の地域出身者の集まりから NPO 法人が派生し、遺産の保存・活用運動が発生した²⁸⁵。その結果、自治体が国の文化財保護政策や産炭地域振興施策に基づく財政面での援助を受けて企業から不動産を買い取り、保存・活用へと繋がった²⁸⁶。一方、新潟県にある油田では、企業が閉山と油田採掘用の機材の撤去を決定したところ、地域住民が保存運動を始めた。しかし、企業側・住民側双方の資金不足から、一部遺構と記念碑の移設を行い他は写真保存という手段が選ばれ解体となった²⁸⁷。

京都市の近代化遺産に関して、1997 年（平成 9 年）の近代化遺産総合調査から 2006 年

(平成 18 年)の間に、約 400 件が解体・改築されたことが明らかにされている²⁸⁸。所有権の転移や、居住者の世代交代、建物の老朽化といった理由が挙げられている²⁸⁹。

愛知県一宮市にあった 5 連のノコギリ屋根を有する毛織工場は、操業停止後も所有者が個人的に修繕を続けていた。しかし、2018 年(平成 30 年)9 月に受けた台風被害をきっかけに建物の維持が断念された²⁹⁰。内部の機械や用具は譲渡された後、12 月には工場の解体へと至った²⁹¹。工場内部の機械や用具は、転用事例においても使用者から「大事なのはわかるが、どのように扱ったらよいかわからない」といった声も聞かれる²⁹²。産業遺産の特徴である、多分野にかけての専門家の協力は、所有者にとって手の届きにくい部分であることがわかる。

以上に見られるように、解体に至った産業遺産には、操業停止を契機として用途を失うこと、その後も用途が見つからずに建物維持の負担が大きくなること、そしてその状況下で老朽化が進む建物という点が所有者への負担として大きいことが現れている。

1-5. 研究の対象

1-5-1. 研究の視点と仮説

遺産として認知が広まりつつある産業遺産ではあるが、一方で用途を失って所有者へ負担となり、価値を認識されながらも解体に至る事例が後を絶たない。

世界や日本の代表的な産業遺産の転用事例からは、大規模な公的資金の投入や、遺産の価値や改修設計に関する多様な専門家の協働がみられた。また所有者も、地方自治体や大企業と大規模な事業が可能で、継承に対するサポートが整っていることがわかった。また、日本の重要文化財の例からは、博物館といった見学施設への転用が多いことがわかった。

一方で消失する産業遺産からは、操業停止後に新たな用途を得ることなく放置され、老朽化や維持費を理由に解体される物件の多さがみえてきた。解体へ至る流れからは、所有者が苦勞しながら、解体の選択しか残っていない状況に辿り着く様子が伺える。現在、このように解体と継承の狭間にある産業遺産が数多くあることが予想される。用途がないことが消失に繋がることから、新たな用途を得ることは、消失を免れる一つの手段といえる。そして用途は展示以外にも、経済面を踏まえることが重要で今後必要となると考えた。

産業遺産の保存・活用の主体は 1990 年以降多様になったと、産業遺産の観光資源化プロセスに関する研究²⁹³は述べている。多様な主体として、NPO 法人や住民組織、地方自治体、レジャー施設の運営主体を挙げている²⁹⁴。また、近代化産業遺産の約 6 割が、企業または個人の所有という調査結果²⁹⁵も報告されている。更には、所有者と活用の多様な組み合わせを工夫することが今後の課題と指摘された²⁹⁶。これらを踏まえると、地方自治体や大企業以外の所有者も、今後の産業遺産の継承に一層重要となると考える。

ヨーロッパでは、産業遺産のネットワーク化が見られた。日本では、「全国近代化遺産

活用連絡協議会」という組織があり、工部省の設立日である10月20日を「近代化遺産の日」として、毎年一斉公開やイベントを行っている。加盟団体をみると公共団体が中心と言える²⁹⁷。そして、遺産の所有者たちのネットワークとして、「国登録有形文化財全国所有者の会（全国登文会）」が挙げられる。登録文化財の所有者同士の情報交換を進めるべく設立されており、所有者たちが情報を求めている現状が伺える。

用途を終えた産業遺産について、「文化財の種別ごとにみると、近世までの伝統建築は、現役で用いられる以外は博物館的な施設や一般公開に供されることが多い。しかし、近代に類する学校、文化施設、官公庁舎、商業・業務施設などの近代洋風建築や、同じく産業・交通・土木施設として掲げられている近代化遺産になると、新たな用途に再生される例が増大する」²⁹⁸というように、転用が保存・活用的手段として大きいことが述べられる。しかし、活用を目指す自治体の共通の悩みの一つとしてどのような活用を行うか、という点が挙げられており²⁹⁹、また事業として経済性を確保する必要性も指摘されている^{300、301}。経済性については、旧小坂鉦山事務所やシャトーカミヤ旧醸造場でも課題として挙げられた。新たな用途にする際、代表的な転用事例で見られたような綿密な検討を経た計画や専門家との協働は、民間や個人の所有者にとっては特にハードルが高いと言える。

今後、幅広い産業遺産が一件でも多く解体を免れ、その手段として転用を考える際に、多様な所有者に活用の幅を示すことが重要だと考える。また、公開施設は多くの人々の目に触れることで遺産としての認知が高まる一方で、経済性の確保が困難とも言える。そこで見学用途以外の、例えば販売店や飲食店と言った経済面を踏まえることも必要な視点だと考えた。

以上の状況を踏まえて、今後、新たな用途選択時に参考となるような転用に繋がる基礎的情報について、事例が蓄積された今、定量分析から得ることが可能になると考えた。そこで、転用が実現された産業遺産の建築物と新たな用途には関係があるという仮説の元、不動産として評価される物理的要素を用いて定量的に転用を扱うことにより、この関係を明らかにすることを主軸とした。

しかし、転用時の用途には所有者の意向が反映されていること、さらに定量的に扱える範囲が限られていることを踏まえると、実際の事例と併せてみるのが必須である。よって、実際の転用事例をみることで、不動産としての評価項目以外の定量化されなかった要因、つまり転用に繋がる所有者の意向や工夫について把握する。また、「遺産としての意義を市民が理解する状況を生み出さなければ、価値を保つ健全な存続はあり得ない」³⁰²という指摘もされているように、転用の内容も検討する必要がある。そこで、産業遺産の特徴と転用事例の比較検討を行うべく、同一エリアにある同一タイプの建築物転用群を対象とすることで、転用の考察を行うこととした。

定量的に扱うにあたり、公共団体以外の多様な主体も含み、また用途として見学施設以外も多様に含んだ、活用を重視した文化財制度である登録文化財³⁰³の枠組みを扱うことが適切だと考えた。所有者が主体となった活用の事例を含んでおり、保存の側面も併せ持ち

つつ、かつ、消失の最前線に面しているとも言える。登録文化財は内部の改造が自由で、外観の改造も四分の一まで自由、建築年代の下限は建築後 50 年と、所有者の自主的な活用と保存を促すような緩やかな文化財の保護制度とも言われている³⁰⁴。今後、より必要とされる所有者による活用に関して、現状から得られることが大きいと考えた。

1-5-2. 本研究における産業遺産の定義

本研究は、産業遺産の建築物という、生産工程上明確な役割を持つ建築物を対象としている。用途を失った後、新たな用途を得ることで解体を免れ、地域の歴史を語るべく継承されていくことを目標とし、新たな用途と建築物の物理的要素に関連があるという仮説の基、転用に繋がる要因を明らかにすることを主題としている。

産業遺産の中に伝統産業や従来産業を含めるかどうか、先述のように議論がある中で、本研究では近代化がゆるやかに起きていることに着目したい。「近代化は、なにも明治維新を機にして急に始まったわけではありません。江戸時代を通じて育まれた手工業等の産業や土地開発など連続するものも多くあることは見過ごせない事柄」³⁰⁵とあるように、地域における近代化の過程で、従来からあったものをベースに効率化や技術更新が行われている点は、遺産の保存・活用の際に建物の背景として必要な情報だと考える。

また、近代化遺産といって思い浮かべる遺産の中に、いわゆる官営の模範工場のような西洋からの影響を直接的に反映している「官の系譜」と、一見してはわかりづらいが当時の人々の営みや生業をより具体的に反映している「民の系譜」が含まれているという指摘³⁰⁶もあるように、特に「民の系譜」においては従来産業との繋がりが強いと言える。

「遺産としての意義を市民が理解する状況を生み出さなければ、価値を保つ健全な存続はあり得ない」³⁰⁷という観点について、近代化遺産の公開活用方針として、生産過程に沿った見学ルートが採用されることがある³⁰⁸。ある製品をつくるための工程を有するという点は、近代化の前後にかかわらず、産業という営みや生業にかかわる遺産の特徴と言える。

以上を踏まえ、また本研究の注目するところは、他と連携しながら明確な機能のために建てられた建築物を、元来と異なる用途に用いる際の用途と建築物との関係やその継承のためにはという点であることから、「産業遺産」の指す範囲を近代化以降に限定しないこととする。

さらに本研究は、特に建築物を分析対象としている。産業遺産の分類は産業別に行うことが多く慣例ともいえるが、本研究では、新たな用途と建築物の物理的な条件を扱うに際して、産業種別ではなく建築物や敷地、立地といった物理的な条件から導き出した項目を用いて分析を行うこととする。

1-6. 既往研究のまとめと本研究の位置付け

産業遺産の転用に関連する既往研究について、「産業遺産の保存・活用」、「歴史的建造物や既存建築物の転用」、「転用可能性」に分けて以下に整理する。

まず産業遺産の保存・活用について、全体を捉えるべく、近代化遺産と近代化産業遺産についてデータベース化を行い、独自の分類である産業種別をもとに比較した研究³⁰⁹がある。近代化遺産は比較的多種多様な産業で構成されるのに対し、近代化産業遺産は特定の産業と地域が多いことについて明らかにした。ただし、これは資源の洗い出しともいえる近代化遺産の一覧と、ストーリーによってまとめられている近代化産業遺産を対象に行っており、産業遺産の保存・活用状況の全体的な把握とはいえない。また、近代化産業遺産の転用を通じた活用手法について、従前用途、従後用途、所有者（公共・民間）、文化財指定状況を把握した上で倉敷アイビースクエアを抽出し、改修時の担当者のヒアリングや平面図の変遷を追い、町との共存をはかるという所有者の理念が時代によって求められる役割を果たしたことで、活用を継続できていることを明らかにした事例研究³¹⁰がある。他にも、所有者と保存・活用プロセスに着目して、保存活用事業の促進要因や関係者間の合意形成における事業主体の役割、また周辺居住住民の意識調査からの保存・活用事業に対する評価を論じた研究³¹¹がある。また、複数の住民が市民セクターを設立して歴史的建築物を取得し、転用を行った事例を対象にして活用プロセスを明らかにした研究³¹²、地方における小規模な近代化遺産を活用した観光振興の現状や可能性について論じ、地元の工夫なくしては観光客の滞在時間を延ばすことが出来ないことを確認した研究³¹³など、事例研究が蓄積されている。登録文化財に関しては、登録数の比較的多い近畿4府県の登録文化財を対象に網羅的に把握し、木造平屋の住宅が多いことなど建築年や使われ方の傾向を示した研究³¹⁴がある。しかし、文化財保護の枠組みを用いて産業遺産の保存・活用について論じるとともに現況を全国的に扱った研究は確認できず、事例が増えた今、産業遺産の保存・活用状況から基礎的知見を得る必要があるといえる。

歴史的建造物や既存建築物の転用を扱う研究では、廃校の延床面積や階数といった物理的な条件と新しい用途や改修された箇所について調査を行い、元の建築物の特徴や用途の面から改修時の類型化を行っている研究³¹⁵がある。また、改修時に影響を受ける法規から構造や計画を分類した研究³¹⁶など、転用時に行う改修の計画に関する研究が多く見られる。一方、転用時の用途と建築物の関係に焦点をあてた研究では、イタリアのミラノ市における市所有の産業遺産を含めた歴史的建造物を対象に、かつての城壁による区分で立地性を、そして容積率と用途についてクロス集計を行うことで、中心部では観光客をはじめとした広範囲からの利用者を対象に展示施設や市の中央管理系の事務所へ転用されているのに対し、中心部から離れるにつれて地区住民を対象とした業務施設や教育施設等へ転用される傾向があることを明らかにした研究³¹⁷がある。また、新建築に掲載されたコンバージョン事例を対象にした研究³¹⁸は、立地及び建物の特徴を最大限活かすことのできる用途とする視点や、地域の要望や需要を汲み上げ地域活性化へと貢献できる用途とする視点が重要だと指摘した。これは、旧生産施設や倉庫が含まれるものの計29件と限られた事例であることを留意する必要がある。以上のように、産業遺産の建築物の転用事例が一部に含まれている研究はみられるものの、産業遺産の建築物を取り上げて体系的に扱った研究も多くはみられず、ま

た定量的に扱う研究も既往研究にみられない。

転用の可能性について、物理的な条件という視点を持って論じる研究をまとめる。水田の転用可能性を分析する際に、目的変数（被説明変数）を「転用された水田」、説明変数を、制度面での要因として「区域区分（大規模既存集落、市街化調整区域、市街化区域）」、災害危険性の要因として「予測津波浸水深（2m 以下、2m 以上、津波なし）」、「洪水浸水深（2m 以下、2m 以上、浸水なし）」、利便性の要因として「駅、小学校、幹線道路、スーパーマーケットからの距離」として、今後転用が進む水田の位置を明らかにしている研究³¹⁹がある。また、空き家の福祉施設への転用可能性を論じた研究³²⁰では、福祉転用の需要への意識をアンケート調査、空き家の実態として実測等を行いデータベース化し、建築物の要素として玄関までの距離と高さからアクセス勾配、庭・駐車場の有無の 6 段階を設けて分析を行っている。その結果、空き家転用の際、法制度上の最も重要な項目は面積であることを指摘している。また小規模オフィスビルの転用可能性評価について論じる研究³²¹では、採光を重要視し接道パターンといった立地条件や敷地条件を考慮し、階別に異なる採光条件を考慮したモデルを提案して、条件別に成立可能な住戸分割プランの傾向について明らかにしている。このように、建築物の用途について、研究ごとに異なる項目や指標が用いられている。しかし、従来の文化財との違いが既に指摘されている産業遺産の建築物を対象に、転用可能性について建築物の条件とその用途の関係について扱う研究はみられない。

以上の既往研究から産業遺産の転用に関連するものとして、近代化遺産や近代化産業遺産を網羅的に把握した上での政策面での相違や、転用の経緯についてのケーススタディ、特定の既存建築物種の転用可能性の分析法が明らかにされているが、保存・活用状態を網羅的に把握した上で転用時の新たな用途と産業遺産の建築物の条件の関係を扱った研究は見られない。本研究は、保存・活用状況を網羅的に明らかにし、定量的に転用時の新たな用途と建築物の持つ条件との関係を分析した上で転用の要因を把握することで、所有者や事業者に対し、今後より一層の展開が望まれる産業遺産の転用による保存・活用に向けた基礎的情報を提供することを展望として持つ。

1-7. 論文の構成

産業遺産の転用に繋がる要因を把握するにあたり、転用事例の把握、物理的要素の要因、定量化されなかった要因を対象とする段階を設けた。まず、全国的な産業遺産の保存・活用状況について登録文化財の枠組みを用いて明らかにし、同時に転用事例を網羅的に把握した。その際、転用事例群として抽出された、同一地域にある同一タイプ建築物の転用についても把握した。次に転用の要因のうち、物理的要素を把握した。所有者別に、用途と建築物の関係について、建築物の不動産としての評価項目を設定することで、数量化Ⅱ類を用いて定量的に明らかにした。続いて、転用に繋がる定量化されなかった要因について、実際の転用事例をみることで把握した。また、転用が保存・活用に繋がっているか、同一地域にある同一タイプの産業遺産の転用群を対象に考察した。

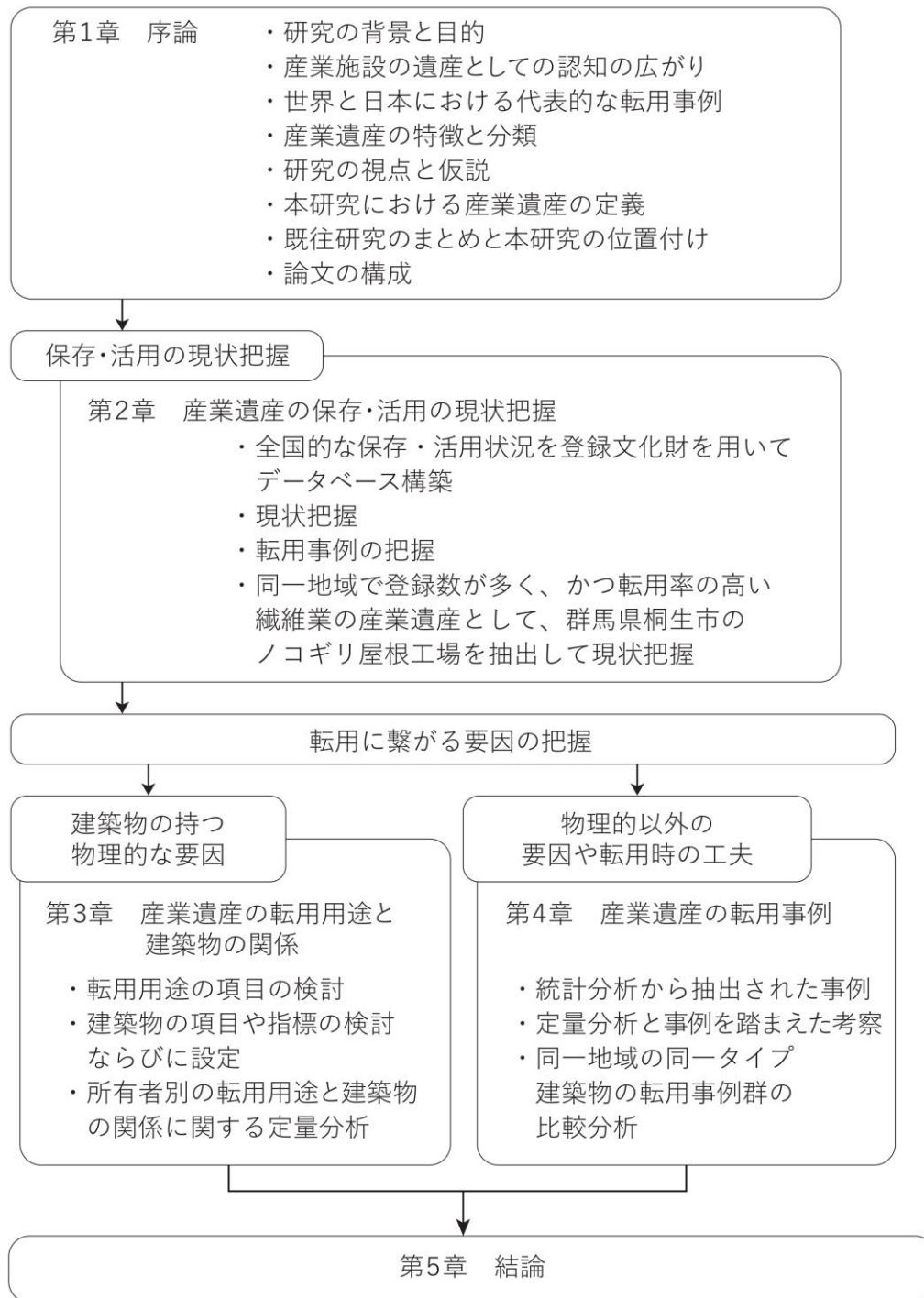


図1-58 論文の構成

次の5章で構成されている。

第1章は序論として、研究の背景や目的を述べ、産業遺産の概念の成立から変遷を整理している。また、代表的な産業遺産の転用事例を概観した。世界的に早い段階から遺産として認知され博物館化されたイギリスの産業遺産や、大規模な産業跡地のドイツの再開発事業、

またアメリカの紡績工場街の再開発を紹介した。そして、日本における代表的な転用事例として、保存と活用の両側面を併せ持つ重要文化財をみた。また、産業遺産の特徴や分類、消失の理由を把握した。これらを受けて、本研究の視点を定めるとともに、主題となる転用時の新たな用途と建築物には関係があるという仮説を設定した。また、仮説を検討するため、本研究における産業遺産の定義を検討した。続いて、関連する既往研究をまとめて本研究の位置付けを行い、論文全体の構成について述べている。

第2章では、産業遺産の保存・活用状況について全国的に把握する。多様な転用事例を把握すべく、公共団体以外にも様々な所有者による活用事例が含まれる登録文化財の枠組みを用いた。登録文化財は、文化庁が公表する国指定文化財等データベース³²²にて建築諸元といった基礎情報が公開されている。生産工程という点から産業1次・産業2次に分類された建築物を対象に抽出し、データベースを構築した。そして、産業種別、物理的要素、活用状況の面から整理した。また、その中から同一地域に転用率高い繊維業の登録数が多くあることがわかり、中でも同一タイプ建築物の転用群に着目した。そこで同一地域の同一建築物タイプの産業遺産という面からも、保存・活用状況を把握した。

第3章では、転用に繋がる物理的な要因に着目し、新たな用途と産業遺産の建築物の持つ条件との関係性を把握した。まず、第2章で明らかになった同一地域にある同一タイプ建築物の転用群において、現役稼働工場との比較により所有者、用途、建築諸元、立地条件などの関係を考察した。新たな用途との関連項目として、まず所有者属性別に考えること、面積や駅との距離などが示唆された。続いて、第2章で把握した登録文化財の産業遺産の転用事例278件を対象に、分析項目の設定を行った。所有者別に用途と関連する建築物の不動産としての評価項目について、既往研究や転用事例を参考にしながら設定を行った。そして所有者属性別に用途を、営利法人所有は営利活動の有無、公共団体、個人・グループ所有は公開状況を主に設定した。設定した指標を用いて、新たな用途と建築物のもつ物理的要素との関係について、数量化Ⅱ類による定量分析を行った。

第4章では、実際の転用事例をみることで、定量分析で把握した物理的要素以外の転用に繋がる要素や転用時の工夫について把握した。さらに、転用が保存・活用に資するためにはどのような考え方が重要か、考察を行った。産業の特徴が転用を通して保存・活用に繋がっているか、特徴と転用事例を比較した。比較のため、第2章にて得た、共通した背景を持ち改修のベースとなる建築物も同一タイプの転用事例群を対象とした。地場産業の織物業の継承という目線から、産業の歴史や特徴から導いたノコギリ屋根工場を表す物理的な項目を設定した。これらに即して、転用前後の保持状況を比較して転用の現状評価を行い、転用を通して継承されている点と失われる可能性がある点について指摘している。

第5章では、本論文のまとめとして得られた知見を整理し、今後の産業遺産の転用による継承に関する基礎的要件をまとめている。

補注及び参考文献

¹ 本研究にて用いる「産業遺産」とは、文化庁の定める近代化遺産や、経済産業省の定める近代化産業遺産、ならびに地域において価値を見出されている産業施設や関連する人、ものの全体を指しており、近代化以降に限定したものではない。本研究では特に建築物の転用を扱うため、産業遺産の建築物と述べている。第1章 1-5-2. にて研究対象の定義を行った。

² 文化庁は近代化遺産を、「幕末から第二次世界大戦期までの間に、近代的手法によって建設され、我が国の近代化に貢献した産業、交通、土木に関する遺産」と定義している。

³ 近代化産業遺産は、経済産業省が2007年に「産業近代化の過程を物語る、建築物、機会、文書」として全国にわたりストーリーを認定した。

⁴ 清水慶一：建物の見方・しらべ方 近代産業遺産，日本産業遺産研究会＋文化庁歴史的景観建造物調査研究会，ぎょうせい，東京，1998年：3

⁵ 47NEWS：藤村製糸跡 大半解体へ 維持費が重荷に，高知のニュース，
<http://www.47news.jp/localnews/kochi/2013/09/post_20130929155341.html>，2013年9月29日更新，2020年アクセス時消失を確認。

⁶ きたかんナビ：旧本間酒造（前橋）で野菜販売 国の登録有形文化財 「空き家」を交流拠点に，<<http://kitakan-navi.jp/archives/29966>>，2018年6月23日最終更新，2020年4月1日アクセス

⁷ 丁野朗：近代化産業遺産をどう活かすか，月刊文化財 第443号，pp.10-16，2000年8月：15

⁸ 森嶋俊行：近代化産業遺産の保存と活用に関する政策的対応の比較，E-journal GEO 9 (2)，pp.102-117，2014年

⁹ 文化庁：月刊文化財 No.619，2015年4月

¹⁰ 一般社団法人共同通信社：歴史的な建物守り生かす会を設立，<<https://rd.kyodo-d.info/np/2019062201002330?c=39546741839462401>>，2019年6月22日最終更新，2020年4月1日アクセス

¹¹ 転用を行った所有者への筆者聞き取り調査（2015年10月、11月、12月、2017年5月）から。

¹² Neil Cossons：Why preserve the industrial heritage?，INDUSTRIAL HERITAGE RE-TOOLED，The TICCIH guide to Industrial Heritage Conservation，pp.6-16，2012

¹³ ROYAL COLLECTION TRUST：Manchester from Kersal Moor，
<<https://www.rct.uk/collection/920223/manchester-from-kersal-moor>>，2021年9月15日最終アクセス。より取得

¹⁴ イギリスの文化財保護制度で、国の指定文化財に該当する古代遺跡（ancient monuments）の制定法上の保護を受けている。

- ¹⁵ 並川宏彦：産業考古学・産業遺産について，桃山学院大学総合研究所紀要，第40巻第1号，pp.169-186，2014年8月：170
- ¹⁶ 並川：2014，前掲書：170
- ¹⁷ 森嶋俊行：現代日本における産業遺産の保存と活用，地理 61-7，pp.24-31，2016年7月
- ¹⁸ 種田明：産業遺産研究・産業考古学の国際的な展開と課題—国際産業遺産保存会議（TICCIH）の沿革と日本—，桃山学院大学経済経営論集 39(2)，pp.49-61，1997年12月：51
- ¹⁹ 種田：1997，前掲書
- ²⁰ 斎藤英俊：近代の産業遺産の保存と活用，ヨーロッパ諸国の文化財保護制度と活用事例 [ドイツ編]，pp.95-128，2003年
- ²¹ Michael Falser：Is Industrial Heritage under-represented on the World Heritage List?, Global Strategy Studies, Industrial Heritage Analysis, World Heritage List and Tentative List, UNESCO World Heritage Centre Asia-Pacific Region Minja Yang, 2001
- ²² 筆者撮影（2015年8月）、ならびにツアー体験（2015年8月）より
- ²³ 種田：1997，前掲書
- ²⁴ 斎藤：2003，前掲書：97
- ²⁵ Internationale Bau-ausstellung の略で、「国際建築展覧会」と翻訳される
- ²⁶ 川副早央里：ドイツにおける炭鉱跡地の活用と地域存続の戦略 世界遺産ツォルフェライン炭鉱の事例から，早稲田大学大学院社会学紀要論文 ソシオロジカル・ペーパーズ第26号，pp.31-42，2017年3月：33
- ²⁷ 永松栄，澤田誠二：IBA エムシャーパークの地域再生 「成長しない時代」のサステイナブルなデザイン，水曜社，2006年10月1日
- ²⁸ 永松，澤田：前掲書：pp.58-59 の図100 より
- ²⁹ 筆者撮影（2015年7月）
- ³⁰ TICCIH（The International Committee for the Conservation of the Industrial Heritage）が2003年に採択したニジニータギル憲章にて「歴史的、技術的、社会的、建築学的、あるいは科学的価値のある産業文化の遺物からなる」と定義している。宇野いつ子訳を用いた。
< http://tree-ct.sakura.ne.jp/messena/ACADEMIA/JIAS/NIZHNY_T_charter.html >,
2017年12月19日アクセス
- ³¹ ニジニータギル憲章（宇野いつ子訳），< http://tree-ct.sakura.ne.jp/messena/ACADEMIA/JIAS/NIZHNY_T_charter.html >，2017年12月19日アクセス
- ³² 並川：2014，前掲書：174

- ³³ Falser : 2001, 前掲書
- ³⁴ SHIMAZU : 尚古集成館 ―今なお残る近代国家への息吹―,
 <<http://www.shuseikan.jp/>>, 2020 年 4 月 1 日アクセス
- ³⁵ 仙巖園 : 尚古集成館, <<https://www.senganen.jp/experience/shoko-shuseikan-museum/>>, 2020 年 12 月 15 日アクセス。から筆者切り取り加工。
- ³⁶ SHIMAZU : 本館フロアマップ 集成館事業と近代化, 尚古集成館 ―今なお残る近代国家への息吹―, <<http://www.shuseikan.jp/>>, 2020 年 12 月 15 日アクセス
- ³⁷ 斎藤英俊 : 近代化遺産の保存―自らの歴史を語るために, 月刊文化財 596, pp.4-9, 2013 年 5 月 : 5-6
- ³⁸ 平井健文 : 産業遺産の価値構成と普及のプロセス ―日本における産業遺産保全の通時的考察―, 産業考古学会 第 154 号, pp.2-10, 2017 年 3 月 : 4
- ³⁹ 平井 : 2017 年 3 月, 前掲書 : 5
- ⁴⁰ 産業考古学会 : 産業考古学会 ―概要と沿革―, 2009 年
- ⁴¹ 大橋周治 : 日本における産業考古学の課題―第二年度に向けて―, 産業考古学 6 号, pp.1-3, 1978 年 6 月
- ⁴² 並川 : 2014, 前掲書 : 174-175
- ⁴³ 並川 : 2014, 前掲書 : 174-175
- ⁴⁴ 斎藤 : 2013, 前掲書 : 5
- ⁴⁵ 種田明 : 産業遺産の評価・保存―世界遺産登録から学んだこと―, 近畿産業考古学会誌 (10), pp.49-50, 2016 年 5 月
- ⁴⁶ 伊東孝 : 「産業考古学会」から「産業遺産学会」へ ―名称変更の提案 : 学会の未来を見つめて―, 産業考古学会 ニュースレター No.12, pp.6-7, 2017 年 12 月
- ⁴⁷ 伊東 : 2017, 前掲書
- ⁴⁸ 斎藤英俊 : 近代化遺産の調査と保存, 建築雑誌 建築年報, p.32, 1991 年
- ⁴⁹ 斎藤 : 1991, 前掲書
- ⁵⁰ 全国近代化遺産活用連絡協議会 : 近代化遺産とは, <<https://www.zenkin.jp/about>>, 2021 年 9 月 15 日最終アクセス
- ⁵¹ 清水真一 : 記念シンポジウム―近代化遺産と産業建築, 建築史学 25, 建築史学会, 1995 年 : 116
- ⁵² 斎藤 : 2013, 前掲書 : 7
- ⁵³ 群馬県 : 国指定重要文化財 旧碓氷峠鉄道施設,
 <<https://www.pref.gunma.jp/03/x0100543.html>>, 2018 年 10 月 29 日最終更新, 2020 年 12 月 15 日アクセス。より取得。
- ⁵⁴ 秋田市上下水道局 : 藤倉水源地ものがたり, 第 2 版, 2019 年 3 月 31 日 : 第 1 章・第 2 章表紙より

- ⁵⁵ 木村至聖：産業遺産の記憶と表象―「軍艦島」をめぐるポリティクス，京都大学出版会，2014年：2-3
- ⁵⁶ 佐々木享：産業遺産の概念と産業考古学の課題―若干の理論的諸問題に触れて，中部産業遺産研究会「産業遺産研究」第13号，pp.6-21，2006年5月
- ⁵⁷ 並川：2014，前掲書：180-184
- ⁵⁸ 福井県教育委員会：福井県の近代化遺産，1999年3月：175
- ⁵⁹ 経済産業省：近代化産業遺産群 ～近代化産業遺産が紡ぎだす先人たちの物語～，平成19年度，
<http://www.meti.go.jp/policy/local_economy/nipponsaikoh/pdf/isangun.pdf>，2020年4月1日アクセス
- ⁶⁰ 経済産業省：近代化産業遺産群 続33 ～近代化産業遺産が紡ぎだす先人たちの物語～，平成20年度，
<http://www.meti.go.jp/policy/local_economy/nipponsaikoh/pdf/isangun_zoku.pdf>，2020年4月1日アクセス
- ⁶¹ 経済産業省：平成19年度，前掲書
- ⁶² 清水：1998，前掲書
- ⁶³ 加藤康子：産業遺産，日本経済新聞社，1999年1月
- ⁶⁴ 産業考古学会：ニューズレター，No.12，2017年12月
- ⁶⁵ 清水慶一：文化財としての近代産業遺産，月刊文化財 第443号，pp.4-9，2000年8月
- ⁶⁶ 清水：2000年8月，前掲書
- ⁶⁷ 清水：2000年8月，前掲書
- ⁶⁸ 吉田英生：アイアンブリッジ溪谷博物館，伝熱 第45巻192号，pp.89-93，2006年
- ⁶⁹ 並川宏彦：共同研究:世界産業遺産候補の予備調査研究 世界遺産 アイアンブリッジ峡谷，桃山学院大学総合研究所紀要 第30巻第1号，pp.101-131，2004年7月：103
- ⁷⁰ Google map より。筆者切り取り加工。
- ⁷¹ Google map より。筆者切り取り加工。
- ⁷² UNESCO：Ironbridge Gorge Gallery，<<https://whc.unesco.org/en/list/371/gallery/>>，2021年2月15日アクセス
- ⁷³ IRONBRIDGE GORGE MUSEUM：HOW TO GET HERE，
<<https://www.ironbridge.org.uk/plan/how-to-get-here/#how-to-get-here>>，2021年2月15日アクセス。より取得。
- ⁷⁴ 新井直樹：近代化遺産を活用した観光振興とまちづくり ―富岡製糸場 世界遺産プロジェクトの展開と課題―，高崎経済大学地域政策学会 地域政策研究，第8巻第3号，pp.201-218，2016年2月

- ⁷⁵ 石川宏之, 高見沢実, 小林重敬: 地域振興に地域遺産を活かすためのミュージアム活動によるエリアマネジメントに関する研究ー英国におけるアイアンブリッジ溪谷ミュージアム・トラストを事例としてー, 日本都市計画学会都市計画論文集 第42巻3号, pp.883-888, 2007年10月: 884
- ⁷⁶ 並川: 2004, 前掲書
- ⁷⁷ IRONBRIDGE GORGE MUSEUMS: WEDDINGS AT THE IRONBRIDGE GORGE MUSEUMS, <<https://www.ironbridge.org.uk/media/8763/wedding-brochure.pdf>>, 2021年2月15日アクセス
- ⁷⁸ IRONBRIDGE GORGE MUSEUMS: Coalbrookdale Museum of Iron, <<https://www.ironbridge.org.uk/explore/coalbrookdale-museum-of-iron/>>, 2021年2月15日アクセス。より取得。
- ⁷⁹ Historic England: LONG WAREHOUSE, COALBROOKDALE IRONWORKS, <<https://historicengland.org.uk/listing/the-list/list-entry/1031524>>, 2021年2月15日アクセス
- ⁸⁰ Historic England, 前掲書
- ⁸¹ 清水: 2000年8月, 前掲書
- ⁸² Ironbridge BIRTHPLACE OF INDUSTRY: VOLUNTEER ROLE DESCRIPTION, <<https://www.ironbridge.org.uk/media/9217/ve-costumed-interpreter-role-description.pdf>>, 2021年6月23日アクセス
- ⁸³ IRONBRIDGE GORGE MUSEUM: VOLUNTEERING AT IRONBRIDGE, <<https://www.ironbridge.org.uk/our-story/volunteering/>>, 2021年6月23日アクセス。より取得
- ⁸⁴ IRONBRIDGE GORGE MUSEUM: THE NEW INN PUB, <<https://www.ironbridge.org.uk/plan/where-to-eat/pubs-restaurants/the-new-inn-pub/>>, 2021年6月23日アクセス。より取得。
- ⁸⁵ 石川, 高見沢, 小林: 2007, 前掲書: 886
- ⁸⁶ 石川, 高見沢, 小林: 2007, 前掲書: 886
- ⁸⁷ 日本エコミュージアム研究会: エコミュージアム・理念と活動 世界と日本の最新事例集, 牧野出版, 1997年7月: 110-111
- ⁸⁸ 日本エコミュージアム研究会: 1997, 前掲書: 110-111
- ⁸⁹ 日本エコミュージアム研究会: 1997, 前掲書: 110-111
- ⁹⁰ 石川, 高見沢, 小林: 2007, 前掲書
- ⁹¹ The National Lottery: IRONBRIDGE GORGE MUSEUM TRUST, <<https://www.lotterygoodcauses.org.uk/projects/view/ironbridge-gorge-museum-trust>>, 2021年5月27日アクセス

- ⁹² 石川, 高見沢, 小林: 2007, 前掲書: 図 5 より筆者作成
- ⁹³ ARTS COUNCIL ENGLAND, Awarding funds from THE NATIONAL LOTTERY : Culture Recovery Fund : Grants, <<https://www.arts council.org.uk/CRFgrants>>, 2021 年 4 月 2 日更新, 2021 年 5 月 27 日アクセス。より取得
- ⁹⁴ ARTS COUNCIL ENGLAND, 前掲書。にならい、1 ポンド=150 円のレートを用いて筆者円換算。
- ⁹⁵ 独立行政法人日本芸術文化振興会, 学校法人東成学園: イングランド及びスコットランドにおける文化芸術活動に対する助成システム等に関する実態調査報告書 [概要版], <<https://www.ntj.jac.go.jp/assets/files/kikin/arts council/gaiyo20180930.pdf>>, 2021 年 5 月 27 日アクセス。より取得: p.1
- ⁹⁶ 松永: 2006, 前掲書
- ⁹⁷ Google map より筆者切り取り加工と追記
- ⁹⁸ 松永: 2006, 前掲書: 58-59
- ⁹⁹ 松永: 2006, 前掲書
- ¹⁰⁰ Google map より筆者切り取り加工
- ¹⁰¹ 現地案内板より (筆者撮影 2015 年 7 月)
- ¹⁰² Landschaftspark Duisburg-Nord : Background Knowledge, <<https://www.landschaftspark.de/en/background-knowledge/introduction/>>, 2021 年 5 月 16 日アクセス
- ¹⁰³ 松永: 2006, 前掲書: 138 の IBA プロジェクトデータ表より。マルクから円への換算は、p.128 に示された 30 億マルク (約 2000 億円) のレートを用いて筆者計算。
- ¹⁰⁴ Dießenbacher Informationsmedien : Zeitreise Landschaftspark Duisburg-Nord, 2011 年 1 月: 31 の図 22 より
- ¹⁰⁵ Dießenbacher Informationsmedien : 2011, 前掲書: 28 の図 20 より
- ¹⁰⁶ 松永: 2006, 前掲書: 63
- ¹⁰⁷ 松永: 2006, 前掲書: 73
- ¹⁰⁸ 松永: 2006, 前掲書: 73-74
- ¹⁰⁹ 松永: 2006, 前掲書: 139 の IBA プロジェクトデータ表より。マルクから円への換算は、p.128 に示された 30 億マルク (約 2000 億円) のレートを用いて筆者計算。
- ¹¹⁰ 筆者撮影 (2015 年 7 月)
- ¹¹¹ 筆者撮影 (2015 年 6 月)
- ¹¹² Google Map より
- ¹¹³ 川副: 2017, 前掲書: 32
- ¹¹⁴ Huberta de la Chevallerie : KunstOrt Ruhrgebiet Zeche Zollverein Schacht XII in Essen, 2004 年: 30

- 115 Chevallerie : 2004, 前掲書 : 15
- 116 川副 : 2017, 前掲書 : 32
- 117 松永 : 2006, 前掲書 : 139 の IBA プロジェクトデータ表より。マルクから円への換算は、p.128 に示された 30 億マルク (約 2000 億円) のレートを用いて筆者計算。
- 118 川副 : 2017, 前掲書 : 35
- 119 2015 年取得パンフレットに筆者赤・青・緑線を追記
- 120 Google map より
- 121 Ulrich Borsdorf, Heinrich Theodor Gruetter : RUHR MUSEUM NATUR. KULTUR. GESCHICHTE., 2010 年 : 22 より取得、筆者上部切り抜き加工。
- 122 Chevallerie : 2004, 前掲書 : 22
- 123 パンフレットならびに筆者撮影 (2015 年)
- 124 Borsdorf, Gruetter : 2010, 前掲書 : 54
- 125 筆者撮影 (2015 年 6 月)
- 126 2015 年筆者参加ならびに撮影、人物白抜き加工
- 127 Chevallerie : 2004, 前掲書 : 41
- 128 Chevallerie : 2004, 前掲書 : 43
- 129 筆者撮影 (2015 年 6 月)
- 130 松永 : 2006, 前掲書 : 139 の IBA プロジェクトデータ表より。マルクから円への換算は、p.128 に示された 30 億マルク (約 2000 億円) のレートを用いて筆者計算。
- 131 2015 年取得した現地配布資料より
- 132 斎藤英俊 : ドイツの近代産業遺産の保存と活用, 文化遺産の世界 vol.9, pp.6-9, 2003 年 : 9
- 133 Google map より作成
- 134 筆者撮影 (2015 年 7 月)
- 135 現地案内板 (2015 年 7 月) より
- 136 現地配布資料 (2015 年 7 月) より
- 137 筆者撮影 (2015 年 7 月)
- 138 現地配布資料 (2015 年 7 月) より
- 139 Facebook@Gasometer Oberhausen, 2021 年 4 月 16 日投稿写真より
- 140 松永 : 2006, 前掲書 : 73, 125
- 141 松永 : 2006, 前掲書 : 125
- 142 Regionalverband RUHR : ROUTE INDUSTRIEKULTUR, <<https://www.route-industriekultur.ruhr/>>, 2021 年 2 月 21 日アクセス
- 143 筆者撮影 (2015 年 7 月)
- 144 筆者撮影 (2015 年 6 月)

- ¹⁴⁵ プログラムより
- ¹⁴⁶ Council of Europe Portal : Cultural Routes of the Council of Europe programme,
<<https://www.coe.int/en/web/cultural-routes>>, 2021 年 3 月 16 日アクセス
- ¹⁴⁷ European Route of Industrial Heritage : OUR COMMON EUROPEAN HERITAGE
Executive Summary, 2001 年 12 月
- ¹⁴⁸ European Route of Industrial Heritage : HOME, <<https://www.erih.net/>>, 2021 年
3 月 3 日最終更新, 2021 年 5 月 4 日最終アクセス。より筆者切り抜き加工。
- ¹⁴⁹ 筆者撮影 (2015 年 6 月)
- ¹⁵⁰ National Park Service : Series: Lowell, Story of an Industrial City,
<<https://www.nps.gov/articles/lowell-handbook-seeds-of-industry.htm>>, 2018 年 6 月 15
日最終更新, 2021 年 5 月 31 日アクセス
- ¹⁵¹ 清水慶一 : アメリカにおける産業遺産の保存と活用について, pp.1-11, 文献協通信
58 号, 2000 年 4 月
- ¹⁵² National Park Service : Series: Lowell, Story of an Industrial City, 前掲書
- ¹⁵³ Google map より筆者作成
- ¹⁵⁴ UNIVERSITY of MASSACHUSETTS LOWELL LIBRARIES : Center for Lowell
History/ 2019, 1845, <<https://libguides.uml.edu/c.php?g=492497&p=3369151>>, 2021
年 5 月 20 日最終更新, 2021 年 5 月 31 日アクセス。より取得し筆者切り抜き加工
- ¹⁵⁵ National Park Service : Series: Lowell, Story of an Industrial City, 前掲書
- ¹⁵⁶ National Park Service : Series: Lowell, Story of an Industrial City, 前掲書
- ¹⁵⁷ National Park Service : Series: Lowell, Story of an Industrial City, 前掲書
- ¹⁵⁸ National Park Service : Series: Lowell, Story of an Industrial City, 前掲書
- ¹⁵⁹ National Park Service : Series: Lowell, Story of an Industrial City, 前掲書
- ¹⁶⁰ National Park Service : Series: Lowell, Story of an Industrial City, 前掲書
- ¹⁶¹ 清水慶一 : アメリカの産業遺産 (近代化遺産) の残し方, 青淵 第 642 号, pp.28-
31, 2002 年 9 月 : 30
- ¹⁶² National Park Service : Series: Lowell, Story of an Industrial City,
<<https://www.nps.gov/articles/lowell-handbook-decline-and-recovery.htm>>, 2018 年 6
月 15 日最終更新, 2021 年 5 月 31 日アクセス
- ¹⁶³ 清水 : 2002, 前掲書 : 30
- ¹⁶⁴ National Park Service : Series: Lowell, Story of an Industrial City, 前掲書
- ¹⁶⁵ National Park Service : Lowell Maps,
<<https://www.nps.gov/lowe/planyourvisit/maps.htm>>, 2021 年 5 月 31 日アクセス。よ
り取得し筆者切り抜き加工。
- ¹⁶⁶ 清水 : 2000 年 4 月, 前掲書 : 10

- ¹⁶⁷ 清水：2000年4月，前掲書：10
- ¹⁶⁸ 清水：2000年4月，前掲書：10
- ¹⁶⁹ 清水：2000年4月，前掲書：10
- ¹⁷⁰ Farley White：MASSACHUSETTS，＜<https://www.farleywhite.com/wannalancit.php>＞，2021年5月31日アクセス
- ¹⁷¹ Wannalancit Mills：Availability，＜<https://www.wannalancit.com/>＞，2021年5月31日アクセス。より取得し筆者切り取り加工。
- ¹⁷² National Park Service：Boott Cotton Mills Museum，
＜<https://www.nps.gov/lowe/planyourvisit/boott-cotton-mills-museum.htm>＞，2021年5月31日アクセス
- ¹⁷³ Lowell National Historical Park Massachusetts：Become a Junior Ranger，
＜<https://www.nps.gov/lowe/learn/kidsyouth/become-a-junior-ranger.htm>＞，2021年6月22日アクセスより取得
- ¹⁷⁴ 資料編1．参照
- ¹⁷⁵ 島津興業尚古集成館：2013年，前掲書：3
- ¹⁷⁶ 島津興業尚古集成館：2013年，前掲書：3
- ¹⁷⁷ Google map より。筆者切り取り加工。
- ¹⁷⁸ 島津興業尚古集成館：重要文化財旧集成館機械工場保存活用計画，2013年12月：4の図I－2より。筆者赤線追記。
- ¹⁷⁹ 島津興業尚古集成館：2013年，前掲書：5の写真I－3。筆者赤線追記。
- ¹⁸⁰ 文化財建造物保存技術協会：重要文化財旧集成館機械工場修理工事報告書，島津興業，1985年8月
- ¹⁸¹ 島津興業尚古集成館：2013年，前掲書
- ¹⁸² 島津興業尚古集成館：2013年，前掲書：11の写真I－7より
- ¹⁸³ 島津興業尚古集成館：2013年，前掲書：9の写真I－6と10の写真I－7より
- ¹⁸⁴ 文化財建造物保存技術協会：1985年，前掲書：7から金額を取得。筆者割合を計算。
- ¹⁸⁵ 島津興業尚古集成館：2013年，前掲書：13
- ¹⁸⁶ 島津興業尚古集成館：2013年，前掲書：12
- ¹⁸⁷ 文化財建造物保存技術協会：1985年，前掲書：11の挿図第五図より
- ¹⁸⁸ 文化財建造物保存技術協会：1985年，前掲書：11の挿図第五図より
- ¹⁸⁹ 文化財建造物保存技術協会：1985年，前掲書：第二五図より
- ¹⁹⁰ 島津興業尚古集成館：2013年，前掲書：6
- ¹⁹¹ 仙巖園：尚古集成館，＜<https://www.senganen.jp/experience/shoko-shuseikan-museum/>＞，2021年5月16日アクセス
- ¹⁹² 筆者撮影（2018年10月）

- ¹⁹³ Google map より。筆者切り取り加工ならびに白線追記。
- ¹⁹⁴ 小坂鉦山事務所：小坂鉦山事務所 公式ガイドブック 明治の洋館と小坂鉦山の歴史，2012 年 3 月
- ¹⁹⁵ 清水真一：産業建造物をどう保護していくか，産業遺産—未来につなぐ人類の技，東京文化財研究所，pp.58-65，1999.9
- ¹⁹⁶ 小坂鉦山事務所：2012 年，前掲書：24
- ¹⁹⁷ 亀沢修：近代産業遺産の観光活用と町づくり，月刊文化財 第 443 号，pp.35-37，2000 年 8 月
- ¹⁹⁸ 小坂鉦山事務所：2012 年，前掲書
- ¹⁹⁹ 現地案内板（2018 年 10 月確認）より
- ²⁰⁰ 亀沢：2000 年，前掲書
- ²⁰¹ Google map より。筆者切り取り加工ならびに白線追加。
- ²⁰² 小坂鉦山事務所：：2012 年，前掲書：4
- ²⁰³ 小坂鉦山事務所：：2012 年，前掲書：11
- ²⁰⁴ 小坂鉦山事務所：2012 年，前掲書：6
- ²⁰⁵ 小坂鉦山事務所：：2012 年，前掲書：2-3
- ²⁰⁶ 小坂まちづくり株式会社：藤田倶楽部 あかしあ亭，<<http://kosaka-mco.com/publics/index/90/>>，2021 年 3 月 14 日アクセス
- ²⁰⁷ 齊賀英二郎：旧富岡製糸場西置繭所保存整備事業：設計 富岡市(企画) 富岡製糸場保存修理委員会・遺構調査検討部会・整備活用計画実行委員会(専門委員会) 文化財建造物保存技術協会，新建築 96（3），pp.30-43，2021 年 3 月：39
- ²⁰⁸ Google map より。筆者切り取り加工。
- ²⁰⁹ 文化財建造物保存技術協会：国宝旧富岡製糸場西置繭所保存修理工事報告書 建造物編（旧富岡製糸場建造物保存修理工事報告；2），富岡市，2020 年 8 月：11 に筆者赤線追記
- ²¹⁰ KATAKURA：シルクの歴史，<<https://www.katakura.co.jp/silk/story/index.html>>，2021 年 4 月 13 日アクセス
- ²¹¹ KATAKURA，前掲書
- ²¹² アシスト：NO.55 片倉工業，<https://www.ashisuto.co.jp/corporate/column/users-voice/detail/1198014_2272.html>，2014 年 6 月取材，2021 年 4 月 13 日最終アクセス
- ²¹³ Discovery Channel：ABANDONED シリーズ第 4 話 “Maryland Silk Mill”，2012 年 8 月初回放送，Amazon Prime Video にて視聴。廃墟となった工場にヴィンテージインテリア加工者が来訪し、所有者と協議して動産物を買収する。そして、インテリアとして加工して販売し、利益をどれだけ生み出せるかという番組シリーズ。製糸場の所有者は、文化的価値から博物館にしたいものの、資金不足を背景に出演していた。工場内の機械やベンチ、消防バケツや照明ランプについて、売る、あるいは歴史的価値が高いので売れない、

といったディスカッションや値段交渉などを行いながら、工場の歴史について説明した。

- ²¹⁴ Western Maryland's Historical Library : Lonaconing Silk Mill,
<<http://www.whilbr.org/SilkMill/index.aspx>>, 2021 年 4 月 13 日アクセス
- ²¹⁵ Abandoned : Lonaconing Silk Mill,
<<https://abandonedonline.net/location/lonaconing-silk-mill/>>, 2021 年 4 月 13 日最終アクセス
- ²¹⁶ Google map より作成
- ²¹⁷ Western Maryland's Historical Library : Silk Mill, Lonaconing, Allegany County, 1907-1957, 1999 年, 2007 年デジタル化,
<<https://digital.whilbr.org/digital/collection/p16715coll27>>, 2021 年 4 月 13 日アクセス
- ²¹⁸ Abandoned, 前掲書
- ²¹⁹ KATAKURA, 前掲書
- ²²⁰ Abandoned, 前掲書
- ²²¹ 文化財建造物保存技術協会 : 2020, 前掲書 : 383 の図 8.1.193 より
- ²²² 筆者撮影 (2017 年 5 月)
- ²²³ 筆者撮影 (2021 年 7 月)
- ²²⁴ ICOMOS JAPAN : 日本イコモス賞・日本イコモス激励賞 2020,
<<https://icomosjapan.org/document/prize2020.1.pdf>>, 2021 年 2 月 10 日公開, 2021 年 4 月 25 日アクセス
- ²²⁵ ICOMOS JAPAN, 前掲書
- ²²⁶ ICOMOS JAPAN, 前掲書
- ²²⁷ 文化財建造物保存技術協会 : 2020, 前掲書 : 40-41
- ²²⁸ 池谷和浩 : 富岡製糸場 「使える国宝」に : 見せるガラス箱を入れて耐震補強, 日経アーキテクチュア No.1180, pp.30-37, 2020 年 11 月 : 32
- ²²⁹ 文化財建造物保存技術協会 : 2020, 前掲書 : 293
- ²³⁰ 文化財建造物保存技術協会 : 2020, 前掲書 : 293
- ²³¹ 文化財建造物保存技術協会 : 文建協通信 139 号 : 9 の図 9・図 10 より
- ²³² 文化財建造物保存技術協会 : 2020, 前掲書 : 口絵「竣工 2 階 北端より南方をみる」より
- ²³³ 齊賀 : 2021 年, 前掲書 : 37 より
- ²³⁴ 文化財建造物保存技術協会 : 2020, 前掲書 : 口絵より
- ²³⁵ 富岡市提供
- ²³⁶ 富岡市提供
- ²³⁷ 茨城県教育委員会 : 茨城県の近代化遺産 茨城県近代化遺産 (建造物等) 総合調査報告書, 2007 年 3 月 : 31

- ²³⁸ 茨城県教育委員会：2007 年，前掲書：32
- ²³⁹ Google map より。筆者切り取り加工。
- ²⁴⁰ 文化財建造物保存技術協会：重要文化財シャトーカミヤ旧醸造場施設保存修理工事（災害復旧）報告書，オエノンホールディングス，2016 年 3 月：目次の図 1－1 より。筆者赤線追記。
- ²⁴¹ 中野茂夫、斎藤英俊、中島伸：「シャトーカミヤの建設経緯と建築的特徴」，日本建築学会計画系論文集 73 巻 629 号，pp.1617-1624，2008 年 07 月：1623
- ²⁴² パンフレット「国指定重要文化財 シャトーカミヤ旧醸造場施設災害復旧工事の軌跡」より
- ²⁴³ パンフレット，前掲書
- ²⁴⁴ パンフレット，前掲書
- ²⁴⁵ 文化財建造物保存修理研究会「第 4 回現場ワークショップ」耐震補強説明より
- ²⁴⁶ 文化財建造物保存技術協会：2016 年，前掲書：口絵 11 より
- ²⁴⁷ 筆者撮影（2016 年 10 月）、人物部塗りつぶし加工。
- ²⁴⁸ 文化財建造物保存技術協会：2016 年，前掲書：10 の図 1-2-7-1 より
- ²⁴⁹ disclosure tokyo：<2533>オエノン HD 連結子会社の事業の一部撤退および特別損失の計上に関するお知らせ，
<<https://disclosure.tokyo/files/file/TDnet/20181030/140120181029424377.pdf>>，2021 年 9 月 29 日アクセス
- ²⁵⁰ 朝日新聞デジタル：茨城）牛久シャトー、飲食物販事業から撤退 業績悪化で，2018 年 11 月 4 日 03 時 00 分更新，
<<https://www.asahi.com/articles/ASLC2624FLC2UJHB00W.html>>，2018 年 11 月 16 日アクセス
- ²⁵¹ 茨城新聞クロスアイ：牛久シャトー 4 店舗、三セク直営に 2 店舗はテナント誘致，
<https://ibarakinews.jp/news/newsdetail.php?f_jun=15704460159171>，2019 年 10 月 8 日更新，2020 年 12 月 14 日アクセス
- ²⁵² 茨城新聞クロスアイ：2019 年，前掲書
- ²⁵³ 牛久シャトー株式会社：会社概要，<<https://maita37.wixsite.com/ushiku-chateau/blank-2>>，2021 年 4 月 25 日アクセス
- ²⁵⁴ 朝日デジタル：茨城）レストラン 20 日に再開 牛久シャトー，
<<https://www.asahi.com/articles/ASN6K6WFJN6JUJHB00C.html>>，2020 年 6 月 18 日更新，2020 年 9 月 25 日アクセス
- ²⁵⁵ CAMPFIRE：日本のワイン城「牛久シャトー」復活プロジェクト 現在の支援総額，
<<https://camp-fire.jp/projects/view/354821>>，2021 年 5 月 10 日アクセス
- ²⁵⁶ CAMPFIRE，前掲書

- ²⁵⁷ CAMPFIRE, 前掲書
- ²⁵⁸ 清水：1999年, 前掲書
- ²⁵⁹ 清水：1999年, 前掲書
- ²⁶⁰ 清水：1999年, 前掲書
- ²⁶¹ 清水：1999年, 前掲書
- ²⁶² 清水：1999年, 前掲書
- ²⁶³ 長谷川直司：日本の美術 近代化遺産 産業編, 独立行政法人国立文化財機構, No.544, 2011年9月：17-18
- ²⁶⁴ 長谷川：2011年, 前掲書：17-18
- ²⁶⁵ 清水：1999年, 前掲書
- ²⁶⁶ 木村勉：近代化遺産の保存・活用にみる保存技術の取り組み ―継承と発展、課題―, 月刊文化財 596号, pp.10-14, 2013年5月
- ²⁶⁷ 木村：2013年, 前掲書
- ²⁶⁸ 木村：2013年, 前掲書
- ²⁶⁹ 木村：2013年, 前掲書
- ²⁷⁰ 木村：2013年, 前掲書
- ²⁷¹ 清水：1999年, 前掲書
- ²⁷² 木村：2013年, 前掲書
- ²⁷³ 木村：2013年, 前掲書
- ²⁷⁴ 後藤邦夫：John Butt and Ian Donachie: Industrial Archaeology in British Isles, 1979, paul Elek (pp. xii+307, 99 plates), 大阪の産業記念物 No.5, 1983年11月：13
- ²⁷⁵ Falser：2001, 前掲書
- ²⁷⁶ 産業考古学会, 内田星美, 金子六郎, 黒岩俊郎, 中島朝彦：日本の産業遺産 300選, 同文館出版株式会社, 1993年6月
- ²⁷⁷ 森嶋：2014年, 前掲書
- ²⁷⁸ 平井東幸, 種田明, 堤一郎：産業遺産を歩こう, 東洋経済新報社, 2009年4月
- ²⁷⁹ 清水：1999年, 前掲書
- ²⁸⁰ 畠山望, 阿部浩和, 安福健祐：「近代化産業遺産」における炭鉱遺産の現状と保存・活用についての研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (中国), pp.121-122, 2017年8月
- ²⁸¹ 畠山, 阿部, 安福：2017年, 前掲書
- ²⁸² 神戸新聞 NEXT：保存か解体か…揺れる国の近代化遺産「ユニチカ記念館」, <<https://www.kobe-np.co.jp/news/hanshin/202104/0014253529.shtml>>, 2021年4月19日05時30分更新, 2021年5月10日アクセス
- ²⁸³ 神戸新聞 NEXT：2021年, 前掲書
- ²⁸⁴ 市原猛志, 趙世晨：九州地方の近代産業遺産の現存状況及びその特徴に関する研究,

- 日本建築学会計画系論文集 第73巻第634号, pp.2697-2702, 2008年12月
- ²⁸⁵ 森嶋俊行：近代化遺産保存活用をめぐる地域主体間関係 福岡県大牟田市・熊本県荒尾市を事例として, 日本地理学会発表要旨集 2009s(0), 13, 2009年
- ²⁸⁶ 森嶋：2009年, 前掲書
- ²⁸⁷ 山岸卓翔, 桑田仁：新潟県における油田遺構の保存・保全活動について, 日本建築学会 都市計画 (2016), pp.1015-1016, 2016年8月
- ²⁸⁸ 松岡恵悟, 玉田浩之, 河原大, 矢野桂司：京都市における近代化遺産の空間的分布と近年の動向, 日本地理学会発表要旨集 2007s(0), pp.154-154, 2007年
- ²⁸⁹ 松岡, 玉田, 河原, 矢野：2007年, 前掲書
- ²⁹⁰ 野口英一郎, 岩井章真：旧舩善毛織工場建屋の取り壊しについて, 産業遺産研究 第26号, pp.26-31, 2019年7月
- ²⁹¹ 野口, 岩井：2019年, 前掲書
- ²⁹² 登録文化財の転用事例 No.102 使用者への筆者聞き取り調査 (2017年5月) から。第4章4-3-3. (1) にてその後の経過を記載。
- ²⁹³ 平井健文：日本における産業遺産の観光資源化プロセスー炭鉱・鉱山の遺構に見出される価値の変容に着目して, 観光学評論 Vol.5-1, pp. 3-19, 2017年
- ²⁹⁴ 平井健文：2017年, 前掲書
- ²⁹⁵ 丁野朗：近代化産業遺産をどう活かすか, 月刊文化財 第443号, pp.10-16, 2000年8月：15
- ²⁹⁶ 丁野：2000年8月, 前掲書：15
- ²⁹⁷ 全国近代化遺産活用連絡協議会：全近とは, <<https://www.zenkin.jp/aboutus>>, 2021年3月18日アクセス
- ²⁹⁸ 木村：2013年, 前掲書
- ²⁹⁹ 丁野朗：いま甦る未来への遺伝子ー近代化産業遺産活用研究よりー, 地域政策研究会 第37号, pp.4-7, 2000年6月
- ³⁰⁰ 丁野：2000年6月, 前掲書
- ³⁰¹ 筧雄二：ビール工場の赤レンガ建築保存活用からの提言, 地域政策研究会 第37号, pp.14-15, 2000年6月
- ³⁰² 木村：2013年, 前掲書
- ³⁰³ 大河直躬：21世紀の文化財保存への試金石ー文化財建造物の保存と登録制度ー, 総覧登録有形文化財建造物5000, 文化庁文化財部編著, p.26, 2005年
- ³⁰⁴ 亀井伸雄：文化財登録制度による保存効果について, 総覧登録有形文化財建造物5000, 文化庁文化財部編著, p.29, 2005年
- ³⁰⁵ 福井県教育委員会：福井県の近代化遺産, 1999年3月：175
- ³⁰⁶ 清水：2000年8月, 前掲書

- ³⁰⁷ 木村：2013年，前掲書
- ³⁰⁸ 井川博文：旧三河島污水処分場唧筒場施設の保存修理，近代の産業遺産の保存と多様で魅力的な活用—日本、ドイツ、オランダ、シンガポール、中国の事例—，pp.6-1-6-12，2017年3月
- ³⁰⁹ 森嶋：2014年，前掲書
- ³¹⁰ 高田理子，末包伸吾：「近代化産業遺産」のコンバージョンの計画と活用手法に関する研究—倉敷アイビースクエアの事例分析を主として—，平成22年度日本建築学会近畿支部研究発表会，pp.885-888，2010年
- ³¹¹ 福井美弥：産業遺産施設の保存活用にかかわる事業主体の役割と評価に関する研究，大阪大学大学院工学研究科 博士学位論文，2013年12月
- ³¹² 白木里恵子，久保勝裕，大垣直明：転用主体の活動実績から見た歴史的建造物の転用プロセスに関する研究—小樽無尽ビルと油津赤レンガ館の事例分析を通じて—，日本建築学会計画系論文集 第610号，pp.125-132，2006年12月
- ³¹³ 友原嘉彦：地方における近代化遺産を活用した観光振興の現状と可能性，日本国際観光学会論文集（第17号），pp.13-17，2010年3月
- ³¹⁴ 村澤祐城，田中直人：近畿4府県における登録有形文化財の現状調査：歴史的建築物の有効活用に関する研究，日本建築学会近畿支部研究報告集 計画系（52），pp.881-884，2012年5月
- ³¹⁵ 野沢英希，谷口元，常川和久，太幡英亮：廃校施設の建築の特徴と再利用時の改修工事に関する研究—愛知県・岐阜県・三重県の事例を通して—，日本建築学会計画論文集 第78巻 第684号，pp.445-453，2013年2月
- ³¹⁶ 松下陽，大島隆一：コンバージョンに影響する法規から見た構造と計画について（その1）—設計時の検討事項の整理—，日本建築学会大会学術講演梗概集（中国），pp.1015-1016，2009年9月
- ³¹⁷ 齊藤哲也，八木幸二：転用された歴史的建造物の用途分類と地区別特性—ミラノ市における歴史的建造物の転用に関する研究—その1，日本建築学会計画系論文集 第526号，pp.147-152，1999年12月
- ³¹⁸ 野澤英希：「新建築」掲載作品におけるコンバージョン事例の再利用に関する考察，建築社会システム（2015），pp.117-118，2015年9月
- ³¹⁹ 渡辺公次郎：徳島県阿南市におけるMaxentモデルを用いた水田の転用可能性に関する研究，日本建築学会大会学術講演梗概集（中国），pp.5-6，2017年8月
- ³²⁰ 和泉成厚，全聖民，大原一興，藤岡泰寛，李鎔根，江口亨，宮川大亮，大堀夏紀：高台丘陵地戸建住宅団地における地域資産の活用に関する研究—その2—空き家の福祉施設への転用可能性，日本建築学会大会学術講演梗概集（近畿），pp.1179-1180，2014年9月
- ³²¹ 高橋謙太，岩田伸一郎，小山光香：小規模オフィスビルの転用可能性評価に関する研

究 その2 -立地パターンによる階別採光条件と成立可能な住戸分割プラン-, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (関東), pp.775-776, 2015 年 9 月

³²² 文化庁：国指定文化財等データベース, <<https://kunishitei.bunka.go.jp/bsys/index>>, 2020 年 4 月 1 日アクセス

第2章 産業遺産の保存・活用の現状把握

2-1. 本章の目的.....	71
2-2. 方法	71
2-3. 登録文化財の産業遺産の保存・活用状況	73
2-3-1. 産業種別.....	73
(1) 地域	73
(2) 登録形態	74
2-3-2. 建築物の物理的要素	76
(1) 主構造.....	76
(2) 面積	76
(3) 登録基準	78
2-3-3. 活用状況.....	79
(1) 産業種別	79
(2) 所有者属性別	80
(3) 登録形態	81
(4) 面積	81
(5) 解体等による登録抹消	82
2-4. 同一地域にある同一タイプ工場群の保存・活用状況.....	82
2-5. 結論	85
補注及び参考文献	87

2-1. 本章の目的

第2章では、産業遺産の全国的な一覧化を行い、保存・活用状況ならびに転用事例を把握することを目的とする。転用による活用を網羅的に把握するにあたり、所有者の自主的な活用と保存を促す、穏やかな保護制度である登録文化財の枠組みを用いた。公共団体以外にも民間企業や個人の所有者が網羅でき、また展示以外にも経済性を持つような用途が含まれる。そのため、今後、所有者による転用の新たな用途と建築物の関係をみるにあたり、適切だと考えた。

登録文化財の建築物を対象にする研究^{1, 2}では、地域区分の中で最も登録件数の多い近畿地方の上位4府県、兵庫県・大阪府・京都府・滋賀県について、建築年や構造等のクロス集計を行い、登録された建築物に木造平屋の住宅が多いこと、住宅として利用されている場合は他用途に比べて公開の割合が低いことなどが明らかにされている。しかし、産業遺産に焦点を当てたものではなく、また近畿地方に限定されている。登録文化財建造物の保存および活用の実態を分析した研究³では、地域別にみると市ごとに登録件数の差がみられ、登録件数が少ないものの市指定件数が多い市があったことから、登録制度運用は各自治体の姿勢が現われていることを明らかにしているが、産業遺産に関しては分析していない。

そこで、産業遺産の新たな用途と建築物の条件の関係を論じるために、まず登録文化財の産業遺産の建築物を対象とし、産業種別と建築物の物理的要素を概観した上で全国的な保存・活用状況を把握する。

続いて、都道府県別に計上すると繊維業の登録数が群馬県に多く、また繊維業は転用率が高かった。多種多様な産業遺産が混在する中、同一地域にある同一タイプの工場群があることに注目し、その概要と保存・活用の現況について把握する。

2-2. 方法

登録文化財（建造物）は、2019年（令和元年）9月1日時点で12,261件あった⁴。登録文化財は国指定文化財等データベースにおいて、種別1により産業や官公庁舎、生活といった12の用途区分⁵に分けられている。国指定文化財等データベース上に情報が公開されている11,647件から、種別1の内、農林水産業といった第一次産業に該当する産業1次（112件）、製造業といった第二次産業にまつわる産業2次（1,176件）の計1,288件を抽出した。さらに建築物に限定すべく、種別2にてその他工作物や土木構造物に含まれる塀や貯水施設を除外したところ、1,089件（産業1次73件・産業2次1,016件）を取得した（表2-1）⁶。そのうち、登録抹消後も記載のあった5件、また建築物に含まれていたものの登り窯や煙突である4件の計9件を除くと、1,080件となった（表2-2）。これら産業遺産の建築物1,080件を、産業中分類に区分し直した。すると、サービス産業などの第三次産業や軍事産業に再区分された計3件を除き、第一次産業、第二次産業といった生産に関する産業遺産として計1,077件が確認された。よって、建築物1,077件（表2-3）が分析の対象となった。

表 2 - 1 対象とする産業 1 次と産業 2 次の登録件数

	種別 1		総計
	産業1次	産業2次	
種別 2			
建築物	73	1016	1089
その他工作・その他工作物・土木構造物	39	160	199
総計	112	1176	1288

表 2 - 2 建築物への限定

	種別 1		総計
	産業1次	産業2次	
建築物	73	1016	1089
除外した物件			
登録抹消後も記載されていた	0	5	5
登り窯や煙突	0	4	4
総計	112	1176	1080

表 2 - 3 産業中分類別にみた登録文化財の産業遺産の建築物事例数

産業中分類	第一次産業	第二次産業				総計
		鉱業	醸造業	繊維業	その他	
総計	64	11	797	96	109	1077

これらについて、国指定文化財等データベース⁷にて調査を行い、名称、種別 1、種別 2⁸、構造、面積、登録年、所在地、登録基準⁹、建設年代¹⁰、所有者¹¹を収集した。そして旧用途について産業中分類¹²、産業小分類¹³に区分し直し、構造を主構造¹⁴に整理し、活用状況¹⁵、そして所有者の情報が国指定文化財等データベースに記載なかった場合は所有者について、国指定文化財等データベースならびに行政ウェブサイト、公式ウェブサイトや訪問者のブログの調査から情報を得て追加した¹⁶。これらを総合し、産業遺産のデータベースを構築した。図 2 - 1 にて、国指定文化財等データベースに含まれている情報ならびに収集して追加した情報項目を整理し、産業遺産データベースに含まれる情報を整理した。

1,077 件の活用状況の区分として、「活用あり」は、現役の施設として従来からの用途を継続し「現役稼働」している物件と、また他の用途へと「転用」されて活用されている物件に分けている。活用模索中などの、稼働を終えた後に新たな用途を得ていない状態は「活用なし」、もしくは情報が「不明」とし、合計 4 種類に区分した。

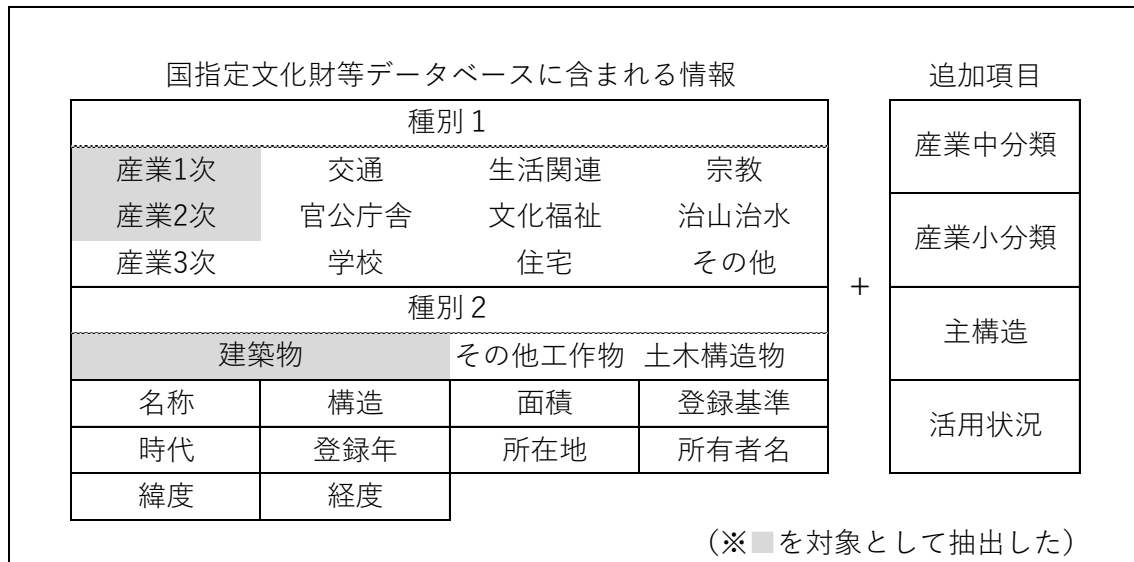


図2-1 産業遺産データベースのために収集したデータと対象とした区分

登録文化財の種別の分類は、各地方自治体の担当者による。同じ産業に関する施設を同一の種別1の区分にする場合と、工場は産業2次区分、住宅は住宅区分にて登録する場合が確認された。本章においては、産業遺産としての認知という視点をもって、産業1次と産業2次に分類されている事例を扱った。これらの条件下での調査結果であることに留意する必要がある。

2-3. 登録文化財の産業遺産の保存・活用状況

2-3-1. 産業種別

(1) 地域

地域による産業遺産分布の特徴をみるため、地域別に産業中分類別の登録件数を図2-2に示した。全国に渡って醸造業が大半を占めており、日本全体を通した伝統産業の表れと言える。

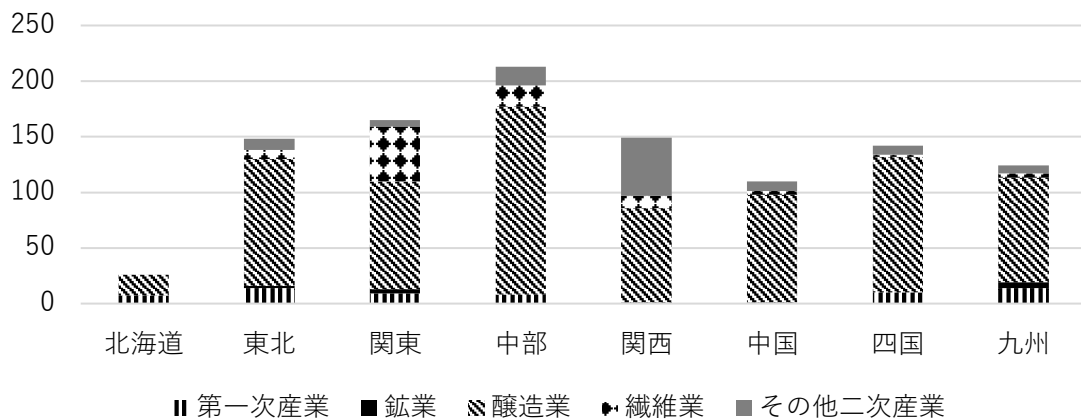


図2-2 地域別に見た産業中分類別の登録件数

一方で、関東地方の繊維業、関西地方のその他二次産業、四国地方では醸造業の比率が高いことが特徴として表れている。図2-3に示した都道府県別の産業中分類別件数をみると、群馬県の繊維業、奈良県と三重県の窯業といったその他二次産業、香川県や長野県、そして秋田県の醸造業が数多く登録されており、地域の特徴を表象していると考えられる。

奈良県はその他二次産業の割合が高く数も多くあり、醸造業の割合が低く、他都道府県とは異なる産業が遺産として、高く認知されていることが伺える。

群馬県では、繊維業の登録数が多かった。桐生市がノコギリ屋根織物工場をまちの特徴として発信しており、織物工場がノコギリ屋根工場単体、そして倉庫や寄宿舍といった建物も登録されていたためと考える。

また香川県でも同様に、醤油生産施設内の複数建築物が群として多く登録されていた。

東北地方では第一次産業が多く、第一次産業の登録数を都道府県別にみると、北海道、青森県、岩手県、秋田県、長野県、鹿児島県において数が認められた。

登録文化財の数は、産業施設に対する地域の遺産としての認知の程度を示している。施設の全体数の現況を示すわけではないものの、地域ごとの遺産としての評価の観点の特徴が表れていると言える。

（２）登録形態

生産工程という特徴を有する産業遺産について、同一敷地に複数の建築物を登録することは生産工程を保存することにつながり、大きな意義があると考ええる。生産工程の保存の割合について、同一住所に複数建築物が登録されている割合を算出することにより、知ることができる考えた。同じ住所にて、他に登録された建築物がある場合（他施設登録あり、図2-4）とない場合（単体）を計上した（表2-4）。産業中分類別にみると、特に醸造業が同一住所に複数件登録（86.4%）されていることが明らかとなった。続いてその他二次産業（69.7%）、繊維業（65.6%）、第一次産業（53.1%）、鉱業（27.3%）であった。醸造業は貯蔵する期間が生産工程にあり、複数の蔵から成り立つために複数登録が多いと考える。また第一次産業に比べると、製造業は材料の保管から製造施設、住宅などより複雑な生産工程を有するために複数登録が多いと考えた。一方で、鉱業は製造業にもかかわらず複数登録の割合低く、登録文化財制度を用いて面的に保護しづらい特徴を有していると推察する。

表2-4 産業種別の同一住所の登録形態

	単体	他施設登録あり	複数登録の割合（%）
第一次産業	30	34	53.1
鉱業	8	3	27.3
醸造業	108	689	86.4
繊維業	33	63	65.6
その他二次産業	33	76	69.7
総計	212	865	80.3

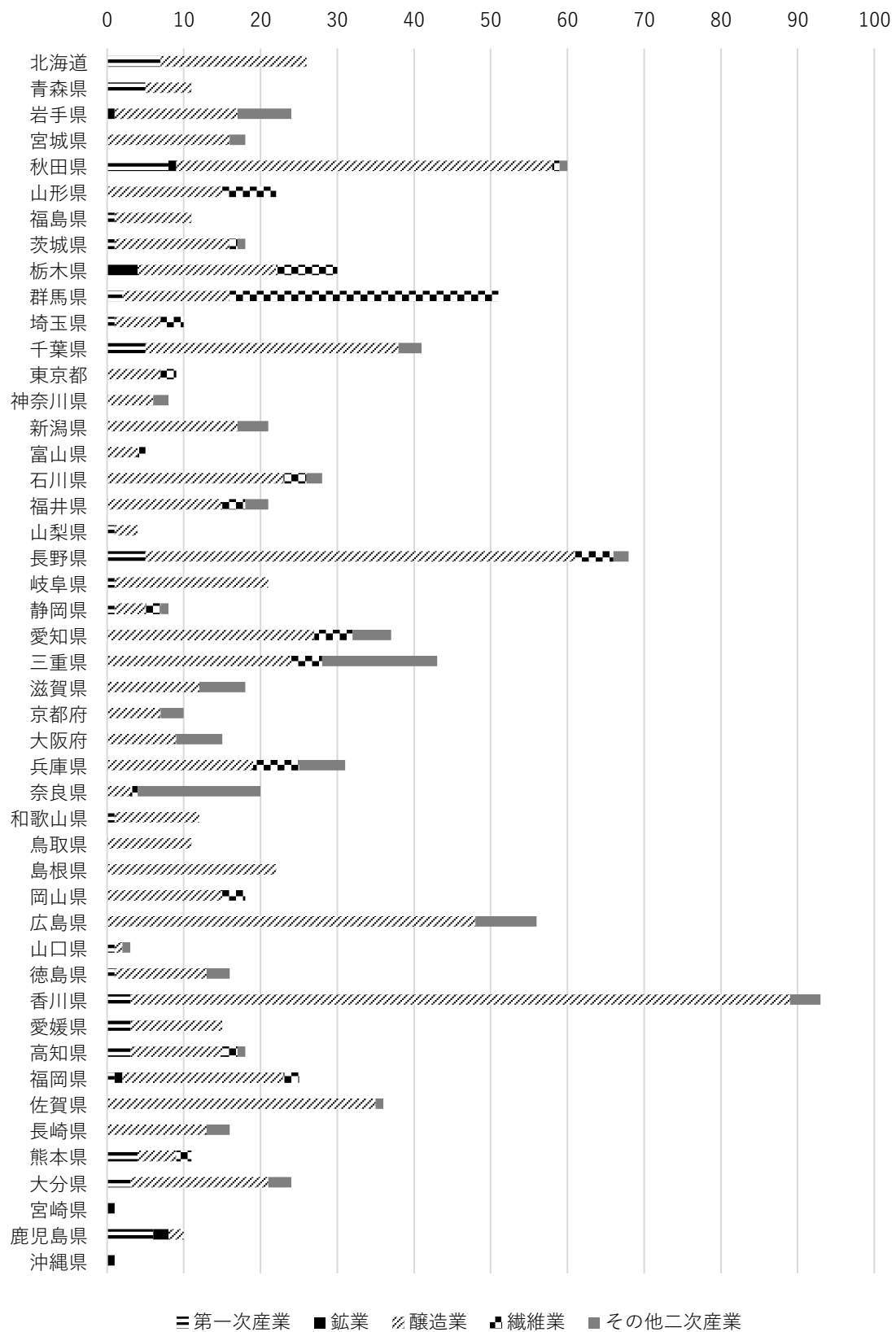


図2-3 都道府県別に計上した登録件数



図 2 - 4 同一住所内に複数件登録された世嬉の一酒造場（醸造業）の建築物群¹⁷

2 - 3 - 2. 建築物の物理的要素

(1) 主構造

建築物の構造を主構造として、「木造」、「土蔵造」、「煉瓦造」、そして石造やコンクリートブロック造の「その他組積造」、「木骨組積造、鉄骨組積造、鉄骨造」、「鉄筋コンクリート造」に区分した（表 2 - 5）。木造が 545 件と最多で、次いで土蔵が 408 件と多い。3 番目に多い煉瓦造は 54 件あり、すべての産業中分類で確認できた。産業中分類別にみた際の特徴として、醸造業は土蔵造の蔵が多いことが明らかとなった。また、醸造業の煉瓦造は、ビールといった近代産業以外にも、伝統産業の酒造も含む。

表 2 - 5 産業中分類別の主構造の件数

	第一次産業	第二次産業				総計
		鉱業	醸造業	繊維業	その他	
木造	47	5	358	60	75	545
土蔵造	5		376	12	15	408
煉瓦造	3	2	30	10	9	54
組積造（その他）	6	2	13	8	2	31
木骨組積造、鉄骨組積造、鉄骨造	1	1	14	3	2	21
鉄筋コンクリート造	2	1	6	3	6	18
総計	64	11	797	96	109	1077

(2) 面積

産業中分類別にみた面積分布を箱ひげ図で示した（図 2 - 5）。全産業を通して 75% の事例が約 500 m² に収まっており、産業別に大きな差は判断できなかった。鉱業では産業過程の特徴上大規模構造物が多いと予想した。しかし、産業種別で面積の差が表れている様子がなく、醸造業は幅広い面積が確認された以外は、産業の特徴と登録される建築物の面積は必ずとも一致しないと推察される。なお、図作成を行ったエクセルでは、ひげの長さが四分位

範囲の1.5倍を上下限としており、それより外側に分布した値を特異点として示している。

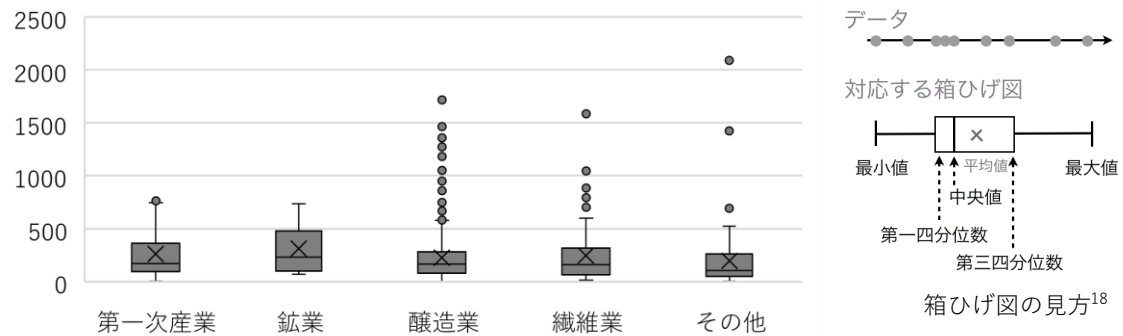


図2-5 産業中分類別の面積分布

また、主構造と面積を見てみると、1,000 m²を超える大規模建築物は木造7件、煉瓦造6件、土蔵造5件、RC造1件、木骨組積造1件が確認された。煉瓦造や鉄筋コンクリート造といった近代材料以外の主構造にも、大規模建築物があることが整理された。図2-6にて主構造別の面積分布を箱ひげ図にて示した。鉄筋コンクリート造を除き、75%が500 m²以内に収まっている。鉄筋コンクリート造においても、50%以上が500 m²に収まっていた。

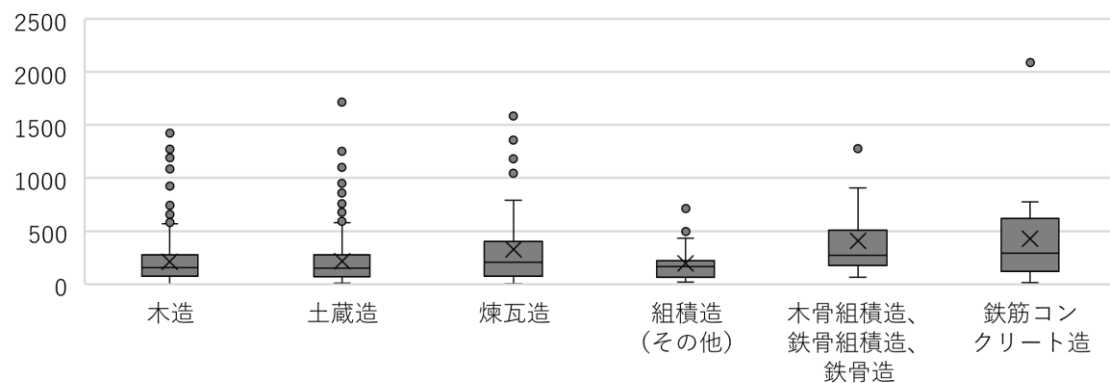


図2-6 主構造別の面積分布

また、醸造業を除いた主構造別の面積分布は、図2-7のようになった。図2-6と比べると、特異点が減っている以外に、面積分布における大きな変化はみられない。よって、醸造業の登録文化財は数が多いものの、面積という物理的要素の面では全面的に分布しており大きな偏りを持っていないと言える。

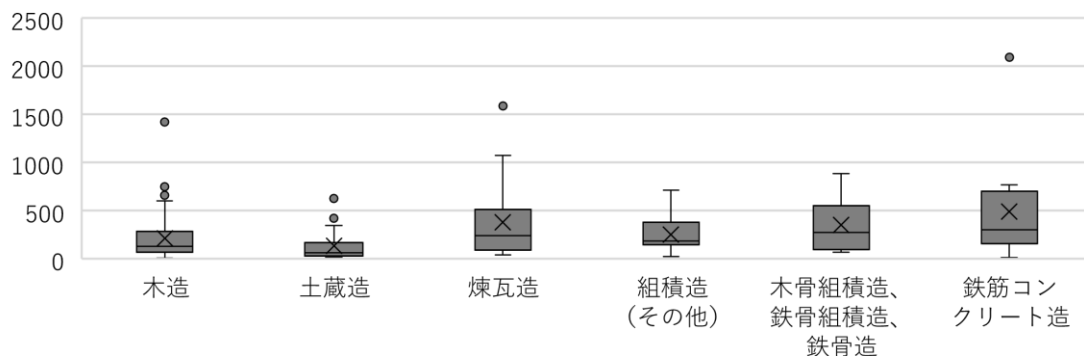


図 2 - 7 醸造業を除いた場合の主構造別の面積分布

(3) 登録基準

国の登録文化財は、原則として建設後 50 年を経過し、次の 3 つの登録基準のいずれかに該当して登録される。「国土の歴史的景観に寄与しているもの(以下「歴史的景観」)、造形の規範となっているもの(以下「造形の規範」)、再現することが容易でないもの(以下「再現」)」である。主構造別に登録基準をみると、木造は「歴史的景観」を評価される(83.7%)一方で「再現」は 2.4%だが、煉瓦造では「造形の規範」(13.0%)、「再現」(9.3%)、また木骨組積造では「造形の規範」(14.3%)、「再現」(14.3%)であった。現在新築されることのない構造に関しては、「歴史的景観」以外の建築技術的な面も高く評価されていると言える。鉄筋コンクリート造は現在、新築にも用いられる構造であるが、登録文化財では「歴史的景観」(55.6%)以外の、特に「造形の規範」(38.9%)が評価されている。これは、解説文にて「端正なモダニズム建築(旧釜石鉱山事務所)」、「丹下の初期作品の特徴が見られる佳品(墨会館)」、「会社の製品見本を兼ねた記念的建築物(小野田セメント山手倶楽部)」、「戦前期モダニズムの影響が認められ、県内の鉄筋コンクリート造住宅として最初期の遺構(淡翁荘主屋)」、「離島における初期鉄筋コンクリート建築として貴重(鹿島村離島住民生活センター)」と説明されるように、モダニズム建築や新技法として評価されていることがわかる。

表 2 - 6 主構造と登録基準

主構造	歴史的景観		造形の規範		再現		総計
	件数	%	件数	%	件数	%	
木造	456	83.7	76	13.9	13	2.4	545
土蔵造	353	86.5	38	9.3	17	4.2	408
煉瓦造	42	77.8	7	13.0	5	9.3	54
組積造(その他)	23	74.2	8	25.8	0	0.0	31
木骨組積造、鉄骨組積造、鉄骨造	15	71.4	3	14.3	3	14.3	21
鉄筋コンクリート造	10	55.6	7	38.9	1	5.6	18
総計	899	83.5	139	12.9	39	3.6	1077

また、産業中分類別の登録基準をみると（表2-7）、鉱業以外では「歴史的景観」、「造形の規範」、「再現」の順、鉱業では「造形の規範」、「歴史的景観」の順に評価されていた。鉱業の「造形の規範」6件をみると、鉄筋コンクリート造1件、煉瓦造1件、木骨煉瓦造1件、木造3件であった。木造は表2-6から「歴史的景観」を評価されることが多いが、鉱業の登録文化財では事務所や迎賓館の洋風建築、モダニズムの点が評価されていた。その結果、鉱業では「造形の規範」の割合が高くなったと考えられる。

しかし鉱業は11件と登録数が少なく、鉱業以外の産業中分類では「歴史的景観」、「造形の規範」、「再現」の順に評価されていた。このことから、産業遺産の建築物は、産業種別よりも構造という物理的要素の方が評価と結び付いている可能性がある。

表2-7 産業中分類別の登録基準

主構造	歴史的景観		造形の規範		再現		総計
	件数	%	件数	%	件数	%	
第一次産業	45	70.3	17	26.6	2	3.1	64
鉱業	5	45.5	6	54.5	0	0.0	11
醸造業	679	85.2	86	10.8	32	4.0	797
繊維業	81	84.4	12	12.5	3	3.1	96
その他二次産業	89	81.7	18	16.5	2	1.8	109
総計	899	83.5	139	12.9	39	3.6	1077

2-3-3. 活用状況

(1) 産業種別

活用状況の現役稼働、転用、活用なし、不明の4区分について、産業中分類別に図2-8、表2-8に示す。醸造業において最も現役稼働率が高く（68.9%）、窯業などのその他二次産業はほぼ半数（51.4%）、続いて第一次産業（15.6%）、繊維業（10.4%）、鉱業（9.1%）と、特に鉱業では現役稼働施設の登録は1件に限られていた。

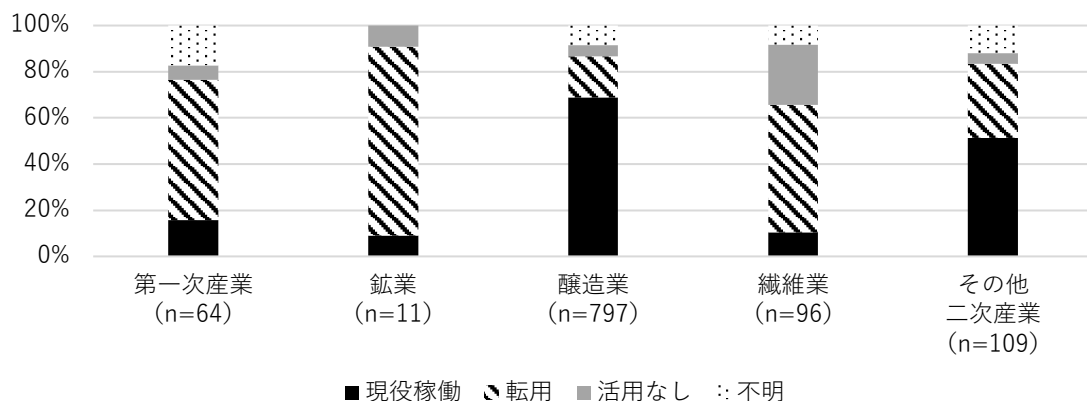


図2-8 産業中分類別に見た活用状況

表 2 - 8 産業中分類別に見た活用状況

産業中分類	第一次産業	第二次産業				総計
		鉱業	醸造業	繊維業	その他	
現役稼働	10	1	549	10	56	626
転用	39	9	142	53	35	278
活用なし	4	1	38	25	5	73
不明	11	0	68	8	13	100
総計	64	11	797	96	109	1077

酒や味噌、そして醤油に関連する醸造業は、日本全国に渡って文化財として登録されている。これは従来から継続している日本人の食生活と密接にかかわる産業であることから現役稼働の割合が高く、広範囲で登録数が多いと考える。一方、鉱業では現役稼働の登録文化財が 1 件に限られていることから、廃業した後どのように建造物を保存・活用するかという課題に面していると言えよう。

転用の割合に着目すると、鉱業（81.8%）、第一次産業（60.9%）、繊維業（55.2%）、その他二次産業（32.1%）、醸造業（17.8%）であった。現役稼働の割合が低かった鉱業、第一次産業、海外からの輸入によって国内産業が衰退した繊維業においては、今後より一層、稼働しなくなった施設の保存・活用の手立てが必要とされる。

また、鉱業は転用率が高いものの登録数が 11 件、また第一次産業も 64 件に限られている一方で、繊維業は件数が 96 件と一定数あり、かつ現役稼働率が低いことから比較的転用されやすいと言える。

（２）所有者属性別

1,077 件について、所有者属性ごとの活用状況をみた（図 2 - 9）。所有者の性格によって転用に対する意向が異なると考え、所有者属性の区分について転用の内容を予想しながら 3 つ設定した。まず、営利活動を行い、転用もその一環と思われる株式会社をはじめとした「営利法人」を置いた。次に、産業に関する博物館など公共性の高い転用を実施していると思われる市町村を含む「公共団体」を設けた。そして、各主体の転用への意向が多様と思われる個人や家族、NPO 団体といった法人を含む「個人・グループ」とした。

すると、現役稼働は営利法人所有で最も割合高く（74.8%）、一方で公共団体所有は最も低かった（13.4%）。公共団体が所有する際は、稼働を終えた後に譲渡や寄付されると共に転用されることの反映と考える。また、個人・グループ所有では活用状況が不明の割合が高く、廃業後に住宅利用がされ、公開や情報発信がされていない状況が反映されたと考える。

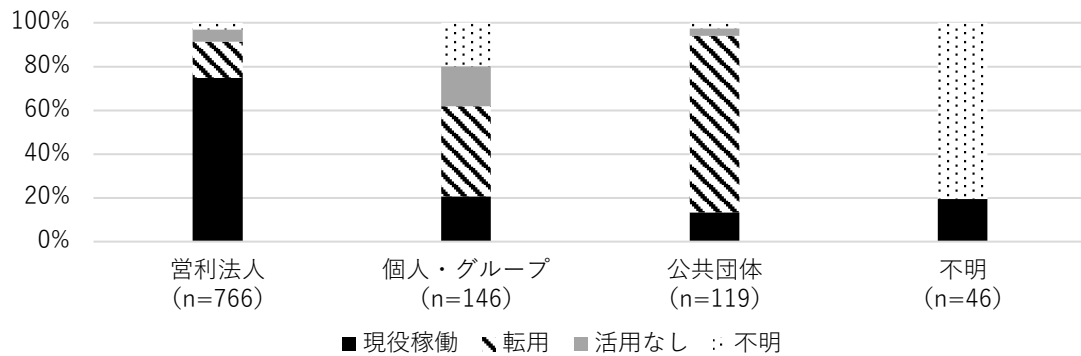


図2-9 所有者属性別の活用状況の割合

(3) 登録形態

1,077 件のうち、同一住所に複数の建築物が登録されている物件を複数件登録として、単体と複数の活用状況の割合を図示した（図2-10）。現役稼働に着目すると、単体登録33.0%に対して、他施設登録ありは64.3%を占めた。一方、転用は、単体では44.8%、他施設登録ありでは21.2%となった。これらより、単体の方が比較的転用されやすいことが推察される。

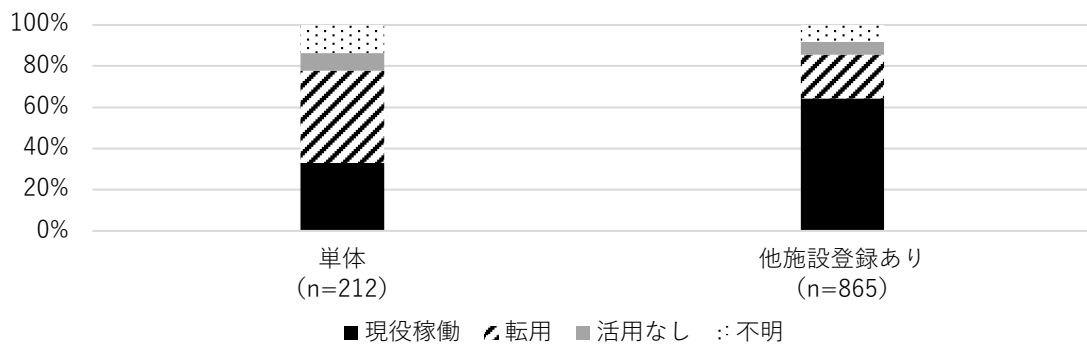


図2-10 登録形態別の活用状況の割合

(4) 面積

1,077 件の面積について、活用状況別にエクセルを用いて箱ひげ図で分布を示した（図2-11）。活用なしは、他と比較して500 m²に収まっていた。一方で、1,000 m²を超えるような大規模の場合にも、現役で稼働している物件（12 件）や転用されている物件（7 件）があることがわかる。大規模である特徴は転用されにくいと想定していたが、7 件中4 件が公共による産業に関する博物館や地域施設への転用であった。また2 件は営利法人による産業に関する博物館、飲食店への転用で、1 件は個人・グループによるホール・ギャラリーへの転用であったことから、街のシンボルと捉えられ転用に繋がるということも考えられる。

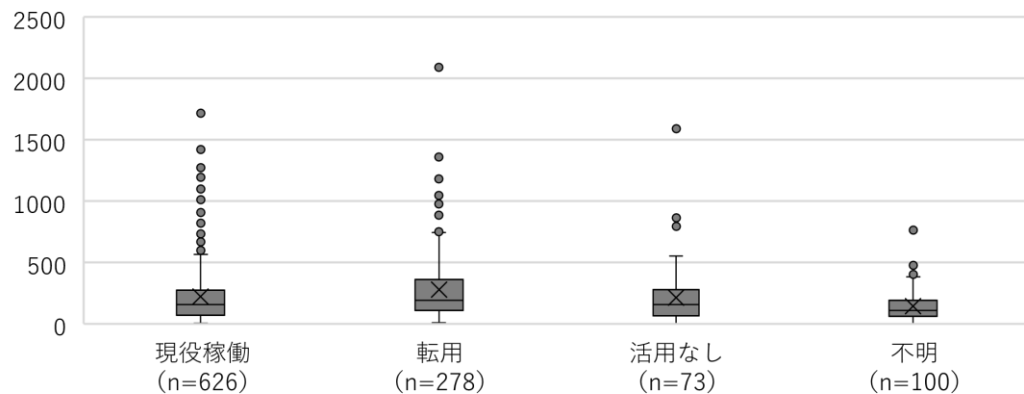


図 2 - 1 1 活用状況と面積分布

(5) 解体等による登録抹消

解体等による登録抹消となった文化財について、その解体理由に着目する。高知県安芸郡奈半利町の製糸工場にある工場倉庫と東蔵は、西蔵や石塀と共に 2000 年（平成 12 年）に登録された。2005 年（平成 17 年）に製糸事業から撤収したが、2006 年（平成 18 年）からは観光資源として一般公開を行っていた。2007 年（平成 19 年）には、経済産業省の近代化産業遺産にも認定された。しかし、2014 年（平成 26 年）に「固定資産税や維持費が重荷」¹⁹という理由から、東蔵や会社倉庫を始めとする創業時建設の建物が解体されている²⁰。現在は、跡地に太陽光発電パネルを設置し売電を行っている²¹。また、製糸事業に関する企業記念館が 2015 年（平成 27 年）に新築され開館し²²、現存する西蔵や石塀とともに観光資源となっている。

このように、活用がされていない物件の中には、解体され登録抹消された事例も確認されたことから、転用による活用の重要性を指摘したい。

2 - 4. 同一地域にある同一タイプ工場群の保存・活用状況

登録文化財の数をみると、香川県、長野県、秋田県では現役稼働率の高い醸造業が多くある中で、群馬県は転用率の高かった繊維業が多い。群馬県の繊維業の登録文化財 35 件全てが桐生市にあることから、群馬県桐生市の織物産業は、登録文化財群として特徴を有すると言える。群的に存在する登録文化財の産業遺産は、他の地域にもある。例えば香川県では、醸造業の登録文化財が 93 件あり、その中でも醤油製造が 71 件を占める。内 56 件は小豆島に位置しており登録文化財群であるものの、活用状況で明らかになったように現役稼働率が高い。また、登録文化財以外にも、例えば愛知県一宮市には数多くの織物工場がある。しかし、遺産としての認知が浸透へ向かう過程にある²³。これらの状況を踏まえると、産業遺産の転用に着目した際、群馬県桐生市のノコギリ屋根織物工場群は先駆的な位置にいると言える。

群馬県桐生市は、産業遺産の活用を市全体で積極的に取り組んできた地域として名高い。

かつては「西の西陣、東の桐生」として織物の一大産地として知られ、ノコギリ屋根を有する織物工場（図2-12）を地域の産業遺産として積極的に保存・活用をすすめて情報発信を行っている。地域内のノコギリ屋根工場に関して、残存状況を始めとした歴史や活用において調査や研究が行われている。さらに1998年（平成10年）から2014年（平成26年）にかけて、9件のノコギリ屋根工場の建築物が国の登録文化財になっている。



図2-12 ノコギリ屋根を持つ織物工場の外観²⁴と内観²⁵

現在も、市内にはノコギリ屋根が特徴的な織物工場をはじめとした産業施設が多く残存している。1993年（平成5年）に始まったファッションタウン桐生事業では、ノコギリ屋根工場を地域の資源として捉え、まちづくりに活用する機運が高まった²⁶。1994年（平成6年）には東京芸術大学の学生や卒業生、作家を中心とした団体が、桐生市を踏査したうえで展示場所やテーマを各自に決定してパフォーマンスを行う桐生再演が始まり、放置されていた工場の転用の契機となることもあった²⁷。これらの流れの中、ノコギリ屋根工場は地域の遺産として見なされることが浸透し、所有者による保存・活用事例が増加している。また、2012年（平成24年）に市場町の桐生新町が重要伝統的建造物群保存地区（以下「重伝建地区」）に選定されたように、織物に関する歴史的町並みも現存している。現在も稼働している現役稼働の織物工場とともに、転用されている元織物工場など、多様なノコギリ屋根工場が市内に散在している²⁸。

保存・活用状況について、桐生市による2004-2005年（平成16-17年）の調査で確認されたノコギリ屋根工場全リスト²⁹を用いて272件を把握した。ノコギリ屋根工場全リストには、「名称」、「所在地」として町丁目、「建築年代」、ノコギリ屋根の「連数」、「採光方位」、「採光角度」、そして所有者に聞き取りが出来た場合に「利用状況」、そして「備考」が含まれている。「利用状況」について、現用途として整理した（表2-9）。「建設当初と同じ」と書かれている場合は「現役稼働」と捉えた。また、「製鉄所」、「貸工場」との記載は「転用（工場）」とし、「住宅」や「美容室」を「転用（工場以外）」とした。そして、「倉庫」や「物置」を「転用（倉庫）」、「無使用」を「活用なし」とした。「消失」、「不明」はそのまま用いている。調査した際に把握された272件の内、既に31件は消失が確認されており、2005年時点では241件の残存が確認されたと言える。

2017年（平成29年）にも桐生市により残存状況の調査が行われたが、調査結果として公

表されている情報は 207 件という総数に限られている。そのため、ノコギリ屋根工場の総数については 2005 年（平成 17 年）のデータを用いることとした。2005 年（平成 17 年）から 2017 年（平成 29 年）の 12 年の間に、34 件が消失したことがわかる。

表 2－9 ノコギリ屋根工場全リストの調査結果（2005 年時）と現用途

現用途	ノコギリ屋根工場全リストの利用状況における表記	件数
現役稼働	建設当初と同じ	50
転用（工場）	鉄工場、貸工場、金属加工、繊維加工など	46
転用（その他）	住宅、貸店舗、アトリエ、参考館など	22
転用（倉庫）	倉庫、物置、駐車場	66
活用なし	無使用	10
不明	－	47
消失	消失	31
総数		272
（現存が確認できた総数）		（241）

すると、2005 年時には現役稼働が 50 件、そして他の工場への転用が 46 件あった。繊維業では採算が合わなくなると繊維業以外への転換が行われ、特に 1990 年時点で桐生市境野では転換が進んでいたと指摘されている³⁰。工場内部の機械を入れ替えれば他の産業へ移行できるため、比較的選択されやすいと考える。また、最も多かった現用途は、倉庫や物置への転用（66 件）であった。ノコギリ屋根工場の消失前の用途として、駐車場、倉庫、物置が挙げられている³¹。転用（倉庫）や無使用の 76 件は今後消失する危険性が無視できず、転用の必要性が改めて確認された。

ノコギリ屋根工場全リストの調査が行われた後に活用状況が変化しているため、現在の転用状況を把握するため、転用事例について 2013－2017 年（平成 25－29 年）にかけて現地調査、桐生市の公式ウェブサイト³²ならびに文化財保護課へのヒアリング調査を行った。その結果、所有者や建築物の情報を公開している 25 件を把握した（表 2－10）。

現用途をみると、工場への転用以外にも、商業など積極的な転用が確認された。一方で倉庫や駐車場といった言わば消極的な転用もみられた。

表2-10 桐生市のノコギリ屋根工場の転用事例表（2017年時）

No.	現用途	登録文化財	他施設の登録状況	所有者・事業者
1	教室	○	事務所、蔵	個人・グループ（個人）
2	倉庫	○	なし	営利法人（株式会社）
3	商業	○	事務所、染色場、住宅主屋、蔵	営利法人（有限会社）
4	倉庫	-	なし	営利法人（株式会社）
5	アトリエ	-	なし	個人・グループ（グループ）
6	倉庫	-	旧工場、旧寄宿舎	営利法人（株式会社）
7	美容室	-	なし	個人・グループ（賃貸個人）
8	販売	-	なし	個人・グループ（賃貸個人）
9	住宅	-	なし	個人・グループ（個人）
10	博物館	○	旧釜場、旧寄宿舎、旧事務所、 旧土蔵、旧撚糸場、旧物置、工場	営利法人（株式会社）
11	博物館	○		営利法人（株式会社）
12	商業	-	なし	営利法人（有限会社）
13	商業	-	なし	営利法人（有限会社）
14	商業	-	なし	営利法人（有限会社）
15	工場(織物関連)	-	なし	個人・グループ（個人）
16	駐車場	-	なし	営利法人（株式会社）
17	倉庫	-	なし	個人・グループ（個人）
18	幼稚園	-	なし	公共団体（学校法人）
19	美容室	○	(種別1の住宅にて住宅、蔵が登録)	営利法人（株式会社）
20	工場(織物関連)	-	なし	個人・グループ（個人）
21	教室	-	なし	個人・グループ（個人）
22	博物館	○	なし	個人・グループ（個人）
23	工場(織物関連)	-	なし	営利法人（有限会社）
24	工場(織物以外)	-	なし	個人・グループ（個人）
25	工場(織物関連)	-	なし	営利法人（有限会社）

2-5. 結論

第2章では、産業遺産の全国的な保存・活用状況について、登録文化財の枠組みを用いることで把握した。

登録文化財の種別1にて産業1次、産業2次に分類される1,288件から、登録文化財の産業遺産建築物として1,077件が得られた。保存・活用の実態を明らかにするために、産業種別、建築物の物理的要素、活用状況の面から現状整理を行った。明らかになった産業遺産の保存・活用の現状をまとめると、以下の点に要約できる。

産業種別からは、都道府県別に登録数の相違点が見られた。第一次産業は東北地方、繊維業は群馬県、その他二次産業は奈良県、醸造業は香川県・長野県・秋田県において、他の地域や都道府県と比較して、遺産として認知が高く広まっている特徴が現れた。全国的に醸造業の登録件数が最多であった。産業種別に登録形態に着目すると、醸造業において同一住所に複数施設が登録されており（86.4%）、一方鉱業では単体での登録が多かった。

建築物の物理的要素として、主構造、面積、登録基準から整理を行った。主構造別に登録

基準をみると、木造や土蔵造では「歴史的景観」が評価されるのに対し、煉瓦造や組積造（その他）、木骨組積造や鉄筋コンクリート造では「造形の規範」や「再現」が評価されていた。近代素材について、木造や土蔵造とは異なる価値の見出し方をしていると言える。面積に着目すると、20 件が 1,000 ㎡を超える大規模面積を有していた。木造 7 件（35.0%）と最多で、煉瓦造 6 件（30.0%）であった。大規模面積に着目すると全体の分布に比較して煉瓦造が多くなったが、産業種別に面積をみると際立った偏りはみられなかった。産業種別に主構造をみると、醸造業では土蔵造が多かったが、他に大きな偏りはみられず木造が最多であった。これらより、産業種別ではなく物理的要素を用いて、産業遺産の建築物の転用を分析することが適切だと考えた。

活用状況は、産業種別による差がみられた。醸造業は現役稼働率が高く（68.9%）、一方で鉱業、第一次産業、繊維業では転用率が高いことが明らかになった。日本人の従来からの食生活と密接に関係する醸造業は、保存のために産業の継続というアプローチが有用であろう。鉱業や第一次産業、繊維業といった現役稼働率の低い産業は、国外からの輸入に頼るようになっている。そのため、用途を失った建築物に対する保存・活用のための手立てが今後特に必要となるといえる。また、活用状況を所有者属性別にみると、現役稼働率は営利法人所有で最も高く（74.8%）、公共団体所有では最も低かった（13.4%）。転用率は公共団体所有が最も高かった（80.7%）。公共団体所有は、稼働を終えた後に自治体へ譲渡・寄付されることからだと考える。また、同一住所の単体・複数の登録形態を活用状況別にみたところ、単体の方が比較的転用されやすいことが推察された。

登録数と産業種別、そして活用状況から、香川県、長野県、秋田県では現役稼働率の高い醸造業が多くある中で、群馬県は転用率の高い繊維業の登録数が多く特徴的であった。桐生市の繊維業の文化財が多く含まれた結果であり、産業遺産の転用に着目した際に、群馬県桐生市のノコギリ屋根工場群が重要な位置を占めていると言える。転用事例を把握すると、織物工場から他の工場への転用、商業といった積極的な転用、そして消失前の用途とも指摘されている倉庫へのいわば消極的な転用がみられた。

以上、第 2 章では登録文化財の枠組みを用い、保存・活用されている産業遺産の現状把握を行った。産業遺産に慣例的に用いられる産業種別にみると、現役稼働率と転用率は特徴が明らかであった。しかし、建築物の物理的要素を産業種別に見ると、醸造業の土蔵造が多かったことその他には明らかな偏りが見出せなかった。このことから、産業遺産の建築物の転用について分析する際には、産業種別ではなく建物の物理的要素を用いることが適当だと考えた。

補注及び参考文献

- ¹ 村澤祐城, 田中直人: 近畿4府県における登録有形文化財の現状調査 ～歴史的建築物の有効活用に関する研究～, 平成24年度日本建築学会近畿支部研究発表会, pp.881-884, 2012年
- ² 村澤祐城, 田中直人: 近畿4府県における登録有形文化財管理者の意識 ～歴史的建築物の有効活用に関する研究～, 平成24年度日本建築学会学術講演梗概集(東海), pp.515-516, 2012年9月
- ³ 前田太志: 登録有形文化財建造物の保存および活用に関する研究, 日本建築学会東海支部研究報告書 第50号, pp.785-789, 2012年2月
- ⁴ 文化庁: 国指定文化財等データベース,
<http://kunishitei.bunka.go.jp/bsys/index_pc.html>, 2019年9月1日アクセス
- ⁵ 登録文化財の種別1は、産業1次、産業2次、産業3次、交通、官公庁舎、学校、生活関連、文化福祉、住宅、宗教、治山治水、その他、の12区分。
- ⁶ 2017年(平成29年)1月1日時点のデータベースからの変化として、新規登録84件、登録抹消16件(重要文化財指定による登録抹消6件、解体等による登録抹消10件)、データベース上からの記載消失1件(理由不明)を確認した。
- ⁷ 文化庁, 前掲書に同じ
- ⁸ 登録文化財の種別2は、建築物、その他工作物、土木構造物、の3区分。
- ⁹ (i)国の歴史的景観に寄与しているもの、(ii)造形の規範となっているもの、(iii)再現することが容易でないもの。
- ¹⁰ 登録文化財の建設時代は、江戸、明治、大正、昭和の4区分。
- ¹¹ 所有者に関しては、国指定文化財等データベースにて601件の記載が確認できた。残りは自治体公式ウェブサイトを確認した。
- ¹² 森嶋俊行: 近代化産業遺産の保存と活用に関する政策的対応の比較, E-journal GEO 9(2), pp.102-117, 2014年。を参照し、産業中分類として、「第一次産業、鉱業、醸造業、繊維業、二次その他、第三次産業、交通、土木、軍事産業」の9つに分け、うち「第一次産業、鉱業、醸造業、繊維業、その他」を対象とした。
- ¹³ 森嶋, 前掲書に同じ。を参照し、産業小分類として、「農業、林業、水産業、一次その他、鉱業、醸造業、繊維業、窯業、重化学工業、二次その他、三次、鉄道、道路、水運、通信、交通その他、エネルギー、水道、防災、土木その他、教育、宗教、文化、行政、医療、住宅、建築その他、軍事施設、その他」の29に分けられ、うち「農業～二次その他」を対象とした。
- ¹⁴ 主構造として、木造、土蔵造、煉瓦造、組積造(その他)、木骨組積造・鉄骨組積造・鉄骨造、鉄筋コンクリート造、に区分した。
- ¹⁵ 活用の形態を知るため、現役稼働、転用(異なる用途での活用)、活用なし、不明、の4区分を設けた。

- ¹⁶ 資料編参照
- ¹⁷ Google map と国指定文化財等データベースを参考に筆者作成
- ¹⁸ 高校数学の美しい物語：箱ひげ図の意味，<<https://mathtrain.jp/hakohige>>，2019 年 7 月 15 日最終更新，2020 年 4 月 1 日アクセス
- ¹⁹ 47NEWS：藤村製糸跡 大半解体へ 維持費が重荷に，高知のニュース，<http://www.47news.jp/localnews/kochi/2013/09/post_20130929155341.html>，2013 年 9 月 29 日更新，2020 年アクセス時消失を確認。
- ²⁰ 平井東幸：シルク遺産を訪ねて（34）高知県の藤村製絲記念館－百年の歴史を後世に伝える－，シルクレポート No.55，pp.15-18，2017 年 10 月：16-17
- ²¹ 平井：2017 年 10 月，前掲書：17
- ²² 平井：2017 年 10 月，前掲書：17
- ²³ 2020 年 8 月 17 日に、葛利毛織工業株式会社の施設群が初めて登録された。
- ²⁴ 筆者撮影（2016 年 12 月）
- ²⁵ 筆者撮影（2018 年 6 月）
- ²⁶ 呉鎮宏：地方都市における産業遺産とまちづくり－群馬県桐生地域を事例にして－，早稲田大学大学院教育学研究紀要 別冊 22 号－2，pp.129－139，2015 年
- ²⁷ 桐生商工会議所：2004 わがまち風景賞 桐生森芳工場，<<https://www.kiryucci.or.jp/FT/2004moriyosi.htm>>，2017 年 9 月 20 日アクセス
- ²⁸ 中井陽子：桐生市における産業遺産の転用方法，日本建築学会大会学術講演梗概集（九州），pp.619－620，2016 年
- ²⁹ 平成 17 年 3 月経済産業省関東経済産業局：「ノコギリ屋根」全リスト（平成 16 年度），平成 16 年度都市再生プロジェクト推進調査費 ノコギリ屋根工場群の活用による都市再生モデル調査報告書，2005 年。
- ³⁰ 野口三郎：織布工場鋸屋根（その 10 再び桐生市と境野町の場合），1999 年度日本建築学会関東支部研究報告集，pp.609-612，1999
- ³¹ 小林美早樹，星和彦：桐生の鋸屋根工場に関する現況調査 地域資産を活かしたまちづくりに関する調査研究－1，日本建築学会関東支部研究報告集，pp.597-600，2004
- ³² 桐生市：ノコギリ屋根工場，<<http://www.city.kiryu.lg.jp/sangyou/nokogiri/index.html>>，2017 年 9 月 20 日アクセス

第3章 産業遺産の新たな用途と建築物の関係

3-1. 本章の目的.....	91
3-2. 方法.....	91
3-3. 産業遺産の新たな用途と建築物の項目設定.....	92
3-3-1. 群馬県桐生市のノコギリ屋根工場群を対象にした項目の検討.....	92
(1) 織物産業の歴史.....	92
(2) 新たな用途と建築物の項目の検討.....	96
3-3-2. 登録文化財の産業遺産の建築物を対象にした項目設定.....	100
3-4. 所有者別の新たな用途と建築物の条件の関係.....	110
3-4-1. 営利法人所有.....	110
(1) 全体.....	110
(2) 所有者・事業者の変更を伴う新たな用途.....	114
(3) 所有者や事業者に変更がない新たな用途.....	118
3-4-2. 公共団体所有.....	122
3-4-3. 個人・グループ所有.....	126
3-5. 新たな用途と建築物の関係に関する所有者別のまとめ.....	130
3-5-1. 営利活動状況.....	130
3-5-2. 公開状況.....	134
3-6. 結論.....	140
補注及び参考文献.....	142

3-1. 本章の目的

転用時の新たな用途に着目し、建築物の条件との関係について、不動産として評価される物理的要素を用いて定量的に明らかにすることを本章の目的とする。産業遺産の転用された建築物を表す項目について、第1章で整理された特徴や第2章で得た結果、そして既往研究や事例を参考に、検討ならびに設定を行う。まず、所有者が新たな用途を決定するという点、そして活用は用途と所有者を一体的に検討すべきだという指摘¹を把握した。そこで、所有者の属性によって新たな用途に対する意向が異なると捉え、現所有者属性別に分析を行う。

3-2. 方法

産業遺産の転用は、産業遺産の建築物が包含する多様さに新たな用途の幅が加わり、更に多様となる。新たな用途と建築物の条件について定量的に扱うためには、用途と建築物を表す項目と指標を検討する必要がある。歴史的建造物や既存建築物の転用の改修設計や転用可能性について論じる研究では、用途や所有者、建築物の物理的な項目をそれぞれ個別に設けており、確立した項目設定方法はみられなかった^{2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10}。

そこで項目や指標の設定の前段階として、まず、同地域にある同一タイプ建築物の転用群と現役稼働工場の比較から検討を行う。対象は第2章にて抽出された、群馬県桐生市のノコギリ屋根工場群とした。そして、関連する可能性が予想される基本的な項目を抽出した。

続いて、第2章で得られた登録文化財の産業遺産の転用事例278件において、用途と関連する建築物の項目や指標の検討を行った。その際、産業遺産という点を加味すべく、産業遺産建築物の特徴を踏まえる必要がある。第1章にて特徴として、規模や構造、また機械を内包する空間や、複数の建築物が生産工程を成すという点が整理された。また、転用時の新たな用途をみると、飲食店やギャラリーなど、来訪者を期待する用途が多くみられた。よって産業遺産の特徴以外にも、来訪者の見込みの検討が可能となるようにする必要がある。これらの、産業遺産の建築物、そして来訪者という両方の観点を持ちながら、項目を設定した。

そして設定した項目や指標を用いて、用途と建築物の関係について数量化Ⅱ類^{11, 12, 13, 14}により定量的に把握した。

本研究にて数量化Ⅱ類による分析を用いることにより、新所有者属性ごとに、用途に対して建築物のどの項目やその中の指標が関連しているか解釈が可能となる。例えば、営利法人所有の新たな用途は、営利活動ありと営利活動なしのグループに分かれるとする。すると、ある事例をどちらかのグループに振り分ける際に、どの項目や指標が強く関係するか、つまり新たな用途と建築物の関係を解釈することが可能となる（図3-1）。多変量解析の被説明変数ならびに説明変数は、3-3-2.にて検討した項目および指標を使用し、所有者属性ごとに分析を行う。

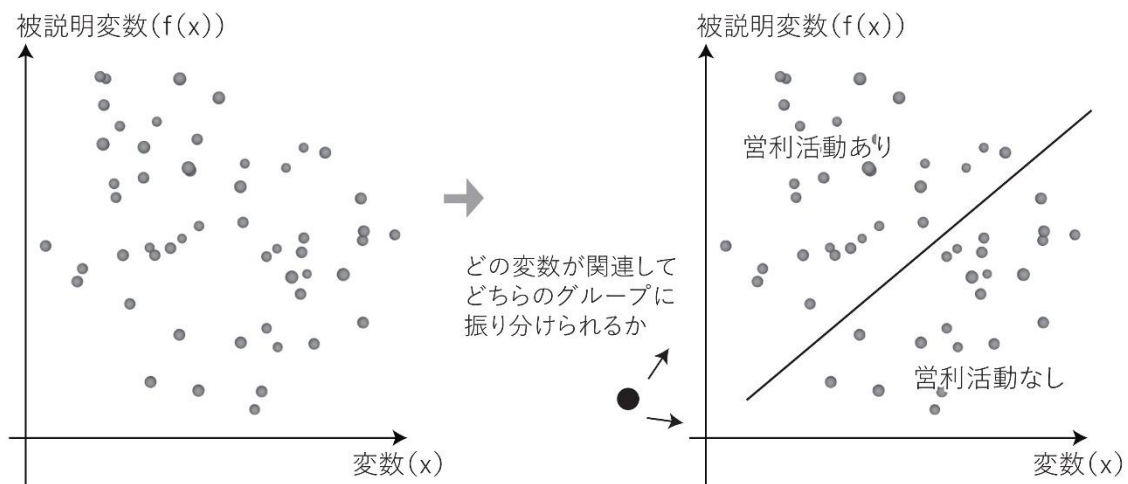


図 3 - 1 営利活動状況に対して数量化Ⅱ類分析を行うイメージ

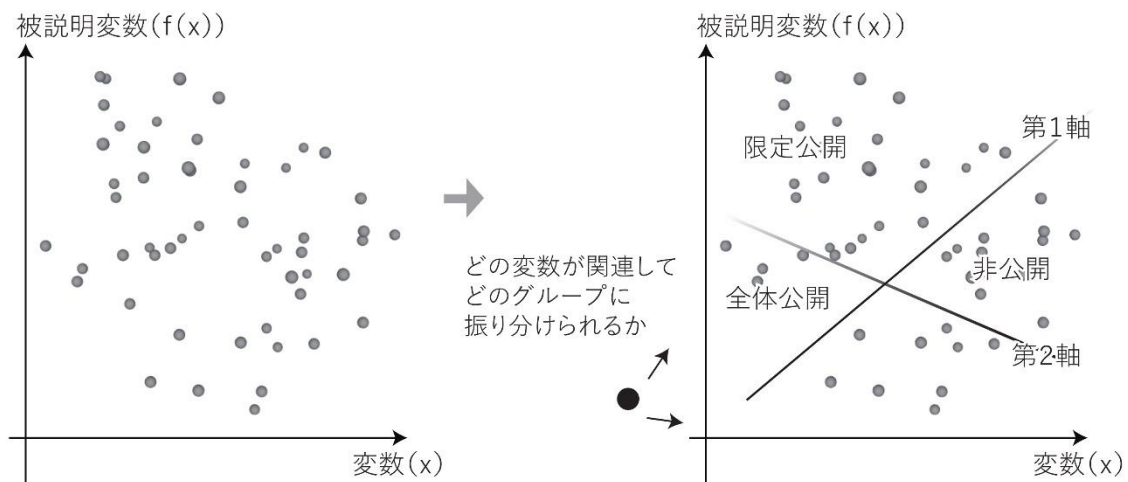


図 3 - 2 公開状況に対して数量化Ⅱ類分析を行うイメージ

3 - 3. 産業遺産の新たな用途と建築物の項目設定

3 - 3 - 1. 群馬県桐生市のノコギリ屋根工場群を対象にした項目の検討

(1) 織物産業の歴史

桐生市に残存するノコギリ屋根工場群について、織物産業の発展とその工場の特徴について概観する。桐生はまちの背後に日光連山や根本山系を抱え、それらから流れる桐生川と渡良瀬川の開析によって形成された扇状地上に立地している（図 3 - 3）。近世以前から農業の合間に織物業が行われており、近世初頭に市場町の桐生新町が建設され、山地と平野部の連結点として段階的に発達し、織物産業も技術面にて発展を遂げていく（図 3 - 4）。

近世に、当時織物業の先駆者であった京都の西陣から高機による紋織技術を導入し、それが普及した。近代に入り、紋織の模様を定める空引き装置が機械式のジャガード装置に取っ

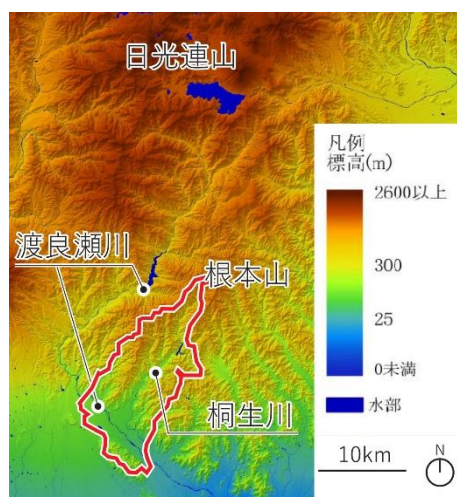


図 3-3 桐生地域と周辺地形図¹⁵⁾

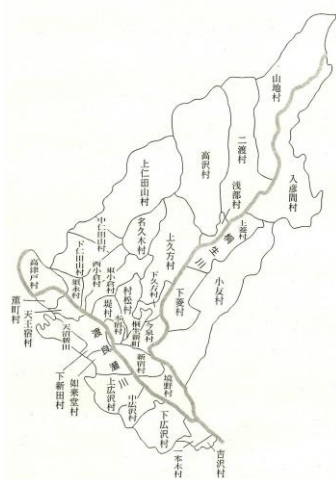


図3-4 近世期町村図¹⁶

て代わられたことにより、織物業が地域の産業として知られるようになっていく¹⁷。さらに、先染め糸を用いた紋織技術の導入といった、技術面において更なる発展があった。それにより御召という高級絹織物が生産され¹⁸、隆盛期であった寛政から天保前半には「西の西陣、東の桐生」と評価されるに至った。豊かな水資源を利用した八丁撚糸機の開発など、水力により稼働させた撚糸業も発達し、先染織物を可能とした。

繊維業の各工程にて重層的に桐生地域は発達し、関東地方における織物をけん引した地域と言える。特に、桐生川から取水する大堰用水のエリアは御召の生産に特化し、渡良瀬川から取水する赤岩用水エリアは大量生産に対応していた¹⁹。水車は、織物製造の準備工程である糸繰・撚糸や染色などに利用されていたが²⁰、やがて電力による機械の運用がすすみ、1933 年（昭和 8 年）に最後の水車風景が写真に撮られたのを最後に姿を消した²¹。それに伴い、水路も役目を終えていった（図 3-5）。



図3-5 明治時代の新宿通り²²

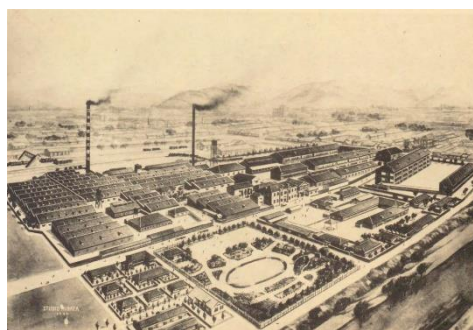


圖 3-6 日本絹撚株式會社全景²³

製織工程では、ジャガードを織機の上に設置するため天井高が必要であり、妻屋根よりも効率よく高さが確保でき、かつ採光も可能なノコギリ屋根の形態が採用された。1890 年（明治 23 年）には桐生で最初のノコギリ屋根工場が²⁴、そしてその後次々とノコギリ屋根工場

は建設されていった。当時の繁栄具合は昭和の流行語である「ガチャマン」にも表れている。これは、織機の稼働する際の「ガチャガチャ」という音の一織分「ガチャ」につき、一万円という揶揄である。当時は桐生の至る所から織機の稼働音が鳴り響いており、現在も現役稼働工場へ訪れるとその音を聞くことができる。転用事例の事業者からは、「工場の音が大きいから、桐生の人は話す声が大きい」といった話も聞かれた²⁵。

しかし、戦後から織物産業は需要の減少や海外への工場移転、機械金属工業への基幹産業の移行も相まって、縮小していった。ノコギリ屋根工場も、1989年（平成元年）から2003年（平成15年）にかけて305棟から268棟²⁶、2017年（平成29年）には207棟に減少している。しかし、今なお生産が続けられており、織物業は桐生の地場産業と言える。

表3-1 桐生市の織物産業の歴史概要（1/2）^{27, 28, 29, 30, 31, 32, 33, 34, 35}

年号	西暦	出来事
近世以前		居坐機、農業の合間 養蚕・製糸・絹織物未分化 農家の副業 買継商主導
元文3年	1738	西陣から高機導入し、桐生に普及
		縮緬の導入 それまで後染用生地が主流で、仕上げ工程が重要であった シボ（凹凸）のために 強い撚りが必要→撚糸法 精錬して生地を縮ませる必要→精錬法 の技術が必要となり、梁屋・張屋への需要が高まる
1866-1735		梁・張が京都から伝来し、桐生内にも梁屋・張屋が出現 市場では原料糸を調達する織屋が出現し、製糸と製織の分化の兆し
		梁屋・張屋の展開 撚糸業の専門化 専門的機屋、生産工程の分化 雇用された奉公人の工程別配置など、工程別に専門者が現れる
近世後期		全国市場に産地の織物製品を販売する産地問屋的商人が表れる 桐生においても織物の需要が高まる
天明3年	1781	水力八丁撚糸機の考案 水力を用いて大量の撚糸が可能となった
天明6年	1784	西陣から先染紋織技術を導入 染糸で織り、高級絹織物「御召」ができる より一層の撚糸業の発達 下撚、揚撚業者への分化
寛政・天保前半	1789-1838	後染・先染の多用な織物により、「東の西陣」の名声 織屋仲間の結成 マニファクチュア経営 外部市場による発展
	1855頃	欧州で蚕の病気が蔓延し、日本の輸出の需要高まる
安政6年	1859	横浜開港、洋糸の導入

表3-2 桐生市の織物産業の歴史概要(2/2)

年号	西暦	出来事
明治21年	1888	両毛線桐生停車場(駅)が設置 横浜港へ運ばれ輸出货量増加
明治22年	1889	桐生町誕生
明治23年	1890	ノコギリ屋根工場が桐生に現れる 電動モーターが出現し、水車や八丁撚糸機が減少
明治35年	1902	現存する最古のノコギリ屋根工場が建てられた
	1913	桐生御召売れる
	1919頃	煉瓦造のノコギリ屋根工場が建てられる
大正10年	1921	桐生市誕生 市政・町村制改正交付
	1925-1930	ノコギリ屋根工場が盛んに建設
	1925頃	鉄筋コンクリート造のノコギリ屋根工場が建てられる
昭和8年	1933	桐生市に境野村が入る
昭和10年頃	1935頃	ノコギリ屋根工場盛んに建設 海外向け製品が盛んにつくられた
昭和12年	1937	桐生市に広沢村が入る
昭和29年	1954	桐生市に梅田村、川内村、相生村が入る
	1950-60前後	ノコギリ屋根工場盛んに建設
昭和34年	1959	桐生市に菱村が入る
	1960頃	戦後・桐生御召売れる、ガチャマン景気
昭和43年		桐生市に栃木県安蘇郡田沼町が入る
昭和44年	1969	ノコギリ屋根工場はこれ以降新築されなくなる
平成2年	1990	野口三郎がノコギリ屋根工場の現存状況を調査・報告
平成3年	1991	全国的な繊維業生産量のピーク
平成5年	1993	ファッションタウン桐生事業「産地再生の試みと地域計画の連動」として、 繊維産地活性化に向けた旧通商産業省の戦略として選ばれる
平成6年	1994	桐生再演1が行われる
平成9年	1997	ファッションタウン事業推進母体「ファッションタウン桐生推進協議会」発足
平成12年	2000	ノコギリ屋根工場は359棟が確認され、うち54が解体、現存305棟
平成15年	2003	商工会議所による「のこぎり屋根」全リストにて、268棟が確認される
平成16年	2004	平成16年度都市再生プロジェクト推進調査費：ノコギリ屋根工場群の活用 による都市再生モデル調査報告書にて新たに4棟確認され、272棟
平成18年	2006	桐生再演12が行われ、ノコギリ屋根工場のリノベーションパフォーマンスが 注目を集める
平成20年	2008	233棟確認される
平成24年	2012	重要伝統的建造物群保存地区として「桐生新町」が選定される
平成29年	2017	207棟確認される

(2) 新たな用途と建築物の項目の検討

これらの同一地域にある同一タイプ建築物の転用群を用い、産業遺産の転用を表す項目について検討を行う。第2章にて把握した群馬県桐生市のノコギリ屋根工場の転用事例 25 件（表3-3中 No.1~25）に、桐生市ウェブサイト³⁶にて建築諸元が公開されている現役稼働工場 6 件（表3-3中 No.26~31）を追加し、計 31 件のノコギリ屋根工場の活用事例を得た。転用事例と稼働工場を比較することで、新たな用途と関係が予想される、建築物の有する条件について検討する。

表 3-3 基礎統計表

No.	用途	所有者	建設年代	構造	面積 (㎡)	建築物 の短辺 /長辺	接道 の 有無	駅から の距離 km	重伝建 からの 距離km	用途 地域	容積 率	建蔽 率	防火
1	外部公開あり	個人	1916頃	木造	637	0.93	接道あり	1.33	0	準工業	200	60	準防火
2	転用工場	株式会社	1922	木骨石造	550	0.42	接道あり	1.26	0	準工業	200	60	準防火
3	公開販売あり	株式会社	1919	木骨煉瓦造	298	0.89	接道あり	1.65	0.5	準工業	200	60	なし
4	公開なし	株式会社	1927	石造	463	0.33	接道あり	1.78	0.5	準工業	200	60	なし
5	公開なし	個人	1922	鉄筋コンクリート	318	0.60	接道あり	1.66	0.5	準工業	200	60	なし
6	公開なし	株式会社	1948	木造	94	0.43	接道なし	1.56	0.5	準工業	200	60	なし
7	公開販売あり	個人	1986	木造	63	0.40	接道あり	1.51	0.5	準工業	200	60	なし
8	公開販売あり	個人	1986	木造	108	0.40	接道あり	1.51	0.5	準工業	200	60	なし
9	公開なし	個人	1926	木造	110	0.70	接道あり	1.37	1	準工業	200	60	なし
10	外部公開あり	株式会社	1924頃	木造	83	0.51	接道あり	1.12	1	準工業	200	60	なし
11	外部公開あり	株式会社	1946	木造	582	0.55	接道あり	1.12	1	準工業	200	60	なし
12	公開販売あり	持分会社	1950	木造	107	0.93	接道あり	1.72	1.5	準工業	200	60	なし
13	公開販売あり	持分会社	1950頃	木造	299	0.63	接道あり	1.72	1.5	準工業	200	60	なし
14	公開販売あり	株式会社	1935-1950	木造,木骨造石壁	280	0.68	接道あり	1.44	1.5	準工業	200	60	なし
15	転用工場	個人	1965頃	木造	182	0.78	接道あり	1.87	1	準工業	200	60	なし
16	公開なし	株式会社	昭和初期	木造	不明	0.36	接道あり	1.58	0.5	準工業	200	60	なし
17	公開なし	個人	昭和初期	木造	380	0.58	接道あり	1.38	0.5	準工業	200	60	なし
18	公開なし	学校法人	1952	木造	261	0.68	接道あり	0.54	0.5	第1種住居	200	60	なし
19	公開販売あり	株式会社	1935頃	石造	207	0.85	接道あり	0.20	1	商業	400	80	準防火
20	転用工場	個人	1936	木造	306	0.72	接道あり	1.51	2.5	準工業	200	60	なし
21	外部公開あり	個人	1969	木造	331	0.72	接道あり	3.35	2.5	第1種住居	200	60	なし
22	外部公開あり	個人	1932推定	木骨石造	884	0.49	接道あり	4.22	5	第1種住居	200	60	なし
23	転用工場	持分会社	大正後期	木造	99.2	0.58	接道なし	3.88	4.5	準工業	200	60	なし
24	転用工場	個人	1934	木造	198	0.77	接道あり	5.33	6	準工業	200	60	なし
25	転用工場	持分会社	1955	木造	331	0.55	接道なし	4.30	4.5	準工業	200	60	なし
26	現役稼働	持分会社	1935頃	木造	298	0.68	接道あり	0.93	3.5	準工業	200	60	なし
27	現役稼働	持分会社	1948,49,50	木造	730	0.86	接道なし	1.21	1	準工業	200	60	なし
28	現役稼働	株式会社	1925	木造	397	0.65	接道なし	1.72	1.5	準工業	200	60	なし
29	現役稼働	個人	1930	木造	114	0.43	接道なし	2.18	1.5	準工業	200	60	なし
30	現役稼働	持分会社	1949	木造	198	0.91	接道なし	2.55	3.5	第1種住居	200	60	なし
31	現役稼働	持分会社	1956	木造	496	0.50	接道あり	3.16	4	準工業	200	60	なし

※ ■は登録文化財
(p.214 に分布図)

新たな用途は、他の繊維業工場や他産業の工場、博物館、ギャラリー、飲食店や美容院など多岐にわたる。これらの用途について、外部公開の有無、販売の有無、工場への転用、の3区分に分け、現役稼働と比較する。

所有者について、個人、株式会社の他に、合資会社や有限会社を確認された。これらを、株式会社、持分会社、法人、個人の4区分に区分した。株式会社には、転用事業者や産業稼働中の会社が含まれる。持分会社は、合同会社、合資会社、合名会社をまとめて呼ぶ。合資会社や合名会社は、株式会社とは異なり出資者と経営者が分けられておらず、株式会社と個人の中間に位置すると考えられる。また有限会社は、チェーン展開の有無によって経営規模が異なると考えた。そこで、チェーン展開していて外部の人を雇うことが想定される場合は株式会社、チェーン展開していない場合は少数人による経営が想定されることから、持分会社に区分した。個人は、稼働しなくなった工場を受け継いだ場合と家族経営の工場が考えられる。

ノコギリ屋根工場の建築物が持つ物理的要素として、構造、面積、短辺／長辺のアスペクト比、接道の有無、駅からの距離、桐生新町重要伝統的建造物群保存地区からの距離、用途地域、容積率、建蔽率、防火地域について調査を行った（表3-3）。構造や面積は、産業遺産の特徴として整理され、さらに転用の規模との関連を踏まえて検討に入れた。市ウェブサイトにて公表されているデータを用いた。また、転用時の空間の使いやすさとの関係を予測して、建築物の平面的な形として短辺／長辺のアスペクト比について図面^{37, 38, 39, 40}や地図⁴¹から算出した。そして、来訪者の目線から来訪のしやすさとして、接道の有無を桐生市指定道路図から確認し、そしてアクセス性として駅からの距離（km）、客の見込みを予想して観光客の訪れる桐生新町重要伝統的建造物群保存地区からの距離（0.5km ごと）についても ArcGIS の ArcMap を用いて算出した。そして新たな用途が都市計画による影響を受けているかみるため、都市計画図から用途地域、容積率、建蔽率、防火地域を把握した。建築物はノコギリ屋根工場に限定している。平屋建で、織機を置くために間仕切りはなく、採光や高さ確保のために天井を張らずに一層空間を有する。

新たな用途との関係が示唆された項目として、主構造、接道の有無、面積、駅からのアクセス、重要伝統的建造物群からの距離を抽出した。

（2）用途と関連が予想される項目の抽出

用途と建築物の持つ要素においてクロス集計を行い（表3-4）、また建築物の短辺/長辺から算出したアスペクト比の分布状況を示した（図3-7）。

所有者と用途をみると、現役稼働6件中4件は持分会社所有であった。家族経営という地場産業の特徴が表れているものの、持分会社所有8件中転用は4件と、個人と株式会社のどちらに近い性格か判断が困難であった。

公開販売あり7件のうち、3件が木造以外の構造を有していた。非木造は全体で7件に限られていることから、構造と販売用途に関係があることが予想される。建築物の形について、

建築物の短辺/長辺から得たアスペクト比から、どれだけ正方形に近いかを算出して用途ごとにみた（図3-7）。すると、公開なしにおいては比較的アスペクト比が小さい、つまり細長い形に近いものの、用途による明確な差は判断が困難であった。接道の有無を確認したところ、外部公開ありや、公開販売ありでは、全て接道していた。よって、接道の有無と公開用途や販売用途との関連が示唆される。

表3-4 用途別の所有者や建築物の要素のクロス集計

現在の用途	総計	所有者				構造		接道の有無	
		株式会社	持分会社	学校法人	個人	木造	木造以外	接道あり	接道なし
外部公開あり	5	2	0	0	3	4	1	5	0
公開販売あり	7	3	2	0	2	4	3	7	0
公開なし	7	3	0	1	3	5	2	6	1
転用工場	6	1	2	0	3	5	1	4	2
現役稼働	6	1	4	0	1	6	0	2	4
総計	31	10	8	1	12	24	7	24	7

現在の用途	用途地域			容積率		建蔽率		防火地域	
	第1種住居	商業	準工業	200	400	60	80	準防火	なし
外部公開あり	2	0	3	5	0	5	0	1	4
公開販売あり	0	1	6	6	1	6	1	1	6
公開なし	1	0	6	7	0	7	0	0	7
転用工場	0	0	6	6	0	6	0	1	5
現役稼働	1	0	5	6	0	6	0	0	6
総計	4	1	26	30	1	30	1	3	28



図3-7 用途別のアスペクト比の分布状況

用途地域をみると、ほぼ全ての用途が可能な準工業地域に集中しており、用途地域から新たな用途への影響は判断が困難であった⁴²。

用途別の面積分布をみると（図3-8）、公開販売ありの場合には他用途に比較して小さい範囲に分布していた。そのため、販売用途に面積が関連する可能性が考えられる。



図3-8 用途別の面積（㎡）の分布状況

立地について、アクセス性として最寄り駅までの距離(km)を用途別にみた(図3-9)。すると、特に公開販売ありは、現役稼働工場や転用工場に比べて駅に近い分布を示した。また、外部公開ありは転用工場に比して屋や駅に近い分布となり、外部公開ありと公開販売ありは異なる分布を示した。よって、公開や販売と駅からの距離が関係する可能性が、そして公開と販売は異なる性格を持つと考えられる。



図3-9 用途と駅からの距離

また、観光客が目的地として来る桐生新町重要伝統的建造物群保存地区からの距離について500mごとに計上した(表3-5)。外部公開ありや公開販売ありは、現役稼働や転用工場に比較して近い距離に収まっていた。よって、用途との関係が考えられる。

表3-5 用途と桐生新町からの距離(0.5kmごと)

	0km	0.5km	1km	1.5km	2.5km	3.5km	4km	4.5km	5km	6km	総計
外部公開あり	1		2		1				1		5
公開販売あり		3	1	3							7
公開なし		6	1								7
転用工場	1		1		1			2		1	6
現役稼働			1	2		2	1				6
総計	2	9	6	5	2	2	1	2	1	1	31

以上、桐生市のノコギリ屋根工場の転用群に限定したところ、用途と関連する建築物の有する条件として、主構造、接道の有無、面積、駅からのアクセス、重要伝統的建造物群からの距離が示唆された。これらの予想を基に、第2章で得られた登録文化財の産業遺産の転用事例を用いながら、用途と建築物の有する条件の関係について項目設定の検討を進める。

3-3-2. 登録文化財の産業遺産の建築物を対象にした項目設定

(1) 新たな用途と関連する建築物の項目設定

所有者属性や用途区分、そして建築物の有する条件について、第1章で把握した産業遺産の特徴や既往研究、そして事例を踏まえながら、図3-10、表3-6に示すような物理的要素の項目と指標の設定を行った。

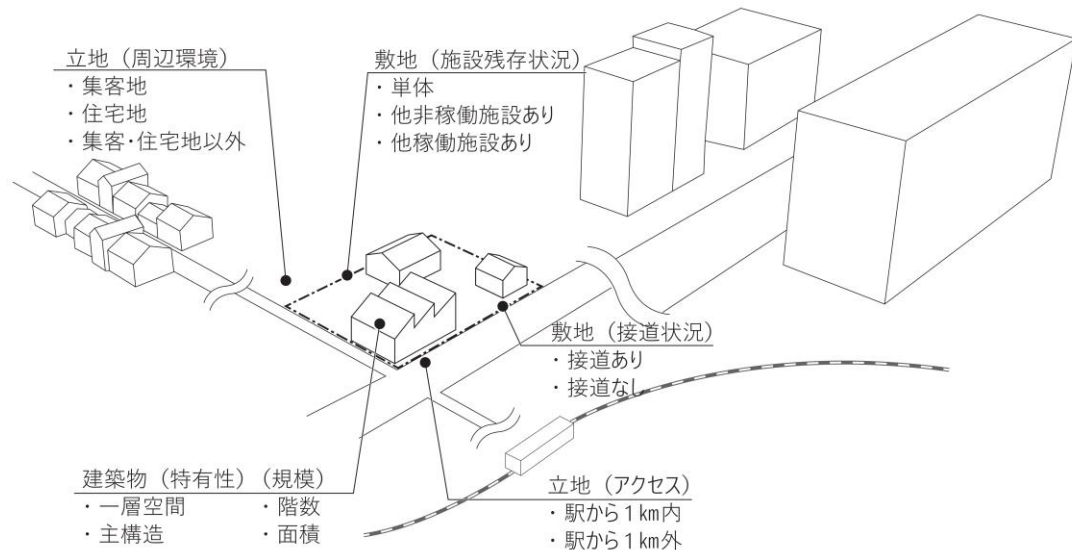


図3-10 建築物を示す項目

①現所有者

転用は所有者の意向から始まる。所有者の性格が新たな用途に関連すると考え、現所有者属性について、用途との組み合わせを踏まえて営利法人、公共団体、個人・グループの3区分を設定した。国指定文化財等データベースに所有者の情報がある場合はその情報を用いた。記載の無い場合には、2019年に転用事例の公式ウェブサイトや都道府県や市町村ウェブサイトの調査を行い⁴³、分類した(表3-5)。

営利法人は株式会社に代表される。株式会社は利益を配当する形態であることを踏まえ、営利法人は営利活動状況との関連を想定して区分した。株式会社以外にも、有限会社や合資会社も営利法人に含めている。2005年(平成17年)の会社法施行によって、有限会社は廃止されたが、株式会社となった後も社名には従来の有限会社⁴⁴を用いる場合もみられた。また、合資会社といった小規模な企業もみられた。特に、現役稼働施設の名称には、株式会社、有限会社、合資会社が見られ、持分会社に該当する合資会社や合名会社、合同会社も営利を必要とする性格を有するとして、営利法人に組み入れることとした。

公共団体は、市町村といった自治体に代表される。公立大学法人⁴⁵、⁴⁶や国立大学法人、また移築を伴う屋外博物館を運営する公益財団法人が含まれる。公益財団法人は、基本的に個人・グループに入るものの、複数を移築して収集している場合は個人・グループが扱う事業規模を超えて大きくなるため、公共団体に分類した。公共団体所有時は、公開することで公

表3-6 所有者属性や用途と建築物の項目指標

項目	指標	詳細（情報源）
所有者属性	営利法人	株式会社などの民間会社
	公共団体	市町村など産業遺産を譲渡された自治体など
	個人・グループ	受け継いだ個人や有志の集まり、NPO団体など
営利活動状況	営利活動あり	モノ・サービスを売っている
	営利活動なし	モノ・サービスを売っていない
新用途	公開状況	全体公開 毎日、全対象に公開している状態 限定公開 日時や対象を限定して公開している状態 非公開 外部の人に公開していない状態
建築物	階建	平屋建 1階建
		2階建以上 2階建、3階建など
	規模 面積	小規模 平均±標準偏差から算出。0<小規模≤14.5㎡
		中小規模 14.5㎡<中小規模≤276.5㎡
		中大規模 276.5㎡<中大規模≤538.5㎡
		大規模 538.5㎡<大規模≤2089.0㎡（最大値）
	一層空間	一層 間仕切り等で区切られていない空間
		非一層 区切られている空間
	特有性 主構造	歴史感 煉瓦造や石造など、歴史的な趣を来訪者が感じる主構造
		木造 木造
		土蔵造 土蔵造
敷地	施設残存状況	単体 敷地内に単体で残存する状態
		他非稼働施設あり 敷地内に他の稼働していない施設がある状態
		他稼働施設あり 敷地内に他の稼働している施設がある状態
	接道状況	接道あり 建築物が敷地内で道に面している状態
		接道なし 建築物が敷地内の奥まった場所にある状態
立地	アクセス	駅から1km圏内 駅から直線距離で1km圏内にある状態
		駅から1km圏外 駅から直線距離で1km圏内にない状態
	周辺環境	集客地 高層建物集中地や重伝建地区500mバッファ内に位置
		住宅地 低層建物・低層建物（密集地）に位置
		集客・住宅地以外 集客地や住宅地に該当しない地域に位置

共性を持たせている点から、特に公開状況との関連を想定している。

個人・グループは個人やNPO法人に代表される。個人事業主、学校法人^{47、48}、そして公益財団法人、NPO法人といった公益法人⁴⁹を含む。個人所有の場合は、外部に公開する際に自ら受付を行う必要も出てくるなど、いつ、誰を受け入れるのか、つまり公開状況との関連を想定して区分した。

建築物に対して用途を見出す際の関連を問うため、所有者が個人で有限会社が賃貸形式で営利活動を行う場合は、事業者の属性を優先して区分した。

第2章で得られた登録文化財の転用事例278件のうち、営利法人129件、公共団体96件、個人・グループ53件が確認された。

表 3 - 7 所有者属性の区分

所有者属性	含まれる所有者
営利法人	株式会社、有限会社、合資会社、合名会社。 (表 3 - 1 の株式会社、持分会社が該当)
公共団体	市、町、公立大学法人、公益財団法人（移築を伴う屋外博物館）。 (表 3 - 1 の学校法人が該当)
個人・グループ	個人、個人事業主、公益財団法人、社会福祉法人、 NPO法人、組合、協議会。(表 3 - 1 の個人が該当)

※公益財団法人所有時は、規模の違いから屋外博物館は公共団体に含めた

②新たな用途

営利法人所有との関連を想定して、営利活動状況の項目を設けた。また、公共団体所有の場合は、誰にいつ公開するか、個人・グループ所有の場合は誰をいつ受け入れるか、という関連を想定し、公開状況の項目を設けた。第 2 章で得られた転用事例 278 件に対して、2019 年に文献調査を行った。国指定文化財等データベースに加えて近代化遺産総合調査報告書や、都道府県や市町村の文化財に関するページ、転用事例の公式ウェブサイト、SNS で所有者が発信している情報を元に⁵⁰、公開の頻度や営利活動の有無について分類を行った。

「営利活動あり」はサービスやものの販売を行っている状態を指す。「全体公開」は博物館のように対象や日時を限定することなく公開している状態を指し、「限定公開」はイベント利用や住民センターなど利用者が日時を限定して公開している状態を指す。「非公開」は実験室や福祉施設といった、基本的に外部からの来訪者を受け入れない状態を指す。

表 3 - 8 用途項目の設定

用途	含まれる具体例
営利活動状況	
営利活動あり	カフェ、レストラン、ショップ、スポーツクラブ、葬儀場 など
営利活動なし	博物館、ギャラリー、工房、休憩所 など
公開状況	
全体公開	博物館、ギャラリー、図書館、飲食店、販売 など
限定公開	ホール、要予約施設、月 1 公開、住民センター、ホテル など
非公開	事務所、大学、福祉施設、住宅 など

また、所有者属性に関して、営利法人所有 129 件を除いた 149 件にて、公共団体所有と個人・グループ所有が異なる性格を持ち関係がない、つまり独立したグループであることを確認する。所有者と公開状況の区分を用いて独立性の検定 (χ^2 検定)^{51, 52}を行った(表 3 - 9、表 3 - 10)。もし、公共団体所有と個人・グループ所有の群の転用傾向が同一であれば、全体公開・限定公開・非公開の割合も同様になると予想される。そこで、公共団体所有と個人・グループ所有に差がないという帰無仮説をたてて、有意水準 5 % で検定を行った。

表3-9 用途と所有者属性の事例数

	公共団体		個人・グループ		総計	
全体公開	50	82.0%	11	18.0%	61	100.0%
限定公開	38	52.1%	35	47.9%	73	100.0%
非公開	8	53.3%	7	46.7%	15	100.0%
総計	96	64.4%	53	35.6%	149	100.0%

表3-10 公共と個人・グループの独立性の検定

カイ二乗値	自由度	P 値	*: P<0.05 **: P<0.01
13.8702	2	P < 0.001	**

その結果、 χ^2 値は 13.8702、自由度 2、P 値は 0.00097 となった。有意水準 1 %未満であるため帰無仮説が棄却され、公共団体所有と個人・グループ所有の転用傾向は同じとは言えない、つまり差がみとめられた ($P<0.01$)。

以上より、所有者属性として3つの区分、営利法人、公共団体、個人・グループにおいて、用途に対して数量化Ⅱ類による分析を行う。

③建築物

建築物そのものの特性を把握するために、第1章にて産業遺産の特徴として整理された事柄から、規模として階数と面積、空間の特徴に挙げられた一層空間の有無、主構造を設定した。国指定文化財等データベースに記載のある階数、面積、構造の情報と、一層空間の有無については図面や写真について2019年に調査⁵³を行い分類した。

規模は、産業遺産の特徴に大規模が挙げられる⁵⁴ことや、転用に関する研究⁵⁵では基礎情報とされていることを踏まえた。階数は、平屋建と2階建以上に区分した。また面積は、平均値 276.5 m²に標準偏差 262.0 を±した4区分（小規模・中小規模・中大規模・大規模）を設けた（表3-11、図3-11、図3-12）。

表3-11 所有者属性別の面積分布

	全体	営利法人	公共団体	個人・グループ
事例数	278	129	96	53
平均	276.5	245.2	353.2	214.0
標準偏差	262.0	204.7	327.7	221.6
最小値	8.5	20.0	9.0	8.5
最大値	2089.0	1083.0	2089.0	1050.0

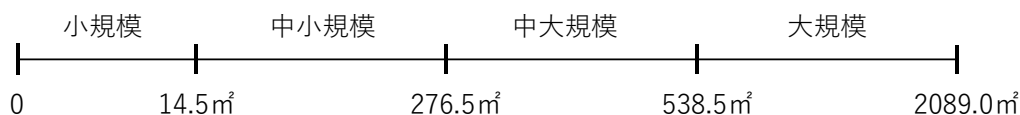


図3-11 面積の区分

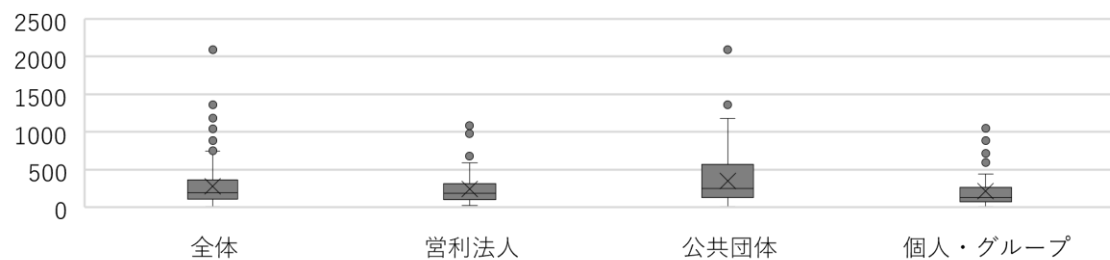


図 3-12 所有者属性別の面積分布

営利活動や公開は、来訪者を要する用途と言える。そこで、来訪者を惹きつける建築物の物理的要素について検討した。来訪者が感想として抱く、「雰囲気が良い」、「おしゃれ」といった印象（図 3-13）は、「木骨レンガ造の建物はとても良い雰囲気」、「オシャレな空間が広がっており」との口コミに表象される。これは、建築物の構造が表れた素材感や、そして産業遺産の広がる空間つまり一層空間から構成される特有性が関連していると考える。

今の法律では再建できない木骨レンガ造の建物はとても良い雰囲気。お休みでカフェは堪能できず。残念でした。(No.32)

こちらのカフェでランチをいただきました。ランチは混み合うので予約がオススメです。店内はとてもオシャレな空間が広がっており、山形ではない何処かのような雰囲気。(No.49)

図 3-13 口コミに見られる特有な空間への言及
(資料編転用事例表の No.32、No.49 の口コミ⁵⁶⁾)

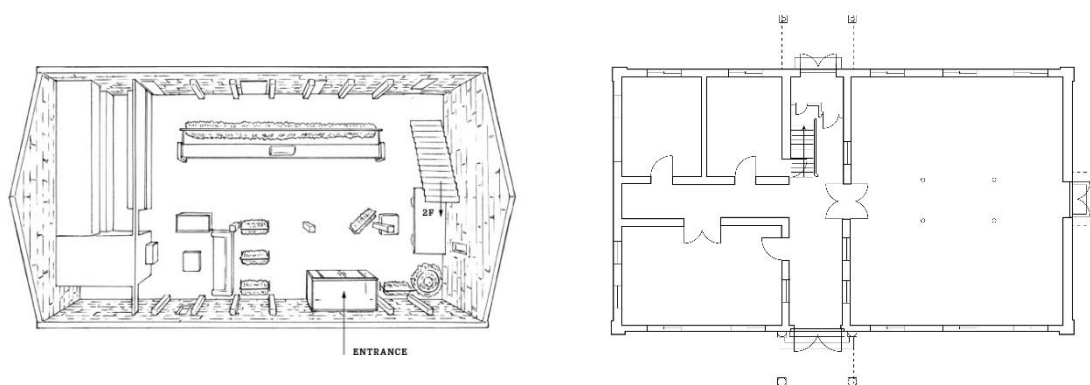


図 3-14 一層空間⁵⁷と非一層空間⁵⁸の例

一層空間は天井が張られていない空間や、壁などで区切られていない空間を指す（図 3-14）。これは、機械を内包することや、貯蔵や倉庫といった生産工程に欠かせない役割を実現するための建築物といえる。ノコギリ屋根工場や、また産業遺産の建築物の特徴としても挙げられる⁵⁹。

構造として、煉瓦造や鉄骨造、鉄筋コンクリート造は、従来の寺社仏閣や民家では見られ

ない、近代化を象徴する素材で、近代化遺産の特徴でもある。鉄筋コンクリート造は現在の建築物に多くみられるが、登録文化財の事例ではモダニズム建築である点を評価されている。そのため、来訪者が受ける印象は、現在の鉄筋コンクリート造の建築物とは異なるを考える。これらの煉瓦造や石造といった、歴史的建築物だと来訪者が一目で感じやすい主構造を、総合して「歴史的」とした。そして、登録文化財の産業遺産建築物の中で事例数の特に多い「木造」、次いで多かった「土蔵造」の3区分を設定した。

④敷地

敷地の条件として、接道状況と施設残存状況の項目を設けた。国指定文化財等データベースから得た緯度・経度の情報を Google map にて表示し（図3-15）、他の産業施設の残存状況や接道状況について確認した（図3-16）。稼働状況については、都道府県や市町村の文化財に関するページや、公式ウェブサイトや生産物の販売状況、工場見学の情報や来訪者による情報を確認した⁶⁰。

「接道あり」とは、敷地内の転用されている建築物が道に面しており、道を通る人から視認可能な状態を指す。敷地が道に面していても、転用された建築物が奥にあり道から視認できないような状態は、「接道なし」に区分される。接道状況は、桐生市のノコギリ屋根工場において公開や販売用途と稼働工場には差があった（表3-4）。敷地内に複数建物が残存し、所有者と使用者が異なる場合のプライバシー問題について、活用時の制約になる可能性が指摘されている⁶¹。これらを踏まえて、来訪者を期待する用途に関連する要素だと想定した。

また、産業遺産の最大の特徴とも言える生産工程を有する点について、敷地内に残存する施設や稼働状況をみるために施設残存状況を設定した。第2章にて単体登録と複数登録では活用状況に差が見られたことから、転用に施設残存状況が関連すると考えた。転用事例の他に施設が残存するかどうかをみる。「単独」は、敷地内に転用事例のみが残存することを指す。「他非稼働施設」は、他に施設が残存しているが稼働はしていない状況を、そして「他稼働施設」は、敷地内に産業稼働中の施設があることを指す。



図3-16 転用事例集 No.48、No.49 の敷地内の施設残存状況と接道状況⁶²

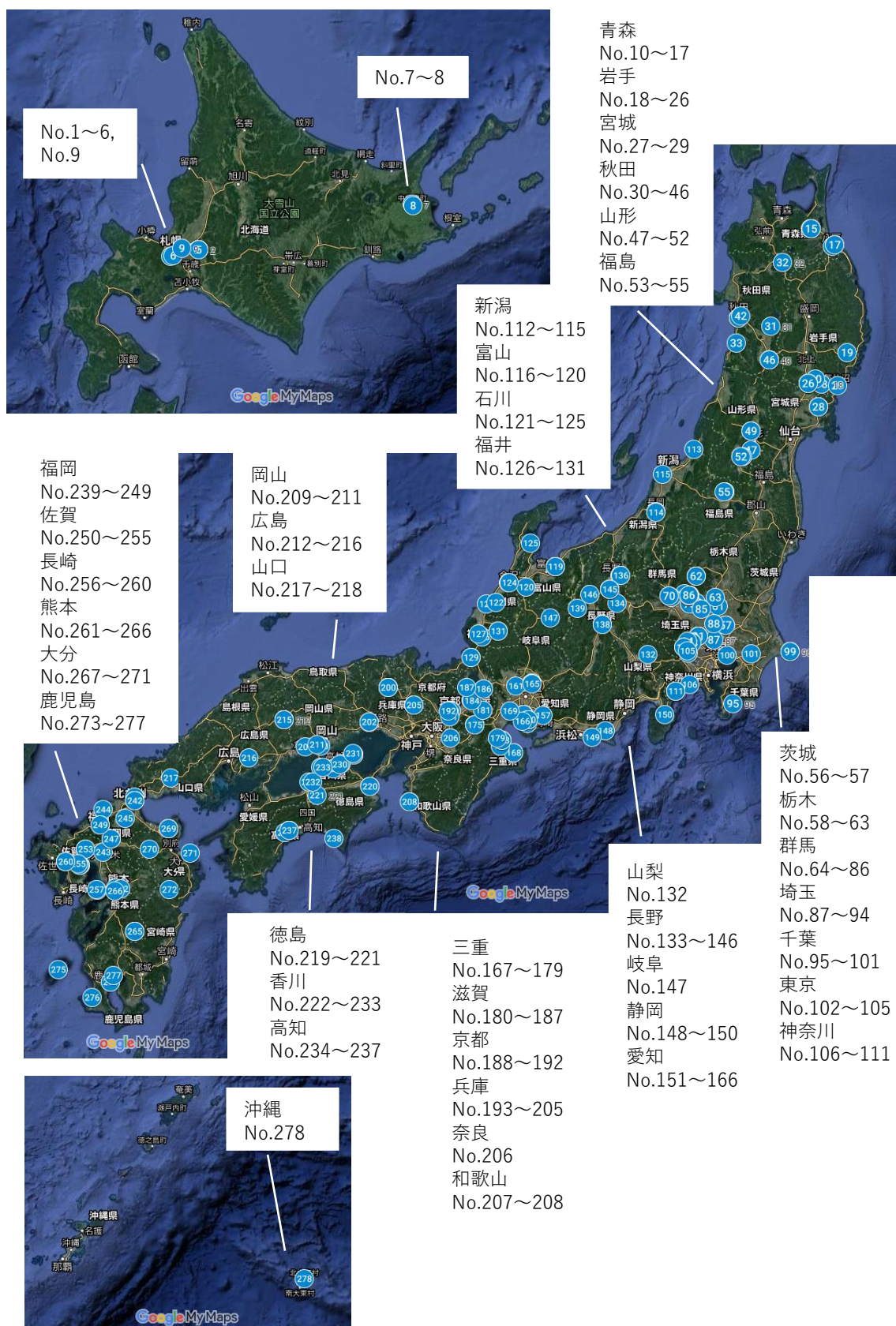


図3-15 Google Mapに表示した転用事例の位置⁶³

⑤立地環境

立地環境を表す項目として、来訪者を必要とすることを踏まえてアクセス性と周辺環境を設定した。国指定文化財等データベースにて公開されている緯度・経度の情報を取得し、ArcGIS の ArcMap を用いてプロットした（図3－16）。

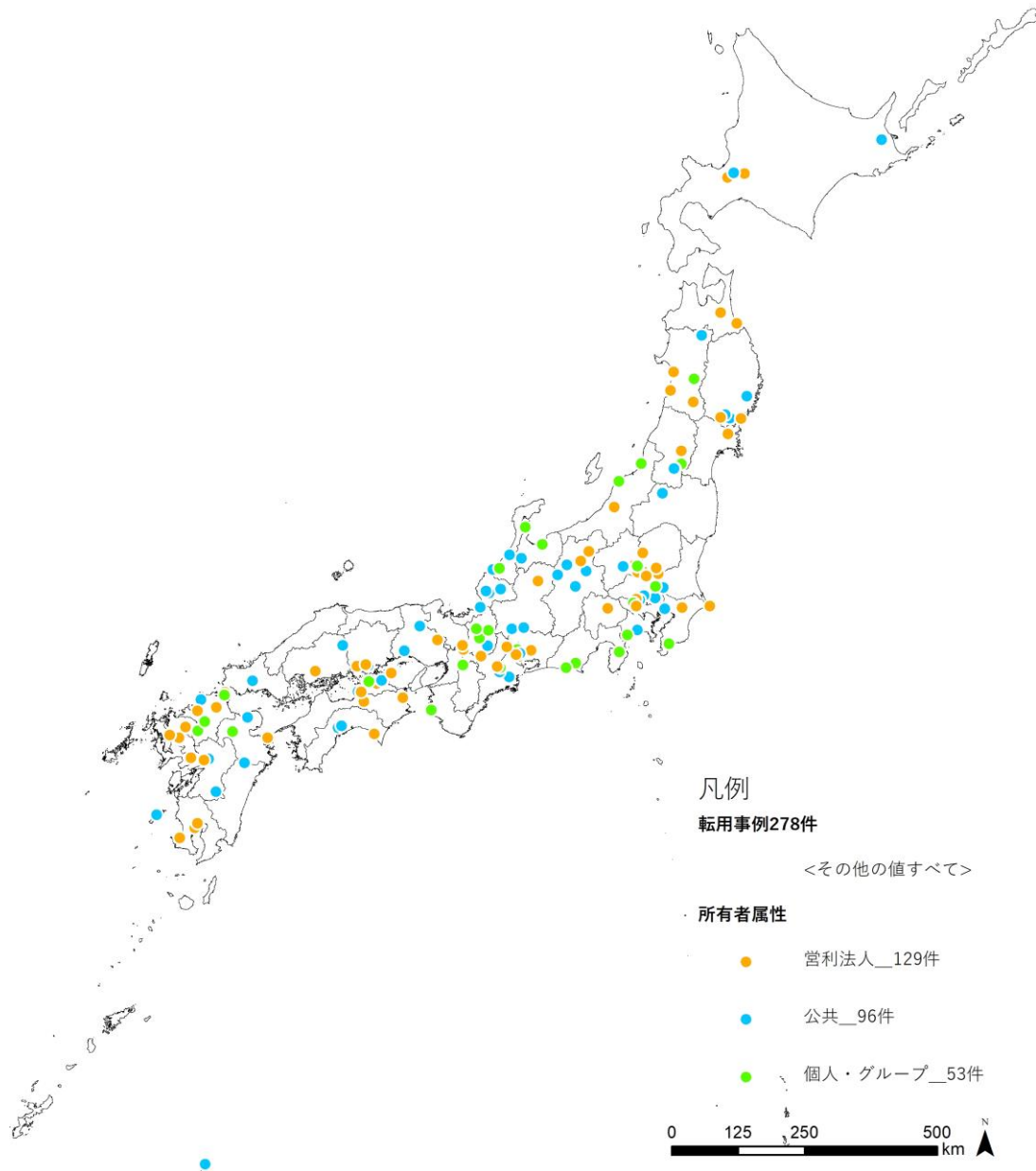


図3－16 転用事例の分布図(c) Esri Japan⁶⁴

さらに、国土交通省が公表している国土数値情報⁶⁵から得た、鉄道駅の位置や土地利用細分メッシュデータ、重要伝統的建造物群保存地区の位置を取得した。これらを用い、転用事例と駅との直線距離、周辺の土地利用、重要伝統的建造物群保存地区との距離について ArcGIS の ArcMap 上にて調査を行い分類した。

アクセス性は、歴史的建築物の保存・活用計画を考える際に交通アクセスが調査項目にある⁶⁶ように、転用時の用途選択にも関係があると考えた。そこで、鉄道駅から徒歩で気軽にアクセス可能かどうかをみるため、アクセシビリティ算出上の徒歩限界とされる鉄道駅から徒歩 20 分、直線距離で 1 km⁶⁷を区分として設定した。

周辺環境は、来訪者の見込みを測るために、「集客地」、「住宅地」、「集客・住宅地以外」の 3 つを設けた。集客地とは、来訪者の期待値が高いエリアを指す。具体的には、土地利用細分メッシュデータにて高層建物集中地に該当するエリア、そして観光客や近隣居住者の来訪が期待できる重要伝統的建造物群保存地区圏内として地区境界から 500m バッファ圏内^{68、69、70}にある場合を計測した。住宅地にある場合、周囲は居住者や住宅が多いエリアとして、土地利用細分メッシュデータにおける低層建物、低層建物（密集地）のエリアに含まれるかを計測した。またどちらにも該当しない場合を「集客・住宅地以外」とした。

例として、ArcGIS の ArcMap 上の、転用事例を中心とした半径 1 km 円内の土地利用や駅の様子を示す（図 3－17）。

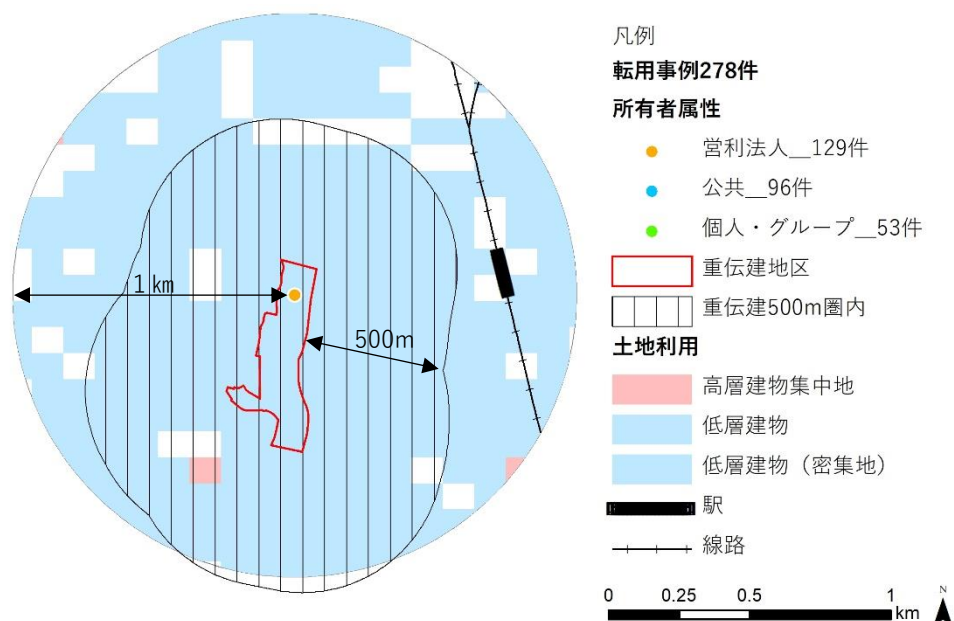


図 3－17 ArcMap における立地情報の表示

以上の項目について、転用事例 278 件から表 3 - 1 2 にある基礎統計量が得られた。

表 3 - 1 2 所有者別の用途・建築物・敷地・立地の区分と事例数

項目			指標	営利法人	公共団体	個人・グループ	総計
				129	96	53	278
用途	営利活動状況		営利活動あり	50	22	12	84
			営利活動なし	79	74	41	194
	公開状況		公開	63	49	11	123
			限定公開	58	39	35	132
			非公開	8	8	7	23
建築物	規模	階建	平屋建	68	50	26	144
			2階建以上	61	46	27	134
		面積	小規模	0	4	1	5
			中小規模	89	49	39	177
			中大規模	28	19	8	55
			大規模	12	24	5	41
	特有性	空間	一層	87	53	30	170
			非一層	42	43	23	108
		主構造	歴史感	19	26	10	55
			木造	64	49	29	142
			土蔵	46	21	14	81
敷地	施設残存状況		単独	12	25	9	46
			他非稼働施設	35	71	37	143
			他稼働施設	82		7	89
	接道状況		接道あり	69	43	30	142
			接道なし	60	53	23	136
立地	アクセス		駅から1km圏内	65	63	29	157
			駅から1km圏外	64	33	24	121
	周辺環境		集客地	20	3	2	25
			住宅地	76	69	42	187
			集客・住宅地以外	33	24	9	66
転用年数	データのある事例数			44	42	11	97
	平均転用年数			16.0	14.1	8.1	

※公共団体の他稼働施設1事例は、非稼働施設と併せて他施設ありとした。

※転用年数はデータの得られた事例のみを用いて算出した。

3-4. 所有者別の新たな用途と建築物の条件の関係

3-4-1. 営利法人所有

(1) 全体

営利法人所有の転用事例は 129 件確認された。営利法人所有の場合は、用途として営利活動状況を目的変数に、建築物の条件を説明変数として数量化Ⅱ類分析を行う。その結果を表 3-13 から 17、図 3-18 と 19 に示す。

判別の中率は全体で 72.09% (表 3-16) となった。営利活動状況を分ける要因として、レンジの値やレンジ図 (図 3-19) をみると施設残存状況が 1.96 と最も強く関係し、続いて主構造 1.28、アクセス 0.89、接道状況 0.66、一層空間 0.66 の順に関係していることが明らかとなった。また、偏相関係数では、施設残存状況 0.31、アクセス 0.24、主構造 0.23、接道状況 0.18、一層空間 0.16 の順で、レンジにおいて影響がみられた項目と合致した。

営利活動を行う用途との関係が解釈できる建築物の要素として、営利活動ありのグループの重心が第 1 軸から -0.63 (表 3-15) と負の方向にあることから、負のスコアを持つ指標をみる (表 3-13)。レンジにて影響がみられた項目順にみると、施設残存状況の単体 (-1.63)、主構造の歴史的趣を感じやすい歴史感 (-1.01)、アクセスの駅 1 km 圏外 (-0.45)、接道状況の接道あり (-0.31)、一層空間の非一層 (-0.43) が挙げられる。

一方、営利活動を行わないグループの重心は、第 1 軸から +0.41 と正の方向にあった。正のスコアを持つ指標から、レンジから影響がみられた項目順に、施設残存状況の他稼働施設 (+0.33)、主構造の木造 (+0.27)、アクセスの駅 1 km 圏内 (+0.44)、接道状況の接道なし (+0.35)、一層空間の一層 (+0.21) が関係していると解釈できる。

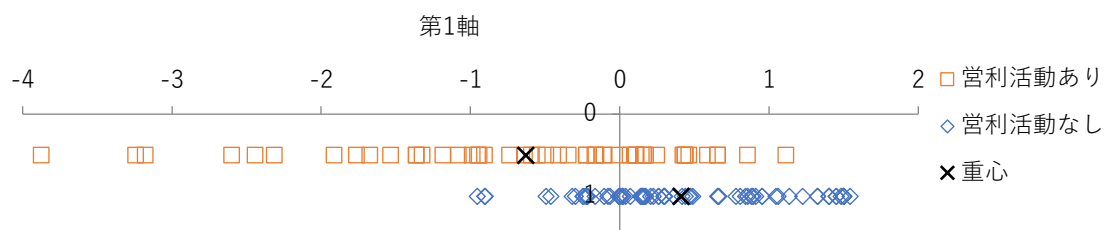


図 3-18 群別散布図

ただし精度に着目すると相関比 η^2 は 0.26 であった。 η は 0~1 の値をとり、1 に近づくほど、グループが分けられていることを示す。よって $\eta^2=0.26$ は、十分な値には届いていないと言える。不動産としての評価項目では、くみ取れていない内容があることが考えられる。

表3-13 営利活動状況の数量化Ⅱ類による分析結果（営利法人所有）

項目	指標	営利活動あり	営利活動なし	スコア	レンジ	偏相関係数	
建築物	階数	平屋建	29	39	-0.08	0.18	0.05
		2階建以上	22	39	0.09		
	規模	中小	37	52	-0.01	0.05	0.01
		面積 中大	10	18	0.04		
		大	4	8	0.03	0.63	0.16
		一層空間 一層	30	57	0.21		
		非一層	21	21	-0.43		
		特有性	歴史感	13	6	-1.01	1.28
	主構造 木造		24	40	0.27		
		土蔵造	14	32	0.05		
敷地	施設残存状況	単体	11	1	-1.63	1.96	0.31
		他非稼働施設	14	21	-0.22		
		他稼働施設	26	56	0.33		
	接道状況	接道あり	35	34	-0.31	0.66	0.18
		接道なし	16	44	0.35		
立地	アクセス	駅1km圏内	20	45	0.44	0.89	0.24
		駅1km圏外	31	33	-0.45		
	周辺環境	集客地	11	9	-0.09	0.14	0.03
		住宅地	29	47	0.05		
		集客・住宅地以外	11	22	-0.05		

表3-14 精度

精度	第1軸
相関比 η^2	0.26

表3-15 グループの重心

各群の重心	第1軸
営利活動あり	-0.63
営利活動なし	0.41

表3-16 判別的中率

判別結果		予測値		判別 的中率
		営利活動あり	営利活動なし	
観測値	営利活動あり	30	21	58.82%
	営利活動なし	15	63	80.77%
全 体				72.09%

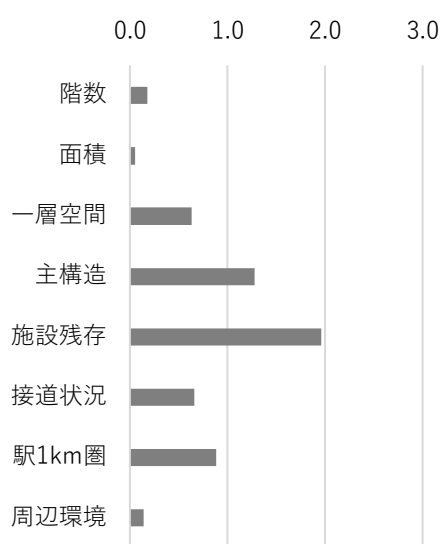


図3-19 レンジ図

また営利法人所有の 129 件について、用途として公開状況を目的変数に、建築物の条件を説明変数として数量化Ⅱ類分析を行う。結果を表 3－17 から 20、図 3－20 と 21 に示す。

判別の中率は全体で 55.04%、全体公開 55.56%、限定公開 53.45%、非公開 62.50%であった。相関比 η^2 は第 1 軸 0.16、第 2 軸 0.09 で、営利活動状況よりもさらに精度として十分とは言えず、グループが十分に分けられていないことがわかる（図 3－21）。

営利法人所有全体を見ると、営利活動状況、公開状況の両方の用途において精度が低かった。営利活動状況に最も大きく影響を与えている施設残存状況の単体残存について、12 件中 10 件にて転用時に所有者・事業者の変更が確認された。そこで、営利法人の中で、転用に際して所有者が変更した場合と、変更のない場合は所有者の転用に対する意向が異なると考えた。以上より、転用時の所有者・事業者の変更に着目する。

表 3－17 公開状況の数量化Ⅱ類による分析結果（営利法人所有）

項目		指標	全体 公開	限定 公開	非公開	スコア		レンジ		偏相関係数		
						第1軸	第2軸	第1軸	第2軸	第1軸	第2軸	
建築物	階数	平屋建	30	32	6	-0.07	-0.41	0.15	0.86	0.03	0.12	
		2階建以上	33	26	2	0.08	0.45					
	規模	中小	45	38	6	-0.03	0.15	2.51	0.59	0.27	0.07	
		面積	中大	11	17	0	-0.70					-0.45
	大		7	3	2	1.82	-0.03					
	空間	一層 一層	42	41	4	-0.26	-0.02	0.80	0.07	0.14	0.01	
		空間 非一層	21	17	4	0.54	0.05					
	特有性	歴史感	11	8	0	0.12	0.41	0.54	0.53	0.09	0.05	
		主構造	木造	30	28	6	0.21					-0.11
			土蔵造	22	22	2	-0.33					-0.01
敷地	施設残存 状況	単体	7	4	1	-0.25	-0.22	0.78	0.41	0.15	0.05	
		他非稼働施設あり	15	19	1	-0.52	-0.26					
		他稼働施設あり	41	35	6	0.26	0.14					
	接道状況	接道あり	41	25	3	0.05	0.70	0.10	1.50	0.02	0.22	
		接道なし	22	33	5	-0.05	-0.80					
立地	アクセス	駅1km圏内	33	31	1	-0.28	0.35	0.57	0.70	0.12	0.10	
		駅1km圏外	30	27	7	0.29	-0.35					
	周辺環境	集客地	11	8	1	0.19	0.39	1.47	0.47	0.25	0.05	
		住宅地	38	31	7	0.41	-0.08					
		集客・住宅地以外	14	19	0	-1.06	-0.05					

図3-18 精度

精度	第1軸	第2軸
相関比 η^2	0.16	0.09

図3-19 グループの重心

各群の重心	第1軸	第2軸
全体公開	0.14	0.28
限定公開	-0.33	-0.22
非公開	1.29	-0.64

図3-20 判別の中率

判別結果		予測値			判別 的中率
		全体公開	限定公開	非公開	
観測値	全体公開	35	18	10	55.56%
	限定公開	21	31	6	53.45%
	非公開	3	0	5	62.50%
全体					55.04%

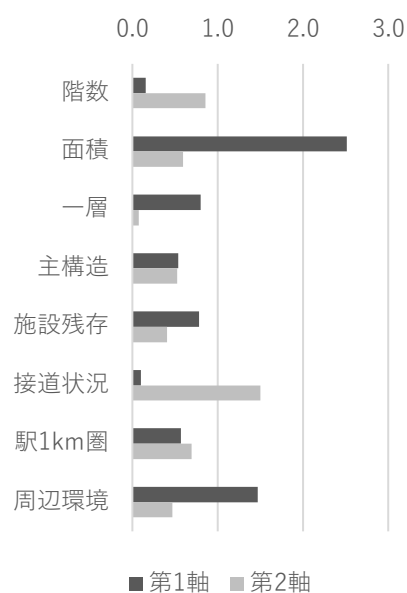


図3-20 レンジ

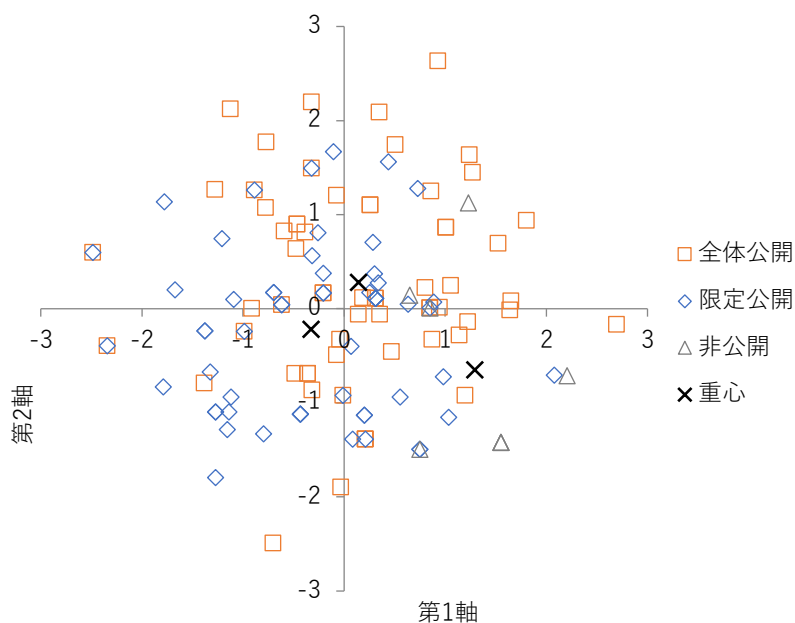


図3-21 群別散布図

（２）所有者・事業者の変更を伴う新たな用途

営利法人所有全体では、営利活動状況を目的変数とすると、施設残存状況のレンジの値が最も高く、指標では単体残存が目立つ。これは、転用時の所有者や事業者の変更が影響していることが考えられる。転用に際して、産業稼働時の所有者もしくは事業者の変更がみられる場合と、稼働時と同じ所有者が転用を行っている場合があることに着目した。

所有者や事業者の変遷について、第２章にて扱った文化財データベースにて、新旧名称や所有者の情報が把握された。加えて、所有者や転用事業者の会社ウェブサイト上⁷¹にある会社設立背景や沿革から調査を行った。すると、129 件中 37 件において、建築物の所有者の変更もしくは所有者と事業者が異なることが確認できた。また、所有者が個人で、営利法人が賃貸形式で出店している場合、事業者の属性を優先して営利法人所有に区分した。残りの 92 件では、産業稼働時の所有者と同じ営利法人が、用途を失った建築物に対して転用を行っていると言える。

そこで、所有者や事業者に変更のあった 37 件において営利活動状況を目的変数に数量化Ⅱ類分析を行った（表 3－2 1 から 2 4、図 3－2 2 と 2 3）。

すると、判別的中率 89.19%、相関比は 0.57 となった。 η の値が 1 に近いほどグループが離れている、つまりよく判別されていると言える。営利法人全体では判別の中率 72.09%、相関比 0.26 であったことを踏まえると、精度が上がったと言える。つまり、営利法人所有時の中でも所有者・事業者に変更がある場合に、用途と建築物の関係がより明らかであると解釈できる。また、営利活動を行うグループに着目すると、判別の中率が 91.67% と特に高かった。

レンジの値は、周辺環境 2.20、階数 1.23、アクセス 1.20、主構造 0.99、接道状況 0.84 の順に高かった。偏相関係数は、周辺環境 0.53、アクセス 0.51、階数 0.42、接道状況 0.38、主構造 0.30 の順であり、これらの項目が営利活動の有無に関連しているといえる。

スコアを踏まえると、営利活動あり（重心は第 1 軸-0.55）と関連する項目と指標として、周辺環境の住宅地（-0.47）、階数の 2 階建以上（-0.70）、アクセスの駅 1 km 圏外（-0.49）、主構造の歴史感（-0.51）、接道状況の接道あり（-0.36）が挙げられる。

また、営利活動なし（重心は第 1 軸+1.01）には、周辺環境の集客・住宅地以外（+1.73）、階数の平屋建（+0.53）、アクセスの駅 1 km 圏内（+0.71）、主構造の土蔵造（+0.48）、接道状況の接道なし（+0.48）の影響がみられた。

表3-21 営利活動状況の数量化Ⅱ類による分析結果（営利法人所有者変更あり）

項目	指標	営利活動あり	営利活動なし	スコア	レンジ	偏相関係数		
建築物	階数	平屋建	13	8	0.53	1.23	0.07	
		2階建以上	11	5	-0.70			
	規模	中小	17	8	0.12	0.46	-0.11	
		面積 中大	5	4	-0.34			
		大	2	1	0.06			
	一層空間	一層	13	5	-0.27	0.52	0.15	
		非一層	11	8	0.25			
	特有性	歴史感	7	0	-0.51	0.99	0.14	
		主構造	木造	10	10			-0.06
			土蔵造	7	3			0.48
敷地	施設残存状況	単体	10	0	-0.35	0.48	0.45	
		他施設あり	14	13	0.13			
	接道状況	接道あり	17	4	-0.36	0.84	0.39	
		接道なし	7	9	0.48			
立地	アクセス	駅1km圏内	9	6	0.71	1.20	0.08	
		駅1km圏外	15	7	-0.49			
	周辺環境	集客地	7	2	-0.01	2.20	0.42	
		住宅地	16	6	-0.47			
		集客・住宅地以外	1	5	1.73			

表3-22 精度

精度	第1軸
相関比 η^2	0.57

表3-23 グループの重心

各群の重心	第1軸
営利活動あり	-0.55
営利活動なし	1.01

表3-24 判別的中率

判別結果	観測値	予測値		判別 的中率
		営利活動あり	営利活動なし	
観測値	営利活動あり	22	2	91.67%
	営利活動なし	2	11	84.62%
全 体				89.19%

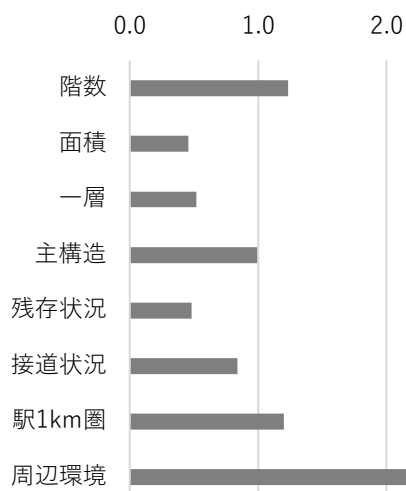


図3-22 レンジ図

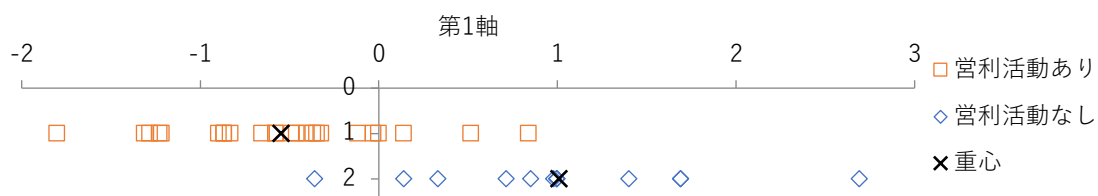


図3-23 群別散布図

また、公開状況についても同様に数量化Ⅱ類を行った。

表 3 - 2 5 公開状況の数量化Ⅱ類による分析結果（営利法人所有者変更あり）

項目	指標	全体 公開	限定 公開	非公開	スコア		レンジ		偏相関係数	
					第 1 軸	第 2 軸	第 1 軸	第 2 軸	第 1 軸	第 2 軸
建築物	階数 平屋建	10	11	0	-0.20	0.29	0.47	0.68	0.15	0.14
	2階建以上	8	7	1	0.27	-0.39				
	規模 中小	12	13	0	-0.40	0.32	2.71	2.06	0.54	0.31
	面積 中大	5	4	0	0.35	-1.19				
	大	1	1	1	2.30	0.87				
	一層 一層	9	8	1	-0.04	0.30	0.07	0.59	0.03	0.14
	空間 非一層	9	10	0	0.03	-0.29				
	特有性 歴史感	5	2	0	-0.39	-0.90	0.96	1.15	0.28	0.22
	主構造 木造	8	12	0	-0.15	0.19				
	土蔵造	5	4	1	0.57	0.24				
敷地	施設残存 単体	6	3	1	0.27	0.34	0.37	0.46	0.13	0.09
	状況 他施設あり	12	15	0	-0.10	-0.13				
	接道状況 接道あり	12	8	1	0.24	-0.35	0.56	0.82	0.24	0.20
	接道なし	6	10	0	-0.32	0.47				
立地	アクセス 駅1km圏内	7	7	1	-0.08	0.63	0.13	1.06	0.05	0.25
	駅1km圏外	11	11	0	0.05	-0.43				
	集客地	5	4	0	-0.20	0.16	1.19	2.69	0.28	0.37
	周辺環境 住宅地	12	9	1	0.32	-0.63				
	集客・住宅地以外	1	5	0	-0.87	2.06				

表 3 - 2 6 精度

精度	第 1 軸	第 2 軸
相関比 η^2	0.49	0.24

表 3 - 2 7 各グループの重心

各群の重心	第 1 軸	第 2 軸
全体公開	0.14	-0.49
限定公開	-0.35	0.44
非公開	3.87	1.02

表 3 - 2 8 判別的中率

判別結果		予測値			判別 的中率
		全体公開	限定公開	非公開	
観測値	全体公開	13	4	1	72.22%
	限定公開	5	13	0	72.22%
	非公開	0	0	1	100.00%
全体					72.97%

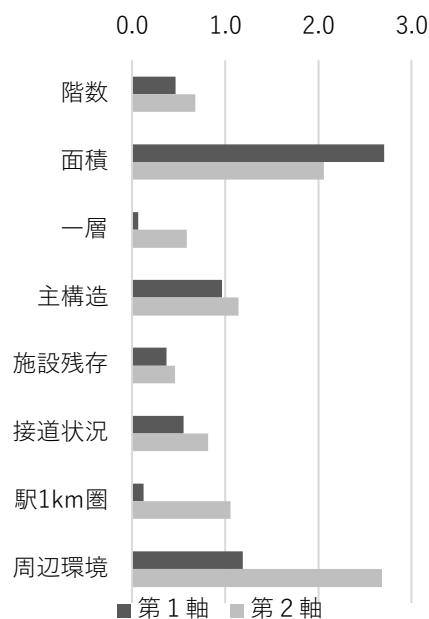


図 3 - 2 4 レンジ図

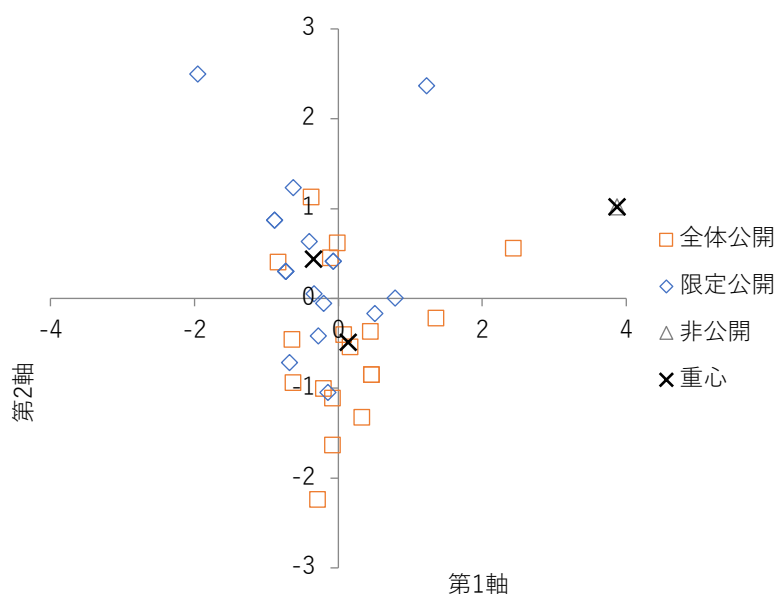


図3-25 群別散布図

レンジの値は、第1軸では面積 2.71、周辺環境 1.19、主構造 0.96、第2軸では周辺環境 2.69、面積 2.06、主構造 1.15、アクセスの駅 1 km圏 1.06 の順であった。偏相関係数は第1軸で面積 0.54、主構造 0.28、周辺環境 0.28、第2軸で周辺環境 0.37、面積 0.31、駅 1 km圏 1.26 の順であった。レンジと偏相関係数を踏まえると、公開状況には面積、周辺環境、主構造の項目が影響を与えていると考えられる。

これらの項目のスコアを踏まえると、全体公開（重心は第1軸+0.14、第2軸-0.49）には面積の中大規模（第1軸+0.35、第2軸-1.19）、周辺環境の住宅地（第1軸+0.32、第2軸-0.63）が、そして限定公開（重心は第1軸-0.35、第2軸+0.44）には、面積の中小規模（第1軸-0.40、第2軸 0.32）、周辺環境の集客地（第1軸-0.20、第2軸+0.16）、主構造の木造（第1軸-0.15、第2軸+0.19）が、そして非公開（重心は第1軸+3.87、第2軸+1.02）には面積の大規模（第1軸+2.30、第2軸+0.87）が寄与していると考えられる。

しかし、相関比は第1軸 0.49、第2軸 0.24、判別的中率は全体で 72.97%であった。営利活動状況の結果と比べると、公開状況では精度が下がることが確認できた。よって公開の決定は、不動産評価項目と営利活動状況程の関係はないと言える。新たに産業遺産を取得する営利法人は、用途として公開よりも営利活動の有無に応じて、不動産評価項目を踏まえて取得していることが伺える。

(3) 所有者や事業者に変更がない新たな用途

転用時に所有者や事業者に変更がみられない、つまり産業稼働時の所有者が転用を行っている 92 件を扱う。営利活動状況に対して数量化Ⅱ類を行った。すると、相関比は 0.17、判別率の中率は全体で 64.13%であった。営利活動ありのグループでは 74.07%と、所有者の変更がある場合と比較すると精度の低い結果となった。

レンジの値は、主構造 1.88、一層空間 1.29、アクセス 1.14、接道状況 0.79 の順であった。また偏相関係数は、一層空間 0.23、主構造 0.23、アクセス 0.21、接道状況 0.17 の順であり、これらの項目が営利活動の有無に関連しているといえる。

レンジ順にスコアを踏まえると、営利活動あり（重心は第 1 軸-0.63）と関連する項目と指標として、主構造の歴史感（-1.52）、一層空間の非一層（-0.97）、アクセスの駅 1 km 圏外（-0.62）、接道状況の接道あり（-0.38）が挙げられる。また、営利活動なし（重心は第 1 軸 +0.26）には、主構造の木造（+0.36）、一層空間の有無の一層空間あり（+0.32）、アクセスの駅 1 km 圏内（+0.52）、接道状況の接道なし（+0.41）の寄与がみられた。

表 3-29 営利活動状況の数量化Ⅱ類による分析結果（営利法人所有者変更なし）

項目	指標	営利活動あり	営利活動なし	スコア	レンジ	偏相関係数		
建築物	階数	平屋建	16	31	-0.07	0.15	0.03	
		2階建以上	11	34	0.08			
	規模	中小	20	44	-0.05	0.62	0.07	
		面積	中大	5	14			0.32
	大		2	7	-0.30			
	一層空間	一層	17	52	0.32	1.29	0.23	
		非一層	10	13	-0.97			
	特有性	歴史感	6	6	-1.52	1.88	0.23	
		主構造	木造	14	30			0.36
			土蔵造	7	29			0.07
敷地	施設残存状況	単体・非稼働	4	15	0.02	0.02	0.00	
		他稼働施設	23	50	0.00			
	接道状況	接道あり	18	30	-0.38	0.79	0.17	
		接道なし	9	35	0.41			
立地	アクセス	駅1km圏内	11	39	0.52	1.14	0.21	
		駅1km圏外	16	26	-0.62			
	周辺環境	集客地	4	7	-0.40	0.63	0.12	
		住宅地	13	41	0.24			
		集客・住宅地以外	10	17	-0.31			

表3-30 精度

精度	第1軸
相関比 η^2	0.17

表3-31 グループの重心

各群の重心	第1軸
営利活動あり	-0.63
営利活動なし	0.26

表3-32 判別的中率

判別結果		予測値		判別 的中率
		営利活動あり	営利活動なし	
観測値	営利活動あり	20	7	74.07%
	営利活動なし	26	39	60.00%
全 体				64.13%

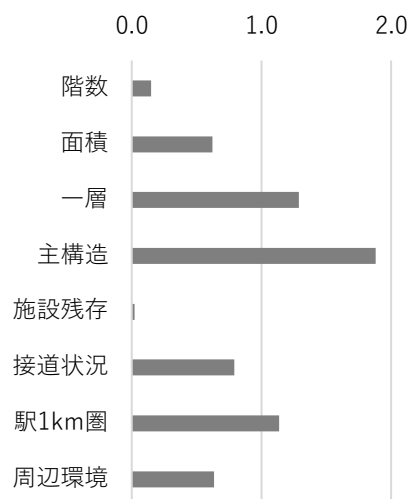


図3-26 レンジ

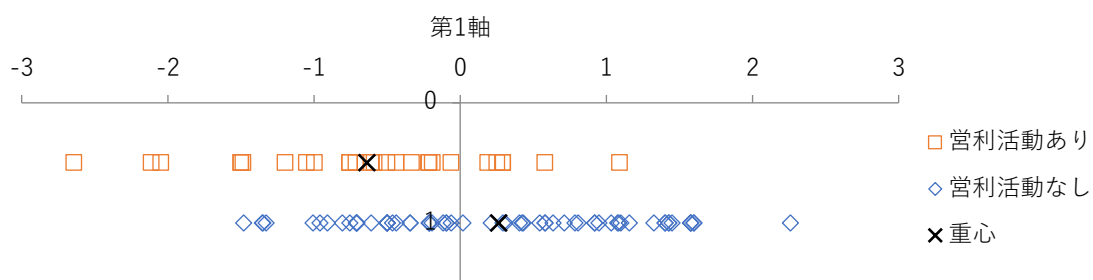


図3-27 群別散布図

営利活動状況について精度が低かったため、公開状況に関して同様の操作を行った。

表 3 - 3 3 公開状況の数量化Ⅱ類による分析結果（営利法人所有者変更なし）

項目	指標	全体 公開	限定 公開	非公開	スコア		レンジ		偏相関係数		
					第1軸	第2軸	第1軸	第2軸	第1軸	第2軸	
建築物	階数	平屋建	20	21	6	-0.04	0.46	0.08	0.94	0.02	0.21
		2階建以上	25	19	1	0.04	-0.48				
	規模	中小	33	25	6	0.09	-0.17	1.92	1.99	0.28	0.25
		面積 中大	6	13	0	-0.83	1.02				
	大	6	2	1	1.09	-0.97					
	一層空間	一層	33	33	3	-0.30	0.11	1.20	0.43	0.29	0.09
		非一層	12	7	4	0.90	-0.32				
	特有性	歴史感	6	6	0	0.65	0.19	1.10	0.23	0.20	0.03
		主構造 木造	22	16	6	0.19	-0.04				
土蔵造		17	18	1	-0.45	-0.01					
敷地	施設残存状況	単体・非稼働	7	11	1	-0.06	1.03	0.08	1.30	0.02	0.23
		他稼働施設あり	38	29	6	0.02	-0.27				
	接道状況	接道あり	29	17	2	-0.21	-0.64	0.44	1.34	0.12	0.31
		接道なし	16	23	5	0.23	0.70				
立地	アクセス	駅1km圏内	26	24	0	-0.45	-0.42	0.99	0.92	0.26	0.19
		駅1km圏外	19	16	7	0.54	0.50				
	周辺環境	集客地	6	4	1	0.17	-0.56	1.11	0.64	0.26	0.10
		住宅地	26	22	6	0.35	0.09				
		集客・住宅地以外	13	14	0	-0.76	0.05				

表 3 - 3 4 精度

精度	第1軸	第2軸
相関比 η^2	0.27	0.20

表 3 - 3 5 グループの重心

各群の重心	第1軸	第2軸
全体公開	0.06	-0.46
限定公開	-0.35	0.41
非公開	1.66	0.60

表 3 - 3 6 判別的中率

判別結果		予測値			判別 的中率
		全体公開	限定公開	非公開	
観測値	全体公開	28	12	5	62.22%
	限定公開	9	27	4	67.50%
	非公開	1	0	6	85.71%
全体					66.30%

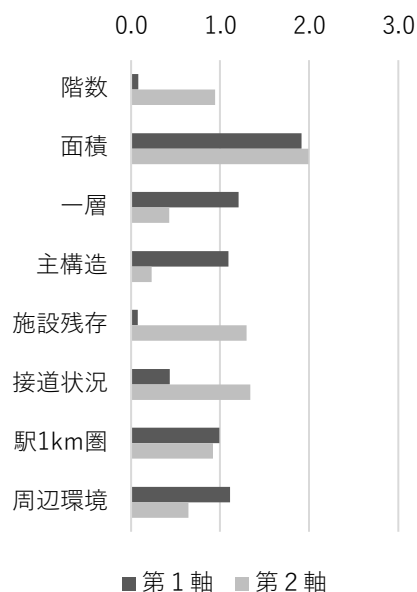


図 3 - 2 8 レンジ

営利法人の所有者に変更のない92件について、公開状況のグループの振り分けに影響のある項目として、レンジ順に、第1軸には面積1.92、一層空間1.20、周辺環境1.11、主構造1.10、アクセス0.99が、そして第2軸では、面積1.99、接道状況1.34、施設残存状況1.30、階数0.94、アクセス0.92、周辺環境0.64が挙げられる。

また、偏相関係数に着目すると、第1軸では一層空間0.29、面積0.28、周辺環境0.26、アクセス0.26、主構造0.20が、そして第2軸では、接道状況0.31、面積0.25、施設残存状況0.23、階数0.21、アクセス0.19、周辺環境0.10の順となった。

レンジと偏相関係数の値から、公開状況に影響を与える項目として、第1軸に面積、一層空間、周辺環境、主構造、アクセス、第2軸には面積、接道状況、施設残存状況、階数、アクセスが挙げられる。

全体公開のグループの重心は、第1軸より+0.06、第2軸に対して-0.46の方向にある。レンジの値を踏まえてスコアの値を確認すると、面積の大規模(第1軸+1.09、第2軸-0.97)、一層空間の非一層(第1軸+0.90、第2軸-0.32)、周辺環境の集客地(第1軸+0.17、第2軸-0.56)との関係が解釈できる。限定公開のグループの重心は、第1軸より-0.35、第2軸に対して+0.41の方向にあった。レンジとスコアから、面積の中大規模(第1軸-0.83、第2軸+1.02)、空間の一層空間(第1軸-0.30、第2軸+0.11)との関連が解釈できる。非公開のグループの重心は、第1軸に対して+1.66、第2軸に対して+0.60の方向にあり、アクセスの1km圏外(第1軸0.65、第2軸+0.50)の寄与が考えられる。

しかし、相関比は第1軸0.27、第2軸0.20、全体の判別率中率は66.30%となり、営利活動状況と同様に精度は十分とは言えなかった。施設残存状況において、単体・非稼働19件に対して他稼働施設ありが73件であることを踏まえると、産業を継続しながら敷地内の空いた建物を転用している場合が多いと言える。その場合、不動産の評価項目よりも、所有者の意向が用途選択に反映されると考える。

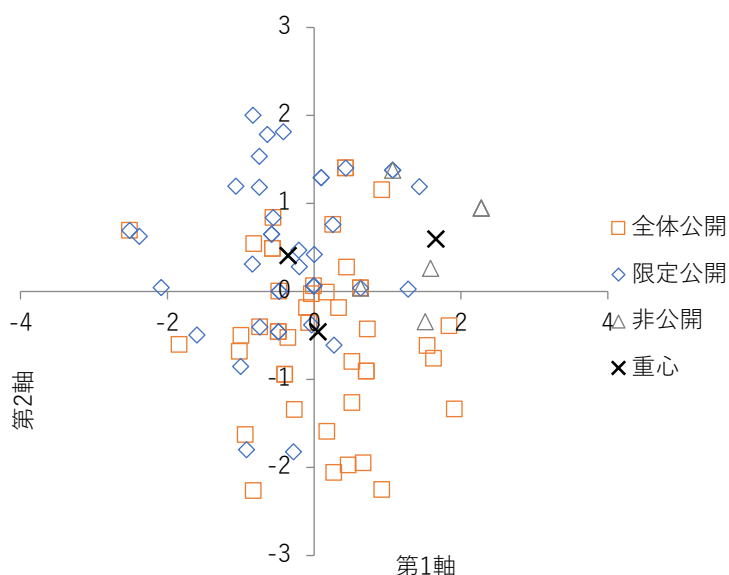


図3-29 群別散布図

3-4-2. 公共団体所有

公共団体所有の転用事例は、廃業した産業施設が所有者から地方自治体に譲渡されて転用に繋がる場合が主と言える。営利法人のように営利を追求するよりも、公共施設として公開して還元する性格が強いと考え、公開状況との関連を想定した。そこで、公開状況（全体公開・限定公開・非公開）を目的変数として、建築物の不動産としての評価項目との関係を数量化Ⅱ類により分析した。公共団体所有時は、敷地内に他の稼働施設がある事例は農業試験場の1件に限られた。そのため、敷地残存状況の区分は「単体」、「他施設あり」とした。

判別の中率は全体で 65.54%であった。相関比は第1軸 0.26、第2軸 0.19 で、精度としては十分とは言えない。公開状況別の判別の中率に着目すると、非公開 75.00%、限定公開 64.10%、全体公開 61.22%と、公開を行う用途で特に判別の中率が低くなった。

公開状況のグループの振り分けに影響のある項目として、レンジの値から、第1軸では面積 2.53、周辺環境 0.92、接道状況 0.85、第2軸では周辺環境 4.41、面積 1.47、接道状況 0.88、アクセスの駅 1km圏 0.86、主構造 0.71 の順に挙げられる。また、偏相関係数は第1軸では面積 0.28、接道状況 0.23、階数 0.14、駅 1km圏 0.13、施設残存状況 0.13、周辺環境 0.12、第2軸では周辺環境 0.31、面積 0.22、接道状況 0.19、駅 1km圏 0.18 の順となった。

表 3-37 公開状況の数量化Ⅱ類による分析結果（公共団体所有）

項目			指標	全体 公開	限定 公開	非公開	スコア		レンジ		偏相関係数	
							第1軸	第2軸	第1軸	第2軸	第1軸	第2軸
建築物	階数	平屋建	25	18	7	-0.27	0.27	0.57	0.57	0.14	0.11	
		2階建以上	24	21	1	0.30	-0.30					
	規模 面積	小	1	1	2	-2.24	0.50	2.53	1.47	0.28	0.22	
		中小	27	20	2	0.25	0.14					
		中大	9	10	0	0.28	-0.97					
		大	12	8	4	-0.37	0.40					
	一層 空間	一層	26	20	7	-0.11	0.07	0.26	0.15	0.06	0.03	
		非一層	23	19	1	0.14	-0.08					
	特有性	歴史感	12	13	1	0.22	-0.41	0.37	0.71	0.09	0.14	
		主構造 木造	25	18	6	-0.15	0.30					
		土蔵造	12	8	1	0.08	-0.19					
敷地	施設残存 状況	単体	15	10	0	0.40	0.17	0.54	0.23	0.13	0.05	
		他施設あり	34	29	8	-0.14	-0.06					
	接道状況	接道あり	28	14	1	0.47	0.49	0.85	0.88	0.23	0.19	
		接道なし	21	25	7	-0.38	-0.40					
立地	アクセス	駅1km圏内	28	28	7	-0.17	-0.30	0.51	0.86	0.13	0.18	
		駅1km圏外	21	11	1	0.33	0.56					
	周辺環境	集客地	3	0	0	0.79	3.45	0.92	4.41	0.12	0.32	
		住宅地	37	25	7	-0.13	0.18					
		集客・住宅地以外	9	14	1	0.26	-0.96					

表 3-38 精度

精度	第1軸	第2軸
相関比 η^2	0.26	0.19

表 3-39 グループの重心

各群の重心	第1軸	第2軸
全体公開	0.24	0.37
限定公開	0.04	-0.52
非公開	-1.64	0.27

表 3-40 判別的中率

判別結果		予測値			判別 的中率
		全体公開	限定公開	非公開	
観測値	全体公開	30	15	4	61.22%
	限定公開	11	25	3	64.10%
	非公開	0	2	6	75.00%
全体					63.54%

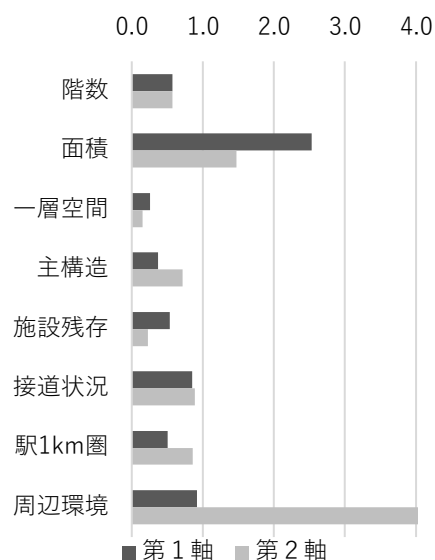


図 3-30 レンジ

全体公開のグループの重心は、第1軸より+0.24、第2軸に対して+0.37 の方向にある。レンジ順を踏まえてスコアの値をみると、面積の中小規模（第1軸0.25、第2軸0.14）、周辺環境の集客地（第1軸+0.79、第2軸+3.45）、接道状況の接道あり（第1軸+0.47、第2軸+0.49）、駅1km圏外（第1軸+0.33、第2軸+0.56）が全体公開に寄与していると考えられる。また、限定公開のグループの重心は、第1軸より+0.04、第2軸に対して-0.52 の方向にあった。レンジ順とスコアの値から、面積の中大規模（第1軸+0.28、第2軸-0.97）、周辺環境の集客・住宅地以外（第1軸+0.26、第2軸-0.96）、主構造の土蔵造（第1軸+0.08、第2軸-0.19）との関連が解釈できる。そして、非公開のグループの重心は第1軸に対して-1.64、第2軸に対して0.27 の方向にあった。レンジ順とスコアの値から、面積の小規模（第1軸-2.24、第2軸+0.50）との関係が見られた。

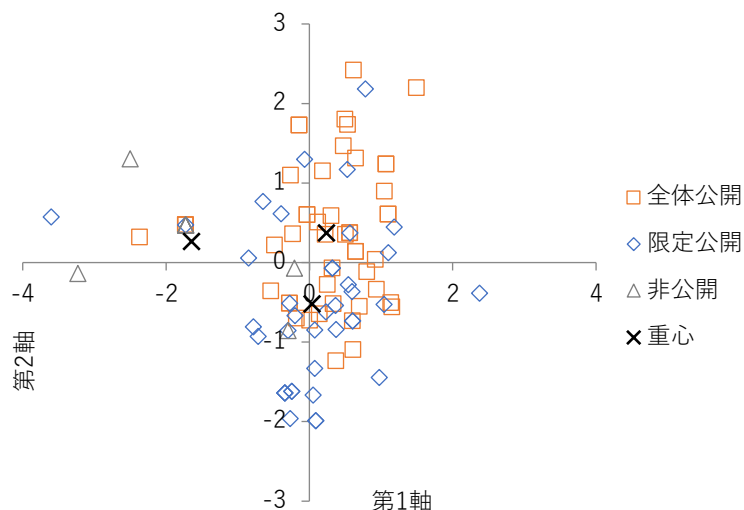


図 3-31 群別散布図

公共団体所有 96 件について、公開状況の精度が低かったため、営利活動状況についても数量化Ⅱ類による分析を行った。

表 3 - 4 1 営利活動状況の数量化Ⅱ類による分析結果（公共団体所有）

項目	指標	営利活動あり	営利活動なし	スコア	レンジ	偏相関係数		
建築物	階数	平屋建	12	38	0.42	0.88	0.20	
		2階建以上	11	35	-0.46			
	規模	小	0	4	-1.36	1.79	0.27	
		中小	14	35	0.43			
		中大	6	13	-0.10			
		大	3	21	-0.57			
	一層空間	一層	12	41	-0.25	0.56	0.13	
		非一層	11	32	0.31			
	特有性	歴史感	7	19	0.41	0.61	0.15	
		主構造	木造	9	40			-0.20
			土蔵造	7	14			-0.04
敷地	施設残存	単体	4	21	-0.54	0.73	0.18	
		状況	他施設あり	19	52			0.19
	接道状況	接道あり	15	28	0.41	0.75	0.21	
		接道なし	8	45	-0.34			
立地	アクセス	駅1km圏内	14	49	-0.10	0.29	0.08	
		駅1km圏外	9	24	0.19			
	周辺環境	集客地	3	0	4.16	4.73	0.39	
		住宅地	16	53	0.02			
		集客・住宅地以外	4	20	-0.57			

表 3 - 4 2 精度

精度	第1軸
相関比 η^2	0.26

表 3 - 4 3 グループの重心

各群の重心	第1軸
営利活動あり	0.90
営利活動なし	-0.28

表 3 - 4 4 判別的中率

判別結果		予測値		判別 的中率
		営利活動あり	営利活動なし	
観測値	営利活動あり	16	7	69.57%
	営利活動なし	15	58	79.45%
全 体				77.08%

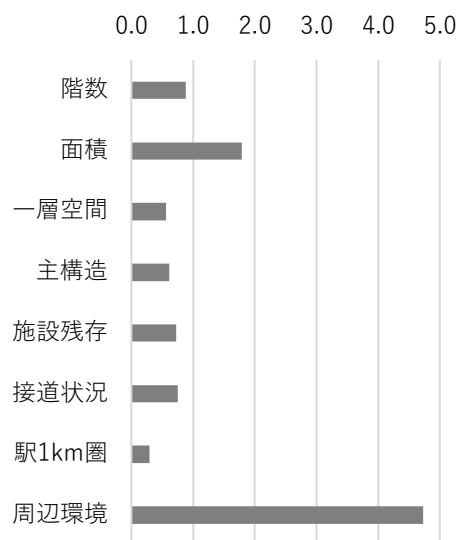


図 3 - 3 2 レンジ

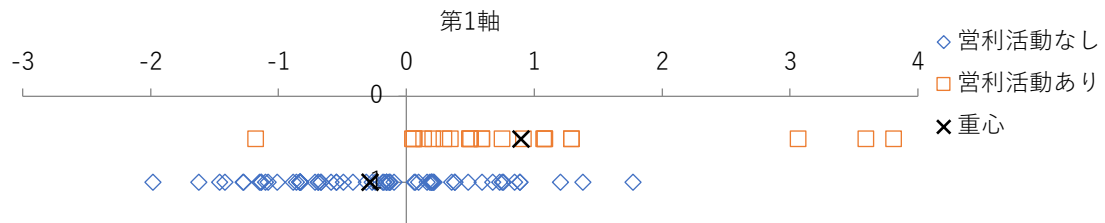


図3-33 群別散布図

レンジは、周辺環境 4.73、面積 1.79 が顕著であり、営利活動状況に寄与していると考えられる。偏相関係数を見ると、周辺環境 0.39、面積 0.27 と同様の順位となった。

レンジ順とスコアの値から、営利活動あり（重心+0.90）に影響を与えている指標として、周辺環境の集客地（第1軸+4.16）、面積の中小規模（第1軸+0.43）が挙げられる。また、営利活動なし（重心-0.28）には、周辺環境の集客・住宅地以外（第1軸-0.57）、面積の小規模（第1軸-1.36）と大規模（第1軸-0.57）が寄与していると考えられる。

精度に着目すると、相関比は 0.26、判別的中率は全体で 77.08%であった。公共団体所有の場合は、公開状況、そして営利活動状況の両方において、精度が十分ではなかった。そのため、分析に用いた建築物の不動産としての評価項目以外の新たな用途の要因が大きいことが示唆される。

3-4-3. 個人・グループ所有

個人・グループ所有の転用事例 53 件について、公開状況を目的変数として数量化Ⅱ類による分析を行った。なお、周辺環境の集客地に該当する事例が 2 件に限られていたため、住宅地と併せて「集客・住宅地」、つまり人のいる地域とした。

まず精度を見ると、相関比は第 1 軸 0.43、第 2 軸 0.30 であった。高いとは言えないものの、判別の中率は全体で 81.13%と公共団体所有に比較して高くなった。特に、全体公開は 90.91%と高く出た。

レンジをみると、第 1 軸では面積 2.59、アクセス 1.86、施設残存状況 1.65、周辺環境 1.26、第 2 軸では、施設残存状況 1.69、面積 1.32、主構造 1.21、階数 1.12、一層空間 1.07 の順となった。また、偏相関係数は第 1 軸ではアクセス 0.55、面積 0.41、施設残存状況 0.33、周辺環境 0.32、第 2 軸では一層空間 0.31、階数 0.29、施設残存状況 0.28、主構造 0.26、面積 0.21 の順であった。第 1 軸にみられた面積、アクセス、施設残存状況、周辺環境、第 2 軸にみられた施設残存状況、面積、主構造、階数、一層空間の項目が、公開状況へ影響を与えていると考えられる。

レンジ順とスコアの値から、全体公開（重心は第 1 軸-1.17、第 2 軸+0.42）には、大規模（第 1 軸-1.64、第 2 軸+0.66）、施設残存状況の他非稼働施設（第 1 軸-0.06、第 2 軸+0.10）、周辺環境の集客・住宅地以外（第 1 軸-1.05、第 2 軸+0.43）、一層空間の有無の非一層空間（第 1 軸-0.44、第 2 軸+0.61）の関係がみられた。また、限定公開（重心は第 1 軸+0.18、第 2 軸-0.36）には、面積の小規模（第 1 軸+0.94、第 2 軸-0.41）、周辺環境の集客・住宅地（第 1 軸+0.21、第 2 軸-0.09）の寄与がみられた。そして非公開（重心は第 1 軸+0.96、第 2 軸 1.13）には、面積の中小規模（第 1 軸+0.23、第 2 軸+0.06）、アクセスの駅 1 km圏外（第 1 軸+1.02、第 2 軸+0.25）、施設残存状況の単体（第 1 軸+0.85、第 2 軸+0.50）との関係がみられた。

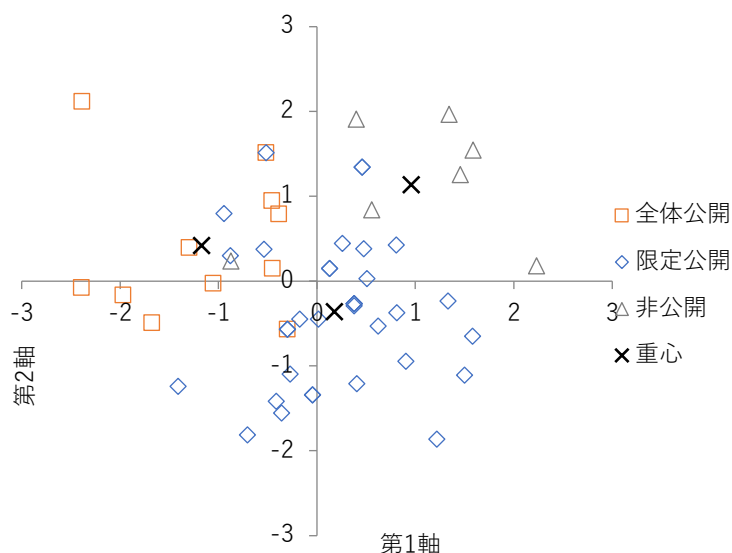


図 3-3-4 群別散布図

表3-45 公開状況の数量化Ⅱ類による分析結果（個人・グループ所有）

項目		指標	全体 公開	限定 公開	非公開	スコア		レンジ		偏相関係数		
						第1軸	第2軸	第1軸	第2軸	第1軸	第2軸	
建築物	階数	平屋建	5	19	2	-0.40	-0.57	0.78	1.12	0.27	0.29	
		2階建以上	6	16	5	0.38	0.55					
	規模	小	0	1	0	0.94	-0.41	2.59	1.32	0.41	0.21	
		中小	6	26	7	0.23	0.06					
		中大	2	6	0	-0.20	-0.66					
		大	3	2	0	-1.64	0.66					
	一層	一層	4	24	2	0.34	-0.47	0.78	1.07	0.29	0.31	
		空間	非一層	7	11	5	-0.44					0.61
	特有性	歴史感	2	8	0	-0.26	-0.91	0.36	1.21	0.11	0.26	
		主構造	木造	8	16	5	0.10					0.31
			土蔵造	1	11	2	-0.03					0.01
敷地	施設残存 状況	単体	2	5	2	0.85	0.50	1.65	1.69	0.33	0.28	
		他非稼働施設	8	24	5	-0.06	0.10					
		他稼働施設	1	6	0	-0.79	-1.19					
	接道状況	接道あり	9	17	4	-0.11	0.18	0.25	0.42	0.10	0.13	
接道なし		2	18	3	0.14	-0.24						
立地	アクセス	駅1km圏内	10	17	2	-0.84	-0.20	1.86	0.45	0.55	0.12	
		駅1km圏外	1	18	5	1.02	0.25					
	周辺環境	集客・住宅地	9	29	6	0.21	-0.09	1.26	0.52	0.32	0.11	
		集客・住宅地以外	2	6	1	-1.05	0.43					

表3-46 精度

精度	第1軸	第2軸
相関比 η^2	0.43	0.30

表3-47 グループの重心

各群の重心	第1軸	第2軸
全体公開	-1.17	0.42
限定公開	0.18	-0.36
非公開	0.96	1.13

表3-48 判別的中率

判別結果		予測値			判別 的中率
		全体公開	限定公開	非公開	
観測値	全体公開	10	1	0	90.91%
	限定公開	5	27	3	77.14%
	非公開	1	0	6	85.71%
全体					81.13%

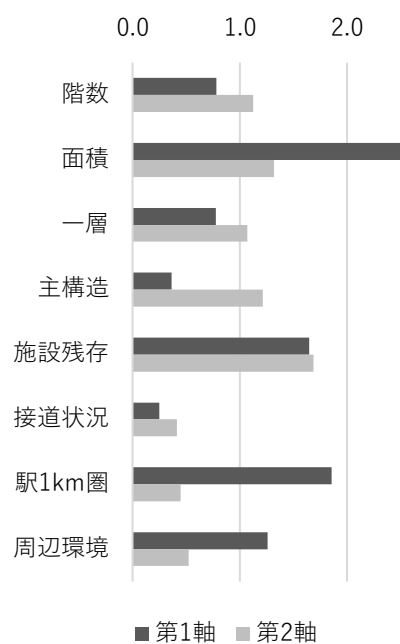


図3-35 レンジ

続いて、個人・グループ所有の53件について、営利活動状況を目的変数として数量化Ⅱ類による分析を行った。

すると、相関比0.33、判別の中率は全体で77.36%と公開状況に比べて低くなった。

レンジをみると、施設残存状況2.35、面積1.16、一層空間1.13の順に用途に関係がみられた。また、偏相関係数では、施設残存状況0.38、一層空間0.33、面積0.19の順となった。

営利活動を行うグループの重心は、第1軸に対して-1.05の方向にあった。レンジ順とスコアを踏まえると、営利活動ありには、施設残存状況の単体(-1.33)、面積の中大規模(-0.29)、一層空間の有無の非一層空間(-0.64)が挙げられる。また、営利活動を行わないグループの重心は、第1軸に対して+0.31の方向にあった。レンジ順とスコアから、施設残存状況の他稼働施設あり(+1.01)、面積の大規模(+0.87)、小規模(+0.17)、一層空間の有無の一層空間(+0.49)が営利活動なしに影響を与えていると解釈できる。

表3-49 営利活動状況の数量化Ⅱ類による分析結果（個人・グループ所有）

項目	指標	営利活動あり	営利活動なし	スコア	レンジ	偏相関係数		
建築物	階数	平屋建	6	20	0.04	0.08	0.02	
		2階建以上	6	21	-0.04			
	規模	小	0	1	0.17	1.16	0.19	
		面積	中小	10	29			-0.06
			中大	2	6			-0.29
			大	0	5			0.87
	一層空間	一層	3	27	0.49	1.13	0.33	
		非一層	9	14	-0.64			
	特有性	歴史感	2	8	0.18	0.30	0.08	
		主構造	木造	9	20			-0.13
			土蔵造	1	13			0.14
敷地	施設残存 状況	単体	5	4	-1.33	2.35	0.38	
		他非稼働施設	7	30	0.13			
		他稼働施設	0	7	1.01			
	接道状況	接道あり	8	22	-0.04	0.10	0.03	
		接道なし	4	19	0.06			
立地	アクセス	駅1km圏内	8	21	-0.19	0.41	0.12	
		駅1km圏外	4	20	0.23			
	周辺環境	集客・住宅地	9	35	0.02	0.13	0.03	
		集客・住宅地以外	3	6	-0.11			

表3-50 精度

精度	第1軸
相関比 η^2	0.33

表3-51 グループの重心

各群の重心	第1軸
営利活動あり	-1.05
営利活動なし	0.31

表3-52 判別の中率

判別結果		予測値		判別 的中率
		営利活動あり	営利活動なし	
観測値	営利活動あり	10	2	83.33%
	営利活動なし	10	31	75.61%
全 体				77.36%

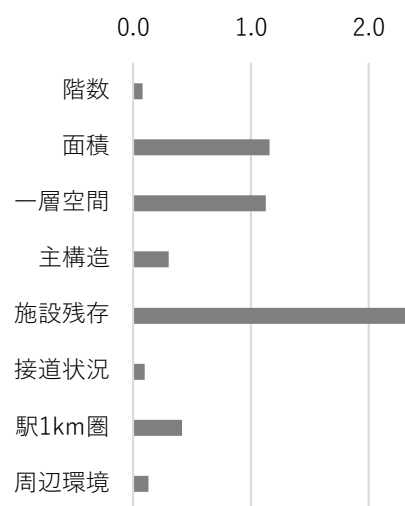


図3-36 レンジ

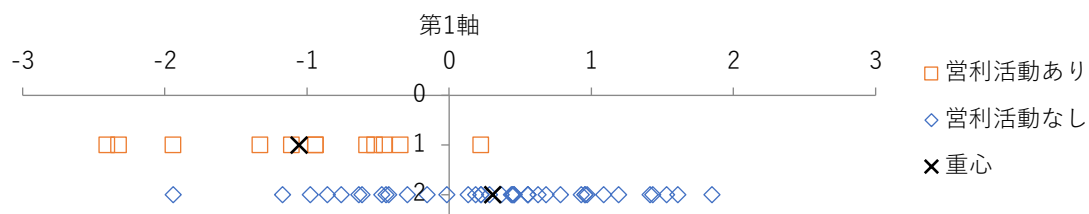


図3-37 群別分散図

3-5. 新たな用途と建築物の関係に関する所有者別のまとめ

3-5-1. 営利活動状況

数量化Ⅱ類の結果として、営利活動状況について所有者属性ごとに表3-5-3から表3-5-5にまとめた。

表3-5-3 営利法人所有全体の営利活動状況の結果

営利法人全体			
相関比 η^2		各群の重心	判別的中率
0.26	営利活動あり	-0.63	58.82%
	営利活動なし	0.41	80.77%

第1軸			
レンジ		指標	スコア
施設残存	1.96	単体	-1.63
		他非稼働施設	-0.22
		他稼働施設	0.33
主構造	1.28	歴史感	-1.01
		土蔵造	0.05
		木造	0.27
駅1km圏	0.89	駅1km圏外	-0.45
		駅1km圏内	0.44
接道状況	0.66	接道あり	-0.31
		接道なし	0.35
一層空間	0.63	非一層	-0.43
		一層	0.21
階数	0.18	平屋建	-0.08
		2階建以上	0.09
周辺環境	0.14	集客地	-0.09
		集客・住宅地以外	-0.05
		住宅地	0.05
面積	0.05	中小	-0.01
		大	0.03
		中大	0.04

(※■は負の値)

営利法人所有について全体を扱うと、精度として相関比が十分でなく、また判別の中率も低かった。レンジとスコアの値から、施設残存状況の単体は、営利活動ありとの関連が最も強くみられた。単体残存12件の内10件にて所有者・事業者に変更がみられることから、転用時の所有者・事業者の変更の有無により、所有者の転用に対する意向が異なると考えた。そこで、営利法人所有時は新たな転用事業者が建物を取得する場合と、現所有者が転用を行う場合に分けることとした。

所有者・事業者の変更を伴う場合は、つまり新たなオーナーによる転用(37件)、そして変更のない場合は現オーナーによる転用(92件)と言える。

表3-54 営利法人の所有者・事業者の変更有無別の営利活動状況の結果

所有者・事業者に変更がある営利法人 (新オーナーによる転用)				所有者・事業者に変更がない営利法人 (現オーナーによる転用)			
相関比 η^2		各群の重心	判別的中率	相関比 η^2		各群の重心	判別の中率
0.57	営利活動あり	-0.55	91.67%	0.17	営利活動あり	-0.63	74.07%
	営利活動なし	1.01	84.62%		営利活動なし	0.26	60.00%

第1軸				第1軸			
レンジ		指標	スコア	レンジ		指標	スコア
周辺環境	2.20	住宅地	-0.47	主構造	1.88	歴史感	-1.52
		集客地	-0.01			土蔵造	0.07
		集客・住宅地以外	1.73			木造	0.36
階数	1.23	2階建以上	-0.70	一層	1.29	非一層	-0.97
		平屋建	0.53			一層	0.32
駅1km圏	1.20	駅1km圏外	-0.49	駅1km圏	1.14	駅1km圏外	-0.62
		駅1km圏内	0.71			駅1km圏内	0.52
主構造	0.99	歴史感	-0.51	接道状況	0.79	接道あり	-0.38
		木造	-0.06			接道なし	0.41
		土蔵造	0.48	周辺環境	0.63	集客地	-0.40
接道状況	0.84	接道あり	-0.36			集客・住宅地以外	-0.31
		接道なし	0.48			住宅地	0.24
一層	0.52	一層	-0.27	面積	0.62	大	-0.30
		非一層	0.25			中小	-0.05
残存状況	0.48	単体	-0.35			中大	0.32
		他施設あり	0.13	階数	0.15	平屋建	-0.07
面積	0.46	中大	-0.34			2階建以上	0.08
		大	0.06	施設残存	0.02	他稼働施設	0.00
		中小	0.12			単体・非稼働	0.02

(※■は負の値)

(※■は負の値)

すると、新たなオーナーによる営利活動状況では、相関比ならびに判別の中率を上げることが出来た。これは、新たなオーナーが産業遺産の建築物を、営利活動の狙いを持って選択していることが反映されたと考える。レンジとスコアの値から、営利活動ありに関連する物理的要素として、周辺環境の住宅地、階数の2階建以上、アクセスの駅1km圏外、主構造の歴史感、接道状況の接道ありが挙げられる。

現オーナーによる新たな用途は、精度が十分ではなかった。これは、新たなオーナーに比べて現オーナーの場合は必ずしも営利活動を目的としない、つまり所有者の意向がより反映されていると考える。レンジ順にスコアを踏まえると、営利活動ありには、主構造の歴史感、一層空間の非一層、アクセスの駅1km圏外、接道状況の接道ありが挙げられる。

所有者・事業者の変更の有無にかかわらず、営利法人所有の営利活動に影響を及ぼす共通した物理的要素として、主構造の歴史感、接道状況の接道ありが挙げられる。来訪者が歴史的な趣を感じやすい煉瓦造や石造の建築物や、視認しやすく訪れやすい接道した建築物が、営利活動に選ばれやすいことが伺える。

表3-55 公共団体と個人・グループ所有の営利活動状況の結果まとめ

公共団体				個人・グループ			
相関比 η^2		各群の重心	判別の中率	相関比 η^2		各群の重心	判別の中率
0.26	営利活動あり	0.90	69.57%	0.33	営利活動あり	-1.05	83.33%
	営利活動なし	-0.28	79.45%		営利活動なし	0.31	75.61%
第1軸				第1軸			
レンジ		指標	スコア	レンジ		指標	スコア
周辺環境	4.73	集客地	4.16	施設残存	2.35	単体	-1.33
		住宅地	0.02			他非稼働施設	0.13
		集客・住宅地以外	-0.57			他稼働施設	1.01
面積	1.79	中小	0.43	面積	1.16	中大	-0.29
		中大	-0.10			中小	-0.06
		大	-0.57			小	0.17
		小	-1.36			大	0.87
階数	0.88	平屋建	0.42	一層空間	1.13	非一層	-0.64
		2階建以上	-0.46			一層	0.49
接道状況	0.75	接道あり	0.41	駅1km圏	0.41	駅1km圏内	-0.19
		接道なし	-0.34			駅1km圏外	0.23
施設残存	0.73	他施設あり	0.19	主構造	0.30	木造	-0.13
		単体	-0.54			土蔵造	0.14
主構造	0.61	歴史的感	0.41			歴史的感	0.18
		土蔵造	-0.04	周辺環境	0.13	集客・住宅地以外	-0.11
		木造	-0.20			集客・住宅地	0.02
一層空間	0.56	非一層	0.31	接道状況	0.10	接道あり	-0.04
		一層	-0.25			接道なし	0.06
駅1km圏	0.29	駅1km圏外	0.19	階数	0.08	2階建以上	-0.04
		駅1km圏内	-0.10			平屋建	0.04

(※■は負の値)

(※■は負の値)

公共団体所有の転用事例 96 件では、用途のグループ分けの精度ならびに判別の中率が低かった。レンジとスコアの値から、営利活動ありに関連する物理的要素として、周辺環境の集客地、面積の中小規模が挙げられる。

個人・グループ所有の転用事例 53 件の営利活動状況について、相関比は十分な値とは言えないが、判別の中率は 8 割を超えていた。営利活動ありに関連する物理的要素として、レンジとスコアを踏まえると、施設残存状況の単体、面積の中大規模、一層空間の有無の非一層空間が挙げられる。

営利活動あり（表3-56）、営利活動なし（表3-57）について、所有者属性別に、関連が解釈できた建築物の有する要素を一覧化した。

所有者属性別に、異なる物理的要素が営利活動の有無に影響を与えていることがわかった。

特に、営利法人所有時の営利活動に影響を及ぼす共通した物理的要素として、歴史感、接道があり、煉瓦造や石造の建築物が特徴として捉えられ、また来訪者が視認しやすい接道した建築物が営利活動に選ばれやすいと言える。

表3-56 営利活動ありとの関係が考えられた所有者別の項目と指標

営利法人				個人・グループ (受け継いだ個人や 有志)		公共団体 (譲渡された・ 取得した自治体)	
所有者・事業者 変更あり (新たなオーナー)		所有者・事業者 変更なし (現オーナー)					
項目	指標	項目	指標	項目	指標	項目	指標
周辺環境	住宅地	主構造	歴史館	施設残存	単体	周辺環境	集客地
階数	2階建以上	空間	非一層空間	面積	中大規模	面積	中小規模
アクセス	駅1km圏外	アクセス	駅1km圏外	空間	非一層空間	階数	平屋建
主構造	歴史館	接道状況	接道あり				
接道状況	接道あり						

一方で、営利活動なしと関連がみられた物理的要素としては、営利法人新オーナーと現オーナーにて接道なしと駅1km圏内が、そして営利法人現オーナーと個人・グループにて一層空間が、更に個人・グループと公共団体において小規模と大規模が共通していた。

表3-57 営利活動なしとの関係が考えられた所有者別の項目と指標

営利法人				個人・グループ (受け継いだ個人や有志)		公共団体 (譲渡された・取得した自治体)	
所有者・事業者 変更あり (新たなオーナー)		所有者・事業者 変更なし (現オーナー)					
項目	指標	項目	指標	項目	指標	項目	指標
周辺環境	集客・住宅地以外	主構造	木造	施設残存	他稼働施設	周辺環境	集客・住宅地以外
階数	平屋建	空間	一層空間	施設残存	他非稼働施設	面積	小規模
アクセス	駅1km圏内	アクセス	駅1km圏内	面積	大規模		大規模
主構造	土蔵造	接道状況	接道なし		小規模	階数	平屋建
接道状況	接道なし			空間	一層空間		

3-5-2. 公開状況

公開状況に関する数量化Ⅱ類の結果を、所有者属性別に表3-58から表3-62に示す。

表3-58 公開状況の結果まとめ（営利法人全体）

営利法人全体							
		各群の重心					
		第 1 軸	第 2 軸	判別の中率			
全体公開		0.14	0.28	55.56%			
限定公開		-0.33	-0.22	53.45%			
非公開		1.29	-0.64	62.50%			
第 1 軸				第 2 軸			
レンジ		指標	スコア	レンジ		指標	スコア
面積	2.51	大	1.82	接道状況	1.50	接道あり	0.70
		中小	-0.03			接道なし	-0.80
		中大	-0.70	階数	0.86	2階建以上	0.45
周辺環境	1.47	住宅地	0.41			平屋建	-0.41
		集客地	0.19	駅1km圏	0.70	駅1km圏内	0.35
		集客・住宅地以外	-1.06			駅1km圏外	-0.35
一層	0.80	非一層	0.54	面積	0.59	中小	0.15
		一層	-0.26			大	-0.03
施設残存	0.78	他稼働施設	0.26			主構造	0.53
		単体	-0.25	歴手感	0.41		
		他非稼働施設あり	-0.52	土蔵造	-0.01		
駅1km圏	0.57	駅1km圏外	0.29	周辺環境	0.47	木造	-0.11
		駅1km圏内	-0.28			集客地	0.39
主構造	0.54	木造	0.21			施設残存	0.41
		歴手感	0.12	住宅地	-0.08		
		土蔵造	-0.33	他稼働施設あり	0.14		
階数	0.15	2階建以上	0.08	一層	0.07	単体	-0.22
		平屋建	-0.07			他非稼働施設あり	-0.26
接道状況	0.10	接道あり	0.05			非一層	0.05
		接道なし	-0.05			一層	-0.02
相関比		0.16		相関比		0.09	

（※■は負の値）

営利法人全体の公開状況について、営利活動状況と同様に、相関比ならびに判別の中率は低く、営利法人を所有者・事業者の変更の有無によって分けることとした。

表3-59 公開状況の結果まとめ（営利法人の所有者・事業者変更あり）

所有者・事業者に変更がある営利法人

（新オーナーによる転用）

		各群の重心				判別の中率	
		第 1 軸	第 2 軸				
全体公開		0.14	-0.49			72.22%	
限定公開		-0.35	0.44			72.22%	
非公開		3.87	1.02			100.00%	

第 1 軸				第 2 軸			
レンジ		指標	スコア	レンジ		指標	スコア
面積	2.71	大	2.30	周辺環境	2.69	集客・住宅地以外	2.06
		中大	0.35			集客地	0.16
		中小	-0.40			住宅地	-0.63
周辺環境	1.19	住宅地	0.32	面積	2.06	大	0.87
		集客地	-0.20			中小	0.32
		集客・住宅地以外	-0.87			中大	-1.19
主構造	0.96	土蔵造	0.57	主構造	1.15	土蔵造	0.24
		木造	-0.15			木造	0.19
		歴史感	-0.39			歴史感	-0.90
接道状況	0.56	接道あり	0.24	駅1km圏	1.06	駅1km圏内	0.63
		接道なし	-0.32			駅1km圏外	-0.43
階数	0.47	2階建以上	0.27	接道状況	0.82	接道なし	0.47
		平屋建	-0.20			接道あり	-0.35
施設残存	0.37	単体	0.27	階数	0.68	平屋建	0.29
		他施設あり	-0.10			2階建以上	-0.39
駅1km圏	0.13	駅1km圏外	0.05	一層	0.59	一層	0.30
		駅1km圏内	-0.08			非一層	-0.29
一層	0.07	非一層	0.03	施設残存	0.46	単体	0.34
		一層	-0.04			他施設あり	-0.13
相関比		0.49		相関比		0.24	

（※■は負の値）

営利法人の新オーナーによる公開状況について、レンジとスコアの値から、全体公開には面積の中大規模、周辺環境の住宅地が、限定公開には、面積の中小規模、周辺環境の集客地、主構造の木造が、そして非公開には面積の大規模が寄与していると考えられる。

しかし、営利活動状況の結果と比べると、公開状況では相関比ならびに判別的中率の精度が下がることが確認できた。これより、新たに産業遺産を取得する営利法人は、用途として公開よりも営利活動の有無に応じて、不動産評価項目を踏まえて取得していることが伺える。

表 3 - 6 0 公開状況の結果まとめ（営利法人の所有者・事業者変更なし）

所有者・事業者に変更がない営利法人

（現オーナーによる転用）

	各群の重心		判別の中率
	第 1 軸	第 2 軸	
全体公開	0.06	-0.46	62.22%
限定公開	-0.35	0.41	67.50%
非公開	1.66	0.60	85.71%

第 1 軸				第 2 軸			
レンジ		指標	スコア	レンジ		指標	スコア
面積	1.92	大	1.09	面積	1.99	中大	1.02
		中小	0.09			中小	-0.17
		中大	-0.83			大	-0.97
一層	1.20	非一層	0.90	接道状況	1.34	接道なし	0.70
		一層	-0.30			接道あり	-0.64
周辺環境	1.11	住宅地	0.35	施設残存	1.30	単体・非稼働	1.03
		集客地	0.17			他稼働施設あり	-0.27
		集客・住宅地以外	-0.76	階数	0.94	平屋建	0.46
主構造	1.10	歴史感	0.65	駅1km圏	0.92	2階建以上	-0.48
		木造	0.19			駅1km圏外	0.50
		土蔵造	-0.45			駅1km圏内	-0.42
駅1km圏	0.99	駅1km圏外	0.54	周辺環境	0.64	住宅地	0.09
		駅1km圏内	-0.45			集客・住宅地以外	0.05
接道状況	0.44	接道なし	0.23			一層	0.43
		接道あり	-0.21	一層	0.11		
階数	0.08	2階建以上	0.04	主構造	0.23	非一層	-0.32
		平屋建	-0.04			歴史感	0.19
施設残存	0.08	他稼働施設あり	0.02			土蔵造	-0.01
		単体・非稼働	-0.06	木造	-0.04		
相関比		0.27		相関比		0.20	

（※■は負の値）

営利法人の現オーナーによる公開状況について、レンジとスコアの値から、全体公開には面積の大規模、一層空間の非一層、周辺環境の集客地との関係が解釈できた。限定公開は、面積の中大規模、空間の一層空間の影響が考えられ、また非公開は、アクセスの駅 1 km圏外との関連がみられた。

しかし、相関比や判別の中率といった精度に着目すると、営利活動状況と同様に十分とは言えなかった。これより、現オーナーによる転用では、営利活動の有無や公開の仕方について、不動産の評価項目よりも所有者の意向が反映されていると考える。

表3-61 公開状況の結果まとめ（公共団体）

譲渡された自治体による転用

	各群の重心		判別の中率
	第1軸	第2軸	
全体公開	0.24	0.37	61.22%
限定公開	0.04	-0.52	64.10%
非公開	-1.64	0.27	75.00%

第1軸				第2軸			
レンジ		指標	スコア	レンジ		指標	スコア
面積	2.53	中大	0.28	周辺環境	4.41	集客地	3.45
		中小	0.25			住宅地	0.18
		大	-0.37			集客・住宅地以外	-0.96
		小	-2.24			小	0.50
周辺環境	0.92	集客地	0.79	面積	1.47	大	0.40
		集客・住宅地以外	0.26			中小	0.14
		住宅地	-0.13			中大	-0.97
接道状況	0.85	接道あり	0.47	接道状況	0.88	接道あり	0.49
		接道なし	-0.38			接道なし	-0.40
階数	0.57	2階建以上	0.30	駅1km圏	0.86	駅1km圏外	0.56
		平屋建	-0.27			駅1km圏内	-0.30
施設残存	0.54	単体	0.40	主構造	0.71	木造	0.30
		他施設あり	-0.14			土蔵造	-0.19
駅1km圏	0.51	駅1km圏外	0.33				
		駅1km圏内	-0.17	階数	0.57	平屋建	0.27
主構造	0.37	歴史感	0.22			2階建以上	-0.30
		土蔵造	0.08	施設残存	0.23	単体	0.17
		木造	-0.15			他施設あり	-0.06
一層空間	0.26	非一層	0.14	一層空間	0.15	一層	0.07
		一層	-0.11			非一層	-0.08
相関比		0.26		相関比		0.19	

（※■は負の値）

公共団体所有の転用事例96件では、公開状況に影響を及ぼす物理的要素として、レンジとスコアの値から、全体公開には面積の中小規模、周辺環境の集客地、接道状況の接道あり、駅1km圏外が挙げられる。また、限定公開には、面積の中大規模、周辺環境の集客・住宅地以外、主構造の土蔵造との関連が解釈できた。そして、非公開に対しては、面積の小規模が顕著であった。

しかし、精度に着目すると十分とは言えない。公共団体所有では、分析に用いた建築物の不動産としての評価項目以外に、新たな用途の要因が示唆される。

表 3 - 6 2 公開状況の結果まとめ（個人・グループ）

（受け継いだ個人や有志による転用）

	各群の重心		判別の中率
	第 1 軸	第 2 軸	
全体公開	-1.17	0.42	90.91%
限定公開	0.18	-0.36	77.14%
非公開	0.96	1.13	85.71%

第 1 軸				第 2 軸			
レンジ		指標	スコア	レンジ		指標	スコア
面積	2.59	小	0.94	施設残存	1.69	単体	0.50
		中小	0.23			他非稼働施設	0.10
		中大	-0.20			他稼働施設	-1.19
		大	-1.64				
駅1km圏	1.86	駅1km圏外	1.02	面積	1.32	大	0.66
		駅1km圏内	-0.84			中小	0.06
						小	-0.41
施設残存	1.65	単体	0.85	主構造	1.21	中大	-0.66
		他非稼働施設	-0.06			木造	0.31
		他稼働施設	-0.79			土蔵造	0.01
周辺環境	1.26	集客・住宅地	0.21	階数	1.12	歴史感	-0.91
		集客・住宅地以外	-1.05			2階建以上	0.55
階数	0.78	2階建以上	0.38	一層	1.07	平屋建	-0.57
		平屋建	-0.40			非一層	0.61
一層	0.78	一層	0.34	周辺環境	0.52	一層	-0.47
		非一層	-0.44			集客・住宅地以外	0.43
主構造	0.36	木造	0.10	駅1km圏	0.45	集客・住宅地	-0.09
		土蔵造	-0.03			駅1km圏外	0.25
		歴史感	-0.26			駅1km圏内	-0.20
接道状況	0.25	接道なし	0.14	接道状況	0.42	接道あり	0.18
		接道あり	-0.11			接道なし	-0.24
相関比		0.43		相関比		0.30	

（※■は負の値）

個人・グループ所有の転用事例 56 件では、公開状況に影響を及ぼす物理的要素としてレンジとスコアの値から、全体公開には面積の大規模、施設残存状況の他非稼働施設、周辺環境の集客・住宅地以外、空間の非一層空間との関係がみられた。また、限定公開には、面積の小規模、周辺環境の集客・住宅地の関連がみられた。そして非公開には、面積の中小規模、アクセスの駅 1 km 圏外、施設残存状況の単体との関係がみられた。

精度に着目すると、個人・グループ所有では、営利法人の新オーナーによる営利活動状況に次ぐ精度で用途を説明することが可能となった。また、個人・グループ所有の場合は営利活動状況よりも公開状況の方が精度高く、受け継いだ遺産や有志が集まり公開の仕方を選択する際に、建築物の物理的要素が反映されていると言える。

公開状況と関連する建築物の有する物理的要素について、全体公開（表3-63）、限定公開（表3-64）、非公開（表3-65）にて一覧化した。

所有者属性ごとに異なる物理的要素が公開状況へ影響を及ぼしていることがわかった。

一方で、例えば大規模と非一層空間は営利法人の現オーナーによる全体公開、個人・グループによる全体公開に共通していた。これは、非一層空間、つまり部屋が区切られている建築物は、部屋ごとに用途や公開の範囲を選択できることから公開に繋がりがやすいと考える。また、周辺環境の住宅地や集客地が個人・グループ以外に見られ、来訪者が重視されることも伺える。

表3-63 全体公開との関係が考えられた所有者別の項目と指標

営利法人				個人・グループ (受け継いだ個人や有志)		公共団体 (譲渡された・取得した自治体)	
所有者・事業者 変更あり (新たなオーナー)		所有者・事業者 変更なし (現オーナー)					
項目	指標	項目	指標	項目	指標	項目	指標
面積	中大規模	面積	大規模	面積	大規模	面積	中大規模
周辺環境	住宅地		中小規模	施設残存	非稼働施設	周辺環境	集客地
		空間	非一層空間	空間	非一層空間	接道状況	接道あり
		周辺環境	集客地			アクセス	駅1km圏外

限定公開は主としてイベント利用が挙げられるが、特に営利法人の現オーナーと公共団体に共通した物理的要素として、一層空間が挙げられた。これは、一層空間では公開エリアを選択しづらいため、公開の時間を限定していることが伺える。また、周辺環境の集客・住宅地以外が個人・グループを除いて見られ、継続的な来訪者が見込みにくい場合は日時を限定していることが伺える。

表3-64 限定公開との関係が考えられた所有者別の項目と指標

営利法人				個人・グループ (受け継いだ個人や 有志)		公共団体 (譲渡された・ 取得した自治体)	
所有者・事業者 変更あり (新たなオーナー)		所有者・事業者 変更なし (現オーナー)					
項目	指標	項目	指標				
面積	中小規模	面積	中大規模	面積	小規模	面積	中大規模
周辺環境	集客地	空間	一層空間	空間	一層空間	周辺環境	集客・住宅地以外
	集客・住宅地以外	周辺環境	集客・住宅地以外				
主構造	木造						

また、非公開に関連する物理的要素としては、営利法人現オーナーと個人・グループに共通してアクセスの駅1km圏外が挙げられた。

表 3-65 非公開との関係が考えられた所有者別の項目と指標

営利法人				個人・グループ (受け継いだ個人や有志)		公共団体 (譲渡された・取得した自治体)	
所有者・事業者 変更あり (新たなオーナー)		所有者・事業者 変更なし (現オーナー)					
項目	指標	項目	指標	項目	指標	項目	指標
面積	大規模	アクセス	駅1km圏外	面積	中小規模	面積	小規模
主構造	土蔵造	周辺環境	住宅地	アクセス	駅1km圏外		大規模
				施設残存	単体	周辺環境	住宅地

3-6. 結論

第3章では転用が可能となる要因の中から物理面に着目し、転用時の新たな用途と建築物の有する条件について、定量的に分析することを目的とした。まず、転用時の用途決定には所有者の意向が反映されることから、第2章で得られた登録文化財の転用事例278件を所有者属性別に分け、営利法人所有129件、公共団体所有96件、個人・グループ所有53件を得た。そして、産業遺産の建築物の転用について、建築物の不動産として評価される物理的要素の項目と指標を、産業遺産の特徴や来訪者の目線から設定した。そして、所有者属性別に用途を目的変数とし、数量化Ⅱ類を用いて定量的に分析したところ、以下の結果を得た。

不動産評価項目で示せる所有者と用途として、営利法人の新たなオーナーによる営利活動、そして個人・グループ所有の公開状況が挙げられる。営利法人の所有者・事業者に変更を伴う営利活動状況37件において、最も高い精度で用途を説明することが可能であった。これは、新たなオーナーが営利目的をもって建築物を選択しているためだと考えられる。具体的には、駅からのアクセスよりも、住宅地という周辺に地域住民のいるエリアにおいて、外観から歴史的な趣を感じやすい接道した煉瓦造や石造の2階建以上の建物といった物理的要素が、商業を営む店舗として選択されていることが伺える。また、個人・グループ所有56件では、全体的な公開へ繋がっている物理的要素として、面積が大きく、産業遺産としてわかりやすい敷地内に稼働していない他の建築物も残っているような施設で、周辺が集客・住宅地以外、つまり宅地や商業地としての開発圧力の高いエリアにあり、間仕切壁などで区切られている非一層空間が挙げられた。

また、所有者属性別に異なる点として、分析精度が挙げられる。精度が十分に高くなかった所有者属性として、営利法人の現オーナー、そして公共団体が挙げられる。これらにおいては、建築物の不動産としての評価項目として設けた物理的要素以外に、新たな用途に関係する要素があり、所有者の意向が優先されていると考える。

以上本章では、転用時の新たな用途について、所有者属性別に建築物の不動産として評価される物理的要素との関係を数量化Ⅱ類により分析した。所有者属性によって、用途と関係がみられる建築物のもつ物理的要素に差異があった。これらの条件は、今後も変わることが

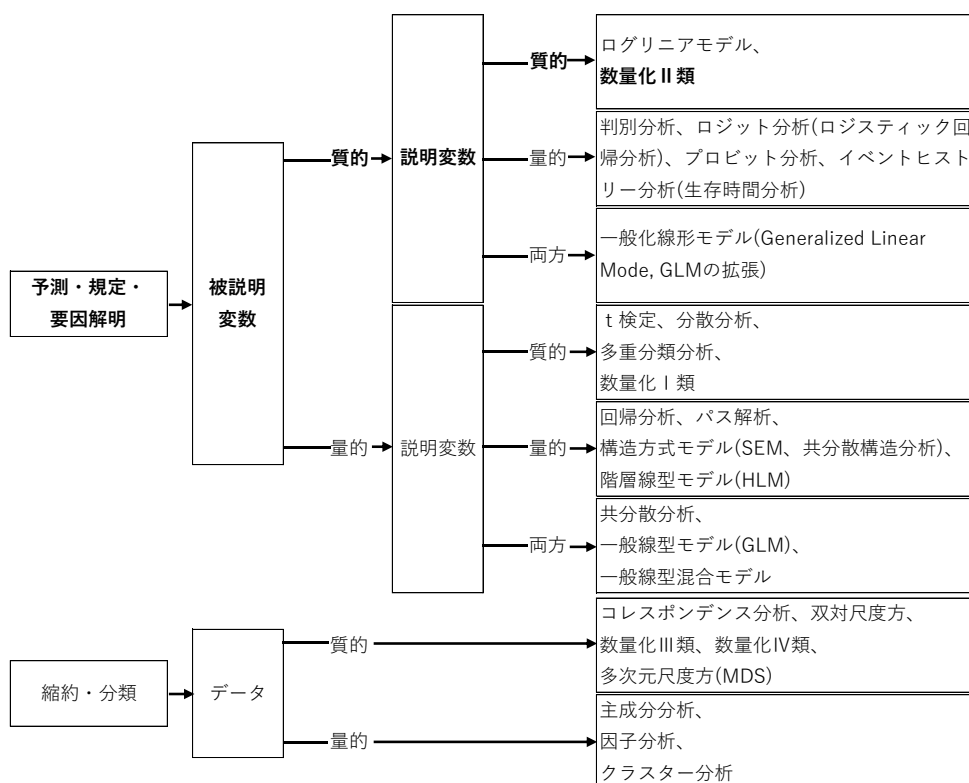
基本的でない、階数、面積、構造、接道状況、駅からの距離、周辺環境と、変更の可能性がある施設残存状況に分けられる。これらに応じて、所有者や用途を組み合わせることで、転用を通じた保存・活用が広がる可能性を指摘したい。

また、用途をグループに分ける精度に着目すると、転用時に所有者や事業者が変更する営利法人に比較して、公共団体は低かった。精度が高くない理由として、設けた項目では網羅できていない転用に関連する要素の存在が示唆された。そこで、統計分析に用いた項目指標が実際に転用時に関係しているかの確認と、物理的以外に転用に繋がる要因について、続く第4章で転用事例をみることで把握することにした。

補注及び参考文献

- ¹ 三谷裕樹，菅原洋一：登録有形文化財建造物の登録と活用のための支援に関する研究―三重県における事例的研究―，2012 年度日本建築学会関東支部研究報告集Ⅱ，pp.621-624，2013 年 3 月
- ² 高田理子，末包伸吾：「近代化産業遺産」のコンバージョンの計画と活用手法に関する研究―倉敷アイビースクエアの事例分析を主として―，平成 22 年度日本建築学会近畿支部研究発表会，pp.885-888，2010 年
- ³ 福井美弥：産業遺産施設の保存活用にかかわる事業主体の役割と評価に関する研究，大阪大学大学院工学研究科 博士学位論文，2013 年 12 月
- ⁴ 白木里恵子，久保勝裕，大垣直明：転用主体の活動実績から見た歴史的建造物の転用プロセスに関する研究―小樽無尽ビルと油津赤レンガ館の事例分析を通じて―，日本建築学会計画系論文集 第 610 号，pp.125-132，2006 年 12 月
- ⁵ 野沢英希，谷口元，常川和久，太幡英亮：廃校施設の建築の特徴と再利用時の改修工事に関する研究―愛知県・岐阜県・三重県の事例を通して―，日本建築学会計画論文集 第 78 巻 第 684 号，pp.445-453，2013 年 2 月
- ⁶ 松下陽，大島隆一：コンバージョンに影響する法規から見た構造と計画について（その 1）―設計時の検討事項の整理―，日本建築学会大会学術講演梗概集（中国），pp.1015-1016，2009 年 9 月
- ⁷ 齊藤哲也，八木幸二：転用された歴史的建造物の用途分類と地区別特性―ミラノ市における歴史的建造物の転用に関する研究―その 1，日本建築学会計画系論文集 第 526 号，pp.147-152，1999 年 12 月
- ⁸ 野澤英希：「新建築」掲載作品におけるコンバージョン事例の再利用に関する考察，建築社会システム（2015），pp.117-118，2015 年 9 月
- ⁹ 和泉成厚，全聖民，大原一興，藤岡泰寛，李鎔根，江口亨，宮川大亮，大堀夏紀：高台丘陵地戸建住宅団地における地域資産の活用に関する研究―その 2 空き家の福祉施設への転用可能性―，日本建築学会大会学術講演梗概集（近畿），pp.1179-1180，2014 年 9 月
- ¹⁰ 高橋謙太，岩田伸一郎，小山光香：小規模オフィスビルの転用可能性評価に関する研究―その 2―立地パターンによる階別採光条件と成立可能な住戸分割プラン―，日本建築学会大会学術講演梗概集（関東），pp.775-776，2015 年 9 月
- ¹¹ 数量化Ⅱ類分析には、Excel 統計のバージョン 2.14 を用いた。例えば、収集事例の中に 2 つのグループがある時、とあるデータがどちらのグループに振り分けられるかを判別するための手法として判別分析を用いることが出来る（参考文献 12：127）。数量化Ⅱ類は、面積 100 ㎡といった量的データではなく、小規模・中規模のように設定した質的データを用いて、判別分析と同じように多元的解析を行う手法のことである（参考文献 12：185）。目的変数（被説明変数）ならびに説明変数どちらも質的データを用いることとなる。分析目的と使用データに即した分析方法の選択フロー図（参考文献 13、14 を元に作成）を参

考に示す。



- ¹² 有馬哲，石村貞夫：多変量解析のはなし，東京図書，1995年1月30日：127
- ¹³ 村瀬洋一，高田洋，広瀬毅士：SPSSによる多変量解析，オーム社，2014年12月10日：4
- ¹⁴ 吉田寿夫：本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本，北大路書房，2010年4月20日：8-9
- ¹⁵ 国土地理院：デジタル標高地位系図 群馬県【技術資料 D1-No.952】 令和元年7月，<https://www.gsi.go.jp/kankyochiri/degitalelevationmap_kanto.html>，2021年9月29日最終アクセス。より、筆者切り抜き加工ならびに文字や線の追加と凡例の切り取り加工。
- ¹⁶ 桐生市教育委員会：ふるさと桐生のあゆみ，1998年2月：93の図13より
- ¹⁷ 川村晃正：明治初年桐生織物産地における産業集積と分業関係，専修商学論集，第82号，pp.205-270，2006年
- ¹⁸ 川村晃正：2006年，前掲書
- ¹⁹ 堀尾作人，陣内秀信：産業革命前における水力産業都市・桐生の形成，日本建築学会計画系論文集 第82巻 第737号，pp.1839-1846，2017年
- ²⁰ 亀田光三：渡良瀬川沿岸の一用水と織物用水車の発達について - 赤岩用水と地場産業用水車 -，群馬文化 第275号，pp.37-50，2003年
- ²¹ 桐生織物史編纂会：桐生織物史 上巻，桐生織物同業組合，1935年
- ²² 桐生織物史編纂会：1935年，前掲書：口絵より
- ²³ 桐生織物史編纂会：桐生織物史 下巻，1940年：口絵より

- ²⁴ 野口三郎：織物工場ノコギリ屋根について（桐生市の場合），日本建築学会大会学術講演梗概集（北陸），pp.1067－1068，1992 年
- ²⁵ 筆者聞き取り（2015 年 10 月）
- ²⁶ 野口三郎：桐生市の織布工場ノコギリ屋根（10 年間の変化），日本建築学会大会学術講演梗概集（東北），pp.552－554，2000 年
- ²⁷ 亀田光三，亀田貴雄：桐生織物史と産業遺産：亀田光三論文集，2011 年 12 月
- ²⁸ 加藤秀雄：繊維産業都市桐生市の構造変化と今後の発展に向けての分析視覚，社会科学論集 第 148 号，pp.81－111，2016 年 8 月
- ²⁹ 堀尾，陣内：2017 年，前掲書
- ³⁰ 川村：2006 年，前掲書
- ³¹ 川村晃正：グローバル化と織物産地：桐生を中心に，専修商学論集，第 102 号，pp.41－69，2016 年 1 月
- ³² 野口三郎：鋸屋根の調査・研究報告（その 1 群馬県桐生市境野町の場合），1990 年度 日本建築学会関東支部研究報告集，pp.345－348，1990 年
- ³³ 野口三郎，村越一史：織物工場鋸屋根について（その 2 桐生市の場合），1991 年度日本建築学会関東支部研究報告集，pp.281－284，1991 年
- ³⁴ 野口：1992 年，前掲書
- ³⁵ 野口三郎：織布工場鋸屋根（その 10 再び桐生市と境野町の場合），1999 年度日本建築学会関東支部研究報告集，pp.609－612，1999 年
- ³⁶ 桐生市：ノコギリ屋根工場，
<<http://www.city.kiryu.lg.jp/sangyou/1012348/1012405/1012412/nokogiri/index.html>>，2020 年 4 月 1 日アクセス
- ³⁷ 桐生市文化財保護課提供
- ³⁸ 桐生市教育委員会：桐生本町の町並み 伝統的建造物群保存対策調査報告書，1994 年 3 月：9，資 43
- ³⁹ 群馬県教育委員会文化財保護課：群馬県近代化遺産総合調査報告書，1992 年 3 月：67，69
- ⁴⁰ 桐生市，前掲書
- ⁴¹ ゼンリン：ゼンリン住宅地図群馬県桐生市，2015 年：75，85，95，96
- ⁴² 群馬県桐生市よりも多数のノコギリ屋根工場が残存と言われる愛知県一宮市においても、調査団による調査結果と高度成長時代の工場分布図を現在の都市計画図に重ねると準工業地域に集中していることが指摘されている。のこ座 第十四回 報告書，
<http://noko.webcrow.jp/events/20171103/nokoza14_report.pdf>，2020 年 4 月 1 日アクセス：5
- ⁴³ 資料編 4．参照
- ⁴⁴ 既存の有限会社は株式会社として存続するが、社名の変更は強制されないため現在も有限会社を名乗ることができる。法務省：会社法の施行に伴う会社登記についての Q&A，

<<http://www.moj.go.jp/MINJI/minji92.html#01>>, 2020 年 4 月 1 日アクセス

⁴⁵ 地方公共団体によって設置され、独立採算の事業ではないとされている。文部科学省：「公立大学法人」制度の概要, <mext.go.jp/a_menu/koutou/kouritsu/detail/1284493.htm>, 2020 年 7 月 25 日アクセス

⁴⁶ 福島県：大学の法人化に関する FAQ,
<<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/01135b/faq.html>>, 2020 年 2 月 13 日更新,
2020 年 4 月 1 日アクセス

⁴⁷ 所轄庁による認可を経たもの。文部科学省：学校法人制度の概要,
<https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/shinkou/07021403/001.htm>, 2020 年 7 月
25 日アクセス

⁴⁸ 日本私立大学協会：「学校法人」ってなに？,
<https://www.shidaikyo.or.jp/apuji/activity/2013_campaign_00.html>, 2020 年 7 月 25
日アクセス

⁴⁹ 国税庁：No.5759 法人税の税率,
<<https://www.nta.go.jp/taxes/shiraberu/taxanswer/hojin/5759.htm>>, 2020 年 7 月 25 日
アクセス

⁵⁰ 資料編 4. 参照

⁵¹ 村瀬・高田・広瀬, 前掲書：81-94

⁵² 吉田, 前掲書：209-212

⁵³ 資料編 4. 参照

⁵⁴ 斎藤英俊：近代化遺産の保存—自らの歴史を語るために, 月刊文化財 596, pp. 4-9,
2013 年

⁵⁵ 飯倉健自, 角田誠：生産施設の再利用の実態と改修設計手法に関する調査研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集(九州), pp.801-802, 2007 年 8 月

⁵⁶ Google map 口コミ (2020 年 4 月 9 日確認) に筆者加筆

⁵⁷ 転用事例 No.48。GEA：FLOOR MAP, <<https://www.gea.yamagata.jp/floormap>>,
2021 年 8 月 1 日アクセス。より取得。

⁵⁸ 転用事例 No.192。ニッシャ印刷歴史館提供の平面図を元に筆者作成。

⁵⁹ 小池志保子, 宮部浩幸, 花田佳明, 川北健雄, 山之内誠, 森一彦：リノベーションの教科書 企画・デザイン・プロジェクト, 学芸出版社, 2018 年

⁶⁰ 資料編 4. 参照

⁶¹ 金子由香, 坪井義道：近代産業遺産の保存・再生によるまちづくりに関する研究 - 桐生市の鋸屋根工場群の保存・再生利用手法を通して -, 日本建築学会関東支部研究報告集, pp.221-224, 2005 年

⁶² Google map 航空写真より筆者加筆ならびに切り取り加工。

⁶³ Google my map にて筆者作成ならびに切り取り加工。

⁶⁴ 国土地理院発行の数値地図(国土基本情報)と ESRI ジャパンの全国市区町村界データ

(<https://www.esri.com/products/japan-shp/>) バージョン 8.2.1 を使用して作成した。

⁶⁵ 国土交通省：GIS ホームページ，<<https://nlftp.mlit.go.jp/index.html>>，2020 年 5 月 18 日リニューアル，2020 年 7 月 1 日最終アクセス

⁶⁶ 財団法人 建築保全センター：公共建築物の保存・活用ガイドライン，大成出版社，2000 年 12 月 10 日：44

⁶⁷ 国土交通省：アクセシビリティ指標活用の手引き（案），<https://www.mlit.go.jp/toshi/tosiko/toshi_tosiko_fr_000009.html>，2014 年 6 月 24 日公表，2020 年 7 月 1 日アクセス。において、「鉄道駅から徒歩 20 分（直線距離で 1 km）…（中略）…の距離を、アクセシビリティ算出上の徒歩限界」としている。

⁶⁸ 澤田敏規，岡本直久：首都圏郊外部における駅周辺への大型商業施設の立地動向，土木計画学研究発表会・講演集 vol.44，

<http://library.jsce.or.jp/jsce/open/00039/201111_no44/pdf/231.pdf>，2011 年 11 月，2021 年 9 月 18 日最終アクセス。において、「駅周辺地区（駅勢圏）の定義については，駅から 500m 圏内というのが目安」とあり、重要伝統的建造物群保存地区への来訪者がついでに足を延ばせる範囲と考えた。

⁶⁹ 北條真伍，森傑，野村理恵：立地条件と近隣環境からみた駐輪スポットの空間特性 札幌中心市街地の駐輪実態に着目して，日本建築学会計画論文集 第 80 巻 第 714 号，pp.1753–1763，2015 年 8 月

⁷⁰ 郭凱泓：空間分析を用いた 2000 年代における飲食店の立地動向－和歌山市を例として－，日本地理学会発表要旨集 2015s(0)，100136，2015 年

⁷¹ 資料編参照

第4章 産業遺産の転用事例

4-1. 本章の目的.....	149
4-2. 方法.....	149
4-3. 登録文化財の転用事例.....	150
4-3-1. 営利法人所有.....	150
(1) 新オーナーによる営利活動.....	151
(2) 現オーナーによる営利活動.....	162
(3) 現オーナーによる営利活動を行わない転用.....	168
4-3-2. 公共団体所有.....	173
(1) 全体公開.....	173
(2) 限定公開.....	180
(3) 非公開.....	189
4-3-3. 個人・グループ所有.....	190
(1) 全体公開.....	190
(2) 限定公開.....	194
(3) 非公開.....	198
4-4. 事例を踏まえた数量化Ⅱ類による分析の考察.....	202
4-4-1. 営利法人所有時.....	202
4-4-2. 公共団体所有時.....	206
4-4-3. 個人・グループ所有時.....	208
4-5. 転用事例の考察.....	210
4-5-1. 同一地域にある同一タイプ建築物の転用群.....	210
4-5-2. 地域特性と地場産業の継承からみた転用の現状評価.....	212
(1) 方法.....	212
(2) ノコギリ屋根工場の保存・活用状況の把握.....	212
(3) 評価項目の設定.....	215
(4) 考察.....	222
4-6. 結論.....	226
補注及び引用文献.....	228

4-1. 本章の目的

転用事例をみることにより、第3章で用いた建築物の物理的要素の具体的な内容や理由を確認し、また、現所有者の意向といった不動産項目以外の定量化できない転用要因を把握することを本章の目的とする。所有者属性ごとの事例の抽出に当たり、用途の判別的中状況や、関連がみられた物理的要素を有しているか、そして実際に稼働率高く転用されているか、外部への情報発信を活発に行っているかを踏まえた。また、統計分析の精度が低かった公共団体所有、ならびに営利法人の所有者・事業者の変更がない場合においては、的中しなかった事例も併せて見ることで精度が低くなった理由を検討する。

さらに、本研究では転用は産業遺産の保存・活用に繋がるということが重要だという視点を持ち、単なる用途転用ではなく遺産としての活用の方法として位置付けている。転用を通して保存・活用に繋がっているか検討するため、転用事例同士を比較することで必要な考え方を把握する。

4-2. 方法

事例を抽出し、転用の実現に至った物理的要素以外の要因として、所有者の意向、用途の内容、転用時の工夫を把握する。

まず、第3章を踏まえ所有者属性別として、営利法人の新オーナー所有（転用に際して所有者・事業者の変更を伴う場合）、営利法人の現オーナー所有（変更のない場合）、そして公共団体所有、個人・グループ所有において、統計による判別が当てはまる事例を対象とした。

転用内容や変遷、転用前後の建物の使われ方の変化に関して、近代化遺産総合調査報告書、市史、保存活用計画といった文献調査ならびに、所有者・事業者へのヒアリング調査を行う。用途については、営利法人所有は営利活動の有無、公共団体所有と個人・グループ所有は公開状況を中心にみた。なお、公共団体所有、そして営利法人の現オーナー所有は、統計分析の精度が低かった理由を検討する。そのため、統計による予想が的中しなかった事例も同時に把握した。事例 No. は資料編の転用事例一覧表に準じる。

さらに、転用を通して産業の特徴が継承されるために必要な視点を検討すべく転用事例の考察を行う。転用事例と現役稼働工場の比較を行うため、同一地域にある同一タイプ建築物活用群として、群馬県桐生市のノコギリ屋根工場を対象にした。地場産業の特徴を歴史背景の整理から把握し、転用の現状評価のための項目設定を行うことで、これらの特徴が転用事例に保持されているか比較することが可能となった。そして、転用が保存・活用に繋がるために必要な要素について検討を行う。

4－3．登録文化財の転用事例

4－3－1．営利法人所有

新たなオーナーによる営利活動を行う事例として、6件を抽出した（表4－1）。営利活動ありに関連がみられた物理的要素として、周辺環境の住宅地、階数の2階建以上、アクセスの駅1km圏外、主構造の歴史感、接道状況の接道ありがあった。各事例表にて、これら関係がみられた項目にレンジの順位を丸数字で表して指標に色を付け、転用事例の有する要素を太字で示した。

表4－1 抽出した事例の用途と判別的中状況
(営利法人・新たなオーナーの場合)

No.	用途	営利活動状況			公開状況		
		的中状況	観測値	予測値	的中状況	観測値	予測値
151	知多木綿アンテナショップ	○	営利活動あり	営利活動あり	×	限定公開	全体公開
169	レストラン	○	営利活動あり	営利活動あり	×	全体公開	非公開
258	雑貨屋	○	営利活動あり	営利活動あり	×	全体公開	限定公開
259	貸しスペース・雑貨販売	○	営利活動あり	営利活動あり	○	全体公開	全体公開
260	レストラン	○	営利活動あり	営利活動あり	○	全体公開	全体公開
6	コーヒーテイクアウト店	○	営利活動あり	営利活動あり	○	全体公開	全体公開

また、営利法人の現オーナーが行う転用事例7件を紹介する（表4－2）。新たなオーナーのグループでは、用途の予想の的中率は89.19%であったが、同じオーナーの場合は65.22%と低くなった。そのため、同じオーナーの場合は、営利活動状況の判別に加えて公開状況の判別の中も踏まえて事例を抽出した。

表4－2 抽出した事例の用途と判別的中状況
(営利法人・同じオーナーの場合)

No.	用途	営利活動状況			公開状況		
		的中状況	観測値	予測値	的中状況	観測値	予測値
48	衣服販売	○	営利活動あり	営利活動あり	×	全体公開	限定公開
49	雑貨・飲食	○	営利活動あり	営利活動あり	×	全体公開	限定公開
172	休憩所	○	営利活動あり	営利活動あり	○	全体公開	全体公開
5	イベントホール	○	営利活動なし	営利活動なし	○	限定公開	限定公開
2	展示館	×	営利活動なし	営利活動あり	○	全体公開	全体公開
3	展示館	×	営利活動なし	営利活動あり	○	全体公開	全体公開
192	記念館	×	営利活動なし	営利活動あり	○	限定公開	限定公開

(1) 新オーナーによる営利活動

No.151 は、知多木綿の産地である知多地方の岡田にて、知多木綿のアンテナショップへと転用されている。2017 年に登録文化財となった後に、個人所有の作業所・寄宿舍の一部を、営利法人の事業者が 2019 年から賃貸形式で借りている。岡田の地域にてアンテナショップを開きたい事業者が、1 年程物件を探していた。その際、噂を聞いた所有者が大家として名乗り出て、転用へと至った¹。

表 4 - 3 No.151 の基本情報

No.151 知多木綿 アンテナショップ		指標 (統計分析の結果) (No.151)	予測値 観測値 所在地	営利活動あり 営利活動あり 愛知県半田市岡田
建築物	② 階数	平屋建	1896 年	旧所有会社が綿布製造会社として設立。
	面積	2 階建以上 中小(190 m ²) 中大 大	1914 年頃	建設。木綿製品を梱包する作業所 ² 。 知多地方は江戸時代より木綿の特産地であった。その中で、岡田は機織りと集荷の中心地であり ³ 、戦間期を通じて輸出向け綿布生産により、成長を遂げた。旧所有会社は、国内向けから輸出向けに転換することで急成長を遂げ、かつては産地大経営と評された ⁴ 。
	④ 主構造	一層 非一層 歴史的 木造 土蔵造		敷地内に残存する主屋（旧事務所）、南蔵、長屋門、塀、北蔵とともに登録文化財に。当時には操業停止。
	敷地	施設残存状況 他非稼働施設 他稼働施設	2017 年	同じ岡田にて生地問屋を営む営利法人により、知多木綿のアンテナショップとして転用開始。
立地	⑤ 接道状況	接道あり 接道なし	2019 年	所有者から賃貸形式の形で、作業所の一部分を転用している ⁵ 。
	③ アクセス	駅 1 km 内 駅 1 km 圏外(2.15km)		
	① 周辺環境	集客地 住宅地 集客・住宅地以外		

図 4 - 1 No.151 の航空写真⁶

アンテナショップを開くための建物に選んだ決め手として、立地、建物の状態の良さ、親切な大家さんの存在が挙げられた⁷。岡田のまちあるきの中心地から、およそ 100m にある（図 4 - 1）。転用に際しては、事業者が自費で行った。「それほどお金はかかっていない」とのこと⁸。



図 4 - 2 No.151 の転用前の外観と内観⁹

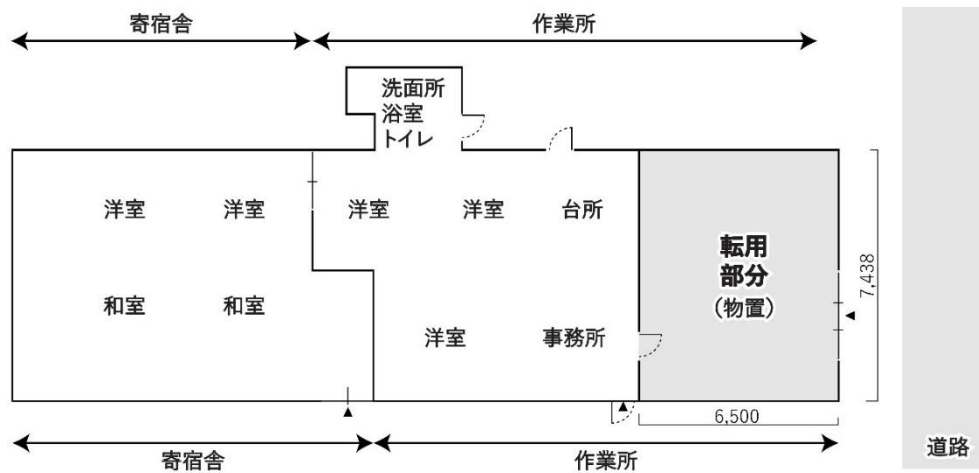


図 4 - 3 No.151 の転用後の外観と内観¹⁰

営利活動ありに関係がみられた物理的要素の中で、No.151 は住宅地、駅 1 km 圏外、接道ありを有していた。

転用は、作業所の中の接道している約 48 m²の部屋で行われている（図 4 - 4）。作業所に接続する寄宿舍は、2017 年の文化財登録時には所有者の住宅として使用されていた¹¹。家内工業的な産業の場合、敷地内に住宅もあることが多く、所有者と事業者が異なる際にプライバシーの問題が生じる可能性について指摘されている¹²。No.151 では、作業所の洋室や事務所部分が緩衝エリアとなっていると考えられる。接道する部屋のみが転用されていることから、接道が営利活動に関連するという第 3 章の結果が再確認された。

アンテナショップは、「木綿をもっと身近に感じてほしい。そして見て触って使ってもらいたい。」¹³という思いから開かれた。地域の特産品を扱うことを踏まえ、店名に使われる数字は郵便番号を由来としている。

図4-4 No.151 (旧作業所・寄宿舍) の転用部分¹⁴

店内に置かれる商品は、素材が力織機で織られた知多木綿であるという共通点を持つ(図4-5)。中日ドラゴンズ球団内の知多出身者のとのコラボレーショングッズとして、ハンカチ販売も行われた¹⁵。また、Covid-19により卒業式がなくなった知多市の小中学校の卒業生へ、ハンカチを生産してプレゼントしている。知多にまつわる柄をデザインし、クラウドファンディングを通して企画・実行された¹⁶。地域のことに徹底的にこだわり、生産品を活かす多様な企画がみられる。

図4-5 商品の手拭いやスカーフ¹⁷、野球球団グッズ¹⁸、プレゼントのハンカチ¹⁹

No.169 は、大規模な紡績工場がショッピングモールへと開発された中にある。一棟のみ残され、2000 年には登録文化財となった。2001 年にショッピングモールが建設された際、改修を経てレストランへと転用されている。営利活動ありの用途は的中しており、物理的要素として周辺環境の住宅地、主構造の歴史感（煉瓦造）、接道ありを有していた。

表 4 - 4 No.169 の基本情報

No.169 レストラン		指標 (統計分析の結果) (No.169)	予測値	営利活動あり
			観測値	営利活動あり
			所在地	三重県四日市市
建築物	② 階数	平屋建 2 階建以上	1916 年	紡績工場の第一工場の建設開始。 国道 1 号線沿い、鉄道の駅と隣接、 港まで 0.5 km という運河沿いに工場 配置 ²⁰ 。
	面積	小～中小 中大 大 (1072 m ²)	1918 年	操業開始。敷地 20 万 m ² 。 その後、主に社宅地などが転売され、 3 分の 2 に減少している ²¹ 。
	空間	一層 非一層	1918 年	原綿倉庫として建設。
	④ 主構造	歴史感(煉瓦造) 木造 土蔵造	1944 年	東南海地震で第一工場の一部が倒壊 ²² 。
	特有性		1959 年	伊勢湾台風を凌ぐ。運河閉鎖 ²³ 。
敷地	施設残存 状況	単体 他非稼働施設 他稼働施設	1996 年	工場として使用。 老朽化が著しく、歴史的建造物としての 調査が行われた。
	⑤接道状況	接道あり 接道なし	1997 年	工場閉鎖。
	③アクセス	駅 1 km 圏内(0.33km) 駅 1 km 圏外	2000 年	登録文化財へ。
立地	①周辺環境	集客地 住宅地 集客・住宅地以外	2001 年	跡地にショッピングモール建設。 ビュッフェスタイルの飲食店へ。
			2013 年	別のビュッフェスタイル飲食店へと 変更。

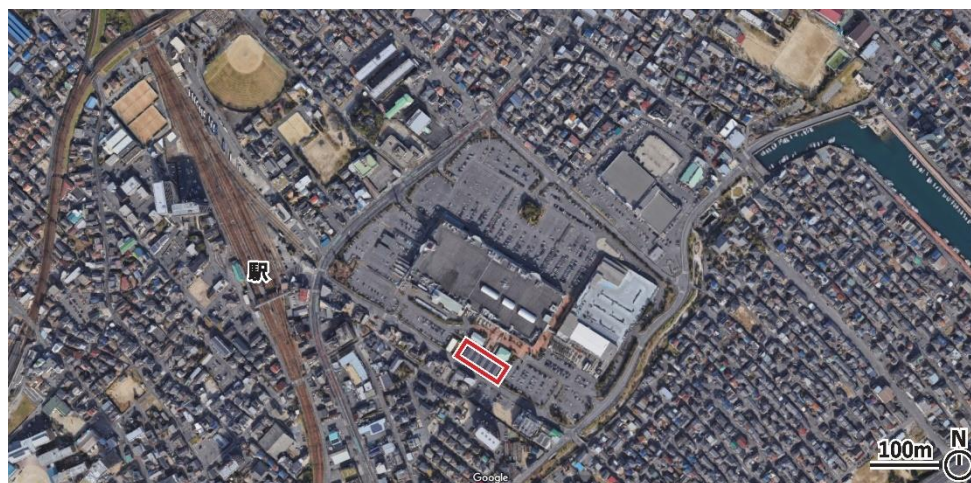
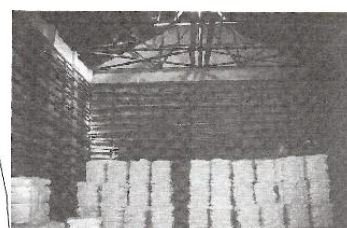
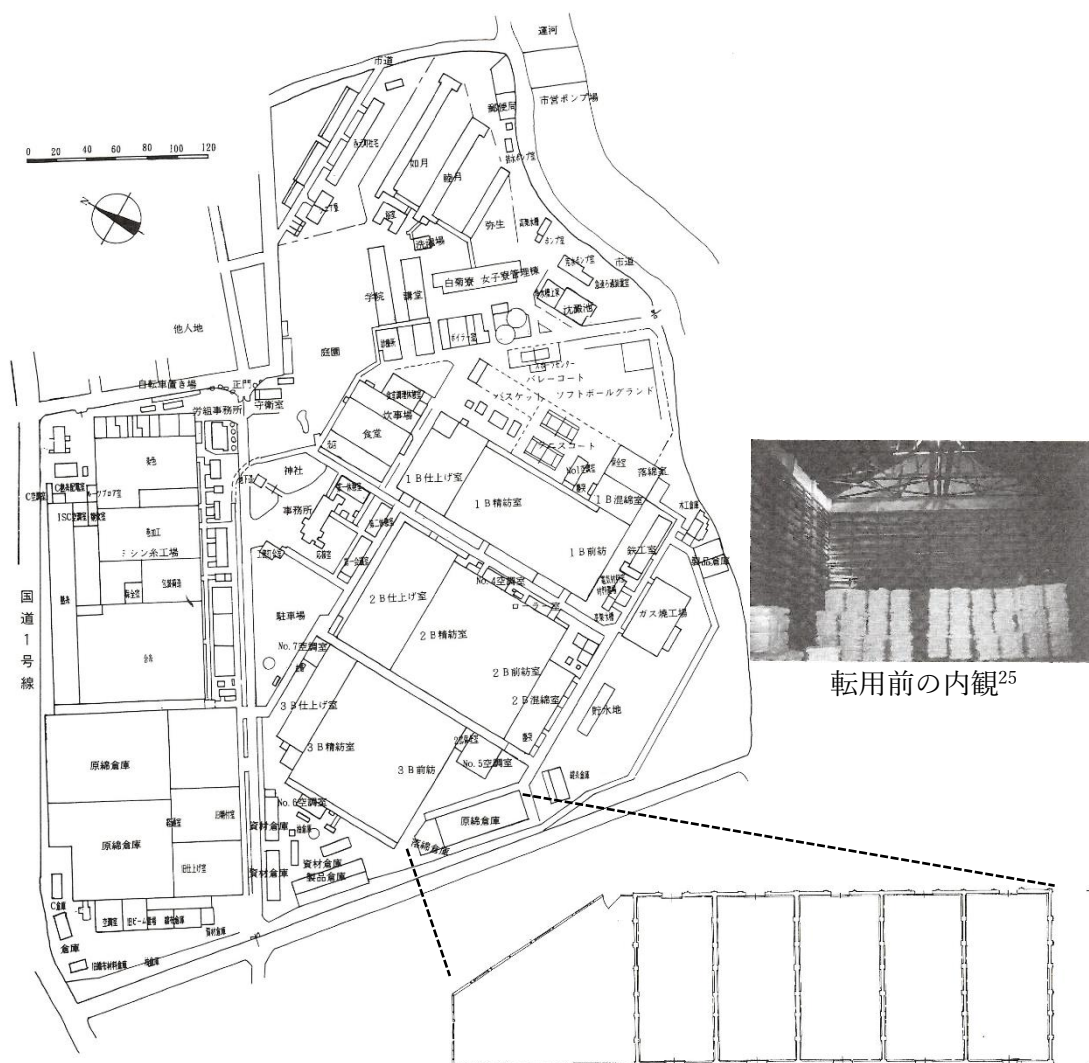


図 4 - 6 No.169 の航空写真²⁴



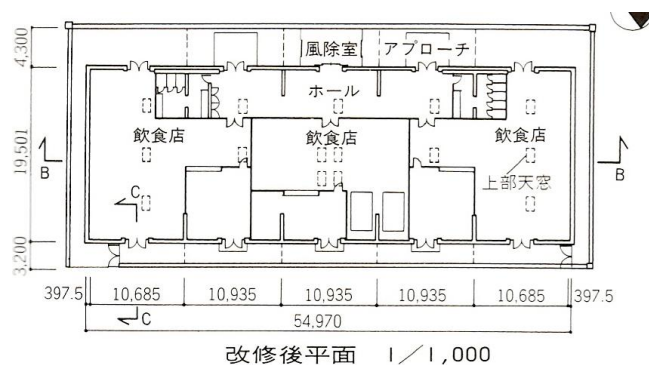
転用前の内観²⁵

図4-7 No.169の転用前の工場配置図²⁶と倉庫の平面図²⁷



図4-8 No.169の転用後の外観²⁸

ショッピングモール内の飲食店という用途は、住宅地に即した用途だといえる。煉瓦壁は残しつつ、主体構造は鉄骨とし、小屋組みも鉄骨トラスに置き換えている²⁹。煉瓦という素材に特徴を見出していることが伺える。一棟ごとの間仕切壁を撤去し、更なる一層空間とし、その中を飲食店ごとにゾーニングしている（図4－9）。大規模改修を伴い、用途変更も行っている。そのため法的な規制を受けているが、構造を鉄骨造準耐火構造に変更し、天井窓を増やして換気面積を確保するなど、建築基準法や消防法との調整を行っている³⁰。敷地や建築物、改修どれを踏まえても大規模で、全国にチェーン展開する大企業だからこそ可能な転用とも言える。



↑ 棟高さが9.8mある。明るさの確保は、照明を飲食店の区画を区切る木製ルーバーに設置して行われていた。

図4－9 No.169の転用時の平面図³¹と転用後の内観³²

No.258、No.259、No.260 は、波佐見焼の製陶工場施設が 2006 年から転用され、2012 年に登録文化財となった。周辺では、文化財登録の有無にかかわらず転用事例が増え、人々の集まる場所へととなりつつある。3 件とも営利活動状況の予測が的中している。

表 4-5 No.258, No.259, No.260 について

No.258, No.259, No.260		指標 (統計分析の結果) (No.258)	指標 (統計分析の結果) (No.259)	指標 (統計分析の結果) (No.260)
用途		雑貨屋	貸しスペース、 雑貨販売	レストラン
予測値		営利活動あり	営利活動あり	営利活動あり
観測値		営利活動あり	営利活動あり	営利活動あり
所在地		長崎県東彼杵郡波佐見町		
建築物	② 階数	平屋建 2 階建以上	平屋建 2 階建以上	平屋建 2 階建以上
	規模 面積	小～中小(213 m ²) 中大 大	小～中小 中大(309 m ²) 大	小～中小(124 m ²) 中大 大
	特有性 空間	一層 非一層	一層 非一層	一層 非一層
	④ 主構造	歴史的感 木造 土蔵造	歴史的感 木造 土蔵造	歴史的感 木造 土蔵造
敷地	施設残存状況	単体 他非稼働施設 他稼働施設	単体 他非稼働施設 他稼働施設	単体 他非稼働施設 他稼働施設
	⑤ 接道状況	接道あり 接道なし	接道あり 接道なし	接道あり 接道なし
立地	③ アクセス	駅 1 km 内 駅 1 km 外(4.91km)	駅 1 km 内 駅 1 km 外(4.90km)	駅 1 km 内 駅 1 km 外(4.88km)
	① 周辺環境	集客地 住宅地 集客・住宅地以外	集客地 住宅地 集客・住宅地以外	集客地 住宅地 集客・住宅地以外

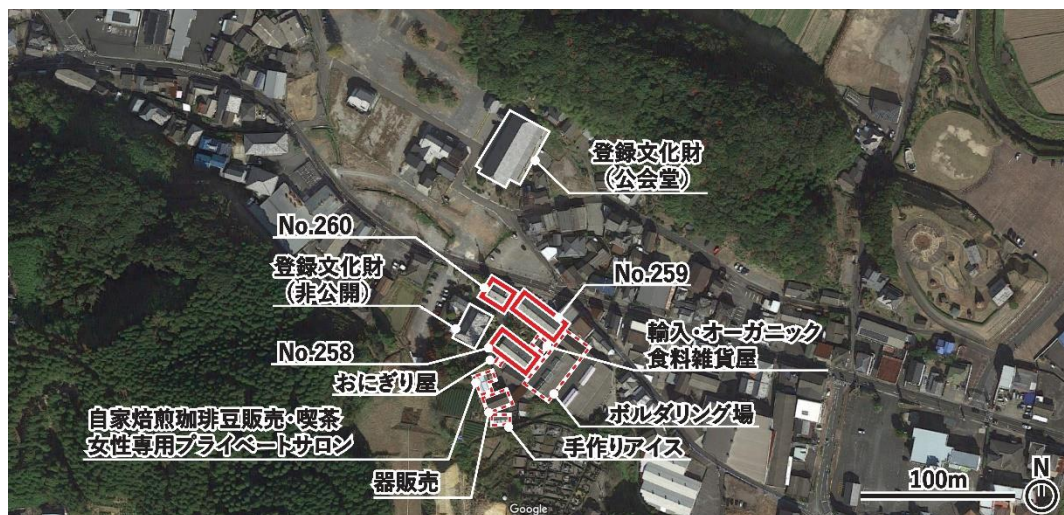
図 4-10 No.258, No.259, No.260 の航空写真³³

表 4 - 6 No.258, No.259, No.260 の転用の概要

転用の概要	
1926 年頃	波佐見焼の製陶工場の中で、 成形した陶磁器の乾燥と絵付けを行う作業場（No.258）、 粘土置場や陶磁器の成形などの作業場（No.259）、 事務所（No.260）として建設。 廃業後、取引のあった陶器卸売の株式会社が土地ごと譲り受ける。 移住してきた若者に場所提供。
2006 年	No.258 雑貨屋がオープン。若者に人気のあるマスキングテープや 硝子ペンなども扱う。 No.259 画材など雑貨販売、展示ギャラリー・貸ギャラリーへ。 (1 日 20000 円、10 日以上は 1 日 5000 円) No.260 レストランとしてオープン。食器は波佐見焼を使用。
2012 年	製陶工場に関連した建築物が登録される。



図 4 - 1 1 No.258 の外観と内観³⁴



図 4 - 1 2 No.259 の外観と内観³⁵



図 4 - 1 3 No.260 の外観と内観³⁶

2006年に3棟の建物の転用が始まったこのエリアは、現在、西の原と呼ばれる。波佐見町へ移住してきた若者への拠点として、No.258、No.259、No.260を提供したことから始まった。

廃業した製陶工場の新たなオーナーとなった株式会社が営利活動を行う理由として、波佐見焼の知名度をあげること、そして波佐見焼の販売利益の拡大が挙げられている³⁷。直接来訪して購入する機会を創出することで、通常の販売時にかかる流通コストを省くことが可能となる。そのため、地域を観光・来訪先に選んでもらうことを重要視している。現在は、文化財に登録されていない物件も合わせて9棟まで転用が広がり、地域住民や観光客に親しまれている。No.258では雑貨販売、No.259はイベントと販売、No.260では全般的な飲食を扱う。その他の転用は、輸入食品・オーガニック食材専門、器専門、自家焙煎珈琲豆専門店・喫茶と女性専用プライベートサロン、おにぎり屋（地域で採れたお米をつかう）、アイス屋（米作り・鶏飼育・卵生産・アイス製造販売までを自分たちで手掛ける）、ボルダリング場など、それぞれが特化している。

No.268-No.270について、営利活動ありに関連する物理的要素としては、住宅地、駅1km圏外が挙げられ、No.260については接道も有していた。No.260はウェブサイトにて「お子さん連れ」³⁸との言及があり、住宅地という周辺環境と合致している。接道していなくても、一帯として歩き回る場所となっているため、No.258のように販売を行うこともみられた。

毎年ゴールデンウィークに、波佐見町では波佐見陶器まつりが開催されている。1959年から始まった³⁹。主催者の波佐見陶器まつり協会によると、2018年には約150の窯元や商社が出店し、来場者数は約33万人であった⁴⁰。やきもの公園が本会場であり、No.258-No.260は、やきもの公園から徒歩300mほどの場所にある（図4-14）。地域住民以外にも、観光客の期待もできる場所と言える。

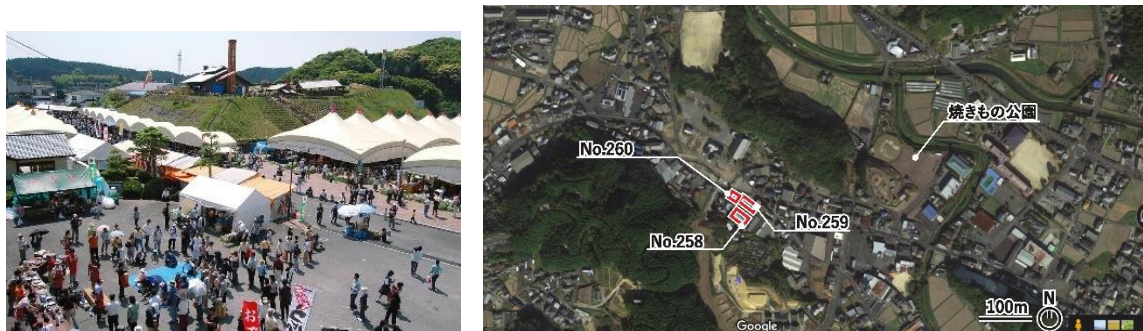


図4-14 波佐見陶器まつり時のやきもの公園⁴¹と位置関係⁴²

2018年には、No.258、No.259の背面に残存していた大型倉庫が、ボルダリング場に転用されている。同じ旧製陶工場の施設であるが、登録文化財ではない。所有する営利法人の社員のアイデアに端を発し、ボルダリングがオリンピックに競技として採用されたことや、人気が高まっている状況を踏まえて決定された⁴³。エリア全体を通して、転用が進み、子供から大人に親しまれるエリアとなっている。

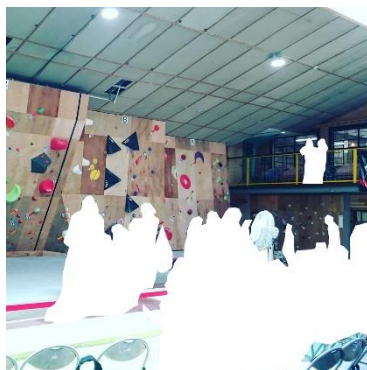


図 4 - 1 5 ボルダリング場へ転用された倉庫の様子⁴⁴

No.6 は、りんご倉庫からコーヒーテイクアウト店への転用である。転用開始は 1984 年と早く、事例の中でも長く継続しており、2012 年に登録文化財となった。元々の煉瓦造の建築物と L 字型に連結された増築部を併せて、コーヒーの焙煎と販売を行っている。カフェやテイクアウトなど用途を変えながら転用を継続している。用途の営利活動状況について、統計による予測は的中していた。

表 4 - 7 No.6 の情報

No.6 コーヒーテイク アウト店		指標 (統計分析の結果) (No.6)	予測値	営利活動あり
			観測値	営利活動あり
			所在地	北海道札幌市
建築物	② 階数	平屋建 2 階建以上	1953 年	建設。
	面積	中小(36 m ²) 中大 大	1984 年	りんご倉庫として使われた後、 農機具の保管に使われていた。 転用開始。 コーヒーを扱う会社の 1 号店 ⁴⁵ として開店。 増築部とあわせて、工場や 社員研修センター、教室などに 利用されていた
	空間	一層 非一層	2012 年	登録文化財へ。
	④ 主構造	歴史感 木造 土蔵造	2017 年	カフェとして再オープン。
	施設残存 状況	単体 他非稼働施設 他稼働施設	2019 年	カフェ営業終了。 テイクアウト専門店へ ⁴⁶ 。
敷地	⑤ 接道状況	接道あり 接道なし	2020 年	サンドイッチ販売開始 近隣にもう一棟煉瓦造の りんご倉庫が残存(2006 年 登録文化財)していたが、 公開は行われておらず、 2014 年に解体された ^{47、48} 。
	③ アクセス	駅 1 km 圏内 駅 1 km 圏外(1.89km)		
立地	① 周辺環境	集客地 住宅地		
		集客・住宅地以外		

営利活動と関連がみられた物理的要素のうち、住宅地、駅1km圏外、歴史感、接道ありを有している。

カフェを経てコーヒーテイクアウト専門店へ、そしてサンドイッチとコーヒーのテイクアウト店へと変化している。いずれも日常生活に係る営利活動を伴っており、コーヒーやサンドイッチの販売は住宅地という周辺環境と合致していると言える。2階建以上ではなく平屋建であるが、面積が36㎡と小さく、不足する面積は増築で賄っていた。また、増築部には煉瓦タイルが貼られている。このことから、煉瓦という素材を重視していることが伺える。間仕切壁があるが、天井は張られておらず、空調は床に置くタイプを設置している。



図4-16 No.6の転用後の外観⁴⁹とカフェ時の内観^{50、51}



図4-17 No.6の航空写真⁵²

(2) 現オーナーによる営利活動

No.48 と No.49 は、稼働中の紡績・ニットメーカー工場敷地内にある旧工場で、No.48 は自社製品を始めとした衣服のセレクトショップ、No.49 は雑貨販売とカフェ、飲食店となっている。2015 年から転用が始まり、2018 年には文化財に登録されている。営利活動ありについて、統計分析の予想が的中していた。

表 4 - 8 No.48 と No.49 について

No.48 No.49		指標 (統計分析の結果) (No.48)	指標 (統計分析の結果) (No.49)	転用の概要
用途		衣服販売	雑貨・飲食	1932 年 紡績・ニットメーカー創業。羊を飼いながら糸作りを行っていた ⁵³ 。
予測値		営利活動あり	営利活動あり	
観測値		営利活動あり	営利活動あり	
所在地		山形県寒河江市		
建築物	階数	平屋建 2 階建以上	平屋建 2 階建以上	1934 年 酒蔵として建設。
	面積	中小 中大規模(434 m²) 大	中小 中大規模(434 m²) 大	1952 年 地元の酒蔵を譲り受け、 現在地に移築。 工場として使用。
	②空間	一層 非一層	一層 非一層	
	①主構造	歴史的(石造) 木造 土蔵造	歴史的(石造) 木造 土蔵造	
	施設残存状況	単体 他非稼働施設 他稼働施設	単体 他非稼働施設 他稼働施設	2015 年 転用開始。 No.48 国内外のブランドセレクトショップ。 No.49 雑貨販売・カフェ・飲食店。
敷地		④接道状況	接道あり 接道なし	
立地	③アクセス	駅 1 km 圏内(0.11km) 駅 1 km 圏外	駅 1 km 圏内(0.11km) 駅 1 km 圏外	2018 年 登録文化財へ。
	周辺環境	集客地 住宅地 集客・住宅地以外	集客地 住宅地 集客・住宅地以外	



図 4 - 1 8 No.48 と No.49 の航空写真⁵⁴

営利活動ありに関係する物理的要素として、No.48、No.49 は、主構造の歴史感（石造）、接道ありの要素を持っていた。非一層ではなく一層空間を有するが、2階ではガラスボックスの挿入により空間の強弱をつけていた。敷地内に稼働施設があるが、No.48 と No.49 は敷地の角にあり、外部の受け入れが可能となったと考える。また、カフェや雑貨の販売用途は、住宅地という周辺環境に沿っていると言える。

創業4代目の、「均一化した商品やショッピングモールが増える中、ここでしか味わえない場所をつくること」^{55、56}という思いの元、転用が始まった。古いものと新しいものの融合した空間を目指している。No.48 と No.49 の転用に併せてウェブサイトを開設し、積極的に情報発信を行っている。特にセレクトショップでは扱いの少ないブランドもあり、ファッション好きの行きたい場所としても挙げられる。

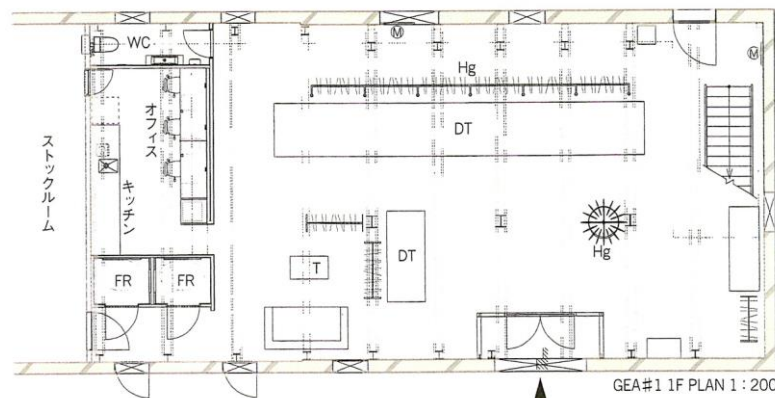


図4-19 No.48の1階平面図⁵⁷

衣服のセレクトショップへ転用する際、建築物以外の産業要素も活用されている。例えば、工場時代の紡績機にはガラス天板を乗せて商品を置き、ディスプレイに活かしている。また、新たに挿入された鉄骨フレームを覆うガラスには、伝導型スピーカーを設置している。ガラスからは、工場で撮った織機や紡績機の音をサンプリングした音楽が聞こえてくる^{58、59}。

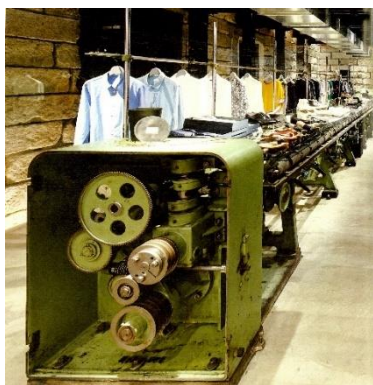


図4-20 No.48の1階の内観⁶⁰

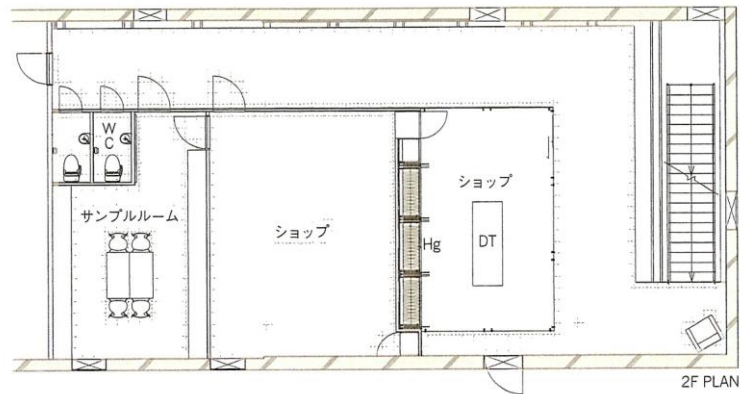


図 4 - 2 1 No.48 の 2 階平面図⁶¹



↑ ガラスの部屋にはステンレスを用い、ハイブランド製品を、
奥の部屋に自社ブランド製品を並べている⁶²。

図 4 - 2 2 No.48 の 2 階の内観⁶³

No.49 では雑貨販売を行い、山形の職人やクリエイターによる作品を主に扱っている。商品を選択する際は、ものづくりへのこだわりとファッション性を重視している。県内家具メーカーとのコラボレーション商品や、またスタッフ着用の帽子は自社製の非売品を用いるなど、自社製品を活用している。飲食店は、地域の食文化を発信するレストラン和（地酒）、洋（地域の食材）の2店舗が入る。

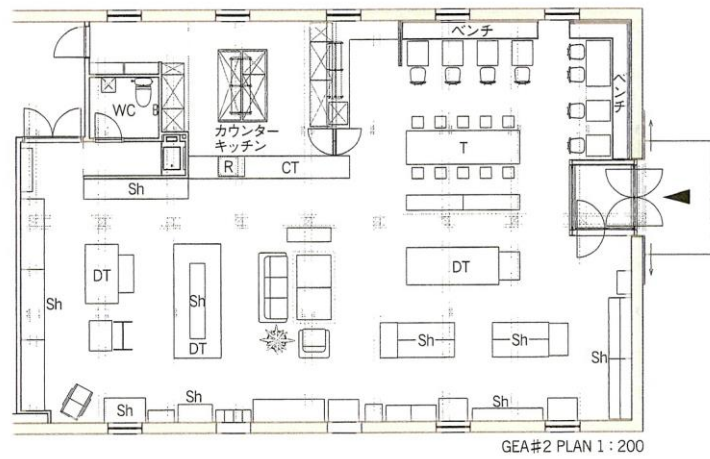


図4-23 No.49の転用後平面図⁶⁴



↑カフェスペース



↑工場で使用されていた作業台を
中心に置いている。



←所有者の生産品であるファブリックを
貼った特注品ソファ

図4-24 No.49の転用後の内観写真⁶⁵

No.172 は、現在も稼働している製陶工場内にあり、2000 年頃まで事務所として使われていた。現在は無人の休憩所へ転用されている。2011 年に文化財として登録された。

敷地内には、他にも体験工房（No.171）や、展示室（No.173、No.174、No.175）へ転用された建物がある。主屋や別荘、登り窯など計 14 件が文化財として登録されている。

表 4 - 9 No.172 の基礎情報

No.172 休憩所		指標 (統計分析の結果) (No.172)	予測値	営利活動あり
			観測値	営利活動あり
			所在地	三重県伊賀市
建築物	規模	階数	1832 年 製陶会社創業。 1919～1926 年頃 建設。 2000 年頃まで事務所を使用していた。 2011 年 No.172、登り窯、登録文化財へ。 2015 年 主屋、門及び塀、奥の蔵、蔵、別荘、離れ、工房一、工房二、体験工房、展示室一、展示室二、展示室三、が登録文化財へ。 現在 来訪者の休憩所として開放。 自動販売機にて、自社製品の焼き物 カップ付コーヒー 350 円を販売。	
		面積		
	特性	②空間		
		①主構造		
敷地	施設残存状況	単体 他非稼働施設 他稼働施設		
	④接道状況	接道あり 接道なし		
立地	③アクセス	駅 1 km 圏内 駅 1 km 圏外 (4.64km)		
	周辺環境	集客地 住宅地 集客・住宅地以外		



図 4 - 2 5 No.172 の航空写真⁶⁶

No.172 は、来訪者の休憩所として開放されており、他に自社製品や焼き物の展示を行う。

営利活動に関連がみられた物理的要素の内、非一層空間、アクセスの駅 1 km圏外、接道ありを有している。区切られた部屋に合せて、休憩所スペースと展示スペースを使い分けていた。駅 1 km圏外の集客・住宅地以外に位置するが、陶芸体験や自社製品を取りそろえた展示室があるため来訪者がいる。2013 年頃は、週に 300 人ほどが利用していた⁶⁷。主構造は木造であるが、事務所として使用していた頃の金庫や電話が残され、歴史的建造物の雰囲気を感じられる。大正館と名付けられている。

建物内に常駐スタッフはいないため、自動販売機を用いてコーヒーを販売している。その際に、自社製品の焼き物であるコップとセットで販売している。



外観⁶⁸



休憩スペースの内観⁶⁹



生産物と自動販売機⁷⁰

図 4 - 2 6 No.172 の転用後

敷地内は稼働施設と非稼働施設が混在しており、生産のみならず、体験、展示、販売と多様に使われている。同じ市にあるホテルの朝食では、同社のヒット商品でもあるエッグベーカーが用いられていた。



4 - 2 7 No.172 と同時に登録された登り窯⁷¹

(3) 現オーナーによる営利活動を行わない転用

No.5 はイベントホールで、12 の登録文化財を有する稼働中の酒造にある。他にも、No.2 (酒造に関する展示)、No.3 (酒造に関する展示)、No.4 (自社製品の販売や展示) と、転用事例がある。営利活動状況は、No.5 (なし) と No.4 (あり) については的中したが、No.2 と No.3 については的中していなかった (表 4-10)。

表 4-10 No.5 と No.2-4 について

No.5, No.2, No.3 No.4		指標 (統計の結果) (No.5)	指標 (統計の結果) (No.2)	指標 (統計の結果) (No.3)	指標 (統計の結果) (No.4)
予測値		営利活動なし	営利活動あり	営利活動あり	営利活動あり
観測値		営利活動なし	営利活動なし	営利活動なし	営利活動あり
用途		ホール	展示	展示	販売・展示
所在地		北海道夕張郡栗山町			
建築物	階数	平屋建 2 階建以上	平屋建 2 階建以上	平屋建 2 階建以上	平屋建 2 階建以上
	規模	中小 中大 大規模(568 m ²)	中小規模(199 m ²) 中大 大	中小規模(114 m ²) 中大 大	中小規模(200 m ²) 中大 大
	② 空間	一層 非一層	一層 非一層	一層 非一層	一層 非一層
	① 主 構 造	歴史感	歴史感	歴史感(煉瓦造)	歴史感(RC 造)
		木造 土蔵造	木造 土蔵造	木造 土蔵造	木造 土蔵造
敷地	施設残存 状況	単体 他非稼働施設 他稼働施設	単体 他非稼働施設 他稼働施設	単体 他非稼働施設 他稼働施設	単体 他非稼働施設 他稼働施設
	④ 接道状況	接道あり 接道なし	接道あり 接道なし	接道あり 接道なし	接道あり 接道なし
立地	③ アクセス	駅 1 km 圏内(0.6km) 駅 1 km 圏外	駅 1 km 圏内(0.6km) 駅 1 km 圏外	駅 1 km 圏内(0.5km) 駅 1 km 圏外	駅 1 km 圏内(0.5km) 駅 1 km 圏外
	周辺環境	集客地 住宅地	集客地 住宅地	集客地 住宅地	集客地 住宅地
		集客・住宅地以外	集客・住宅地以外	集客・住宅地以外	集客・住宅地以外

他にも、登録文化財の種別 1 の住宅として蔵元の生家も登録されている。また、登録文化財以外にも、元役員住宅は生製品の清酒を出す飲食店に転用されている。

用途を失った複数の建物の中、No.5 のように規模が大きく一層空間を有し、接道していないものがイベントホールとして転用されている。一方で、歴史感のある部屋の区切られている No.4 では販売や展示が行われていた。これらから、統計分析でみられた用途と建築物の関係が改めて確認できた。試飲付き販売は、広告宣伝費が発生せず高い粗利益が見込めるため⁷²、稼働中施設内の転用として有効だと言える。

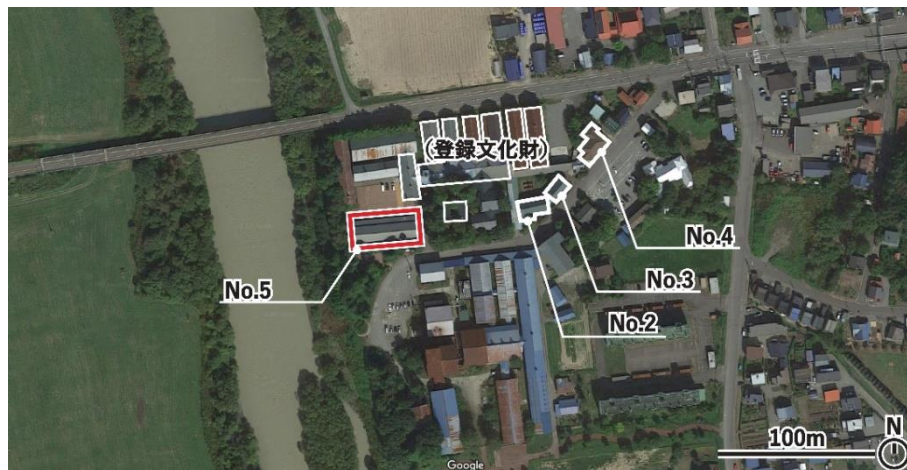


図4-28 No.5とNo.2-4の航空写真⁷³

表4-11 No.5とNo.2-4の転用の概要

転用の概要	
1878年	札幌にて清酒業を開始。
1900年	豊かな自然環境のある現在地へ移転。明治時代、北海道は氷点下となり発酵が停止するなど、酒造りに向いている環境とは言えなかった ⁷⁴ 。そこで石炭での熱を利用した酒造りを導入し、効率よく製造できるように。 煉瓦蔵といった西洋建築を取り入れた造り酒屋 ⁷⁵ 。
1920年	No.2、No.3建設。
1944年	No.4建設。
1945～1955年	夕張を中心とした炭鉱街で、息抜き酒として需要高まる。
1953年	No.5建設。
1955年	旧事務所を転用した記念館（No.4）がオープンする。
1995年以降	蔵を整備して徐々に公開する。
1996年	旧事務所を転用した記念館（No.4）に、売店・試飲処を併設する。
1997年	アメリカのニューヨークに定期輸出を開始。
1999年	No.5のホールが完成 ⁷⁶ 。収容約180人。
2006年	登録文化財へ。敷地内には17棟が残存しており、地域の人々へ解放すべく、整備を行い、公開施設を増やしている。 昭和元年建設の元役員住宅が、生産品の日本酒も味わえる蕎麦屋として転用される。
2011年	蔵元の生家（住宅の登録文化財）も公開され、文化財保存協力費として1000円の1時間程度のガイドツアーが行われている。 キャッチフレーズは、「春夏秋冬、外より寒い小林家」 ⁷⁷ 。 毎年4月に酒蔵まつりを開き、蔵開放を行っている。



No.5 の内観⁷⁸



No.2 の内観⁷⁹



No.3 の外観⁸⁰と内観⁸¹



No.4 の外観⁸²と内観⁸³

図4-29 No.5、No.2-4 の転用後の様子

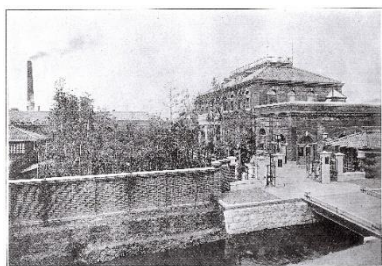
No.2、No.3 では、予測値が営利活動ありと出た。しかし、No.4 にて試飲・販売、また元役員住宅で飲食店があることを踏まえると、限られた会社の規模でこれ以上営利活動を伴う転用は困難だと言える。複数転用事例がある場合について、統計には組み込まれていない点だと指摘できる。

No.192 は、印刷業を中心に扱う会社の敷地内にある。事務所から印刷に関する歴史館へと2009年に転用され、後の2012年には登録文化財となった。営利活動状況は的中しなかったが、公開状況は的中していた。営利活動ありとの関連がみられた物理的要素のうち、主構造の歴史感、空間の非一層空間を有しているが、営利活動は行われていない。既に新たな事務所棟が建てられていたこと、そして故名誉会長の印刷文化・技術の後世の向上発展へ寄与したいという強い思いから、印刷に関する世界的な技術や歴史を知ることのできる予約制の歴史館という用途が決定された⁸⁴。これは、統計分析に用いた不動産にまつわる物理的項目では抑えられていない点と言える。

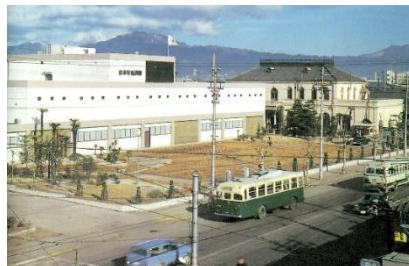
表4-12 No.192について

No.192 記念館		指標 (統計分析の結果) (No.192)		予測値	営利活動あり	限定公開
				観測値	営利活動なし	限定公開
				所在地	京都府京都市	
建築物	規模	階数	平屋建 2階建以上	1898 年	1895 年に設立の会社が、現在地に紡績工場を建設して操業開始。	
		面積	中小 中大規模 (346 m ²) 大	1906 年	紡績会社の本社事務所として建設。	
	特有性	②空間	一層 非一層	1946 年	現所有者の印刷会社設立。	
		①主構造	歴史感 (煉瓦造)	1948 年	現所有者が土地・建物を取得。	
			木造 土蔵造	1980 年	事務所として使用。	
敷地	施設残存状況	単体 他非稼働施設 他稼働施設	2003 年	構造調査に着手。		
	④接道状況	接道あり 接道なし	2008 年	耐震補強を含む保存修理工事完了。総額約 2.5-3 億円の工事費は、所有者である株式会社が全額負担 ⁸⁵ 。		
	③アクセス	駅 1 km圏内 (0.62km) 駅 1 km圏外	2009 年	転用開始。 会社が携わる産業に関する歴史館として転用された。		
立地	周辺環境	集客地 住宅地 集客・住宅地以外	2012 年	登録文化財に。		

図4-30 No.192の航空写真⁸⁶



1916 年頃の外観⁸⁷



1975 年頃の外観⁸⁸



1970 年頃の事務所時代⁸⁹



現在の外観⁹⁰

図 4 - 3 1 No.192 の写真でみる変遷

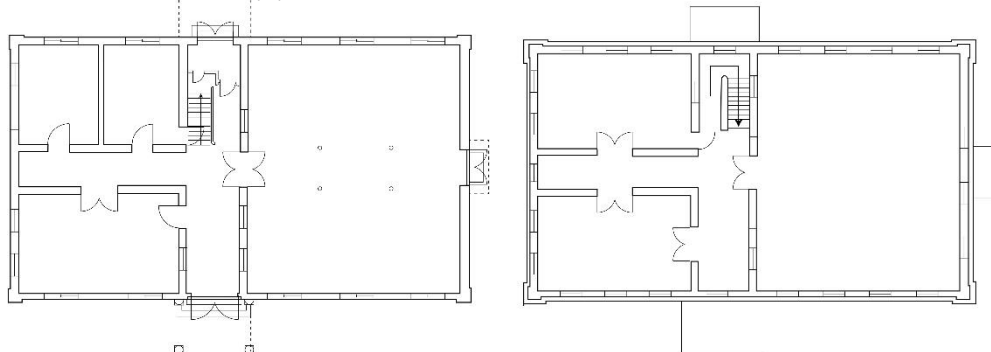


図 4 - 3 2 No.192 の転用後の 1 階と 2 階の内観と平面図⁹¹

事前予約制を採用しているが、これはスタッフの数が限られているためである⁹²。また、敷地内には稼働工場が広がっており、不特定多数の随時受け入れは安全面や対応が困難であることも理由に挙げられている⁹³。また、工場敷地は柵が張られている。文化財の登録以前に、自主的に構造調査や耐震補強工事を行った。事業費の 2.5-3 億円は所有者が全額負担しており、資本金 121 億 1979 万円⁹⁴という大企業だからこそ可能になった転用と言える。

4-3-2. 公共団体所有

抽出した12事例について、統計分析の判別的中状況を表4-13に示した。公開状況に関して、常時公開してあらゆる人からの来訪を受け入れる全体公開が6件、時間や対象を限定して受け入れる限定公開5件、また外部の人を受け入れない非公開1件を抽出した。

また、公共団体所有の場合は統計分析の精度が低かった。そのため、統計分析が的中していない事例として、全体公開が予想されたものの実際は限定公開である事例(No.70、No.7、No.223)も併せて抽出し、公開状況に関連する統計に用いた項目以外の要因を探った。

表4-13 抽出事例の用途と判別的中状況(公共)

No.	用途	公開状況			営利活動状況		
		的中状況	観測値	予測値	的中状況	観測値	予測値
32	カフェ	○	全体公開	全体公開	○	営利活動あり	営利活動あり
128	ジオラマ館	○	全体公開	全体公開	○	営利活動あり	営利活動あり
129	レストラン館	○	全体公開	全体公開	○	営利活動あり	営利活動あり
267	展示	○	全体公開	全体公開	×	営利活動なし	営利活動あり
268	観光案内所	○	全体公開	全体公開	×	営利活動なし	営利活動あり
269	展示	○	全体公開	全体公開	×	営利活動なし	営利活動あり
69	イベントスペース	○	限定公開	限定公開	○	営利活動なし	営利活動なし
70	週末マルシェ	×	限定公開	全体公開	○	営利活動あり	営利活動あり
278	住民向け飲食店・展示	○	限定公開	限定公開	○	営利活動あり	営利活動あり
7	郷土館	×	限定公開	全体公開	○	営利活動なし	営利活動なし
223	貸しスペース	×	限定公開	全体公開	×	営利活動なし	営利活動あり
139	研究所施設	○	非公開	非公開	○	営利活動なし	営利活動なし

(1) 全体公開

No.32 は、産業遺産の代表的な転用事例で紹介した(1-3-2.(2))、旧小坂鉦山事務所と同じ旧鉦山施設である。元々は動力の供給施設で、明治百年通りへ2014年に移築され、2015年からカフェとして転用開始された。後の2017年に登録文化財となった。

図4-33 No.32の航空写真⁹⁵

表 4 - 1 4 No.32 の基礎情報

No.32 カフェ		指標	予測値	全体公開
		(統計分析の結果)	観測値	全体公開
		(No.32)	所在地	秋田県鹿角郡小坂町
建築物	階数	平屋建 2 階建以上	1904 年 建設。 鉱山内の、機械やボイラーなどの製作 を行う鍛冶製罐場へ動力を供給する 施設として建設された ⁹⁶ 。 2014 年 明治百年通りへ移築。 事業費は、施設設計：町 2,040,150 円、 国費 550,000 円、 整備工事：町 79,272,000 円、 国費 16,722,000 円 ⁹⁷ 。 2015 年 カフェとしてオープン。 2017 年 登録文化財に。	
	規模	小		
	① 面積	中小規模(95 m ²)		
	空間	中大 大 一層 非一層		
	特有性	歴史感(木骨煉瓦造) 木造 土蔵造		
	主構造			
敷地	施設残存状況	単体 他施設あり		
	③	接道あり		
	接道状況	接道なし		
立地	④	駅 1 km 圏内		
	アクセス	駅 1 km 圏外(7.53km)		
	② 周辺環境	集客地 住宅地 集客・住宅地以外		

図 4 - 3 4 No.32 の移築前の外観と内観⁹⁸図 4 - 3 5 No.32 の移築・転用後の外観と内観⁹⁹

全体公開に関連がみられた物理的要素のうち、中小規模、駅1km圏外を有する。元々は民間企業の敷地内にあり、移築された。旧小坂鉱山事務所と康楽園の中間に位置し、近隣のレールパークやレールバイクと合せて鉱山施設の観光拠点となっており、来訪者が期待できるエリアである。

煉瓦はブロック解体を施し、2面以上の外観に旧煉瓦を使用している¹⁰⁰。新たな名称に「赤煉瓦」が使われていることから、煉瓦を特徴として把握している。内部は風除室を設け、厨房施設を追加している。天井を貼っていないため、空調設備は床置き型を採用している。事業費は、施設設計に対して町が2,040,150円を負担し、国費550,000円の補助を受けている。また、整備工事に対しては、町が79,272,000円を負担し、国費16,722,000円を補助されている。煉瓦の移築を伴う大規模事業である。明治百年通りは交流人口の拡大や地域の活性化を狙っている。今後は、回遊性の向上や持続可能な観光地としての在り方、住民との協働を推進する¹⁰¹。

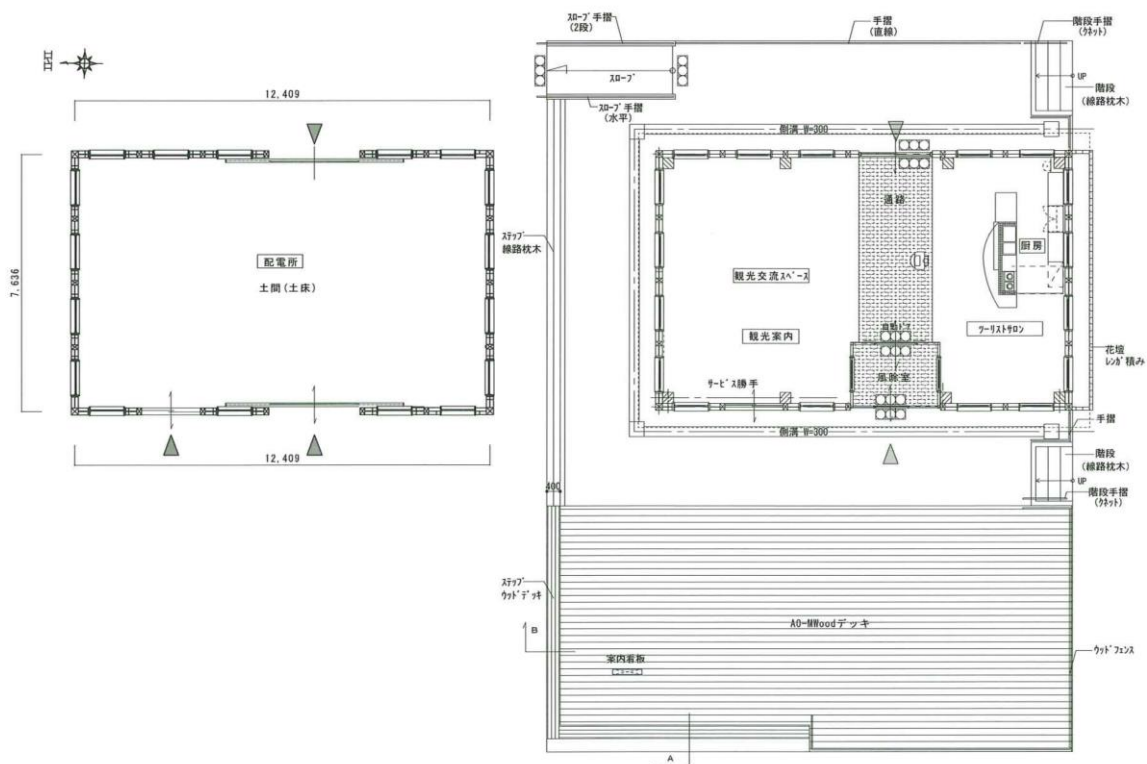


図4-36 No.32の移築前と移築・転用後の平面図¹⁰²

No.128とNo.129は、同型の建物が2009年に文化財登録された後、市により大規模な改修を伴い2015年にジオラマ館とレストラン館へ転用された。全体公開の用途は的中した。

軍や株式会社によって倉庫として使われていたが、2003年に市に譲渡された。その後、2004年にはイベントで、レストランや物販店として活用していた¹⁰³。2005年に、新潟県中越地震の影響を受けて煉瓦倉庫の耐震診断を行った。すると、震度5弱で倒壊の恐れあ

りと結果が出たため、利用を禁止することとなった。以降は、整備事業費約6億円の財源確保が難しく、計画の立案に留まっていた。2013年に、国土交通省による地方都市リノベーション事業（都市再生整備計画）による50%の国交付金を用いて、整備が開始されることとなり、転用へと至っている¹⁰⁴。

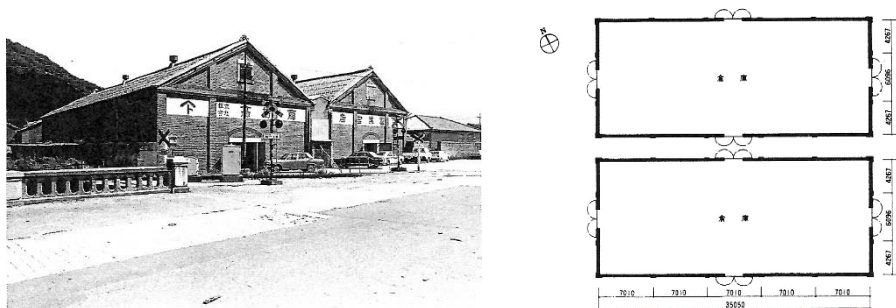


図4-37 No.128とNo.129の転用前の外観（1999年以前）¹⁰⁵と平面図¹⁰⁶



図4-38 2012年の内観¹⁰⁷と転用後の外観¹⁰⁸

全体公開に関連する要素のうち、駅1km圏外、接道ありを有していた。単体残存ではないが、敷地内の2棟を同時に転用している。新たな名称に「赤レンガ」とついており、煉瓦への注目が伺える。

No.129のレストラン館は、出店者を4店舗募集した結果、地元野菜を用いて市内で飲食店を運営していた店、市の観光スポットに出店していた地元魚介類飲食店、他市で営業していたイタリアンレストラン・BAR・ジェラート店が入った。1店舗当たり、鉄骨補強で囲まれた約80～100㎡の面積とし、一層空間を分割して利用している。内装はテナント側が負担した。

No.128はジオラマ館とし、一層空間を大胆に使った巨大ジオラマで、昭和20年の地図を参考に約80分の1の鉄道と港の町、敦賀のまちなみを再現している。集客力の高い施設をつくることが課題であり、市内に点在する遺産をジオラマに配置し、回遊性を誘い出す効果を狙っている¹⁰⁹。事業者は市で、デザイン設計は丹青社が担当した。

表4-15 No.128とNo.129の基礎情報

No.128 No.129		指標 (統計分析の結果) (No.128)	指標 (統計分析の結果) (No.129)	転用の概要	
予測値		全体公開	全体公開		
観測値		全体公開	全体公開		
用途		ジオラマ館	レストラン館		
所在地		福井県敦賀市			
建築物	規模	階数	平屋建 2 階建以上	1905 年 アメリカの会社が石油の倉庫として建設し 1940 年撤退に伴い売却。 1944 年 一時は軍の備品倉庫などに使用。 1951 年 株式会社が購入し、わかめ倉庫に使用。 2003 年 別の株式会社が購入し、市へ譲渡。 2009 年 登録文化財。 北棟(No.129)、南棟(No.128)、煉瓦塀。 2015 年 転用開始。 補強・修復工事が完了。 レストラン館、ジオラマ館として開館。	
		① 面積	小		小
			中小 中大規模(513 m ²) 大		中小 中大規模(513 m ²) 大
	特有性	空間	一層 非一層		一層 非一層
		主構造	歴史感(煉瓦造) 木造 土蔵造		歴史感(煉瓦造) 木造 土蔵造
敷地	施設残存状況	単体 他施設あり	単体 他施設あり		
	③ 接道状況	接道あり 接道なし	接道あり 接道なし		
	④ アクセス	駅 1 km 内 駅 1 km 圏外(1.64km)	駅 1 km 内 駅 1 km 圏外(1.65km)		
立地	② 周辺環境	集客地 住宅地 集客・住宅地以外	集客地 住宅地 集客・住宅地以外		

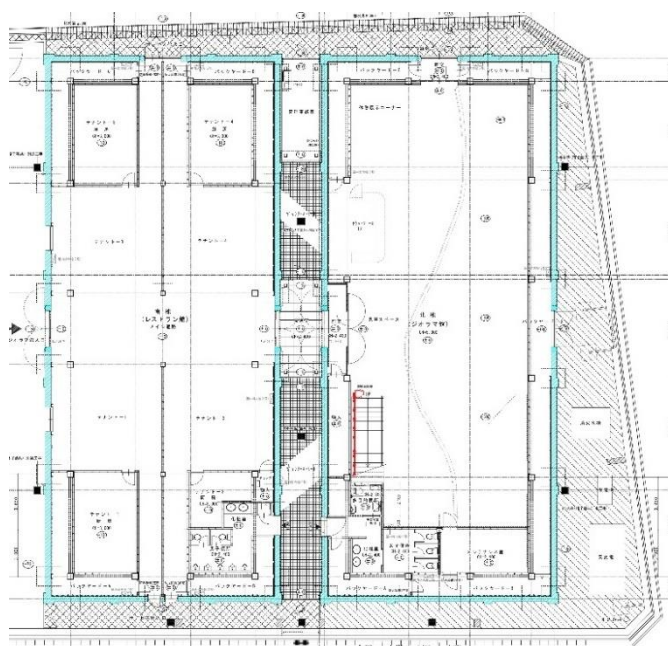
図4-39 転用後の平面図¹¹⁰と内観¹¹¹ (右下 No.128、右上 No.129)



図 4 - 4 0 No.128 と No.129 の航空写真¹¹²

No.267、No.268、No.269 は、農業倉庫群が市により 2002 年から転用されている。市は、まちづくりのテーマとして昭和の街並みを採用しており、倉庫群もこのテーマに則った用途が選択されている。その後、2010 年に登録文化財となった。

全体公開と関連がみられた要素として、面積の中小規模（No.268）、接道あり、駅 1 km 圏外が挙げられる。地域一帯が昭和というテーマで整備される中で、拠点的地方と言える。

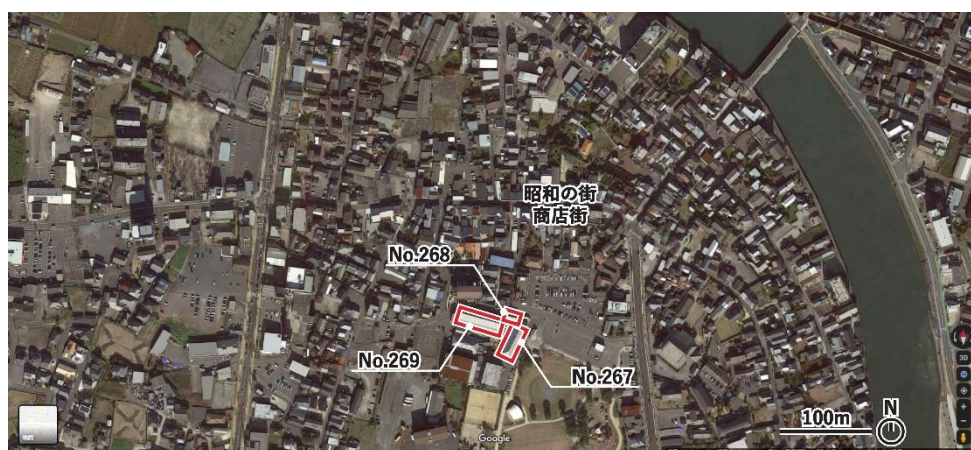


図 4 - 4 1 No.267、No.268、No.269 の航空写真¹¹³



図 4 - 4 2 当初と改修後の外観¹¹⁴

表4-16 No.267、No.268、No.269 について

No.267 No.268 No.269	指標 (統計分析の結果) (No.267)	指標 (統計分析の結果) (No.268)	指標 (統計分析の結果) (No.269)
予測値	全体公開	全体公開	全体公開
観測値	全体公開	全体公開	全体公開
用途	展示	観光案内所	展示
所在地	大分県豊後高田市		
建築物	階数	平屋建 2階建以上	平屋建 2階建以上
	規模	小	小
	① 面積	中小 中大規模(626 m ²)	中小規模(89 m ²)
	空間	中大 大	中大 大
	特有性	一層 非一層	一層 非一層
	主構造	歴史感 木造 土蔵造	歴史感 木造 土蔵造
敷地	施設残存状況	単体 他施設あり	単体 他施設あり
	③ 接道状況	接道あり	接道あり
	接道なし	接道なし	接道なし
立地	④ アクセス	駅 1 km 圏内	駅 1 km 圏内
	② 周辺環境	駅 1 km 圏外(3.70km)	駅 1 km 圏外(3.71 km)
	集客地	集客地	集客地
	住宅地	住宅地	住宅地
転用の概要		昭和 10 年前後 米蔵として建設。 2002 年 転用開始。 他県や同県他地域で駄菓子資料館を開いていたオーナーを誘致し、展示施設に(大人 640 円)。 2005 年 残りのスペースにて絵本美術館が開館。 2017 年 絵本美術館閉鎖。 チームラボによる地域のお祭りをテーマにした常設展示(大人 420 円)となった。 2010 年 登録文化財へ。 現在は「昭和の街」をテーマに、市や県の補助金、また国からの交付金と巧みに予算を確保し続ける事例として知られる ¹¹⁵ 。	

No.267 では駄菓子史料館、2017 年までは絵本の博物館として展示物が陳列されていた。No.268 には、観光案内所とトイレが設けられた。転用事例群の背後には、観光者用の大型駐車場があるため、昭和の町全体の観光拠点として位置付けられる。No.269 には昭和の教室が挿入され、一層空間に緩急がつけられている。

事業費について、昭和の町を開始した初期は、市や県の補助金を活用してまちづくり事業の地盤を固めていた。そして、観光客増加や空き店舗の減少がみられる段階からは、国の補助事業が活用されている。予算を確保し続ける点において、先進的事例といわれている¹¹⁶。



図 4 - 4 3 No.267 の改修後の内観¹¹⁷



図 4 - 4 4 No.268 の改修後の内観¹¹⁸



図 4 - 4 5 No.269 の改修後の内観¹¹⁹

(2) 限定公開

No.69、No.70 は、廃業した酒造施設からイベントホールや週末マルシェへの転用である。市に寄付され登録文化財となった後に、「空き家ではもったいない」¹²⁰と転用が始まった。

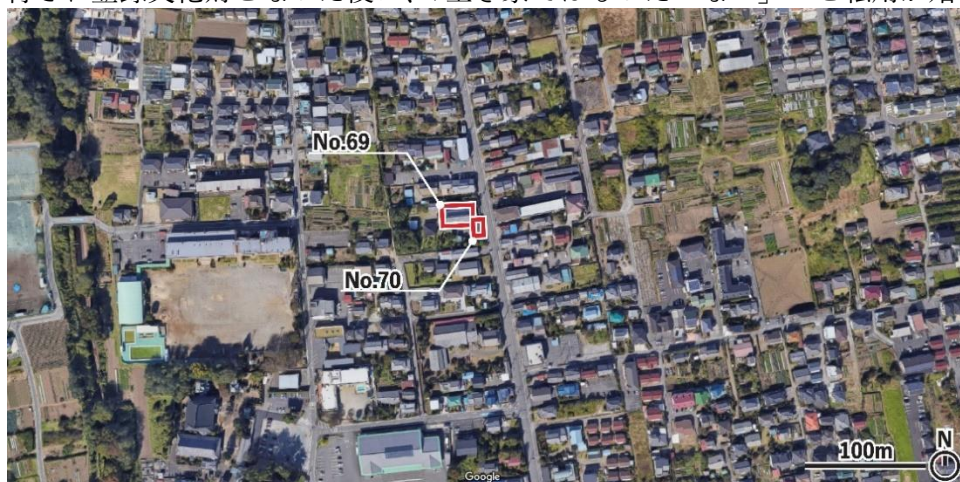


図 4 - 4 6 No.69、No.70 の航空写真¹²¹

週末に限定してイベント(No.69)や野菜の販売(No.70)などが行われる。用途は No.69 が的中した一方で、No.70 は的中しなかった。

表4-17 No.69、No.70 について

No.69 No.70		指標 (統計分析の結果) (No.69)	指標 (統計分析の結果) (No.70)	転用の概要
予測値		限定公開	全体公開	1912～1926 年 建設。 酒蔵(No.69)、 主屋(No.70)。 1969 年 醸造業廃業。 2015 年 市に寄付。 2016 年 登録文化財に。 空き家状態であった。 自治会メンバーで活用法検討を行った。 大きな改修は行っていない。 2018 年 転用開始。 近所に住む会社員が利用に手を挙げた。 No.70 では、土日に地場産野菜などを販売する。 No.69 では、定期的にフリーマーケットや演奏会などのイベントを開催。
観測値		限定公開	限定公開	
用途		イベントホール	週末マルシェ	
所在地		群馬県前橋市		
建築物	階数	平屋建 2 階建以上	平屋建 2 階建以上	
	規模	小 中小	小 中小規模(232 m ²)	
	① 面積	中大規模(524 m ²) 大	中大 大	
	空間	一層 非一層	一層 非一層	
	特有性	歴史感(煉瓦造) 木造 土蔵造	歴史感 木造 土蔵造	
	敷地	施設残存状況 ③接道状況	単体 他施設あり 接道あり 接道なし	
立地	④ アクセス	駅 1 km 圏内(0.96km) 駅 1 km 圏外	駅 1 km 圏内(0.99km) 駅 1 km 圏外	
	② 周辺環境	集客地 住宅地 集客・住宅地以外	集客地 住宅地 集客・住宅地以外	

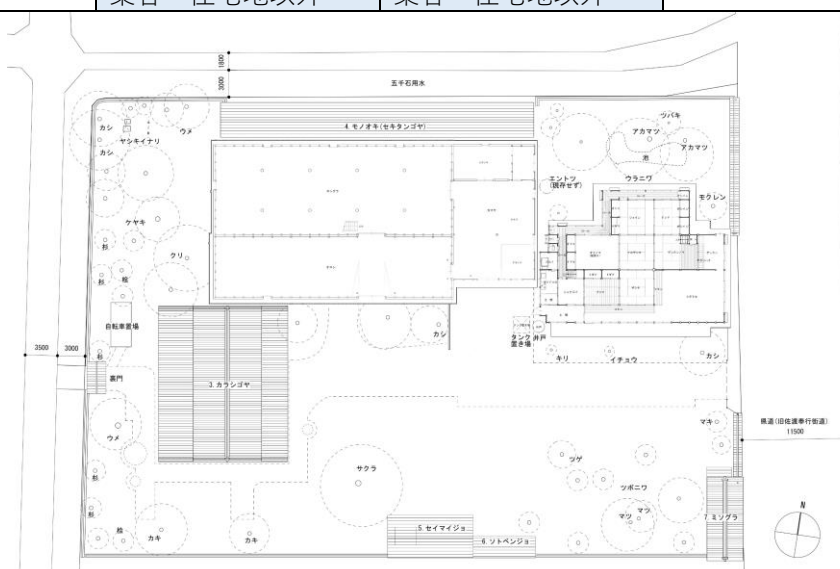
図4-47 No.69とNo.70の配置図兼1階平面図¹²²



図 4 - 4 8 No.69 の改修前の外観と内観¹²³



図 4 - 4 9 No.69 の転用後¹²⁴

公開は週末に限定されるが、これは近くに住む社員が HONMAYA として活動を行っているためである¹²⁵。No.69 では、限定公開に関連がみられた要素のうち、土蔵造を有していた。大規模ではないが、524 m²（中大規模）を有する。イベント時は、柱に合わせて店を並べ、大空間を利用している（図 4 - 4 9）。なお、大きな改修は行っていない¹²⁶。



土曜日と日曜日、
9：30～15：00 の限定公開。



季節のイベントやワークショップなど、様々な年齢層を対象としたイベントが行われる。



稼働中の時の酒袋が、
近所の酒屋から提供された。

図 4 - 5 0 No.70 の転用前の外観¹²⁷と転用後の内観¹²⁸

No.70 は、限定公開に関連する要素はみられず、接道ありという全体公開との関連指標を有していた。予測も全体公開となっていたが、実際は限定的な公開となっている。その理由として、社員が主導となっている点が挙げられる。転用の活動を行う属性について、公共

団体所有の場合は、所有者属性や不動産の項目では網羅できていない点と言える。

将来的には、海外に向けても発信できるように、名前は HONMAYA とローマ字を採用している。

また、2019 年 9 月 7 日から 23 日にかけて、市にゆかりのあるアーティスト達の展覧会が行われた。市内の商店街にギャラリーがあり、これを運営するアーティストが主導となった。市の「市民提案型パートナーシップ事業」を利用しており、これにより 1 事業当たり上限 1 年 40 万円が市によって負担される¹²⁹。さらに資金について、2019 年 6 月 25 日～8 月 16 日にクラウドファンディングを行い、94 人の支援から 618,000 円を集めている¹³⁰。

転用を行う主体は市民だが、市が支援している状況がみられた。



図 4 - 5 1 期間限定の展覧会の様子¹³¹

No.278 は離島という環境下で、かつて燐鉱の事務所と売店を兼ねていた建物である。現在は、産業に関する展示を備えた地元住民を対象とした飲食店となっている。

限定公開に関連する要素の中で、大規模、集客・住宅地以外を有する。離島という環境から、飲食店の主な対象は地域住民と限定される。また、近辺の他燐鉱施設も文化財として登録されている。



図 4 - 5 2 No.278 の航空写真¹³²

2005 年に文化財として登録された頃は、天井が落ちるなど長い間使われていなかった（図 4－5 3）。その後、2014 年に内部が新たに建築され、展示施設と居酒屋となった（図 4－5 4）。

表 4－1 8 No.278 について

No.278 展示・飲食店		指標 (統計の結果) No.278	予測値 観測値 所在地	限定公開 限定公開 沖縄県北大東島
建築物	階数	平屋建 2 階建以上	1916 年 島の経営権を株式会社が取得。 1918 年 燐鉱業着手。 1919-1926 年頃 燐鉱の拠点となる 事務所兼売店として建設。 1942 年 燐鉱は産出量のピークを迎える。 1950 年 品質低下、鉱床枯渇により閉山。 その後、事務所兼売店は天井が落ちるなど、 長い間使われていなかった。 2005 年 登録文化財へ。 2014 年 外壁を残し内部を新たに建築し、 島民向けの居酒屋を一画に備えた 資料館として整備された。	
	規模 ①	小 中小 中大 大規模(712 m ²)		
	面積	一層 非一層		
	空間	歴史感(鉄筋コンクリート造) 木造 土蔵造		
	主構造			
敷地	施設残存状況	単体 他施設あり		
	③ 接道状況	接道あり 接道なし		
立地	④ アクセス	駅 1 km 圏内 駅 1 km 圏外(離島)		
	② 周辺環境	集客地 住宅地 集客・住宅地以外		

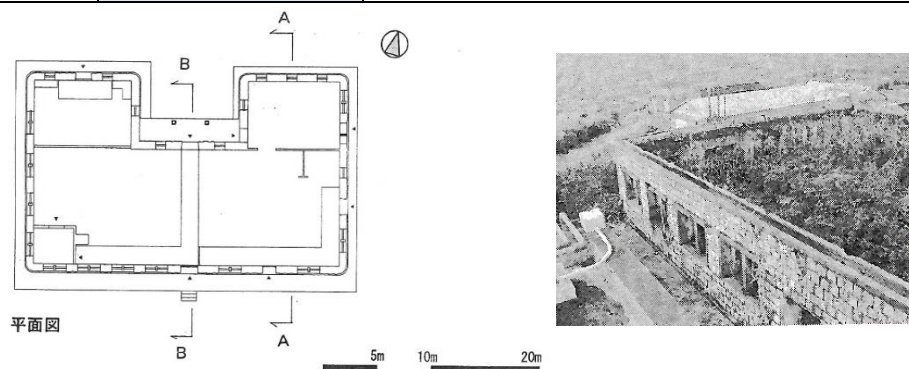


図 4－5 3 復元前の平面図¹³³と写真¹³⁴



図 4－5 4 外観とレストラン部の内観¹³⁵、¹³⁶

No.7 は、用途が的中しなかった事例である。農事試験場の陳列館が、町の郷土館分館へ1982年に転用され、2009年に登録文化財となった。予想は全体公開であったが、実際は土日のみの限定公開であった。

1.5 km程離れた場所にある郷土資料館本館は、平日も開館している。分館には常駐の管理者がいないこと、建物への負担を減らす目的から平日を休館としている¹³⁷。

運営時の人員や建物への負担という点は、物理的要素の項目や所有者属性にて網羅できていない点といえる。



図4-55 外観¹³⁸と内観¹³⁹

表4-19 No.7について

No.7 博物館分館		指標 (統計の結果全体限定) No.7	予測値	全体公開
			観測値	限定公開
			所在地	北海道標津郡中標津町
建築物	階数	平屋建 2階建以上	1928年 建設。 1982年 現在地へ移築。 郷土資料館（徒歩15分）の分館として開館。 2009年 登録文化財へ。 平日は休館し、土日・祝日のみ開館。	
	規模	小		
	①面積	中小規模(109㎡)		
	②面積	中大		
	③面積	大規模		
	空間	一層		
敷地	特有性	非一層		
	主構造	歴史感		
	主構造	木造 土蔵造		
敷地	施設残存状況	単体		
	③	他施設あり		
	接道状況	接道あり		
立地	④アクセス	接道なし		
	④アクセス	駅1km圏内		
	②周辺環境	駅1km圏外(42.39km)		
立地	②周辺環境	集客地		
	②周辺環境	住宅地		
	②周辺環境	集客・住宅地以外		

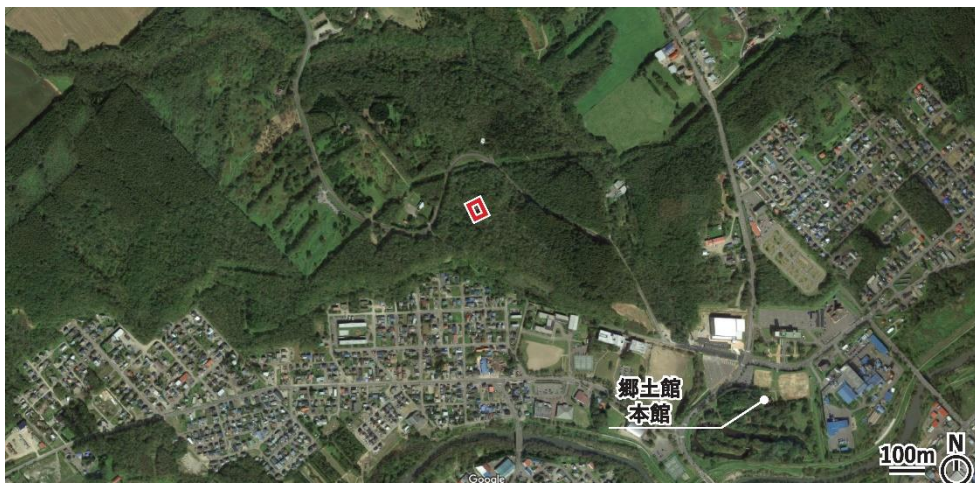


図 4 - 5 6 No.7 の航空写真¹⁴⁰

No.223 は、農業組合の米蔵が、イベントスペースとして予約制で貸し出されている。町によって 2008 年に転用された後、2011 年に登録文化財となっている。全体公開という予想に対して、実際は限定公開であった。

2008 年にまちづくり拠点として、町が自費で貸しスペースへと改修した¹⁴¹。町民を主な

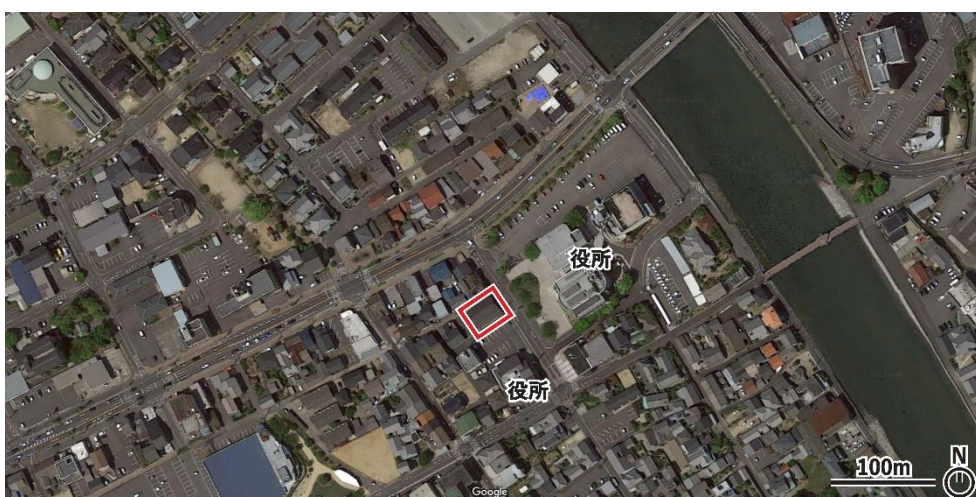


図 4 - 5 7 No.223 の航空写真¹⁴²



図 4 - 5 8 No.223 の改修前後の外観¹⁴³

対象としており、町外在住者は2倍の貸し料金が設定されている。貸しスペースという用途が選択され、限定的な公開となった。



図4-59 No.223の改修後の内観¹⁴⁴

表4-20 No.223について

No.223 貸しスペース		指標 (統計の結果全体限定) No.223	予測値	全体公開
			観測値	限定公開
			所在地	香川県綾歌郡宇多津町
建築物	階数	平屋建 2階建以上	1936年 町の農業協同組合倉庫として建設。 町役場が1920年に消失し、1925年に新築された ¹⁴⁵ 。倉庫は、町役場と道路を挟んだ位置にある。 2008年 転用開始。 町が全額負担して、まちづくり拠点として改修した。 町内住民を中心に、貸しスペースとして運用する。 2020年9月の稼働率は50%で、利用者は町内11、町外4であった ¹⁴⁶ 。 使用料金は、 町内在住者は300円/1時間、 2000円/1日で、 町外在住者は2倍となる ¹⁴⁷ 。	
	規模	小		
	① 面積	中小規模(161㎡)		
	空間	中大 大規模		
	特有性	一層 非一層 歴史的 木造 土蔵造		
敷地	施設残存状況	単体 他施設あり	2011年 登録文化財へ。	
	③ 接道状況	接道あり 接道なし		
立地	④ アクセス	駅1km圏内 駅1km圏外(1.10km)		
	② 周辺環境	集客地 住宅地 集客・住宅地以外		

舞台スペース、土間スペース、簡易キッチンに冷蔵庫を備え、トイレと洗面台の機能が挿入されている(図4-60)。マルシェや展覧会など、イベントに使われている。

米蔵として利用されていた事、ドイツ語の見本市を意味する「メッセ」を融合して、「こめっせ」という名がつけられた¹⁴⁸。

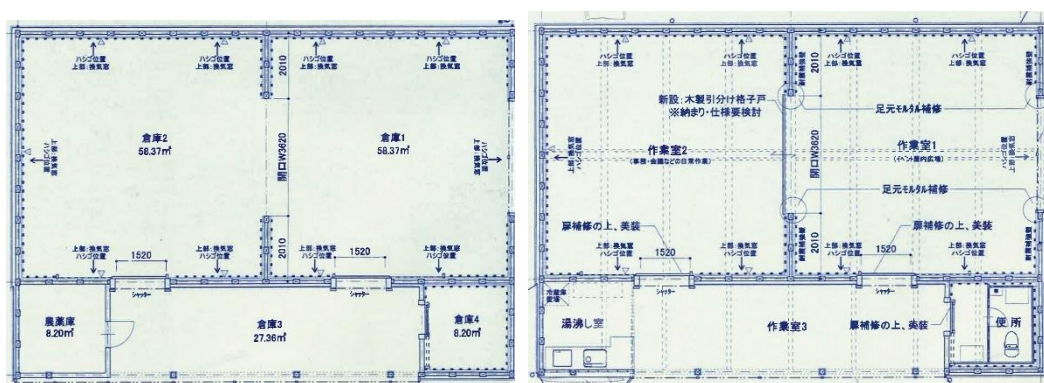


図4-60 No.223の改修前後の平面図¹⁴⁹

全体公開という予測に反して、実際は限定公開であった事例は10件あった(表4-21)。町や村といった規模の小さい自治体所有の単体残存(No.7、No.146、No.223、No.234、No.275)が半数を占める。非稼働施設がある場合は、No.70のように敷地内の他の転用事例との兼ね合いが考えられる。

自治体の規模と、No.7で言及されたような人員スタッフの数は、公開の方法との関連が予想される。No.146(図4-61)では、米収蔵庫に関する展示が完成した後も、予約制の公開となっていた。その理由として、常駐スタッフがいないこと、管理の面から普段は施錠していること、が挙げられた¹⁵⁰。しかし、統計分析で用いた不動産の物理的要素の項目や所有者の属性には、人員数や自治体の規模は組み込んでいなかった。公共団体所有の場合に、精度が低かった原因として考えられる。

表4-21 全体公開の予想が外れた公共団体の事例

ID	的中状況	観測値	予測値	所有者	施設残存状況
7	×	限定公開	全体公開	中標津町	単体
70	×	限定公開	全体公開	前橋市	非稼働施設
123	×	限定公開	全体公開	金沢市	非稼働施設
146	×	限定公開	全体公開	松川村	単体
161	×	限定公開	全体公開	一宮市	単体
198	×	限定公開	全体公開	朝来市	非稼働施設
214	×	限定公開	全体公開	庄原市	非稼働施設
223	×	限定公開	全体公開	宇多津町	単体
234	×	限定公開	全体公開	佐川町	単体
275	×	限定公開	全体公開	薩摩川内市(離島)	単体

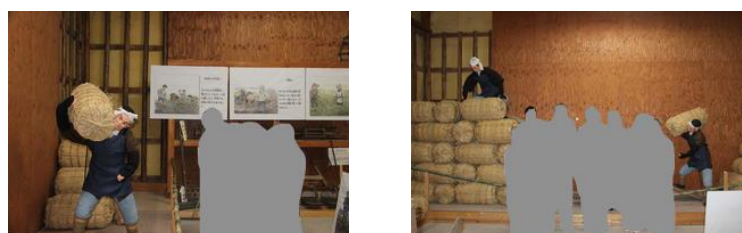


図4-61 No.146の展示の様子¹⁵¹

(3) 非公開

No.139 は、孵化養魚施設の物置から、大学の山岳研究所の施設への転用である。非公開の用途は的中していた。非公開に関連する要素のうち、接道なし、小規模を有す。

面積 20 m²と小さく（図4-63）、また、道からも離れている（図4-62）。外部からの来訪者を受け入れづらい性格だといえ、統計分析の結果が確認できた。同時に、山岳地帯へ行く際の拠点としては、中間地として適しているとも言える。

表4-22 No.139 について

No.139 研究所施設		指標 (統計の結果)	予測値	非公開
		No.139	観測値	非公開
			所在地	長野県松本市安曇
建築物	階数	平屋建 2階建以上	1929年 孵化養魚施設の倉庫として建設。 2007年 転用開始。 所有者から寄贈され、大学の 上高地・槍穂高地域への研究所拠点と して開所 ¹⁵² 。 2011年 養殖がおこなわれていたことを示す、 数少ない遺構として登録文化財へ。	
	規模	小規模(20 m ²)		
	① 面積	中小 中大 大		
	空間	一層 非一層		
	主 構造	歴史的 木造 土蔵造		
敷地	施設残存状況	単体 他施設あり		
	③ 接道状況	接道あり 接道なし		
立地	④ アクセス	駅1km内 駅1km外(16.61km)		
	② 周辺環境	集客地 住宅地 集客・住宅地以外		

図4-62 No.139の航空写真¹⁵³



図 4 - 6 3 No.139 の外観¹⁵⁴と建設時の設計図¹⁵⁵

4 - 3 - 3. 個人・グループ所有

抽出した 6 事例について、統計分析の判別的中状況を表 4 - 2 3 にて示した。

公開状況として、常時公開してあらゆる人の来訪を受け入れる全体公開から 2 件、時間や対象を限定して受け入れる限定公開 3 件、また外部の人を受け入れない非公開 1 件を紹介する。

表 4 - 2 3 抽出事例の用途と判別的中状況（個人・グループ所有）

No.	用途	公開状況			営利活動状況		
		的中状況	観測値	予測値	的中状況	観測値	予測値
102	販売・工房・イベント	○	全体公開	全体公開	○	営利活動なし	営利活動なし
103	レストラン・ギャラリー	○	全体公開	全体公開	○	営利活動あり	営利活動あり
148	イベントスペース	○	限定公開	限定公開	×	営利活動なし	営利活動なし
149	音楽ホール	○	限定公開	限定公開	○	営利活動なし	営利活動なし
113	イベントスペース	○	限定公開	限定公開	○	営利活動なし	営利活動なし
122	福祉施設	○	非公開	非公開	○	営利活動あり	営利活動あり

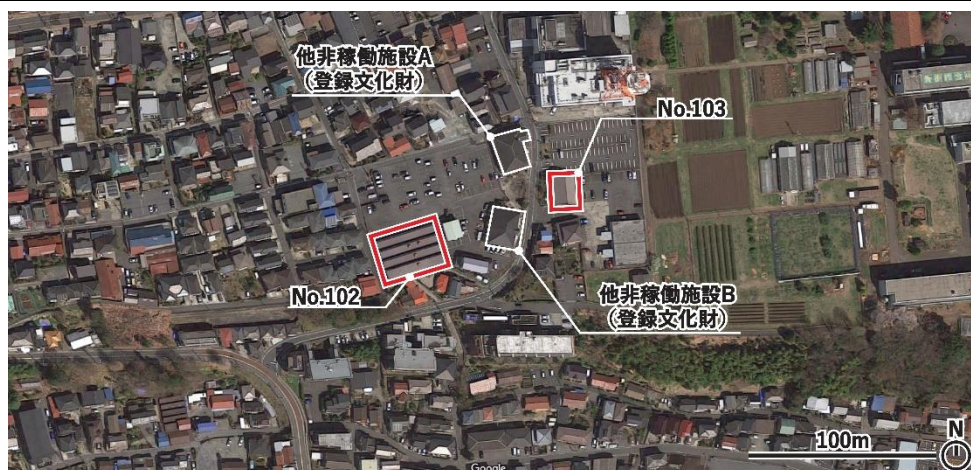
（1）全体公開

個人・グループ所有の全体公開の用途が的中した事例として、No.102、No.103 が挙げられる。組合が所有し、個人やグループに貸し出している。敷地内には、他にも登録文化財（産業 3 次）が 2 棟あり、展示・事務所・ホール（A）、そして映画館（B）へと転用されている（図 4 - 6 4）。

No.102 は、4 連のノコギリ屋根を持つ旧サイジング工場である。全体公開に関連する要素の内、大規模（715 m²）を有す。元来は非一層空間ではないが、工場内の 1.5 連分を柱に合せて 6 つに区画している（図 4 - 6 5）。それぞれの区画は、①織物工房、②版面制作、③展示販売、④絵画・ランプ製作、⑤家具・木工製作、⑥平面・立体・映像・インスタレーションとして使用されている¹⁵⁶。0.5 連分を通路とし、残りの 2 連分は普段は施錠し、イベント時に公開している。

表4-24 No.102 と No.103 について

No.102 No.103		指標 (統計分析の結果) (No.102)	指標 (統計分析の結果) (No.103)	転用の概要
予測値		全体公開	全体公開	1935 年
観測値		全体公開	全体公開	No.102
用途		展示・販売・工房	飲食	サイジング工場として建設。4 連のノコギリ屋根を持つ。
所在地		東京都青梅市		No.103 蔵として建設。
建築物	階数	平屋建 2 階建以上	平屋建 2 階建以上	1997 年 No.102 改修。 2000 年 No.103 転用開始。 2002 年 No.102 転用開始 2006 年 No.102 改修。 2016 年 No.102, No.103 登録文化財へ。 2018 年 No.102 自費で改修。 老朽化していた屋根の雨漏りや、日当たりの良い部分の木材の焼けなどを ¹⁵⁷ 。
	規模	小	小	
	面積	中小	中小規模(159 m ²)	
		中大	中大	
	空間	大規模(715 m ²)	大	
		一層	一層	
特有性	非一層	非一層	非一層	
	主構造	歴史的感	歴史的感(石造)	
		木造	木造	
敷地	土蔵造	土蔵造	土蔵造	
	施設残存状況	単体 他非稼働施設 他稼働施設	単体 他非稼働施設 他稼働施設	
立地	接道状況	接道あり 接道なし	接道あり 接道なし	
	アクセス	駅 1 km 内(0.70m) 駅 1 km 外	駅 1 km 内(0.60km) 駅 1 km 外	
周辺環境	集客・住宅地	集客・住宅地	集客・住宅地	
	集客・住宅地以外	集客・住宅地以外	集客・住宅地以外	

図4-64 No.102 と No.103 の航空写真¹⁵⁸

2017 年時、2 連部分には機械などが残置されていた。機械について使用者からは、「大事なのはわかるが、どのように扱えば良いかわからない」という声も聞かれた¹⁵⁹。その後、2018 年には残置していた機械のうち、豊田佐吉の織機が、愛知県にあるトヨタ産業技術記念館へ寄付された¹⁶⁰。また同じ 2018 年に、老朽化していた屋根の雨漏りや、日当たりの良

い部分の木材の焼けなどに対して自費で改修を行った。大規模な建築物であり、予想の5倍の金額がかかったという¹⁶¹。



図4-65 No.102の外観と内観¹⁶³

No.103は、No.102よりも早い2000年に、1階レストラン・2階ギャラリーとしての転用が開始された（図4-66）。タウン誌を製作していたデザイナーが、偶然発見した建物に興味を抱き、所有者の組合へと転用のアイデアを持ち掛けた¹⁶⁴。事業者は組合外のデザイナーであった。所有者と協議を何度も重ねて、転用の実現へと至っている。その際、旧繊維業の施設群の活用していく提案を行ったところ、組合側と同意できたという。建物の内部を見る許可を得るまでも、3年の月日がかかっている。また、改修については知り合った建築士と協働した¹⁶⁵。デザイナーはNo.103のインテリアや外装、料理のプレゼンテーションを担っている。

敷地内にある他施設Aは、組合の応接室や事務室、ホールを有し、現在は事務所・展示・貸ホールとして使われている（図4-67）。

他施設Bは、繊維試験場出張所として建てられたと言われている¹⁶⁶。2017年時点では、バレエの練習場として使われていた（図4-68）。



↑正面側。青梅の山の樹木を店前に植えた。



↑背面側。石造2階建。



↑1階のレストラン



2階のギャラリー→

図4-66 No.103の外観と内観¹⁶⁷

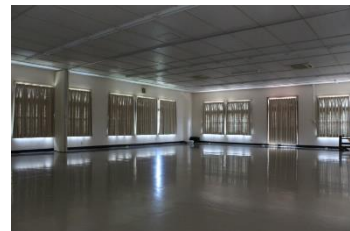


図4-67 他施設Aの外観と1階・2階の内観¹⁶⁸



図4-68 他施設Bがバレエ教室として利用されていた頃¹⁶⁹

その後2021年、同市にて飲食店を経営してきた株式会社により、映画館へ転用された(図4-69)。バレエ教室時に張られていた天井がはがされ、高さを感じられるようになった。シアター内の座席数は63席ある。厨房が追加され、カフェ、物販コーナーが併設された。

クラウドファンディングを活用しており、429 人の支援者のもと、5,463,800 円が集まった¹⁷⁰。所有者の組合としては、No.102 にて映画館を開きたかった。しかし、建築的に困難であったために、他の建物が映画館になることとなった¹⁷¹。所有者の組合と映画館を運営する株式会社は、同じ商店街の組合に入っており、商店街と提携してまちを盛り上げようと取り組んでいる。



入口入って左を↑ 見る ↑ 入口入って右を見る。奥にはカフェの入り口。

図 4 - 6 9 他非稼働施設 B の転用後の入口付近とカフェ¹⁷²、映画館部¹⁷³

(2) 限定公開

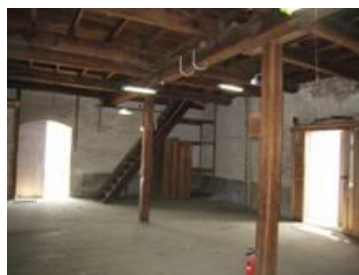
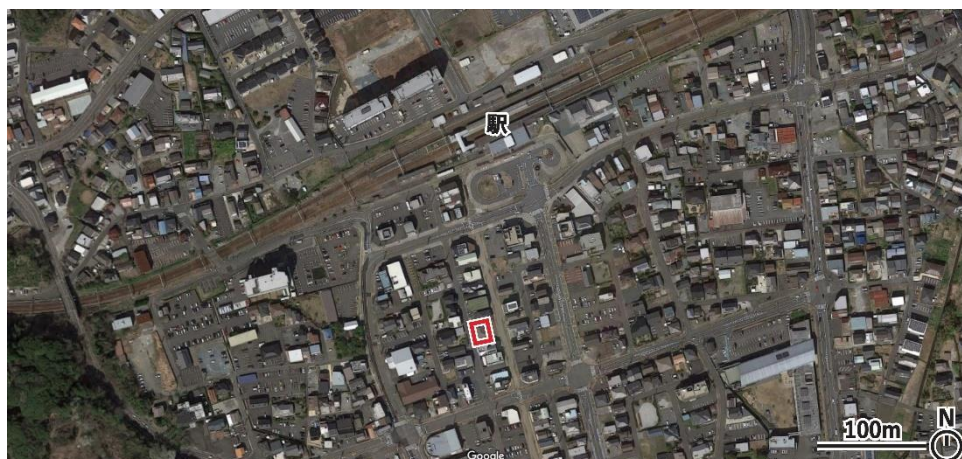
No.148 は、NPO 団体所有のイベントスペースである。自治体が区画整備事業を開始し、解体の方針を示した所、市民から保存の動きが発生して NPO 団体が発足した。2012 年には NPO 団体が隣接民有地を購入し、No.148 の建つ市有地と交換して保存に至っている¹⁷⁴。限定公開の用途についての的中している。

限定公開に関連がみられた要素の内、一層空間を有しており、コンサートや展示に使われている。

コロナ禍でイベントが行えず、建物の維持費に困窮している。電気代や通信費で維持費として年間 50-60 万円が必要となるが、現在は 30 人ほどの賛助会員の年会費 3,000 円頼りの状態となっている¹⁷⁵。

表4-25 No.148について

No.148 イベントスペース		指標	予測値	限定公開
		(統計の結果)	観測値	限定公開
		No.148	所在地	静岡県菊川市
建築物	階数	平屋建 2階建以上	1898～1912年 お茶の荒茶から仕上げ茶にする再製工場の倉庫として建設。倉庫に加えてお茶の組合（ブレンド）も行っていた ¹⁷⁶ 。その後、所有者が倉庫として使用していた。 2012年 NPO団体が建物を取得。 2010年 転用開始。 2014年 登録文化財へ。	
	規模	小 中小規模(79 m²)		
	面積	中大 大		
	空間	一層 非一層		
	特有性	歴史感 (煉瓦造)		
	主構造	木造 土蔵造		
敷地	施設残存状況	単体 他非稼働施設 他稼働施設		
	接道状況	接道あり 接道なし		
立地	アクセス	駅 1 km内(0.16km) 駅 1 km外		
	周辺環境	集客・住宅地 集客・住宅地以外		

図4-70 No.148の外観と内観¹⁷⁷図4-71 No.148の航空写真¹⁷⁸

No.149 は個人所有者による、織布工場の倉庫から音楽ホールへの転用である。所有者が地元の音楽愛好家を誘い、音楽愛好会が 1992 年に発足した¹⁷⁹。音楽愛好会の目的は、クラシックコンサートを開催し、地域文化の向上を目指すこととしていた。その後 1997 年に、所有者が倉庫を音楽ホールへと転用した¹⁸⁰。

限定公開に関連する要素のうち一層空間を有し、コンサートや音楽時の柔らかい音の響きについて言及されている。コンサートに限らずコーラスやピアノ教室の練習にも利用されることで、事例集の中でも長い間継続的に活用されている点が特徴と言える。

表 4 - 2 6 No.149 について

No.149 音楽ホール		指標 (統計の結果)	予測値	限定公開
		No.149	観測値	限定公開
			所在地	静岡県
建築物	階数	平屋建 2 階建以上	1926～1945 年 織布工場の倉庫として建設。 終戦時 国有綿保管倉庫 1992 年 音楽愛好会発足。 1997 年 使用していなかった工場倉庫を 音楽ホールに改装。 (現在、例えば昼の部は 9:00-16:30、 7000 円で貸出) 2013 年 登録文化財へ。 2015 年 雨どいを改修へ ¹⁸¹ 。 2020 年 例えば 6 月は 7 日練習の貸出、 1 日コンサートの予約、7 月は 9 日 練習で貸出、1 日コンサートの予約が 確認された ¹⁸² 。	
	規模	小		
	面積	中小規模(129 m ²) 中大 大		
	空間	一層 非一層		
	特有性	歴史感		
	主構造	木造 土蔵造		
敷地	施設残存状況	単体 他非稼働施設 他稼働施設		
	接道状況	接道あり 接道なし		
立地	アクセス	駅 1 km 内 駅 1 km 外(4.56km)		
	周辺環境	集客・住宅地 集客・住宅地以外		



図 4 - 7 3 No.149 の航空写真¹⁸³

図4-72 No.149の外観¹⁸⁴

No.113は、地域活性を目指す有志の集まりによる、醤油蔵からイベントスペースへの転用である。

限定公開に関連する要素のうち一層空間を有す。改修は、自分達で土日を使い1年がかりで行った。舞台部分にあった樽(1樽5400L)は分解し、得た杉板は床に敷いて壁に貼り、一体感を演出している¹⁸⁵。映画の撮影に使われたこともある。

図4-74 No.113の現在¹⁸⁶の外観と内観

表4-27 No.149について

No.113 イベントスペース		指標 (統計の結果)	予測値	限定公開
		No.113	観測値	限定公開
			所在地	新潟県村上市塩谷
建築物	階数	平屋建 2階建以上	1904年	醤油蔵として建設。
	規模	小	1917年	増築 ¹⁸⁷ 。
		中小 中大 大規模(440㎡)	2003年	廃業 ¹⁸⁸ 。
	面積	一層	2016年	
	空間	非一層		
敷地	施設残存状況	歴史感 木造 土蔵造 単体 他非稼働施設 他稼働施設	ステージを有する多目的スペースへと転用。 下蔵、前蔵とともに登録文化財へ。	
	接道状況	接道あり 接道なし		
立地	アクセス	駅1km内 駅1km外(4.21km)		
	周辺環境	集客・住宅地 集客・住宅地以外		



図 4 - 7 5 No.113 の航空写真¹⁸⁹

(3) 非公開

No.122 は、法人が廃業した造酒屋を取得し、主屋を福祉施設へと転用した。その後、登録文化財となっている。非公開の用途について、予測が的中した。

非公開に関連する要素のうち、2 階以上、駅 1 km 外を有す。単体残存ではなく、敷地内奥に非稼働施設があるが、転用は主屋のみである。現所有者が取得した際、敷地内には主屋と倉庫のみになっていた¹⁹⁰。

表 4 - 2 8 No.122 について

No.122 福祉施設		指標 (統計の結果)	予測値	非公開
		No.122	観測値	非公開
			所在地	石川県小松市
建築物	階数	平屋建 2 階建以上	1900 年頃	温泉街の中心部に、造酒屋として建設。近隣の旅館に日本酒を卸していた ¹⁹¹ 。
	規模	小 中小 中大規模(231 m²) 大	1980 年 2013 年	現所有者が法人格を取得。取り壊しの危機にあった旧酒造施設を、現所有者が取得して改修。
	面積	一層 非一層		
	空間	歴史的 木造 土蔵造		小規模多機能型居宅介護施設、デイサービス、ショートステイ、ホームヘルパーを扱う福祉事業所としてオープンした。
敷地	施設残存状況	単体 他非稼働施設 他稼働施設	2016 年	登録文化財へ。
	接道状況	接道あり 接道なし		
立地	アクセス	駅 1 km 内 駅 1 km 外(3.20 km)		
	周辺環境	集客・住宅地 集客・住宅地以外		

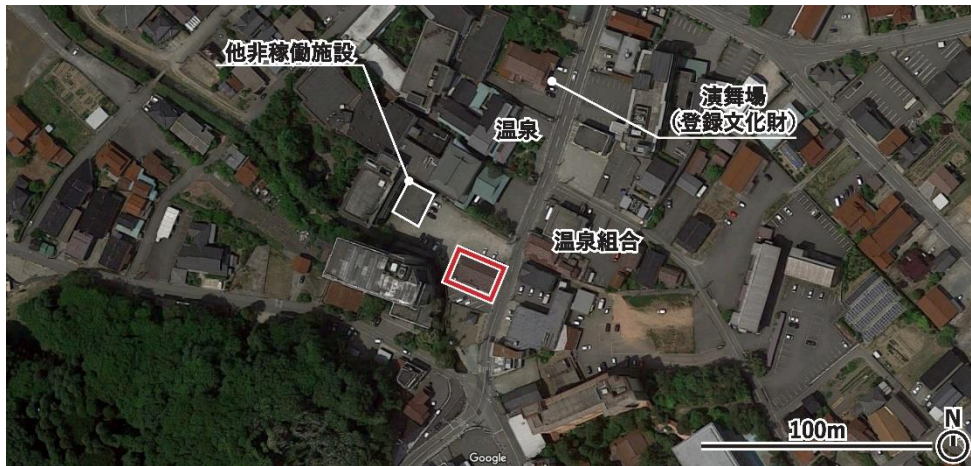


図4-76 No.122の航空写真¹⁹²



↑現所有者が購入した際には取り壊されていたという、煙突などの施設が見える。



図4-77 転用前の外観と内観¹⁹³



↑スロープが追加された

図4-78 No.122の外観¹⁹⁴

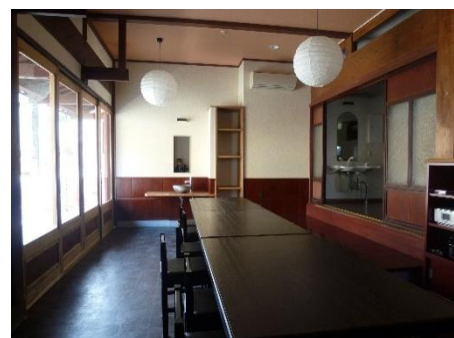


図4-79 転用のための改修後の外観と内観¹⁹⁵

2階建て、部屋割はそのままに、1階を福祉のための居室や宿泊室とし、階段を上がった2階はスタッフルームや納戸としている。

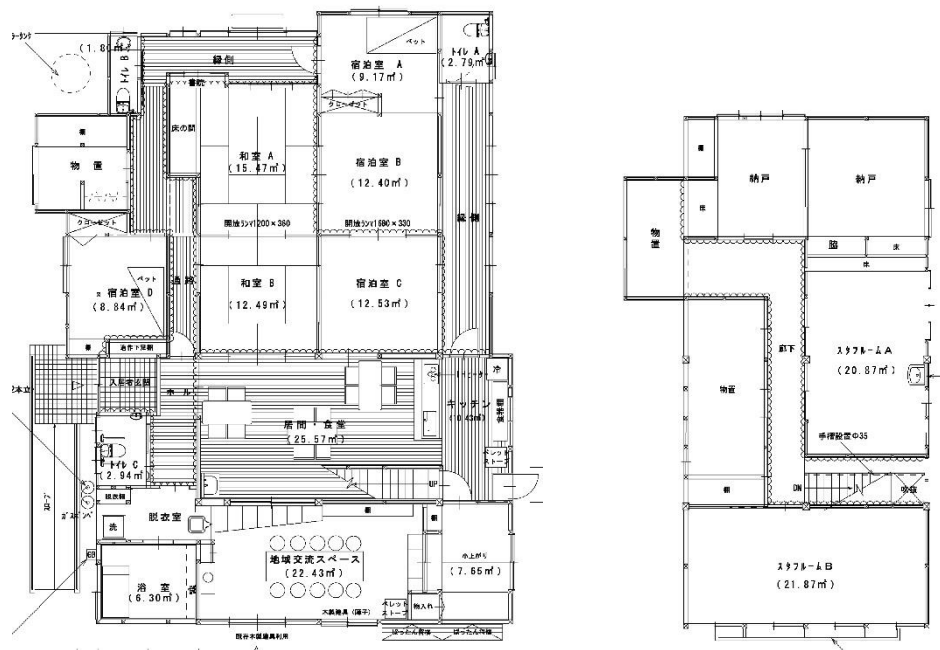


図4-80 改修時の平面図¹⁹⁶

4-4. 事例を踏まえた数量化Ⅱ類による分析の考察

4-4-1. 営利法人所有時

表4-29 営利法人の新たなオーナーによる転用（営利活動）に関する結果

営利活動あり		営利法人 所有者・事業者変更あり (新たなオーナーによる転用)	
		指標 (物理的な要因)	定量化されなかった要因
建築物	②階数	平屋建 2階建以上	【意向】 ・地域の生産品に人々が触れる機会を創出したい。 ・登録文化財のみならず、一帯を転用して住民や観光客の目的地となることを狙う。 【用途】 ・住宅地に合う日常的な品の販売。 ・地域の生産品を販売（流通コスト削減にも繋がる）。 ・複数の転用で営利活動を行う際、販売物を特化させて被らないようにする。 ・売り方を変更して継続（テイクアウトなど）。 【工夫】 ・設計事務所に依頼し、用途変更を行う。 ・自費で、最小限の改修に抑えてディスプレイ。 ・キーパーソン（親切な大家）との出会い。 ・接道部分だけを賃貸形式で借りる。 ・大空間をルーバーで区切るなど、使いやすい面積に区画。 ・地域の祭りの会場との近接。
	規模	中小 中大 大	
	面積	一層 非一層	
	一層空間	歴史感	
	特有性	木造 土蔵造	
	④主構造	単体 他非稼働施設 他稼働施設	
敷地	施設残存状況	接道あり 接道なし	
	⑤接道状況		
立地	③アクセス	駅1km圏内 駅1km圏外	
	①周辺環境	集客地 住宅地 集客・住宅地以外	
[用途の具体例]			
コーヒーテイクアウト店	美容院	知多木綿アンテナショップ	
郷土料理店	教室	骨董品展示・販売	
マルシェ	駄菓子屋カフェ	佃煮工場直営販売所	
食堂・バル	レストラン	飲食店・設計事務所	
パン屋・カフェ	予約制レストラン	貸しスペース・販売	
うどん	葬儀場	ブックカフェ	
雑貨販売	チェーン店カフェ	切子販売	

営利法人所有の、新たなオーナーによる営利活動状況は、建物の不動産としての評価項目を用いた定量分析で最も精度が高かった。つまり、転用時に営利活動を行いたい場合、その狙いが産業遺産の建築物の物理的要素と関係していると言える。具体的な要因としては、周辺環境の住宅地、階数の2階建以上、アクセスの駅1km圏外、主構造の歴史感、接道ありが挙げられた。転用事例からも、煉瓦への注目や接道部分だけを転用するなど、関連が再確認された。

一方、物理的要素以外にも転用に繋がる要因や転用時の工夫がみられ、これらは定量化されなかった要因と言える。所有者の意向、用途、工夫の項目でまとめた（表4-29）。

営利活動を行う所有者の意向として、店としての事業にとどまらず、地場産業の生産品に触れる機会・販売機会の創出や、地域住民や観光客の来訪先となるような一帯にしたい、というきっかけも挙げられた。

また用途として、住宅地に即した販売物や販売方法、つまりコーヒーや飲食、テイクアウトなどの生活に密接した商品や売り方が選択されていた。営利活動状況には周辺環境がアクセスよりも強く関係し、アクセスも駅1km圏外が営利活動ありと関係が見られた。これらから、現状では自宅周辺の生活に馴染んだ転用が、電車を使って赴くような転用よりも多いことが伺える。また、生産品の販売を行う場合、産地で販売することで流通コストを抑えられる利点も挙げられた。更に敷地内で複数の転用を進める場合、販売するものをそれぞれ特化させることで、客層が被らないような工夫がみられた。

その他の要因として、所有者の規模に合わせた改修の幅がみられた。改修時に使いやすいよう一層空間を区切ることや、設計事務所へ依頼して大規模な改修を伴う用途変更もみられた一方で、改修は最低限に抑えて販売物をディスプレイするにとどめるなどの幅があった。他にも、キーパーソンとの出会いとして、親切的な大家の存在への言及があった。また、近隣に地域の祭り会場があるなど、周辺の利を活かす例もみられた。

表 4 - 3 0 営利法人の同じオーナーによる転用（営利活動）に関する結果

営利活動あり		営利法人 所有者・事業者変更なし (現オーナーによる転用)	
		指標 (物理的な要因)	定量化されなかった要因
建築物	規模	平屋建	【意向】 ・地域の特徴に注目し、「ここにしかない魅力」を創出。 ・稼働工場の生産物を展示・販売することで、粗利益の高さを確保。 ・産業へ貢献すべく、産業の歴史の展示施設へ転用。 【用途】 ・生産品の販売。 ・地場産食材や県内のメーカー品販売。 ・産業に関する展示。 ・イベント開催や体験。 【工夫】 ・産業の要素（什器・音）を活用。 ・一層空間にガラスボックスを挿入して空間をゾーニング。 ・改修を伴わず、無人の場合に自動販売機を用いた販売を行う。 ・イベント開催で来訪者を呼び込み、生産品の販売に繋げる。
	階数	2階建以上	
	面積	小	
		中小	
		中大	
	大		
②空間	一層		
特有性	非一層		
	①主構造	歴史感	
	木造		
敷地	土蔵造		
	施設残存状況	単体	
	他非稼働施設		
立地	他稼働施設		
	④接道状況	接道あり	
	接道なし		
③アクセス	駅1km圏内		
	駅1km圏外		
	⑤周辺環境	集客地	
	住宅地		
	集客・住宅地以外		
	[用途の具体例]		
生産物含むレストラン		お土産販売	衣服（生産物含む）セレクトショップ
生産物付き工場見学		体験工房	カフェ
生産物の直売所		雑貨販売・飲食	休憩所
生産物の展示・販売		スポーツクラブ	売店、ホール
売店付き資料館		学生向けアパート	団体用食事処・ホール

現オーナーによる営利活動状況では、営利活動を行う際の物理的要因として、主構造の歴史感、空間の非一層空間、アクセスの駅1km圏外、接道ありが挙げられた。しかし、不動産としての評価項目を用いた統計分析では精度が十分ではなく、定量化されなかった要因が大きいことが示唆された。

定量化されなかった要因として、所有者の意向、用途、工夫の項目別にみる(表4-30)。すると、所有者の意向として、ここにしかない魅力の創出や生産品の販売という視点がみられた。統計の予測が、営利活動状況では外れて公開状況にて的中した事例では、営利活動を行わずに公開施設となった理由について、産業への貢献という強い思いが言及された。営利法人であるものの、転用の主目的を利益に置いていないことが伺える。これは、現役稼働工場による経済基盤が既にあることが考えられる。また、生産品の販売には粗利益確保という理由もみられ、営利法人としての転用の性格もみられた。これらが混在していることから、物理的要素による分析精度が高まらなかったと考える。

用途としては、生産品を売店や飲食店にて販売したり、地場産食材や県内メーカー品の販売、産業に関する展示や、イベント開催がみられた。イベント開催は施設への来訪機会を創出し、高い広告宣伝費のかからない販売機会につながり、産業の継続ならびに遺産としての継承の一つの方法だと考える。具体的な用途をみると、産業の生産品の販売や展示が多くみられた。登録文化財の活用について住宅を対象にした研究では、「商業用途の中でも来客を招くような、小規模喫茶(カフェ)のみは常住において多いことも特徴で、これは常住の生活環境との親和性が高い活用であるためと考えられる」¹⁹⁷と指摘された。産業遺産という生産の場では、現役稼働が住宅の常住に該当すると考える。使われなくなった産業遺産建築物における自社製品の販売や産業に関する展示は、かつての、あるいは現在の産業従事者や使用していた機械を有することから、生産環境と親和性の高い転用と言える。

また、転用時の工夫として、建築物以外にも産業要素を捉えた事例があった。具体的には、紡績機をディスプレイに転用したり稼働音をサンプリングして流すなど、産業要素が転用されていた。建築物の転用の改修規模には幅がみられ、所有者の意向や経済基盤に合わせた選択がされていた。大規模な改修を伴わない転用事例では、自動販売機を活用して無人でも生産品と飲み物を提供するなどの工夫が見られた。外部へ公開する際は、スタッフの人員不足や安全管理の点から、予約制などの限定的な公開が選択される場合もあった。また、複数の転用を抱える稼働工場では、営利活動の用途が的中するものとししないものが混在していた。自社製品の販売、産業に関する博物館、イベントホール、といったセットがみられたが、これ以上の営利活動を自社で行うことは、難しい状況が伺える。これらは、不動産の物理的項目では網羅できていない点だと言える。

4-4-2. 公共団体所有時

表4-31 公共団体による転用（公開）に関する結果

全体公開		公共団体 (譲渡された・取得した自治体による転用)		
限定公開		指標 (物理的な要因)	定量化されなかった要因	
建築物	階数	平屋建 2階建以上	【意向】 ・観光拠点整備 ・まちづくり	
	規模 ①面積	小		【用途】 ・改修して全体に公開する用途へと転用。 ・固定の用途を設けず、限定して公開。
		中小	【工夫】 ・市・県・国からと継続的に補助金を得る。 ・補助金を得て耐震補強を含めた改修を行う。 ・一層空間は、区画を分けることで複数のテナントを入れる。その際、内装はテナント負担。 ・展示物に周辺の文化財も含め、回遊性を狙う。 ・移築により拠点の創出。 ・公開の日時を限定することで、人員不足や管理の問題に対処。 ・転用を行う市民に対して、サポートを行い、文化財の公開機会を創出。	
		中大		
		大		
	一層空間	一層 非一層		
	特有性 主構造	歴史感		
		木造 土蔵造		
	敷地	施設残存状況	単体 他施設あり	
		③接道状況	接道あり 接道なし	
立地			④アクセス	
	②周辺環境	集客地 住宅地 集客・住宅地以外		
		[用途の具体例]		
		産業に関する博物館	展示兼収蔵庫	地域の発展に貢献した人物の記念館
カフェ	レストラン	産業に関する博物館・地域出身者の美術館		
大学内市民ギャラリー	土産屋・カフェ	総合案内所・物販・体験工房		
大学内地域交流館	観光案内所	ギャラリー・プログラミング教室		
民話・産業に関する博物館	郷土館	図書館		
ジオラマ展示	休憩・貸しスペース	観光案内所・レストラン		
見学施設	駄菓子の博物館	観光協会事務所・喫茶		
地産地消カフェ	昭和のテーマ展示	ホテル内レストラン		

公共団体所有の全体公開には、面積の中小規模、周辺環境の集客地、接道あり、アクセスの駅 1 km圏外が、そして限定的な公開には、面積の中大規模、周辺環境の集客・住宅地以外、主構造の土蔵造といった物理的要素の影響がみられた。しかし、精度は十分とは言えず、物理的要素以外の要因が大きいことが示唆された。

定量化されなかった要因として、所有者の意向、用途、工夫をみた（表4-31）。

意向として、産業をまちの特徴として捉えて観光拠点を創出する狙いや、テーマを設けたまちづくりという転用のきっかけがみられた。

用途として公開方法に着目すると、改修を経た全体的な公開や、固定の用途を設けずに日時を限定した公開、地域住民に対象を限定した公開などの選択がみられた。

転用を可能にした工夫の一つとして、補助金の存在が挙げられる。資金不足からしばらく不使用だったが、補助金を得ることで転用が実現した事例も見られた。6事例を通して、国の補助金の利用がみられた。大阪府の近代化産業遺産の転用事例と活用にとりなかつた事例に着目した研究¹⁹⁸は、公共団体所有時の活用阻害要因として建て替えの方が金銭的に安く収まる点、議会の理解を得られなかつた点、そして促進要因としてまちづくり交付金、町長の理解を挙げている。また、市・県・国それぞれから補助金を継続的に得た事例もあり、公共団体という属性の特徴の一つと言える。改修では、一層空間を耐震補強の鉄骨フレームのグリッドに合わせて区画し、テナントを募集して内装はテナント負担という方法が見られた。また、展示物に周辺の文化財や観光地を盛り込むことで、回遊性を狙った工夫も見られた。全体的には公開しない場合にも、例えば日時や対象を限定した公開や、転用イベントに対して市が金銭的にサポートを行うといった工夫が見られた。また、全体公開の統計による予想が外れて実際には限定公開の事例からは、スタッフの不足、管理面という理由が挙げられた。スタッフの不足は主に、小規模な町や村の単体転用の際に関連すると考える。自治体の規模という点が、分析で用いた項目には含まれていなかった点が指摘される。

以上のように、公共団体所有の転用では、設定した物理的要素よりも自治体の狙いや規模が用途に反映されていることが伺える。

4-4-3. 個人・グループ所有時

4-32 個人・グループによる転用（公開）に関する結果

全体公開		個人・グループ (個人や有志の集まりによる転用)		
限定公開		指標 (物理的な要因)	定量化されなかった要因	
建築物	階数	平屋建 2階建以上	【意向】 ・受け継いだ建物、地域の遺産を残したい。 ・建物に魅力を感じ、活用したい。 ・趣味の練習・発表の場が欲しい。 【用途】 ・階や部屋割りに併せて公開範囲を適時選択。 ・予約制やイベント時の限定的な公開。 【工夫】 ・大規模空間は区切ることによってそれぞれを貸し出して転用する。一層空間はイベント時に限定。 ・敷地の複数施設の転用や、商店街との連携により活性化を狙う。 ・デザイナーという職業や、知り合いの建築士。 ・産業に関する機械を残す、寄付する。 ・建物取得のために、市と土地交換。 ・土日を使って自分たちで改修を行う。 ・産業時に使われた要素を残す、一部分を解体して材料として使う。 ・主屋を福祉施設へ転用し、部屋割りをそのまま利用。	
	規模	小		
		面積		中小
				中大
				大
		一層空間		一層
	特有性			非一層
		主構造		歴史感
		土蔵造		
敷地	施設残存状況	単体		
		他非稼働施設		
		他稼働施設		
	接道状況	接道あり		
接道なし				
立地	アクセス	駅1km圏内		
		駅1km圏外		
	周辺環境	集客・住宅地		
集客・住宅地以外				
[用途の具体例]				
カフェ		産業に関する展示	飲食・パン屋・美容室	
見学施設		シェアカフェ	記念館	
販売・工房		レストラン	レストラン・ギャラリー	

個人・グループ所有の全体公開に影響を及ぼす物理的要素として、面積の大規模、施設残存状況の非稼働施設あり、周辺環境の集客・住宅地以外、非一層空間があった。そして限定公開には、面積の小規模、周辺環境の集客・住宅地があった。

定量化されなかった要因として、所有者の意向、用途、工夫をみる（表4-32）。所有者の転用に対する意向として、親族から受け継いだ歴史ある建物を残したい、地域の産業の遺産を残したいという思いや、不意に出会った魅力的な建物を活用したい、趣味サークルの場所をつくりたいといった点が挙げられる。

用途として公開の仕方は、階や部屋割り、あるいは空間を分割することで、公開範囲を選択していた。非一層空間が全体公開に影響ある物理的要素にあったように、運営面や経営面で規模が限られている個人・グループ所有時は、公開範囲の選択が必要であることが伺える。

また、転用の工夫として、大規模な建物では区画分けを行い、複数人により複数用途に分割していた。さらに、敷地内だけでなく商店街との連携や、敷地内の複数の建物にて転用を進めることで活性化を狙う動きも見られた。改修は自ら行うほかにも、知り合いの建築士・大工への依頼と、各々の事情に合わせた方法が取られていた。

個人・グループ所有では、大規模な建物を地域の遺産と認知して有志が集まったり、建物に魅力を感じて転用が始まるなど、どのように公開するか工夫を重ねつつ実現している状況が明らかになった。

4-5. 転用事例の考察

4-5-1. 同一地域にある同一タイプ建築物の転用群

転用は、既存建築物の単なる再利用にとどまらずに、産業遺産の保存・活用に繋がること
が理想的と言える。保存・活用に繋がる転用に必要な視点を明らかにするため、同一地域に
ある同一タイプ工場の特徴と転用事例を比較することで考察する。第2章で抽出された、
群馬県桐生市（図4-81）のノコギリ屋根工場群を用いる。地域と建築タイプを限定し、
地場産業に関する産業史から特徴の整理を行うことで、ノコギリ屋根工場を表す物理的な
項目を検討する。そして、地場産業の継承という面から転用の現状評価を行う。

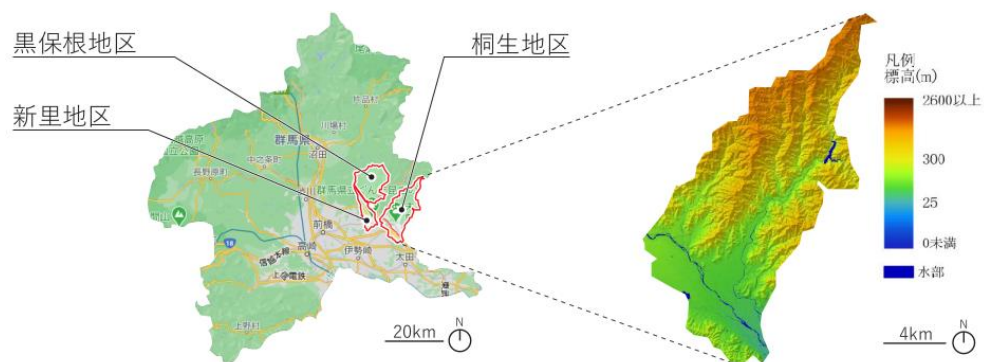


図4-81 桐生市の位置¹⁹⁹と桐生地区の地形図²⁰⁰



図4-82 ノコギリ屋根工場²⁰¹とその採光面²⁰²

近代化遺産の価値として、「モノの生産や加工を達成するためのシステムにあるのだろう。
（中略）残された建造物はそういった生産システムの受け皿（覆屋）になったもので、その
存在の意義やその場所に立地する必然性、その形になった理由、造られ方などに意味がある」
²⁰³と言われる。産業遺産を継承するためには、地域の自然条件を活かした技術や人の営みの
発展という、関連する多様な要素を網羅的に把握し伝えることが求められる。産業の継続と
かつての産業の記憶を継承することは、地域の歴史や特徴を継承することに繋がる。現役稼
働には、過去から継続して産業の系譜を繋げる意義があるといえる。また、転用には、廃業

後の異なる用途を通じて産業が営まれた場を外部に公開し、産業の記憶、つまり歴史を含めた地域特性の継承という意義があると考ええる。登録文化財の転用事例でもみられた、新たな用途における生産物の利用といった、転用による現役稼働の支援も期待される。現在、桐生では、市マスコットキャラクター起用や、ノコギリ屋根をもつ公衆トイレ新築、福祉施設の新築など、ノコギリ屋根工場の屋根形態という一側面への着目が際立っている（図4－83）。



図4－83 桐生市マスコットキャラクター²⁰⁴と
ノコギリ屋根をもつ公衆トイレ²⁰⁵と福祉施設²⁰⁶

桐生市の産業遺産に関するこれまでの調査や研究では、重要伝統的建造物群保存地区の調査²⁰⁷により桐生市におけるノコギリ屋根工場の特徴が明らかにされ、またノコギリ屋根工場の現存状況^{208、209}、活用状況^{210、211}、転用状況と個別事例における建築的な転用手法²¹²が明らかにされている。しかし、ノコギリ屋根工場の継承すべき要素という観点からの項目検討や整理はされていないため、保存・活用における転用前後の比較といった転用の内容に関する分析には至っていない。そのため、転用が担う保存・活用としての役割については論じられていない。

また、歴史的建造物の転用時の改修への評価に関する研究では、改修の社会背景から改修後に導かれる付加価値までを含めた過程の分析²¹³がされている。産業施設や土木構造物のリノベーションに関する研究では、景観・空間の価値について、見立てという観点から分析を行い、用途転用の結果の景観・空間の価値を引き立たせるようなしかけの検討を今後の課題としている²¹⁴。改修に対する評価は多様な観点から行われているが、産業という観点から見れば、建物はその一部に過ぎず、転用に対する関連する様々な要素を加味した評価はなされていない。また、桐生市の形成過程と織物業の関連について、水力利用の観点からの研究²¹⁵では、都市と産業の発展を関連させる視座がもたらされた。

産業遺産の転用は様々な事例が蓄積されてきているが、転用を通じて何が継承できているのか改めて評価し、転用の在り方について検討することが求められる。そして、複数のノコギリ屋根工場の転用事例がある、群馬県桐生市のノコギリ屋根工場群を対象とすることで、検討が可能となると考えた。

4-5-2. 地域特性と地場産業の継承からみた転用の現状評価

(1) 方法

桐生市の織物産業の特徴とその形成過程および現役稼働工場の状況について文献調査を行い、桐生市のノコギリ屋根工場の特徴を把握した（第3章3-3-1. (1)）。次いで保存・活用状況について、第2章で明らかになった272件の内、住所が町丁目まで確認可能な268件²¹⁶を用いて把握した。現在の桐生市域から新里・黒保根地域を除いた範囲²¹⁷を対象に、ノコギリ屋根工場の現役稼働および転用事例の町丁目（エリア）ごとの分布を、GIS ArcMapを用いて地図を作成し、把握した。e-Statから桐生市の町丁目の境界線、国土数値情報ダウンロードサービスから水系と鉄道のデータを2017年に得た。

転用事例は、第2章で明らかになった25件を対象に現状を把握した。

転用事例に対する地域の特徴および地場産業の継承の観点から評価を行うため、把握した桐生における織物産業の特徴と、その形成過程および現役稼働工場の状況を整理した。そして、それらが転用事例において発現しているか、地域（マクロ）・敷地（メソ）・建屋（ミクロ）の3スケール²¹⁸において転用の評価項目を設定した（表4-33）。工場内の空間を扱うミクロの評価は、外部に公開を行う12件を対象とした。

表4-33 3つの視点と評価項目

視点		具体内容	評価項目	現状評価の基準
地域史	マクロ	地形と産業の発展の関係	水系とノコギリ屋根工場の立地の関係	河川に隣接するエリア/しないエリア
産業	メソ	敷地の利用の仕方	敷地内に工場・住居・倉庫を有するか	3施設を持つ/持たない、3施設を関連させて利用している/していない
	ミクロ	工場内の空間の利用の仕方	ノコギリ屋根工場の空間の利用の仕方	一層空間を平面・断面的に持つ/持たない
		生産物と来訪者	生産物を目にしたり使用する機会があるか	生産物を活用している/していない

(2) ノコギリ屋根工場の保存・活用状況の把握

対象範囲全体から俯瞰し、ノコギリ屋根工場に関する要素を、地域史と現役稼働の工場分布から見た。町丁目ごとのノコギリ屋根工場の分布状況を把握するため、地域全域を網羅している2005年（平成17年）の「ノコギリ屋根工場全リスト」272件から所在地データのある268件（消失30件、活用なし57件、現役稼働66件、転用事例115件）、2017年（平成29年）の調査結果から転用事例25件を町丁目（エリア）ごとに計上した（表4-34）。そして、工場全体数・現役稼働工場数・元工場の活用なし件数の分布をみた（図4-84）。

表4-34 町丁目別ノコギリ屋根工場数

Area ID	町名	丁目	消失	活用なし	現役稼働	転用		2005年調査の総計
						2005年調査時	2017年調査時	
A	天神町	1			1	2		3
		2				2		2
		3	1	1		1		3
B	本町	1				5	2	5
C	東久方町	1			1	1	2	2
		2	2		2	4	2	8
D	仲町	1	1		3	1		5
		2				1		1
		3				1		1
E	東	1	1	1	4	3	2	9
		2	2	1	1	5	1	9
		3		4		2		6
		4	3	6	1	3	2	13
		5		3		2	2	5
		6		2				2
		7		1	1	2	1	4
F	菱町	3		1	1	4		6
		4			2	4	1	6
		5	1		1			2
G	西久方町	1		2	1		2	3
I	宮本町	1				2		2
J	小曽根町					2	1	2
K	永楽町				1			1
L	末広町	1	1					1
M	堤町	1	1			2		3
		2			1	4		5
O	元宿町		1		1			2
P	巴町	1				1	1	1
Q	稲荷町			2				2

Area ID	町名	丁目	消失	活用なし	現役稼働	転用		2005年調査の総計
						2005年調査時	2017年調査時	
R	錦町	1				1		1
		2		1		2		3
		3	2	2	1			5
S	浜松町	1	4		2	1		7
T	新宿	1	1		1	3		5
		2	1	2	1	7		11
		3	3	2	3	2		1
U	三吉町	1			2			2
V	小梅町			1	2		1	3
W	境野町	1		1	3	1		5
		2		1				1
		4				1		1
		5				3	1	3
		6		1	4	5		1
		7	1	1	4			6
X	広沢町	1			1	1		2
		2		1	1	1		3
		3				1		1
		4		2	1	2		5
		5	1	7	3	6		17
		6		1	4	2	2	7
		7			1	1	1	2
Y	川内町	1	2	1		3		6
		2			3	3		6
		5	1	1	5	6	1	13
Z	相生町	1		1		2		3
		2		6	1	4		11
		3				2		2
a	梅田町	2			1			1
		4		1		1		2
総計			30	57	66	115	25	268

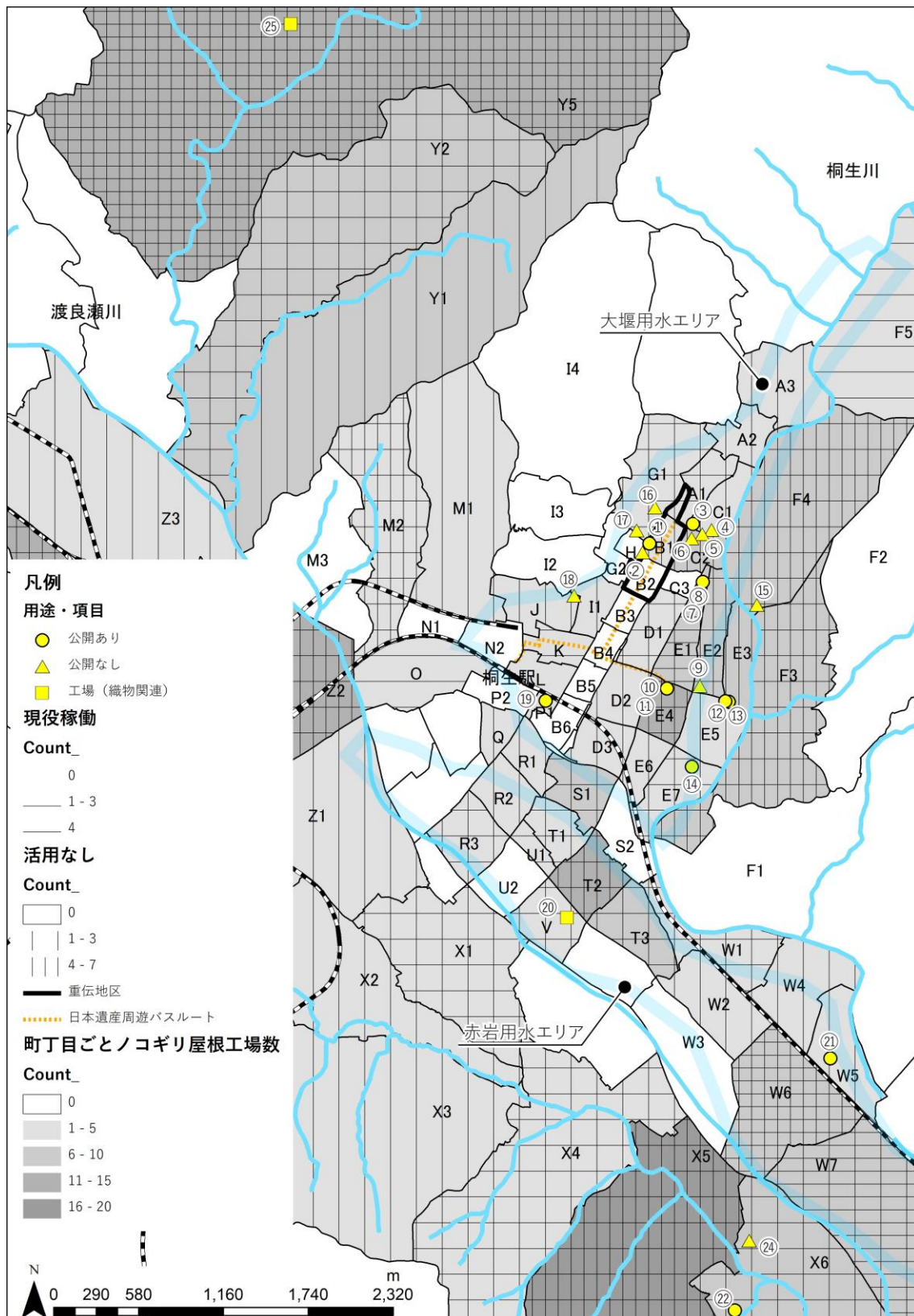


図 4 - 8 4 町丁目別に確認されたノコギリ屋根工場の分布と転用事例

（３）評価項目の設定

地域特性および織物産業を継承するために、どのような要素を発現させるべきか、桐生における地域特性ならびに織物産業の特徴に基づいた評価項目を、３つの視点から整理し設定した。

①立地からみた特徴と評価項目

図４－８４をみると、現役稼働の工場は、桐生川と渡良瀬川に隣接したエリア(W6、W7)や桐生川と桐生新町の間(E1)、渡良瀬川に隣接したエリア(X4、Y5)に多く存在している。最も多く存在しているエリアはX5とE5、Y5であり、水系と織物市場の絹市(B1)による影響が見受けられる。しかし、第３章３－３－１．（１）にて整理されたように、織物産業の準備工程である糸繰り・撚糸や染色に水を利用し、撚糸においては水車を動力として用いていた。そして、用水路網が広がっていたことを踏まえると、水資源と工場立地の関係が強いと思われる。桐生の特徴として、染色は機屋が自宅で行うところが殆どとも言われ、糸染場をもつことも桐生の元織の特徴の一つであり、井戸を有する場合が多いことが整理されている²¹⁹。これらを踏まえると、水資源は桐生における織物産業と切れない関係と言える。しかし、現在大半の用水路が埋め立てや暗渠化によって姿を消している²²⁰。水系が織物産業の発展に寄与したことを踏まえ、用水路の取水源であり現在も視認できる桐生川や渡良瀬川と工場立地の関係を重視し、転用事例の位置するエリアが河川に接するか否かを評価基準として設定する。

②敷地からみた特徴と評価項目

桐生における織物工場の従来の敷地内配置図をみると（図４－８５）、ノコギリ屋根工場のみでなく、準備工程の染糸を行う窯場、用具等を収納する倉庫、労働者の住む主屋や寄宿舎そして奥座敷といった生活施設、給水塔や井戸のインフラ施設が見られる。桐生の織物産業の特徴であった家内制工業が職住一体となり、敷地内配置に現われている。一方で、転用工場の敷地内配置図では、消失した施設があった（図４－８６）。

工場として稼働している時には、施設は人と生産物の動線に基づいて効率的に配置されており、生産物および人が施設をつなぐ要素であったと言える。これらの複数施設が、生活および生産工程でつながっていたことは、桐生における産業遺産の特徴と言える。

以上の特徴を踏まえ、工場・住居・倉庫の３施設を織物工場施設群の核とみなし、転用事例においてこれらを敷地内に有するか否か、さらに３つ有し外部に公開している転用事例（公開転用事例）においては、各施設の使い方がそれぞれ関連しているか否かを評価基準として設定する。



現役稼働：織物工場、住宅、倉庫を有する。

図4-85 現役稼働の織物工場の敷地内配置²²¹

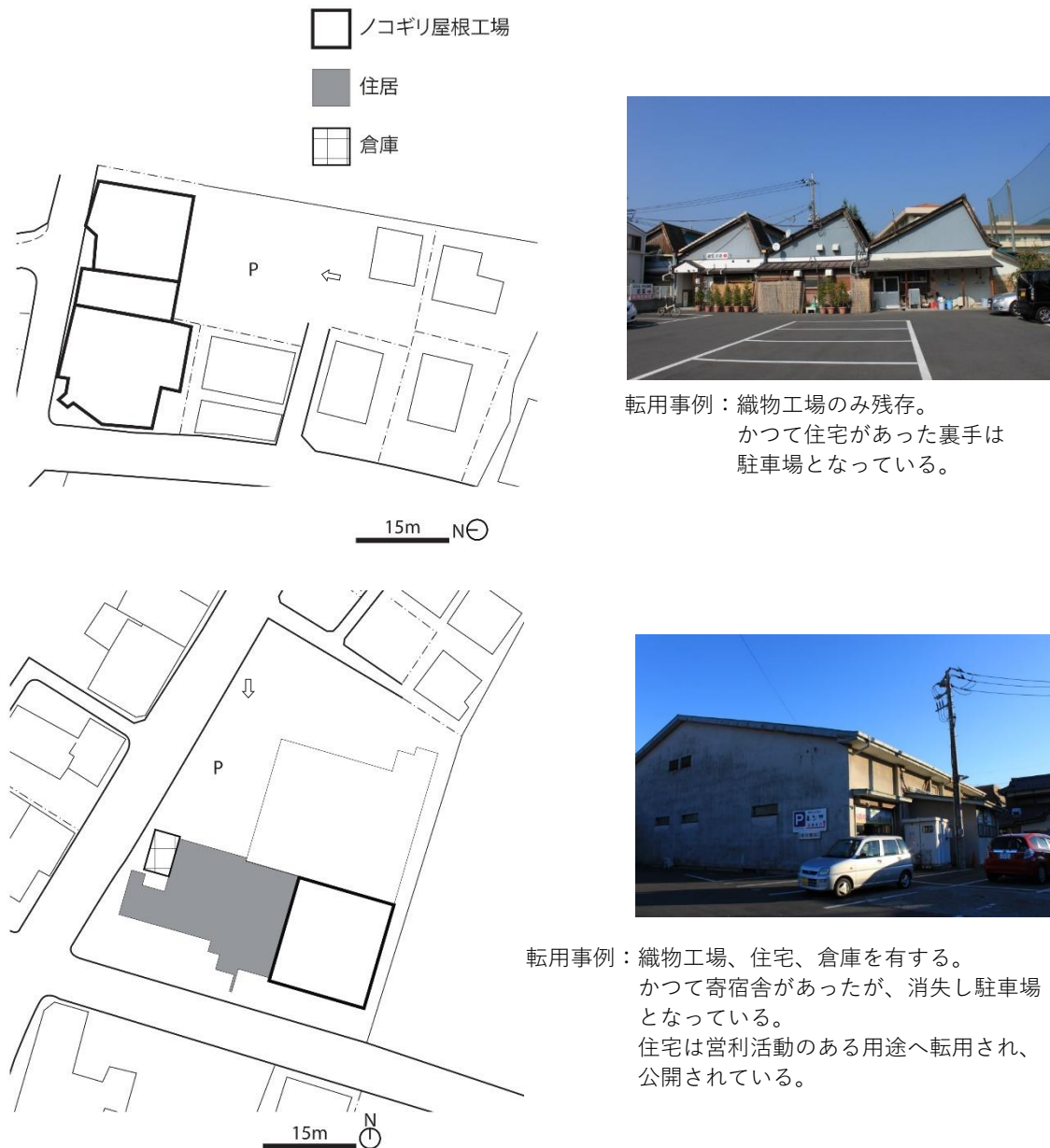


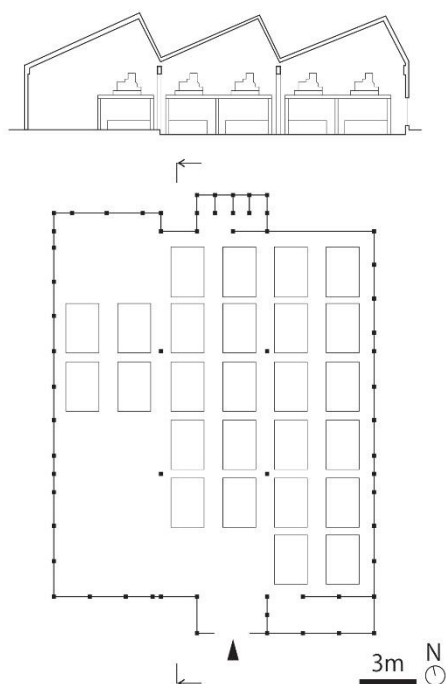
図4-86 転用された織物工場の敷地内配置²²²

③建築物からみた特徴と評価項目

ノコギリ屋根工場建屋の内部空間利用について、工場建設時の織機の配置を平面図・断面図から把握した（図4-87）。

建築時の断面図から、ノコギリ屋根の形態は、織機の上にジャガード機を置くための高い天井と採光の確保を意図しているとわかる。また建築時の平面図では柱以外壁などは現れず、内部に何も無い一層空間に、織機とジャガード機を設置する架構が柱間に配置されていたことが読み取れる。つまり本来の桐生におけるノコギリ屋根工場は、織機とジャガード機

を配置するために必要な条件から決定された一層空間ならびにノコギリ屋根であった。



建設時の織機の配置



別工場における稼働中の織機とジャガード

図４－８７ 元来のノコギリ屋根工場内の使い方²²³と
別工場で公開している稼働中のジャガード機を持つ織機²²⁴

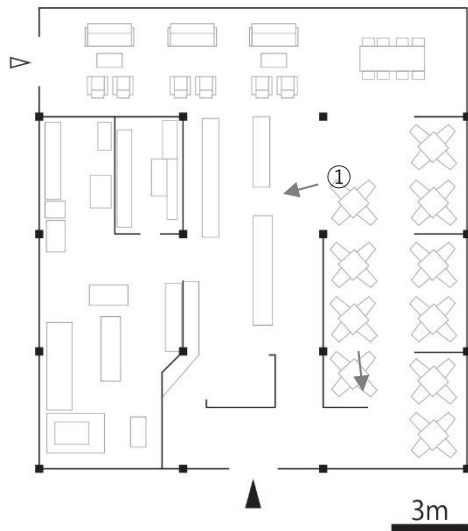
また、転用された工場空間の利用について、平面図を作成して把握した（図４－８８、図４－８９）。

転用事例における空間の利用をみると、一層空間が断面的・平面的に分節されている物件があることがわかる（図４－９０）。平面的な分節は、法律の規定を遵守したものと、所有者の意図によるものが確認された。法規定の遵守による改修としては、安全性を確保するための耐震補強（建築基準法）や、飲食販売用途の場合は厨房を区切ること、トイレを有すること（食品衛生法）、が挙げられる。断面的な分節について、ノコギリ屋根は雨漏りしやすいため、雨漏り防止のために天井を張る場合、そして冷暖房の効率化を狙う場合がある。また、囲炉裏を有する商業施設では、消防法に適合するよう囲炉裏上部に煙受けを設置していたが、天井は張らず、屋根空間は保持されていた。このように、一層空間は、残存・消失・法規定の遵守による消失に分けられる。

桐生における生産物の特徴として、和装に限らず洋装やレース製品、のれんなど織物全般を扱っている点が挙げられる²²⁵。生産物の使用は、様々な事業において可能であると考えら

れる。転用事例において織物を見たり使用する機会があるか否か、地場産業を継続させる上で重要と考える。

以上の特徴を踏まえ、断面的・平面的に一層空間を有しているか否か、転用事例において生産物を見たり使用する機会があるか否かを評価基準として設定した。



①飲食用途の場合、厨房は食品衛生法により分節が必要なため厨房を区切っている。



耐震補強の鉄骨フレーム、来訪者の動線を区切るガラス壁が設置された。

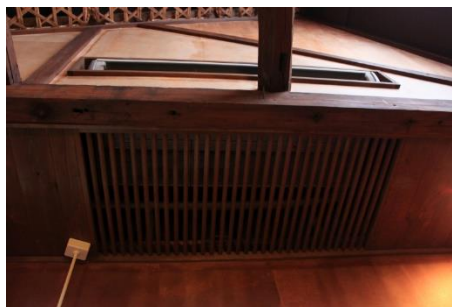
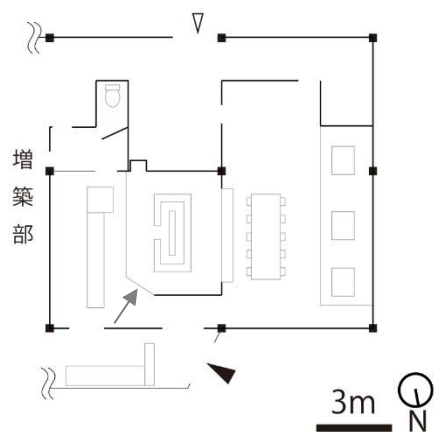


↑天井を張っていないため、屋根架構がみられる

天井を張っていないため、空調設備は置き型を採用。月の冷暖房費は高い時で20万円を超える月も。 →










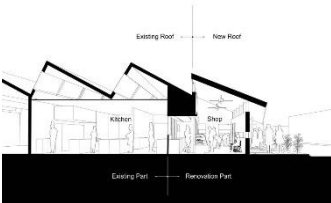



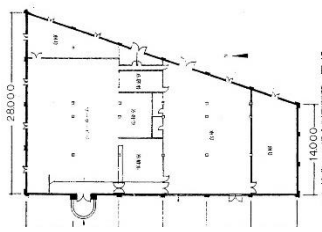
図4-88 転用事例の工場内の使い方²²⁶



古民家風という所有者の意向により、囲炉裏や間仕切り壁が設置された。
 消防法により、囲炉裏上部には煙を受ける不燃材のフードが設置されているが、天井は張らずに火災感知器を設置している。
 空調設備は垂れ壁を新たに挿入して隠している。置き型を併用している。

図 4 - 8 9 転用事例の工場内の使い方²²⁷

表4-35 公開される転用事例の工場内の使い方

 <p>No.1²²⁸</p>	 <p>No.3²²⁹</p>	 <p>No.7²³⁰</p>
 <p>No.8²³¹</p>	 <p>No.10²³²</p>	 <p>No.11²³³</p>
 <p>No.12²³⁴</p>	 <p>No.13²³⁵</p>	 <p>No.14²³⁶</p>
 <p>No.19²³⁷</p>	 <p>No.21²³⁸</p>	 <p>No.22²³⁹</p>

(4) 考察

①立地の視点（マクロ）からの評価

転用事例 25 件のうち、15 件が河川に隣接したエリア（うち桐生川 10 件、渡良瀬川 5 件）、10 件が隣接していないエリアに位置していた。公開転用事例 12 件に限ると、河川に隣接するエリアに 6 件（桐生川 5 件、渡良瀬川 1 件）、隣接していないエリアに 6 件あった。桐生新町に近い桐生川に接するエリアでは、転用事例は多く、公開転用事例と外部に公開していない転用事例（非公開転用事例）は同数であった。

一方、河川隣接エリア以外では、桐生新町及び桐生新町と桐生川の間エリアに 6 件と公開転用事例が集中していた。

②敷地の視点（メソ）からの評価

敷地内に工場・住居・倉庫の 3 施設があるか否かを表 4-36、表 4-37 でみると、工場＋住居＋倉庫の事例は 13 件（52%）確認され、うち工場への転用以外の事例はすべて国の登録文化財であった。13 件中 5 件は公開転用事例（商業 2、展示 3）であった。工場への転用では 5 件すべてにおいて 3 施設全て残っている一方、商業への転用では 7 件中 5 件で工場以外の施設が消失していた。3 施設が残っている公開転用事例は 5 件あった。そのうち織物に関する博物館以外への転用事例は 3 件あったが、3 施設が残っていても、教室への転用では公開が工場内に限られていた（表 4-36 中 No.1）。そして商業への転用では、工場と住居が異なる飲食店に転用されている事例（表 4-36 中 No.3）、工場が美容室に、住宅が飲食店に転用され、更に広大な敷地が駐車場や新築の住宅により分断されている事例（表 4-36 中 No.19）があった。No.19 は同一敷地内の織物工場を構成する工場・住宅・倉庫の複数施設が国登録文化財に登録されている。博物館への転用では展示の動線と工場内の生産の順番が逆である（表 4-36 中 No.10、No.11）など、敷地内に 3 つの施設が残存していても、施設同士が関連付けて外部に公開し転用されている事例はみられなかった。

用途地域をみると、外部公開事例 12 件中 9 件が準工業地域、1 件（表 4-36 中 No.19）商業地域、2 件（表 4-36 中 No.21、No.22）が第一種住居地域にあった。

登録文化財と敷地内の施設数をみると、7 件中 6 件で 3 施設を保有していた。なお、ノコギリ屋根工場登録後に住宅や倉庫が登録された（登録時期が異なる）物件（3 件）と、同時に工場・倉庫・住宅が登録された物件（3 件）があった。工場の登録後に住宅が登録された場合（表 4-38 中 No.3）の登録時の特徴に関する記述では、「桐生らしい織物工場を併設していた住宅全体の保存を図る」²⁴⁰とあり、住宅も転用され商業利用されており、敷地内に工場や住宅・倉庫を有することを保存・活用する意図が見える。

しかし、3 施設の関連性をみると（表 4-37）、転用の工場・住居・倉庫の施設間の関連はどの事例にも見られず、従来の工場施設が有していた特徴が失われていた。

表4-36 転用事例の現況評価

No.	マクロ			メソ				ミクロ			登録 文化財	所有者 属性
	立地 エリア	隣接 河川	公開の 有無	施設の残存と転用時の用途			施設間 の関連	一層空間		生産物 の活用		
				工場	住居	倉庫		平面	断面			
1	B1	×	●	教室	○	○	×	×	○	×	○	個・グ
2	B1	×	▲	倉庫	○	○	-	-	-	-	○	営利法人
3	C1	桐生川	●	商業	商業	○	×	△,×	○	×	○	営利法人
4	C1	桐生川	▲	倉庫	×	×	-	-	-	-	-	営利法人
5	C2	桐生川	▲	アトリエ	×	×	-	-	-	-	-	個・グ
6	C2	桐生川	▲	倉庫	○	○	-	-	-	-	-	営利法人
7	E1	×	●	美容室	×	×	-	×	×	×	-	個・グ
8	E1	×	●	商業	×	×	-	×	×	×	-	個・グ
9	E2	桐生川	▲	住宅	×	×	-	-	-	-	-	個・グ
10	E4	×	●	博物館（織物）	○	○	×	○	○	○	○	営利法人
11	E4	×	●	博物館（織物）	○	○	×	○	○	○	○	営利法人
12	E5	桐生川	●	商業	×	×	-	△,×	○	×	-	営利法人
13	E5	桐生川	●	商業	×	×	-	△,×	○	×	-	営利法人
14	E7	桐生川	●	商業	×	×	-	△,×	○	×	-	営利法人
15	F4	桐生川	■	工場(織物関連)	○	○	-	-	-	-	-	個・グ
16	G1	×	▲	駐車場	○	○	-	-	-	-	-	営利法人
17	G1	×	▲	倉庫	○	×	-	-	-	-	-	個・グ
18	J1	×	▲	幼稚園	×	×	-	-	-	-	-	公共団体
19	P1	×	●	美容室	商業	○	×	○	○	×	○	営利法人
20	V2	渡良瀬川	■	工場(織物関連)	○	○	-	-	-	-	-	個・グ
21	W5	桐生川	●	教室	×	×	-	×	×	×	-	個・グ
22	X6	渡良瀬川	●	博物館	×	×	-	×	○	×	○	個・グ
23	X6	渡良瀬川	■	工場(織物関連)	○	○	-	-	-	-	-	営利法人
24	X7	渡良瀬川	▲	工場(織物以外)	○	○	-	-	-	-	-	個・グ
25	Y5	渡良瀬川	■	工場(織物関連)	○	○	-	-	-	-	-	営利法人
凡例	河川名 ×：隣接 なし	●：公開 ▲,■： 非公開	○：敷地内に有する、×：有さない 施設を有し転用している場合は用途	○：あり ×：なし	○：残存 △：法規定による 消失 ×：消失		○：あり ×：なし	○：国の 登録 文化財	個・グ： 個人・グ ループ			

表4-37 転用事例の現状評価のまとめ

転用事例の 用途別評価	件数	マクロ			メソ		ミクロ		マクロ + メソ	マクロ+ ミクロ	メソ + ミクロ	マクロ +メソ +ミクロ
		河川に 隣接	桐生川	渡良瀬川	3施設	施設間 の関連	一層 空間	生産物 の活用				
転用全体	25	15	10	5	13	-	-	-	7	-	-	-
公開あり	12	6	5	1	5	0	3	2	1	0	0	0
商業 （飲食・販売・美容室）	7	4	4	0	2	0	1	0	1	0	0	0
展示 （博物館・教室）	5	2	1	1	3	0	2	2	0	0	0	0
公開なし	13	9	5	4	8	-	-	-	6	-	-	-
工場	5	5	1	4	5	-	-	-	5	-	-	-
倉庫・駐車場	5	2	2	0	3	-	-	-	1	-	-	-
その他	3	2	2	0	0	-	-	-	0	-	-	-

③建築物の視点（ミクロ）からの評価

公開転用事例 12 件にて、ノコギリ屋根工場の一層空間を平面・断面で有するか、生産物を活用しているかをみた（表 4－3 6、表 4－3 7）。

かつては織機が連立していた一層空間に、間仕切壁が追加されるなどして水平方向に目線が通らなくなっている事例が 9 件（75%）、天井を張るなどしてノコギリ屋根の高さや採光を保有していない事例が 3 件（25%）あった。転用に際した用途上必須となる改修や所有者の意向による改修を経た結果、平面的かつ断面的な一層空間の継承は 3 件（25%）にとどまり、9 件（75%）では一層空間が失われていた。法規定の遵守のみの理由から一層空間が消失した事例は確認されず、法規定の遵守による分節と所有者の意向による分節の両方の理由により一層空間が消失していた場合が 9 件中 4 件、所有者の意向による消失が 9 件中 5 件であった。No.3 では、登録文化財へ登録後の転用であり、文化財であることを意識した改修であった。その結果、耐震補強として鉄骨フレームが設置され、また厨房は間仕切り壁にて区切られている。利用上の空間の分節として、訪問者の動線を区切るために間仕切り壁を設置しているが、ガラスを選択することにより目線が通るよう工夫されている。No.12 では、古民家風にしたいという所有者の意向により、囲炉裏の設置や間仕切り壁の追加があった。囲炉裏上部は不燃材のフードを設けているが、天井は張らず、所有者が購入の決め手と語る屋根からの採光を重視していた。ノコギリ屋根工場は雨漏りしやすい構造であり維持する際の課題としてあげられ、そのため天井を張ることがある。このように、一層空間は法規定の遵守による分節と、使い方や所有者の意向による分節がある。

No.7 と No.8 は賃貸形式であるが、同じ建物内の 1 連分の賃貸情報を見ると、月 5 万円で、事務所や店舗の賃貸募集を行っていた²⁴¹。天井が張られた状態であり、ノコギリ屋根工場という特徴は外部からは明確であるものの、産業の要素よりも場所の提供・箱物としての利用が強いと言える。



図 4－9 0 No.7、No.8 の入る店舗のテナント募集情報²⁴²

また、生産物を工場内で利用する事例は、織物に関する博物館への転用事例 2 件に限られていた（図4－9 1）。



図4－9 1 手織り体験の様子²⁴³

④建物の所有者の変更による消失の回避

桐生内で現役稼働していたノコギリ屋根工場を有する織物工場(第3章3－3－1.(2) No.27) が、2021年には競売にかけられることとなった。1870年に創業して帯を中心に生産を続けていたが、2018年1月に経営難から事業停止した²⁴⁴。1月の時点で、売却基準価額は5411万円、買受可能価額は4328万8千円だった²⁴⁵。しかし、応札がなかったため、2度目の入札が実施されることとなった。5月の2度目の入札にて、群馬県桐生市にて不動産賃貸業を営む合同会社が3500万円で落札した。織物事業を継続して生産を行い、来訪者が工場見学を行って生産品の購入につながるような仕組みを目指すなど、解体ではなく活用の方針を示している²⁴⁶。

工場の廃業後、建物が消失してしまう理由の一つとして再開発や高度利用が挙げられた。しかし、このように地域の不動産賃貸業者といった、建築に携わる業種の会社が購入することで、地域の遺産として見なされ解体を免れることがあると言える。

他にも、例えば富山県滑川市にある登録文化財の転用事例 No.116～119 は、旧酒造の建築物群である。廃業した後、解体の依頼を受けた解体会社の社長が、私費を投入して修復・保存を行い、所有者となった。その後、登録文化財に登録されている。現在は、敷地内の見学ができる公開施設となっている。また主屋の一室では、2017年から2020年8月まで、日替わりのシェアカフェが営まれていた。9月からは飲食店が単独で営業を行っている。所有者はまちなみ保存と活用の会として、NPO 法人の代表者も務めている。会社の地域貢献や CSR 活動としても情報が発信されている²⁴⁷。

工事や改修等に関するノウハウを持つ、建築に関する会社が新たな所有者となることは、新たな用途の改修が課題となる産業遺産の転用時において、一つの実現要素と言えよう。

以上、群馬県桐生市のノコギリ屋根工場の転用事例の考察では、産業の特徴の継承という観点から転用事例を評価した。

立地の観点からは、工場立地の背景である水資源の河川との関係よりも、桐生新町に位置する市場との繋がりが強調されてしまう恐れがあることが整理された。現在、桐生における観光は桐生新町に集中しているが、現役稼働は河川隣接エリアに多く、現役稼働や転用事例を巡り桐生新町に抜けるよう誘導することにより、工場の立地背景を通して河川と地域の関係を知ることが可能になると考える。

敷地の観点からは、敷地内に工場・住居・倉庫の3つの施設を有している場合でも、施設間の連携はとれていなかった。工場のみでなく工場施設としての価値の見出し方が転用事例に対しても広まっていると考えられるが、転用時の敷地の使い方にまでは至っていない。施設の保有だけでなく、その生産工程をもとにした関連性を踏まえた敷地計画についても、規範を示す必要がある。

建築物の観点からは、公開を行う転用事例のほとんどにおいて、平面的かつ断面的に一層空間は保持されず、生産物を利用していなかったことがわかった。今後はノコギリ屋根の外観だけでなく、工場内部の利用方法から現れた空間的特徴である一層空間を、転用空間における付加価値として捉え、平面・断面設計に活かす観点が求められる。また、転用時に桐生の生産物である多種多様な織物を利用するという、いわば織物の地産地消は、生産物を介して織物産業を伝えるだけでなく、産業需要を支える面においても効果的と考える。

なお、転用にあたり、実際には都市計画の規法、建屋には建築基準法や食品衛生法、消防法、バリアフリー新法といった法による既定の影響を受けている。これらの規定を遵守する必要があり、物理的要素だけでは対応できないこともあるといえる。

4-6. 結論

第4章では実際の転用事例をみることで、第3章で用いた物理的要素以外の、定量化されなかった転用要因について把握した。また、統計分析の精度が十分とは言えない公共団体所有、ならびに営利法人の現オーナー所有は、的中しなかった事例も併せて見ることで、精度が低くなった理由について把握した。さらに、産業遺産の転用が単なる既存建築物の再利用に留まるのではなく、遺産としての保存・活用に繋がるために必要な考え方について、産業の特徴と転用事例を比較することで把握した。

所有者属性ごとに定量化されなかった要因として所有者の意向、用途、工夫をみたところ、共通点や相違点がみられた。

転用時の意向、そして用途で見られた共通点として、営利法人の新たなオーナー、現オーナーの生産品の販売が挙げられる。地域の産業を魅力として捉えるとともに、粗利益を確保できる販売方法であるため、機会を創出して産業を盛り上げる手段として、転用が行われていた。新たなオーナーによる営利活動では、祭りやまち歩きエリアなど周辺の特徴の利用もみられ、そして現オーナーによる転用では自社の祭りや体験イベントを開催することで来

訪機会の創出をしていた。一方で、産業への貢献として展示が選択されることがあり、特に現オーナーや公共団体に共通してみられる用途であった。経済基盤が確保されていることから、利益追求を目的としない用途の選択がされていると考える。

また、所有者属性別にみられた工夫の共通点として、転用事業の規模の選択があった。例えば、営利法人の新オーナー、現オーナー、公共団体所有では、耐震改修を伴う大規模な改修を行う事例もみられた。新オーナーの事例ではショッピングモール運営者が、そして現オーナーの事例では資本金が100億円を超えているなど大規模な企業であった。公共団体で大規模な改修を伴う事例では、補助金を得て整備に進んでおり、経済面から可能となる方法だと言える。一方、営利法人の新オーナーでは状態の良い建築物を選ぶことで改修費用を抑えたり、そして個人・グループでは自分たちで一年かけて改修を行う事例も見られた。各所有者が可能な範囲で改修を行い、転用を実現していると言える。そして運営においても、スタッフや管理の面から予約制を採用したり、公開する日時を限定的にする工夫もみられた。さらに規模に関連して、空間を分節して複数の事業者運営に任せたり、1階と2階で複数用途に分けるという工夫が現オーナー、公共団体、そして個人・グループにて見られた。産業遺産の特徴として敷地内に複数建築物があることが挙げられるが、公共団体では同時に複数建築物を整備するのに対し、その他の個人・グループや営利法人の新オーナー、現オーナーでは一棟ずつ転用を進めるよう工夫していた。

個人・グループでは、建物の特徴的な見たり地域産業の遺産として認知して残したいという意向や、趣味の場を設けるといった意向がみられ、特徴的だと言える。

同一地域にある同一タイプの転用事例群として、群馬県桐生市のノコギリ屋根を持つ織物工場について考察したところ、ノコギリ屋根の外観に注目が集まっており、生産工程といった産業の特徴や空間の特徴が、転用の内容には反映されていない状況が明らかになった。

以上、第4章では転用事例をみることで、第3章で扱った不動産としての評価項目以外の、定量化されなかった要因を合せて転用が実現される要因について把握した。また、転用が保存・活用に資するために必要な視点を整理した。産業遺産の転用が単なるスペースの再利用で終わらず、遺産の継承に資するための考え方について考察を行った。

補注及び引用文献

- ¹ 事業者（2021 年 5 月聞き取り）より
- ² 文化庁：国指定文化財等データベース，
<<https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00011729>>，2021 年 6 月 2 日最終アクセス。の解説文より。
- ³ 愛知県：登録有形文化財(建造物)の登録についてお知らせします（資料 3），
<<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/bunkazai/tourokubunnkazaikenzoubutsu.html>>，2020 年 4 月 1 日最終更新，2021 年 6 月 2 日最終アクセス
- ⁴ 橋口勝利：両大戦間期知多綿織物業の輸出産地化と産地大経営：中七木綿株式会社を事例に，關西大學經濟論集 第 65 巻 第 3 号，pp.381-397，2015 年 12 月
- ⁵ 事業者（2021 年 5 月聞き取り）より
- ⁶ Google map 航空写真に筆者追記
- ⁷ 事業者（2021 年 5 月聞き取り）より
- ⁸ 事業者（2021 年 5 月聞き取り）より
- ⁹ 生地問屋竹内宏商店提供
- ¹⁰ 生地問屋竹内宏商店提供
- ¹¹ 文化庁：国指定文化財等データベース，前掲書
- ¹² 金子由香，坪井義道：近代産業遺産の保存・再生によるまちづくりに関する研究 - 桐生市の鋸屋根工場群の保存・再生利用手法を通して -，日本建築学会関東支部研究報告集，pp.221-224，2005 年
- ¹³ 生地問屋 竹内宏商店：4 7 8 ものがたり，<<https://shirushi-zome.jp/wp/wp-content/themes/shirushi-zome/pdf/478story.pdf>>，2021 年 4 月 26 日アクセス
- ¹⁴ 生地問屋竹内宏商店提供資料を参考に筆者作成。
- ¹⁵ Apalog：知多木綿×中日ドラゴンズのコラボハンカチ，<<https://blog.apparel-web.com/theme/info/author/daisen/5be2ebc5-57a8-40dc-8217-b3e8de5dcbba>>，2020 年 8 月 25 日更新，2021 年 4 月 26 日アクセス
- ¹⁶ CAMPFIRE：2021 年 3 月卒業式、子供たちへのプレゼント，<<https://campfire.jp/projects/view/364838>>，2021 年 4 月 26 日アクセス
- ¹⁷ 生地問屋 竹内宏商店：知多木綿アンテナショップ 478，<<https://shirushi-zome.jp/antennashop/>>，2021 年 6 月 14 日アクセス。より取得
- ¹⁸ Facebook@Chitacotton478，2020 年 8 月 26 日投稿，2021 年 6 月 14 日アクセス。より
- ¹⁹ CAMPFIRE：2021 年 3 月卒業式、子供たちへのプレゼント，前掲書
- ²⁰ 四日市市教育委員会：東洋紡績株式会社富田工場 - 四日市市歴史的建造物（近代建築）調査の記録⑥-，1996 年 3 月 31 日：74
- ²¹ 四日市市教育委員会：1996 年，前掲書：71
- ²² 三重県教育委員会：三重県の近代化遺産，1996 年 3 月：53

- ²³ 四日市市教育委員会：1996 年，前掲書：74
- ²⁴ Google map 航空写真より。筆者追記ならびに切り取り加工。
- ²⁵ 四日市市教育委員会：1996 年，前掲書：16
- ²⁶ 四日市市教育委員会：1996 年，前掲書：19 より
- ²⁷ 四日市市教育委員会：1996 年，前掲書：37
- ²⁸ 筆者撮影（2018 年 3 月）
- ²⁹ 彰国社：特集 過去を活かす保存再生 第三の道を探る，ディテール No.155，pp.48-49，2003 年 1 月：48
- ³⁰ 彰国社：2003 年，前掲書：48
- ³¹ 彰国社：2003 年，前掲書：49
- ³² 筆者撮影（2018 年 3 月）
- ³³ Google map 航空写真より。筆者追記ならびに切り取り加工。
- ³⁴ 西の原：店舗の紹介，＜<https://24nohara.jp/shop/index.html#mooks>>，2021 年 4 月 15 日最終アクセス
- ³⁵ 西の原，前掲書
- ³⁶ 西の原，前掲書
- ³⁷ 全国信用協同組合連合会：「波佐見から日本各地へ、世界各国へ」，＜https://www.zenshinkumiren.jp/interview/saikaitoki_3.html>，2020 年 5 月 26 日更新，2021 年 2 月 16 日アクセス
- ³⁸ 西の原，前掲書
- ³⁹ 波佐見町：はさみの歴史年表（4），＜<https://www.town.hasami.lg.jp/machi/soshiki/kyouiku/6/4/1/1/895.html>>，2018 年 3 月 23 日最終更新，2021 年 6 月 26 日アクセス
- ⁴⁰ 朝日新聞デジタル：長崎「令和」のカップも 波佐見陶器まつり 5 日まで，＜<https://www.asahi.com/articles/ASM4Y51YYM4YTOLB004.html>>，2019 年 5 月 1 日 3 時 00 分更新，2021 年 6 月 26 日アクセス
- ⁴¹ ながさき旅ネット：【開催延期】波佐見陶器まつり，＜<https://www.nagasaki-tabinet.com/event/32>>，2021 年 6 月 26 日アクセス
- ⁴² Google map 航空写真より。筆者追記ならびに切り取り加工。
- ⁴³ 西日本新聞：焼き物の町で壁に挑戦 長崎・波佐見にボルダリング施設，＜<https://www.nishinippon.co.jp/item/n/401901/>>，2018 年 3 月 17 日，2021 年 6 月 14 日アクセス
- ⁴⁴ Facebook@833WALL，2018 年 6 月 23 日投稿，2021 年 6 月 14 日アクセス。より、筆者人物白塗り加工済み。
- ⁴⁵ 札幌市：旧沼田家りんご倉庫（LLOYD'S COFFEE 西岡店），＜<https://www.city.sapporo.jp/keikaku/keikan/rekiken/buildings/building42.html>>，2020 年 7 月 30 日アクセス

- ⁴⁶ 所有者（2021 年 4 月聞き取り）より
- ⁴⁷ 札幌市：沼田家住宅旧りんご倉庫，
<<https://www.city.sapporo.jp/keikaku/keikan/rekiken/buildings/building41.html>>，2020 年 7 月 30 日アクセス
- ⁴⁸ 文化庁：解体等による登録抹消，<
https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/yukei_kenzobutsu/massho/kaitai.html
>，2020 年 7 月 30 日アクセス
- ⁴⁹ lloydscoffee：店舗一覧，<<https://lloydscoffee.jimdofree.com/cafe-store/>>，2020 年 7 月 30 日アクセス。より取得し、筆者切り抜き加工。
- ⁵⁰ Instagram@lloyds_coffee_nisioka：2018 年 10 月 10 日投稿，2020 年 7 月 31 日アクセス。より取得し、筆者切り抜き加工。
- ⁵¹ Instagram@lloyds_coffee_nisioka：2021 年 4 月 25 日投稿，2021 年 6 月 25 日アクセス。より取得
- ⁵² Google map 航空写真より。筆者追記ならびに切り取り加工。
- ⁵³ 財経新聞：【インタビュー・前半】佐藤繊維・佐藤正樹社長 私たちが「ギア」を始めた理由——山形県寒河江市に大型コンセプトショップを開業，
<<https://www.zaikai.co.jp/article/20150525/250807.html>>，2015 年 5 月 25 日更新，2020 年 12 月 23 日アクセス
- ⁵⁴ Google map 航空写真より。筆者追記ならびに切り取り加工。
- ⁵⁵ 財経新聞：2015 年 5 月 25 日更新，前掲書
- ⁵⁶ OPENERS：山形県寒河江市にセレクトショップ「ギア」がオープン | GEA，
<https://openers.jp/fashion/fashion_women/957771>，2017 年 6 月 6 日更新，2020 年 10 月 12 日アクセス
- ⁵⁷ 商店建築：ギア，pp.82-90，2015 年 9 月：89
- ⁵⁸ 財経新聞：【インタビュー・後半】佐藤繊維・佐藤正樹社長 私たちが「ギア」を始めた理由——山形県寒河江市に大型コンセプトショップを開業，
<<https://www.zaikai.co.jp/article/20150525/250806.html>>，2015 年 5 月 25 日更新，2020 年 12 月 23 日アクセス
- ⁵⁹ satosan channel(YouTube)：アパレルショップ GEA1 店舗紹介，
<<https://www.youtube.com/watch?v=m3X3rXqNXB4>>，2020 年 11 月 2 日投稿，2021 年 6 月 27 日アクセス
- ⁶⁰ 商店建築：2015 年，前掲書：86、85
- ⁶¹ 商店建築：2015 年，前掲書：89
- ⁶² 財経新聞：2015 年 5 月 25 日更新，前掲書
- ⁶³ 商店建築：2015 年，前掲書：87
- ⁶⁴ 商店建築：2015 年，前掲書：89
- ⁶⁵ 商店建築：2015 年，前掲書：88

- ⁶⁶ Google map 航空写真より。筆者追記ならびに切り取り加工。
- ⁶⁷ 三谷裕樹，菅原洋一：登録有形文化財建造物の登録と活用のための支援に関する研究—三重県における事例的研究—，2012 年度日本建築学会関東支部研究報告集Ⅱ，pp.621-624，2013 年 3 月：621
- ⁶⁸ 長谷園：長谷園のご紹介，<<https://www.igamono.co.jp/about/index.html>>，2020 年 7 月 30 日アクセス。より取得
- ⁶⁹ 筆者撮影（2019 年 7 月）
- ⁷⁰ 筆者撮影（2019 年 7 月）
- ⁷¹ 筆者撮影（2019 年 7 月）
- ⁷² FX4 クラウド：八戸酒造株式会社 様，<https://www.tkc.jp/fx4/case/201905_01>，2019 年 5 月，（TKC 会計人：戦略経営者，2019 年 5 月号
<<https://www.tkc.jp/cc/senkei/backnumber/201905>>と同じ内容），2020 年 7 月 31 日アクセス
- ⁷³ Google map 航空写真より。筆者追記ならびに切り取り加工。
- ⁷⁴ 小林酒造：酒蔵について，<http://www.kitanonishiki.com/?page_id=27>，2021 年 6 月 2 日アクセス
- ⁷⁵ 小林酒造：酒蔵について，前掲書
- ⁷⁶ 小林酒造：ヒストリー，<http://www.kitanonishiki.com/?page_id=27>，2021 年 6 月 2 日アクセス
- ⁷⁷ 明治 蔵元の生家 小林家：家屋のご案内について，<<https://www.kobayashike-maruta.com/>>，2021 年 6 月 2 日アクセス
- ⁷⁸ 栗山町：酒の郷「なつかしホール」で絃楽の合奏に酔いしれる，2014 年 9 月 1 日更新，<2021 年 2 月 1 日の大幅リニューアルによりページ削除>，2019 年 11 月 22 日アクセス。より取得し、筆者人物切り抜き加工
- ⁷⁹ 北海道ラボ：栗山町の酒蔵、小林酒造の北の錦記念館へ行こう，<<https://hokkaido-labo.com/area/chitose/kobayashi-brewery>>，2021 年 6 月 2 日アクセス
- ⁸⁰ 明治 蔵元の生家 小林家：団体様のご予約について，<<https://www.kobayashike-maruta.com/>>，2021 年 6 月 2 日アクセス
- ⁸¹ 北海道ラボ，前掲書より
- ⁸² Facebook@kitanonishiki.museum，プロフィール，2021 年 6 月 2 日アクセス。より
- ⁸³ Facebook@kitanonishiki.museum，2020 年 12 月 30 日投稿，2021 年 6 月 2 日アクセス。より
- ⁸⁴ ニッシャ印刷歴史館（2021 年 4 月、5 月聞き取り）より
- ⁸⁵ ニッシャ印刷歴史館（2021 年 5 月聞き取り）より
- ⁸⁶ Google map 航空写真より。筆者追記ならびに切り取り加工。
- ⁸⁷ ニッシャ印刷歴史館提供
- ⁸⁸ ニッシャ印刷歴史館提供

- ⁸⁹ ニッシャ印刷歴史館提供
- ⁹⁰ ニッシャ印刷歴史感：NISSHA 本館について，<http://www.nissha-foundation.org/history_museum/>，2020 年 7 月 31 日アクセス。より取得。
- ⁹¹ ニッシャ印刷歴史館提供。平面図は提供資料を元に筆者作成。
- ⁹² ニッシャ印刷歴史館（2021 年 4 月、5 月聞き取り）より
- ⁹³ ニッシャ印刷歴史館（2021 年 4 月、5 月聞き取り）より
- ⁹⁴ 2021 年 3 月末現在。NISSHA：会社概要，
<<https://www.nissha.com/company/outline.html>>，2021 年 6 月 27 日アクセス
- ⁹⁵ Google map 航空写真より。筆者追記ならびに切り取り加工。
- ⁹⁶ 文化庁：国指定文化財データベース，前掲書
- ⁹⁷ 小坂町（2021 年 5 月聞き取り）より
- ⁹⁸ 小坂町提供
- ⁹⁹ 筆者撮影（2018 年 10 月）、右写真については色調補正加工。
- ¹⁰⁰ 小坂町提供図面
- ¹⁰¹ 小坂町都市計画課：秋田県市町村未来づくり協働プログラム～小坂町プロジェクト～
「明治百年通りにぎわい創りプロジェクト」事後評価について，平成 30 年第 1 回定例会
（2 月議会）建設部 提出資料（2 月 23 日），pp.2-5：5
- ¹⁰² 小坂町提供図面を筆者切り抜き加工。
- ¹⁰³ 敦賀市提供資料「赤レンガ整備に至る経緯等」より
- ¹⁰⁴ 敦賀市提供資料「赤レンガ整備に至る経緯等」より
- ¹⁰⁵ 福井県教育委員会：福井県の近代化遺産，1999 年 3 月：63 の fig.3-82 より
- ¹⁰⁶ 福井県教育委員会：1999 年，前掲書：63 の fig.3-83 より
- ¹⁰⁷ 敦賀市提供
- ¹⁰⁸ 筆者撮影（2018 年 3 月）
- ¹⁰⁹ Tanseisha：敦賀赤レンガ倉庫・ジオラマ館，
<<https://www.tanseisha.co.jp/works/detail/59826>>，2021 年 3 月 3 日アクセス
- ¹¹⁰ 敦賀市提供図面を筆者切り抜き加工。
- ¹¹¹ 筆者撮影（2018 年 3 月）
- ¹¹² Google map 航空写真より。筆者追記ならびに切り取り加工。
- ¹¹³ Google map 航空写真より。筆者追記ならびに切り取り加工。
- ¹¹⁴ 豊後高田市提供
- ¹¹⁵ 山住修平，松見達也，柴田久，石橋知也：まちづくり交付金を活用した中心市街地活性化に関する研究，土木学会西部支部研究発表会 IV-055，pp.699-700，2009 年 3 月
- ¹¹⁶ 山住，松見，柴田，石橋：2009 年，前掲書
- ¹¹⁷ 豊後高田市提供
- ¹¹⁸ 豊後高田市教育委員会提供
- ¹¹⁹ 豊後高田市提供

- ¹²⁰ きたかんナビ：旧本間酒造（前橋）で野菜販売 国の登録有形文化財 「空き家」を交流拠点に，＜<http://kitakan-navi.jp/archives/29966>>，2018年6月23日最終更新，2020年4月1日アクセス
- ¹²¹ Google map 航空写真より。筆者追記ならびに切り取り加工。
- ¹²² 前橋市教育委員会提供の配置図と平面図を用いて配置図兼1階平面図にし、方位記号の移動、切り取り加工を行った。
- ¹²³ 前橋市教育委員会提供
- ¹²⁴ Twitter@HONMAYA4，2019年4月22日投稿，2020年7月15日アクセス。より取得。筆者人物部分白塗り加工。
- ¹²⁵ きたかんナビ：2018年6月23日，前掲書
- ¹²⁶ 群馬県前橋市教育委員会（2021年4月聞き取り）より
- ¹²⁷ 前橋市教育委員会提供
- ¹²⁸ Twitter@HONMAYA4，2021年5月5日投稿、2020年6月18日投稿，2021年5月21日最終アクセス。より
- ¹²⁹ 前橋市：【平成30年度採択・令和元年度実施】 まえばし市民提案型パートナーシップ事業，＜https://www.city.maebashi.gunma.jp/kurashi_tetsuzuki/4/1/5/20359.html>，2020年8月27日最終更新，2021年3月13日アクセス
- ¹³⁰ CAMPFIRE：「ソウウレシ」本間酒造と群馬総社の記憶を蘇らせる展覧会，＜<https://camp-fire.jp/projects/view/159206>>，2021年3月13日最終アクセス
- ¹³¹ Facebook@ソウウレシ，2019年9月23日投稿より，2021年5月21日アクセス。より
- ¹³² Google map 航空写真より。筆者追記ならびに切り取り加工。
- ¹³³ 沖縄県教育委員会：沖縄県近代化遺産（建造物等）総合調査報告書，2004年3月：193
- ¹³⁴ 沖縄県教育委員会：2004年，前掲書：192
- ¹³⁵ 北大東島 観光ナビ：島人居酒屋トロッコ，＜https://www.kitadaito.jp/shop_detail2.html?shop_code=697>，2020年7月30日アクセス。より取得し筆者切り抜き加工
- ¹³⁶ 離島観光・交流促進事業 島あっちい：島人居酒屋トロッコ，＜<https://acchi.okinawa/島人居酒屋トロッコ>>，2021年6月27日アクセス。より取得し、筆者切り抜き加工
- ¹³⁷ 中標津町教育委員会（2021年5月聞き取り）より
- ¹³⁸ 中標津町郷土館：分館，＜https://www.nakashibetsu.jp/kyoudokan_web/105.htm>，2021年6月2日最終アクセス。より取得
- ¹³⁹ 中標津町教育委員会提供
- ¹⁴⁰ Google map 航空写真より。筆者追記ならびに切り取り加工。
- ¹⁴¹ 宇多津町（2021年5月聞き取り）より

- 142 Google map 航空写真より。筆者追記ならびに切り取り加工。
- 143 宇多津町提供
- 144 宇多津町提供
- 145 宇多津町：歴史年表,
<<https://www.town.utazu.lg.jp/machi/tokushoku/rekishi/nenpyou/>>, 2018 年 10 月 15
日更新, 2021 年 6 月 2 日最終アクセス
- 146 宇多津町提供の使用日一覧データより
- 147 宇多津町：こめっせ宇多津,
<<https://www.town.utazu.lg.jp/machi/shisetu/shisetsu/kommesse/>>, 2021 年 6 月 2 日
最終アクセス
- 148 宇多津町：こめっせ宇多津, 前掲書
- 149 宇多津町提供資料を筆者切り抜き加工
- 150 松川村教育委員会（2021 年 5 月聞き取り）より
- 151 松川村：2019.6.3 収蔵庫に農具・民具の展示室完成,
<<http://www.vill.matsukawa.nagano.jp/photo-news/archives/002535.php>>, 2021 年 4 月
9 日アクセス。より取得。松村教育委員会提供に、筆者人物部塗りつぶし加工。
- 152 信州大学：5 月 10 日（木） 山岳科学総合研究所上高地ステーション開所式,
<http://www.shinshu-u.ac.jp/event/archive_data/2007/05/510.html>, 2007 年 5 月 10
日更新, 2020 年 7 月 30 日アクセス
- 153 Google map 航空写真より。筆者追記ならびに切り取り加工。
- 154 信州山の環境研究センター：12 月 19 日 上高地ステーション観察池・別館が登録有形
文化財として登録され, <<http://ims.shinshu-u.ac.jp/index.php?news2011#r9c72fc5>>,
2011 年 12 月 19 日, 2020 年 7 月 30 日アクセス。より取得に矢印を追記。
- 155 長野県教育委員会：長野県の近代化遺産 長野県近代化遺産(建造物等)総合調査報告
書, 2009 年 3 月：48 より。筆者、矢印を追記し切り取り加工。
- 156 2021 年 6 月時点、現地張り紙より
- 157 所有者（2021 年 5 月聞き取り）より
- 158 Google map 航空写真より。筆者追記ならびに切り取り加工。
- 159 使用者（2017 年 5 月聞き取り）より
- 160 所有者（2021 年 5 月聞き取り）より
- 161 所有者（2021 年 5 月聞き取り）より
- 162 使用者（2017 年 5 月聞き取り）より
- 163 筆者撮影（2017 年 5 月）
- 164 おうめ観光ガイド：interview 青梅なひと,
<<https://www.omekanko.gr.jp/lovers/3457/>>, 2021 年 4 月 25 日アクセス
- 165 おうめ観光ガイド, 前掲書
- 166 文化庁：国指定文化財等データベース, 前掲書

- ¹⁶⁷ 筆者撮影（2021年6月）
- ¹⁶⁸ 筆者撮影（2017年5月）
- ¹⁶⁹ 筆者撮影（2017年5月）
- ¹⁷⁰ MOTION GALLERY：約50年ぶりの復活！ 映画の街、青梅に再び映画館を造り多くの人々に笑顔を届けたい！！<<https://motion-gallery.net/projects/chass>>，2021年5月25日アクセス
- ¹⁷¹ 所有者（2021年5月聞き取り）より
- ¹⁷² 筆者撮影（2021年6月）
- ¹⁷³ CINEMA NEKO：劇場案内，<<https://cinema-neko.com/theater.php>>，2021年6月27日アクセス。より取得
- ¹⁷⁴ 一般社団法人 日本新聞協会：菊川・赤レンガ倉庫 解体危機から文化財に，静岡新聞社 2015年7月18日掲載，<https://newspark.jp/contents/20150718_shizuoka11/>，2015年8月6日更新，2021年6月2日アクセス
- ¹⁷⁵ 中日新聞：菊川赤レンガ倉庫が維持費不足 市民団体支援募る，2020年11月22日投稿，<<https://www.chunichi.co.jp/article/158284>>，2021年6月2日アクセス
- ¹⁷⁶ 菊川市：菊川赤れんが倉庫／菊川市内の登録文化財，<<https://www.city.kikugawa.shizuoka.jp/shakaikyoubu/shiteibunkazai/akarengasouko.html>>，2018年1月5日更新，2021年6月2日最終アクセス
- ¹⁷⁷ NPO 法人菊川まちいき：菊川市赤レンガ倉庫の保存に向けて，<<http://www9.plala.or.jp/kikugawamachiiki/page4.html>>，2021年6月2日最終アクセス
- ¹⁷⁸ Google map 航空写真より。筆者追記ならびに切り取り加工。
- ¹⁷⁹ 福田町史編さん委員会編：福田町史 通史編 磐田市，2016年3月：754
- ¹⁸⁰ 福田町史編さん委員会編：前掲書
- ¹⁸¹ ドルチェ倉庫管理人補佐のブログ：倉庫がへーんしん，<<https://dolcesouko.hamazo.tv/>>，2015年9月7日投稿，2020年7月30日アクセス
- ¹⁸² 登録有形文化財 DOLCE：カレンダー，<<http://www4.tokai.or.jp/dolcesouko/calendar.html>>，2020年7月30日アクセス
- ¹⁸³ Google map 航空写真より。筆者追記ならびに切り取り加工。
- ¹⁸⁴ 登録有形文化財 DOLCE：トップページ，<<http://www4.tokai.or.jp/dolcesouko/index.html>>，2020年7月30日アクセス。より取得し筆者切り抜き加工。
- ¹⁸⁵ Shioya BASE：マルマス蔵，<<http://shioyabase.web.fc2.com/kura.html>>，2021年6月2日アクセス
- ¹⁸⁶ 一般社団法人村上市観光協会：旧マルマス醤油蔵（旧野澤豊五郎醸造醤油蔵），<<https://www.sake3.com/spot/7085>>，2021年6月2日最終アクセス。より取得。
- ¹⁸⁷ 文化庁：国指定文化財等データベース，<<https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00011101>>，2021年6月2日最終

アクセス

- 188 一般社団法人村上市観光協会：前掲書
- 189 Google map 航空写真より。筆者追記ならびに切り取り加工。
- 190 所有者より（2021 年 4 月聞き取り）
- 191 文化庁：国指定文化財等データベース，前掲書
- 192 Google map 航空写真より。筆者追記ならびに切り取り加工。
- 193 社会福祉法人自生園提供
- 194 自生園：事業所案内，<<https://jishoen.com/service/other/#iraku>>，2020 年 7 月 30 日アクセス。より筆者切り抜き加工。
- 195 社会福祉法人自生園提供
- 196 社会福祉法人自生園提供図面を筆者切り取り加工ならびに色調補正加工。
- 197 山下晃弘，徳尾野徹，横山俊祐：登録有形文化財住宅の住みながら公開・活用の有意性 ―登録有形文化財住宅の保全と活用に関する研究（その 3）―，日本建築学会大会学術講演梗概集（東北），pp.1081－1082，2018 年 9 月：1081
- 198 岡崎沙織，阿部浩和：近代化産業遺産建築物の現状と保存活用の課題 大阪府を事例として，日本建築学会大会学術講演梗概集（関東），pp.595-596，2011 年 8 月
- 199 Google Map より筆者切り抜き加工並びに赤線と地域名を追記。
- 200 国土地理院：デジタル標高地位系図 群馬県【技術資料 D1-No.952】令和元年 7 月，<https://www.gsi.go.jp/kankyochiri/degitalelevationmap_kanto.html>，2021 年 9 月 29 日最終アクセス。より、筆者桐生地域ならびに凡例の切り取り加工。
- 201 筆者撮影（2016 年 12 月）
- 202 NIKKEI：日本の近代遺産 50 選 ノコギリ屋根織物工場群，<<http://www.adnet.jp/nikkei/kindai/43/>>，2020 年 12 月 15 日アクセス
- 203 長谷川直司：近代化遺産 産業編，日本の美術 544 号，ぎょうせい，2011 年：18
- 204 ゆるキャラグランプリ 2020：桐生市マスコットキャラクター「キノピー」（群馬県），<<https://www.yurugp.jp/jp/vote/detail.php?id=00000378>>，2021 年 2 月 3 日アクセス。筆者切り取り加工
- 205 筆者撮影（2015 年 10 月）
- 206 筆者撮影（2016 年 12 月）
- 207 桐生市教育委員会：桐生本町の街並み，伝統的建造物群保存対策調査報告書，1994 年
- 208 野口三郎：桐生市の織布工場ノコギリ屋根（10 年間の変化），日本建築学会大会学術講演梗概集（東北），pp.552－554，2000 年
- 209 島奈津美，北川千尋，岩岡竜夫：群馬県桐生市に残存するノコギリ屋根を伴う建物の特徴について ノコギリ屋根に関する研究（1），日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道），pp.17－18，2013 年
- 210 山上和也，黒野弘靖：桐生市に現存するノコギリ屋根工場の転用手法，日本建築学会北陸支部研究報告集 第 45 号，pp.267－270，2002 年

- ²¹¹ 金子由香, 坪井義道: 近代産業遺産の保存・再生によるまちづくりに関する研究 - 桐生市のノコギリ屋根工場群の保存・再生利用手法を通して -, 日本建築学会関東支部研究報告集, pp.221-224, 2005 年
- ²¹² 中井陽子: 桐生市における産業遺産の転用方法, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (九州), pp.619-620, 2016 年
- ²¹³ 北川啓介, 中西正明, 村上心, 西川裕紀, 麓和善, 稲垣圭亮: 近代建造物の改修における付加価値, 日本建築学会計画系論文集 第 78 巻 第 689 号, pp.1495-1504, 2013 年
- ²¹⁴ 岡田昌彰: テクノスケープ・リノベーションの意味論的研究, ランドスケープ研究, 第 69 巻 第 5 号, pp.721-724, 2006 年
- ²¹⁵ 堀尾作人, 陣内秀信: 産業革命前における水力産業都市・桐生の形成, 日本建築学会計画系論文集 第 82 巻 第 737 号, pp.1839-1846, 2017 年
- ²¹⁶ 平成 17 年 3 月経済産業省関東経済産業局: 「ノコギリ屋根」全リスト (平成 16 年度), 平成 16 年度都市再生プロジェクト推進調査費 ノコギリ屋根工場群の活用による都市再生モデル調査報告書, 2005 年。を元にした。2017 年に桐生市により行われた調査は、総計 207 件以上の詳細データが公開されていないため、本研究のノコギリ屋根工場の総数については 2005 年のデータを用いることとし、所在地が町丁目まで明らかである 268 件を対象としている。
- ²¹⁷ 2006 年に平成の大合併で編入した飛地であるため対象から除いた。
- ²¹⁸ 塩田敏志: 現代林学講義 8 森林風景計画学, 地球社, 2008 年。において、資源の位置や潜在力を検討するマクロ、地区内で実際に人間の眺める景観を対象とするメソ、ある場所における人間の身近な景観を検討するレベルとしてミクロの 3 つのレベルから検討することが、広い地域から地点までの計画に必要であると指摘されている。
- ²¹⁹ 亀田光三: 地場産業のダイナミズムー近代桐生織物の歴史ー^{③④}, 亀田光三論文集 桐生織物史と産業遺産, p.359, 2011 年 12 月
- ²²⁰ 堀尾, 陣内: 2017 年, 前掲書
- ²²¹ 佐々木正純: きりゅう百景, 2008 年: p.117。文化財保護課提供図面。ゼンリン: ゼンリン住宅地図群馬県桐生市, 2014 年。より筆者作成。写真は筆者撮影 (2016 年 12 月、2018 年 6 月)
- ²²² 佐々木: 2008 年, 前掲書: p.117。文化財保護課提供図面。ゼンリン: ゼンリン住宅地図群馬県桐生市, 2014 年。より筆者作成。写真は筆者撮影 (2016 年 12 月、2018 年 6 月)
- ²²³ 野口三郎: 織物工場鋸屋根について (その 2 桐生市の場合), 日本建築学会関東支部研究報告集, pp.281-284, 1991 年: 図 2、図 3 を元に筆者作成。
- ²²⁴ 筆者撮影 (2015 年 10 月)
- ²²⁵ 川村晃正: 明治初年桐生織物産地における産業集積と分業関係, 専修商学論集, 第 82 号, pp.205-270, 2006 年
- ²²⁶ 平面図は桐生市文化財保護課提供を元に作成。写真は筆者撮影 (2015 年 11 月、2015

年 10 月)。また、冷暖房についての情報は、中井陽子：産業遺産の転用方法に関する研究
一桐生市の工場と蔵における改変を事例として一、筑波大学大学院人間総合科学研究科世
界遺産専攻 修士論文，2016 年 3 月より。

²²⁷ 筆者実測調査（2015 年 11 月）から作成。写真は筆者撮影（2015 年 11 月、2015 年 10 月）

²²⁸ 筆者撮影（2015 年 10 月）

²²⁹ 筆者撮影（2015 年 11 月）

²³⁰ Holly : Holly, <<https://sites.google.com/site/hairmakeholly/holly>>, 2017 年 9 月 16 日アクセス。より取得。

²³¹ EXTEND : HOME, <<http://www.extend-shop.co.jp/>>, 2021 年 1 月 23 日最終アクセス。より取得。

²³² 筆者撮影（2015 年 10 月）

²³³ 筆者撮影（2015 年 10 月）

²³⁴ 筆者撮影（2015 年 10 月）

²³⁵ TAKATO TAMAGAMI ARCHITECTURAL DESIGN : パティスリーウチャマ,
<<https://takatotamagami.net/works/commercial/arpukr/>>, 2021 年 1 月 23 日最終アクセス。より取得し、筆者切り取り加工。

²³⁶ 筆者撮影（2015 年 10 月）

²³⁷ 桐生市：旧堀祐織物工場（美容室アッシュ）,
<<https://www.city.kiryu.lg.jp/kankou/bunkazai/1010700/kunitouroku/1007515.html>>,
2017 年 11 月 10 日最終更新, 2021 年 1 月 23 日最終アクセス。より取得。

²³⁸ 筆者撮影（2016 年 10 月）

²³⁹ 群馬県教育委員会文化財保護課：群馬県近代化遺産総合調査報告書，1992 年 3 月

²⁴⁰ 桐生市：登録有形文化財（建造物）登録について,
<http://www.city.kiryu.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/006/178/31301.pdf>,
2015 年最終更新, 2017 年 12 月 1 日アクセス

²⁴¹ マックコーポレーション：借りたい 事業用,
<<https://www.athome.co.jp/list/estate/buk/jr/058762/>>, 2016 年 11 月 23 日アクセス,
2020 年アクセス時には物件情報削除を確認。

²⁴² マックコーポレーション，前掲書。より

²⁴³ 筆者撮影（2014 年 2 月）に人物部塗りつぶし加工。

²⁴⁴ 上毛新聞：後藤織物ののこぎり屋根など 11 棟と土地が競売に 桐生の日本遺産,
<<https://www.jomo-news.co.jp/news/gunma/culture/266862>>, 2021 年 1 月 13 日更新,
2021 年 6 月 4 日アクセス

²⁴⁵ 上毛新聞：日本遺産「後藤織物」の競売に応札なし 地裁桐生支部,
<<https://www.jomo-news.co.jp/news/gunma/society/268289>>, 2021 年 1 月 20 日更新,
2021 年 6 月 4 日アクセス

²⁴⁶ 上毛新聞：桐生・後藤織物の建物存続へ 市内企業が落札、活用検討 国登録有形文化財、「日本遺産」、<<https://www.jomo-news.co.jp/news/gunma/society/298232>>，2021年5月28日更新，2021年6月4日アクセス

²⁴⁷ 株式会社 金山産業：会社案内 地域貢献・CSR活動，<<https://www.kanayamas.co.jp/corp/csr.html>>，2021年6月18日アクセス

第5章 結論

本研究では産業遺産について、従来の遺産がもつ絢爛豪華たるイメージとは異なる魅力、生産というダイナミックさとシステムティックな特徴を認識している。その認識の元、用途を失った産業遺産の建築物が、一棟でも多く新たな用途を得て解体を逃れるよう、つまり転用により保存・活用されるための基礎的情報や方策を検討した。

転用の要因には、不動産としての評価項目である建築物の物理的要素のみならず、所有者の意向というきっかけや狙いが含まれることが明らかになった。そして用途の内容や所有者ごとに合わせた事業規模の選択等の工夫により、転用が実現され、そして継続されている現状を把握した。

転用に繋がる要因のうち、建築物そのものや立地といった、建築物の不動産としての評価項目は、移築や増改築を除いて基本的に変わることのない条件と言える。一方で、所有者属性や用途、そして施設残存状況は、今後も変更の可能性がある。そして転用の要因のうち、定量化されなかった所有者の意向や用途の内容、そして工夫についても可変要素と言える。生産工程を有することが特徴である産業遺産は、保存・活用のために、複数の建築物を繋ぎ合わせて、その意味を伝えることが必要となる。今後、これら可変要素を組み合わせることで、戦略的に用途を付随させることで、産業遺産の建築物が一棟でも多く継承されること、そして転用を通じた保存・活用の可能性が広がることを指摘したい。

例えば、駅から離れていて競争圧力の高くないような住宅地にある産業遺産は、新たなオーナーによる転用が考えられる。周辺のニーズに合わせた、日常生活に係る飲食などの販売品や、テイクアウトなどの販売方法が考えられる。歴史的な佇まいを来訪者が感じやすい煉瓦造や石造の建物や、接道していると尚選択されやすいと言える。また、敷地内に複数の転用を展開する際は、用途をそれぞれ特化して競合しないようにすることで、その一帯が来訪者の目的地と発展することも考えられる。

また、稼働工場の中で用途を終えた建築物が出てきた際、歴史的な佇まいを持つ建物や、非一層の区切られた空間を持つ建物は、駅から離れたエリアで接道している場合、自社製品の販売を行う転用が考えられる。その際、産業稼働時の機械や音など、建物以外の産業要素も転用すると、その場所にしかない魅力により繋がると言える。現オーナーは今後、廃業した場合には他属性による転用に移行する可能性がある。その場合、機械等は産業システムを残す鍵とも言えるため、廃棄せずに残置することも選択肢と言える。

地場産業の生産品の販売は、現オーナーによる転用に限らず、新たなオーナーの転用においても可能性がある。レストランやカフェで食器を使用したり、手ぬぐいやハンカチの企画、スタッフを割かない場合は自動販売機との組み合わせなど、来訪者の目や手に触れることで、産業への興味のきっかけや販売機会の創出となる。これは地場産業の継承に繋がり、現オーナーが経済基盤を強化することとも関連する。現オーナーに余裕がある場合は、転用用

途として営利を目的としない、展示といった公開用途を選択することも考えられる。

個人や有志の集まりによる産業遺産の公開は、面積の大きい建物や、敷地内に稼働を終えた複数施設がある場合、地域の産業の遺産として認知されてきっかけが生まれやすいと言える。空間を区切ることで、可能な範囲から徐々に公開を進める方法が考えられる。そして継続のためには、協力者の増加や更新ができるよう、地域の商店街や趣味等のコミュニティへのアプローチも一つの手段と言える。

自治体による転用は、新しく建物を選ぶというよりも、価値が認められて譲渡・寄付された産業遺産が選ばれ、自治体の経済面や人員面に即した事業規模の転用が考えられる。

また、産業遺産という生産工程が特徴であるにもかかわらず、外観への注目が集まっている現状が明らかになった。群馬県桐生市のノコギリ屋根を有する織物工場では、織物を生産する場所という特徴や空間の特徴よりも、ノコギリの形そのものへ注目が集まっていた。そして登録文化財の転用事例においても、例えば営利法人による営利活動の要因として、歴史的な付まいが共通していた。元来の建物の使われ方が織物工場、石油倉庫、鋳業の動力供給原動室と全く異なるにもかかわらず、煉瓦造を有すると転用後の名称が「○○レンガ」や「赤れんが○○」となり、特徴の把握が外観に留まっていることが指摘される。

「産業」遺産の建築物は、自然環境といった地域特性やそれを活かした地域の発展、地場産業を反映する遺産であり、その継承を考えた際、単なる「煉瓦」や「ノコギリ屋根」の外から眺める特徴だけでは到達しないと考える。従来から文化財として親しまれてきた、外から眺める遺産との大きな違いだと意識することが、今後特に重要だと言える。転用に繋がる要因に加えて、工場の立地背景や敷地内の施設間の関係、産業工程と空間、そして生産物という一連の繋がりある産業工程を、特徴として捉える視点を転用の計画に備えることが、産業遺産の継承に重要であることを指摘したい。そしてこれらを踏まえ、現役稼働工場と転用事例の両者を合わせて産業の遺産を継承していく必要がある。産業遺産特有の性格に対して関心を深めることが、そこでしか味わえない魅力に繋がり、長い目で見た際の遺産の継承へ繋がると考える。所有者にとって、産業にとって、来訪者にとって、地域にとって、遺産としての継承に繋がる転用が望まれる。

産業遺産の研究は、これまでに産業遺産学会（旧産業考古学会）を始め、建築学のみならず、造園学、機械や鉄道に関連学会、観光学、と多岐にわたって行われている。事例研究が積み重なっているが、多種多様であることと、他分野に係ることから、一つとなつて発展しづらい特徴とも言える。その中で本研究は、建築物を扱うにあたって慣習的に産業種別に分けるのではなく、建築物・敷地・立地といった物理指標を用いる考え方を選択した。生産工程という複雑な構成を持つ産業遺産を、転用に向けて整理する際の一つの考え方として用いることが出来た。次なる課題としては、建築物と生産工程の要素を関連付けることが挙げられる。また、産業遺産研究の中でも、遺産単体に着目するのではなく所有者と遺産と新たな用途を繋げる役割を、本研究の位置付けとしたい。今後の産業遺産研究の発展に、少しでも寄与できればと願っている。

資料編

1. 重要文化財（近代／産業・交通・土木）の現在の用途表	2
2. 登録文化財の産業遺産事例表	6
3. 登録文化財の産業遺産の転用事例表	28
4. 転用事例の参考文献表	44
5. 数量化Ⅱ類の結果表	67

1. 重要文化財（近代／産業・交通・土木）の現在の用途表（1／2）

No.	名称	棟名
1	旧阿仁鉱山外国人官舎	
2	三井石炭鉱業株式会社三池炭鉱宮原坑施設	第二豎坑巻揚機室
3	三井石炭鉱業株式会社三池炭鉱旧万田坑施設	第二豎坑巻揚機室
4	旧小坂鉱山事務所	
5	旧富岡製糸場	繰糸所
6	旧富岡製糸場	東置繭所
7	旧富岡製糸場	西置繭所
8	旧富岡製糸場	蒸気釜所
9	旧富岡製糸場	首長館
10	旧富岡製糸場	女工館
11	旧富岡製糸場	検査人館
12	日本煉瓦製造株式会社旧煉瓦製造施設	旧事務所（日本煉瓦史料館）
13	日本煉瓦製造株式会社旧煉瓦製造施設	旧変電室
14	三井石炭鉱業株式会社三池炭鉱旧万田坑施設	倉庫及びポンプ室
15	三井石炭鉱業株式会社三池炭鉱旧万田坑施設	安全燈室及び浴室
16	三井石炭鉱業株式会社三池炭鉱旧万田坑施設	事務所
17	シャトーカミヤ旧醸造場施設	事務室
18	シャトーカミヤ旧醸造場施設	醗酵室
19	シャトーカミヤ旧醸造場施設	貯蔵庫
20	津嘉山酒造所施設	主屋
21	津嘉山酒造所施設	麹屋
22	旧佐渡鉱山採鉱施設	大立豎坑捲揚機室
23	旧佐渡鉱山採鉱施設	高任粗砕場（たかとうそさいば）
24	旧佐渡鉱山採鉱施設	高任貯鉱舎及びベルトコンベアヤード
25	旧佐渡鉱山採鉱施設	電車車庫（機械工場）
26	旧常田館製糸場施設	三階繭倉庫
27	旧常田館製糸場施設	四階繭倉庫
28	旧常田館製糸場施設	五階繭倉庫
29	旧常田館製糸場施設	五階鉄筋繭倉庫
30	旧常田館製糸場施設	撰繭場（せんけんじょう）
31	旧常田館製糸場施設	事務所兼住宅
32	旧常田館製糸場施設	文庫蔵
33	旧醸造試験所第一工場	
34	旧新町紡績所	工場本館
35	旧新町紡績所	機関室
36	旧新町紡績所	修繕場
37	旧新町紡績所	倉庫
38	旧新町紡績所	二階家煉瓦庫

面積 (㎡)	構造	現在の用途	No.
267.2	煉瓦造	転用 (博物館)	1
127.1	煉瓦造	内部見学可能	2
207.1	煉瓦造 2 階建	内部見学可能	3
753.6	木造	転用 (博物館、飲食販売)	4
1726.9	木骨煉瓦造	内部見学可能	5
1486.6	木骨煉瓦造	転用 (博物館、販売)	6
1486.6	木骨煉瓦造	転用 (博物館)	7
346.1	木骨煉瓦造及び木造	外観見学可能	8
917.0	木骨煉瓦造	内部見学可能	9
381.5	木骨煉瓦造	内部見学可能	10
224.7	木骨煉瓦造	転用 (内部非公開)	11
433.6	木造平屋建	転用 (博物館)	12
22.3	煉瓦造平屋建	外観見学可能	13
173.6	煉瓦造	外観見学可能	14
96.7	煉瓦造	内部見学可能	15
128.5	煉瓦造 2 階建	外観見学可能	16
308.5	煉瓦造 2 階一部 1 階	非公開	17
436.8	煉瓦造	転用 (博物館)	18
404.6	煉瓦造	転用 (飲食)	19
330.5	木造	現役稼働 (見学可能)	20
95.5	木造	現役稼働 (見学可能)	21
221.8	鉄筋コンクリート造	非公開	22
542.0	鉄骨造	外観見学可能	23
241.3	鉄骨造及び鉄筋コンクリート造	外観見学可能	24
330.6	木造	転用 (博物館)	25
170.8	木造 3 階建	外観見学可能	26
239.6	木造 4 階建	外観見学可能	27
401.1	木造 5 階建	外観見学可能	28
131.3	鉄筋コンクリート造 5 階建	外観見学可能	29
123.9	木造 2 階建	外観見学可能	30
163.8	木造 2 階建	転用 (博物館)	31
24.8	土蔵造 2 階建	外観見学可能	32
923.3	煉瓦造	通常非公開	33
6572.9	木造	非公開	34
414.2	煉瓦造	非公開	35
327.2	木造	非公開	36
293.7	煉瓦造	非公開	37
49.2	煉瓦造	非公開	38

1. 重要文化財（近代／産業・交通・土木）の現在の用途表（2／2）

No.	名称	棟名
39	小岩井農場施設	本部事務所
40	小岩井農場施設	本部第一号倉庫
41	小岩井農場施設	本部第二号倉庫
42	小岩井農場施設	乗馬厩（じょうばきゅう）
43	小岩井農場施設	倶楽部
44	小岩井農場施設	第一号牛舎
45	小岩井農場施設	第二号牛舎
46	小岩井農場施設	第三号牛舎
47	小岩井農場施設	第四号牛舎
48	小岩井農場施設	種牡牛舎（しゅぼぎゅうしゃ）
49	小岩井農場施設	育牛部倉庫
50	小岩井農場施設	秤量場（ひょうりょうじょう）
51	小岩井農場施設	冷蔵庫
52	小岩井農場施設	四階建倉庫
53	小岩井農場施設	耕耘部倉庫（こううんぶそうこ）
54	小岩井農場施設	玉蜀黍小屋(北東棟)（とうもろこしごや）
55	小岩井農場施設	玉蜀黍小屋(南西棟)
56	小岩井農場施設	玉蜀黍小屋(南東棟)
57	小岩井農場施設	玉蜀黍小屋(北西棟)

面積 (㎡)	構造	現在の用途	No.
252.5	木造	内部見学可能	39
118.2	木造	現役稼働	40
132.2	木造	現役稼働	41
320.6	木造 2 階建	転用 (内部非公開)	42
652.2	木造	現役稼働	43
652.2	木造 2 階建	現役稼働	44
495.8	木造 2 階建	現役稼働	45
1109.7	木造 2 階建	現役稼働	46
646.2	木造 2 階建	現役稼働	47
249.2	木造 2 階建	非公開	48
132.2	木造	現役稼働	49
35.5	木造	外観見学可能	50
48.0	煉瓦造	外観見学可能	51
515.6	木造 4 階建	現役稼働	52
317.3	木造	現役稼働	53
73.6	木造	転用 (内部非公開)	54
80.3	木造	転用 (内部非公開)	55
78.6	木造	転用 (内部非公開)	56
99.3	木造	転用 (内部非公開)	57

2. 登録文化財の産業遺産事例表（1／22）

主構造は、W：木造、D：土蔵造、B：煉瓦造、S：組積造（その他）、WFS・SFS・St：木骨組積造・鉄骨組積造・鉄骨造、RC：鉄筋コンクリート造、を指す。

ID	産業中分類	活用状況	主構造	面積	所有者属性	登録基準	登録形態	登録年	都道府県
1	第一次産業	転用	W	231	公共	造形の規範	単体	2000	北海道
2	醸造業	現役稼働	WFS	223	営利法人	歴史的景観	複数	2005	北海道
3	醸造業	現役稼働	WFS	907	営利法人	歴史的景観	複数	2005	北海道
4	醸造業	現役稼働	SFS	453	営利法人	歴史的景観	複数	2005	北海道
5	醸造業	現役稼働	WFS	426	営利法人	歴史的景観	複数	2005	北海道
6	醸造業	現役稼働	WFS	402	営利法人	歴史的景観	複数	2005	北海道
7	醸造業	現役稼働	WFS	426	営利法人	歴史的景観	複数	2005	北海道
8	醸造業	現役稼働	WFS	249	営利法人	歴史的景観	複数	2005	北海道
9	醸造業	現役稼働	B	473	営利法人	歴史的景観	複数	2006	北海道
10	醸造業	転用	W	199	営利法人	歴史的景観	複数	2006	北海道
11	醸造業	転用	B	114	営利法人	歴史的景観	複数	2006	北海道
12	醸造業	転用	RC	200	営利法人	歴史的景観	複数	2006	北海道
13	醸造業	転用	W	568	営利法人	歴史的景観	複数	2006	北海道
14	醸造業	現役稼働	WFS	176	営利法人	歴史的景観	複数	2006	北海道
15	醸造業	現役稼働	B	312	営利法人	歴史的景観	複数	2006	北海道
16	醸造業	現役稼働	WFS	263	営利法人	歴史的景観	複数	2006	北海道
17	醸造業	現役稼働	B	282	営利法人	歴史的景観	複数	2006	北海道
18	醸造業	現役稼働	B	282	営利法人	歴史的景観	複数	2006	北海道
19	醸造業	現役稼働	B	382	営利法人	歴史的景観	複数	2006	北海道
20	醸造業	現役稼働	WFS	200	営利法人	歴史的景観	複数	2006	北海道
21	第一次産業	転用	B	36	営利法人	歴史的景観	単体	2012	北海道
22	第一次産業	転用	W	109	公共	造形の規範	単体	2009	北海道
23	第一次産業	転用	RC	255	公共	歴史的景観	複数	2009	北海道
24	第一次産業	現役稼働	W	79	公共	歴史的景観	複数	2009	北海道
25	第一次産業	現役稼働	W	72	公共	歴史的景観	複数	2009	北海道
26	第一次産業	転用	W	744	公共	歴史的景観	単体	2001	北海道
27	醸造業	転用	W	135	営利法人	造形の規範	単体	1998	青森県
28	第一次産業	転用	W	368	営利法人	歴史的景観	複数	2000	青森県
29	第一次産業	転用	W	51	営利法人	歴史的景観	複数	2000	青森県
30	第一次産業	転用	W	312	営利法人	歴史的景観	複数	2000	青森県
31	第一次産業	転用	W	579	営利法人	歴史的景観	複数	2000	青森県
32	第一次産業	転用	W	491	営利法人	歴史的景観	複数	2000	青森県
33	醸造業	現役稼働	D	182	営利法人	歴史的景観	複数	2010	青森県
34	醸造業	現役稼働	W	246	営利法人	歴史的景観	複数	2010	青森県
35	醸造業	現役稼働	D	88	営利法人	歴史的景観	複数	2010	青森県
36	醸造業	転用	D	240	営利法人	歴史的景観	複数	2010	青森県
37	醸造業	転用	B	472	営利法人	再現	複数	2010	青森県
38	醸造業	現役稼働	W	59	公共	造形の規範	複数	2003	岩手県
39	醸造業	現役稼働	W	254	公共	造形の規範	複数	2003	岩手県
40	醸造業	現役稼働	W	152	公共	歴史的景観	複数	2003	岩手県
41	醸造業	現役稼働	W	164	公共	造形の規範	複数	2003	岩手県
42	醸造業	現役稼働	S	159	公共	歴史的景観	複数	2003	岩手県
43	醸造業	現役稼働	D	638	公共	歴史的景観	複数	2003	岩手県
44	醸造業	現役稼働	W	42	公共	歴史的景観	複数	2003	岩手県
45	醸造業	現役稼働	D	525	公共	歴史的景観	複数	2003	岩手県
46	醸造業	転用	D	360	公共	歴史的景観	複数	2003	岩手県
47	鉱業	転用	RC	735	公共	造形の規範	単体	2013	岩手県
48	その他二次産業	転用	W	751	公共	歴史的景観	単体	1996	岩手県
49	醸造業	転用	B	138	営利法人	再現	複数	1999	岩手県
50	醸造業	転用	S	178	営利法人	造形の規範	複数	1999	岩手県

2. 登録文化財の産業遺産事例表（2／22）

ID	産業中分類	活用状況	主構造	面積	所有者属性	登録基準	登録形態	登録年	都道府県
51	醸造業	転用	W	295	営利法人	再現	複数	1999	岩手県
52	醸造業	転用	D	483	営利法人	造形の規範	複数	1999	岩手県
53	醸造業	転用	S	263	営利法人	造形の規範	複数	1999	岩手県
54	醸造業	転用	D	114	営利法人	造形の規範	複数	1999	岩手県
55	醸造業	活用なし	D	201	営利法人	造形の規範	複数	1999	岩手県
56	その他二次産業	不明	D	77	不明	歴史的景観	複数	2008	岩手県
57	その他二次産業	不明	D	55	不明	歴史的景観	複数	2008	岩手県
58	その他二次産業	不明	D	45	不明	歴史的景観	複数	2008	岩手県
59	その他二次産業	不明	W	112	不明	歴史的景観	複数	2008	岩手県
60	その他二次産業	現役稼働	W	357	不明	造形の規範	複数	2008	岩手県
61	その他二次産業	不明	W	4.1	不明	歴史的景観	複数	2008	岩手県
62	醸造業	転用	D	153	営利法人	歴史的景観	複数	2018	宮城県
63	醸造業	転用	D	110	営利法人	造形の規範	複数	2018	宮城県
64	醸造業	活用なし	W	80	営利法人	歴史的景観	複数	2018	宮城県
65	醸造業	現役稼働	W	146	営利法人	歴史的景観	複数	2018	宮城県
66	醸造業	現役稼働	W	142	営利法人	造形の規範	複数	2018	宮城県
67	醸造業	現役稼働	D	71	営利法人	歴史的景観	複数	2018	宮城県
68	醸造業	現役稼働	D	39	営利法人	造形の規範	複数	2018	宮城県
69	醸造業	現役稼働	D	82	営利法人	歴史的景観	複数	2018	宮城県
70	醸造業	現役稼働	W	63	不明	歴史的景観	複数	2015	宮城県
71	醸造業	現役稼働	W	305	不明	歴史的景観	複数	2015	宮城県
72	醸造業	現役稼働	W	67	不明	歴史的景観	複数	2015	宮城県
73	醸造業	現役稼働	D	551	不明	歴史的景観	複数	2015	宮城県
74	醸造業	現役稼働	W	184	不明	歴史的景観	複数	2015	宮城県
75	醸造業	現役稼働	D	63	不明	歴史的景観	複数	2015	宮城県
76	醸造業	現役稼働	W	99	不明	歴史的景観	複数	2015	宮城県
77	醸造業	転用	W	94	営利法人	歴史的景観	単体	2018	宮城県
78	その他二次産業	現役稼働	W	175	営利法人	歴史的景観	複数	2002	宮城県
79	その他二次産業	現役稼働	W	75	営利法人	歴史的景観	複数	2002	宮城県
80	その他二次産業	転用	W	223	個人	歴史的景観	単体	2010	秋田県
81	醸造業	現役稼働	W	316	営利法人	造形の規範	単体	2009	秋田県
82	繊維業	転用	W	240	個人	歴史的景観	単体	1998	秋田県
83	鉱業	転用	WF	95	公共	造形の規範	単体	2017	秋田県
84	醸造業	転用	D	90	営利法人	歴史的景観	複数	1998	秋田県
85	醸造業	現役稼働	W	122	営利法人	歴史的景観	複数	1998	秋田県
86	醸造業	現役稼働	D	68	営利法人	歴史的景観	複数	1998	秋田県
87	醸造業	現役稼働	W	366	営利法人	再現	複数	1998	秋田県
88	醸造業	現役稼働	D	372	営利法人	歴史的景観	複数	1998	秋田県
89	醸造業	現役稼働	D	189	営利法人	歴史的景観	複数	1998	秋田県
90	醸造業	現役稼働	D	20	営利法人	歴史的景観	複数	1998	秋田県
91	醸造業	現役稼働	D	142	営利法人	歴史的景観	複数	1998	秋田県
92	醸造業	現役稼働	D	58	営利法人	再現	複数	1998	秋田県
93	醸造業	現役稼働	D	17	営利法人	歴史的景観	複数	1998	秋田県
94	第一次産業	転用	W	660	公共	歴史的景観	複数	2000	秋田県
95	第一次産業	転用	W	660	公共	歴史的景観	複数	2000	秋田県
96	第一次産業	転用	W	660	公共	歴史的景観	複数	2000	秋田県
97	第一次産業	転用	W	660	公共	歴史的景観	複数	2000	秋田県
98	第一次産業	転用	W	660	公共	歴史的景観	複数	2000	秋田県
99	第一次産業	転用	W	660	公共	歴史的景観	複数	2000	秋田県
100	第一次産業	転用	W	660	公共	歴史的景観	複数	2000	秋田県

2. 登録文化財の産業遺産事例表（3／22）

ID	産業中分類	活用状況	主構造	面積	所有者属性	登録基準	登録形態	登録年	都道府県
101	第一次産業	転用	W	660	公共	歴史的景観	単体	2000	秋田県
102	醸造業	現役稼働	D	116	営利法人	歴史的景観	複数	2014	秋田県
103	醸造業	転用	D	166	営利法人	歴史的景観	単体	2014	秋田県
104	醸造業	活用なし	D	277	営利法人	歴史的景観	単体	2014	秋田県
105	醸造業	現役稼働	D	94	営利法人	歴史的景観	複数	2014	秋田県
106	醸造業	現役稼働	D	163	営利法人	歴史的景観	複数	2014	秋田県
107	醸造業	現役稼働	W	134	個人・グループ	歴史的景観	複数	2006	秋田県
108	醸造業	現役稼働	D	101	個人・グループ	歴史的景観	複数	2006	秋田県
109	醸造業	現役稼働	D	165	営利法人	造形の規範	複数	1998	秋田県
110	醸造業	現役稼働	D	165	営利法人	造形の規範	複数	1998	秋田県
111	醸造業	現役稼働	D	165	営利法人	造形の規範	複数	1998	秋田県
112	醸造業	現役稼働	D	165	営利法人	造形の規範	複数	1998	秋田県
113	醸造業	現役稼働	D	96	営利法人	再現	複数	1998	秋田県
114	醸造業	現役稼働	D	165	営利法人	歴史的景観	複数	2011	秋田県
115	醸造業	現役稼働	W	1271	営利法人	歴史的景観	複数	2011	秋田県
116	醸造業	現役稼働	W	119	営利法人	歴史的景観	複数	2011	秋田県
117	醸造業	現役稼働	D	254	営利法人	歴史的景観	複数	1996	秋田県
118	醸造業	現役稼働	W	241	営利法人	造形の規範	複数	1996	秋田県
119	醸造業	現役稼働	D	284	営利法人	歴史的景観	複数	1996	秋田県
120	醸造業	現役稼働	D	111	営利法人	造形の規範	複数	2002	秋田県
121	醸造業	現役稼働	D	133	営利法人	造形の規範	複数	2002	秋田県
122	醸造業	現役稼働	D	172	営利法人	造形の規範	複数	2002	秋田県
123	醸造業	現役稼働	D	179	営利法人	造形の規範	複数	2002	秋田県
124	醸造業	現役稼働	D	151	営利法人	造形の規範	複数	2002	秋田県
125	醸造業	現役稼働	D	80	営利法人	造形の規範	複数	2002	秋田県
126	醸造業	転用	D	190	営利法人	造形の規範	単体	2010	秋田県
127	醸造業	転用	D	174	営利法人	造形の規範	複数	2002	秋田県
128	醸造業	転用	D	234	営利法人	造形の規範	複数	2002	秋田県
129	醸造業	転用	D	81	営利法人	造形の規範	複数	2002	秋田県
130	醸造業	現役稼働	D	178	営利法人	歴史的景観	複数	1996	秋田県
131	醸造業	現役稼働	D	416	営利法人	歴史的景観	複数	1996	秋田県
132	醸造業	現役稼働	D	224	営利法人	歴史的景観	複数	1996	秋田県
133	醸造業	現役稼働	D	297	営利法人	歴史的景観	複数	1996	秋田県
134	醸造業	現役稼働	W	215	営利法人	歴史的景観	複数	1996	秋田県
135	醸造業	現役稼働	W	303	営利法人	歴史的景観	複数	2005	秋田県
136	醸造業	現役稼働	W	112	営利法人	歴史的景観	複数	2005	秋田県
137	醸造業	現役稼働	D	251	営利法人	造形の規範	複数	2005	秋田県
138	醸造業	現役稼働	D	165	営利法人	造形の規範	複数	2005	秋田県
139	醸造業	現役稼働	D	74	営利法人	造形の規範	複数	2005	秋田県
140	醸造業	活用なし	D	53	営利法人	歴史的景観	複数	2009	山形県
141	醸造業	活用なし	D	54	営利法人	歴史的景観	複数	2009	山形県
142	繊維業	転用	D	341	非営利団体	歴史的景観	単体	2015	山形県
143	繊維業	転用	S	434	営利法人	造形の規範	複数	2018	山形県
144	繊維業	転用	S	359	営利法人	造形の規範	複数	2018	山形県
145	醸造業	現役稼働	W	209	営利法人	歴史的景観	複数	2011	山形県
146	醸造業	現役稼働	W	207	営利法人	歴史的景観	複数	2011	山形県
147	醸造業	現役稼働	W	248	営利法人	歴史的景観	複数	2011	山形県
148	繊維業	活用なし	D	292	公共	歴史的景観	複数	2016	山形県
149	繊維業	転用	RC	581	公共	歴史的景観	複数	2016	山形県
150	繊維業	転用	RC	292	公共	歴史的景観	複数	2016	山形県

2. 登録文化財の産業遺産事例表（4／22）

ID	産業中分類	活用状況	主構造	面積	所有者属性	登録基準	登録形態	登録年	都道府県
151	醸造業	現役稼働	W	430	営利法人	歴史的景観	複数	1997	山形県
152	醸造業	現役稼働	D	205	営利法人	造形の規範	単体	1997	山形県
153	醸造業	現役稼働	D	79	営利法人	歴史的景観	複数	1997	山形県
154	醸造業	現役稼働	D	142	営利法人	歴史的景観	複数	1997	山形県
155	醸造業	現役稼働	D	428	営利法人	造形の規範	単体	1997	山形県
156	醸造業	現役稼働	D	85	営利法人	歴史的景観	複数	1997	山形県
157	醸造業	現役稼働	D	162	営利法人	歴史的景観	単体	1997	山形県
158	醸造業	現役稼働	D	142	営利法人	歴史的景観	複数	2008	山形県
159	醸造業	現役稼働	D	110	営利法人	歴史的景観	複数	2008	山形県
160	醸造業	現役稼働	D	117	営利法人	歴史的景観	複数	2008	山形県
161	繊維業	転用	D	263	公共	歴史的景観	単体	2016	山形県
162	醸造業	転用	D	56	営利法人	歴史的景観	複数	2013	福島県
163	醸造業	活用なし	D	350	営利法人	歴史的景観	単体	2013	福島県
164	醸造業	転用	D	71	営利法人	歴史的景観	複数	2013	福島県
165	醸造業	活用なし	D	207	個人・グループ	歴史的景観	複数	2004	福島県
166	醸造業	活用なし	RC	114	個人・グループ	歴史的景観	複数	2004	福島県
167	醸造業	活用なし	D	144	個人・グループ	歴史的景観	複数	2004	福島県
168	醸造業	活用なし	W	99	個人・グループ	歴史的景観	複数	2004	福島県
169	醸造業	活用なし	RC	119	個人・グループ	歴史的景観	複数	2004	福島県
170	醸造業	活用なし	W	139	個人・グループ	歴史的景観	複数	2004	福島県
171	第一次産業	活用なし	WFS	269	公共	歴史的景観	単体	2016	福島県
172	醸造業	転用	D	281	公共	再現	単体	2001	福島県
173	繊維業	活用なし	B	192	営利法人	歴史的景観	単体	2004	茨城県
174	醸造業	転用	W	176	公共	歴史的景観	複数	2017	茨城県
175	醸造業	転用	W	795	公共	歴史的景観	複数	2017	茨城県
176	醸造業	現役稼働	W	1191	営利法人	造形の規範	複数	2000	茨城県
177	醸造業	現役稼働	W	79	営利法人	造形の規範	複数	2000	茨城県
178	その他二次産業	現役稼働	D	169	営利法人	歴史的景観	単体	2001	茨城県
179	醸造業	現役稼働	S	145	営利法人	造形の規範	単体	2000	茨城県
180	醸造業	現役稼働	D	105	営利法人	歴史的景観	単体	2000	茨城県
181	醸造業	現役稼働	D	269	営利法人	歴史的景観	複数	2005	茨城県
182	醸造業	現役稼働	WFC	141	営利法人	再現	複数	2004	茨城県
183	醸造業	現役稼働	D	950	営利法人	歴史的景観	複数	2005	茨城県
184	醸造業	現役稼働	D	132	営利法人	歴史的景観	複数	2005	茨城県
185	醸造業	現役稼働	D	60	営利法人	歴史的景観	複数	2011	茨城県
186	醸造業	現役稼働	W	224	営利法人	歴史的景観	複数	2011	茨城県
187	醸造業	現役稼働	D	207	営利法人	歴史的景観	複数	2011	茨城県
188	醸造業	現役稼働	D	318	営利法人	歴史的景観	複数	2011	茨城県
189	醸造業	現役稼働	D	49	営利法人	歴史的景観	複数	2011	茨城県
190	第一次産業	活用なし	W	134	個人	歴史的景観	単体	2003	茨城県
191	繊維業	転用	S	530	営利法人	歴史的景観	単体	1999	栃木県
192	繊維業	活用なし	B	239	営利法人	歴史的景観	複数	2008	栃木県
193	繊維業	活用なし	B	357	営利法人	歴史的景観	複数	1999	栃木県
194	繊維業	活用なし	B	1587	営利法人	歴史的景観	複数	1999	栃木県
195	繊維業	活用なし	W	58	個人・グループ	歴史的景観	複数	2011	栃木県
196	繊維業	活用なし	B	42	個人・グループ	歴史的景観	複数	2011	栃木県
197	繊維業	活用なし	B	69	個人・グループ	歴史的景観	複数	2011	栃木県
198	鉱業	活用なし	B	69	営利法人	造形の規範	複数	2016	栃木県
199	鉱業	転用	W	231	営利法人	歴史的景観	複数	2006	栃木県
200	鉱業	転用	W	476	営利法人	造形の規範	複数	2006	栃木県

2. 登録文化財の産業遺産事例表（5／22）

ID	産業中分類	活用状況	主構造	面積	所有者属性	登録基準	登録形態	登録年	都道府県
201	繊維業	活用なし	S	495	公共	歴史的景観	単体	2014	栃木県
202	醸造業	現役稼働	W	333	営利法人	造形の規範	複数	2007	栃木県
203	醸造業	現役稼働	W	209	営利法人	歴史的景観	複数	2007	栃木県
204	醸造業	現役稼働	W	268	営利法人	造形の規範	複数	2007	栃木県
205	醸造業	現役稼働	D	167	営利法人	歴史的景観	複数	2013	栃木県
206	醸造業	現役稼働	D	117	営利法人	歴史的景観	複数	2013	栃木県
207	醸造業	現役稼働	S	65	営利法人	歴史的景観	複数	2013	栃木県
208	醸造業	現役稼働	D	197	営利法人	歴史的景観	複数	2013	栃木県
209	醸造業	転用	D	239	営利法人	歴史的景観	複数	2008	栃木県
210	醸造業	現役稼働	W	42	営利法人	歴史的景観	複数	2008	栃木県
211	醸造業	現役稼働	D	221	営利法人	歴史的景観	複数	2008	栃木県
212	鉱業	転用	W	100	営利法人	歴史的景観	単体	2016	栃木県
213	醸造業	現役稼働	W	183	営利法人	歴史的景観	複数	2016	栃木県
214	醸造業	現役稼働	W	53	営利法人	歴史的景観	複数	2016	栃木県
215	醸造業	現役稼働	D	41	営利法人	歴史的景観	複数	2016	栃木県
216	醸造業	現役稼働	D	818	営利法人	歴史的景観	複数	2016	栃木県
217	醸造業	現役稼働	W	360	営利法人	歴史的景観	複数	2016	栃木県
218	醸造業	現役稼働	D	41	営利法人	歴史的景観	複数	2004	栃木県
219	醸造業	転用	W	170	営利法人	歴史的景観	単体	2008	栃木県
220	醸造業	現役稼働	D	33	営利法人	歴史的景観	複数	2004	栃木県
221	繊維業	転用	WFS	884	個人	歴史的景観	単体	2005	群馬県
222	醸造業	転用	W	216	営利法人	歴史的景観	複数	2013	群馬県
223	醸造業	現役稼働	D	44	営利法人	歴史的景観	複数	2013	群馬県
224	繊維業	転用	B	298	営利法人	再現	複数	1998	群馬県
225	繊維業	活用なし	W	71	営利法人	造形の規範	複数	1998	群馬県
226	繊維業	活用なし	W	28	営利法人	歴史的景観	単体	2015	群馬県
227	繊維業	活用なし	W	198	営利法人	歴史的景観	複数	2015	群馬県
228	繊維業	活用なし	D	25	営利法人	歴史的景観	複数	2015	群馬県
229	繊維業	活用なし	WFS	550	営利法人	歴史的景観	単体	2006	群馬県
230	醸造業	転用	B	236	公共	歴史的景観	単体	2016	群馬県
231	繊維業	転用	S	207	公共	歴史的景観	単体	2006	群馬県
232	醸造業	転用	D	524	公共	歴史的景観	複数	2016	群馬県
233	醸造業	転用	W	232	公共	歴史的景観	複数	2016	群馬県
234	繊維業	不明	W	46	不明	歴史的景観	複数	2014	群馬県
235	繊維業	不明	D	21	不明	歴史的景観	複数	2014	群馬県
236	繊維業	不明	W	160	不明	歴史的景観	複数	2014	群馬県
237	繊維業	転用	W	95	営利法人	歴史的景観	複数	2014	群馬県
238	繊維業	転用	W	56	営利法人	歴史的景観	複数	2006	群馬県
239	繊維業	現役稼働	W	720	営利法人	歴史的景観	複数	2006	群馬県
240	繊維業	現役稼働	W	64	営利法人	歴史的景観	複数	2006	群馬県
241	繊維業	転用	W	20	営利法人	歴史的景観	複数	2006	群馬県
242	繊維業	現役稼働	W	64	営利法人	歴史的景観	複数	2006	群馬県
243	繊維業	現役稼働	W	55	営利法人	歴史的景観	複数	2006	群馬県
244	醸造業	活用なし	W	155	営利法人	歴史的景観	複数	2016	群馬県
245	醸造業	転用	W	308	営利法人	歴史的景観	複数	2016	群馬県
246	醸造業	活用なし	W	223	営利法人	歴史的景観	複数	2016	群馬県
247	醸造業	活用なし	D	21	営利法人	歴史的景観	複数	2016	群馬県
248	醸造業	転用	D	254	営利法人	歴史的景観	複数	2016	群馬県
249	第一次産業	不明	W	85	個人	歴史的景観	単体	2005	群馬県
250	第一次産業	不明	W	141	個人	歴史的景観	単体	2004	群馬県

2. 登録文化財の産業遺産事例表（6／22）

ID	産業中分類	活用状況	主構造	面積	所有者属性	登録基準	登録形態	登録年	都道府県
251	繊維業	活用なし	W	276	個人	歴史的景観	単体	2014	群馬県
252	繊維業	現役稼働	W	332	個人	歴史的景観	単体	2014	群馬県
253	繊維業	活用なし	CB	21	個人・グループ	歴史的景観	複数	2014	群馬県
254	繊維業	活用なし	CB	19	個人・グループ	歴史的景観	複数	2014	群馬県
255	繊維業	転用	W	127	営利法人	歴史的景観	複数	2006	群馬県
256	繊維業	転用	W	57	営利法人	歴史的景観	複数	2006	群馬県
257	繊維業	転用	W	62	営利法人	歴史的景観	複数	2006	群馬県
258	繊維業	転用	W	83	営利法人	歴史的景観	複数	2006	群馬県
259	繊維業	転用	W	582	営利法人	歴史的景観	複数	2006	群馬県
260	繊維業	転用	W	135	営利法人	歴史的景観	複数	2006	群馬県
261	繊維業	転用	W	33	営利法人	歴史的景観	複数	2006	群馬県
262	繊維業	転用	W	127	営利法人	歴史的景観	複数	2006	群馬県
263	繊維業	転用	W	53	営利法人	歴史的景観	複数	2006	群馬県
264	繊維業	現役稼働	W	208	営利法人	歴史的景観	複数	2006	群馬県
265	醸造業	現役稼働	D	562	営利法人	歴史的景観	複数	2004	群馬県
266	醸造業	現役稼働	W	1479	営利法人	歴史的景観	複数	2004	群馬県
267	醸造業	現役稼働	D	857	営利法人	歴史的景観	複数	2004	群馬県
268	醸造業	転用	W	61	営利法人	歴史的景観	単体	1998	群馬県
269	繊維業	不明	W	91	個人・グループ	歴史的景観	複数	2005	群馬県
270	繊維業	転用	W	597	個人・グループ	歴史的景観	複数	2005	群馬県
271	繊維業	不明	D	17	個人・グループ	歴史的景観	複数	2005	群馬県
272	第一次産業	転用	S	197	公共	造形の規範	単体	1997	埼玉県
273	醸造業	転用	W	129	個人	歴史的景観	単体	2009	埼玉県
274	醸造業	転用	D	231	公共	歴史的景観	複数	2008	埼玉県
275	醸造業	転用	D	304	公共	歴史的景観	複数	2008	埼玉県
276	醸造業	転用	D	418	公共	歴史的景観	複数	2008	埼玉県
277	繊維業	転用	W	149	公共	歴史的景観	複数	2001	埼玉県
278	繊維業	転用	W	301	公共	歴史的景観	複数	2001	埼玉県
279	醸造業	現役稼働	W	172	営利法人	歴史的景観	複数	2017	埼玉県
280	醸造業	現役稼働	W	40	営利法人	歴史的景観	複数	2017	埼玉県
281	繊維業	転用	W	221	営利法人	造形の規範	単体	2017	埼玉県
282	醸造業	活用なし	W	60	営利法人	再現	複数	2008	千葉県
283	醸造業	現役稼働	W	10	営利法人	歴史的景観	複数	2008	千葉県
284	醸造業	現役稼働	W	299	営利法人	歴史的景観	複数	2008	千葉県
285	醸造業	現役稼働	W	788	営利法人	歴史的景観	複数	2008	千葉県
286	醸造業	現役稼働	W	58	営利法人	歴史的景観	複数	2008	千葉県
287	醸造業	現役稼働	W	486	営利法人	歴史的景観	複数	2008	千葉県
288	醸造業	現役稼働	D	50	営利法人	歴史的景観	複数	2008	千葉県
289	醸造業	現役稼働	D	47	営利法人	歴史的景観	複数	2007	千葉県
290	醸造業	現役稼働	D	115	営利法人	歴史的景観	複数	2007	千葉県
291	醸造業	現役稼働	D	46	営利法人	歴史的景観	複数	2007	千葉県
292	第一次産業	転用	W	111	非営利団体	歴史的景観	単体	2002	千葉県
293	第一次産業	転用	W	343	営利法人	歴史的景観	複数	2018	千葉県
294	第一次産業	転用	W	193	営利法人	造形の規範	複数	2018	千葉県
295	第一次産業	転用	W	59	営利法人	造形の規範	複数	2018	千葉県
296	第一次産業	転用	W	95	営利法人	造形の規範	複数	2018	千葉県
297	第一次産業	不明	W	106	公共	造形の規範	単体	2017	山梨県
298	その他二次産業	転用	W	103	公共	歴史的景観	単体	2010	千葉県
299	醸造業	現役稼働	B	241	営利法人	再現	単体	1999	千葉県
300	醸造業	現役稼働	W	116	個人	歴史的景観	単体	2009	千葉県

2. 登録文化財の産業遺産事例表（7／22）

ID	産業中分類	活用状況	主構造	面積	所有者属性	登録基準	登録形態	登録年	都道府県
301	醸造業	現役稼働	S	42	営利法人	造形の規範	複数	2018	千葉県
302	醸造業	現役稼働	S	86	営利法人	歴史的景観	複数	2018	千葉県
303	醸造業	現役稼働	S	146	営利法人	歴史的景観	複数	2018	千葉県
304	醸造業	現役稼働	D	40	営利法人	歴史的景観	複数	2018	千葉県
305	醸造業	現役稼働	D	29	営利法人	歴史的景観	複数	2018	千葉県
306	醸造業	不明	W	0.3	個人	歴史的景観	単体	2014	千葉県
307	醸造業	不明	W	193	個人・グループ	歴史的景観	複数	2014	千葉県
308	醸造業	不明	W	114	個人・グループ	歴史的景観	複数	2014	千葉県
309	醸造業	不明	D	46	個人・グループ	歴史的景観	複数	2014	千葉県
310	醸造業	不明	W	55	個人・グループ	歴史的景観	複数	2014	千葉県
311	醸造業	不明	W	75	個人・グループ	歴史的景観	複数	2014	千葉県
312	醸造業	不明	B	20	個人・グループ	歴史的景観	複数	2014	千葉県
313	その他二次産業	現役稼働	S	30	営利法人	歴史的景観	複数	2009	千葉県
314	その他二次産業	現役稼働	W	69	営利法人	歴史的景観	複数	2009	千葉県
315	醸造業	不明	W	382	営利法人	造形の規範	単体	2017	千葉県
316	醸造業	転用	D	291	営利法人	造形の規範	単体	2017	千葉県
317	醸造業	現役稼働	W	417	営利法人	歴史的景観	複数	2011	千葉県
318	醸造業	現役稼働	W	134	営利法人	造形の規範	複数	1999	千葉県
319	醸造業	現役稼働	W	213	営利法人	歴史的景観	複数	2011	千葉県
320	醸造業	現役稼働	W	114	営利法人	歴史的景観	複数	2011	千葉県
321	醸造業	現役稼働	W	66	営利法人	歴史的景観	複数	2011	千葉県
322	醸造業	不明	D	121	個人・グループ	歴史的景観	複数	2002	千葉県
323	醸造業	不明	D	99	個人・グループ	歴史的景観	複数	2002	千葉県
324	繊維業	転用	W	715	非営利団体	造形の規範	単体	2016	東京都
325	繊維業	転用	S	159	非営利団体	歴史的景観	単体	2016	東京都
326	醸造業	転用	D	577	営利法人	歴史的景観	複数	2004	東京都
327	醸造業	現役稼働	D	489	営利法人	歴史的景観	複数	2004	東京都
328	醸造業	現役稼働	D	734	営利法人	歴史的景観	複数	2004	東京都
329	醸造業	転用	W	104	営利法人	歴史的景観	複数	2013	東京都
330	醸造業	現役稼働	D	68	営利法人	歴史的景観	複数	2013	東京都
331	醸造業	現役稼働	D	912	営利法人	歴史的景観	複数	2013	東京都
332	醸造業	現役稼働	D	34	営利法人	歴史的景観	複数	2013	東京都
333	その他二次産業	転用	W	234	公共	造形の規範	単体	2004	神奈川県
334	醸造業	活用なし	W	0.29	個人・グループ	造形の規範	複数	2017	神奈川県
335	醸造業	転用	W	354	個人・グループ	歴史的景観	複数	2017	神奈川県
336	醸造業	転用	W	79	個人	歴史的景観	単体	2017	神奈川県
337	醸造業	転用	W	28	個人・グループ	歴史的景観	複数	2017	神奈川県
338	醸造業	転用	W	139	個人・グループ	歴史的景観	複数	2017	神奈川県
339	醸造業	転用	W	21	個人・グループ	歴史的景観	複数	2017	神奈川県
340	その他二次産業	現役稼働	RC	765	営利法人	歴史的景観	単体	1999	神奈川県
341	醸造業	現役稼働	W	386	不明	歴史的景観	単体	2003	新潟県
342	醸造業	現役稼働	W	127	営利法人	歴史的景観	複数	2013	新潟県
343	醸造業	現役稼働	D	15	営利法人	歴史的景観	複数	2013	新潟県
344	醸造業	転用	D	52	公共	再現	単体	2006	新潟県
345	醸造業	不明	W	150	個人・グループ	歴史的景観	複数	2016	新潟県
346	醸造業	転用	W	440	個人・グループ	歴史的景観	複数	2016	新潟県
347	醸造業	不明	D	150	個人・グループ	歴史的景観	複数	2016	新潟県
348	その他二次産業	現役稼働	W	12	営利法人	歴史的景観	複数	2008	新潟県
349	その他二次産業	現役稼働	W	319	営利法人	歴史的景観	複数	2008	新潟県
350	その他二次産業	現役稼働	W	128	営利法人	造形の規範	複数	2008	新潟県

2. 登録文化財の産業遺産事例表（8／22）

ID	産業中分類	活用状況	主構造	面積	所有者属性	登録基準	登録形態	登録年	都道府県
351	その他二次産業	現役稼働	D	20	営利法人	歴史的景観	複数	2008	新潟県
352	醸造業	現役稼働	WFB	1278	営利法人	歴史的景観	単体	2006	新潟県
353	醸造業	転用	D	59	営利法人	歴史的景観	単体	2013	新潟県
354	醸造業	現役稼働	D	57	営利法人	歴史的景観	単体	2013	新潟県
355	醸造業	現役稼働	W	185	営利法人	歴史的景観	単体	2013	新潟県
356	醸造業	現役稼働	W	183	個人・グループ	再現	複数	2000	新潟県
357	醸造業	転用	W	340	個人・グループ	造形の規範	複数	2000	新潟県
358	醸造業	現役稼働	W	280	個人・グループ	再現	複数	2000	新潟県
359	醸造業	不明	D	119	個人・グループ	歴史的景観	複数	1999	新潟県
360	醸造業	不明	D	54	個人・グループ	歴史的景観	複数	1999	新潟県
361	醸造業	現役稼働	W	216	営利法人	歴史的景観	単体	2016	新潟県
362	醸造業	転用	D	49	個人・グループ	歴史的景観	複数	2010	富山県
363	醸造業	転用	D	40	個人・グループ	歴史的景観	複数	2010	富山県
364	醸造業	転用	D	277	個人・グループ	歴史的景観	複数	2010	富山県
365	醸造業	転用	W	376	個人・グループ	造形の規範	複数	2010	富山県
366	繊維業	転用	W	274	公共	造形の規範	単体	2000	富山県
367	醸造業	現役稼働	W	162	営利法人	造形の規範	複数	2002	石川県
368	醸造業	現役稼働	D	132	営利法人	造形の規範	複数	2002	石川県
369	醸造業	現役稼働	D	45	営利法人	造形の規範	複数	2002	石川県
370	繊維業	転用	W	129	公共	歴史的景観	複数	2003	石川県
371	繊維業	不明	WFS	64	公共	再現	複数	2003	石川県
372	醸造業	転用	W	231	非営利団体	歴史的景観	単体	2016	石川県
373	醸造業	現役稼働	SFS	171	営利法人	造形の規範	複数	2005	石川県
374	醸造業	現役稼働	D	159	営利法人	再現	複数	2005	石川県
375	醸造業	現役稼働	D	145	営利法人	再現	複数	2005	石川県
376	醸造業	現役稼働	D	145	営利法人	再現	複数	2005	石川県
377	繊維業	転用	W	381	公共	歴史的景観	単体	2012	石川県
378	その他二次産業	転用	B	691	公共	造形の規範	単体	1996	石川県
379	醸造業	現役稼働	B	44	個人・グループ	造形の規範	複数	2017	石川県
380	醸造業	転用	D	142	個人・グループ	歴史的景観	複数	2017	石川県
381	醸造業	現役稼働	W	290	個人・グループ	歴史的景観	複数	2017	石川県
382	醸造業	現役稼働	D	36	個人・グループ	歴史的景観	複数	2017	石川県
383	その他二次産業	現役稼働	W	128	個人	造形の規範	単体	2014	石川県
384	醸造業	現役稼働	W	18	営利法人	造形の規範	複数	2009	石川県
385	醸造業	現役稼働	W	59	営利法人	造形の規範	複数	2009	石川県
386	醸造業	現役稼働	S	62	営利法人	歴史的景観	複数	2009	石川県
387	醸造業	現役稼働	W	178	営利法人	歴史的景観	複数	2009	石川県
388	醸造業	現役稼働	D	56	営利法人	歴史的景観	複数	2009	石川県
389	醸造業	現役稼働	W	69	営利法人	歴史的景観	複数	2009	石川県
390	醸造業	現役稼働	W	178	営利法人	造形の規範	複数	2009	石川県
391	醸造業	現役稼働	W	232	営利法人	造形の規範	複数	2009	石川県
392	醸造業	現役稼働	S	139	営利法人	歴史的景観	複数	2009	石川県
393	醸造業	現役稼働	W	84	営利法人	造形の規範	複数	2009	石川県
394	醸造業	現役稼働	W	46	営利法人	造形の規範	複数	2009	石川県
395	醸造業	現役稼働	W	205	営利法人	歴史的景観	複数	2015	福井県
396	醸造業	現役稼働	D	102	営利法人	歴史的景観	複数	2015	福井県
397	醸造業	現役稼働	W	197	営利法人	歴史的景観	複数	2015	福井県
398	醸造業	現役稼働	W	156	営利法人	歴史的景観	複数	2015	福井県
399	醸造業	現役稼働	W	49	営利法人	歴史的景観	複数	2015	福井県
400	醸造業	現役稼働	W	65	営利法人	歴史的景観	複数	2015	福井県

2. 登録文化財の産業遺産事例表（9／22）

ID	産業中分類	活用状況	主構造	面積	所有者属性	登録基準	登録形態	登録年	都道府県
401	醸造業	現役稼働	D	45	営利法人	歴史的景観	複数	2015	福井県
402	その他二次産業	転用	W	244	公共	造形の規範	単体	2008	福井県
403	醸造業	現役稼働	D	61	個人	歴史的景観	単体	2009	福井県
404	繊維業	転用	W	312	公共	造形の規範	単体	2000	福井県
405	その他二次産業	転用	B	513	公共	歴史的景観	複数	2009	福井県
406	その他二次産業	転用	B	513	公共	歴史的景観	複数	2009	福井県
407	醸造業	現役稼働	W	195	営利法人	歴史的景観	複数	2011	福井県
408	醸造業	現役稼働	W	54	営利法人	歴史的景観	複数	2011	福井県
409	醸造業	現役稼働	D	395	営利法人	歴史的景観	単体	2011	福井県
410	醸造業	現役稼働	D	146	営利法人	歴史的景観	複数	2001	福井県
411	醸造業	現役稼働	D	152	営利法人	歴史的景観	複数	2001	福井県
412	醸造業	現役稼働	W	398	営利法人	歴史的景観	複数	2001	福井県
413	醸造業	現役稼働	D	41	営利法人	歴史的景観	複数	2001	福井県
414	繊維業	転用	W	164	公共	歴史的景観	複数	1998	福井県
415	繊維業	転用	W	426	公共	歴史的景観	複数	1998	福井県
416	醸造業	現役稼働	W	103	営利法人	再現	単体	2016	山梨県
417	醸造業	活用なし	W	171	個人	歴史的景観	単体	2011	山梨県
418	醸造業	転用	D	250	営利法人	造形の規範	単体	2005	山梨県
419	繊維業	転用	D	145	公共	再現	単体	2003	長野県
420	繊維業	転用	W	292	公共	造形の規範	単体	2003	長野県
421	醸造業	現役稼働	W	35	営利法人	歴史的景観	複数	2007	長野県
422	醸造業	転用	D	59	営利法人	歴史的景観	複数	2007	長野県
423	醸造業	現役稼働	W	122	営利法人	歴史的景観	複数	2007	長野県
424	醸造業	現役稼働	D	93	営利法人	歴史的景観	複数	2007	長野県
425	醸造業	転用	D	162	営利法人	歴史的景観	複数	2007	長野県
426	醸造業	現役稼働	D	29	営利法人	歴史的景観	複数	2007	長野県
427	醸造業	現役稼働	D	185	営利法人	歴史的景観	複数	2007	長野県
428	第一次産業	不明	W	131	個人	歴史的景観	単体	2004	長野県
429	醸造業	現役稼働	D	272	営利法人	歴史的景観	複数	2011	長野県
430	醸造業	現役稼働	D	710	営利法人	歴史的景観	複数	2011	長野県
431	醸造業	現役稼働	W	262	営利法人	歴史的景観	複数	2011	長野県
432	繊維業	転用	W	316	公共	歴史的景観	複数	2005	長野県
433	繊維業	転用	W	14	公共	歴史的景観	複数	2005	長野県
434	第一次産業	転用	W	20	公共	歴史的景観	単体	2011	長野県
435	醸造業	転用	D	185	営利法人	歴史的景観	複数	2003	長野県
436	醸造業	転用	D	165	営利法人	歴史的景観	複数	2003	長野県
437	醸造業	転用	D	242	営利法人	歴史的景観	複数	2003	長野県
438	醸造業	転用	D	116	営利法人	歴史的景観	複数	2003	長野県
439	醸造業	転用	D	377	営利法人	歴史的景観	複数	2003	長野県
440	醸造業	転用	D	93	営利法人	歴史的景観	複数	2003	長野県
441	醸造業	現役稼働	D	55	営利法人	歴史的景観	複数	2003	長野県
442	醸造業	現役稼働	D	67	営利法人	歴史的景観	複数	2003	長野県
443	醸造業	現役稼働	D	140	営利法人	歴史的景観	複数	2003	長野県
444	醸造業	現役稼働	D	46	営利法人	歴史的景観	複数	2003	長野県
445	第一次産業	不明	W	83	個人	造形の規範	単体	2005	長野県
446	繊維業	不明	W	60	個人	歴史的景観	単体	2005	長野県
447	第一次産業	転用	D	417	公共	歴史的景観	単体	2012	長野県
448	醸造業	現役稼働	D	123	営利法人	歴史的景観	複数	2009	長野県
449	醸造業	現役稼働	D	1011	営利法人	歴史的景観	複数	2009	長野県
450	醸造業	現役稼働	W	250	営利法人	歴史的景観	複数	2009	長野県

2. 登録文化財の産業遺産事例表（10／22）

ID	産業中分類	活用状況	主構造	面積	所有者属性	登録基準	登録形態	登録年	都道府県
451	第一次産業	不明	W	764	営利法人	歴史的景観	単体	1997	長野県
452	その他二次産業	現役稼働	W	143	個人・グループ	造形の規範	複数	2000	長野県
453	その他二次産業	現役稼働	D	33	個人・グループ	造形の規範	複数	2000	長野県
454	醸造業	現役稼働	W	198	営利法人	歴史的景観	複数	2014	長野県
455	醸造業	現役稼働	D	529	営利法人	歴史的景観	複数	2014	長野県
456	醸造業	現役稼働	D	41	営利法人	歴史的景観	複数	2014	長野県
457	醸造業	現役稼働	D	31	営利法人	歴史的景観	複数	2014	長野県
458	醸造業	現役稼働	D	68	営利法人	歴史的景観	複数	2014	長野県
459	醸造業	現役稼働	D	58	営利法人	歴史的景観	複数	2014	長野県
460	醸造業	現役稼働	D	30	営利法人	歴史的景観	複数	2014	長野県
461	醸造業	現役稼働	D	87	営利法人	歴史的景観	単体	2014	長野県
462	醸造業	現役稼働	D	298	営利法人	歴史的景観	複数	2014	長野県
463	醸造業	現役稼働	D	67	営利法人	歴史的景観	複数	2014	長野県
464	醸造業	現役稼働	D	29	営利法人	歴史的景観	複数	2014	長野県
465	醸造業	現役稼働	D	149	営利法人	歴史的景観	複数	2014	長野県
466	醸造業	現役稼働	W	357	営利法人	歴史的景観	複数	2012	長野県
467	醸造業	現役稼働	D	25	営利法人	歴史的景観	複数	2012	長野県
468	醸造業	現役稼働	D	77	営利法人	歴史的景観	複数	2012	長野県
469	醸造業	不明	W	190	不明	歴史的景観	複数	2005	長野県
470	醸造業	不明	W	405	不明	歴史的景観	複数	2005	長野県
471	醸造業	不明	W	317	不明	歴史的景観	複数	2005	長野県
472	醸造業	不明	W	112	不明	歴史的景観	複数	2005	長野県
473	醸造業	不明	D	119	不明	歴史的景観	複数	2005	長野県
474	醸造業	現役稼働	D	33	営利法人	歴史的景観	単体	2000	長野県
475	醸造業	現役稼働	W	8.4	営利法人	歴史的景観	複数	2000	長野県
476	醸造業	現役稼働	D	505	営利法人	歴史的景観	複数	2000	長野県
477	醸造業	現役稼働	W	27	営利法人	再現	複数	2000	長野県
478	醸造業	現役稼働	W	79	営利法人	歴史的景観	複数	2000	長野県
479	醸造業	現役稼働	W	104	営利法人	歴史的景観	単体	2000	長野県
480	醸造業	現役稼働	W	210	営利法人	歴史的景観	複数	2000	長野県
481	醸造業	現役稼働	D	121	営利法人	造形の規範	複数	2000	長野県
482	醸造業	現役稼働	D	164	営利法人	再現	複数	2000	長野県
483	醸造業	現役稼働	D	185	営利法人	造形の規範	複数	2000	長野県
484	醸造業	現役稼働	W	28	営利法人	再現	複数	2000	長野県
485	醸造業	現役稼働	W	95	営利法人	歴史的景観	単体	2000	長野県
486	醸造業	現役稼働	D	244	営利法人	造形の規範	複数	2000	長野県
487	醸造業	現役稼働	D	139	営利法人	歴史的景観	複数	2007	岐阜県
488	醸造業	現役稼働	D	106	営利法人	歴史的景観	複数	2007	岐阜県
489	醸造業	現役稼働	D	118	営利法人	歴史的景観	複数	2007	岐阜県
490	醸造業	現役稼働	D	184	営利法人	再現	複数	2007	岐阜県
491	醸造業	現役稼働	D	335	営利法人	再現	複数	2007	岐阜県
492	第一次産業	活用なし	W	85	非営利団体	歴史的景観	単体	2013	岐阜県
493	醸造業	現役稼働	W	43	営利法人	歴史的景観	複数	2014	岐阜県
494	醸造業	現役稼働	W	78	営利法人	歴史的景観	複数	2014	岐阜県
495	醸造業	現役稼働	W	22	営利法人	歴史的景観	複数	2014	岐阜県
496	醸造業	現役稼働	W	262	営利法人	歴史的景観	複数	2014	岐阜県
497	醸造業	現役稼働	D	30	営利法人	歴史的景観	複数	2014	岐阜県
498	醸造業	現役稼働	D	308	営利法人	歴史的景観	複数	2014	岐阜県
499	醸造業	現役稼働	D	246	営利法人	歴史的景観	複数	2014	岐阜県
500	醸造業	現役稼働	D	361	営利法人	歴史的景観	複数	2011	岐阜県

2. 登録文化財の産業遺産事例表（11／22）

ID	産業中分類	活用状況	主構造	面積	所有者属性	登録基準	登録形態	登録年	都道府県
501	醸造業	現役稼働	D	398	営利法人	造形の規範	複数	2011	岐阜県
502	醸造業	現役稼働	W	154	営利法人	歴史的景観	複数	2008	岐阜県
503	醸造業	現役稼働	D	25	営利法人	歴史的景観	複数	2008	岐阜県
504	醸造業	現役稼働	W	66	営利法人	歴史的景観	複数	2008	岐阜県
505	醸造業	現役稼働	W	237	営利法人	造形の規範	単体	2016	岐阜県
506	醸造業	不明	D	133	個人	歴史的景観	単体	2005	岐阜県
507	醸造業	転用	B	86	営利法人	歴史的景観	単体	2014	岐阜県
508	その他二次産業	転用	B	79	非営利団体	歴史的景観	単体	2014	静岡県
509	繊維業	転用	W	129	個人・グループ	歴史的景観	複数	2013	静岡県
510	醸造業	活用なし	D	397	個人	歴史的景観	単体	2014	静岡県
511	繊維業	不明	W	165	個人・グループ	歴史的景観	複数	2013	静岡県
512	醸造業	現役稼働	W,RC	774	営利法人	歴史的景観	複数	2017	静岡県
513	醸造業	現役稼働	W	169	営利法人	造形の規範	複数	2017	静岡県
514	醸造業	現役稼働	W	64	営利法人	歴史的景観	複数	2017	静岡県
515	第一次産業	転用	W	103	個人	造形の規範	単体	2000	静岡県
516	その他二次産業	現役稼働	W	388	営利法人	造形の規範	単体	2004	愛知県
517	醸造業	現役稼働	D	759	営利法人	歴史的景観	単体	2005	愛知県
518	醸造業	不明	W	210	営利法人	歴史的景観	複数	2013	愛知県
519	醸造業	不明	W	29	営利法人	歴史的景観	複数	2013	愛知県
520	醸造業	不明	D	48	営利法人	歴史的景観	複数	2013	愛知県
521	醸造業	不明	W	69	営利法人	歴史的景観	複数	2013	愛知県
522	繊維業	転用	W	190	個人・グループ	歴史的景観	複数	2017	愛知県
523	繊維業	転用	W	61	個人・グループ	造形の規範	複数	2017	愛知県
524	繊維業	転用	W	90	個人・グループ	歴史的景観	複数	2017	愛知県
525	繊維業	転用	D	107	個人・グループ	歴史的景観	複数	2017	愛知県
526	繊維業	転用	D	78	個人・グループ	歴史的景観	複数	2017	愛知県
527	醸造業	現役稼働	D	384	営利法人	歴史的景観	単体	2005	愛知県
528	醸造業	不明	D	307	個人・グループ	歴史的景観	複数	2005	愛知県
529	醸造業	不明	D	150	個人・グループ	歴史的景観	複数	2005	愛知県
530	醸造業	現役稼働	W	195	公共	歴史的景観	複数	2014	愛知県
531	醸造業	現役稼働	D	58	公共	歴史的景観	複数	2014	愛知県
532	醸造業	現役稼働	D	202	営利法人	歴史的景観	複数	2016	愛知県
533	醸造業	現役稼働	D	87	営利法人	歴史的景観	複数	2016	愛知県
534	醸造業	転用	D	106	営利法人	歴史的景観	複数	2016	愛知県
535	醸造業	現役稼働	W	339	営利法人	造形の規範	複数	1996	愛知県
536	醸造業	転用	W	463	営利法人	歴史的景観	複数	1996	愛知県
537	醸造業	転用	WFB	784	公共	造形の規範	複数	2004	愛知県
538	醸造業	転用	B	636	公共	造形の規範	複数	2004	愛知県
539	醸造業	転用	B	1359	公共	造形の規範	複数	2004	愛知県
540	その他二次産業	転用	RC	2089	公共	造形の規範	単体	2008	愛知県
541	醸造業	転用	D	654	公共	再現	複数	2004	愛知県
542	醸造業	転用	W	155	公共	再現	複数	2003	愛知県
543	その他二次産業	転用	B	123	公共	造形の規範	複数	2004	愛知県
544	その他二次産業	転用	ST	463	公共	再現	複数	2003	愛知県
545	その他二次産業	転用	W	373	営利法人	歴史的景観	単体	1997	愛知県
546	醸造業	現役稼働	W	108	営利法人	歴史的景観	単体	2007	愛知県
547	醸造業	現役稼働	W	125	営利法人	歴史的景観	複数	2007	愛知県
548	醸造業	現役稼働	W	338	営利法人	歴史的景観	複数	2007	愛知県
549	醸造業	現役稼働	W	298	営利法人	歴史的景観	複数	2007	愛知県
550	醸造業	現役稼働	W	343	営利法人	歴史的景観	複数	2007	愛知県

2. 登録文化財の産業遺産事例表（12／22）

ID	産業中分類	活用状況	主構造	面積	所有者属性	登録基準	登録形態	登録年	都道府県
551	醸造業	現役稼働	W	46	営利法人	歴史的景観	複数	2007	愛知県
552	醸造業	現役稼働	W	147	営利法人	歴史的景観	複数	2007	愛知県
553	その他二次産業	現役稼働	WFC	100	営利法人	歴史的景観	単体	2010	三重県
554	その他二次産業	転用	RC	12	公共	歴史的景観	複数	2001	三重県
555	その他二次産業	転用	W	9	公共	造形の規範	複数	2001	三重県
556	醸造業	現役稼働	W	66	営利法人	歴史的景観	複数	1996	三重県
557	醸造業	現役稼働	W	655	営利法人	歴史的景観	複数	1996	三重県
558	醸造業	現役稼働	W	105	営利法人	歴史的景観	複数	1996	三重県
559	醸造業	現役稼働	W	480	営利法人	歴史的景観	複数	1996	三重県
560	醸造業	現役稼働	W	278	営利法人	歴史的景観	複数	1996	三重県
561	繊維業	転用	B	1072	営利法人	歴史的景観	単体	2000	三重県
562	繊維業	転用	B	1044	公共	歴史的景観	単体	2002	三重県
563	醸造業	現役稼働	W	166	営利法人	歴史的景観	複数	2013	三重県
564	醸造業	現役稼働	D	98	営利法人	歴史的景観	複数	2013	三重県
565	醸造業	現役稼働	D	49	営利法人	歴史的景観	複数	2013	三重県
566	醸造業	現役稼働	W	296	営利法人	歴史的景観	複数	2013	三重県
567	醸造業	現役稼働	W	72	営利法人	歴史的景観	複数	2013	三重県
568	醸造業	現役稼働	D	141	営利法人	歴史的景観	複数	2013	三重県
569	醸造業	現役稼働	D	566	営利法人	歴史的景観	複数	2013	三重県
570	醸造業	現役稼働	D	155	営利法人	歴史的景観	複数	2013	三重県
571	醸造業	現役稼働	D	50	営利法人	歴史的景観	複数	2013	三重県
572	醸造業	現役稼働	W	94	営利法人	歴史的景観	複数	2013	三重県
573	醸造業	現役稼働	D	39	営利法人	歴史的景観	複数	2013	三重県
574	醸造業	現役稼働	D	280	営利法人	歴史的景観	複数	2013	三重県
575	その他二次産業	現役稼働	D	55	営利法人	歴史的景観	複数	2015	三重県
576	その他二次産業	現役稼働	W	87	営利法人	歴史的景観	複数	2015	三重県
577	その他二次産業	現役稼働	W	233	営利法人	歴史的景観	複数	2015	三重県
578	その他二次産業	現役稼働	W	185	営利法人	歴史的景観	複数	2015	三重県
579	その他二次産業	現役稼働	D	20	営利法人	歴史的景観	複数	2015	三重県
580	その他二次産業	転用	W	149	営利法人	歴史的景観	単体	2015	三重県
581	その他二次産業	転用	W	70	営利法人	歴史的景観	複数	2011	三重県
582	その他二次産業	転用	W	156	営利法人	歴史的景観	複数	2015	三重県
583	その他二次産業	転用	W	105	営利法人	歴史的景観	複数	2015	三重県
584	その他二次産業	転用	W	59	営利法人	歴史的景観	複数	2015	三重県
585	その他二次産業	活用なし	W	119	営利法人	歴史的景観	複数	2015	三重県
586	その他二次産業	現役稼働	W	62	営利法人	歴史的景観	複数	2015	三重県
587	醸造業	転用	D	8.5	個人・グループ	歴史的景観	複数	2013	三重県
588	醸造業	転用	W	59	個人・グループ	歴史的景観	複数	2013	三重県
589	醸造業	現役稼働	W	163	個人・グループ	歴史的景観	複数	2013	三重県
590	醸造業	転用	D	46	個人・グループ	歴史的景観	複数	2013	三重県
591	醸造業	現役稼働	W	204	営利法人	再現	単体	1998	三重県
592	繊維業	現役稼働	W	206	個人・グループ	歴史的景観	複数	2015	三重県
593	繊維業	現役稼働	D	16	個人・グループ	歴史的景観	複数	2015	三重県
594	醸造業	現役稼働	W	250	営利法人	歴史的景観	単体	2013	三重県
595	醸造業	転用	W	149	営利法人	歴史的景観	単体	2008	三重県
596	その他二次産業	転用	W	117	公共	歴史的景観	複数	1999	滋賀県
597	その他二次産業	転用	D	27	公共	歴史的景観	複数	1999	滋賀県
598	その他二次産業	転用	B	112	個人・グループ	歴史的景観	複数	2005	滋賀県
599	その他二次産業	転用	B	50	個人・グループ	造形の規範	複数	2005	滋賀県
600	その他二次産業	転用	B	131	非営利団体	歴史的景観	単体	2005	滋賀県

2. 登録文化財の産業遺産事例表（13／22）

ID	産業中分類	活用状況	主構造	面積	所有者属性	登録基準	登録形態	登録年	都道府県
601	醸造業	現役稼働	W	188	個人	歴史的景観	単体	2000	滋賀県
602	その他二次産業	不明	W	59	個人	造形の規範	単体	2008	滋賀県
603	醸造業	現役稼働	W	47	営利法人	歴史的景観	複数	2008	滋賀県
604	醸造業	現役稼働	W	68	営利法人	歴史的景観	複数	2008	滋賀県
605	醸造業	現役稼働	D	220	営利法人	歴史的景観	複数	2008	滋賀県
606	醸造業	現役稼働	W	59	営利法人	歴史的景観	複数	2008	滋賀県
607	醸造業	転用	D	109	個人・グループ	造形の規範	複数	1999	滋賀県
608	醸造業	転用	D	28	個人・グループ	再現	複数	1999	滋賀県
609	醸造業	現役稼働	D	380	営利法人	歴史的景観	複数	2008	滋賀県
610	醸造業	現役稼働	W	90	営利法人	歴史的景観	複数	2008	滋賀県
611	醸造業	現役稼働	D	728	営利法人	歴史的景観	複数	2008	滋賀県
612	醸造業	不明	D	29	個人・グループ	歴史的景観	複数	1999	滋賀県
613	醸造業	転用	W	248	個人・グループ	歴史的景観	複数	1999	滋賀県
614	醸造業	転用	D	70	営利法人	歴史的景観	単体	2000	京都府
615	その他二次産業	転用	W	52	個人・グループ	歴史的景観	複数	2001	京都府
616	その他二次産業	転用	W	18	個人・グループ	歴史的景観	複数	2001	京都府
617	醸造業	現役稼働	W	80	営利法人	歴史的景観	複数	2013	京都府
618	醸造業	現役稼働	W	69	営利法人	歴史的景観	単体	2013	京都府
619	醸造業	転用	D	141	営利法人	歴史的景観	複数	2013	京都府
620	醸造業	現役稼働	D	1323	営利法人	歴史的景観	単体	2013	京都府
621	醸造業	現役稼働	W	255	営利法人	造形の規範	単体	2008	京都府
622	醸造業	現役稼働	B	117	営利法人	歴史的景観	単体	2013	京都府
623	その他二次産業	転用	B	346	営利法人	歴史的景観	単体	2012	京都府
624	醸造業	現役稼働	W	48	営利法人	歴史的景観	単体	2005	大阪府
625	その他二次産業	不明	W	214	不明	歴史的景観	単体	2003	大阪府
626	醸造業	不明	D	476	個人	歴史的景観	単体	2008	大阪府
627	その他二次産業	現役稼働	W	495	営利法人	歴史的景観	複数	2001	大阪府
628	その他二次産業	現役稼働	W	31	営利法人	歴史的景観	複数	2001	大阪府
629	その他二次産業	現役稼働	W	39	営利法人	歴史的景観	複数	2001	大阪府
630	その他二次産業	現役稼働	W	295	営利法人	歴史的景観	複数	2001	大阪府
631	醸造業	現役稼働	D	194	営利法人	歴史的景観	複数	2003	大阪府
632	醸造業	現役稼働	D	128	営利法人	歴史的景観	複数	2003	大阪府
633	醸造業	現役稼働	D	148	営利法人	歴史的景観	複数	2001	大阪府
634	醸造業	現役稼働	D	257	営利法人	歴史的景観	複数	2001	大阪府
635	醸造業	現役稼働	D	227	営利法人	歴史的景観	複数	2001	大阪府
636	醸造業	現役稼働	D	193	営利法人	歴史的景観	複数	2001	大阪府
637	その他二次産業	現役稼働	RC	313	非営利団体	造形の規範	単体	2001	大阪府
638	醸造業	現役稼働	W	100	個人	歴史的景観	単体	1999	大阪府
639	醸造業	転用	W	687	非営利団体	歴史的景観	単体	2008	兵庫県
640	醸造業	転用	D	678	営利法人	歴史的景観	複数	2013	兵庫県
641	醸造業	転用	D	264	営利法人	歴史的景観	複数	2013	兵庫県
642	醸造業	活用なし	D	323	営利法人	歴史的景観	複数	2013	兵庫県
643	醸造業	活用なし	D	202	営利法人	歴史的景観	複数	2013	兵庫県
644	醸造業	活用なし	D	269	営利法人	歴史的景観	複数	2013	兵庫県
645	醸造業	活用なし	D	862	営利法人	歴史的景観	複数	2013	兵庫県
646	繊維業	活用なし	W	143	営利法人	歴史的景観	複数	2017	兵庫県
647	繊維業	活用なし	W	451	営利法人	歴史的景観	複数	2017	兵庫県
648	繊維業	活用なし	W	66	営利法人	歴史的景観	複数	2017	兵庫県
649	繊維業	活用なし	W	64	営利法人	歴史的景観	複数	2017	兵庫県
650	繊維業	活用なし	W	347	営利法人	歴史的景観	複数	2017	兵庫県

2. 登録文化財の産業遺産事例表（14／22）

ID	産業中分類	活用状況	主構造	面積	所有者属性	登録基準	登録形態	登録年	都道府県
651	繊維業	活用なし	W	34	営利法人	歴史的景観	複数	2017	兵庫県
652	醸造業	転用	D	173	公共	歴史的景観	複数	2015	兵庫県
653	醸造業	転用	D	116	公共	歴史的景観	複数	2015	兵庫県
654	醸造業	転用	W	309	公共	歴史的景観	複数	2015	兵庫県
655	醸造業	転用	D	96	公共	歴史的景観	複数	2015	兵庫県
656	醸造業	転用	W	57	公共	歴史的景観	複数	2015	兵庫県
657	醸造業	転用	W	184	公共	造形の規範	複数	2016	兵庫県
658	醸造業	転用	W	190	公共	歴史的景観	複数	2016	兵庫県
659	その他二次産業	現役稼働	W	83	営利法人	歴史的景観	複数	2014	兵庫県
660	その他二次産業	現役稼働	W	85	営利法人	歴史的景観	複数	2014	兵庫県
661	その他二次産業	現役稼働	D	72	営利法人	歴史的景観	複数	2007	兵庫県
662	その他二次産業	現役稼働	W	122	営利法人	歴史的景観	複数	2007	兵庫県
663	醸造業	不明	W	65	個人	歴史的景観	単体	2004	兵庫県
664	その他二次産業	現役稼働	W	282	営利法人	造形の規範	単体	2003	兵庫県
665	醸造業	転用	D	96	営利法人	造形の規範	単体	2003	兵庫県
666	醸造業	転用	D	246	営利法人	歴史的景観	単体	2003	兵庫県
667	醸造業	不明	W	43	営利法人	歴史的景観	単体	2003	兵庫県
668	醸造業	転用	D	127	営利法人	歴史的景観	単体	2003	兵庫県
669	その他二次産業	現役稼働	RC	294	営利法人	造形の規範	単体	2014	兵庫県
670	繊維業	現役稼働	W	97	営利法人	歴史的景観	単体	2014	奈良県
671	その他二次産業	現役稼働	W	21	営利法人	歴史的景観	複数	1998	奈良県
672	その他二次産業	現役稼働	D	33	営利法人	歴史的景観	複数	1998	奈良県
673	その他二次産業	現役稼働	W	64	営利法人	歴史的景観	複数	1998	奈良県
674	その他二次産業	現役稼働	W	31	営利法人	歴史的景観	単体	1998	奈良県
675	その他二次産業	現役稼働	W	88	営利法人	歴史的景観	単体	1998	奈良県
676	その他二次産業	現役稼働	D	64	営利法人	歴史的景観	複数	1998	奈良県
677	その他二次産業	現役稼働	W	43	営利法人	歴史的景観	複数	1998	奈良県
678	その他二次産業	現役稼働	W	15	営利法人	歴史的景観	複数	1998	奈良県
679	その他二次産業	現役稼働	W	47	営利法人	歴史的景観	単体	1998	奈良県
680	その他二次産業	現役稼働	W	48	営利法人	歴史的景観	複数	1998	奈良県
681	その他二次産業	現役稼働	W	35	営利法人	歴史的景観	複数	1998	奈良県
682	その他二次産業	現役稼働	W	25	営利法人	歴史的景観	複数	1998	奈良県
683	その他二次産業	現役稼働	W	123	営利法人	歴史的景観	複数	1998	奈良県
684	その他二次産業	現役稼働	W	164	営利法人	歴史的景観	複数	1998	奈良県
685	その他二次産業	転用	W	215	個人	歴史的景観	単体	2007	奈良県
686	醸造業	現役稼働	W	203	営利法人	再現	複数	2001	奈良県
687	醸造業	現役稼働	D	178	営利法人	歴史的景観	複数	2001	奈良県
688	醸造業	現役稼働	D	109	営利法人	歴史的景観	複数	2001	奈良県
689	その他二次産業	不明	W	60	個人	歴史的景観	単体	2004	奈良県
690	醸造業	転用	D	386	個人・グループ	歴史的景観	複数	2018	和歌山県
691	醸造業	転用	D	205	個人・グループ	歴史的景観	複数	2018	和歌山県
692	醸造業	現役稼働	D	351	営利法人	歴史的景観	複数	2006	和歌山県
693	醸造業	現役稼働	D	363	営利法人	歴史的景観	複数	2006	和歌山県
694	醸造業	現役稼働	W	288	営利法人	歴史的景観	複数	2006	和歌山県
695	醸造業	現役稼働	W	376	営利法人	歴史的景観	複数	2006	和歌山県
696	第一次産業	不明	W	118	不明	歴史的景観	単体	2011	和歌山県
697	醸造業	現役稼働	W	127	営利法人	歴史的景観	複数	2014	和歌山県
698	醸造業	現役稼働	W	85	営利法人	歴史的景観	複数	2014	和歌山県
699	醸造業	現役稼働	W	72	営利法人	歴史的景観	複数	2014	和歌山県
700	醸造業	現役稼働	W	149	営利法人	歴史的景観	複数	2014	和歌山県

2. 登録文化財の産業遺産事例表（15／22）

ID	産業中分類	活用状況	主構造	面積	所有者属性	登録基準	登録形態	登録年	都道府県
701	醸造業	現役稼働	D	44	営利法人	歴史的景観	複数	2014	和歌山県
702	醸造業	現役稼働	D	110	営利法人	歴史的景観	複数	2001	鳥取県
703	醸造業	現役稼働	D	57	営利法人	歴史的景観	複数	2001	鳥取県
704	醸造業	活用なし	D	218	個人・グループ	造形の規範	複数	1998	鳥取県
705	醸造業	活用なし	D	237	個人・グループ	歴史的景観	複数	1998	鳥取県
706	醸造業	活用なし	D	62	個人・グループ	歴史的景観	複数	1998	鳥取県
707	醸造業	活用なし	W	360	個人・グループ	造形の規範	複数	1998	鳥取県
708	醸造業	活用なし	D	77	個人・グループ	歴史的景観	複数	1998	鳥取県
709	醸造業	活用なし	D	75	個人・グループ	歴史的景観	複数	1998	鳥取県
710	醸造業	活用なし	D	52	個人・グループ	歴史的景観	複数	1998	鳥取県
711	醸造業	不明	W	77	不明	歴史的景観	複数	2004	鳥取県
712	醸造業	不明	D	72	不明	歴史的景観	複数	2004	鳥取県
713	醸造業	不明	W	444	不明	歴史的景観	複数	2008	島根県
714	醸造業	不明	W	53	不明	歴史的景観	複数	2008	島根県
715	醸造業	不明	D	47	不明	歴史的景観	複数	2008	島根県
716	醸造業	不明	W	164	不明	造形の規範	複数	2008	島根県
717	醸造業	不明	D	27	不明	歴史的景観	複数	2008	島根県
718	醸造業	現役稼働	D	38	営利法人	歴史的景観	複数	2010	島根県
719	醸造業	現役稼働	D	191	営利法人	歴史的景観	複数	2010	島根県
720	醸造業	現役稼働	W	303	営利法人	造形の規範	複数	2010	島根県
721	醸造業	現役稼働	D	144	営利法人	歴史的景観	複数	2010	島根県
722	醸造業	現役稼働	D	27	営利法人	歴史的景観	複数	2010	島根県
723	醸造業	不明	W	350	不明	歴史的景観	複数	2010	島根県
724	醸造業	不明	D	26	不明	歴史的景観	複数	2010	島根県
725	醸造業	現役稼働	D	23	営利法人	歴史的景観	複数	2010	島根県
726	醸造業	現役稼働	D	165	営利法人	歴史的景観	複数	2010	島根県
727	醸造業	現役稼働	D	301	営利法人	歴史的景観	複数	2010	島根県
728	醸造業	現役稼働	D	197	営利法人	歴史的景観	複数	2010	島根県
729	醸造業	現役稼働	W	310	営利法人	歴史的景観	複数	2010	島根県
730	醸造業	現役稼働	D	316	営利法人	歴史的景観	複数	2012	島根県
731	醸造業	現役稼働	D	423	営利法人	歴史的景観	複数	2012	島根県
732	醸造業	現役稼働	W	102	営利法人	歴史的景観	複数	2012	島根県
733	醸造業	現役稼働	W	266	営利法人	歴史的景観	複数	2012	島根県
734	醸造業	現役稼働	D	236	営利法人	歴史的景観	複数	2012	島根県
735	醸造業	現役稼働	D	493	営利法人	歴史的景観	複数	2017	島根県
736	醸造業	現役稼働	W	43	営利法人	歴史的景観	複数	2017	島根県
737	醸造業	現役稼働	W	351	営利法人	造形の規範	単体	2017	島根県
738	醸造業	現役稼働	W	104	営利法人	歴史的景観	複数	2003	岡山県
739	醸造業	現役稼働	D	432	営利法人	歴史的景観	複数	2003	岡山県
740	醸造業	現役稼働	W	63	営利法人	歴史的景観	複数	2003	岡山県
741	醸造業	現役稼働	W	170	営利法人	歴史的景観	複数	2003	岡山県
742	醸造業	現役稼働	W	747	営利法人	歴史的景観	複数	2003	岡山県
743	醸造業	転用	D	313	営利法人	歴史的景観	複数	2003	岡山県
744	繊維業	活用なし	B	792	営利法人	歴史的景観	単体	1998	岡山県
745	繊維業	転用	W	257	公共	歴史的景観	単体	2000	岡山県
746	繊維業	転用	W	701	営利法人	歴史的景観	単体	1998	岡山県
747	醸造業	現役稼働	W	237	営利法人	歴史的景観	複数	2017	岡山県
748	醸造業	現役稼働	W	242	営利法人	歴史的景観	複数	2017	岡山県
749	醸造業	現役稼働	W	269	営利法人	歴史的景観	複数	2017	岡山県
750	醸造業	現役稼働	D	27	営利法人	歴史的景観	複数	2017	岡山県

2. 登録文化財の産業遺産事例表（16／22）

ID	産業中分類	活用状況	主構造	面積	所有者属性	登録基準	登録形態	登録年	都道府県
751	醸造業	現役稼働	D	52	営利法人	歴史的景観	複数	2017	岡山県
752	醸造業	現役稼働	W	170	営利法人	歴史的景観	単体	2007	岡山県
753	その他二次産業	現役稼働	W	417	営利法人	歴史的景観	複数	2016	広島県
754	その他二次産業	現役稼働	W	314	営利法人	歴史的景観	複数	2016	広島県
755	その他二次産業	活用なし	W	281	営利法人	歴史的景観	複数	2016	広島県
756	その他二次産業	活用なし	W	407	営利法人	歴史的景観	複数	2016	広島県
757	その他二次産業	活用なし	W	309	営利法人	歴史的景観	複数	2016	広島県
758	その他二次産業	現役稼働	W	1421	営利法人	歴史的景観	複数	2016	広島県
759	その他二次産業	現役稼働	W	521	営利法人	歴史的景観	複数	2016	広島県
760	その他二次産業	現役稼働	W	18	営利法人	歴史的景観	複数	2016	広島県
761	醸造業	現役稼働	D	355	営利法人	歴史的景観	複数	2016	広島県
762	醸造業	現役稼働	W	229	営利法人	歴史的景観	複数	2016	広島県
763	醸造業	現役稼働	D	199	営利法人	歴史的景観	単体	2016	広島県
764	醸造業	現役稼働	D	324	営利法人	歴史的景観	複数	2016	広島県
765	醸造業	現役稼働	D	159	営利法人	歴史的景観	複数	2016	広島県
766	醸造業	現役稼働	W	179	営利法人	歴史的景観	複数	2016	広島県
767	醸造業	現役稼働	D	16	営利法人	歴史的景観	複数	2016	広島県
768	醸造業	現役稼働	D	528	営利法人	歴史的景観	複数	2017	広島県
769	醸造業	現役稼働	D	175	営利法人	歴史的景観	複数	2017	広島県
770	醸造業	現役稼働	D	41	営利法人	歴史的景観	複数	2017	広島県
771	醸造業	現役稼働	D	31	営利法人	歴史的景観	複数	2017	広島県
772	醸造業	現役稼働	W	34	営利法人	歴史的景観	複数	2017	広島県
773	醸造業	現役稼働	D	918	営利法人	再現	複数	2017	広島県
774	醸造業	現役稼働	D	1099	営利法人	歴史的景観	複数	2017	広島県
775	醸造業	現役稼働	D	723	営利法人	歴史的景観	複数	2017	広島県
776	醸造業	現役稼働	D	625	営利法人	歴史的景観	複数	2017	広島県
777	醸造業	現役稼働	W	108	営利法人	歴史的景観	複数	2017	広島県
778	醸造業	現役稼働	D	642	営利法人	歴史的景観	複数	2016	広島県
779	醸造業	現役稼働	D	597	営利法人	歴史的景観	単体	2016	広島県
780	醸造業	現役稼働	W	18	営利法人	歴史的景観	複数	2016	広島県
781	醸造業	不明	W	298	個人	歴史的景観	単体	2017	広島県
782	醸造業	転用	W	10	公共	歴史的景観	複数	2011	広島県
783	醸造業	転用	D	34	公共	歴史的景観	複数	2011	広島県
784	醸造業	転用	W	282	公共	造形の規範	複数	2011	広島県
785	醸造業	転用	W	124	公共	歴史的景観	複数	2011	広島県
786	醸造業	現役稼働	D	207	営利法人	歴史的景観	複数	2016	広島県
787	醸造業	現役稼働	D	78	営利法人	歴史的景観	単体	2016	広島県
788	醸造業	現役稼働	D	179	営利法人	歴史的景観	複数	2016	広島県
789	醸造業	活用なし	D	28	営利法人	歴史的景観	単体	2017	広島県
790	醸造業	現役稼働	W	85	営利法人	歴史的景観	複数	2016	広島県
791	醸造業	現役稼働	D	221	営利法人	歴史的景観	複数	2016	広島県
792	醸造業	現役稼働	D	153	営利法人	歴史的景観	複数	2016	広島県
793	醸造業	現役稼働	W	155	営利法人	歴史的景観	複数	2016	広島県
794	醸造業	現役稼働	D	115	営利法人	歴史的景観	複数	2017	広島県
795	醸造業	現役稼働	D	505	営利法人	歴史的景観	複数	2017	広島県
796	醸造業	現役稼働	D	307	営利法人	歴史的景観	複数	2017	広島県
797	醸造業	現役稼働	D	121	営利法人	造形の規範	複数	2017	広島県
798	醸造業	転用	D	694	営利法人	歴史的景観	単体	2016	広島県
799	醸造業	現役稼働	D	785	営利法人	歴史的景観	複数	2016	広島県
800	醸造業	現役稼働	D	369	営利法人	歴史的景観	複数	2016	広島県

2. 登録文化財の産業遺産事例表（17／22）

ID	産業中分類	活用状況	主構造	面積	所有者属性	登録基準	登録形態	登録年	都道府県
801	醸造業	現役稼働	D	406	営利法人	歴史的景観	複数	2016	広島県
802	醸造業	現役稼働	W	147	営利法人	歴史的景観	複数	2016	広島県
803	醸造業	現役稼働	W	120	営利法人	歴史的景観	複数	2016	広島県
804	醸造業	現役稼働	W	138	営利法人	歴史的景観	複数	2016	広島県
805	醸造業	現役稼働	D	410	営利法人	歴史的景観	複数	2016	広島県
806	醸造業	現役稼働	W	209	営利法人	歴史的景観	複数	2016	広島県
807	醸造業	現役稼働	W	164	営利法人	歴史的景観	複数	2016	広島県
808	醸造業	現役稼働	W	85	営利法人	歴史的景観	複数	2016	広島県
809	醸造業	転用	W	272	公共	歴史的景観	単体	1999	山口県
810	その他二次産業	活用なし	RC	305	営利法人	再現	単体	2000	山口県
811	第一次産業	転用	B	234	営利法人	歴史的景観	単体	2013	山口県
812	醸造業	現役稼働	D	309	営利法人	歴史的景観	複数	2005	徳島県
813	醸造業	現役稼働	D	96	営利法人	歴史的景観	複数	2005	徳島県
814	醸造業	現役稼働	D	82	営利法人	歴史的景観	複数	2005	徳島県
815	その他二次産業	不明	D	58	個人・グループ	歴史的景観	複数	1999	徳島県
816	その他二次産業	不明	D	60	個人・グループ	歴史的景観	複数	1999	徳島県
817	その他二次産業	不明	W	121	個人・グループ	歴史的景観	複数	1999	徳島県
818	醸造業	転用	W	45	営利法人	歴史的景観	複数	1999	徳島県
819	醸造業	不明	W	188	営利法人	歴史的景観	複数	1999	徳島県
820	醸造業	転用	W	85	営利法人	歴史的景観	複数	1999	徳島県
821	第一次産業	不明	W	246	個人	再現	単体	2004	徳島県
822	醸造業	転用	W	437	営利法人	歴史的景観	単体	2010	徳島県
823	醸造業	現役稼働	W	151	営利法人	歴史的景観	単体	2002	徳島県
824	醸造業	現役稼働	D	248	営利法人	歴史的景観	複数	2002	徳島県
825	醸造業	現役稼働	D	223	営利法人	歴史的景観	複数	2002	徳島県
826	醸造業	現役稼働	W	54	営利法人	歴史的景観	複数	2002	徳島県
827	醸造業	現役稼働	D	169	営利法人	歴史的景観	複数	2002	徳島県
828	醸造業	現役稼働	W	62	営利法人	歴史的景観	複数	2003	香川県
829	醸造業	現役稼働	W	82	営利法人	歴史的景観	複数	2003	香川県
830	醸造業	現役稼働	W	105	営利法人	歴史的景観	複数	2003	香川県
831	醸造業	現役稼働	W	80	営利法人	歴史的景観	複数	2003	香川県
832	醸造業	現役稼働	W	180	営利法人	造形の規範	複数	2003	香川県
833	醸造業	現役稼働	W	162	営利法人	歴史的景観	複数	2003	香川県
834	醸造業	現役稼働	W	58	営利法人	歴史的景観	複数	2003	香川県
835	醸造業	現役稼働	W	70	営利法人	歴史的景観	複数	2003	香川県
836	醸造業	現役稼働	W	50	営利法人	歴史的景観	複数	2003	香川県
837	醸造業	現役稼働	W	50	営利法人	歴史的景観	複数	2003	香川県
838	醸造業	現役稼働	W	42	営利法人	歴史的景観	複数	2003	香川県
839	醸造業	現役稼働	W	234	営利法人	歴史的景観	複数	2003	香川県
840	醸造業	転用	W	219	個人・グループ	歴史的景観	複数	2005	香川県
841	醸造業	活用なし	W	20	個人・グループ	歴史的景観	複数	2005	香川県
842	第一次産業	転用	W	161	公共	歴史的景観	単体	2011	香川県
843	醸造業	転用	W	1083	営利法人	歴史的景観	複数	1996	香川県
844	醸造業	現役稼働	D	698	営利法人	歴史的景観	複数	2000	香川県
845	醸造業	現役稼働	D	952	営利法人	歴史的景観	複数	2000	香川県
846	醸造業	現役稼働	W	1462	営利法人	歴史的景観	複数	1996	香川県
847	醸造業	現役稼働	W	73	営利法人	歴史的景観	複数	2003	香川県
848	醸造業	現役稼働	W	56	営利法人	歴史的景観	複数	2002	香川県
849	醸造業	現役稼働	W	224	営利法人	歴史的景観	複数	2003	香川県
850	醸造業	現役稼働	W	92	営利法人	歴史的景観	単体	2006	香川県

2. 登録文化財の産業遺産事例表（18／22）

ID	産業中分類	活用状況	主構造	面積	所有者属性	登録基準	登録形態	登録年	都道府県
851	醸造業	現役稼働	W	85	営利法人	歴史的景観	複数	2003	香川県
852	醸造業	現役稼働	W	245	営利法人	歴史的景観	複数	2003	香川県
853	醸造業	現役稼働	D	241	営利法人	歴史的景観	複数	2002	香川県
854	醸造業	現役稼働	W	25	営利法人	歴史的景観	複数	2003	香川県
855	醸造業	現役稼働	D	546	営利法人	歴史的景観	複数	2002	香川県
856	醸造業	現役稼働	W	200	営利法人	歴史的景観	複数	2003	香川県
857	醸造業	現役稼働	W	220	営利法人	歴史的景観	複数	2003	香川県
858	醸造業	現役稼働	W	70	営利法人	歴史的景観	単体	2004	香川県
859	醸造業	現役稼働	D	131	営利法人	歴史的景観	複数	2003	香川県
860	醸造業	現役稼働	D	85	営利法人	歴史的景観	複数	2003	香川県
861	醸造業	現役稼働	D	318	営利法人	歴史的景観	複数	2006	香川県
862	醸造業	現役稼働	D	472	営利法人	歴史的景観	複数	2006	香川県
863	醸造業	現役稼働	W	33	営利法人	歴史的景観	複数	2006	香川県
864	醸造業	現役稼働	W	474	営利法人	歴史的景観	複数	2006	香川県
865	第一次産業	転用	W	146	公共	造形の規範	複数	1998	香川県
866	第一次産業	活用なし	W	108	公共	造形の規範	複数	1998	香川県
867	醸造業	現役稼働	W	216	営利法人	歴史的景観	単体	2005	香川県
868	醸造業	現役稼働	W	248	営利法人	歴史的景観	単体	2005	香川県
869	醸造業	活用なし	W	45	営利法人	歴史的景観	単体	2014	香川県
870	醸造業	活用なし	W	211	営利法人	歴史的景観	単体	2014	香川県
871	醸造業	転用	D	133	営利法人	歴史的景観	複数	2002	香川県
872	醸造業	転用	D	110	営利法人	歴史的景観	複数	2002	香川県
873	醸造業	現役稼働	D	99	営利法人	歴史的景観	複数	2004	香川県
874	醸造業	現役稼働	W	194	営利法人	歴史的景観	複数	2004	香川県
875	醸造業	現役稼働	W	217	営利法人	歴史的景観	複数	2003	香川県
876	醸造業	現役稼働	W	777	営利法人	歴史的景観	複数	2003	香川県
877	醸造業	現役稼働	W	319	営利法人	歴史的景観	単体	2004	香川県
878	醸造業	転用	D	491	個人	歴史的景観	単体	2004	香川県
879	醸造業	現役稼働	D	49	個人・グループ	歴史的景観	複数	2004	香川県
880	醸造業	現役稼働	W	144	営利法人	歴史的景観	複数	2004	香川県
881	醸造業	現役稼働	W	86	営利法人	歴史的景観	複数	2004	香川県
882	醸造業	現役稼働	W	115	営利法人	歴史的景観	複数	2004	香川県
883	醸造業	現役稼働	W	218	営利法人	造形の規範	複数	2004	香川県
884	醸造業	現役稼働	D	277	営利法人	歴史的景観	単体	2002	香川県
885	その他二次産業	不明	W	96	営利法人	歴史的景観	単体	2002	香川県
886	その他二次産業	現役稼働	W	30	営利法人	歴史的景観	複数	2002	香川県
887	その他二次産業	現役稼働	W	190	営利法人	歴史的景観	複数	2002	香川県
888	醸造業	現役稼働	W	324	営利法人	歴史的景観	複数	2005	香川県
889	醸造業	現役稼働	W	104	営利法人	歴史的景観	複数	2005	香川県
890	醸造業	現役稼働	W	74	営利法人	歴史的景観	複数	2005	香川県
891	醸造業	現役稼働	W	238	営利法人	歴史的景観	複数	2005	香川県
892	醸造業	不明	W	44	営利法人	歴史的景観	複数	2005	香川県
893	醸造業	不明	W	294	営利法人	歴史的景観	複数	2005	香川県
894	醸造業	不明	W	43	営利法人	歴史的景観	複数	2005	香川県
895	醸造業	転用	W	284	営利法人	歴史的景観	複数	2001	香川県
896	醸造業	不明	D	102	営利法人	歴史的景観	複数	2001	香川県
897	醸造業	不明	W	97	営利法人	歴史的景観	複数	2001	香川県
898	その他二次産業	転用	W	25	非営利団体	造形の規範	単体	2000	香川県
899	醸造業	転用	W	42	営利法人	歴史的景観	複数	2005	香川県
900	醸造業	不明	W	401	営利法人	歴史的景観	複数	2005	香川県

2. 登録文化財の産業遺産事例表（19／22）

ID	産業中分類	活用状況	主構造	面積	所有者属性	登録基準	登録形態	登録年	都道府県
901	醸造業	現役稼働	W	400	営利法人	歴史的景観	複数	2003	香川県
902	醸造業	現役稼働	D	42	営利法人	歴史的景観	複数	2003	香川県
903	醸造業	現役稼働	W	300	営利法人	造形の規範	複数	2003	香川県
904	醸造業	現役稼働	W	368	営利法人	造形の規範	複数	2003	香川県
905	醸造業	現役稼働	W	215	営利法人	歴史的景観	複数	2003	香川県
906	醸造業	現役稼働	W	139	営利法人	歴史的景観	複数	2003	香川県
907	醸造業	不明	W	86	個人	歴史的景観	単体	2005	香川県
908	醸造業	現役稼働	D	180	営利法人	歴史的景観	複数	2002	香川県
909	醸造業	現役稼働	D	400	営利法人	歴史的景観	複数	2002	香川県
910	醸造業	転用	W	149	営利法人	歴史的景観	単体	2002	香川県
911	醸造業	現役稼働	D	308	営利法人	歴史的景観	複数	2002	香川県
912	醸造業	現役稼働	W	61	個人・グループ	歴史的景観	複数	2004	香川県
913	醸造業	現役稼働	W	148	個人・グループ	歴史的景観	複数	2004	香川県
914	醸造業	現役稼働	W	103	個人・グループ	歴史的景観	複数	2004	香川県
915	醸造業	不明	W	182	個人	歴史的景観	単体	1997	香川県
916	醸造業	転用	RC	148	非営利団体	造形の規範	単体	2014	香川県
917	醸造業	現役稼働	W	922	営利法人	歴史的景観	単体	2003	香川県
918	醸造業	現役稼働	D	408	営利法人	歴史的景観	単体	2002	香川県
919	醸造業	現役稼働	D	242	営利法人	歴史的景観	複数	2002	香川県
920	醸造業	現役稼働	D	276	営利法人	歴史的景観	複数	2002	香川県
921	第一次産業	現役稼働	W	209	営利法人	歴史的景観	複数	1999	愛媛県
922	第一次産業	現役稼働	W	210	営利法人	歴史的景観	複数	1999	愛媛県
923	第一次産業	現役稼働	W	210	営利法人	歴史的景観	複数	1999	愛媛県
924	醸造業	現役稼働	D	113	営利法人	歴史的景観	単体	2002	愛媛県
925	醸造業	不明	W	252	不明	歴史的景観	単体	2003	愛媛県
926	醸造業	不明	W	145	不明	歴史的景観	複数	2017	愛媛県
927	醸造業	不明	W	274	不明	歴史的景観	複数	2017	愛媛県
928	醸造業	不明	W	225	不明	歴史的景観	複数	2017	愛媛県
929	醸造業	不明	W	266	不明	歴史的景観	複数	2017	愛媛県
930	醸造業	不明	W	324	不明	歴史的景観	複数	2017	愛媛県
931	醸造業	現役稼働	W	260	個人	歴史的景観	単体	2016	愛媛県
932	醸造業	不明	W	231	営利法人	歴史的景観	単体	2001	愛媛県
933	醸造業	現役稼働	W	157	営利法人	歴史的景観	複数	2004	愛媛県
934	醸造業	現役稼働	W	767	営利法人	歴史的景観	複数	2004	愛媛県
935	醸造業	現役稼働	W	89	営利法人	歴史的景観	複数	2004	愛媛県
936	醸造業	転用	W	217	公共	歴史的景観	単体	2015	高知県
937	醸造業	転用	D	98	公共	歴史的景観	複数	2004	高知県
938	醸造業	不明	D	189	公共	歴史的景観	複数	2004	高知県
939	醸造業	転用	W	55	公共	歴史的景観	複数	2004	高知県
940	醸造業	転用	D	128	公共	歴史的景観	複数	2004	高知県
941	醸造業	現役稼働	D	113	営利法人	造形の規範	複数	2003	高知県
942	醸造業	現役稼働	D	61	営利法人	歴史的景観	複数	2003	高知県
943	醸造業	現役稼働	D	107	営利法人	歴史的景観	複数	2003	高知県
944	その他二次産業	不明	W	35	不明	歴史的景観	単体	2003	高知県
945	第一次産業	不明	W	99	不明	歴史的景観	複数	2004	高知県
946	第一次産業	不明	W	21	不明	歴史的景観	複数	2004	高知県
947	第一次産業	不明	D	88	営利法人	再現	単体	2000	高知県
948	繊維業	転用	D	190	営利法人	歴史的景観	単体	2000	高知県
949	繊維業	現役稼働	D	18	個人	歴史的景観	単体	2007	高知県
950	醸造業	不明	D	193	個人	再現	単体	2003	高知県

2. 登録文化財の産業遺産事例表（20／22）

ID	産業中分類	活用状況	主構造	面積	所有者属性	登録基準	登録形態	登録年	都道府県
951	醸造業	不明	W	167	不明	歴史的景観	複数	2000	高知県
952	醸造業	不明	D	83	不明	再現	複数	2000	高知県
953	醸造業	現役稼働	W	347	営利法人	歴史的景観	単体	2015	高知県
954	醸造業	現役稼働	D	123	営利法人	歴史的景観	複数	2015	福岡県
955	醸造業	現役稼働	D	23	営利法人	歴史的景観	複数	2015	福岡県
956	醸造業	現役稼働	W	44	営利法人	歴史的景観	複数	2015	福岡県
957	醸造業	現役稼働	D	19	営利法人	歴史的景観	複数	2015	福岡県
958	醸造業	現役稼働	W	38	営利法人	歴史的景観	複数	2015	福岡県
959	醸造業	現役稼働	D	199	営利法人	歴史的景観	複数	2015	福岡県
960	醸造業	現役稼働	D	272	営利法人	歴史的景観	複数	2015	福岡県
961	醸造業	現役稼働	W	404	営利法人	歴史的景観	複数	2015	福岡県
962	醸造業	転用	B	232	公共	歴史的景観	単体	2007	福岡県
963	醸造業	転用	B	1180	公共	歴史的景観	複数	2007	福岡県
964	醸造業	転用	B	108	個人・グループ	歴史的景観	複数	2007	福岡県
965	醸造業	転用	B	1050	個人・グループ	再現	複数	2007	福岡県
966	第一次産業	転用	B	223	非営利団体	歴史的景観	単体	2008	福岡県
967	繊維業	活用なし	W	202	営利法人	歴史的景観	単体	2015	福岡県
968	繊維業	転用	W	156	公共	造形の規範	単体	2007	福岡県
969	鉱業	転用	B	297	営利法人	歴史的景観	単体	1997	福岡県
970	醸造業	現役稼働	W	190	営利法人	歴史的景観	単体	2015	福岡県
971	醸造業	転用	W	380	個人・グループ	歴史的景観	複数	2015	福岡県
972	醸造業	転用	W	59	個人・グループ	歴史的景観	複数	2015	福岡県
973	醸造業	現役稼働	W	204	営利法人	歴史的景観	複数	2011	福岡県
974	醸造業	転用	W	974	営利法人	歴史的景観	複数	2011	福岡県
975	醸造業	転用	W	429	営利法人	歴史的景観	複数	2011	福岡県
976	醸造業	現役稼働	B	45	営利法人	歴史的景観	複数	2000	福岡県
977	醸造業	現役稼働	B	70	営利法人	歴史的景観	複数	2000	福岡県
978	醸造業	現役稼働	B	62	営利法人	歴史的景観	複数	2000	福岡県
979	醸造業	転用	D	483	営利法人	歴史的景観	複数	2004	佐賀県
980	醸造業	転用	D	591	営利法人	歴史的景観	複数	2004	佐賀県
981	醸造業	現役稼働	W	77	営利法人	歴史的景観	複数	2002	佐賀県
982	醸造業	現役稼働	B	5.3	営利法人	歴史的景観	複数	2002	佐賀県
983	醸造業	現役稼働	W	47	営利法人	歴史的景観	複数	2002	佐賀県
984	醸造業	現役稼働	W	96	営利法人	歴史的景観	複数	2002	佐賀県
985	醸造業	現役稼働	W	20	営利法人	歴史的景観	複数	2002	佐賀県
986	醸造業	現役稼働	W	67	営利法人	歴史的景観	複数	2002	佐賀県
987	醸造業	現役稼働	W	140	営利法人	歴史的景観	複数	2002	佐賀県
988	醸造業	転用	W	431	営利法人	歴史的景観	複数	2002	佐賀県
989	醸造業	現役稼働	W	112	営利法人	歴史的景観	複数	2002	佐賀県
990	その他二次産業	転用	W	72	営利法人	歴史的景観	単体	1997	佐賀県
991	醸造業	活用なし	D	37	営利法人	歴史的景観	複数	2006	佐賀県
992	醸造業	活用なし	D	409	営利法人	歴史的景観	複数	2006	佐賀県
993	醸造業	活用なし	D	169	営利法人	歴史的景観	複数	2006	佐賀県
994	醸造業	活用なし	D	203	営利法人	歴史的景観	複数	2006	佐賀県
995	醸造業	現役稼働	D	1253	営利法人	歴史的景観	複数	2003	佐賀県
996	醸造業	現役稼働	D	1716	営利法人	歴史的景観	複数	2003	佐賀県
997	醸造業	現役稼働	D	665	営利法人	歴史的景観	複数	2013	佐賀県
998	醸造業	現役稼働	W	315	営利法人	歴史的景観	複数	2013	佐賀県
999	醸造業	現役稼働	RC	477	営利法人	歴史的景観	複数	2013	佐賀県
1000	醸造業	現役稼働	B	78	営利法人	歴史的景観	複数	2013	佐賀県

2. 登録文化財の産業遺産事例表（21／22）

ID	産業中分類	活用状況	主構造	面積	所有者属性	登録基準	登録形態	登録年	都道府県
1001	醸造業	現役稼働	D	113	営利法人	歴史的景観	複数	2013	佐賀県
1002	醸造業	現役稼働	W	561	営利法人	歴史的景観	複数	2013	佐賀県
1003	醸造業	現役稼働	W	49	営利法人	歴史的景観	複数	2013	佐賀県
1004	醸造業	不明	D	365	営利法人	歴史的景観	複数	2006	佐賀県
1005	醸造業	不明	B	49	営利法人	歴史的景観	複数	2006	佐賀県
1006	醸造業	不明	D	151	営利法人	歴史的景観	複数	2006	佐賀県
1007	醸造業	現役稼働	W	522	営利法人	歴史的景観	複数	2004	佐賀県
1008	醸造業	現役稼働	B	49	営利法人	歴史的景観	複数	2004	佐賀県
1009	醸造業	転用	W	128	営利法人	歴史的景観	複数	2004	佐賀県
1010	醸造業	転用	W	127	営利法人	歴史的景観	複数	2006	佐賀県
1011	醸造業	現役稼働	B	81	営利法人	歴史的景観	複数	2006	佐賀県
1012	醸造業	現役稼働	D	204	営利法人	歴史的景観	複数	2006	佐賀県
1013	醸造業	現役稼働	D	389	営利法人	歴史的景観	複数	2006	佐賀県
1014	醸造業	現役稼働	D	281	営利法人	歴史的景観	複数	2006	佐賀県
1015	醸造業	転用	D	580	営利法人	歴史的景観	単体	2014	長崎県
1016	醸造業	現役稼働	W	266	営利法人	造形の規範	単体	2008	長崎県
1017	醸造業	転用	D	197	営利法人	歴史的景観	単体	2003	長崎県
1018	その他二次産業	転用	W	213	営利法人	歴史的景観	複数	2012	長崎県
1019	その他二次産業	転用	W	309	営利法人	歴史的景観	複数	2012	長崎県
1020	その他二次産業	転用	W	124	営利法人	歴史的景観	複数	2012	長崎県
1021	醸造業	現役稼働	W	491	営利法人	歴史的景観	単体	2006	長崎県
1022	醸造業	現役稼働	W	95	営利法人	歴史的景観	複数	2006	長崎県
1023	醸造業	現役稼働	W	266	営利法人	歴史的景観	複数	2006	長崎県
1024	醸造業	現役稼働	W	319	営利法人	歴史的景観	複数	2006	長崎県
1025	醸造業	現役稼働	W	283	営利法人	歴史的景観	複数	2006	長崎県
1026	醸造業	現役稼働	B	74	営利法人	歴史的景観	複数	2002	長崎県
1027	醸造業	現役稼働	D	264	営利法人	歴史的景観	複数	2002	長崎県
1028	醸造業	現役稼働	D	147	営利法人	歴史的景観	複数	2002	長崎県
1029	醸造業	現役稼働	B	141	営利法人	歴史的景観	複数	2002	長崎県
1030	醸造業	現役稼働	D	125	営利法人	歴史的景観	複数	2002	長崎県
1031	繊維業	転用	W	119	個人	造形の規範	単体	2004	熊本県
1032	醸造業	不明	W	305	不明	歴史的景観	単体	2015	熊本県
1033	第一次産業	現役稼働	S	177	公共	造形の規範	単体	1998	熊本県
1034	繊維業	転用	RC	118	公共	造形の規範	単体	2004	熊本県
1035	第一次産業	転用	S	166	公共	歴史的景観	複数	2009	熊本県
1036	第一次産業	転用	S	166	公共	歴史的景観	複数	2009	熊本県
1037	第一次産業	転用	S	166	公共	歴史的景観	複数	2009	熊本県
1038	醸造業	不明	D	69	営利法人	歴史的景観	複数	2007	熊本県
1039	醸造業	不明	D	120	営利法人	歴史的景観	複数	2007	熊本県
1040	醸造業	不明	S	63	営利法人	歴史的景観	複数	2007	熊本県
1041	醸造業	転用	D	218	営利法人	歴史的景観	複数	2007	熊本県
1042	醸造業	不明	D	108	不明	歴史的景観	単体	2003	大分県
1043	醸造業	現役稼働	W	454	営利法人	歴史的景観	複数	2016	大分県
1044	醸造業	現役稼働	W	373	営利法人	歴史的景観	複数	2016	大分県
1045	醸造業	現役稼働	W	78	営利法人	歴史的景観	複数	2008	大分県
1046	醸造業	現役稼働	W	193	営利法人	造形の規範	複数	2008	大分県
1047	醸造業	現役稼働	W	79	営利法人	歴史的景観	複数	1998	大分県
1048	醸造業	現役稼働	W	40	営利法人	歴史的景観	複数	1998	大分県
1049	醸造業	現役稼働	W	1123	営利法人	歴史的景観	複数	1998	大分県
1050	醸造業	現役稼働	W	687	営利法人	歴史的景観	複数	1998	大分県

2. 登録文化財の産業遺産事例表（22／22）

ID	産業中分類	活用状況	主構造	面積	所有者属性	登録基準	登録形態	登録年	都道府県
1051	醸造業	現役稼働	D	171	営利法人	歴史的景観	複数	1998	大分県
1052	醸造業	現役稼働	W	220	営利法人	歴史的景観	複数	1998	大分県
1053	醸造業	現役稼働	W	50	営利法人	歴史的景観	複数	1998	大分県
1054	醸造業	現役稼働	D	198	営利法人	歴史的景観	複数	1998	大分県
1055	第一次産業	転用	D	626	公共	歴史的景観	複数	2010	大分県
1056	第一次産業	転用	D	89	公共	歴史的景観	複数	2010	大分県
1057	第一次産業	転用	D	640	公共	歴史的景観	単体	2010	大分県
1058	醸造業	現役稼働	W	235	個人・グループ	歴史的景観	複数	2015	大分県
1059	醸造業	転用	D	121	個人・グループ	歴史的景観	複数	2015	大分県
1060	醸造業	現役稼働	D	34	個人・グループ	歴史的景観	複数	2015	大分県
1061	醸造業	現役稼働	W	256	営利法人	歴史的景観	複数	1997	大分県
1062	醸造業	現役稼働	W	368	営利法人	再現	複数	1997	大分県
1063	その他二次産業	転用	W	401	営利法人	歴史的景観	単体	1999	大分県
1064	その他二次産業	現役稼働	S	106	営利法人	歴史的景観	複数	1999	大分県
1065	その他二次産業	現役稼働	D	41	営利法人	歴史的景観	複数	1999	大分県
1066	鉱業	転用	W	350	公共	造形の規範	単体	2001	宮崎県
1067	第一次産業	現役稼働	S	319	非営利団体	歴史的景観	単体	2007	鹿児島県
1068	第一次産業	転用	W	178	営利法人	造形の規範	単体	1999	鹿児島県
1069	鉱業	転用	W	158	営利法人	造形の規範	単体	1999	鹿児島県
1070	第一次産業	現役稼働	W	6	公共	造形の規範	複数	2009	鹿児島県
1071	第一次産業	現役稼働	W	5.7	公共	造形の規範	複数	2009	鹿児島県
1072	第一次産業	現役稼働	W	4.8	公共	造形の規範	複数	2009	鹿児島県
1073	鉱業	現役稼働	S	188	営利法人	歴史的景観	単体	2008	鹿児島県
1074	第一次産業	転用	RC	116	公共	造形の規範	単体	2001	鹿児島県
1075	醸造業	転用	S	65	営利法人	歴史的景観	単体	2007	鹿児島県
1076	醸造業	転用	S	222	営利法人	歴史的景観	単体	2001	鹿児島県
1077	鉱業	転用	S	712	公共	歴史的景観	単体	2005	沖縄県

3. 登録文化財の産業遺産の転用事例表（1／8）

所有者属性の営利法人（新）は、転用時に所有者・事業者の変更を伴う場合を指す。

ID	所有者属性	用途			建築物		
		具体例	項目		規模		
			公開状況	営利活動状況	階数	面積(m ²)	面積規模
1	公共	博物館	公開	営利活動なし	平屋建	231	中小規模
2	営利法人	産業に関する展示	公開	営利活動なし	平屋建	199	中小規模
3	営利法人	産業に関する展示	公開	営利活動なし	2階建以上	114	中小規模
4	営利法人	記念館	公開	営利活動なし	2階建以上	200	中小規模
5	営利法人	多目的ホール	限定公開	営利活動なし	平屋建	568	大規模
6	営利法人(新)	コーヒータイクアウト	公開	営利活動あり	平屋建	36	中小規模
7	公共	郷土館	限定公開	営利活動なし	平屋建	109	中小規模
8	公共	イベントスペース	限定公開	営利活動なし	2階建以上	255	中小規模
9	公共	未定	限定公開	営利活動なし	2階建以上	744	大規模
10	営利法人(新)	郷土料理	公開	営利活動あり	2階建以上	135	中小規模
11	営利法人(新)	見学	限定公開	営利活動なし	2階建以上	368	中大規模
12	営利法人(新)	見学	限定公開	営利活動なし	平屋建	51	中小規模
13	営利法人(新)	見学	限定公開	営利活動なし	2階建以上	312	中大規模
14	営利法人(新)	見学	限定公開	営利活動なし	2階建以上	579	大規模
15	営利法人(新)	見学	限定公開	営利活動なし	2階建以上	491	大規模
16	営利法人	イベントスペース	限定公開	営利活動なし	2階建以上	240	中小規模
17	営利法人	イベントスペース	限定公開	営利活動なし	2階建以上	472	大規模
18	公共	イベントホール	限定公開	営利活動なし	平屋建	360	中大規模
19	公共	産業に関する博物館	公開	営利活動なし	2階建以上	735	大規模
20	公共	産業見学施設兼美術館	公開	営利活動なし	平屋建	751	大規模
21	営利法人	ビール付き工場見学	限定公開	営利活動あり	平屋建	138	中小規模
22	営利法人	ホール	限定公開	営利活動なし	平屋建	178	中小規模
23	営利法人	レストラン	限定公開	営利活動あり	平屋建	295	中大規模
24	営利法人	産業に関する博物館	公開	営利活動なし	2階建以上	483	大規模
25	営利法人	生産物販売	公開	営利活動あり	平屋建	201	中小規模
26	営利法人	カフェ	公開	営利活動あり	2階建以上	114	中小規模
27	営利法人	史料館	公開	営利活動なし	平屋建	153	中小規模
28	営利法人	ホール、団体用食事処	限定公開	営利活動あり	平屋建	110	中小規模
29	営利法人	展示、試飲、休憩	公開	営利活動なし	平屋建	94	中小規模
30	個人・グループ	事務所	非公開	営利活動あり	2階建以上	223	中大規模

建築物		敷地		立地		住所	転用 開始年	ID
特有性		施設残存 状況	接道状況	駅からの 距離(km)	周辺環境			
空間	主構造							
非一層	木造	単体	接道あり	0.63	集客・住宅地以外	北海道札幌市	1964	1
非一層	木造	他稼働施設	接道あり	0.55	集客・住宅地以外	北海道夕張郡	不明	2
一層	歴史感	他稼働施設	接道あり	0.53	集客・住宅地以外	北海道夕張郡	不明	3
非一層	歴史感	他稼働施設	接道あり	0.52	集客・住宅地以外	北海道夕張郡	1996	4
一層	木造	他稼働施設	接道なし	0.65	集客・住宅地以外	北海道夕張郡	1999	5
非一層	歴史感	単体	接道あり	1.89	住宅地	北海道札幌市	1984	6
一層	木造	単体	接道なし	42.39	住宅地	北海道標津郡	1983	7
非一層	歴史感	他稼働施設	接道なし	40.50	住宅地	北海道標津郡	2003	8
非一層	木造	他非稼働施設	接道なし	1.60	住宅地	北海道江別市	2001	9
非一層	木造	単体	接道あり	0.62	集客地	青森県八戸市	1998	10
非一層	木造	他稼働施設	接道なし	1.61	集客・住宅地以外	青森県上北郡	2013	11
非一層	木造	他稼働施設	接道なし	1.70	集客・住宅地以外	青森県上北郡	2013	12
非一層	木造	他稼働施設	接道なし	1.90	集客・住宅地以外	青森県上北郡	2013	13
非一層	木造	他稼働施設	接道なし	1.94	集客・住宅地以外	青森県上北郡	2013	14
非一層	木造	他稼働施設	接道なし	1.65	集客・住宅地以外	青森県上北郡	2013	15
一層	土蔵造	他稼働施設	接道あり	0.42	住宅地	青森県八戸市	不明	16
一層	歴史感	他稼働施設	接道あり	0.38	住宅地	青森県八戸市	2011	17
一層	土蔵造	他非稼働施設	接道なし	1.27	集客・住宅地以外	岩手県一関市	2005	18
非一層	歴史感	他非稼働施設	接道なし	0.63	集客・住宅地以外	岩手県釜石市	2009	19
一層	木造	他非稼働施設	接道あり	0.24	集客・住宅地以外	岩手県一関市	不明	20
一層	歴史感	他稼働施設	接道なし	0.72	集客・住宅地以外	岩手県一関市	不明	21
一層	歴史感	他稼働施設	接道なし	0.71	集客・住宅地以外	岩手県一関市	不明	22
非一層	木造	他稼働施設	接道なし	0.72	集客・住宅地以外	岩手県一関市	不明	23
一層	土蔵造	他稼働施設	接道なし	0.71	集客・住宅地以外	岩手県一関市	不明	24
一層	歴史感	他稼働施設	接道あり	0.68	集客・住宅地以外	岩手県一関市	不明	25
非一層	土蔵造	他稼働施設	接道あり	0.68	集客・住宅地以外	岩手県一関市	2009	26
一層	土蔵造	他稼働施設	接道あり	4.85	住宅地	宮城県登米市	1992	27
一層	土蔵造	他稼働施設	接道あり	4.85	住宅地	宮城県登米市	不明	28
非一層	木造	他稼働施設	接道なし	0.92	集客・住宅地以外	宮城県気仙沼市	2019	29
非一層	木造	単体	接道あり	0.81	住宅地	秋田県秋田市	不明	30

3. 登録文化財の産業遺産の転用事例表（2／8）

ID	所有者属性	用途			建築物		
		具体例	項目		規模		
			公開状況	営利活動状況	階数	面積(㎡)	面積規模
31	個人・グループ	車庫	非公開	営利活動あり	平屋建	240	中大規模
32	公共	カフェ	公開	営利活動あり	平屋建	95	中小規模
33	営利法人	ギャラリー	限定公開	営利活動なし	平屋建	90	中小規模
34	公共	大学書庫	非公開	営利活動なし	平屋建	660	中大規模
35	公共	大学	非公開	営利活動なし	平屋建	660	中大規模
36	公共	大学	非公開	営利活動なし	平屋建	660	中大規模
37	公共	大学	非公開	営利活動なし	平屋建	660	中大規模
38	公共	大学内市民ギャラリー	公開	営利活動なし	平屋建	660	中大規模
39	公共	大学内工芸体験	限定公開	営利活動なし	平屋建	660	中大規模
40	公共	大学内ホール	公開	営利活動なし	平屋建	660	中大規模
41	公共	図書館	公開	営利活動なし	平屋建	660	中大規模
42	営利法人	イベント	限定公開	営利活動なし	平屋建	166	中小規模
43	営利法人	見学	公開	営利活動あり	2階建以上	190	中小規模
44	営利法人(新)	見学	限定公開	営利活動なし	平屋建	174	中小規模
45	営利法人(新)	貸しスペース・飲食	限定公開	営利活動あり	平屋建	234	中小規模
46	営利法人(新)	見学	限定公開	営利活動なし	平屋建	81	中小規模
47	個人・グループ	要予約見学	限定公開	営利活動なし	2階建以上	341	中大規模
48	営利法人	衣服セレクトショップ	公開	営利活動あり	2階建以上	434	中大規模
49	営利法人	雑貨販売、飲食	公開	営利活動あり	平屋建	359	中大規模
50	公共	ホール	限定公開	営利活動なし	2階建以上	581	中大規模
51	公共	イベントスペース	限定公開	営利活動なし	2階建以上	292	中小規模
52	公共	産業・民話の博物館	公開	営利活動なし	2階建以上	263	中小規模
53	営利法人(新)	販売	公開	営利活動あり	2階建以上	56	中小規模
54	営利法人(新)	飲食	公開	営利活動あり	2階建以上	71	中小規模
55	公共	産業に関する博物館	公開	営利活動なし	平屋建	281	中小規模
56	公共	観光施設・物販・体験	公開	営利活動あり	2階建以上	176	中小規模
57	公共	ホール	限定公開	営利活動なし	2階建以上	795	大規模
58	営利法人	スポーツクラブ	限定公開	営利活動あり	平屋建	530	大規模
59	営利法人	予約制展示	限定公開	営利活動なし	平屋建	231	中小規模
60	営利法人	予約制展示	限定公開	営利活動なし	2階建以上	476	大規模
61	営利法人	生産物直売所	公開	営利活動あり	平屋建	239	中小規模
62	営利法人	産業に関する博物館	限定公開	営利活動なし	平屋建	100	中小規模
63	営利法人	販売	公開	営利活動あり	平屋建	170	中小規模
64	個人・グループ	趣味の博物館	限定公開	営利活動なし	平屋建	884	大規模
65	営利法人	生産物販売	公開	営利活動あり	2階建以上	216	中小規模
66	営利法人(新)	パン屋・カフェ	公開	営利活動あり	平屋建	298	中大規模
67	公共	ホール	限定公開	営利活動なし	2階建以上	236	中小規模
68	営利法人(新)	美容室	公開	営利活動あり	平屋建	207	中小規模
69	公共	イベントホール	限定公開	営利活動なし	2階建以上	524	中大規模
70	公共	週末マルシェ	限定公開	営利活動あり	2階建以上	232	中小規模

建築物		敷地		立地		住所	転用 開始年	ID
特有性		施設残存 状況	接道状況	駅からの 距離(km)	周辺環境			
空間	主構造							
一層	木造	単体	接道あり	0.57	集客・住宅地以外	秋田県仙北市	不明	31
一層	歴史感	他非稼働施設	接道なし	7.53	住宅地	秋田県鹿角郡	2015	32
一層	土蔵造	他稼働施設	接道あり	1.19	住宅地	秋田県由利本荘市	1998	33
一層	木造	他非稼働施設	接道なし	0.81	住宅地	秋田県秋田市	1995	34
一層	木造	他非稼働施設	接道なし	0.77	住宅地	秋田県秋田市	1995	35
一層	木造	他非稼働施設	接道なし	0.79	住宅地	秋田県秋田市	1995	36
一層	木造	他非稼働施設	接道なし	0.71	住宅地	秋田県秋田市	1995	37
一層	木造	他非稼働施設	接道なし	0.74	住宅地	秋田県秋田市	1995	38
一層	木造	他非稼働施設	接道なし	0.76	住宅地	秋田県秋田市	1995	39
一層	木造	他非稼働施設	接道なし	0.73	住宅地	秋田県秋田市	1995	40
一層	木造	他非稼働施設	接道なし	0.70	住宅地	秋田県秋田市	1998	41
一層	土蔵造	他稼働施設	接道あり	1.51	住宅地	秋田県秋田市	不明	42
非一層	土蔵造	他稼働施設	接道なし	2.76	集客地	秋田県横手市	不明	43
一層	土蔵造	他非稼働施設	接道あり	2.56	集客地	秋田県横手市	不明	44
一層	土蔵造	他非稼働施設	接道あり	2.58	集客地	秋田県横手市	不明	45
一層	土蔵造	他非稼働施設	接道なし	2.56	集客地	秋田県横手市	不明	46
一層	土蔵造	他非稼働施設	接道あり	0.17	住宅地	山形県上山市	不明	47
一層	歴史感	他稼働施設	接道あり	0.11	住宅地	山形県寒河江市	2015	48
一層	歴史感	他稼働施設	接道あり	0.09	住宅地	山形県寒河江市	2015	49
一層	歴史感	他非稼働施設	接道なし	0.21	住宅地	山形県南陽市	2004	50
非一層	歴史感	他非稼働施設	接道あり	0.18	住宅地	山形県南陽市	2004	51
非一層	土蔵造	他非稼働施設	接道あり	0.44	住宅地	山形県南陽市	不明	52
非一層	土蔵造	他非稼働施設	接道あり	1.52	集客地	福島県喜多方市	2019	53
非一層	土蔵造	他非稼働施設	接道あり	1.51	集客地	福島県喜多方市	2018	54
一層	土蔵造	他非稼働施設	接道あり	1.30	住宅地	福島県喜多方市	不明	55
非一層	木造	他非稼働施設	接道なし	8.54	住宅地	茨城県坂東市	2016	56
一層	木造	他非稼働施設	接道なし	8.58	住宅地	茨城県坂東市	2016	57
一層	歴史感	単体	接道あり	0.26	集客地	栃木県足利市	不明	58
非一層	木造	他非稼働施設	接道なし	0.24	集客・住宅地以外	栃木県日光市	不明	59
非一層	木造	他非稼働施設	接道なし	0.25	集客・住宅地以外	栃木県日光市	不明	60
一層	土蔵造	他稼働施設	接道なし	3.26	住宅地	栃木県小山市	1995	61
非一層	木造	他非稼働施設	接道なし	0.20	集客・住宅地以外	栃木県日光市	不明	62
非一層	木造	他稼働施設	接道あり	0.81	集客地	栃木県栃木市	不明	63
一層	歴史感	単体	接道あり	2.34	住宅地	群馬県桐生市	2003	64
非一層	木造	他稼働施設	接道あり	0.30	住宅地	群馬県みどり市	不明	65
一層	歴史感	他非稼働施設	接道あり	1.48	集客地	群馬県桐生市	2008	66
一層	歴史感	単体	接道なし	0.21	住宅地	群馬県前橋市	不明	67
一層	歴史感	他非稼働施設	接道あり	0.25	住宅地	群馬県桐生市	不明	68
一層	土蔵造	他非稼働施設	接道なし	0.96	住宅地	群馬県前橋市	2018	69
非一層	木造	他非稼働施設	接道あり	0.99	住宅地	群馬県前橋市	2018	70

3. 登録文化財の産業遺産の転用事例表（3／8）

ID	所有者属性	用途			建築物		
		具体例	項目		規模		
			公開状況	営利活動状況	階数	面積(㎡)	面積規模
71	営利法人	学生向けアパート	非公開	営利活動あり	平屋建	95	中小規模
72	営利法人	予約制展示	限定公開	営利活動なし	平屋建	56	中小規模
73	営利法人	予約制展示、販売	限定公開	営利活動あり	平屋建	20	中小規模
74	営利法人	イベント	限定公開	営利活動なし	2階建以上	308	中大規模
75	営利法人	イベント	限定公開	営利活動なし	2階建以上	254	中大規模
76	営利法人	体験	公開	営利活動なし	平屋建	127	中小規模
77	営利法人	関連工場	非公開	営利活動なし	平屋建	57	中小規模
78	営利法人	土産販売	公開	営利活動あり	平屋建	62	中小規模
79	営利法人	関連工場	非公開	営利活動なし	平屋建	83	中小規模
80	営利法人	産業に関する博物館	公開	営利活動なし	平屋建	582	大規模
81	営利法人	産業に関する博物館	公開	営利活動なし	平屋建	135	中小規模
82	営利法人	ギャラリー	公開	営利活動なし	2階建以上	33	中小規模
83	営利法人	倉庫	非公開	営利活動なし	平屋建	127	中小規模
84	営利法人	関連工場	非公開	営利活動なし	平屋建	53	中小規模
85	営利法人	市民ギャラリー	公開	営利活動なし	2階建以上	61	中小規模
86	個人・グループ	アトリエ、ギャラリー	限定公開	営利活動なし	平屋建	597	大規模
87	公共	産業に関する博物館	公開	営利活動なし	平屋建	197	中小規模
88	個人・グループ	カフェ	公開	営利活動あり	平屋建	129	中小規模
89	公共	販売	公開	営利活動あり	2階建以上	231	中小規模
90	公共	飲食	公開	営利活動あり	2階建以上	304	中小規模
91	公共	土産販売、カフェ	公開	営利活動あり	2階建以上	418	中大規模
92	公共	見学施設	限定公開	営利活動なし	平屋建	149	中小規模
93	公共	見学施設	限定公開	営利活動なし	2階建以上	301	中小規模
94	営利法人(新)	教室	限定公開	営利活動あり	2階建以上	221	中小規模
95	個人・グループ	見学施設	公開	営利活動なし	平屋建	111	中小規模
96	営利法人(新)	展示	限定公開	営利活動なし	平屋建	343	中大規模
97	営利法人(新)	展示	限定公開	営利活動なし	平屋建	193	中小規模
98	営利法人(新)	展示	限定公開	営利活動なし	平屋建	59	中小規模
99	営利法人(新)	展示	限定公開	営利活動なし	平屋建	95	中小規模
100	公共	展示、観光案内所	公開	営利活動なし	2階建以上	103	中小規模
101	営利法人	イベント	限定公開	営利活動なし	2階建以上	291	中大規模
102	個人・グループ	アトリエ、ギャラリー	公開	営利活動なし	平屋建	715	大規模
103	個人・グループ	レストラン	公開	営利活動あり	2階建以上	159	中小規模
104	営利法人	関連工場	非公開	営利活動あり	2階建以上	577	大規模
105	営利法人	予約公開	限定公開	営利活動なし	平屋建	104	中小規模
106	公共	貸しスペース	限定公開	営利活動なし	平屋建	234	中小規模
107	個人・グループ	見学施設	限定公開	営利活動なし	平屋建	354	中大規模
108	個人・グループ	見学施設	限定公開	営利活動なし	平屋建	79	中小規模
109	個人・グループ	見学施設	限定公開	営利活動なし	2階建以上	28	小規模
110	個人・グループ	カフェ、見学施設	限定公開	営利活動あり	2階建以上	139	中小規模

建築物		敷地		立地		住所	転用 開始年	ID
特有性		施設残存 状況	接道状況	駅からの 距離(km)	周辺環境			
空間	主構造							
非一層	木造	他非稼働施設	接道あり	1.49	集客地	群馬県桐生市	不明	71
一層	木造	他稼働施設	接道なし	1.23	住宅地	群馬県桐生市	不明	72
一層	木造	他稼働施設	接道なし	1.22	住宅地	群馬県桐生市	不明	73
一層	木造	他非稼働施設	接道なし	0.69	住宅地	群馬県太田市	不明	74
一層	土蔵造	他非稼働施設	接道なし	0.69	住宅地	群馬県太田市	不明	75
一層	木造	他稼働施設	接道あり	1.09	住宅地	群馬県桐生市	不明	76
非一層	木造	他稼働施設	接道なし	1.10	住宅地	群馬県桐生市	不明	77
非一層	木造	他稼働施設	接道あり	1.10	住宅地	群馬県桐生市	不明	78
非一層	木造	他稼働施設	接道なし	1.11	住宅地	群馬県桐生市	不明	79
一層	木造	他稼働施設	接道あり	1.09	住宅地	群馬県桐生市	不明	80
一層	木造	他稼働施設	接道あり	1.09	住宅地	群馬県桐生市	不明	81
一層	木造	他稼働施設	接道あり	1.08	住宅地	群馬県桐生市	不明	82
一層	木造	他稼働施設	接道なし	1.10	住宅地	群馬県桐生市	不明	83
非一層	木造	他稼働施設	接道なし	1.11	住宅地	群馬県桐生市	不明	84
一層	木造	単体	接道あり	0.28	住宅地	群馬県館林市	不明	85
一層	木造	他非稼働施設	接道あり	1.16	集客地	群馬県桐生市	2000	86
一層	歴史的	単体	接道なし	1.51	集客・住宅地以外	埼玉県さいたま市	1994	87
非一層	木造	単体	接道あり	0.37	住宅地	埼玉県幸手市	2011	88
一層	土蔵造	他非稼働施設	接道なし	0.22	集客地	埼玉県川越市	2010	89
一層	土蔵造	他非稼働施設	接道なし	0.20	集客地	埼玉県川越市	2010	90
一層	土蔵造	他非稼働施設	接道あり	0.18	集客地	埼玉県川越市	2010	91
非一層	木造	他非稼働施設	接道なし	0.21	住宅地	埼玉県入間市	不明	92
非一層	木造	他非稼働施設	接道なし	0.22	住宅地	埼玉県入間市	不明	93
非一層	木造	単体	接道あり	0.22	住宅地	埼玉県飯能市	不明	94
非一層	木造	他非稼働施設	接道なし	5.93	集客・住宅地以外	千葉県鴨川市	不明	95
一層	木造	他非稼働施設	接道なし	0.86	住宅地	千葉県銚子市	不明	96
非一層	木造	他非稼働施設	接道あり	0.85	住宅地	千葉県銚子市	不明	97
非一層	木造	他非稼働施設	接道なし	0.84	住宅地	千葉県銚子市	不明	98
非一層	木造	他非稼働施設	接道なし	0.85	住宅地	千葉県銚子市	不明	99
非一層	木造	単体	接道あり	0.72	住宅地	千葉県市川市	2018	100
一層	土蔵造	他稼働施設	接道なし	0.63	集客・住宅地以外	千葉県印旛郡	不明	101
一層	木造	他非稼働施設	接道あり	0.70	住宅地	東京都青梅市	2002	102
一層	歴史的	単体	接道あり	0.60	集客・住宅地以外	東京都青梅市	2000	103
一層	土蔵造	他稼働施設	接道なし	1.02	住宅地	東京都福生市	不明	104
非一層	木造	他稼働施設	接道なし	0.66	住宅地	東京都福生市	不明	105
非一層	木造	単体	接道なし	0.63	集客・住宅地以外	神奈川県平塚市	不明	106
一層	木造	他非稼働施設	接道なし	0.36	住宅地	神奈川県小田原市	2011	107
一層	木造	他非稼働施設	接道なし	0.33	住宅地	神奈川県小田原市	2011	108
一層	木造	他非稼働施設	接道あり	0.33	住宅地	神奈川県小田原市	2011	109
非一層	木造	他非稼働施設	接道あり	0.35	住宅地	神奈川県小田原市	2017	110

3. 登録文化財の産業遺産の転用事例表（4／8）

ID	所有者属性	用途			建築物		
		具体例	項目		規模		
			公開状況	営利活動状況	階数	面積(㎡)	面積規模
111	個人・グループ	見学施設	限定公開	営利活動なし	2階建以上	21	小規模
112	公共	見学施設	限定公開	営利活動なし	2階建以上	52	中小規模
113	個人・グループ	ホール	限定公開	営利活動なし	平屋建	440	大規模
114	営利法人	ギャラリー	限定公開	営利活動なし	2階建以上	59	中小規模
115	個人・グループ	博物館	公開	営利活動なし	2階建以上	340	中大規模
116	個人・グループ	見学	限定公開	営利活動なし	2階建以上	49	中小規模
117	個人・グループ	見学	限定公開	営利活動なし	2階建以上	40	小規模
118	個人・グループ	カフェ	公開	営利活動あり	2階建以上	277	中大規模
119	個人・グループ	見学	限定公開	営利活動なし	2階建以上	376	中大規模
120	公共	ギャラリー、飲食	公開	営利活動なし	2階建以上	274	中小規模
121	公共	博物館	公開	営利活動なし	2階建以上	129	中小規模
122	個人・グループ	福祉施設	非公開	営利活動あり	2階建以上	231	中大規模
123	公共	貸しスペース	限定公開	営利活動なし	2階建以上	381	中大規模
124	公共	図書館	公開	営利活動なし	2階建以上	691	大規模
125	個人・グループ	イベント	限定公開	営利活動なし	2階建以上	142	中小規模
126	公共	展示	公開	営利活動なし	平屋建	244	中小規模
127	公共	プログラミング教室	公開	営利活動なし	2階建以上	312	中小規模
128	公共	ジオラマ館	公開	営利活動あり	平屋建	513	中大規模
129	公共	レストラン館	公開	営利活動あり	平屋建	513	中大規模
130	公共	体験、ギャラリー	公開	営利活動なし	2階建以上	164	中小規模
131	公共	飲食	公開	営利活動あり	2階建以上	426	中大規模
132	営利法人	関連工場、予約見学	限定公開	営利活動あり	2階建以上	250	中大規模
133	公共	イベント、展示	限定公開	営利活動なし	2階建以上	145	中小規模
134	公共	見学施設	限定公開	営利活動なし	平屋建	292	中小規模
135	営利法人	レンタルスペース	限定公開	営利活動なし	平屋建	59	中小規模
136	営利法人	レンタルスペース	限定公開	営利活動なし	平屋建	162	中小規模
137	公共	アトリエ販売・体験	限定公開	営利活動なし	2階建以上	316	中小規模
138	公共	見学	非公開	営利活動なし	平屋建	14	小規模
139	公共	大学研究拠点	非公開	営利活動なし	平屋建	20	小規模
140	営利法人	博物館	公開	営利活動なし	2階建以上	185	中小規模
141	営利法人	博物館	公開	営利活動なし	平屋建	165	中小規模
142	営利法人	ホール	限定公開	営利活動なし	平屋建	242	中小規模
143	営利法人	アトリエ	限定公開	営利活動なし	2階建以上	116	中小規模
144	営利法人	史料館	公開	営利活動なし	2階建以上	377	中大規模
145	営利法人	体験、ギャラリー	公開	営利活動なし	平屋建	93	中小規模
146	公共	展示、イベント	限定公開	営利活動なし	平屋建	417	中大規模
147	営利法人(新)	駄菓子屋・カフェ	公開	営利活動あり	2階建以上	86	中小規模
148	個人・グループ	イベントスペース	限定公開	営利活動なし	2階建以上	79	中小規模
149	個人・グループ	ホール。貸しスペース	限定公開	営利活動なし	平屋建	129	中小規模
150	個人・グループ	展示	限定公開	営利活動なし	平屋建	103	中小規模

建築物		敷地		立地		住所	転用 開始年	ID
特有性		施設残存 状況	接道状況	駅からの 距離(km)	周辺環境			
空間	主構造							
一層	木造	他非稼働施設	接道なし	0.35	住宅地	神奈川県小田原市	2011	111
一層	土蔵造	他非稼働施設	接道なし	0.54	住宅地	新潟県長岡市	不明	112
一層	木造	他非稼働施設	接道あり	4.21	住宅地	新潟県村上市	不明	113
一層	土蔵造	他稼働施設	接道なし	0.95	住宅地	新潟県長岡市	不明	114
非一層	木造	他稼働施設	接道あり	0.19	住宅地	新潟県新潟市	不明	115
一層	土蔵造	他非稼働施設	接道なし	0.47	住宅地	富山県滑川市	2017	116
一層	土蔵造	他非稼働施設	接道なし	0.47	住宅地	富山県滑川市	2017	117
一層	土蔵造	他非稼働施設	接道あり	0.49	住宅地	富山県滑川市	2017	118
非一層	木造	他非稼働施設	接道あり	0.45	住宅地	富山県滑川市	2017	119
非一層	木造	単体	接道あり	0.75	住宅地	富山県南砺市	2003	120
非一層	木造	他非稼働施設	接道なし	0.98	住宅地	石川県加賀市	不明	121
非一層	木造	他非稼働施設	接道あり	3.20	住宅地	石川県小松市	不明	122
非一層	木造	他非稼働施設	接道あり	1.14	住宅地	石川県金沢市	1996	123
非一層	歴史感	単体	接道なし	0.80	住宅地	石川県金沢市	1979	124
一層	土蔵造	他稼働施設	接道なし	0.32	住宅地	石川県七尾市	不明	125
非一層	木造	他非稼働施設	接道あり	6.40	住宅地	福井県越前市	不明	126
非一層	木造	単体	接道あり	0.26	住宅地	福井県鯖江市	不明	127
一層	歴史感	他非稼働施設	接道あり	1.64	住宅地	福井県敦賀市	2015	128
一層	歴史感	他非稼働施設	接道あり	1.65	住宅地	福井県敦賀市	2015	129
一層	木造	他非稼働施設	接道なし	0.95	住宅地	福井県大野市	不明	130
非一層	木造	他非稼働施設	接道あり	0.94	住宅地	福井県大野市	不明	131
一層	土蔵造	他非稼働施設	接道あり	1.01	住宅地	山梨県甲州市	不明	132
一層	土蔵造	単体	接道なし	0.57	住宅地	長野県須坂市	2000	133
非一層	木造	他非稼働施設	接道なし	5.57	集客・住宅地以外	長野県上田市	2005	134
一層	土蔵造	他稼働施設	接道あり	1.12	住宅地	長野県須坂市	不明	135
一層	土蔵造	他稼働施設	接道なし	1.11	住宅地	長野県須坂市	不明	136
非一層	木造	他非稼働施設	接道なし	0.39	住宅地	長野県岡谷市	2009以前	137
非一層	木造	他非稼働施設	接道あり	0.41	住宅地	長野県岡谷市	2009以前	138
一層	木造	他非稼働施設	接道なし	16.61	集客・住宅地以外	長野県松本市	2007	139
一層	土蔵造	他稼働施設	接道なし	0.30	住宅地	長野県千曲市	1983	140
一層	土蔵造	他稼働施設	接道なし	0.27	住宅地	長野県千曲市	不明	141
一層	土蔵造	他稼働施設	接道あり	0.30	住宅地	長野県千曲市	不明	142
一層	土蔵造	他稼働施設	接道なし	0.25	住宅地	長野県千曲市	不明	143
一層	土蔵造	他稼働施設	接道あり	0.27	住宅地	長野県千曲市	不明	144
一層	土蔵造	他稼働施設	接道なし	0.26	住宅地	長野県千曲市	不明	145
一層	土蔵造	単体	接道あり	0.22	住宅地	長野県北安曇郡	2019	146
非一層	歴史感	他稼働施設	接道あり	0.97	集客地	岐阜県高山市	2019	147
一層	歴史感	単体	接道あり	0.16	住宅地	静岡県菊川市	2010	148
一層	木造	他非稼働施設	接道あり	4.56	住宅地	静岡県磐田市	1997	149
非一層	木造	単体	接道なし	3.19	集客・住宅地以外	静岡県伊豆市	不明	150

3. 登録文化財の産業遺産の転用事例表（5／8）

ID	所有者属性	用途			建築物		
		具体例	項目		規模		
			公開状況	営利活動状況	階数	面積(㎡)	面積規模
151	営利法人(新)	アンテナショップ	限定公開	営利活動あり	平屋建	190	中小規模
152	個人・グループ	住宅	非公開	営利活動なし	2階建以上	61	中小規模
153	個人・グループ	住宅	非公開	営利活動なし	平屋建	90	中小規模
154	個人・グループ	住宅	非公開	営利活動なし	2階建以上	107	中小規模
155	個人・グループ	住宅	非公開	営利活動なし	2階建以上	78	中小規模
156	営利法人	産業に関する博物館	公開	営利活動なし	2階建以上	106	中小規模
157	営利法人	史料館	公開	営利活動なし	2階建以上	463	大規模
158	公共	飲食	公開	営利活動あり	平屋建	784	大規模
159	公共	展示、販売	公開	営利活動なし	2階建以上	636	中大規模
160	公共	展示、貸しスペース	限定公開	営利活動なし	2階建以上	1359	大規模
161	公共	生涯学習センター	限定公開	営利活動なし	平屋建	2089	大規模
162	公共	展示、見学	公開	営利活動なし	2階建以上	654	中大規模
163	公共	飲食	公開	営利活動あり	2階建以上	155	中小規模
164	公共	飲食・展示	公開	営利活動あり	平屋建	123	中小規模
165	公共	展示	公開	営利活動なし	平屋建	463	中大規模
166	営利法人	産業に関する博物館	公開	営利活動なし	2階建以上	373	中大規模
167	公共	控え室	非公開	営利活動なし	平屋建	12	小規模
168	公共	展示室	公開	営利活動なし	平屋建	9	小規模
169	営利法人(新)	飲食	公開	営利活動あり	平屋建	1072	大規模
170	公共	ギャラリー	公開	営利活動なし	平屋建	1044	大規模
171	営利法人	体験工房	限定公開	営利活動あり	平屋建	149	中小規模
172	営利法人	休憩所	公開	営利活動あり	平屋建	70	中小規模
173	営利法人	展示、販売	公開	営利活動あり	2階建以上	156	中小規模
174	営利法人	展示、資料館	公開	営利活動なし	2階建以上	105	中小規模
175	営利法人	展示、販売	公開	営利活動あり	平屋建	59	中小規模
176	個人・グループ	見学	限定公開	営利活動なし	平屋建	8.5	小規模
177	個人・グループ	見学	限定公開	営利活動なし	平屋建	59	中小規模
178	個人・グループ	見学	限定公開	営利活動なし	2階建以上	46	中小規模
179	営利法人	イベント	限定公開	営利活動なし	2階建以上	149	中小規模
180	公共	観光協会事務所・喫茶	公開	営利活動なし	2階建以上	117	中小規模
181	公共	飲食	公開	営利活動あり	2階建以上	27	小規模
182	個人・グループ	要予約見学	限定公開	営利活動なし	平屋建	112	中小規模
183	個人・グループ	要予約見学	限定公開	営利活動なし	平屋建	50	中小規模
184	個人・グループ	要予約見学	限定公開	営利活動なし	平屋建	131	中小規模
185	個人・グループ	展示	限定公開	営利活動なし	2階建以上	109	中小規模
186	個人・グループ	展示	限定公開	営利活動なし	2階建以上	28	小規模
187	個人・グループ	飲食・パン・美容室	公開	営利活動あり	2階建以上	248	中大規模
188	営利法人	産業に関する博物館	公開	営利活動なし	2階建以上	70	中小規模
189	個人・グループ	記念館	公開	営利活動なし	平屋建	52	中小規模
190	個人・グループ	記念館	公開	営利活動なし	平屋建	18	小規模

建築物		敷地		立地		住所	転用 開始年	ID
特有性		施設残存 状況	接道状況	駅からの 距離(km)	周辺環境			
空間	主構造							
一層	木造	他非稼働施設	接道あり	2.15	住宅地	愛知県知多市	2019	151
非一層	木造	他非稼働施設	接道なし	2.14	住宅地	愛知県知多市	不明	152
非一層	木造	他非稼働施設	接道あり	2.15	住宅地	愛知県知多市	不明	153
非一層	土蔵造	他非稼働施設	接道なし	2.12	住宅地	愛知県知多市	不明	154
一層	土蔵造	他非稼働施設	接道なし	2.13	住宅地	愛知県知多市	不明	155
一層	土蔵造	他稼働施設	接道なし	0.21	住宅地	愛知県知多郡	1987	156
非一層	木造	他稼働施設	接道なし	0.09	住宅地	愛知県岡崎市	1991	157
非一層	歴史感	他非稼働施設	接道あり	0.26	集客・住宅地以外	愛知県半田市	2015	158
非一層	歴史感	他非稼働施設	接道あり	0.27	住宅地	愛知県半田市	2015	159
非一層	歴史感	他非稼働施設	接道あり	0.27	住宅地	愛知県半田市	2015	160
非一層	歴史感	単体	接道あり	1.91	集客・住宅地以外	愛知県一宮市	2014	161
一層	土蔵造	単体	接道なし	3.68	住宅地	愛知県犬山市	1983	162
非一層	木造	単体	接道なし	3.85	集客・住宅地以外	愛知県犬山市	不明	163
一層	歴史感	単体	接道なし	3.83	住宅地	愛知県犬山市	不明	164
一層	歴史感	単体	接道なし	3.83	住宅地	愛知県犬山市	不明	165
非一層	木造	他非稼働施設	接道あり	1.59	住宅地	愛知県常滑市	1986	166
一層	歴史感	他非稼働施設	接道なし	0.81	住宅地	三重県伊勢市	2002	167
一層	木造	他非稼働施設	接道あり	0.80	集客・住宅地以外	三重県伊勢市	2002	168
一層	歴史感	単体	接道あり	0.33	住宅地	三重県四日市市	2001	169
一層	歴史感	単体	接道あり	1.46	住宅地	三重県松阪市	2003	170
一層	木造	他稼働施設	接道あり	4.62	集客・住宅地以外	三重県伊賀市	不明	171
非一層	木造	他稼働施設	接道あり	4.64	集客・住宅地以外	三重県伊賀市	不明	172
一層	木造	他稼働施設	接道あり	4.66	集客・住宅地以外	三重県伊賀市	不明	173
一層	木造	他稼働施設	接道あり	4.65	集客・住宅地以外	三重県伊賀市	不明	174
一層	木造	他稼働施設	接道あり	4.65	集客・住宅地以外	三重県伊賀市	不明	175
非一層	土蔵造	他稼働施設	接道あり	2.91	住宅地	三重県津市	不明	176
非一層	木造	他稼働施設	接道あり	2.93	住宅地	三重県津市	不明	177
非一層	土蔵造	他稼働施設	接道あり	2.91	住宅地	三重県津市	不明	178
一層	木造	他稼働施設	接道あり	0.97	住宅地	三重県津市	不明	179
非一層	木造	他非稼働施設	接道あり	3.44	住宅地	滋賀県蒲生郡	不明	180
一層	土蔵造	他非稼働施設	接道あり	3.45	住宅地	滋賀県蒲生郡	不明	181
一層	歴史感	他非稼働施設	接道なし	2.67	集客・住宅地以外	滋賀県近江八幡市	不明	182
一層	歴史感	他非稼働施設	接道なし	2.68	集客・住宅地以外	滋賀県近江八幡市	不明	183
一層	歴史感	他非稼働施設	接道なし	2.38	集客地	滋賀県近江八幡市	不明	184
一層	土蔵造	他非稼働施設	接道あり	0.26	住宅地	滋賀県彦根市	不明	185
一層	土蔵造	他非稼働施設	接道なし	0.25	住宅地	滋賀県彦根市	不明	186
非一層	木造	他非稼働施設	接道あり	0.36	住宅地	滋賀県高島市	不明	187
一層	土蔵造	他非稼働施設	接道なし	0.34	住宅地	京都府京都市	不明	188
非一層	木造	他非稼働施設	接道あり	0.12	住宅地	京都府京都市	不明	189
非一層	木造	他非稼働施設	接道なし	0.12	住宅地	京都府京都市	不明	190

3. 登録文化財の産業遺産の転用事例表（6／8）

ID	所有者属性	用途			建築物		
		具体例	項目		規模		
			公開状況	営利活動状況	階数	面積(㎡)	面積規模
191	営利法人	イベント	限定公開	営利活動なし	2階建以上	141	中小規模
192	営利法人	産業に関する博物館	限定公開	営利活動なし	2階建以上	346	中大規模
193	個人・グループ	産業に関する博物館	公開	営利活動なし	2階建以上	687	大規模
194	営利法人	産業に関する博物館	公開	営利活動なし	平屋建	678	大規模
195	営利法人	イベント	限定公開	営利活動なし	平屋建	264	中大規模
196	公共	ホテル内レストラン	公開	営利活動あり	平屋建	173	中小規模
197	公共	観光案内所、土産販売	限定公開	営利活動あり	平屋建	116	中小規模
198	公共	ホテル	限定公開	営利活動あり	2階建以上	309	中小規模
199	公共	ホテル内店舗	公開	営利活動あり	平屋建	96	中小規模
200	公共	ホテル門	公開	営利活動なし	2階建以上	57	中小規模
201	公共	観光案内所	公開	営利活動なし	2階建以上	184	中小規模
202	公共	カフェ	公開	営利活動あり	平屋建	190	中小規模
203	営利法人	展示	公開	営利活動なし	平屋建	96	中小規模
204	営利法人	展示	公開	営利活動なし	2階建以上	246	中小規模
205	営利法人	ホール	限定公開	営利活動なし	平屋建	127	中小規模
206	個人・グループ	見学・体験	限定公開	営利活動なし	平屋建	215	中小規模
207	個人・グループ	イベント	限定公開	営利活動なし	2階建以上	386	中大規模
208	個人・グループ	イベント	限定公開	営利活動なし	2階建以上	205	中小規模
209	営利法人	休憩所	限定公開	営利活動なし	2階建以上	313	中大規模
210	公共	産業に関する博物館	公開	営利活動なし	2階建以上	257	中小規模
211	営利法人	産業に関する博物館	公開	営利活動なし	2階建以上	701	大規模
212	公共	予約制見学	限定公開	営利活動なし	平屋建	10	小規模
213	公共	見学施設内非公開	非公開	営利活動なし	2階建以上	34	小規模
214	公共	見学施設	限定公開	営利活動なし	2階建以上	282	中小規模
215	公共	見学施設	限定公開	営利活動なし	2階建以上	124	中小規模
216	営利法人	見学・イベント	公開	営利活動なし	2階建以上	694	大規模
217	公共	産業に関する博物館	公開	営利活動なし	2階建以上	272	中小規模
218	営利法人(新)	要予約レストラン	限定公開	営利活動あり	2階建以上	234	中小規模
219	営利法人	生産物販売	公開	営利活動あり	2階建以上	45	中小規模
220	営利法人	予約制レストラン	限定公開	営利活動あり	平屋建	85	中小規模
221	営利法人(新)	骨董品展示・販売	公開	営利活動あり	2階建以上	437	中大規模
222	個人・グループ	イベント	限定公開	営利活動なし	平屋建	219	中大規模
223	公共	イベント	限定公開	営利活動なし	平屋建	161	中小規模
224	営利法人	産業に関する博物館	公開	営利活動なし	平屋建	1083	大規模
225	公共	展示、飲食	公開	営利活動あり	平屋建	146	中小規模
226	営利法人(新)	佃煮工場直売所	公開	営利活動あり	平屋建	133	中小規模
227	営利法人(新)	佃煮工場直売所	公開	営利活動あり	平屋建	110	中小規模
228	営利法人(新)	ホール	公開	営利活動あり	2階建以上	491	大規模
229	営利法人(新)	うどん	公開	営利活動あり	2階建以上	284	中大規模
230	公共	見学施設	公開	営利活動なし	平屋建	25	小規模

建築物		敷地		立地		住所	転用 開始年	ID
特有性		施設残存 状況	接道状況	駅からの 距離(km)	周辺環境			
空間	主構造							
一層	土蔵造	他稼働施設	接道なし	0.88	集客・住宅地以外	京都府京都市	不明	191
非一層	歴史感	他稼働施設	接道なし	0.62	集客・住宅地以外	京都府京都市	2009	192
非一層	木造	他非稼働施設	接道あり	0.98	住宅地	兵庫県たつの市	不明	193
一層	土蔵造	他非稼働施設	接道あり	0.95	住宅地	兵庫県たつの市	不明	194
一層	土蔵造	他非稼働施設	接道なし	0.96	住宅地	兵庫県たつの市	不明	195
一層	土蔵造	他非稼働施設	接道あり	0.11	住宅地	兵庫県朝来市	2013	196
一層	土蔵造	他非稼働施設	接道あり	0.13	集客・住宅地以外	兵庫県朝来市	2013	197
非一層	木造	他非稼働施設	接道あり	0.12	住宅地	兵庫県朝来市	2013	198
一層	土蔵造	他非稼働施設	接道あり	0.14	住宅地	兵庫県朝来市	2013	199
非一層	木造	他非稼働施設	接道あり	0.12	住宅地	兵庫県朝来市	2013	200
非一層	木造	他非稼働施設	接道なし	0.97	住宅地	兵庫県たつの市	2017	201
一層	木造	他非稼働施設	接道あり	0.99	住宅地	兵庫県たつの市	2017	202
一層	土蔵造	他稼働施設	接道なし	4.74	集客地	兵庫県篠山市	2001	203
一層	土蔵造	他稼働施設	接道なし	4.74	集客地	兵庫県篠山市	2001	204
一層	土蔵造	他稼働施設	接道なし	4.74	集客地	兵庫県篠山市	2002	205
一層	木造	他稼働施設	接道なし	1.91	集客・住宅地以外	奈良県奈良市	不明	206
一層	土蔵造	他非稼働施設	接道あり	0.20	住宅地	和歌山県御坊市	不明	207
一層	土蔵造	他非稼働施設	接道あり	0.19	住宅地	和歌山県御坊市	不明	208
一層	土蔵造	他稼働施設	接道あり	3.63	住宅地	岡山県浅口市	不明	209
非一層	木造	単体	接道なし	0.33	住宅地	岡山県倉敷市	1988	210
一層	木造	他非稼働施設	接道あり	0.95	集客地	岡山県倉敷市	1973	211
一層	木造	他非稼働施設	接道なし	0.30	住宅地	広島県庄原市	2011	212
一層	土蔵造	他非稼働施設	接道なし	0.32	住宅地	広島県庄原市	2011	213
非一層	木造	他非稼働施設	接道あり	0.31	住宅地	広島県庄原市	2011	214
非一層	木造	他非稼働施設	接道なし	0.29	住宅地	広島県庄原市	2011	215
一層	土蔵造	他稼働施設	接道なし	0.25	住宅地	広島県東広島市	不明	216
非一層	木造	他非稼働施設	接道あり	0.62	住宅地	山口県山口市	1990	217
非一層	歴史感	単体	接道なし	1.29	集客地	山口県下関市	2017	218
一層	木造	他稼働施設	接道あり	1.03	住宅地	徳島県徳島市	不明	219
一層	木造	他稼働施設	接道あり	1.06	住宅地	徳島県徳島市	不明	220
一層	木造	他非稼働施設	接道あり	0.80	集客・住宅地以外	徳島県三好市	不明	221
一層	木造	他非稼働施設	接道なし	20.16	住宅地	香川県小豆郡	不明	222
一層	木造	単体	接道あり	1.10	住宅地	香川県綾歌郡	不明	223
一層	木造	他稼働施設	接道あり	19.20	集客・住宅地以外	香川県小豆郡	不明	224
非一層	木造	単体	接道なし	1.34	住宅地	香川県観音寺	不明	225
一層	土蔵造	他稼働施設	接道なし	18.96	住宅地	香川県小豆郡	不明	226
一層	土蔵造	他稼働施設	接道あり	18.96	住宅地	香川県小豆郡	不明	227
一層	土蔵造	単体	接道なし	0.65	住宅地	香川県高松市	2012	228
非一層	木造	他非稼働施設	接道なし	0.43	住宅地	香川県高松市	不明	229
一層	木造	単体	接道なし	0.53	集客・住宅地以外	香川県高松市	不明	230

3. 登録文化財の産業遺産の転用事例表（7／8）

ID	所有者属性	用途			建築物		
		具体例	項目		規模		
			公開状況	営利活動状況	階数	面積(㎡)	面積規模
231	営利法人	事務所	非公開	営利活動なし	平屋建	42	中小規模
232	営利法人	産業に関する博物館	限定公開	営利活動なし	平屋建	149	中小規模
233	個人・グループ	美術館	限定公開	営利活動なし	2階建以上	148	中小規模
234	公共	観光案内所・カフェ	限定公開	営利活動あり	平屋建	217	中小規模
235	公共	イベント	限定公開	営利活動なし	2階建以上	98	中小規模
236	公共	ギャラリー	限定公開	営利活動なし	平屋建	55	中小規模
237	公共	ホール	限定公開	営利活動なし	2階建以上	128	中小規模
238	営利法人	展示	公開	営利活動なし	2階建以上	190	中小規模
239	公共	産業に関する博物館	公開	営利活動なし	2階建以上	232	中小規模
240	公共	レストラン・写真	限定公開	営利活動あり	2階建以上	1180	大規模
241	個人・グループ	レストラン・ギャラリー	限定公開	営利活動あり	平屋建	108	中小規模
242	個人・グループ	ホール	公開	営利活動なし	2階建以上	1050	大規模
243	個人・グループ	予約見学	限定公開	営利活動なし	平屋建	223	中大規模
244	公共	体験施設	公開	営利活動なし	2階建以上	156	中小規模
245	営利法人	事務所・予約見学	限定公開	営利活動なし	2階建以上	297	中大規模
246	個人・グループ	予約制料亭	限定公開	営利活動あり	平屋建	380	中大規模
247	個人・グループ	予約制料亭	限定公開	営利活動あり	平屋建	59	中小規模
248	営利法人	販売	公開	営利活動あり	2階建以上	974	大規模
249	営利法人	ホール	限定公開	営利活動なし	2階建以上	429	中大規模
250	営利法人	イベント	限定公開	営利活動なし	2階建以上	483	大規模
251	営利法人	ホール	限定公開	営利活動なし	2階建以上	591	大規模
252	営利法人	イベント	限定公開	営利活動なし	2階建以上	431	中大規模
253	営利法人	産業に関する博物館	公開	営利活動なし	2階建以上	72	中小規模
254	営利法人	ギャラリー・試飲	公開	営利活動なし	平屋建	128	中小規模
255	営利法人(新)	イベント・ギャラリー	限定公開	営利活動なし	平屋建	127	中小規模
256	営利法人(新)	葬儀場	非公開	営利活動あり	2階建以上	580	大規模
257	営利法人(新)	体験、イベント	限定公開	営利活動なし	2階建以上	197	中小規模
258	営利法人(新)	雑貨販売	公開	営利活動あり	平屋建	213	中小規模
259	営利法人(新)	貸しスペース・販売	公開	営利活動あり	平屋建	309	中大規模
260	営利法人(新)	レストラン	公開	営利活動あり	平屋建	124	中小規模
261	個人・グループ	教室	限定公開	営利活動あり	平屋建	119	中小規模
262	公共	産業に関する博物館	限定公開	営利活動なし	平屋建	118	中小規模
263	公共	イベント	限定公開	営利活動なし	平屋建	166	中小規模
264	公共	イベント	限定公開	営利活動なし	平屋建	166	中小規模
265	公共	事務所、会議室	限定公開	営利活動なし	平屋建	166	中小規模
266	営利法人	販売	公開	営利活動あり	平屋建	218	中小規模
267	公共	駄菓子博物館	公開	営利活動なし	平屋建	626	中大規模
268	公共	観光案内所	公開	営利活動なし	平屋建	89	中小規模
269	公共	展示施設	公開	営利活動なし	平屋建	640	中大規模
270	個人・グループ	イベント	限定公開	営利活動なし	2階建以上	121	中小規模

建築物		敷地		立地		住所	転用 開始年	ID
特有性		施設残存 状況	接道状況	駅からの 距離(km)	周辺環境			
空間	主構造							
一層	木造	他稼働施設	接道あり	20.04	住宅地	香川県小豆郡	不明	231
一層	木造	他稼働施設	接道あり	2.94	集客・住宅地以外	香川県観音寺	不明	232
非一層	歴史感	他非稼働施設	接道あり	0.32	住宅地	香川県坂出市	不明	233
非一層	木造	単体	接道あり	0.40	住宅地	高知県高岡郡	2013	234
一層	土蔵造	他非稼働施設	接道なし	0.19	集客・住宅地以外	高知県高岡郡	2010	235
一層	木造	他非稼働施設	接道なし	0.19	集客・住宅地以外	高知県高岡郡	2010	236
一層	土蔵造	他非稼働施設	接道なし	0.21	集客・住宅地以外	高知県高岡郡	2010	237
一層	土蔵造	他非稼働施設	接道あり	0.74	住宅地	高知県安芸郡	2014	238
非一層	歴史感	他非稼働施設	接道あり	0.17	住宅地	福岡県北九州市	2005	239
非一層	歴史感	他非稼働施設	接道あり	0.17	住宅地	福岡県北九州市	2005	240
非一層	歴史感	他非稼働施設	接道なし	0.16	住宅地	福岡県北九州市	不明	241
一層	歴史感	他非稼働施設	接道あり	0.22	住宅地	福岡県北九州市	不明	242
一層	歴史感	単体	接道あり	1.12	集客・住宅地以外	福岡県久留米市	不明	243
非一層	木造	他非稼働施設	接道あり	3.50	住宅地	福岡県福津市	1994	244
一層	歴史感	他稼働施設	接道なし	1.05	集客・住宅地以外	福岡県田川郡	不明	245
非一層	木造	他非稼働施設	接道なし	2.20	住宅地	福岡県小郡市	不明	246
非一層	木造	他非稼働施設	接道なし	2.21	住宅地	福岡県小郡市	不明	247
一層	木造	他非稼働施設	接道なし	0.49	集客・住宅地以外	福岡県福岡市	不明	248
一層	木造	他非稼働施設	接道あり	0.46	集客・住宅地以外	福岡県福岡市	不明	249
一層	土蔵造	他非稼働施設	接道あり	0.26	集客地	佐賀県鹿島市	不明	250
一層	土蔵造	他非稼働施設	接道なし	0.24	集客地	佐賀県鹿島市	不明	251
一層	木造	他稼働施設	接道あり	1.38	住宅地	佐賀県小城市	不明	252
非一層	木造	他稼働施設	接道あり	1.66	住宅地	佐賀県小城市	1984	253
一層	木造	他稼働施設	接道なし	0.26	集客地	佐賀県鹿島市	2014	254
一層	木造	他稼働施設	接道あり	0.43	住宅地	佐賀県鹿島市	不明	255
一層	土蔵造	単体	接道あり	0.23	住宅地	長崎県島原市	1999	256
一層	土蔵造	他非稼働施設	接道あり	0.21	住宅地	長崎県島原市	不明	257
一層	木造	他非稼働施設	接道なし	4.91	住宅地	長崎県東彼杵郡	2006	258
一層	木造	他非稼働施設	接道なし	4.90	住宅地	長崎県東彼杵郡	2006	259
非一層	木造	他非稼働施設	接道あり	4.88	住宅地	長崎県東彼杵郡	2006	260
非一層	木造	単体	接道なし	4.86	集客・住宅地以外	熊本県熊本市	2003	261
一層	歴史感	単体	接道あり	0.73	集客・住宅地以外	熊本県熊本市	2003	262
一層	歴史感	他非稼働施設	接道なし	0.05	集客・住宅地以外	熊本県球磨郡	不明	263
一層	歴史感	他非稼働施設	接道なし	0.05	集客・住宅地以外	熊本県球磨郡	不明	264
一層	歴史感	他非稼働施設	接道なし	0.07	集客・住宅地以外	熊本県球磨郡	不明	265
一層	土蔵造	他稼働施設	接道なし	4.93	住宅地	熊本県熊本市	不明	266
一層	土蔵造	他非稼働施設	接道あり	3.70	住宅地	大分県豊後高田市	2002	267
一層	土蔵造	他非稼働施設	接道あり	3.71	住宅地	大分県豊後高田市	2001	268
一層	土蔵造	他非稼働施設	接道あり	3.69	住宅地	大分県豊後高田市	2001	269
一層	土蔵造	他稼働施設	接道なし	1.83	住宅地	大分県玖珠郡	不明	270

3. 登録文化財の産業遺産の転用事例表（8／8）

ID	所有者属性	用途			建築物		
		具体例	項目		規模		
			公開状況	営利活動状況	階数	面積(m ²)	面積規模
271	営利法人	レストラン客室	限定公開	営利活動あり	2階建以上	401	中大規模
272	公共	産業に関する博物館	公開	営利活動なし	平屋建	350	中小規模
273	営利法人(新)	切子ショップ	公開	営利活動あり	平屋建	178	中小規模
274	営利法人(新)	カフェ	公開	営利活動あり	2階建以上	158	中小規模
275	公共	住民生活センター	限定公開	営利活動なし	2階建以上	116	中小規模
276	営利法人(新)	月一ブックカフェ	限定公開	営利活動あり	平屋建	65	中小規模
277	営利法人	産業に関する展示	公開	営利活動なし	2階建以上	222	中小規模
278	公共	展示、住民向け飲食	限定公開	営利活動あり	平屋建	712	大規模

建築物		敷地		立地		住所	転用 開始年	ID
特有性		施設残存 状況	接道状況	駅からの 距離(km)	周辺環境			
空間	主構造							
非一層	木造	他稼働施設	接道なし	7.93	住宅地	大分県大分市	不明	271
非一層	木造	単体	接道なし	17.83	集客・住宅地以外	宮崎県西臼杵郡	不明	272
非一層	木造	単体	接道あり	1.75	住宅地	鹿児島県鹿児島市	不明	273
非一層	木造	単体	接道なし	1.74	住宅地	鹿児島県鹿児島市	2017	274
非一層	歴史感	単体	接道あり	44.25	集客・住宅地以外	鹿児島県薩摩川内市	不明	275
一層	歴史感	単体	接道あり	15.44	住宅地	鹿児島県南さつま市	2015	276
一層	歴史感	他稼働施設	接道あり	0.12	住宅地	鹿児島県始良市	2017	277
非一層	歴史感	他非稼働施設	接道なし	357.02	集客・住宅地以外	沖縄県島尻郡	2014	278

4. 転用事例の参考文献表

調査は2019年に行った。ウェブサイトの最終アクセスは、2021年9月1日-9月21日。No.は資料編3. 登録文化財の産業遺産の転用事例表に準ずる。

No.	転用事例の参考文献集
1	北海道教育委員会：北海道の近代化遺産—近代化遺産総合調査報告書一，1995年3月：27。 国指定文化財等データベース：エドウィン・ダン記念館（旧北海道庁真駒内種畜場事務所），< https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00001841 >。 札幌市：エドウィン・ダン記念館（旧北海道庁真駒内種畜場事務所），< https://www.city.sapporo.jp/keikaku/keikan/rekiken/buildings/building45.html >，2020年10月1日最終更新。 札幌市南区：エドウィン・ダン記念館（8月27日より新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休館），< https://www.city.sapporo.jp/minami/doboku/edwindun.html >，2021年9月13日最終更新。
2 3 4 5	北海道教育委員会：北海道の近代化遺産—近代化遺産総合調査報告書一，1995年3月：74。 国指定文化財等データベース：小林酒造旧ビール庫・缶詰資材庫（大正・昭和の暮らし館），< https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00005717 >， 小林酒造旧資材庫（昔の酒道具展示館），< https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00005719 >， 小林酒造旧事務所（蔵元北の錦記念館），< https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00005715 >， 小林酒造旧精米場（酒の郷なつかしホール），< https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00005718 >。 北の錦：小林酒造の酒蔵，< http://www.kitanonishiki.com/?page_id=31 >。
6	国指定文化財等データベース：沼田家住宅旧第二りんご倉庫，< https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00009248 >。 札幌市：旧沼田家りんご倉庫（LLOYD'S COFFEE 西岡店），< https://www.city.sapporo.jp/keikaku/keikan/rekiken/buildings/building41.html >，2017年12月28日最終更新。 LLOYD'S COFFEE 西岡店：Instagram@lloyds_coffee_nisioka。
7	北海道教育委員会：北海道の近代化遺産—近代化遺産総合調査報告書一，1995年3月：42。 国指定文化財等データベース：中標津町郷土館緑ヶ丘分館（旧北海道農事試験場根室支場陳列館），< https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00007710 >。 根室振興局：中標津町郷土館緑ヶ丘分館（旧北海道農事試験場根室支場陳列館）（中標津町），< https://www.nemuro.pref.hokkaido.lg.jp/ss/srk/kanko/nmrgsdb/7history/7h-chinretsukan.html >。 中標津町郷土館：緑ヶ丘分館，< http://www.nakashibetsu.jp/kyoudokan_web/l08.htm >。
8	北海道教育委員会：北海道の近代化遺産—近代化遺産総合調査報告書一，1995年3月：42。 国指定文化財等データベース：伝成館（旧北海道農事試験場根室支場庁舎），< https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00007709 >。 中標津町教育委員会：中標津町郷土館だより 第29号，< http://www.nakashibetsu.jp/kyoudokan_web/file/dayori29.pdf >，2017年12月30日。 根室管内・中標津町 NPO 法人伝成館まちづくり協議会：開拓の記憶を後世に，< http://www.do-shiminkatsudo.jp/center/info/2015-8.pdf >。

No.	転用事例の参考文献集
9	<p>北海道教育委員会：北海道の近代化遺産―近代化遺産総合調査報告書一，1995 年 3 月：43。</p> <p>国指定文化財等データベース：北海道林木育種場旧庁舎， ＜https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00002189＞。</p> <p>江別市：北海道林木育種場旧庁舎， ＜https://www.city.ebetsu.hokkaido.jp/site/kyouiku/3025.html＞，2021 年 3 月 5 日最終更新。</p> <p>（※調査時から用途の変化あり。2019 年調査時は用途が決まっておらず、日時を限定した公開を行い活用主を探していたが、2021 年、カフェへの改修が決定。）</p>
10	<p>青森県教育庁文化課：青森県の近代化遺産 近代化遺産総合調査報告書，2000 年 3 月：118-119。</p> <p>国指定文化財等データベース：旧河内屋橋本合名会社， ＜https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00000924＞。</p> <p>青森県：旧河内屋橋本合名会社，＜https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kyoiku/e-bunka/torokuyukei_2.html＞，2009 年 3 月 31 日最終更新。</p> <p>青森自慢料理 ほこるや：こだわり，＜https://t310200.gorp.jp/＞。</p>
11 12 13 14 15	<p>青森県教育庁文化課：青森県の近代化遺産 近代化遺産総合調査報告書，2000 年 3 月：102-111。</p> <p>国指定文化財等データベース：盛田牧場一号廐舎（南部曲屋育成廐舎）， ＜https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00001463＞，</p> <p>盛田牧場五号廐舎（種牡馬廐舎）， ＜https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00001467＞，</p> <p>盛田牧場三号廐舎（繁殖廐舎）， ＜https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00001465＞，</p> <p>盛田牧場四号廐舎（繁殖廐舎）， ＜https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00001466＞，</p> <p>盛田牧場二号廐舎（育成廐舎）， ＜https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00001464＞。</p> <p>金子ファーム：金子ファームについて， ＜https://www.kaneko-farm.jp/about#company＞。</p> <p>金子ファーム：曲がり屋 KANEKO， ＜https://www.kaneko-farm.jp/locations/kaneko＞。</p> <p>（※No.11 は調査時から用途の変化あり。2020 年 4 月に営利活動開始。）</p>
16 17	<p>国指定文化財等データベース：八戸酒造北蔵， ＜https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00008235＞，</p> <p>八戸酒造煉瓦蔵，＜https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00008238＞。</p> <p>陸奥男山・陸奥八仙醸造元 八戸酒造株式会社：蔵について， ＜http://sakenokura.com/Strollspot101.html＞。</p>
18	<p>国指定文化財等データベース：横屋酒造東蔵， ＜https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00003035＞。</p> <p>千厩まちづくり株式会社：国指定登録有形文化財 一関市千厩酒のくら交流施設（旧佐藤家住宅・横屋酒造），＜http://sakenokura.com/Strollspot101.html＞。</p> <p>一関市観光協会公式サイトいち旅！：第 22 回黄金の国 陶芸展， ＜https://www.ichitabi.jp/imagem/topics/file/1533699575_01.pdf＞。</p>
19	<p>釜石市教育委員会：旧釜石鉱山事務所保存活用計画 国登録有形文化財(建造物)，2015 年 3 月。</p> <p>国指定文化財等データベース：旧釜石鉱山事務所， ＜https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00009573＞。</p> <p>釜石市：岩手緊急事態宣言に伴い、旧釜石鉱山事務所を休館します【期間延長】8/13～9/30，＜https://www.city.kamaishi.iwate.jp/docs/2019122700109/＞，2021 年 8 月 13 日最終更新。</p>

No.	転用事例の参考文献集
20	<p>岩手県教育委員会事務局文化課：岩手県の近代化遺産 岩手県近代化遺産「建造物等」総合調査報告書，1997年3月：110-112。</p> <p>国指定文化財等データベース：旧東北砕石工場， ＜https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00000010＞。</p> <p>一関市：石と賢治のミュージアム 太陽と風の家， ＜https://www.city.ichinoseki.iwate.jp/index.cfm/6,21145,149,html＞，2019年2月8日最終更新。</p>
21 22 23 24 25 26	<p>国指定文化財等データベース：世嬉の一酒造場旧びん詰貯蔵庫・麴室， ＜https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00001224＞，</p> <p>世嬉の一酒造場旧原料米置場・精米所， ＜https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00001223＞，</p> <p>世嬉の一酒造場旧作業場・釜場， ＜https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00001225＞，</p> <p>世嬉の一酒造場旧仕込蔵・酒母室， ＜https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00001226＞，</p> <p>世嬉の一酒造場売場倉庫， ＜https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00001227＞，</p> <p>世嬉の一酒造場旧店舗・事務所， ＜https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00001229＞。</p> <p>世嬉の一酒造場：酒のイーハトーヴ 案内マップ， ＜https://sekinoichi.co.jp/areamap/＞。</p>
27 28	<p>国指定文化財等データベース：海老喜旧酒蔵（蔵の資料館）， ＜https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00012277＞，</p> <p>海老喜旧醤油仕込蔵（海老喜ホール）， ＜https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00012278＞。</p> <p>海老喜：蔵の資料館，＜http://ebiki.com/?mode=f3＞。 （※調査時からのとして、見学ルートの解説が追記、また貸し出す意向やリノベーション可能との追記あり。）</p>
29	<p>国指定文化財等データベース：男山本店客座敷， ＜https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00012270＞。</p> <p>男山本店：男山本店について，＜https://shop.kesennuma.co.jp/?mode=f1＞。</p> <p>気仙沼風待ち復興検討会：祝！ 男山本店客座敷改修工事竣工、オープンしました！，＜https://kazamachi.jp/news/529.html＞，2019年1月10日更新。</p>
30	<p>国指定文化財等データベース：ひろ建築工房事務所兼主屋及び土蔵（旧高彦製麺所店舗兼主屋及び土蔵）， ＜https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00008087＞。</p> <p>ひろ建築工房：トップページ，＜http://hiro-atelier.com/index.html＞。</p>
31	<p>秋田県教育委員会：秋田県の近代化遺産 日本近代化遺産総合調査報告書，1992年3月：43-44。</p> <p>国指定文化財等データベース：旧角館製糸工場， ＜https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00000558＞。</p>
32	<p>国指定文化財等データベース：旧小坂鉾山工作課原動室， ＜https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00011850＞。</p> <p>小坂まちづくり株式会社：赤煉瓦倶楽部（喫茶）， ＜http://kosaka-mco.com/publics/index/235/＞。</p>
33	<p>国指定文化財等データベース：齋彌酒造店ギャラリー（旧米蔵）， ＜https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00000611＞。</p> <p>雪の茅舎：齋彌酒造店について， ＜http://www.yukinobousha.jp/aboutus/index.html＞。</p>

No.	転用事例の参考文献集
33	<p>由利本荘市：齋彌酒造店, <https://www.city.yurihonjo.lg.jp/up/files/www/bunka-sport/bunka/c1322/c2158/shiryo_saiya.pdf>。 SAKETIMES：“權入れをしない”自然に任せた酒造りを極める。「雪の茅舎」を醸す秋田県・齋彌酒造店を訪ねて, <https://jp.sake-times.com/knowledge/sakagura/sake_g_saiyashuzoten>, 2018 年 3 月 13 日投稿。</p>
34 35 36 37 38 39 40 41	<p>秋田県教育委員会：秋田県の近代化遺産 日本近代化遺産総合調査報告書, 1992 年 3 月：24-25。 国指定文化財等データベース： 秋田公立美術工芸短期大学実習棟一号棟, <https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00001824>, 秋田公立美術工芸短期大学実習棟三号棟, <https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00001826>, 秋田公立美術工芸短期大学実習棟二号棟, <https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00001825>, 秋田公立美術工芸短期大学創作工房棟, <https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00001830>, 秋田公立美術工芸短期大学大学開放センターギャラリー棟, <https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00001828>, 秋田公立美術工芸短期大学大学開放センター工芸体験棟, <https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00001827>, 秋田公立美術工芸短期大学大学開放センター地域交流棟, <https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00001829>, 秋田市立新屋図書館倉庫棟, <https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00001831>。 秋田公立美術大学：キャンパスマップ, <https://www.akibi.ac.jp/campus/map>。</p>
42	<p>国指定文化財等データベース：新政酒造旧感恩講西粕蔵, <https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00009883>。 朝日新聞 DIGITAL：秋田）新政が酒と音楽のイベント開催 文化財の蔵も利用, <https://www.asahi.com/articles/ASK4T4DVSK4TUBUB009.html>, 2017 年 4 月 27 日 3 時 00 分更新。</p>
43	<p>国指定文化財等データベース：日の丸醸造本社文庫蔵, <https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00008240>。 日の丸醸造株式会社： 内蔵見学・蔵元直売所<https://hinomaru-sake.com/kurashop>, バーチャル酒蔵見学, <https://hinomaru-sake.com/vrfactorytour>。</p>
44 45 46	<p>国指定文化財等データベース： 勇駒酒造本社西蔵, <https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00002600>, 勇駒酒造本社東蔵, <https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00002599>, 勇駒酒造本社南蔵, <https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00002601>。 旬菜みそ茶屋くらを： 宝暦蔵とお座敷の貸出しについて, <https://kurawo.net/>, （※調査からの変化として、ウェブサイトリニューアルを経て、 勇駒酒造, <https://kurawo.handcrafted.jp/>。） 田園都市建築家の会：秋田の仕事, <https://www.denen-arch.com/post/5546>, 2019 年 10 月 3 日更新。</p>

No.	転用事例の参考文献集
47	国指定文化財等データベース：旧長谷川製糸所, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00010727 >。 山形県上山市：旧長谷川製糸所が国の登録有形文化財に指定されました, < https://www.city.kaminoyama.yamagata.jp/soshiki/25/kaisendou.html >, 2015 年 12 月 25 日更新。 蟹仙洞：ホーム, < https://www.kaisendo.jp/ >。
48 49	国指定文化財等データベース： 佐藤繊維旧紡績工場西棟, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00012094 > 佐藤繊維旧紡績工場東棟, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00012093 >。 GEA：FLOOR MAP, < https://www.gea.yamagata.jp/floormap >。 商店建築：紡績ニットメーカーによる地域活性プロジェクト GEA, 2015 年 9 月 号, 2015 年 8 月 28 日：82-90
50 51	建築思潮研究所：98 用途変更一改修刷新・保存再生・コンバージョン（建築設計資 料），2004 年 10 月 1 日：175-182。 国指定文化財等データベース： 蔵楽（旧宮内蔵市場蔵）三号館, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00011243 >, 蔵楽（旧宮内蔵市場蔵）二号館, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00011242 >。 南陽市：南陽市交流プラザ「蔵楽」のご紹介, < http://www.city.nanyo.yamagata.jp/syougaiakusyu/111 >
52	国指定文化財等データベース：夕鶴の里資料館（旧多勢丸多製糸場蔵）, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00011246 >。 夕鶴の里：入館のご案内, < https://nanyo-bunka.jp/yuduru/guide.html >。
53	国指定文化財等データベース：井上合名会社座敷蔵, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00009428 > まいぶれ会津：新金忠 明治蔵が OPEN しました♪, < https://aizu.mypl.net/article/report_aizu/28024 >, 2019 年 7 月 22 日更新。
54	国指定文化財等データベース：井上合名会社店舗蔵, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00009429 >。 新金忠 ー 食堂 & バルー：< https://snack-bar-2093.business.site/ >。 47NEWS：『蔵』改装...喜多方観光の顔に 飲食店「新金忠」7 月 26 日開店, < https://www.47news.jp/2584100.html >, 2018 年 7 月 22 日 12 時 21 分投稿。 （※2018 年開店、2019 年調査時営業、2021 年 9 月確認時には閉店。2016 年まで は、自社製品の味噌を用いた飲食店であった。2021 年に Google map にて確認した 際はそば屋。）
55	国指定文化財等データベース：甲斐家住宅醤油蔵, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00002352 >。 （一社）喜多方観光物産協会：旧甲斐家蔵住宅, < http://www.kitakata-kanko.jp/category/detail.php?id=3 >。
56 57	国指定文化財等データベース：旧大塚酒造店舗兼主屋, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00011446 >, 旧大塚酒造本蔵, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00011447 >。 観光交流センター秀緑：施設紹介, < https://shuroku.bandokanko.jp/shisetsu-syoukai >。
58	栃木県教育委員会事務局文化財課：栃木県の近代化遺産 栃木県近代化遺産（建造 物等）総合調査報告書, 2003 年 3 月：212-213。

No.	転用事例の参考文献集
58	国指定文化財等データベース：アンタレススポーツクラブ（旧足利模範撚糸工場）， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00001405 >。 アンタレススポーツクラブ：施設， < https://www.club-antares.net/club/facilities/ >。
59 60	栃木県教育委員会事務局文化財課：栃木県の近代化遺産 栃木県近代化遺産（建造物等）総合調査報告書，2003年3月：260-261。 国指定文化財等データベース：古河掛水倶楽部旧館， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00005711 >， 古河掛水倶楽部新館， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00005710 >。 古河掛水倶楽部・古河足尾歴史館：ご利用案内／アクセス， < https://www.furukawakk.co.jp/ashio/access/ >。
61	国指定文化財等データベース：西堀酒造仕込蔵， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00006998 >。 西堀酒造株式会社：若盛アンテナショップ（蔵直売店）， < https://nishiborisyuzo.com/wakazakari-store >。
62	栃木県教育委員会事務局文化財課：栃木県の近代化遺産 栃木県近代化遺産（建造物等）総合調査報告書，2003年3月：268。 国指定文化財等データベース：足尾銅山電話資料館（旧足尾銅山電話交換所）， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00011263 >。 古河掛水倶楽部・古河足尾歴史館：ご利用案内／アクセス， < https://www.furukawakk.co.jp/ashio/access/ >。
63	国指定文化財等データベース：油伝味噌店舗兼主屋， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00007179 >。 栃木市観光協会：油伝味噌， < https://www.tochigi-kankou.or.jp/spot/abudenmiso >。 とちぎ江戸料理：例幣使街道の生きた歴史として 油伝味噌， < http://tochigi-edo.jp/article/油伝味噌-例幣使街道の生きた歴史として- >。
64	群馬県教育委員会文化財保護課：群馬県近代化遺産総合調査報告書，1992年3月：69。 国指定文化財等データベース：MAEHARA 20th（旧合名会社飯塚織物工場）， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00004800 >。 Maehara 20th 桐生自動車博物館：トップ，< http://www.maehara20th.com/ >。
65	国指定文化財等データベース：岡直三郎商店大間々工場店舗兼主屋， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00009706 >。 株式会社岡直三郎商店：会社概要， < http://www.nihonichi-shoyu.co.jp/information.html >。 岡直三郎商店 230 年史編纂班：喜氣如醸， < https://aiwa-ad.co.jp/kikikamosugagotosi/ >：70-71。
66	群馬県教育委員会文化財保護課：群馬県近代化遺産総合調査報告書，1992年3月：67。 佐々木正純：きりゅう百景 人と糸が織りなすまち桐生 風景選集，株式会社アズ，2008年11月15日：36-37。 国指定文化財等データベース：旧株式会社金芳織物工場鋸屋根工場， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00000950 >。 ベーカリーカフェ レンガ：HOME，< https://www.kiryu-renga.jp/ >。
67	塚田伸也，森田哲夫，湯沢昭：地方都市における煉瓦蔵の活用から捉えた評価に関する検討 群馬県前橋市における酒造煉瓦蔵を事例として，日本建築学会計画系論文集 第76巻 第659号，2011年1月：83-90。

No.	転用事例の参考文献集
67	国指定文化財等データベース：旧大竹酒造煉瓦蔵, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00011059 >。 前橋市：前橋市芸術文化れんが蔵 概要・利用方法, < https://www.city.maebashi.gunma.jp/soshiki/bunkasupotsukanko/bunkakokusai/gyomu/5/2/5195.html >。
68	佐々木正純：きりゅう百景 人と糸が織りなすまち桐生 風景選集, 株式会社アズ, 2008 年 11 月 15 日：85。 国指定文化財等データベース：旧堀祐織物工場（美容室アッシュキリュウ）, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00005247 >。 桐生市：旧堀祐織物工場（美容室アッシュ）, < https://www.city.kiryu.lg.jp/kankou/bunkazai/1010700/kunitouroku/1007515.html >, 2017 年 11 月 10 日更新。
69 70	国指定文化財等データベース： 旧日本間酒造酒蔵及び釜屋, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00010918 >, 旧日本間酒造店舗兼主屋, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00010917 >。 前橋市：「旧日本間酒造店舗兼主屋」「旧日本間酒造酒蔵及び釜屋」が国登録有形文化財 (建造物)に登録されました, < https://www.city.maebashi.gunma.jp/soshiki/kyoiku/bunkazaihogo/gyomu/3/4/5118.html >, 2019 年 2 月 1 日最終更新。 Twitter@HONMAYA4。
71	国指定文化財等データベース：金子織物株式会社旧従業員宿舎, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00010103 >。 桐生市：金子家住宅（4 件）, < https://www.city.kiryu.lg.jp/kankou/bunkazai/1010700/kunitouroku/1009178.html >, 2021 年 1 月 27 日最終更新。 群馬大学生協アパート情報：金子荘, < https://univroom.jp/gu/?mode=detail&bid=10146 >。
72 73	佐々木正純：きりゅう百景 人と糸が織りなすまち桐生 風景選集, 株式会社アズ, 2008 年 11 月 15 日：116-117。 国指定文化財等データベース：後藤織物旧釜場, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00005415 >, 後藤織物倉庫, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00005418 >。 桐生市：後藤織物 全 11 棟, < https://www.city.kiryu.lg.jp/kankou/bunkazai/1010700/kunitouroku/1007533.html >, 2020 年 11 月 25 日最終更新。
74 75	国指定文化財等データベース： 今井酒造店新蔵, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00011064 >, 今井酒造店本蔵, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00011063 >。 株式会社今井酒造店：HOME, < https://www.kaze-kura.com/ >。 Facebook@Kaze.Kura.Toriyama, かぜくら 今井酒造店。
76 77 78 79 80 81 82 83	佐々木正純：きりゅう百景 人と糸が織りなすまち桐生 風景選集, 株式会社アズ, 2008 年 11 月 15 日：112-113。 国指定文化財等データベース： 森秀織物旧釜場, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00005575 >, 森秀織物旧寄宿舍一（製品加工場）, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00005569 >, 森秀織物旧寄宿舍二, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00005570 >,

No.	転用事例の参考文献集
76 77 78 79 80 81 82 83 84	森秀織物旧現場事務所（経糸整経場）， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00005567 > 森秀織物旧工場，< https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00005573 >， 森秀織物旧整経場， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00005574 >， 森秀織物旧土蔵，< https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00005572 > 森秀織物旧撚糸場， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00005571 > 森秀織物旧物置（八丁撚糸場）， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00005568 > 森秀織物：会社案内，< http://www.morihide.co.jp/company.html >。 桐生市：森秀織物工場 全 10 棟， < https://www.city.kiryu.lg.jp/kankou/bunkazai/1010700/kunitouroku/1002000.html >，2021 年 1 月 27 日最終更新。
85	国指定文化財等データベース：分福酒造店舗， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00000428 >。 分福酒造株式会社：毛塚記念館，< http://bunbuku.net/kinenkan/index.html >。
86	佐々木正純：きりゅう百景 人と糸が織りなすまち桐生 風景選集，株式会社アズ， 2008 年 11 月 15 日：18-19。 国指定文化財等データベース：無鄰館主屋（旧北川織物工場主屋）， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00004928 >。
87	国指定文化財等データベース：浦和くらしの博物館民家園展示棟（旧浦和市農業協同組合三室支所倉庫）， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00000234 >。 さいたま市：文化財紹介 浦和くらしの博物館民家園展示棟（旧浦和市農業協同組合三室支所倉庫）， < https://www.city.saitama.jp/004/005/006/001/016/p000149.html >，2016 年 9 月 15 日最終更新。 さいたま市：浦和くらしの博物館民家園 利用案内， < https://www.city.saitama.jp/004/005/004/005/003/002/p032604.html >，2021 年 7 月 27 日最終更新。
88	国指定文化財等データベース：岸本家住宅主屋， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00007876 >。 上庄かふえ：HOME，< https://ueshocafe.shopinfo.jp/ >。
89 90 91	国指定文化財等データベース： 旧鏡山酒造昭和蔵， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00006789 >， 旧鏡山酒造大正蔵， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00006788 >， 旧鏡山酒造明治蔵， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00006787 >。 川越市産業観光館：小江戸蔵里，< https://www.machikawa.co.jp/ >。 丹青社：小江戸蔵里，< https://www.tanseisha.co.jp/works/detail/53857 >。
92 93	埼玉県立博物館：埼玉県の近代化遺産 近代化遺産総合調査報告書，1996 年 3 月：41。 国指定文化財等データベース：旧石川組製糸西洋館別館， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00002521 >。 旧石川組製糸西洋館本館， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00002520 >。 入間市：旧石川組製糸西洋館，2021 年 9 月 11 日最終更新， < http://www.city.iruma.saitama.jp/event/event_info/seiyoukan_koukai.html >。

No.	転用事例の参考文献集
94	国指定文化財等データベース：飯能織物協同組合事務所棟, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00011876 >。 文化新聞：国の登録有形文化財に 飯能織協事務所棟, < http://www.bunkashinbun.co.jp/wp/2017/07/27/国の登録有形文化財に 飯能織協事務所棟 >, 2017 年 7 月 27 日最終更新。 Pano Weave：導入実績 飯能織物協同組合事務所様 3D ヴュー, < https://panoweave.com/results/3d/99/ >。
95	国指定文化財等データベース：旧水田家住宅長屋門, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00002608 >。 城西国際大学：旧水田家住宅, < http://www.jiu.ac.jp/mizutake/ >。
96 97 98 99	国指定文化財等データベース： 旧西廣家住宅（治郎吉）缶詰工場, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00012099 >, 旧西廣家住宅（治郎吉）主屋, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00012098 >, 旧西廣家住宅（治郎吉）倉庫（南倉）, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00012101 >, 旧西廣家住宅（治郎吉）倉庫（北倉）, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00012100 >。 銚子時間：旧西廣家（治郎吉）住宅（国登録有形文化財）, < https://choshi-jikan.jp/post-172 >。
100	国指定文化財等データベース：旧浅子神輿店店舗兼主屋, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00008259 >。 市川市：市川市行徳ふれあい伝承館, < https://www.city.ichikawa.lg.jp/cul01/1111000189.html >, 2021 年 9 月 7 日最終更新。
101	国指定文化財等データベース：飯沼本家明治蔵, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00011882 >。 飯沼本家：酒蔵について, < https://www.iinumahonke.co.jp/sakagura/tour >。
102	国指定文化財等データベース：青梅織物工業協同組合旧織物加工工場, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00011273 >。 一般社団法人 青梅市観光協会：手作り工房 日向, < https://www.omekanko.gr.jp/spot/70001/ >。 Facebook@oumeorimonokumiai1932。
103	国指定文化財等データベース：青梅織物工業協同組合旧発券倉庫, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00011274 >。 ふだんのごちそう蔵蔵：トップページ, < https://mayugura.com/ >。
104	国指定文化財等データベース：石川酒造向蔵, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00003848 >。 石川酒造株式会社：石川酒造「見学コース」ご案内, < https://www.tamajiman.co.jp/tour/ >。
105	国指定文化財等データベース：田村酒造旧水車小屋及び脇蔵, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00009726 >。 田村酒造場：田村酒造場の蔵見学, < http://www.seishu-kasen.com/kurakengaku >。 タチカワオンライン：酒蔵見学と芋煮会レポート, < http://www.tachikawaonline.jp/event/imoni/report2010/ >。（※2021 年確認時消失）
106	平塚市教育委員会社会教育部社会教育課：登録有形文化財旧横浜ゴム平塚製造所記念館解体調査報告書及び移築・復原工事報告書, 2011 年 3 月。

No.	転用事例の参考文献集
106	国指定文化財等データベース：旧横浜ゴム平塚製造所記念館, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00004217 >。 旧横浜ゴム平塚製造所記念館 八幡山の洋館：入館案内, < http://hiratsuka-yokan1906.jp/guide/index.html >。
107 108 109 110 111	国指定文化財等データベース：旧内野醤油店工場, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00011902 >, 旧内野醤油店穀蔵, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00011901 >, 旧内野醤油店店蔵, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00011899 >, 旧内野醤油店店舗兼主屋, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00011897 >, 旧内野醤油店文庫蔵, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00011900 >。 小田原市：小田原板橋・内野邸, < https://www.city.odawara.kanagawa.jp/public-i/facilities/matsunaga/topics/uchinotei-2021.html >。 Facebook@板橋まちなみファクトリー。 Instagram@bukouan20171022。
112	国指定文化財等データベース：機那サフラン酒製造本舗土蔵, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00005825 >。 機那サフラン酒本舗保存を願う市民の会：サフラン物語について, < http://kina-saffron.com/saffron.html >。 Facebook@nnn.settaya 機那サフラン酒本舗保存を願う市民の会。
113	国指定文化財等データベース：旧野澤豊五郎醸造醤油蔵, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00011101 >。 村上市観光情報発信基地むらかみ：旧マルマス醤油蔵（旧野澤豊五郎醸造醤油蔵）, < https://www.sake3.com/spot/7085 >。 塩谷基地しおやベース：マルマス蔵, < http://shioyabase.web.fc2.com/kura.html >。
114	国指定文化財等データベース：星野本店三階蔵, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00009447 >。 株式会社星野本店：会社概要, < http://hoshino-honten.jp/company/ >。 LIS：LIS ギャラリー, < https://lis.farm8.jp/ >。 tabineko：「たびねこ長岡展 2019」終わりました., < https://www.tabi-neko.info/2019/10/08/たびねこ長岡展2019-終わりました/ >, 2019 年 10 月 8 日投稿。
115	国指定文化財等データベース：樋木酒造店舗兼主屋, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00001576 >。 早川和宏：世界でいちばん楽しい会社一夢を追う 12 の起業家たち, 2012 年 10 月 1 日：178-179。
116 117 118 119	国指定文化財等データベース：旧宮崎酒造衣装蔵, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00008112 >, 旧宮崎酒造麹蔵, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00008111 >, 旧宮崎酒造酒蔵, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00008110 >, 旧宮崎酒造店舗兼主屋, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00008109 >。 とやま学遊ネット：旧宮崎酒造酒蔵(きゅうみやざきしゅぞうさかぐら), < https://www2.tkc.pref.toyama.jp/general/stdydtl.aspx?stdycd=00083659 >。

No.	転用事例の参考文献集
116 117 118 119	全宅連：特定非営利活動法人滑川宿まちなみ保存と活用の会／富山県滑川市， < https://www.zentak.or.jp/cms/wp-content/themes/zentak2020/assets/pdf/research/report/research_project/archive2018/case3_4.pdf >。 株式会社金山産業：会社案内，< https://www.kanayama-s.co.jp/corp/csr.html >。 宮崎酒造保存準備委員会：紹介 -その2-，< https://mshuzo.exblog.jp/ >，2009 年 10 月 17 日投稿。 Facebook@cafe.umiiro。
120	富山県教育委員会文化課：富山県の近代化遺産 富山県近代化遺産総合調査報告書，1996 年 3 月：64。 国指定文化財等データベース：城端織物組合事務所， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00002032 >。 JOHANA ORIYAKATA：TOP，< https://www.oriyakata.com/index.html >。
121	国指定文化財等データベース：旧山長織物会社事務所， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00003226 >。 深田久弥山の文化館：施設紹介， < http://www2.kagacable.ne.jp/~yamabun/sisetu.htm >。
122	国指定文化財等データベース：旧北森酒店店舗兼主屋， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00011285 >。 自生園：小規模多機能型居宅介護事業所 為楽庵（いらくあん）， < https://jishoen.com/service/other/#iraku >。
123	石川県教育委員会：石川県の近代化遺産 石川県近代化遺産(建造物等)総合調査報告書，2008 年 3 月：52。 国指定文化財等データベース：金沢市民芸術村事務所棟， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00009264 >。 金沢市民芸術村：施設概要 事務所棟， < https://www.artvillage.gr.jp/facilities/office >。
124	石川県教育委員会：石川県の近代化遺産 石川県近代化遺産(建造物等)総合調査報告書，2008 年 3 月：73。 国指定文化財等データベース：金沢市立玉川図書館別館（旧専売公社 C-1 号工場）， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00000041 >。 金沢市図書館：施設案内，< https://www.lib.kanazawa.ishikawa.jp/?page_id=248 >。
125	国指定文化財等データベース：小山屋醤油店醤油蔵， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00011942 >。 小山屋醤油店：小山屋の蔵，< https://oyamaya.info/warehouse/ >。
126	国指定文化財等データベース：越前和紙の里卯立の工芸館（旧西野家住宅主屋及び紙漉場），< https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00007208 >。 卯立の工芸館：ABOUT，< https://www.echizenwashi.jp/udatsu/about/ >。
127	国指定文化財等データベース：旧鯖江地方織物検査所， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00001697 >。 さばかん：旧鯖江地方織物検査所（さばえ現代美術センター）， < https://www.city.sabae.fukui.jp/kanko/sightseeing/artcenter.html >。 （※調査時からの変化あり。2020 年 4 月から教室。）
128 129	福井県教育委員会：福井県の近代化遺産，1999 年 3 月：63。 国指定文化財等データベース：旧紐育スタンダード石油会社倉庫南棟， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00007480 >， 旧紐育スタンダード石油会社倉庫北棟， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00007479 >。 敦賀赤レンガ：施設ガイド， < https://tsuruga-akarenga.jp/modules/info/index.php?action=PageView&page_id=6 >。

No.	転用事例の参考文献集
130 131	国指定文化財等データベース：平成大野屋本店二階蔵, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00000727 >, 平成大野屋本店洋館, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00000726 >。 株式会社平成大野屋：二階蔵, < https://www.h-onoya.co.jp/nikaigura/ >, はいから茶屋（洋館）, < https://www.h-onoya.co.jp/yokan/ >。
132	国指定文化財等データベース：風間酒造酒造蔵, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00004752 >。 甲斐ワイナリー株式会社：工場見学, < http://www.kaiwinery.com/visit/ >。
133	国指定文化財等データベース：ふれあい館まゆぐら（旧田尻製糸）, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00003544 >。 須坂市：ふれあい館まゆぐら施設紹介, < https://www.city.suzaka.nagano.jp/contents/item.php?id=59656ae1e47ee >, 2021 年 1 月 7 日最終更新。
134	上田市マルチメディア情報センター：依水館, < https://museum.unic.jp/bunkazai/document/dot87.html >。 北陸・信越観光ナビ：製糸の遺産、上田の「依水館」一般公開 4 日と 5 日, < https://www.hokurikushinkansen-navi.jp/pc/news/article.php?id=NEWS0000012600 >, 2017 年 11 月 3 日投稿。
135 136	国指定文化財等データベース：塩屋醸造穀蔵, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00006231 >, 塩屋醸造醤油蔵, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00006229 >。 有限会社 塩屋醸造：アクセス情報／レンタルスペース／蔵見学・体験, < http://www.shioya.co.jp/access-rental-tour/ >。
137 138	長野県教育委員会：長野県の近代化遺産 長野県近代化遺産(建造物等)総合調査報告書, 2009 年 3 月：38。 国指定文化財等データベース：旧山一林組製糸事務所, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00004540 >, 旧山一林組製糸守衛所, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00004541 >。 信州シルクロード：施設の紹介 きぬのふるさと岡谷絹工房, < http://shinshu-silkroad.jp/きぬのふるさと岡谷絹工房/ >。
139	長野県教育委員会：長野県の近代化遺産 長野県近代化遺産(建造物等)総合調査報告書, 2009 年 3 月：48。 国指定文化財等データベース：旧上高地孵化場物置（信州大学山岳科学総合研究所上高地ステーション別館）, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00008987 >。
140 141 142 143 144 145	国指定文化財等データベース： 坂井銘醸寛政蔵,< https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00003095 >, 坂井銘醸慶応蔵,< https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00003096 >, 坂井銘醸昭和蔵,< https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00003099 >, 坂井銘醸大正蔵,< https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00003098 >, 坂井銘醸宝暦蔵,< https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00003094 >, 坂井銘醸明治蔵,< https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00003097 >。 坂井銘醸株式会社：蔵元坂井銘醸, < http://www.sakagura.co.jp/sakaimeijo/index.html >。
146	国指定文化財等データベース：松川村収蔵庫, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00009168 >。 松川村：フォトニュース 2019.6.3 収蔵庫に農具・民具の展示室完成, < http://www.vill.matsukawa.nagano.jp/photo-news/archives/002535.php >。

No.	転用事例の参考文献集
147	国指定文化財等データベース：日下部味噌醤油醸造煉瓦館, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00010302 >。 駄菓子カフェバー A-55 飛騨高山店：店内紹介, < https://peraichi.com/landing_pages/view/dagashitakayama/ >。 和食処 角一亭, < http://www.kusakabe-miso.co.jp/company/kakutei.html >。 イーグルコーヒー高山：サイフォンで淹れる自家焙煎コーヒーの店「茉莉花（じゃすみん）」, < http://eagle-coffee.com/blog/cafe/jasmine/ >, 2015 年 5 月 2 日投稿。
148	国指定文化財等データベース：菊川赤れんが倉庫, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00009966 >。 NPO 法人菊川まちいき：菊川市赤レンガ倉庫の保存に向けて, < http://www9.plala.or.jp/kikugawamatiiki/page4.html >。
149	国指定文化財等データベース：旧丸四織物合名会社倉庫（ドルチェ倉庫）, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00009608 >。 登録有形文化財 DOLCE 倉庫：ドルチェ倉庫について, < http://www4.tokai.or.jp/dolcesouko/about.html >。
150	静岡県教育委員会文化課：静岡県の近代化遺産：静岡県近代化遺産(建造物等)総合調査報告書, 2000 年 3 月：120-121。 国指定文化財等データベース：大井上康学術文献資料館（旧大井上理農学研究所事務所及び実験所）, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00001775 >。 伊豆観光情報サイト：大井上康学術文献資料館（国登録有形文化財）, < http://kanko.city.izu.shizuoka.jp/form1.html?c1=5&c2=1&aid=2&pid=2438 >。
151 152 153 154 155	国指定文化財等データベース：旧中七木綿本店作業所・寄宿舍, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00011729 >, 旧中七木綿本店主屋（旧事務所）, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00011725 >, 旧中七木綿本店長屋門, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00011727 >, 旧中七木綿本店南蔵, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00011726 >, 旧中七木綿本店北蔵, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00011730 >。 愛知県：登録有形文化財(建造物)の登録についてお知らせします 資料 3, < https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/233101.pdf >, 2020 年 4 月 1 日最終更新。 生地問屋 竹内宏商店：竹内宏商店のショップ, < https://shirushi-zome.jp/antennashop/ >。
156	国指定文化財等データベース：中定商店大五蔵, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00011323 >。 豆味噌・たまち醤油・こうじ 宝山 合名会社中定商店：豆味噌・たまり 醸造伝承館, < https://www.ho-zan.jp/company/denshoukan.html >。
157	愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室：愛知県の近代化遺産 愛知県近代化遺産(建造物等)総合調査報告書, 2005 年 3 月：138-139。 国指定文化財等データベース：八丁味噌本社蔵（史料館）, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00000051 >。 合資会社 八丁味噌 カクキュー：工場見学（八丁味噌の郷）史料館, < https://www.kakukyu.jp/facilities_archives.asp >。
158 159 160	愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室：愛知県の近代化遺産 愛知県近代化遺産(建造物等)総合調査報告書, 2005 年 3 月：130-131。

No.	転用事例の参考文献集
158 159 160	次世代公共建築研究会リノベーション・コンバージョン部会：公共建築のリノベーション・コンバージョン 個別解を導くためのガイドブック, 2018 年 7 月:92-97。 国指定文化財等データベース：半田赤レンガ建物（旧カブトビール工場）ハーフティンバー棟, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00004242 >, 半田赤レンガ建物（旧カブトビール工場）創建時主棟, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00004241 >, 半田赤レンガ建物（旧カブトビール工場）貯蔵庫棟, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00004243 >。 半田赤レンガ建物：半田赤レンガ建物について, < https://handa-akarenga-tatemono.jp/about/ >。
161	国指定文化財等データベース：墨会館, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00007215 >。 墨会館・小信中島公民館：墨会館について, < http://sumikaikan.jp/墨会館 >。
162 163 164 165	愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室：愛知県の近代化遺産 愛知県近代化遺産(建造物等)総合調査報告書, 2005 年 3 月:347, 355。 国指定文化財等データベース：明治村菊の世酒蔵, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00003884 >, 明治村京都中井酒, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00003663 >, 明治村工部省品川硝子製造所, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00003866 >, 明治村鉄道局新橋工場, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00003659 >。 博物館 明治村：菊の世酒蔵, < https://www.meijimura.com/sight/菊の世酒蔵/ >, 京都中井酒造, < https://www.meijimura.com/sight/京都中井酒造/ >, 工部省品川硝子製造所, < https://www.meijimura.com/sight/工部省品川硝子製造所/ >, 鉄道局新橋工場, < https://www.meijimura.com/sight/鉄道局新橋工場/ >。
166	国指定文化財等データベース：窯のある広場・資料館（倒焰式角窯）, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00000215 >。 LIXIL：INAX ライブミュージアム ご利用案内・アクセス, < https://livingculture.lixil.com/ilm/guide/ >。
167 168	国指定文化財等データベース：伊勢河崎商人館サイダー検査室, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00002268 >, 伊勢河崎商人館応接室及び前室, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00002547 >。 伊勢河崎商人館：商人館案内, < http://www.isekawasaki.jp/info/ >。
169	四日市市教育委員会：東洋紡績株式会社富田工場—四日市市歴史的建造物（近代建築）調査の記録⑥—, 1996 年 3 月。 東畑建築設計事務所名古屋事務所：四日市市富田ショッピングセンター・レストラン棟（旧東洋紡績株式会社富田工場原綿倉庫）, デイテール No.155 2003 年 1 月号, 2003 年 1 月:48-49。 国指定文化財等データベース：旧東洋紡績株式会社富田工場原綿倉庫, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00001712 >。 イオンモール四日市北：フロアガイド, < https://www.aeon.jp/sc/yokkaichikita/shop/floor/pdf/yokkaichikita.pdf >。
170	三重県教育委員会：三重県の近代化遺産, 1996 年 3 月:92。 国指定文化財等データベース：松阪市文化財センター（旧カネボウ綿糸松阪工場綿糸倉庫）, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00002773 >。 松阪市教育委員会：松阪市文化財センター要覧 ギャラリー／はにわ館。 松阪市文化財センター・はにわ館：文化財センター解説リーフレット 鈴の森に工場があった頃 カネボウ綿糸松阪工場。

No.	転用事例の参考文献集
171 172 173 174 175	<p>国指定文化財等データベース： 長谷園体験工房，<https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00010474>， 長谷園大正館，<https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00009028>， 長谷園展示室一，<https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00010469>， 長谷園展示室三，<https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00010471>， 長谷園展示室二，<https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00010470>。 伊賀焼窯元 長谷園（ながたにえん）：長谷園のご紹介， <https://www.igamono.co.jp/about/index.html>， 伊賀本店，<https://www.igamono.co.jp/about/head_office.html>。 旅ぐるなび：炊飯土鍋「かまどさん」を世に送り出す、伊賀焼窯元 長谷園を訪ねる，<https://gurutabi.gnavi.co.jp/a/a_1640/>，2017 年 4 月 4 日最終更新。</p>
176 177 178	<p>国指定文化財等データベース：八太正太夫酒店角蔵及び化粧室， <https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00009478>， 八太正太夫酒店向い座敷及び下の蔵， <https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00009477>， 八太正太夫酒店蔵及び蔵前， <https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00009476>。 三重県 文化財データベース：八太正太夫酒店蔵及び蔵前， <http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/Miebunka/mobile/bunkazaiMobile/detail/730972>。 津市スポーツ推進委員会：からす再発見ウォーク， <http://tsu-sposui.com/2017/11/12/からす再発見ウォーク.html>，2017 年 11 月 12 日 19 時 11 分最終更新。 みんなから：八太正太夫酒店文化財建造物巡り， <https://minkara.carview.co.jp/userid/2436341/blog/43052719/>，2019 年 7 月 14 日最終更新。</p>
179	<p>国指定文化財等データベース：油正ホール， <https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00006861>。 株式会社油正：油正，<http://www.abusyou-hatsuhi.co.jp/>，2021 年確認時消失。 Facebook@abusyou。 伊勢新聞：“つくりびと”、15 人の芸術 絵画、陶芸、書など 200 点 津の油正ホール 三重，<https://www.isenp.co.jp/2018/09/27/23309/>，2018 年 9 月 27 日最終更新。 （※調査時からの変化あり。株式会社油正は 2021 年廃業。）</p>
180 181	<p>国指定文化財等データベース：旧正野薬店店舗， <https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00001425>， 旧正野薬店東蔵，<https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00001426>。 滋賀県日野町：日野まちかど感応館本館・新館・ギャラリーつつむ， <http://www.town.shiga-hino.lg.jp/contents_detail.php?frmId=3689>，2017 年 3 月 1 日最終更新。</p>
182 183 184	<p>国指定文化財等データベース：旧中川煉瓦製造所機械場， <https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00004988>， 旧中川煉瓦製造所事務所， <https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00004987>， 旧中川煉瓦製造所縄縫工場， <https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00004989>。 ジャパンジオグラフィック一般社団法人：滋賀県近江八幡市 旧中川煉瓦製造所， <https://japan-geographic.tv/shiga/omihachiman-nakagawarenga.html>，2014 年 1 月投稿。 社会福祉法人 一善会：よくある質問 ホフマン窯， <https://ichizenkai.com/pages/31/>。</p>

No.	転用事例の参考文献集
185 186	国指定文化財等データベース：中村商家保存館酒蔵, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00001197 >, 中村商家保存館文庫蔵, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00001196 >。 彦根観光ガイド：景観重要建造物 中村商家保存館, < https://www.hikoneshi.com/sightseeing/articles/nakamura >。
187	国指定文化財等データベース：福井三四郎家住宅主屋（びれっじ 2 号館）, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00001278 >。 高島びれっじ 1～8 号館：高島びれっじ 1～8 号館 びれっじ 2 号館, < https://village.shiga-saku.net/e1539586.html >, 2020 年 9 月 2 日最終更新。
188	国指定文化財等データベース：キンシ正宗堀野記念館（旧堀野家本宅）天明蔵, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00002052 >。 キンシ正宗株式会社：堀野記念館 館内案内, < http://kinshimasamune.com/horino/?m=pages/floor >。
189 190	国指定文化財等データベース：旧並河靖之邸工房, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00002415 >, 旧並河靖之邸窯場, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00002416 >。 七宝・花鳥風月の世界 並河靖之七宝記念館：施設案内 建物, < http://www8.plala.or.jp/nayspo/tatemono.html >。
191	国指定文化財等データベース：松本酒造酒蔵ホール, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00009787 >。 澤屋まつもと：TOP, < https://sawayamatsumoto.com/detail >,（※調査時からの 変化として、ホームページリニューアルを確認）。 京都祇園観光案内：松本酒造さん酒蔵見学会, < https://www.kyoto-gion.org/?p=231 >, 2005 年 2 月 6 日投稿。
192	国指定文化財等データベース：日本写真印刷本館, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00009188 >。 一般社団法人 ニッサ印刷文化振興財団：NISSHA 本館について, < http://www.nissha-foundation.org/history_museum/ >。
193	国指定文化財等データベース：うすくち龍野醤油資料館, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00007100 >。 ヒガシマル醤油：うすくち龍野醤油資料館 館内案内, < https://www.higashimaru.co.jp/enjoy/museum/museum01.html >。
194 195	国指定文化財等データベース： ヒガシマル醤油元本社工場原料庫及び仕込蔵, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00009812 >, ヒガシマル醤油元本社工場仕込蔵一, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00009813 >。 たつの市：ヒガシマル醤油元本社工場, < https://www.city.tatsuno.lg.jp/bunkazai/shitei_bunkazai/motohonshabunkazai.ht ml >, 2014 年 4 月 23 日最終更新。
196 197 198 199 200	竹田城城下町 ホテル EN：EN について, < https://www.takedacastle.jp/concept >。 廣田守男, 斎藤正, 中田修司, 嶋津由美子, 師田吉郎：古民家再生文化財建造物再 生 再生プロジェクトデザイン 民間の知恵が再生を可能にした 57 事例, アルフ ァブックス, 2018 年 10 月：50-53。 国指定文化財等データベース：旧木村酒造場舟蔵, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00010868 >, 旧木村酒造場貯蔵所, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00010869 >,

No.	転用事例の参考文献集
196 197 198 199 200	旧木村酒造場店舗兼主屋, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00010866 >, 旧木村酒造場米蔵, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00010867 >, 旧木村酒造場裏門, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00010870 >。
201 202	兵庫県教育委員会事務局文化財室：兵庫県の近代化遺産 兵庫県近代化遺産（建造物等）総合調査報告書，2006 年 3 月：79。 国指定文化財等データベース：旧龍野醤油同業組合事務所， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00011169 >， 旧龍野醤油同業組合醸造工場， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00011170 >。 たつの市：たつの市 醤油の郷 大正ロマン館， < https://www.city.tatsuno.lg.jp/machimiraisozo/taishouroman.html >，2021 年 9 月 9 日最終更新。 KURA TERRACE TATSUNO：About，< https://kuraterrace.jp/ >。
203 204 205	国指定文化財等データベース：鳳鳴酒造釜場及び洗米場， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00003580 >， 鳳鳴酒造仕込蔵，< https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00003581 >， 鳳鳴酒造槽場及び麹室， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00003582 >。 鳳鳴酒造株式会社：鳳鳴酒造 ほろ酔い城下蔵， < https://houmei.wixsite.com/houmeisyuzou/projects-3 >。
206	奈良県教育委員会：奈良県の近代化遺産 奈良県近代化遺産総合調査報告書，2014 年 3 月：85。 国指定文化財等データベース：赤膚山元窯展示室及び旧作業場， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00005984 >。 経済産業省 近畿経済産業局：奈良県の見学可能な産業施設 赤膚山元窯 古瀬堯三，< https://www.kansai.meti.go.jp/2kokuji/tvlist/kohyo/330.html >，2017 年 2 月 3 日最終更新。
207 208	国指定文化財等データベース： 伊勢屋南蔵，< https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00012232 >， 伊勢屋北蔵，< https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00012231 >。 御坊市：伊勢屋（北蔵・南蔵）， < http://www.city.gobo.wakayama.jp/kanko/bunkarekisi/bunka/ahibunka/kenzoubutu/1525759097736.html >。 朝日新聞 DIGITAL：和歌山）御坊の田淵家酒蔵 国登録文化財へ， < https://www.asahi.com/articles/ASKCF5PX1KCFPXLB00Q.html >，2017 年 11 月 28 日 03 時 00 分投稿。 御坊商工会議所：伊勢屋さんからご案内， < http://www.gobo-cci.or.jp/iseya/201804%20iseya.html >。
209	国指定文化財等データベース：丸本酒造南蔵， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00003704 >。 丸本酒造株式会社：蔵見学のご案内 南蔵（要予約）， < http://kamomidori.co.jp/brewery_tour >。
210	岡山県教育庁文化財課：岡山県の近代化遺産 岡山県近代化遺産総合調査報告書，2005 年 3 月：55-56。 国指定文化財等データベース：倉敷市立磯崎眠亀記念館， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00001942 >。 倉敷市：倉敷市立磯崎眠亀記念館， < https://www.city.kurashiki.okayama.jp/5841.htm >。

No.	転用事例の参考文献集
211	国指定文化財等データベース：倉敷紡績記念館， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00001015 >。 KURASHIKI IVY SQUARE：倉紡記念館， < https://www.ivysquare.co.jp/culture/kurabo.html >。
212 213 214 215	国指定文化財等データベース： 三楽荘茶室，< https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00008576 >， 三楽荘土蔵，< https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00008577 >， 三楽荘本館，< https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00008574 >， 三楽荘離れ，< https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00008575 >。 庄原観光ナビ：三楽荘，< https://www.shobara-info.com/spot/232 >。 (※調査時からの変化として、要予約がなくなった。)
216	国指定文化財等データベース：福美人酒造一号蔵， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00011172 >。 福美人酒造：酒蔵紹介，< https://www.fukubijin.co.jp/kura_info.html >。
217	国指定文化財等データベース：旧野村家住宅主屋（山口ふるさと伝承総合センター まなび館），< https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00001294 >。 山口ふるさと伝承総合センター：まなび館， < http://y-densho.sblo.jp/article/65012703.html >，2013年4月17日最終更新。
218	国指定文化財等データベース：蜂谷ビル（旧東洋捕鯨株式会社下関支店）， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00009536 >。 restaurant takatsu：GALLERY，< https://restaurant-takatsu.com/gallery/ >。
219 220	徳島県教育委員会：徳島県の近代化遺産 徳島県近代化遺産(建造物等)総合調査報告書，2006年3月：74。 国指定文化財等データベース：勢玉事務所棟， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00001298 >， 勢玉酒蔵B，< https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00001297 >。 株式会社勢玉：勢玉とは？，< http://seigyokushuzo-sakagura.co.jp/#seigyokutoha >。
221	国指定文化財等データベース：百年蔵旧酒蔵， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00008377 >。 三好市百年蔵：三好市百年蔵とは，< https://100-kura.com/about.html >。 徳島新聞動画 TPV（Tokushima Press Video）：ふるさとを行く～三好市池田町大利・川崎地区 百年蔵，< https://www.youtube.com/watch?v=2Rnih3zh2aE >，2014年11月16日投稿。
222	国指定文化財等データベース：キッコ石石井家住宅醤油蔵， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00004655 >。 香川県教育委員会：香川県内の登録有形文化財， < https://www.pref.kagawa.lg.jp/kenkyoui/shogaigakushu/bunkazai/culturalassets/culturalassets_16.html >。 Architec の寄りみちカメラ：香川・小豆島町（小豆郡） / 醤の郷・馬木散策路 3， < http://kmy4.livedoor.blog/archives/1847166.html >，2018年4月5日09時42分投稿。
223	国指定文化財等データベース：こめっせ宇多津（旧宇多津町農業協同組合倉庫）， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00008595 >。 香川県宇多津町：こめっせ宇多津， < https://www.town.utazu.lg.jp/machi/shisetu/shisetsu/kommesse/ >，2021年9月10日最終更新。
224	国指定文化財等データベース：マルキン記念館（旧醤油醸造工場）， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00000101 >。 盛田株式会社：マルキン醤油記念館， < http://moritakk.com/know_enjoy/shoyukan/ >。

No.	転用事例の参考文献集
225	国指定文化財等データベース：観音寺市郷土資料館展示館（旧三豊郡農会農事試験場），< https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00000712 >。 びんみん：日常旅行日記 夏の香川・島めぐり（6）観音寺の旧農事試験場，< https://binmin.tea-nifty.com/blog/2013/11/post-45d9.html >，2013年11月10日投稿。
226 227	国指定文化財等データベース：京宝亭佃煮販売処西棟（旧黒島伝九郎醤油醸造場醤油蔵），< https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00002836 >， 京宝亭佃煮販売処店舗（旧黒島伝九郎醤油醸造場醤油蔵），< https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00002835 >。 京宝亭：京宝亭について，< https://www.kyohotei.co.jp/help/about >。 （※調査時からの変化あり。2020年2月リニューアルオープン。）
228	国指定文化財等データベース：香龍北川家住宅酒蔵，< https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00004027 >。 クローバーカフェ高松：Gallery，< https://clover-cafe.jp/gallery/ >。
229	国指定文化財等データベース：山田家（旧清酒源氏正宗醸造元）主屋，< https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00002459 >。 うどん本陣 山田屋：讃岐本店，< https://yamada-ya.com/honten.html >。 食べログ：うどん本陣 山田家 讃岐本店 内観，< https://tabelog.com/kagawa/A3701/A370101/37000002/dtlphotolst/3/smp2/ >。
230	国指定文化財等データベース：四国村土佐の楮蒸し小屋，< https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00001735 >。 四国村：伝統産業施設，< https://www.shikokumura.or.jp/intro/intro_02.html >。 4travel.jp：四国村 楮蒸し小屋，< https://4travel.jp/dm_shisetsu/11348978 >。
231	国指定文化財等データベース：小豆島食品（旧岡醤油醸造所）事務所，< https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00004641 >。 小豆島食品株式会社：工場見学，< https://shodoshima-shokuhin.co.jp/factory.html >。
232	国指定文化財等データベース：川鶴酒造鶴鳴館（旧瓶詰蔵），< https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00002999 >。 川鶴酒造株式会社：TOP，< https://kawatsuru.com/ >。 Facebook@sakkanozakkaten。
233	国指定文化財等データベース：淡翁荘主屋，< https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00010359 >。 鎌田ミュージアム：四谷シモン人形館 淡翁荘，< https://kamada-museum.jp/doll >。
234	国指定文化財等データベース：旧浜口家住宅主屋，< https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00010522 >。 ゆったり旅するさかわのしおり：旧浜口家住宅（さかわ観光協会），< https://sakawa-kankou.jp/spot/3 >。
235 236 237	国指定文化財等データベース：松岡家住宅西酒蔵，< https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00004074 >， 松岡家住宅東酒蔵，< https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00004073 >， 松岡家住宅北酒蔵，< https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00004072 >。 日高村教育委員会：旧松岡酒造 【本郷大和田】，< http://www.kochinet.ed.jp/hidaka-v/sub4_5.html >。 日高村観光情報：日高酒蔵ホール，< https://www.vill.hidaka.kochi.jp/kankou/spot_33_play.html >。

No.	転用事例の参考文献集
235	日高酒蔵ホール：ホーム，< https://hidakasakagura.wixsite.com/hall >。
236	日高酒蔵会（旧松岡酒造酒蔵保全活用委員会）：ブログ，
237	< http://matuokasyuzou.jugem.jp/ >。
238	高知県教育委員会：高知県の近代化遺産 高知県近代化遺産(建造物等)総合調査報告書，2002年3月：69。 国指定文化財等データベース：藤村製絲株式会社西蔵， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00001958 >。 藤村製絲株式会社：「近代化産業遺産」「登録有形文化財」の紹介， < http://www.ca.pikara.ne.jp/fujimura/Fujimura_Guide/Fujimura_Guide.html#section1 >。 高知県の観光情報サイト よさこいネット：藤村製絲記念館， < https://www.attaka.or.jp/kanko/dtl.php?ID=7525 >。
239	国指定文化財等データベース：旧サッポロビール九州工場事務所棟， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00006284 >，
240	旧サッポロビール九州工場醸造棟， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00006285 >，
241	旧サッポロビール九州工場組合棟， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00006286 >，
242	旧サッポロビール九州工場倉庫， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00006287 >。 門司赤煉瓦プレース：施設案内，< https://mojirenga.jp/place.html >。
243	国指定文化財等データベース：旧三井寺ポンプ所及び変電所， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00007323 >。 水土里ネット筑後川 筑後川土地改良区：旧三井寺ポンプ所及び変電所(登録有形文化財)，< http://www.chikudokai.or.jp/shisetsu_sorce/kyumiideraponpu.html >。
244	国指定文化財等データベース：旧上妻家住宅（津屋崎千軒民俗館藍の家）主屋， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00006660 >。 福津市：津屋崎千軒民俗館「藍の家」， < https://www.city.fukutsu.lg.jp/soshiki/chiiki/kanko/3/1/1842.html >，2021年9月10日最終更新。
245	国指定文化財等データベース：九州マクセル赤煉瓦記念館（旧三菱方城炭礦坑務工作室），< https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00000315 >。 福岡県観光情報公式サイト クロスロードふくおか：九州マクセル赤煉瓦記念館， < https://www.crossroadfukuoka.jp/jp/event/?mode=detail&id=400000006521&isSpot=1 >。
246	国指定文化財等データベース：松岡家住宅主屋， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00010697 >，
247	松岡家住宅倉庫，< https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00010698 >。 九州・福岡ちくご観光案内所：松岡家住宅， < https://kankou.chikugolife.jp/kankou/detail/315 >。 創作懐石料理・蕎麦 とびうめ：文化庁 登録有形文化財， < http://tobiume.ogori.net/文化財/ >。
248	国指定文化財等データベース：石蔵酒造主倉， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00008598 >，
249	石蔵酒造西倉及び旧精米所， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00008599 >。 博多百年蔵：石蔵酒造の歴史と博多百年蔵， < https://www.ishikura-shuzou.co.jp/about/ >， 貸しホール，< https://www.ishikura-shuzou.co.jp/rental/ >。

No.	転用事例の参考文献集
250 251	佐賀県教育委員会：佐賀県の近代化遺産 佐賀県近代化遺産（建造物等）総合調査報告書（佐賀県文化財調査報告書 第153集），2002年3月：95。 国指定文化財等データベース：呉竹酒造一番蔵， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00004473 >， 呉竹酒造東の蔵，< https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00004474 >。
252	佐賀県教育委員会：佐賀県の近代化遺産 佐賀県近代化遺産（建造物等）総合調査報告書（佐賀県文化財調査報告書 第153集），2002年3月：75。 国指定文化財等データベース：小柳酒造昭和西蔵， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00002714 >。 小城市：小城市の文化財（登録有形文化財）， < https://www.city.ogi.lg.jp/main/9887.html >，2019年11月7日最終更新。 （※調査時からの変化あり。2021年、クラウドファンディングを経てクラフトジン蒸留所が開設。佐賀経済新聞：佐賀・小城にクラフトジン蒸留所開設へ 「小柳酒造」酒蔵を改修、レストラン・直売所併設， < https://saga.keizai.biz/headline/1204/ >，2021年9月2日投稿。）
253	国指定文化財等データベース：村岡総本舗羊羹資料館， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00000230 >。 小城市：小城市の文化財（登録有形文化財）， < https://www.city.ogi.lg.jp/main/9887.html >，2019年11月7日最終更新。 村岡総本舗：小城羊羹始祖 村岡総本舗羊羹資料館， < http://www.m-youkansiryoukan.jp/ >。
254	佐賀県教育委員会：佐賀県の近代化遺産 佐賀県近代化遺産（建造物等）総合調査報告書（佐賀県文化財調査報告書 第153集），2002年3月：91。 国指定文化財等データベース：呉竹酒造一番蔵， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00004473 >， 呉竹酒造東の蔵，< https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00004474 >。 佐賀県鹿島市：地方創生に関するその他の取組み，< https://www.city.saga-kashima.lg.jp/main/13866.html >。 SPACEMARKET：呉竹酒造 東蔵／鹿島市内明治時代の酒蔵貸切， < https://www.spacemarket.com/spaces/ric34STJwPE_Bole >。
255	国指定文化財等データベース：矢野酒造旧精米所， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00005671 >。 矢野酒造株式会社：矢野酒造について，< http://yanoshuzou.jp/?mode=f2 >。 矢野酒造：蔵便り No.85，< http://yanoshuzou.blog.fc2.com/blog-entry-124.html >， 2017年9月29日投稿。 佐賀県鹿島市公式観光サイトかしまいろ：矢野酒造， < https://saga-kashima-kankou.com/spot/1126 >。
256	国指定文化財等データベース：マルイチ葬祭斎場（旧小林家住宅酒蔵）， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00010076 >。 マルイチ葬祭：斎場案内，< http://maruichi.pine-o.co.jp/p2/index.html >。
257	国指定文化財等データベース：宮崎商店焼酎蔵， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00003486 >。 Facebook@森岳酒造～Luna Base～ 島原市：森岳酒造，< https://www.city.shimabara.lg.jp/kanko/page2954.html >。 九州旅倶楽部：森岳酒造， < http://9tabi.net/nagasaki/nagasaki02/nagasaki283.html >。
258 259 260	国指定文化財等データベース：旧福幸製陶所絵書座， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00009243 >， 旧福幸製陶所細工場， < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00009242 >，

No.	転用事例の参考文献集
258 259 260	旧福幸製陶所事務所, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00009241 >。 HANA わすくい：ご案内, < http://hanawakusui.com/about/ >。 monné porte : SHOP SPACE, < http://monne-porte.com/shop-space >, HIRING SPACE, < http://monne-porte.com/hiring-space >。 Monné legui mooks : access and photo, < http://www.mooks.jp/access/index.html >。
261	国指定文化財等データベース：マミフラワーデザイン熊本教室花峰館（旧鐘淵紡績 熊本工場診療所）, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00004303 >。 mami flower design school : レッスンスタジオ「花峰館」, < https://reikotakaki.com/school.html >。
262	国指定文化財等データベース：熊本学園大学産業資料館（旧熊本紡績電気室）, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00004302 >。 熊本学園大学：産業資料館, < https://www.kumagaku.ac.jp/daigaku/shisetsu/sangyo_shiryoku/ >。
263 264 265	国指定文化財等データベース：多良木町交流館石倉（旧多良木町農業会米倉庫）西 棟, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00007939 >, 多良木町交流館石倉（旧多良木町農業会米倉庫）東棟, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00007938 >, 多良木町交流館石倉（旧多良木町農業会米倉庫）南棟, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00007940 >。 多良木町：えびす広場・交流館石倉のご案内, < https://www.town.taragi.lg.jp/gyousei/soshiki/kikakukanko/sisetsu/354.html >。
266	国指定文化財等データベース：浜田醤油三番蔵, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00006458 >。 浜田醤油株式会社：会社案内, < http://hamada1818.com/home/company/ >。
267 268 269	国指定文化財等データベース：旧高田農業倉庫東蔵, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00008225 >, 旧高田農業倉庫北小蔵, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00008224 >, 旧高田農業倉庫北蔵, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00008223 >。 昭和の町・豊後高田市公式観光サイト ぶんごたかだ： 駄菓子屋の夢博物館, < https://www.showanomachi.com/spots/detail/89 >, 豊後高田観光案内所, < https://www.showanomachi.com/spots/detail/201 >, 昭和の夢町三丁目館, < https://www.showanomachi.com/spots/detail/92 >。
270	国指定文化財等データベース：荒木家住宅酒蔵, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00010538 >。 森地区コミュニティ運営協議会：ブログ 荒木家住宅 有形文化財に, < http://www.mori-community.jp/index.php/blog/blog-24/403-arakike >, 2016 年 5 月 29 日投稿。
271	大分県教育庁文化課：大分県の近代化遺産 近代化遺産総合調査報告, 1994 年 3 月：66-67。 国指定文化財等データベース：太田缶詰工場主屋, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00001158 >。 太田缶詰工場・御食事処 関蔵：登録有形文化財, < http://www.oota-kanzume.jp/bunkazai.html >。
272	宮崎県教育委員会文化財課：宮崎県の近代化遺産 宮崎県近代化遺産総合調査報告 書, 2017 年 3 月：85-86。

No.	転用事例の参考文献集
272	国指定文化財等データベース：英国館, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00002467 >。 日之影町：英国館, < http://www.town.hinokage.lg.jp/docs/2016022500181/ >, 2016 年 3 月 9 日最終更新。 一般社団法人日之影町観光協会：英国館, < https://hinokage-kanko.jp/contents/英国館/ >。
273	国指定文化財等データベース：旧島津家吉野殖林所, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00001322 >。 仙巖園：島津薩摩切子ギャラリーショップ 磯工芸館, < https://www.senganen.jp/food-shopping/shimadzu-satsuma-kiriko-gallery-shop/ >。
274	国指定文化財等データベース：旧島津家芋ヶ野金山鉱業事業所, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00001321 >。 STARBUCKS：WHAT WE CAN DO, < https://www.starbucks.co.jp/recruit/special/senganen.html >。
275	国指定文化財等データベース：鹿島村離島住民生活センター（旧蘭牟田漁業組合）, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00002344 >。
276	鹿児島県教育委員会：鹿児島県の近代化遺産 鹿児島県近代化遺産総合調査報告書, 2004 年 3 月：63。 国指定文化財等データベース：丁子屋石蔵, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00006561 >。 石蔵ブックカフェ：ご紹介, < https://so1ch1ro.wixsite.com/ishigura-bookcafe >。
277	国指定文化財等データベース：白金酒造石蔵, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00002346 >。 白金酒造株式会社：蔵元紹介, < http://www.shirakane.jp/brewhouse/ishigura/ >。 石蔵ミュージアム：石蔵ミュージアムとは, < http://www.shirakane.jp/brewhouse/ishigura/ >。
278	沖縄県教育庁文化課：沖縄県近代化遺産（建造物等）総合調査報告書, 2004 年 3 月：192-193。 国指定文化財等データベース：旧東洋製糖北大東出張所, < https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/101/00005212 >。 沖縄観光情報 WEB サイト おきなわ物語：島人酒場トロっこ, < https://www.okinawastory.jp/gourmet/600010310 >, 2018 年 4 月 23 日最終更新。

5. 数量化Ⅱ類の結果表

(1) 営利法人全体の営利活動状況

アイテム	カテゴリー	事例数			スコア
		合計	営利活動あり	営利活動なし	第1軸
階数	平屋建	68	29	39	-0.0835
	2階建以上	61	22	39	0.0931
面積	中小	89	37	52	-0.0149
	中大	28	10	18	0.0359
	大	12	4	8	0.0266
空間	一層	87	30	57	0.2063
	非一層	42	21	21	-0.4273
主構造	歴史感	19	13	6	-1.0106
	木造	64	24	40	0.2658
	土蔵造	46	14	32	0.0476
施設残存状況	単体	12	11	1	-1.6303
	他非稼働施設	35	14	21	-0.2156
	他稼働施設	82	26	56	0.3306
接道状況	接道あり	69	35	34	-0.3067
	接道なし	60	16	44	0.3526
アクセス	駅1km圏内	65	20	45	0.4399
	駅1km圏外	64	31	33	-0.4467
周辺環境	集客地	20	11	9	-0.0909
	住宅地	76	29	47	0.0474
	集客・住宅地以外	33	11	22	-0.0540
相関比 η^2	0.2603	重心	-0.6285	0.4109	

		予測値		判別の中率
		営利活動あり	営利活動なし	
観測値	営利活動あり	30	21	58.82%
	営利活動なし	15	63	80.77%
		全 体		72.09%

アイテム	レンジ 第1軸	目的変数との 単相関係数 第1軸	目的変数との 偏相関係数 第1軸
階数	0.1765	0.0672	0.0477
面積	0.0507	0.0605	0.0122
空間	0.6336	0.1487	0.1641
主構造	1.2765	0.2238	0.2327
施設残存状況	1.9609	0.3414	0.3104
接道状況	0.6593	0.2454	0.1842
アクセス	0.8866	0.1807	0.2386
周辺環境	0.1383	0.0603	0.0331

(2) 営利法人全体の公開状況

アイテム	カテゴリー	事例数				スコア	
		全体公開	限定公開	非公開	合計	第1軸	第2軸
階数	平屋建	30	32	6	68	-0.0728	-0.4059
	2階建以上	33	26	2	61	0.0812	0.4524
面積	中小	45	38	6	89	-0.0259	0.1457
	中大	11	17	0	28	-0.6960	-0.4489
	大	7	3	2	12	1.8165	-0.0328
空間	一層	42	41	4	87	-0.2607	-0.0239
	非一層	21	17	4	42	0.5400	0.0494
主構造	歴手感	11	8	0	19	0.1167	0.4119
	木造	30	28	6	64	0.2057	-0.1143
	土蔵造	22	22	2	46	-0.3344	-0.0111
施設残存 状況	単体	7	4	1	12	-0.2508	-0.2180
	他非稼働施設	15	19	1	35	-0.5231	-0.2628
	他稼働施設	41	35	6	82	0.2600	0.1441
接道状況	接道あり	41	25	3	69	0.0468	0.6980
	接道なし	22	33	5	60	-0.0538	-0.8027
アクセス	駅1km圏内	33	31	1	65	-0.2822	0.3459
	駅1km圏外	30	27	7	64	0.2866	-0.3513
周辺環境	集客地	11	8	1	20	0.1880	0.3875
	住宅地	38	31	7	76	0.4105	-0.0810
	集客・住宅地以外	14	19	0	33	-1.0594	-0.0482
重心	第1軸	0.1395	-0.3296	1.2911	相関比 η^2	0.1630	0.0869
	第2軸	0.2828	-0.2183	-0.6446			

		予測値			判別的中率
		全体公開	限定公開	非公開	
観測値	全体公開	35	18	10	55.56%
	限定公開	21	31	6	53.45%
	非公開	3	0	5	62.50%
		全 体			55.04%

アイテム	レンジ		目的変数との 単相関係数		目的変数との 偏相関係数	
	第1軸	第2軸	第1軸	第2軸	第1軸	第2軸
階数	0.1540	0.8583	-0.0534	0.1252	0.0319	0.1195
面積	2.5125	0.5946	0.2239	0.0382	0.2692	0.0683
空間	0.8007	0.0733	0.1025	-0.0197	0.1449	0.0103
主構造	0.5401	0.5262	0.0740	0.1088	0.0948	0.0511
施設残存状況	0.7830	0.4069	0.0972	0.0078	0.1469	0.0549
接道状況	0.1005	1.5006	0.0523	0.2225	0.0214	0.2174
アクセス	0.5688	0.6972	0.1667	0.1014	0.1172	0.0976
周辺環境	1.4699	0.4686	0.1938	0.0525	0.2469	0.0485

(3) 営利法人・新オーナーの営利活動状況

アイテム	カテゴリー	事例数			スコア
		合計	営利活動あり	営利活動なし	第1軸
階数	平屋建	21	13	8	0.5339
	2階建以上	16	11	5	-0.7008
面積	中小	25	17	8	0.1154
	中大	9	5	4	-0.3411
	大	3	2	1	0.0613
空間	一層	18	13	5	-0.2668
	非一層	19	11	8	0.2527
主構造	歴手感	7	7	0	-0.5112
	木造	20	10	10	-0.0623
	土蔵造	10	7	3	0.4825
施設残存状況	単体	10	10	0	-0.3532
	他施設あり	27	14	13	0.1308
接道状況	接道あり	21	17	4	-0.3625
	接道なし	16	7	9	0.4758
アクセス	駅1km圏内	15	9	6	0.7134
	駅1km圏外	22	15	7	-0.4864
周辺環境	集客地	9	7	2	-0.0065
	住宅地	22	16	6	-0.4692
	集客・住宅地以外	6	1	5	1.7301
相関比 η^2		0.5680	重心	-0.5471	1.0101

		予測値		判別の中率
		営利活動あり	営利活動なし	
観測値	営利活動あり	22	2	91.67%
	営利活動なし	2	11	84.62%
		全 体		89.19%

アイテム	レンジ 第1軸	目的変数との 単相関係数 第1軸	目的変数との 偏相関係数 第1軸
階数	1.2347	0.0710	0.4220
面積	0.4565	-0.1108	0.1662
空間	0.5195	0.1500	0.2223
主構造	0.9937	0.1379	0.3039
施設残存状況	0.4840	0.4479	0.1969
接道状況	0.8383	0.3861	0.3822
アクセス	1.1999	0.0841	0.5084
周辺環境	2.1993	0.4199	0.5364

(4) 営利法人・新オーナーの公開状況

アイテム	カテゴリー	事例数				スコア	
		全体公開	限定公開	非公開	合計	第1軸	第2軸
階数	平屋建	10	11	0	21	-0.2035	0.2945
	2階建以上	8	7	1	16	0.2671	-0.3866
面積	中小	12	13	0	25	-0.4020	0.3235
	中大	5	4	0	9	0.3484	-1.1896
	大	1	1	1	3	2.3048	0.8730
空間	一層	9	8	1	18	-0.0351	0.3018
	非一層	9	10	0	19	0.0332	-0.2859
主構造	歴史感	5	2	0	7	-0.3908	-0.9012
	木造	8	12	0	20	-0.1497	0.1933
	土蔵造	5	4	1	10	0.5729	0.2442
施設残存状況	単体	6	3	1	10	0.2721	0.3388
	他施設あり	12	15	0	27	-0.1008	-0.1255
接道状況	接道あり	12	8	1	21	0.2400	-0.3544
	接道なし	6	10	0	16	-0.3151	0.4651
アクセス	駅1km圏内	7	7	1	15	-0.0751	0.6277
	駅1km圏外	11	11	0	22	0.0512	-0.4280
周辺環境	集客地	5	4	0	9	-0.2011	0.1579
	住宅地	12	9	1	22	0.3199	-0.6261
	集客・住宅地以外	1	5	0	6	-0.8713	2.0589
重心	第1軸	0.1352	-0.3500	3.8666	相関比 η^2	0.4857	0.2443
	第2軸	-0.4916	0.4351	1.0184			

		予測値			判別的中率
		全体公開	限定公開	非公開	
観測値	全体公開	13	4	1	72.22%
	限定公開	5	13	0	72.22%
	非公開	0	0	1	100.00%
		全 体			72.97%

アイテム	レンジ		目的変数との 単相関係数		目的変数との 偏相関係数	
	第1軸	第2軸	第1軸	第2軸	第1軸	第2軸
階数	0.4707	0.6811	0.1983	-0.0146	0.1488	0.1385
面積	2.7068	2.0627	0.4867	0.1297	0.5360	0.3143
空間	0.0683	0.5877	-0.1796	0.0082	0.0254	0.1431
主構造	0.9637	1.1453	0.2485	0.2230	0.2807	0.2177
施設残存状況	0.3729	0.4643	0.3212	-0.0782	0.1279	0.0943
接道状況	0.5551	0.8195	0.2134	0.1567	0.2443	0.1964
アクセス	0.1264	1.0556	-0.1892	0.0703	0.0489	0.2550
周辺環境	1.1912	2.6850	0.2055	0.2279	0.2768	0.3702

(5) 営利法人・現オーナーの営利活動状況

アイテム	カテゴリー	事例数			スコア
		合計	営利活動あり	営利活動なし	第1軸
階数	平屋建	47	16	31	-0.0728
	2階建以上	45	11	34	0.0761
面積	中小	64	20	44	-0.0518
	中大	19	5	14	0.3182
	大	9	2	7	-0.3034
空間	一層	69	17	52	0.3223
	非一層	23	10	13	-0.9669
主構造	歴手感	12	6	6	-1.5233
	木造	44	14	30	0.3589
	土蔵造	36	7	29	0.0691
施設残存状況	単体・非稼働	19	4	15	0.0170
	他稼働施設	73	23	50	-0.0044
接道状況	接道あり	48	18	30	-0.3786
	接道なし	44	9	35	0.4130
アクセス	駅1km圏内	50	11	39	0.5193
	駅1km圏外	42	16	26	-0.6182
周辺環境	集客地	11	4	7	-0.3984
	住宅地	54	13	41	0.2361
	集客・住宅地以外	27	10	17	-0.3099
相関比 η^2		0.1691	重心	-0.6346	0.2636

		予測値		判別的中率
		営利活動あり	営利活動なし	
観測値	営利活動あり	20	7	74.07%
	営利活動なし	26	39	60.00%
		全 体		64.13%

アイテム	レンジ 第1軸	目的変数との 単相関係数 第1軸	目的変数との 偏相関係数 第1軸
階数	0.1489	0.1054	0.0306
面積	0.6216	0.0069	0.0727
空間	1.2891	0.1792	0.2303
主構造	1.8822	0.1433	0.2262
施設残存状況	0.0215	0.0929	0.0036
接道状況	0.7916	0.1870	0.1705
アクセス	1.1375	0.1761	0.2091
周辺環境	0.6344	0.1371	0.1203

(6) 営利法人・現オーナーの公開状況

アイテム	カテゴリー	事例数				スコア	
		全体公開	限定公開	非公開	合計	第1軸	第2軸
階数	平屋建	20	21	6	47	-0.0389	0.4622
	2階建以上	25	19	1	45	0.0407	-0.4827
面積	中小	33	25	6	64	0.0915	-0.1674
	中大	6	13	0	19	-0.8251	1.0228
	大	6	2	1	9	1.0912	-0.9690
空間	一層	33	33	3	69	-0.3011	0.1073
	非一層	12	7	4	23	0.9032	-0.3219
主構造	歴史感	6	6	0	12	0.6472	0.1914
	木造	22	16	6	44	0.1899	-0.0405
	土蔵造	17	18	1	36	-0.4479	-0.0143
施設残存状況	単体・非稼働	7	11	1	19	-0.0596	1.0299
	他稼働施設	38	29	6	73	0.0155	-0.2680
接道状況	接道あり	29	17	2	48	-0.2088	-0.6393
	接道なし	16	23	5	44	0.2278	0.6974
アクセス	駅1km圏内	26	24	0	50	-0.4532	-0.4185
	駅1km圏外	19	16	7	42	0.5396	0.4982
周辺環境	集客地	6	4	1	11	0.1734	-0.5565
	住宅地	26	22	6	54	0.3470	0.0878
	集客・住宅地以外	13	14	0	27	-0.7646	0.0511
重心	第1軸	0.0568	-0.3548	1.6622	相関比 η^2	0.2695	0.2032
	第2軸	-0.4555	0.4079	0.5975			

		予測値			判別的中率
		全体公開	限定公開	非公開	
観測値	全体公開	28	12	5	62.22%
	限定公開	9	27	4	67.50%
	非公開	1	0	6	85.71%
		全 体			66.30%

アイテム	レンジ		目的変数との 単相関係数		目的変数との 偏相関係数	
	第1軸	第2軸	第1軸	第2軸	第1軸	第2軸
階数	0.0796	0.9448	-0.1541	0.1475	0.0221	0.2128
面積	1.9163	1.9917	0.2139	0.1744	0.2803	0.2529
空間	1.2042	0.4292	0.2357	0.0124	0.2859	0.0900
主構造	1.0950	0.2319	0.0858	-0.0197	0.1980	0.0328
施設残存状況	0.0751	1.2979	0.0958	0.1135	0.0174	0.2296
接道状況	0.4366	1.3367	0.0447	0.2466	0.1232	0.3099
アクセス	0.9928	0.9168	0.2975	0.1000	0.2559	0.1898
周辺環境	1.1116	0.6443	0.1953	0.0392	0.2642	0.1002

(7) 公共団体の公開状況

アイテム	カテゴリー	事例数				スコア	
		全体公開	限定公開	非公開	合計	第1軸	第2軸
階数	平屋建	25	18	7	50	-0.2746	0.2726
	2階建以上	24	21	1	46	0.2985	-0.2963
面積	小	1	1	2	4	-2.2446	0.5018
	中小	27	20	2	49	0.2524	0.1379
	中大	9	10	0	19	0.2837	-0.9696
	大	12	8	4	24	-0.3658	0.4023
空間	一層	26	20	7	53	-0.1144	0.0674
	非一層	23	19	1	43	0.1410	-0.0830
主構造	歴手感	12	13	1	26	0.2202	-0.4116
	木造	25	18	6	49	-0.1517	0.3004
	土蔵造	12	8	1	21	0.0814	-0.1913
施設残存 状況	単体	15	10	0	25	0.3962	0.1702
	他施設あり	34	29	8	71	-0.1395	-0.0599
接道状況	接道あり	28	14	1	43	0.4680	0.4886
	接道なし	21	25	7	53	-0.3797	-0.3964
アクセス	駅1km圏内	28	28	7	63	-0.1736	-0.2959
	駅1km圏外	21	11	1	33	0.3314	0.5649
周辺環境	集客地	3	0	0	3	0.7947	3.4535
	住宅地	37	25	7	69	-0.1265	0.1826
	集客・住宅地以外	9	14	1	24	0.2644	-0.9566
重心	第1軸	0.2375	0.0388	-1.6439	相関比 η^2	0.2573	0.1870
	第2軸	0.3695	-0.5190	0.2673			

		予測値			判別の中率
		全体公開	限定公開	非公開	
観測値	全体公開	30	15	4	61.22%
	限定公開	11	25	3	64.10%
	非公開	0	2	6	75.00%
		全 体			63.54%

アイテム	レンジ		目的変数との 単相関係数		目的変数との 偏相関係数	
	第1軸	第2軸	第1軸	第2軸	第1軸	第2軸
階数	0.5731	0.5689	0.2013	0.0856	0.1381	0.1065
面積	2.5283	1.4714	0.3711	0.1249	0.2849	0.2235
空間	0.2555	0.1504	0.1891	0.0534	0.0611	0.0277
主構造	0.3719	0.7120	0.1259	0.0909	0.0882	0.1396
施設残存状況	0.5357	0.2301	0.1858	0.0194	0.1317	0.0471
接道状況	0.8476	0.8850	0.2304	0.1629	0.2291	0.1949
アクセス	0.5050	0.8609	0.1639	0.1181	0.1325	0.1837
周辺環境	0.9212	4.4101	0.0993	0.2391	0.1239	0.3152

(8) 公共団体の営利活動状況

アイテム	カテゴリー	事例数			スコア
		合計	営利活動あり	営利活動なし	第1軸
階数	平屋建	50	12	38	0.4235
	2階建以上	46	11	35	-0.4603
面積	小	4	0	4	-1.3621
	中小	49	14	35	0.4300
	中大	19	6	13	-0.1031
	大	24	3	21	-0.5692
空間	一層	53	12	41	-0.2506
	非一層	43	11	32	0.3089
主構造	歴手感	26	7	19	0.4105
	木造	49	9	40	-0.2024
	土蔵造	21	7	14	-0.0359
施設残存状況	単体	25	4	21	-0.5389
	他施設あり	71	19	52	0.1898
接道状況	接道あり	43	15	28	0.4137
	接道なし	53	8	45	-0.3357
アクセス	駅1km圏内	63	14	49	-0.1013
	駅1km圏外	33	9	24	0.1934
周辺環境	集客地	3	3	0	4.1627
	住宅地	69	16	53	0.0173
	集客・住宅地以外	24	4	20	-0.5702
相関比 η^2	0.2574	重心	0.8991	-0.2833	

		予測値		判別の中率
		営利活動あり	営利活動なし	
観測値	営利活動あり	16	7	69.57%
	営利活動なし	15	58	79.45%
		全 体		77.08%

アイテム	レンジ 第1軸	目的変数との 単相関係数 第1軸	目的変数との 偏相関係数 第1軸
階数	0.8838	0.0010	0.2028
面積	1.7921	0.1786	0.2703
空間	0.5594	0.0343	0.1323
主構造	0.6129	0.0756	0.1461
施設残存状況	0.7287	0.1106	0.1751
接道状況	0.7494	0.2306	0.2067
アクセス	0.2947	0.0562	0.0790
周辺環境	4.7329	0.3242	0.3897

(9) 個人・グループの公開状況

アイテム	カテゴリー	事例数				スコア	
		全体公開	限定公開	非公開	合計	第1軸	第2軸
階数	平屋建	5	19	2	26	-0.3992	-0.5723
	2階建以上	6	16	5	27	0.3844	0.5511
面積	小	0	1	0	1	0.9448	-0.4068
	中小	6	26	7	39	0.2275	0.0598
	中大	2	6	0	8	-0.2009	-0.6559
	大	3	2	0	5	-1.6417	0.6643
空間	一層	4	24	2	30	0.3364	-0.4651
	非一層	7	11	5	23	-0.4388	0.6067
主構造	歴手感	2	8	0	10	-0.2587	-0.9084
	木造	8	16	5	29	0.1033	0.3064
	土蔵造	1	11	2	14	-0.0292	0.0142
施設残存 状況	単体	2	5	2	9	0.8549	0.4996
	他非稼働施設	8	24	5	37	-0.0580	0.1030
	他稼働施設	1	6	0	7	-0.7925	-1.1865
接道状況	接道あり	9	17	4	30	-0.1077	0.1806
	接道なし	2	18	3	23	0.1405	-0.2356
アクセス	駅1km圏内	10	17	2	29	-0.8403	-0.2030
	駅1km圏外	1	18	5	24	1.0153	0.2453
周辺環境	集客・住宅地	9	29	6	44	0.2142	-0.0886
	集客・住宅地以外	2	6	1	9	-1.0471	0.4331
重心	第1軸	0.9568	0.1769	-1.1716	相関比 η^2	0.4346	0.2967
	第2軸	1.1350	-0.3583	0.4177			

		予測値			判別的中率
		全体公開	限定公開	非公開	
観測値	全体公開	10	1	0	90.91%
	限定公開	5	27	3	77.14%
	非公開	1	0	6	85.71%
		全 体			81.13%

アイテム	レンジ		目的変数との 単相関係数		目的変数との 偏相関係数	
	第1軸	第2軸	第1軸	第2軸	第1軸	第2軸
階数	0.7837	1.1234	0.0338	0.1713	0.2716	0.2924
面積	2.5865	1.3202	0.3388	0.1494	0.4095	0.2068
空間	0.7752	1.0718	0.0858	0.3286	0.2910	0.3090
主構造	0.3620	1.2148	-0.0042	0.2177	0.1079	0.2585
施設残存状況	1.6473	1.6861	0.0313	0.1984	0.3290	0.2812
接道状況	0.2483	0.4162	0.2163	0.1558	0.0963	0.1263
アクセス	1.8556	0.4482	0.3945	-0.0250	0.5549	0.1176
周辺環境	1.2613	0.5217	0.0250	-0.0167	0.3190	0.1112

(10) 個人・グループの営利活動状況

アイテム	カテゴリー	事例数			スコア
		合計	営利活動あり	営利活動なし	第1軸
階数	平屋建	26	6	20	0.0420
	2階建以上	27	6	21	-0.0404
面積	小	1	0	1	0.1662
	中小	39	10	29	-0.0562
	中大	8	2	6	-0.2895
	大	5	0	5	0.8684
空間	一層	30	3	27	0.4884
	非一層	23	9	14	-0.6370
主構造	歴手感	10	2	8	0.1753
	木造	29	9	20	-0.1289
	土蔵造	14	1	13	0.1418
施設残存状況	単体	9	5	4	-1.3342
	他非稼働施設	37	7	30	0.1332
	他稼働施設	7	0	7	1.0115
接道状況	接道あり	30	8	22	-0.0425
	接道なし	23	4	19	0.0554
アクセス	駅1km圏内	29	8	21	-0.1877
	駅1km圏外	24	4	20	0.2269
周辺環境	集客・住宅地	44	9	35	0.0223
	集客・住宅地以外	9	3	6	-0.1089
相関比 η^2	0.3313	重心	-1.0538	0.3084	

		予測値		判別の中率
		営利活動あり	営利活動なし	
観測値	営利活動あり	10	2	83.33%
	営利活動なし	10	31	75.61%
		全 体		77.36%

アイテム	レンジ 第1軸	目的変数との 単相関係数 第1軸	目的変数との 偏相関係数 第1軸
階数	0.0824	-0.0102	0.0223
面積	1.1579	0.1748	0.1923
空間	1.1254	0.3450	0.3287
主構造	0.3042	0.2118	0.0841
施設残存状況	2.3457	0.3858	0.3775
接道状況	0.0980	0.1098	0.0308
アクセス	0.4146	0.1299	0.1180
周辺環境	0.1312	0.1155	0.0281

謝辞

本論文の執筆にあたり、多くの方々にご支援いただきました。

修士時代からの長きに渡りご指導いただいた、筑波大学大学院人間総合科学研究世界遺産学学位プログラム上北恭史先生に深く感謝申し上げます。研究面に限らず大変お世話になりました。大学院生活の中で、インドネシアの調査や建築学会大会、徳島の調査など、自分の研究以外にも沢山の貴重な機会をいただきました。どれも刺激的な思い出として大事にし、今後の人生に活かしたいと思います。

また、筑波大学大学院人間総合科学研究世界遺産学学位プログラム伊藤弘先生に厚く御礼申し上げます。いつも冷静なご意見をいただき、研究に対して多くの視点を多く賜りました。産業遺産に建築の興味から入っていった私には、地域からのお話は新しい発見に溢れていて、ますます産業遺産の面白さを感じるようになりました。産業遺産はわかりにくいと世間的に不評なことが多いですが、その面白さを伝える方法について今後考えていきたいと思っています。

審査に外部から携わってくださった、斎藤英俊先生に深くお礼申し上げます。近代化遺産のパイオニア的存在から様々な意見を頂けて、緊張感とともに論文に取り組むエネルギーとなりました。誠にありがとうございました。

また、筑波大学大学院人間総合科学研究世界遺産学学位プログラム下田一太先生には、副査として丁寧なご意見やアドバイスをいただきました。特に予備審査後、修正時に大変参考にさせていただきました。心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

産業遺産の転用事例の調査にご協力いただいた、自治体や文化財保護課の方々、所有者の方々に心より感謝申し上げます。産業遺産の建築物を転用していく面白さや大変さについて、研究面のみならずお教えいただきました。また、転用を実現させている所有者の方々の、後世まで遺産を残したいという思い、費やす時間と労力に対して尊敬の念を示したいです。

そして、研究生活を楽しいものにしてくれた同期をはじめ、意見を交わしたゼミや専攻の方々に感謝申し上げます。自分と異なる興味を持つ人とのお話は、いつも面白かったです。

修士課程、博士課程と長い間、研究生活を応援して支えてくれた実家の家族に、心から感謝しています。何年学生でいるのだとふと思うこともありましたが、興味を追求する環境を支えてくれたことに感謝を伝えたいです。また、パートナーにも研究や生活面で支えてもらいました。2020年1月末の武漢帰国者チャーター便からの約1年は、人生で最もタフな期間でしたが、何とか共に乗り越えたことに、今では安心と自信を感じるようになりました。感謝しています。

末尾になりましたが、先駆的な研究成果を引用させていただいた多くの文献著者の方々に厚く御礼を申し上げ、感謝する次第です。

大藪（中井）陽子 2021年9月30日